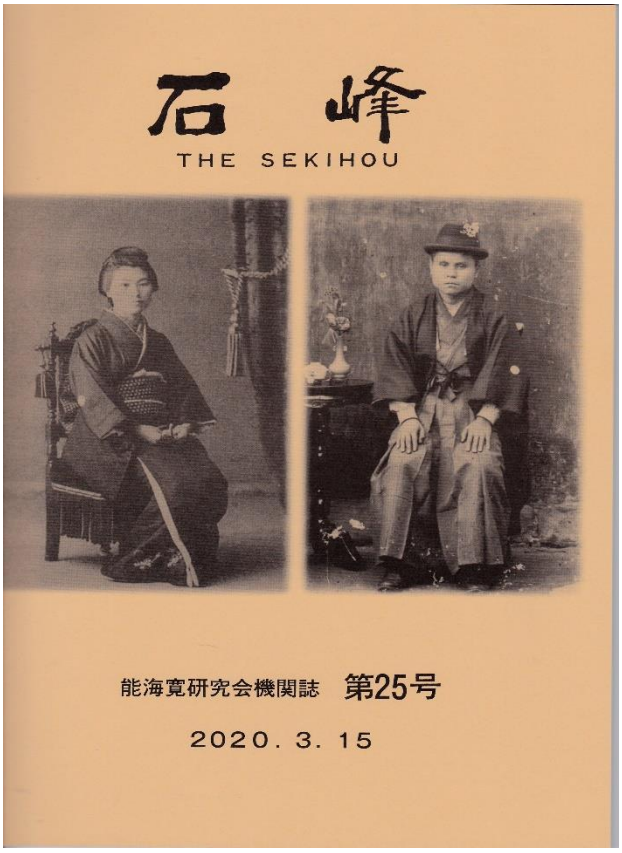
能海寛研究会アーカイブ　　NOUMI　Yutaka meeting for the study Archive.

能海寛生涯日録

タイトル	能海寛生涯日録
著者名	隅田正三
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』　ISSN 1883-4183
号	第 25 号
ページ	35-112
発行年	2020.3.15
E-mail	Sekihou@hazaway.com(能海寛研究会)



能 海 寛 生 涯 日 録

能海寛研究会員　　隅　田　正　三

能海寛が信条とした「書いたものは何処までも飛んでゆく」、「話した事はその場限り」と記述している。能海の生涯は数多くの著述物が残されている。紙資料は必要な都度、印刷仕替えれば永久に残し伝えられる。そのようなことから、能海寛が書き残した 100 年前の資料を 5 年の歳月を費やして、記録物の大半を『能海寛著作集』に収載して、平成 21 年春に全 15 巻 17 冊を刊行した。これだけの資料を活用するためには、索引が必要であると考え 1 巻ずつ刊行する都度、索引作成に携わった。能海の資料を 100 年後までも後世に残し伝える目的は達成できた。

しかし、日記類のみは、活字化がおわりましたが能海の資料を全て活字化することは相当な尽力を必要とします。著作集を活用して、修士論文にチャレンジする人たちが増えて行くことを願っています。

この度、能海が生涯を通して、書き残している日記類、紀行文、出納記録、研究ノート、往復書簡類など日々の行動記録を取りまとめて「生涯日録」の形で、編集することとしました。

私は、編集中に下記の事象を再確認しました。やはり、能海の生き方を知ることによって、人間としての生き方、時間の使い方等を学ぶことが出来ました。「日録」の中には掲載不要な些細な日常記録もありますが、能海の人間性を学ぶためには、喜怒哀楽、四苦八苦の人間模様が必要と考えて編集しました。判読できない箇所は□□□で表示しています。また、参考欄には、著作集の 1 巻 100 頁は、(①100p)と表示しました。これから調査研究される皆様に少しでもお役に立てば幸いであります。

【能海寛から学ぶもの】

- 兄弟・家族想いであったこと。
- 毎月２回、日曜日には図書館に行くこと。
- 毎日散歩して体力維持につとめること。
- 新しい会を組織する能力に優れていること。
- 能海の下に多くの友人が絶えず、沢山集まってくること。
- 日記、出納記録を生涯に亘って記録したこと。
- 多くの恩師を持ち、身分を分け隔てなく交流したこと。
- 企画・調整能力、特にコミュニケーション能力に秀でたこと。
- 未来を予見する能力に秀でたこと。
- 新仏教徒運動を推進し、宗教学の確立を生涯の目的とした。
- 目的達成の為に用意周到に語学を習得したこと。
- 波佐倶楽部を結成して、国際化教育(地誌)と地域力を高めたこと。
- 離島高島に渡り「へき地教育」を実践したこと。
- 聖地巡礼・寺院調査・寺院の方丈との対話・紀行記録にとどめたこと。
- 仏典・仏具・仏像・文献・拓本などの貴重文献を将来したこと。
- 仏典の英訳を始め多国語翻訳を実践したこと。
- 中国 11 省府の地理・地誌・風俗・民俗などの紀行記録を残したこと。

能 海　寛 生 涯 日 録

隅田正三編集

年	月	日	事　　項	参　考
元	5	18	浄蓮寺12世住職父・法幢、母ユクノの次男・能海寛として誕生する。	**明治元年生誕**
			※永禄11年創建。真宗大谷派の寺院。檀家数390戸。法幢は、広島県刈屋形・専光寺より入院。	
5	3	14	浜田地震(震度7)激震で537人の死者、消失家屋230軒、半壊家屋9,478軒をだす。	
7	1	13	父・法幢教導職試補となる。	
8	8	16	父・法幢逝去する。	
8	12	4	義父・佐々木謙信が浄蓮寺後継13世住職となる。※謙信は、九州・中津の照雲寺松島善譲に学ぶ。	
			父・法幢の里、専光寺にて養育される。刈屋形小学校へ入学。	養育
10	6	12	広島市寺町円龍寺内の広島小教校(進徳教校)へ入学する。	広島教校
			広島別院の桑門至道の後見を受け通学する。	
12	4		『簿記法初歩』を学ぶ。	
12	10	2	兄・法言と2人で、京都本山で得度のため旅立つ。	得度・上京
			＊『得度ニ付道中及入払帳』に京都往復の経費を記帳する。	①9p
		9	「得度願」上申書を本山へ提出する。京都滞在が長引き「得度剃髪式嘆願」を5名連名で提出する。	
			※石川県上町村・本浄寺衆徒中畠正玄、石川県高松村・発願寺衆徒小池田大宣、島根県長浜村・	
			明清寺衆徒上野覚十郎、島根県長田村・浄蓮寺衆徒能海法言、同村・同寺衆徒能海寛の5名。	
		21	「得度願」書面伺済の許可書を頂く。	
		28	本山大谷光勝法主より得度(宗徒)の授牒を頂く。	
14	7		予科2級を卒業して、養育先の専光寺へ戻る。専光寺にて『八宗綱要』を書写する。	
15	2	21	専光寺にて、『時教要授』を新調する。	⑫344p
15	10	19	寛は、専光寺を暇して、浄蓮寺へ帰山する。『自教要授』を増補する。	⑫532p
			義父・謙信より4年間、宗教学(梵語を含む)を学ぶ。	
16	7		石見学場(専竜寺)で夏期講習会を受講する。高塚和上師の講和を拝聴し向学心を燃やす。	石見学場
16	8	4	「時教要授録」第4巻を調整する。	
17	3		「開悟院述　願成就文聞記　全」を書写する。	
17	5	23	順念寺(益田)。	
17	7	3	石見学場(正楽寺・善徳寺)で夏期講習会を受講する。	石見学場
		15	石見国那賀郡芦谷村善徳寺において「尊号直像名文 本」の書写を行い7月3日～15日に完成する。	
		23	引き続き「尊号直像銘文　末」の書写を終える。	
17	12	9	小国・突出九平葬儀、高橋屋で休み。	
18	1	8	「予が意見に10里歩くと思えば7、8里の時足痛む。15里と思えば10里頃から足痛む。学問も日に	
			10枚と思えば7、8枚でたいぎ。大学校卒業と思えば中学位なり。	
18	4	18	※ 京都西六條に普通教校を開校する。	
18	5	24	徳田・鍛冶屋葬儀。	
18	7		石見学場(正万寺)で夏期講習会を受講する。	石見学場
18	9	9	専光寺行き安本円海師に進路の相談をする。	
		11	専光寺から帰山する。檀家の伊豫ケ谷の葬式に出向く。	
		12	一宿三快。	
		13	柏原通り半賀知受、広島へ出る。	出広島
		14	午後、浄蓮寺を出発。専光寺に宿す。出広島時の私有金2円84銭。	⑭580p
		15	専光寺・安本若(玉泉)と同道して広島へ向かう。広島3丁目、野田マサ方へ宿す。	
		16	1丁目広島教校へ入校する。＊以後、高僧和讃、三国伝、通縁起、十八史略などを教受する。	⑭300p
		28	「一枚起請文講解」を筆録1として記録する。	筆録1
18	10	1	父から2円送金を受ける。	
18	12	8	広島説教場に行く。	
		12	広島教校(大手町壱丁目)にて＊『愚痴乃親玉』を書き始める。	⑭205p
		13	父から1円送金を受ける。	
		20	広島教校の試験終了する。これを以て広島教校は閉校となり、京都の普通教校へ統合となる。	
		21	6丁目の桑門道方へ寄留する。	
		31	9/4～12/31に要した学資金3円58銭。	
19	1	16	寄留先の桑門方を出発帰途につく。庄原喜作方宿す。	
		17	専光寺に着く。	
		18	専光寺滞在。	
		19	専光寺から浄蓮寺へ帰山。	帰郷
		23	浄蓮寺を出立。専光寺宿す。この時の所持金11円なり。	
		24	専光寺滞在。	
		25	道中。庄原喜作方宿す。	
		26	6丁目桑門方着。広島別院御坊泊。	
		27	滞在。	
		28	滞在。	
		29	乗船サ丰キ丸で京都に向かう。	

年	月	日	事　　項	参　　考
19	1	30	乗船。	
		31	朝、大阪着。12時、京都新町桑門宅へ到着す。暫く、寄留する。	
19	2	1	同家へ寄留。	
19	3	2	『大日本新撰地図（京橋）』菅沼和歌山士族を入手する。	⑩83p
		5	普通教校へ入校する。東中筋御前通上ル分舎宿。父から2円送金を受ける。	
		18	普通教校東寮3号室、垣山清、蚊野遷次郎、小池智覚、能海の4名が同室となった。	東寮入寮
			乙80号「飯費之通」を普通教校で使用開始する。	
		31	3月18日よりの食料費65銭。	
19	4		普通教校内で「反省有志会」が誕生する。	反省会有志会
		30	4月分食料費1円50銭。	
19	5	5	専光寺から18円送金。（内3円は私有金）	
		29	「反省有志会員証」第83号を取得。	会員証
			※会員証の裏面に「本会大意　一、禁酒の事。一、卑猥ノ場所ニ立入ル可ラズ」と印字されている。	
		31	5月分食料費1円50銭。	
19	6	11	コレラの流行により、普通教校は閉校となる。	
		12	帰郷するため、大阪港を出航する。	
		13	広島港へ到着。野田宅で2泊する。	
		14	滞在。	
		15	庄原で一泊する。	
		16	専光寺で二泊する。	
		17	滞在。	
		18	浄蓮寺へ帰山する。	帰郷
		30	6月分食料費(12日分)95銭。	
19	9	9	上京に当たって、10円を受け取る。	
		10	学校が再開されたため、再び上京する。途中、都志見(北広島町)で一泊する。	再上京
		11	加計から丁川の運河を出発、太田川を下り、広島の船着場へ到着。『反省会雑誌』9冊販売。	
		12	夜、広島港から乗船する。	
		13	蒸気船。	
		14	朝、大阪港へ着す。京都の桑門至道宅で一泊する。大阪で『反省会雑誌』3冊販、列車で5冊販売。	
		15	普通教校へ帰校した。	
		30	9月分食料費(15日より)80銭。	
19	10	10	反省会へ「永久会員誓約書」を提出する。	**反省会永久会員**
		23	西蔵探検行を公言する。西寮2号室の親友蚊野仙次郎から＊「活眼」の激励文を頂く。	活眼⑭9p
			※普通教校へ英人セッパード夫妻、ボールウィン、和田義軌、手島春治らが英語教師陣となる。	
		31	10月分食料費1円50銭。	
19	11	23	「ニュー・ナショナル第3読本」30章までの英文を学習する。	
		30	11月分食料費1円50銭。	
19	12	31	「ニュー・ナショナル」第2巻を修了する。12月分食料費1円50銭。	
20	1		小永井小舟に就き「文章軌範虫記」を学ぶ。『令知会雑誌』を購読する。	
		7	予科12科目の平均点82.5点。英語91.8点。	「学科點表」
		31	1月分食料費1円50銭。	
20	2	28	2月分食料費1円50銭。	
20	3	3	普通教校予科から本科初年級へ編入される。	本科初年級
			小栗栖香頂より「任倫注」を学ぶ。	
		10	父・上京中に寮を訪問し、3円50銭頂く。	
		15	父滞在の宿を訪問して1円50銭頂く。	
		31	3月分食料費1円50銭。	
20	4	14	普通教校大行軍(奈良・吉野・和歌山・大阪)に参加する。	
		30	4月分食料費1円90銭。	
	5	25	母より羽織代として1円50銭受取る。	
		31	5月分食料費2円10銭。	
	6	21	「令知会雑誌」第39号、会員一覧表に掲載される。	⑮474p
		30	6月分食料費2円10銭。郵送で10円受け取る。	
	7	4	10円送金される。	
		12	本日まで校内に留まる。	
		13	午後4時45分、汽車に乗り摂津国島下郡吹田村の直海玄祐を頼って夏期旅行に出かけ寄留する。	光徳寺**621番地**
			※この間、直海玄祐と2人で比叡山へ参詣する。	
		28	吹田の人、三の瀧で落石で死亡する。	
		31	7月分食料費(13日迄)91銭。	
20	8	1	大阪に遊び、金を落とし大いに困る。	
		11	直海君と野畑村の桜井義肇君宅を訪問する。美濃の滝を見物する。	

年	月	日	事　　項	参　　考
20	8	12	午後、直海玄祐君宅へ戻る。帰り道に山に入り迷う。	
		16	午前4時50分起、5時10分より勤行。大経一巻、訓読一巻終り、朝飯後、休息、大経下巻	
			訓読一巻終り。この時8時10分なり。4時30分より6時まで観経、小経、両経訓読終る。	
			後、正信偈等勤める。吹田村光口寺。※父の祥月命日。	
		17	桜井方宿、吹田神社（亀田神主と対面）へ参詣。	
20	9	5	夏期旅行から無事帰校する。	⑭583p
		14	15円送金される。	
		16	午前4時50分起、5時10分より勤行。大経一巻、訓読一巻終り、朝飯後、休息、大経下巻	
			訓読一巻終り。この時8時10分なり。4時30分より6時まで観経、小経、両経訓読終る。	
			後、正信偈等勤める。吹田村光徳寺。※父の祥月命日。	
		30	9月分食料費1円37銭。	
20	10	31	10月分食料費1円20銭。	
20	11	11	普通教校大行軍、午後1時、出発。3時30分伏見着。5時、エンバーク。5時30分、出航。	⑩27-33p
		12	午前1時、大坂着。6艘の内(教員・役員、1小隊、2小隊、3小隊、4小隊、予備)の内、予は	
			4小隊に属し、第3着であった。6時に上陸し茶屋で朝飯。直ちに御坊へ行く。	
			御坊拝観後、昼飯。午後、住吉神社に参詣。4時50分堺着。6時夕食。風呂へ5人で行く。	
		13	午前7時、起床。8時朝飯。9時、出発して浜へ。小隊運動、体操、綱引き。1時間散歩。	
			1時30分より乗船し、3時30分帰岸。4時より帰路に着く。足を痛める。5時30分帰着す。	
			夕食後、6時より外出して2時間散歩する(井上、清谷、桜井、能海)。	
		14	5時起床、支度。7時住吉にて休み。天王寺にて休み、五重塔に登る。大阪を横切り河内	
			森口にて昼食。河内枚方に5時着。凡そ10里。単隊34人で風呂に行く。7時夕食。	
		15	5時起床。枚方より淀へ3里半、京へ2里半、〆て6里。6時、出足。10時男山神社に登る。	
			3時30分帰校。風呂に行く。	
			○仏教一英文章一会話一演説一耶蘇一其の他教一法律一政治一経済一英学、普通学。	
		30	11月分食料費1円20銭。	
20	12	1	「反省会雑誌」創刊号、20.7.3制定反省会の詳細な内容が掲載された。正会員９９名。賛正会員３６名。	
		3	父から１０円送金される。	
		27	午后2時、普通教校の教官セッパード夫妻に招かれ洋食を戴く。※この時、名刺に「Kuwan Noumi」	Kuwan Noumi
			「Mr and Mis.Shapherad　元に行き洋食を頂く。♡ hape.happy new Yer to yow」と手帳に記す。	⑩20p
		31	朝、西本願寺、及び奥正寺へ参詣。日中後、東本願寺へ参り西大谷より高台寺と午鉋報	⑩24p
			東大谷に参り、祇園神社、四条仏光寺へ参り帰る。7時、勤行、法話11時まで。	
			12月分食料費1円20銭。	
21	1	4	＊直海玄祐より書簡が届く。能海が伝えた信条の「五戒」に共感した旨言及。	⑧上17p
		6	徳永満之より科学哲学及び宗教の関係。物理学一班を聴講。	
		7	学業成績/平均点82.5点、英語91.8点。一週間の授業時間29時間の内、英語は14時間。	
			※哲学館外員(23年まで)※島地黙雷「日本人」創刊。	
		31	1月分食料費1円10銭。	
21	2	6	父より１０円郵送される。	
		28	2月分食料費1円20銭。	
21	3	9	「寄留地応徴願」を島根県知事あてに上申する。	
			※『国民の友』の購読を開始する。	
		21	「寄留地応徴願」が認められる。	
		31	3月分食料費1円20銭。	
21	4	8	釈尊降誕会にちなみ普通教校内で「English Composing Socaety」(英作文会)を設立する。	英文会
			『弘法大師一代記』(M21.3.1刊)を読み感化される。	
		12	父より１０円送金される。	
		14	普通教校大行軍。奈良、吉野、和歌山、大阪など。	⑩40p
		30	4月分食料費1円20銭。	
21	5	21	降誕会につき嵐山の北高雄の南仁和寺の西の山の間にて発火演習をする。	
		31	5月分食料費1円20銭。	
21	6	7	南條文雄師文学博士となる。	
		8	父より１０円送金される。	
		30	6月分食料費1円20銭。	
		31	7月分食料費1円20銭。	
		24	「本山に外国の書生を受け入れ、本山近郊に洋館の学校を建て、佛教と普通学を伝授し、外国人の	⑦40p
			使教者となすべし。教員は、外国人及び本国仏学者にして、校長は、外国に於いても名ある如き日	
			本人仏教者とすべし。」と手帳に記す。	
		31	8月分食料費1円20銭。	
21	8		※「海外宣教会」が発足する。	海外宣教会
21	9	4	直海玄祐君と大阪へ行く。	
		5	午前１１時、汽車にて京都普通教校へ帰校する。	

年	月	日	事　　項	参　　考
21	9	30	9月分食料費1円20銭。	
21	10	14	「The Literature(文学)」(英文会の機関誌)を創刊する。※毎週日曜日に発行。	英文会
			【会員メンバー】 梅田、橘、笠原、宮、島津、植田、吉田、堀、佐田、加藤、北側、荒木、村上、川口、	
			吉津、護城、金近、猪口、花房、大内、堀部、新田、品川、桜井、松浦、清谷、岡崎、平山、綿谷、	
			竹下、能海の47名。	
			【新仏教徒の目的】「諸君は、仏陀の偉大な愛によって生まれた。全ての衆生と喜びを享受し、真理	
			の樹から因果の果実を摘み取り、モラルの庭園で自ら美味を味わうためにE.C.Sは、そのような新仏教	
			徒の目的を成功させるために組織したのだ。」と、能海寛が記述している。	
			【英文会の目的】 1.翻訳　2.文通　3.月刊雑誌ニュース　4.文化・教養の団体。	
			※考えを表現することで大切なことは、第一に「書くこと」、第二に「話すこと」である。雄弁さより文章の	
			方が利するところ大である。しゃべる人は、その場かぎりである。著述はどこにでも飛んでゆく。と記述。	
			※英文会シンボル印は、日の丸の旗を中心に「ENGLISH COMPOSING SOCIETY . KYPTO」の文字が	
			円形に配置されている。	
		17	父より10円送金される。	
		21	「The Literature(文学)」No.2	
		28	「The Literature(文学)」No.3	
		30	父より11円送金される。(内1円は買物料)	
		31	10月分食料費1円20銭。	
21	11	4	「The Literature(文学)」No.4	
		11	「The Literature(文学)」No.5	
		18	「New Scholar(新学生)」No.6　※この号からタイトルを変更する。	
		25	「New Scholar(新学生)No.7	
		30	11月分食料費1円20銭。＊石井清貴より書簡「日光作用簡易複写法」の規則を同封。	⑧上22-24p
21	12	2	「New Scholar(新学生)No.8	
		9	「New Scholar(新学生)No.9	
		11	普通教校閉校記念写真を知恩院にて撮る。	
		16	「New Scholar(新学生)No.10	
		23	「New Scholar(新学生)No.11	
		25	大学林の発布により京都普通教校は閉校となる。	
		30	「New Scholar(新学者)No.12	
		31	朝、西本願寺と奥正寺へ参詣する。午後、東本願寺へ参り西大谷、高台寺、東大谷へ参り、	
			祇園神社、四条佛光寺へ参る。夜、勤行、法話。12月分食料費1円20銭。	
22	1	6	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.13　※この号からタイトルを「新仏教徒」に変更する。	新仏教徒
			※表紙の言葉 「Namo Tassa Rhagavato Arahatosamm'a Sambuddhassa.」(パーリ語)	
			every sundays in the week. (毎週日曜日に発行)	
		13	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」NO.14	
		17	父から10円送金される。	
		20	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.15	
		27	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.16	
		28	文学寮本科2年甲生へ編入となる。	
		30	文学寮「預金渡通」を開設し、普通教校から5円が振替られる。	
22	2	1	「文学寮在学中豫備金」3円を納める。	
		3	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.17	
		10	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.18	
		17	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.19	
		24	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.20	
		25	＊京都の病院に入院中のダルマパーラ氏を見舞・看護する。秦、沢井も交替で看護する。	⑩65－66p
			※看護中にダルマパーラへ英文機関誌「新仏教徒」運動等を話す。	
22	3	3	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.21	
		5	本日までダルマパーラ氏の看護を終え帰郷の準備に入る。	
		8	祖母より餞別として、1円頂く。	
		10	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.22	
		11	学資金調達のため帰郷する。	
		15	午後4時、第一徳山丸にて出航する。	
		16	午後5時、宇品港に着く。	
		17	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.23	
		19	専光寺に着く。	
		20	滞在。彼岸法会。	
		21	滞在。彼岸法会。	
		22	滞在。彼岸法会。	
		23	滞在	

年	月	日	事　　項	参　　考
22	3	24	浄蓮寺へ帰山する。「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.24。	
		31	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.25。文学寮3月分食料費1円80銭。	
22	4	2	M.Takeshitaより英文会投稿の英文書簡届く。	⑦27-31p
		7	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.26	
		10	英文会員の平山より英文会投稿の英文書簡が届く。	
		12	第一期学資簿「Polical Economy」を書き始める。	
		14	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.27	
		18	無名瀧、魚切より水道を通して紡績会社を造る思案について表記。	
		19	葬式、法要での反省会の禁酒について記述する。＊R.Nishiyorより英文の書簡が届く。	⑦61-66p
		21	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.28	
		30	岡本斗八良君の弔意文を書く。	
22	5	6	河野始治・島津正人より書簡届く。「運動会遊戯及人名」が同封される。	⑦71-78p
		10	笠原松二郎より書簡、反省会のこと。築地の大運動会へダルマパーラら特待員100名来場した旨	⑦17-25p
			を知らす。文中・初志を変易せず、切磋琢磨の功を積み真宗に能海ありと評判と記す。	
		14	M.Takeshita・E.Hirayamaより英文会投稿の英文書簡が届く。	⑦39-51p
			佐々木作一より書簡届く。反省会4周年記念運動会の後、宣布院で菅・渋谷・秦・今津が演説。	
			文学寮と内学院の紛争(禁酒を巡って)を伝える。	
		16	平山寿海より英文会投稿の英文書簡届く。	⑦79-81p
		21	清谷寛之より書簡届く。	⑦83-91p
		29	Tenpoenshiより英文会投稿の英文書簡届く。	⑦95-97p
		30	岡本斗八良君の弔意文を書く。	⑩36-37p
22	6	1	石見学場(浜田・浄慶寺)において「仏説観無量寿経」海老原静寿師の集中講義を聴講する。	石見学場
			「仏説観無量寿経」本(第1席～第21席)　に記録する。	
			※ 海老原師は、尾張国・信力寺住職で、本山の三等学師。40日間の集中講義を受ける。	
		2	「仏説観無量寿経」第2席を聴講。	
			西依金次郎より書簡届く。「英文会の消長は必ず貴慮を患はすらん。然るに無異に消光不在候間休	⑦99-107p
			憩い下度候」。※この書簡をもって「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」発行を一時、中断する。	
		3	「仏説観無量寿経」第3席を聴講。文学寮から12月末まで補充員規則で京都に寄留するよう通知を受ける。	
		4	「仏説観無量寿経」第4席を聴講。	
		5	「仏説観無量寿経」第5席を聴講	
		7	「仏説観無量寿経」第6席を聴講。	
		8	「仏説観無量寿経」第7席を聴講。	
		9	「仏説観無量寿経」第8席を聴講。	
		10	「仏説観無量寿経」第9席を聴講。	
		11	「仏説観無量寿経」第10席を聴講。	
		13	「仏説観無量寿経」第11席を聴講。	
		14	「仏説観無量寿経」第12席を聴講。	
		15	「仏説観無量寿経」第13席を聴講。	
		16	「仏説観無量寿経」第14席を聴講。	
		17	「仏説観無量寿経」第15席を聴講。	
		18	「仏説観無量寿経」第16席を聴講。	
		19	「仏説観無量寿経」第17席を聴講。	
		20	「仏説観無量寿経」第18席を聴講。	
		21	「仏説観無量寿経」第19席を聴講。	
		22	「仏説観無量寿経」第20席を聴講。	
		23	「仏説観無量寿経」第21席を聴講。	
		24	「仏説観無量寿経」22席から正宗分を「仏説観無量寿経」末(第22席～第36席)に記録する。	
		25	「仏説観無量寿経」第23席を聴講。	
		26	「仏説観無量寿経」第24席・観三想結を聴講。	
		28	「仏説観無量寿経」第25席を聴講。	
		29	「仏説観無量寿経」第26席を聴講。	
		30	「仏説観無量寿経」第27席を聴講。	
22	7	1	「仏説観無量寿経」第28席を聴講。	
		2	「仏説観無量寿経」第29席を聴講。	
		3	「仏説観無量寿経」第30席を聴講。	
		4	「仏説観無量寿経」第31席を聴講。	
		6	「仏説観無量寿経」第32席を聴講。	
		7	「仏説観無量寿経」第33席を聴講。	
		8	「仏説観無量寿経」第34席を聴講。	
		9	「仏説観無量寿経」第35席を聴講。	
		10	「仏説観無量寿経」全36席が満講となる。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			※この講座に於いて、「智慧と慈悲」を会得し、構想練り翌年、「Wisdom and Mercy」の発刊に至る。	
22	8	8	梅の木より5銭頂く。	
		23	光雲坊より資本の為、1円貰う。同坊にて同道の御礼に61銭3厘を頂く。	
		28	隅田金助より5銭頂く。	
		29	光雲坊より1円貰う。斉入より書簡届く。	⑦173-177p
22	9	3	「金簿」二記入する。前甚が家より10銭貰う。	
		4	向こう4年半の学資金の支援を得て、檀家総代と「学資金募集ニ付訂約書」を交わす。	学資金⑭586p
			※向う4ケ年半間の学資金見込み270円を檀家一統より支援を頂き、学問成就の節は浄蓮寺後継と	
			成り、仏祖先崇敬を始め、檀家布教を本とし寺内和合して、子弟の教育を尽力し、決して他に移転等	
			の不道徳なることを致すまじく盟言如斯候。と4箇条の締約を交している。	
		5	浄蓮寺を出立し、京都に向かう。	
		7	加計にて宿泊料、2人分20銭。この日から「金簿」三を書き始める。	
		8	加計より広島舟賃14銭。車代3銭5厘。小遣2銭。蒸気船25銭。車8銭。さん橋3銭。小遣1銭。	
		9	車8銭。汽車27銭。車4銭。	
		10	反省誌代3銭。	
		11	鳥庄50銭。ぶどうなし3銭。コウモリ傘44銭。	
		12	亜細亜の宝珠8銭。小刀10銭。下駄10銭。	
		13	午後、高等中学校、吉田、村河、原久尋常中学に行き帰る。書箱代30銭。	
		14	文学寮北寮6号室に入寮する。同室者(能海寛、久冨米次郎、村上寅吉、西原荘十郎、平尾一夫)の5名	文学寮北寮
		15	一週間のカリキューラムを日記に記載する。平岡君、井上操来る。藤堂哲と二人、島庄へ行く。	
		16	大谷参詣。授業を受ける。	
		17	講堂において宮島舎監の説論あり。	
		18	安本円海、斉藤宇八郎より郵便書面を受ける。B行19銭。上田と二人。	
		19	斉藤宇八郎、一寸原組連中へ手紙を書く。洋服を作ること。三角定規3銭5厘。ピクニック2銭。	
		20	彼岸の入り。門限、就寝、起床の広告出る。少雨。文章十。	
		21	反省会の会幹を投票する。曇天。岡本重昌へ羽書出す。	反省会
		22	河口君と合い英文会のことを話す。	
		23	藤堂上京する。汽車二人4銭。柿4銭。	
		24	冬洋服を猿橋に頼む。岡本重昌より手紙受ける。斉へ短書を出す。	
		25	入寮。課業表を写しおく。	
			月曜日　漢・池野、地・佐久間、代・角田、訳・松山、内・熱田	
			火曜日　体・池野、幾・角田、訳・松山、図・宮島、読・セッパード	
			水曜日　博・中川、英作・ランバート、代・角田、地・佐久間、漢・中村	
			木曜日　体・池野、会・セッパード、訳・松山、幾・角田、内・熱田	
			金曜日　漢・中村、博・中川、地・佐久間、図・宮島、英作・セッパート	
			土曜日　体・池野、内・熱田、代・角田、訳・松山、文・ランパート	
		26	本山へ参詣する。来土曜日、英文会で、「アジアの宝珠」、「十二宗綱要」を人を分けて翻訳、	英文会
			日本文へ、又英よりの手紙、新聞等を日本に訳す。英文会の附属部として、本趣意し英文を	
			解して作文するにあり。	
		27	翻訳家、(将来遠国)布教家。自らの進むべき方向を記している。	
		28	道徳こそ、予の目的なり。晩、笠原、安藤と僕3人で、前途につき思想を述べ互いに得るところ	
			あり。洋服代2円10銭。	
		29	藤堂哲から葉書着く。	
		30	斉より手紙を送る。斉へ手紙出す。文学寮費9月分食料費1円19銭。	
			今月の入費は、8円96銭5厘也(道中諸費分)。	
22	10	1	朝、鼻血出る。本山参詣する。「政教日記」と「法の道しば」を斉へ送る。8円70銭の内4円を貯金す。	春秋日記
		2	前上人御正月につき休み。大谷へ参詣する。西依に寄る。風邪で早く就寝する。	
		3	下宿願いを出す。	
		4	Bに行く。	
		5	梅田定と2人、和服で話しながら同道して、愉快なり。本山参を怠る。	
		6	斉へ頓智雑誌を送る。藤堂等へ手紙を出す。井上氏の刑法講義あり。	
		7	東大学寮で、柳祐信、徳永満之、南條文雄、所感を述べる。	
		8	笠原と2人で野外で遊ぶ。スケッチ380頁なれば、一日15頁、1ケ月で十分終わる。専門にすべし。	
		9	許可が下りて、宝町通り魚棚上ル廣﨑方安本宅、当分勉強の為車中筋花屋町上ル片山方で下宿。	
		10	「反省雑誌」発せらる4銭。「政教史」4銭。藤堂へ手紙、清谷へ葉書出す。兄へ手紙出す。	
		11	法言兄から手紙届く。兄へ手紙を出す。晩、湯に行く。	
		12	課業表14日より改正される。名古屋東橋町29番安本円海に短書出す。	
		13	能海の上京により、中止していた「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.29　を発行する。	
			橘大心等と野間吉作の所へ行く。後に中学へ行き、清谷寮に入る。学課等を注文。	
		14	足利軍曹来たり面会する。田中友に宿す。「英文会一周年目也」(「春秋日記」に記す)。	
		15	足利氏大津に帰る。火3、午前11時から勤行の為休み。本山にて下駄を取られて、素足で帰る。	

年	月	日	事　　項	参　　考
22	10	15	龍谷会。大雨。	
		16	大谷龍谷山報恩講につき休業、午前参詣す。七条を散歩する。	
		17	学校へ行き、東山君に面会す。登へ法話を送る。午後2時笠原来り、一緒に校へ行き勤行、	
			斉藤氏の説教を聞く。新聞を読む。伊藤伯の辞職その他条約改正議論ごうごうたり。梅田、笠原と	
			野外に散歩す。知恩院で帝国哲学院演説あり、西依等行く。予は不行。晩、橋本を訪問する。	
		18	大経御勤、奥教院の廿日正月なり。午後2時、建夜報恩講執行説教、伊井様実に感じ入りたり。	
			晩、初夜勤行、説教小山氏実に感心仕候。橘と話す。	
		19	朝6時出校、勤行説教、松島氏。	
		20	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.30	
			午前、井上操氏の刑法講義あり。日中、久冨米次郎とBへ行く。藤島了隠氏欧米より帰朝して初	
			対面、演説あり。	
		21	伝道会雑誌17出る。晩、新町辺まで散歩す。	
		22	京都での「英文会」を引き継ぐため河野始治と前田得念へ書面出す。来る27日、日曜日を以って	英文会③30p
			「新佛教徒」第31号を出すべし。英和文一部おく。	
		23	学校新築の図を見る。橘大心宅を訪問する。	
		27	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.31。✻謙信より書簡届く。	⑦179-185p
		31	10月分入費4円18銭6厘。	
22	11	2	そば代9銭。Bean2銭。みかん代1銭5厘。	
		3	ぜん代1銭。	
		4	ぜん代2銭。	
		6	荷物32銭。そば2銭。Bean2銭。	
		7	神智規則4銭。日の宮2銭。東福寺3銭。仏教事情3銭。	
		9	郵便2銭。掛紙3銭。Bean2銭。	
		10	仏教事情3銭。	
		11	反省誌3銭5厘。斉入より書簡届く。	⑦191-194p
		14	法言より書簡届く。	⑦187-189p
		15	本代3銭。	
		17	Bean不銭。	
		18	郵便2銭。Bean不銭。	
		22	渋沢氏4銭5厘。Bean2銭。髪4銭。	
		30	飯費2円55銭。雑費15銭。11月分入費3円72銭5厘。	
22	12	5	切手5銭。	
		6	剪髪10銭。	
		7	油代5銭。式問反雑15銭。反雑3銭5厘。	
		9	日本外史90銭	
		10	Bean2銭。	
		11	みかん2銭。餅2銭。シャツ30銭。靴下5銭。片山宿料1円8銭。家へ30銭。反省会50銭。	
		13	友人の西依金次郎、松島静寿、能海寛の3人は京都を去り上京する。この時の所有金11円44銭。	上京
			外に1円59銭、斉書代預かり金。朝5時出発。車代4銭。汽車賃3円29銭。名古屋での車代6銭。	
		14	静岡宿料20銭。東京新宿より車代9銭。道中小遣い10銭。	
		15	駒込車・中飯代17銭。	
		16	駒込車・中飯代12銭。	
		17	西依金次郎、松島静寿、能海の3人は、東京本郷区元町2丁目47番地白井花方へ下宿する。	転居
			1月5日まで。箸及び箱3銭5厘。懐中16銭5厘。車8銭。はがき7銭。切手4銭。	
		18	暦略1銭。小遣い2銭。ランプ10銭。炭油8銭。	
		19	風呂1銭3厘。はがき2銭。洋とじ書15銭。はす里3銭。法言・斉入より書簡届く。	⑦195-208p
		20	郵便切手2銭。	
		30	法言より書簡届く。	⑦209p
		31	下宿料1円74銭。今月の経費合計12円36銭。(京都3円89銭5厘。東京8円46銭5厘)。	
			23年へ持越金4円56銭5厘。斉分共。	
23	1	1	朝7時半起床。阿弥陀経文、正信偈、大経上巻、真宗法典を訓読勤行をなす。父、兄、岡本重昌	春秋ノ日記
			へ書面を書く。藤堂哲から葉書着く。午前10時より福田君、漆谷君に寄り、日本橋小網町の豊島	③33-112p
			へ年賀で雑煮を頂く。築地本願寺に参詣。藤本教順の宿へ寄るも京都へ帰られて不在。	
			藤堂君の宿にて晩飯を頂く。鈴木藤丸君脚気で入院。『Economy Ⅰ』を書き始める。	
			祝儀17銭5厘。讀賣新聞2銭。	
		2	加藤飛雲へ葉書を出す。席料白米、茶、油、炭、月謝、筆紙、小使、火鉢、器、茶碗、盆、火鉢、	
			小ブトン、雪平、箸、盆膳、油入れ合計4円47銭。書箱50銭。車代10銭。4円47銭。書箱50銭。	
			車代10銭。羽書3銭。	
		3	10時より、赤坂の吉野精順宅へ行き、梅原融に寄り、弓削正雄の所に寄るもこの2人は不在。今	
			村等年賀に来る。稗田等3人へ葉書を出す。下駄代13銭。中飯3銭9連。国民の友4銭5厘。日本人	
			4銭5厘。時事1月1日1銭5厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	1	4	笠原松次郎より3人宛葉書を受く。晩、B店へ行く、10銭5厘。	
		5	朝より白井花方より荷を仕舞い、11時出発、芝区三田四国町二番地4号田中きん方へ転宿す。	転居
			松島静寿、山中逸、能海寛、古河勇の4名。下宿料56銭1厘。本代20銭。羽書1銭。	
		6	平山寿海、加藤飛雲より葉書受く。片山より3人宛て葉書受く。Bean2銭。	
		7	朝、双書を貰いに校に行き、後ち弓削正雄君の所へ散歩し談話して帰る。古河勇君来る。	
			吉野静順来る。晩、芝を散歩する。	
		8	朝より青山錬兵場に行き元普生村上意興に逢う。離宮より大久保の碑を経て帰る。梅原融来る。	
			古河勇当家に下宿する。竹下より葉書受く。古河勇と故普通教校以来の懐内を談し彼の夢遊等	
			面白きものを見聞せしを聞く。天蓮、石峯、焼寛、天頂山、洞達、石峰生などを雅号とする。	
		9	佐々木作一より葉書受く。郷へ手紙を送る。日野義渕氏へ書面出す。晩、弓削正雄を訪問。	
			印紙、羽書5銭。ペン先1銭。書面袋3銭。	
		10	岡本重昌より葉書を受く。豊島の兄来る。古河勇の文章力に触発され文章英知最も必要なこと	③42p
			益々感ず。学ぶべし。	
		11	吉野君一寸来る。檜山君来る。19日、元普通教生の青年会を立てることをなし、月一度集会を	
			する様、古河勇君等尽力中なり。風呂へ行く。断髪5銭。茶代4銭。風呂1銭3厘。	
		12	日曜日、故普通校を論ず。新文学寮を論ず。亜細亜の宝珠を論ず。海外宣教会を論ず。	
			西本願寺を論ず。東本願寺を論ず。将来の仏教を論ず。真宗を論ず。英文会を論ず。	
			新仏教徒を論ず。	
		13	慶応義塾へ双書と＊履歴書を出す。入社金3円。国民の友を読む。古河勇と下宿先を探す。	履歴書③50p
			大福3銭。請人は豊島勝太郎氏に依頼する。今朝、三部経終わる。	
		14	芝公園を散歩する。晩、古河転宿す。印度史、朝鮮、安南、緬甸などを読む。新聞第1銭5厘。	
		15	偈行品終る。「真宗法典」を1日より取り組む。予、毎月16日と28日は精進すべし。Bean2銭。	
		16	「吐論」終る。明後18日、午前8時入学試験執行を申し来る。その結果如何か。風呂1銭3厘。	
		17	父謙信の書簡で、慶応義塾入学は、世評からして不可。宗学の道へ転学を勧める。	
			「弘法大師一代記」を読む。梅原融来る。	
		18	慶応義塾で試験を受ける。予科3番1に入れられる。別科5級の再試験を頼むも聞きいれられず。	
			晩、古河勇、弓削正雄君来る。「日蓮伝記」を読む。Bean2銭。草履、下駄3厘。	
		19	「日本博士全伝かこを読む。午後1時より築地で松山氏の日本仏教青年会設立と故普生徒集まる。	
			会者、今村恵猛、古河勇、弓削正雄、吉野精順、藤本教順、戸田、橘大心、小原良輔、良甫、吉住、	
			菊池謙譲等。この日、このメンバーで「経緯同盟会」をつくる。	**経緯同盟会設立**
		20	風呂1銭3厘。	
		21	寄宿所を尋ねる。晩、書面と共に金10円、父より受ける。古河等4人で散歩する。「倭父範」を	
			買う、15銭。午後より「倫理学」を棚橋より受ける。＊父謙信より「宗学に志無きは畢竟、哲学館へ	⑦213-226p
			の転学を」との書簡を受け取る。	
		22	品川の近方を散歩する。晩、古河、吉野君来る。倭父範を読む。金を局より受けたり。	
		23	古河勇来る。西依金次郎「英国史」を買う、2冊4円。風呂1銭3厘。「支那学」を学ぶ。	
		24	「蓮如上人伝」を読む。晩、古河勇来り。島地氏の仏教改革の為竜宮。菓子代10銭。「日本全図」5銭。	蓮如上人
		25	吉野来る。西依金次郎、山中逸、神田区に転宿。豊島君来る。午後3時より芝区三田豊岡町63番地	
			龍源寺越渓宗逸方へ転居する。宿代(5日より25日迄)2円31銭。洗濯、炭、油代34銭。	龍源寺へ転居
			インキ第2銭5厘。切手、羽書10銭。土器等陶器15銭5厘。諸入費42銭8厘。米煮料10銭。	
		26	「地質学」、「進化論」を聴講する。	
			藤堂哲君来る。「徳島十良兵」を読み涙流す。夕飯を食し、散歩の為出て藤堂哲を見送る。小遣1銭。	
		27	朝より藤堂哲と共に浅草に行き、蕎麦を食して公園を散歩する。午後、古河勇の元を訪ね書物を	
			返し、談話中に弓削正雄、松島静寿君来る。青大豆10銭。展覧会2人分5銭。	
		28	法典論註上下終る。英文を以て主義とす。新島譲君は3、4日前死す。24日、晩古河勇君より聞く。	
			佛家の政談演舌は不認可なり。	
		29	「Wisdom and Mercy」No.1を作り、英文を作り主義を述べる。掛洋紙2銭。画紙2銭。黒紙1銭。	
		30	英文を少し作る。6時頃、予は独り考え実業も盛んになる又必要なるに金のみ使うて長々勉強	
			しめ未へ望みなきか。一層、哲学館に入り、来年8月、卒業し、よければ福沢の大学に入り止め	
			れば返る。又哲学館なれば金安く、佛友も出来、種々よし。福塾も大学に入る目的なりは、予に	
			望みなし。予は、これに入るは只一寸位置のみ得たりきなり。年限も凡そ5、6年必定。洋紙綴じ	
			5厘。四十七人義士見物5厘。風呂1銭。米2升5合25銭。席料18銭2厘。油、炭、薪代18銭5厘。	
		31	今朝は4時過ぎより寝られず。将来の方針のみ考え一考す。案出ずるは決め哲館に入るへから	
			ず。やはり福の大学を卒業すべし。今後、満4年は郷より資本出す約束。後2年は本山に仰ぐの	
			み。将来の目的についても父母有志へ対しても6年には充分卒業すべし。その為には予科にて	
			もよし、正科に入るべし、来月は、その決心。豊島と石田へ書面出す。	
			英文会月刊機関誌『Wisdom and Mearcy』(「智慧と慈悲」)Vol.1 No.1stを創刊する。	英文会機関誌
			1月分支出総計9円45銭。	
23	2	1	慶応義塾で入学試験を受ける。国民新聞1銭5厘。	
			午前、一寸塾に行く。藤堂哲に英文にて金借の葉書を出す。「安楽集」読み始める。古河、吉野君	
			来る。国民新聞1号を買う。豊島兄弟2人来る。晩、松島談話を聞きに行く。新島は、先月23日	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	2	1	午後3時20分死亡。晩、英作。	
		2	午前11時より散歩方々麻生、御所を経て藤堂に行く。聞けば、昨夜1時頃、沢井洵、上京し加藤	
			方に投宿の由し。午後5時頃、山中逸の所へ行き、藤堂哲と九段まで同道、勧工場を見て別れる。	
			Bean2銭。	
		3	朝、「国民の友」を買い新島譲の肖像を見る。8時塾に行き履歴書を出し予科2番の1へ入り書籍	
			「英国史」、「化学」、「ナショナル第4読本」、月謝を納め、10時より会話フアーロット女史の授業	
			業を受く。11時より漢籍。午後2時より英国史の輪読。3時より化学終わりて少年等の体操を見	
			て帰る。国民の友4銭5厘。月謝料1円75銭。社費15銭。書籍借料10銭。	
		4	10時より音読。午後2時より「簿記学」、初めてに付甚だわからず。3時より「化学」。吉野来る。	
		5	10時より塾に行く。書取り、漢籍。2時より英国史、化学終わり帰る。松島は家探しに神田へ行く。	
			簿記掛紙2銭。福沢塾の後方に富士山遥かに望み、実に立派立派。彼の如く秀でざる可らず。	
		6	「安東集」260頁に毘冨羅山とはヒマラヤ山ならん。又昨日読みたる中に猛虎等の多き所等は	
			皆印度の地の有様にして、これら世界と言えるなるべし。午前、音読、漢籍続「文章軌範」。	
			午後、簿記、化学を受ける。郵便2銭。作文掛紙2銭。風呂代1銭。	
		7	午前、書取と漢籍。午後、英国史と化学。吉野精順来る。松島静寿は未だ7時にも帰らず。米代1銭。	
		8	朝、松島静寿君は、神田屋の所へ移転す。当分は、この寺に居る。屋室3畳て50銭。実に寂しく	
			かわる。吉野君一寸来る。藤堂よりハガキ受く。古河勇の宿へ行く。席料20銭。諸入費53銭。	
			米4升代40銭。炭代一俵11銭。茶代3銭。油代6銭。	
		9	進化学を学ぶ。藤堂から葉書受け、返信する。郷里へ手紙を書く。1年予備、3年の大学如何。	⑪上48p
			日曜日休み。漬菜代1銭。醤油代4銭。	
		10	予学成就の上は、『仏教大学を設立し諸宗合同して南條君を校長に命じ文学科を置く。撰科を	
			置きて仏学専門となす。生徒は僧俗を選ばず。資本は、本山及び仏徒とす。』	
			午前8時から物理、会話、漢籍、簿記、化学の授業を受ける。晩、弓削、古河勇来たり。「経緯会」	経緯同盟会
			のことを種々話し、古河勇も近々、来るべく言いし、自炊大いに賛成する。藤堂から葉書受く。	
			樫炭代20銭。鰹魚4銭る硯代7銭。墨代3銭。筆2本4銭。掛紙2銭4厘。掛洋紙代1銭5厘る	
		11	紀元節。藤堂哲より葉書受ける。沢井（後の高楠）帰京す。「安東集」終る。皇居を経て西依に行き	
			松島と話し、昼食を頂く。次に藤堂へ行き談す。大雪6時頃まで5、6寸降る。国民新聞など4銭。	
			改進3銭。切手3銭。菓子4銭。	
		12	朝、授業3時間あるも休み、藤堂の下宿に行く。藤堂君神田区猿楽町4番地松本逸方へ転宅す。	
		13	朝帰る。9時帰着。10時から代理のロイス氏音読。11時から漢書。午後は、簿記、化学を受く。	
			晩風呂1銭。稗田、安本秀人へ葉書を出す反省会費50銭を稗田へ渡す。羽書5銭。帳面代2銭。	
			黒大豆代4銭。	
		14	8時から物理、書取り、漢籍。午後2時から英国史、化学。豊島の所へ立寄る。晩、弓削、古河勇	
			来り。経緯会のこと種々談し、古河勇も近々来るべく言いし、自炊に大いに賛成す。	経緯同盟会
		15	弓削君来り共に梅原融の所へ行き3人で九段の階行社開業式に行く。松島の所で吉野に出逢う。	
			予は、晩食を藤堂の元でなす。8時に帰着す。黄粉3銭。昆布3銭。砂糖2銭。塩代1銭。	
		16	「玄義」終る。晩、勤行する。午後、三田を散歩する。稗田訓より今月の雑誌2部と葉書を受く。	
			今日は、父死亡の日なり。嗚呼、早く帰りて、母上を安心と楽、祖母上、兄上、初、楽させ喜ば	
			せたや。其他皆内外の人々を喜ばせ度きこそ小生の存念なり。黒豆4銭。餅代4銭。	
		17	朝、豊島の所へ行きダーウヰ氏の傳を読み大いに語る。11時から簿記。3時から化学を受ける。	
			一昨夜、又三田義塾にて廃娼演説議論ストライキあるを聞く。	
		18	大いに私立大教校を我が故郷に設立したとき存念起こる。所は薬師山の南なり。普通科、高等	
			科、別科等5名くらいの教員にしてよろし。午前11時から竹下・漢籍、ハロット休みなり。	
			学術を以て緯とし道法を以て線とす。午後2時から英国史、化学を受ける。古河勇来り、明日移転。	
		19	8時から物理、音読。今日は代理としてウイリアム君来る。日本語が上手い。4時からはサー・	③97p
			エドウイン・アーノルド令嬢と共に福沢先生等数名来塾。その時、サー・アーノルドは、我々に	
			空気を分解せば酸素と窒素となる。酸は炭素と化合して炭酸になりて用をなす。窒素、残りたる	
			ものは如何なる用をなすぞや。答えれば20円やると言えり。先生に問う。世界の一問題にして	
			只今では只酸り猛毒を防ぐ為のみと言えり。3時間半休業。演舌堂において長々と氏演舌せり。	
			予等は、Budahien or Christronity　写言の少し知れたるのみ通弁なき為了解せざりし。感じたる	
			は、国に英雄出て、世界の光をなす人、生まれば、その国の光栄たること例えば英にワット、	
			ミルトン、セキスピヤー等出て世界を利し既に欧米にフランクリン等の如し。古河勇、予の元に転	**古河龍源寺へ**
			宿せり。パン食古河勇に於いてなす。宿代19日より28日迄17銭。席料26銭5厘。	
			※能海と古河勇の共同生活を「木石書院」と名付る。この時の様子を古河が「自炊」と題し寄稿。	木石書院
			「自　炊」（『青年文学』明治25年3月掲載）古河　勇より一部分を抜粋。	
			（1）木石書院	
			豊岡町の龍源寺と云う。門前あり。北より流れ来りて直ちにまた西に折れる。東南角にあり、川	
			を隔てて廣尾、木村の疏屋、菩提樹に迷うを見るべし。門に入って本堂、左に傍うて小門を入れば	
			2屋あり。南に面して並び立つ。何れも6畳、3畳の2間ほどの家。小庖厨之に付き小雪隠（トイレ）	
			これに添付す。共に人に貸さんとして同寺住職の建てし者、もとより月々の小家賃で晩酌を快飲せ	
			んと欲するに過ぎず。天下の二大蟄龍が一春、突然として此処に和会し、或は叫び、その自炊の	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	2	19	大経験綸を実行して法門千歳の事を定むるあらんとは、余輩の自炊房は、実に、この長屋の西の	
			方なり。同宿の能海寛は、石峯居士と云う。「放浪の奇人、夙に遠大の希望を抱き、性朴直にして	
			義を好む。」嘗て余（古河）と西都（京都・普通教校）に同学せし者なり。余（古河）は、木国人（紀伊）。	
			彼（能海）は石州人（石見）此に於いて自炊房を名づけて「木石書院」と云う。	
		20	学問成就の暁には、仏教大学を設立する構想を持つ。	
			法典300片紙終る。9時からクライブ伝。10時から音読ロイド。11時から漢籍。午後2時から	
			英史。3時から化学。豊島と梅原来る。三田を回遊せり。	
		21	8時から物理。9時からクライブ。10時から音読、ウイリアム氏。11時から漢籍。2時から代数	
			始まる。3時から化学。スキントンの「英国史」を読む。米代20銭。	
		22	朝パン、昨夜もパン。9時から作文。予、痔の気あることを今日知る。昼過ぎから銀座を経て	
			両国橋を渡り深川、新橋を経て7時に帰着。終日パン食をなす。砂糖2銭。パン3銭。Bean1銭。	
		23	日曜日。43日ぶりに髪を摘む。晩パン。痔にて実に困る。風呂1銭。髪切3銭5厘。バン1銭5厘。	
		24	W・ウエストンから物理クライブ伝会話。ウエストンと会話を交わす。漢籍。英国史。勤惰表出る。	W.ウエストン
		25	物理クライブ音読（今日は、Frances という宣教師にて前に金の十字をかけ授業せり）。漢籍。	
			午後、豊島の所に一寸寄り、10銭受取る。代数、化学、弓削の所に寄り、化学書を借りる。	
			英作、エドウイン「亜細亜の宝珠」に付き考える。菓子代4銭。	
		26	物理クライフ伝音読（ウエストン君）この時間より火事あり、赤坂124、5戸焼ける。「漢書王命論」	
			甚だよし。英国史、化学（当る）。	
		27	物理クライブ音読。漢書にてありき。代数、化学の授業を受ける。Bean1銭。郵便2銭。	
		28	W・ウエストンから物理「クライブ伝」音読。英国ダービーシャー県の英字新聞を持ち来て授業する。	
			入費割分27銭。2月分支出総計6円48銭4厘。父謙信へ「信を先にして、学問を第二となす」と書簡	
			出す。『Wisdom and Mercy』No.2ndを書く。	英文会機関誌
23	3	1	『第5号　春秋の日記』を書き始める。5月31日まで。	⑬262p
			絵入自由新聞、時事新報、東京日日新聞、報知新聞、日本「讀賣、都、東西、湖江」	⑩82p
			予は本科を卒業して、外へ。斉は内へ、登はアドベンチャー。井上（円了）に斉のことを頼む。	⑩83p
		2	西依宅訪問、マコーリーのエッセイを購入希望67銭。英歴史、天文学、フランスガイドブックなど	
			購入44銭。購入本の予定「アジアの光」。洋帳2冊5銭。	
		3	Mrs.Sfallot.Mr,Takeshita 休講。風呂代1銭。Rice1銭。Two eggs　2銭。	
		4	Mr.Weston来る。雑誌「ユニテリアン」No.1(6銭)を読む。ノートブック3銭。インキ3銭5厘。パン1銭。	
		5	慶応義塾附近で火災あり。	
		6	慶応義塾休校。小遣5銭。器ブリキ1銭。油代6銭。	
		7	沢井(高楠順次郎)と会う。	後の高楠
		8	古河勇の「明治学院」を訪問する。バン2銭6厘。	
		9	風呂1銭。郵便2銭。	
		10	沢井(高楠順次郎)フランス船で欧州へ出発する。父から10円受取る。	
		11	慶応義塾で漢文・代数・歴史、Burkeの翻訳などの試験あり。京都より「反省会雑誌」届く。	
			パン2銭6厘。落す1銭。	
		12	英語教師の交替Mr.Hionyon,Mr.(Frea)Algebra。	
		13	郵便2銭。月謝2円。	
		14	ちり紙2銭。風呂1銭。郵便2銭。	
		15	代議政体8銭。砂糖2銭。藤本へ火事見舞20銭。図書館2銭。	
		16	Bean2銭。ノート書2銭。	
		17	岡本へ郵便2銭。斎へ郵便2銭。	
		18	のし代3銭。	
		20	下駄14銭。	
		21	名代餅6銭。	
		22	E.アーノルド卿を訪問するも来客の為、明日、午後3時に改めて訪問を約す。	
		23	麻布赤坂今井町41番地のE・アーノルド卿の自宅を訪問し英文の添削を受ける。来日時の横浜、	アーノルド卿
			鎌倉の様子、『英文雑誌』や4月にアーノルドが京都に行く事を聞く。（吉谷覚寿師から享受したこ	⑩84p
			とを伝える。）菓子類7銭。そば2銭4厘。風呂1銭3厘。	
		25	古河勇の勤める明治学院で開催された文学会へ行き、講演や音楽を聞く。	
		26	石油5合6銭。	
		27	英字新誌28～29号12銭。	
		29	状袋6銭。綴物5厘。洋紙1銭8厘。	
		30	2回目の訪問で、アーノルドから直筆の英詩を戴く。アーノルド宅周辺をスケッチする。	アーノルド卿
			英詩訳　〇諸悪莫作衆善奉行自浄吾意是諸佛教　Eduin Arnold。風呂1銭3厘。ホヤ2銭5厘。	⑩116p
		31	『Wisdom and Mercy』No.3rdを書く。3月分支出総計6円50銭5厘。	英文会機関誌
			帰郷せば田舎にて、漢籍、仏学、英学、普通学、作文、東脩壱円。大教場、小学生100人。	⑩89p
			普通学生（高等小学100人、高中学100人）、仏学生50人の学校設立構想を描く。	
			Wisdom and Mecy『智恵と慈悲』。　智恵には、世智と出世智の2種ある。	⑩103p
			【英文会員】 平山、竹下、綿谷、垣山、清谷、梅田、笠原、橘、宮、川口、堀、上田、荒木、後藤、	英文会員

年	月	日	事　　項	参　　考
			吉田、加藤、島津、久富、橋本、能海。凡て4級生20名。	
			桑門至道より手紙。哲学館に行くこと。差出し場所不明「通万寿寺西へ入17番山陰道詰所」からの手紙	⑩103p
23	4	8	仏陀誕生日。	
		10	アフリカ絵を見て、単独で行きたいと思った。	
		12	父から15円(内10円は叔母出し)受取る。	
		13	午後、南豊島郡張谷村赤十字社病院前から西へ2里散歩する。茶園、麦畑、菜の花畑、水車を見る。	⑩87p
		14	『反省会雑誌』No.29着く。TheW＆Mの骨子を作る。	
		16	『Wisdom and Mercy』Vol.1 No.4で「宗教革命論」中西牛郎著を論説。「二河白道の比喩」を英文翻訳。	英文会機関誌
			日本の布教、世界の布教（英文会）について書く。	⑩93p
		19	午前8時に水産館、美術館、農商地図館、器械館などに入り、午後3時に出る。	
		20	駒込、哲学館、大学を歩く。庭、池、草花、楓など綺麗。	
		21	『萬国史』(スキントン氏)を読む。	⑪上63p
		22	歌集「梅古木集」を作る。※ アーノルド卿・令嬢との交流で影響を受けた内容を詠んだ歌集。	⑭412p
		26	沢井(高楠順次郎)4月19日にロンドン着。	高楠渡航
		28	宝典終了650頁。	
		30	4月分経費6円21銭。	
			【断つべきもの】 ① 名誉心、② 女色心。 増殖すべきこと① 智恵、② 慈悲、③ 道徳。	
			日本の布教は、郷国の僧侶を教化し、時々、巡回して布教し、叉郷村、近村、檀家の布教を充分	
			になすを以て英文会の日本の布教とす。	
			慶応義塾の教場の配置図を書く。	⑩94p
			E.C.SのPurposes(目的)を書く。	英文会⑩95p
			1. Jrans Cation	
			2. Corespondonce	
			3. Magabine or News	
			4. Fonrigne Cultors	
			5. Collage of 1,2,3, and 4.	
23	5	1	仏典翻訳を指導する学校を造りたいと考える。普通学、仏教、因果を否定するものではない。	
			『Wisdom and Mercy』Vol.1 No.5を書く。	英文機関誌
		2	Fallotsの授業に遅刻する。	
		3	『宗教革命』、『19世紀の大事件』を読む。	
		6	「化学後編」を学ぶ。	⑪上34p
		8	宝典700頁。	
		10	夕日に感動して、夕日のスケッチを書く。	
		13	Ojiyoshu 3rd before has finished,	
		17	運動会(障害競走、柵跳び、旗取競争、球拾いなど)	
		19	「六塾因中異塾録」とは、異類に塾する因と果とある。「異塾録」とは、原因(善・悪)果―無記なる	⑪上44p
			ものなり。	
		24	第一回目の会合、麻布一ノ橋で7名参加。※土曜会設立に繋がった会合となった。	東京・英文会
		31	5月分経費6円32銭6厘。	
23	6	1	三田寺町の西蓮寺(白山謙致)へ転宿する。桑門環と同宿する。※白山謙致と子安善義は慶応義塾生。	転居
			『Wisdom and Mercy』No.6 No.7。※常陸国稲田郷を訪ねる旅行記などを記す。	英文機関誌
			『第6号　春秋日録』を書き始める。9月30日まで。	日記
			※能海の転宿により、西連寺が土曜会の設立協議会場となる。	
		5	友人と組織仏教論を話し合う。	
		9	麹町行。	
		14	父から17円受取る。麹町行。	
		28	清谷寛之、桑門至道より書簡届く。	⑦261-265p
		30	6月分経費6円68銭8厘。	
	7	1	第一回衆議院議員総選挙。	
		6	「宝典」1,000頁終える、	
		9	西蓮寺へ南條氏来訪。	
		10	SS生雨山逸人より書簡届く。外国で仏教が広がっているニュースを得る。	⑦267-276p
		11	上田繁丸より書簡届く。	⑦277-281p
		15	「満もぼろし」の記録帳を購入する。この時、芝区三田西蓮寺所持主能海寛と記す。	
			旅行に付入費払、麦帽50銭、メリヤス40銭、カバン70銭、手帳15銭、〆1円75銭。	
		20	晩、三田にて草履（6銭）、レモン油（5銭）、砂糖（2銭）、晩8時より臥眠する。	
		21	朝、5時10分起床。30分出発。小山、増上寺の北側、露月町にてミルの「自由論」（45銭）、	東京東北近県紀行
			銀座、京橋を経て深川に渡り、千葉へ至る。	①21-73p
			本日の統計表　行程12里弱。内12里は歩行。内4里は人力車。路費23銭5厘。	
		22	午前5時30分発足。5里の山道を通り、佐倉の郷に出る。成田山を経て飯田屋に投宿する。	
			休憩後、不動尊参詣する。本日の統計表　行程8里余。皆歩行。路費32銭5厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	7	23	再び不動尊に参詣する。滑川を経て高岡村に休憩する。築波山を遥かに望み、遂に佐原町に着く。	
			銚子へ下る川汽船、銚子丸に乗込む。汽船の甲板にて尺八を吹く。１１時銚子港へ着く。宿に投宿す。	
			本日の統計表　行程19里。内9里歩行。内10里は汽船。路費73銭5厘。	
		24	雨降りで大いに困る。市中を徘徊す。鹿島神社まで10里、鹿取は3里程度。鹿島泊。	
			本日の統計表　行程10里。皆歩行。路費13銭5厘。	
		25	朝、鹿取神社参詣す。鎌田町に午後6時着、浜の屋へ投宿す。	
			本日の統計表　行程8里余。皆歩行。路費22銭5厘。	
		26	朝、6時発して諏訪に出る。茨城町上市へ6時着き投宿す。	
			本日の統計表　行程8里。皆歩行。路費28銭3厘。	
		27	笠間を経て稲田の郷へ到着す。	
			本日の統計表　行程8里。皆歩行。路費28銭3厘。皆歩行。路費27銭。	
		28	大覚寺、大塚にて各休息後、柿岡に出る。筑波着。	
			本日の統計表　里程18里。内8里歩行。内10里記者。路費66銭8厘。	
		29	荷物は宿に預け置き築波山を眺め、天の浮橋を渡り、9時30分、列車で宇都宮に着く。	
			本日の統計表　里程13里。内7里記者。内2里馬車。内4里歩行。路定1円32銭4厘。	
		30	5時25分の一番汽車に乗って今市に着く。馬車にて8時日光に着く。地図を買い求める。	
			三佛堂を拝見する。東照宮に至る。中善寺湖岸ホテル泊。	
			本日の統計表　里程9里。皆歩行。路費59銭。	
		31	朝早く、花厳の瀧に行く。湯瀧を経て湯元に着し、茶屋て入浴す。下総を去り上野国に移る。	
			白根山を経て白川村に出る。7月分経費11円71銭9厘。	
			本日の統計表　里程8里。皆歩行。路費31銭。	
23	8	1	赤根山を経て、午後7時沼田町へ着す。	
			本日の統計表　里程8里。皆歩行。路費31銭。	
		2	長坂に着き休息す。本街道に出て、4時頃、沼田温泉宿屋に着き、入浴、散歩す。	
			本日の統計表　里程8里。内3里馬車。内5里歩行。路費54銭。	
		3	高崎に着く。浅間山を見て、赤羽に着く。4時、列車にて目黒停車場、5時、西蓮寺に着す。	帰宅
			本日の統計表　里程30里。内6里半歩行。内23里半記者。路費92銭5厘。総経費7円31銭5厘。	
		11	友人と逢い旅行の話をする。	
		13	皆乗より書簡届く。	⑦283-285p
		14	夏期旅行日記『東北紀行』草稿を著す。	
		15	斉入りより書簡届く。	⑦287-299p
		22	反省会へ手紙を出す。	
		24	法言、謙信より書簡届く。	⑦301-307p
		25	父から15円受取る。	
		31	8月分経費5円91銭2厘。山中逸より書簡届く。	⑦317-320p
23	9	10	法言より書簡届く。	⑦321-323p
		14	I met to Nanjio.	
		19	トルコ軍艦遭難。	
		26	仏書を英語に訳すこと。海外布教すること。	
		28	宝典下巻本読了する。	
		30	9月分経費6円26銭3厘。	
23	10	1	上田繁丸より書簡届く。	⑦325-327p
		8	岡本重昌より書簡届く。	⑦329-334p
		14	『Wisdm and Mercy』No.Ⅰを書く。※創刊3年目とE.S.Sの将来を記述。	英文機関誌
		19	清祥寺にて仏教講演会が行われた。講演者は、大内精諭、大内青巒、巽青次郎、佐治実然。	
			「比較宗教の有用点」、「ユニテリアン宗教」など。	
		25	慶応義塾において「土曜会」を組織した。会員数約30名各宗派の僧侶が集まり、運動、スピーチ、	土曜会
			作文等行う。	
		31	10月分経費5円74銭2厘。	
23	11	5	「英語夜学会」へ入会する。入会金1円。授業料1円。校費10銭。	
		6	能海実利(登)より書簡届く。	⑦335-337p
		7	父から10円受取る。	
		9	謙信より書簡届く。住職検査の件。	⑧上35
		12	「普通教校人士」が印刷・発行される。	普通教校人士
		14	飯倉通りの英語夜学会に行き、ロビンソンクルーソの講義を受けた。	
			『Wisdm and Mercy』No.Ⅱを書く。	英文機関誌
		15	桑門志道(函館・本山寺務出張所)より書簡届く。長男環・同宿の礼状が届く。	⑦339-341p
		25	斉入より書簡届く。	⑦351-354p
		30	11月分経費8円84銭4厘。	
23	12	14	『Wisdm and Mercy』No.Ⅲを書く。※「水交社記事」の会員購読を開始する。	英文機関誌
		21	父から書簡と10円受取る。	⑦343-347p

年	月	日	事　　項	参　　考
23	12	31	12月分経費7円92銭9厘。	
			12月の試験を受け落第せば1月より何処にか1年間、教員をなし、又24年12月に来て、試験を受く	
			故に学問の予備は此12月迄なり。	
			※僧侶としての勉強の証が必要という檀家の切望により慶應義塾を退学する。	慶応義塾を退学
24	1	1	新年の歌を詠む。朝、白山帰る。本田、桑門、予の3人当宿にて雑炊を食す。真宗法典、和文の	春秋日録第9号
			部を始める。三経文教一部を読み終わる。後藤弥九郎君来訪。本年は、純潔ピュウリタンたれ。	③115-136p
			品行方正たれ。道徳人を感服せしむるに至れ。学問学理大栄進たれ。故に勉強怠る勿れ精神	
			正確たれ。気性活発たり。病疾近寄る勿れ。社界者たれ。高僧たれ。一大聖人たれ。文章家	
			たれ。文学家たれ。記して歳暮の良果を期す。午後、白山氏へ年礼に参る。4人で芝公園を	
			散歩する。他の3人は寄席に行く。桑門、土田、石田、3氏へ葉書を出す。岡本君へ書面出す。	
			『Economr Ⅱ』を書き始める。	
		2	「校異三経文類」一部を読み終る。吉野君を訪問する。午後、東洋の地図を開き大いに感考する。	
		3	午後、弓削正雄、中山逸、梅原融、大内を訪問する。白山氏来訪参河に行くと聞く。「石州第一号」	
			を書き始める。松島静寿、安本円海、稗田雪崖君へ葉書を出す。上田麦生より葉書着く。	
		4	今日、「真像銘文」終る。昨年、法典漢文の部を読みしは、御勤めのかわり仏学の為。又初巻読み	
			たれども外に漢文を読むの熟練習の為も幾分あり。他に和文章を書く練習の為も幾分かある。	
		5	本郷の山中逸君を訪問する。共に藤堂哲へ行く。渋谷君来り人物論を議論す。夜、藤堂で宿す。	
		6	山中逸と共に下宿家を探す。駒込を回り、追分町哲学館に約束し芝宅へ帰る。白山謙致氏を訪問し	
			本田に逢い移転を知らす。午後4時頃より荷物を仕舞し、5時に芝三田を発って本郷に7時着す。	
		7	郷里の父・兄へ書面、専光寺、最勝寺、桑門至道、日本新聞社へ葉書を出す。藤堂哲、山中逸を	
			訪問するもいずれも風邪。予も北向きの室なる為と強風の為にて軽風邪をひく。	
		8	昨夕6時に薬王丸を飲み直ちに就寝し、今日の正午まで寝る。午後、散歩して葛、砂糖を求め	
			呑む。せきが出て真齢丹を服す。朝飯を控えたので大いに体弱る。	
		9	午後、藤堂哲を訪問。彼も風邪なり。鯛の刺身を食し、梨、ミカンを食す。久しぶりの病気なり。	
		10	風邪にて終日床中にて送光す実に苦しい。	
		11	午後、藤堂哲を訪問する。古河勇、秦敏之君に逢い談する。	
		12	無為在宅。咳強く困難せり。火事あり騒ぐ。	
		13	咳コンコンに送光するのみ。午後、上野に散歩。妹すえ（末子）午後11時死亡せり。	
		14	天気良しされど風強く寒い。午後は床中にて送日す。	
		15	午前、哲学館に至り入館金月謝を収む。午後、藤堂、山中逸を訪問。山中は脚気で足立たずという。	哲学館へ編入
			日本新聞社へ葉書出す。「未灯抄」終る。	
		16	午後、哲学館の授業を受ける。井上哲二郎、沢柳の両氏なり。	⑪上94p
		17	支那学一時間受ける。風邪未だ全快には至らず。10有余日に至るインフルエンザなり。	
		18	午前入湯。11日目なり。水野斉に書面出す。午後、藤堂哲を訪問する。「御消息集」終る。	
		19	印度学あり。進化論(石川氏口述)を聞く。「純正哲学」井上円了氏の試験問題、(1)支那哲学と	⑪上138.145p
			印度哲学との別如何。(2)希臘文明の起源如何。など5問が提示された。「人類学」を聴講。	
		20	教員皆風邪の為休校。国会議事堂消失す。	
		21	棚橋氏の「論理学」2時間あり。「口傳抄」終る。「仏教論評」を作る。	⑫29p.146
		22	予が経歴に付き考える処ありたり。南條氏の特言学講義を聞く。郷里へ葉書を出す。	
			執特抄終る。帰国の念交々至る。	
		23	「願々抄」、「最要抄」、「本願抄」を読み終える。2時間授業。晩、藤堂を訪問し反省会雑誌を読む。	
		24	午前、山中逸を訪問す。帰り道に下谷区長岡本の葬式を見る。寄送者数千人にて盛大なり。	
		25	クルーソー傳終る。＊斉より書面を受ける。学問方針のことあり。哀れむべし、妹のすえ13日に	③25p
			死亡せりとのこと。嗚呼なんと悲しく哀れ、果かなきものぞ。南無阿弥陀佛、この報の悲しみいわ	
			んことなし。言語の述べつくす能はず。藤堂哲、秦敏之君来遊せり。囲碁をする。	
		26	午前、山中逸を訪問する。入学証を哲学館へ出す。手控録を作る。「新化論」1時間受ける。	⑪上132.134p
		27	午前、山中逸を訪問する。改邪抄終る。晩、秦敏之君来り囲碁をする。『日本語学』を読む。	⑪上99p
		28	掛紙を落とし墨池より墨こぼし掛紙を汚し、時間に遅れ3時間のみ授業を受ける。父より10円受取る。	
		29	浄瑠璃は「和文範」妙味あり。授業皆無。午後、山中を訪問、共に牛込の猪ノ口に至る。	
		30	昨夜、猪ノ口に宿す。午後、帰宿す。留守中に桑門、藤堂、秦君来るという。国より為替着く。	
			午後、芝三田へ行く。白山を訪し、桑門環へ宿す。白山本円、三河に行けり。	
		31	11時発にて帰る。議事堂の消失跡を見る。ストーブ、チムニーの並立を見る。憐れむべし。	
			午後、授業1時間。「歎異抄」終る。月費9円42銭4厘。	
		※	ヘッケル著『動物学』を読む。	
24	2	1	日曜日。散髪す。「安心決定抄」を読む。午後、秦、藤堂君来遊、囲碁す。	
		2	午前、為替を受取りに行く。平尾君に逢う。2時間授業。藤堂来る。郷里へ書面出す。「人類学」聴講。	
		3	授業1時間、「日本語学」松本氏。斉へ「講話集」、「回覧始末」を送る。夜、藤堂を訪問。「倭文範」	⑪上104p
			を読む。＊斉入より書簡届く。	⑦363-365p
		4	11時に本田君来り、昼過ぎ帰る。授業3時間。早就寝する。	
		5	授業皆無。藤堂哲来遊。「持名抄」を読む。	
		6	授業3時間。井上哲二郎の講義。	

年	月	日	事　　項	参　　考
24	2	7	人類学ありたるも知らずたる欠席す。1時間授業を受ける。夜、秦君来遊。「無聞書」一部終る。	
		8	「仏教話論」法経。昼過ぎ本郷、下谷、神田、麹町、牛込、小石川を散歩する。反省会へ書面。	
			「真要抄」始める。本の方終る。＊松島静寿より書簡届く。	⑦367-373p
		9	午前、山中逸より葉書着く。宿を訪問する。藤堂と共に正午まで談す。午後、藤堂来り共に散歩す。	
			授業2時間。松島君より書面着く。	
		10	入湯。授業1時間。机の上の水墨も凍るほどの寒さなり。藤堂君を訪問する。	
		11	紀元節。午後、古河勇、山中逸を訪問するも留守。藤堂哲を訪問中に山中来る。	
		12	藤堂哲と共に谷中近方を2時間散歩す。授業梵学2時間。反省雑誌3部着く。	
		13	授業3時間。井上哲二郎の講義。入湯。すえ初月忌に当り読経する。晩、山中来談。	
		14	昨日「本懐集」終る。今「破邪顕正抄」始める。授業3時間。夕、山中を訪問。	
		15	午前、藤堂哲、古河勇、予の3人、山中を訪問。彼は熱田温泉へ行く。	
		16	親の命日。業2時より1時間訳。晩、桑門に至る.。寮を訪うも留守。蕎麦をランプにて食う。	
		17	業なく欠席す。「破邪顕正抄」終る。兄へ書面出す。山中より葉書着く。活用言尾辞変化要覧を写す。	
		18	一時間業。監事へ各々不服を称え業少なきを言う。	
		19	山中逸へ葉書出す。祖母よりは書き着く。午後、藤堂哲来り、碁を打ちたる。業に欠席す。	
		20	広島別院に葉書差し出す。清谷君へ書面出す。業2時間。午後、藤堂に行きトランプに5時まで	
			送る。不勉強驚くに堪えたり。	
		21	業1時間。後の1は欠。藤堂哲に行く。本綴じをする。＊山中逸より書簡届く。	⑦375-379p
		22	山中へ反省雑誌を送る。藤堂哲、古河勇来る。晩、秦千代丸君来遊碁を打つ。	
		23	国へ書面出す。業3時間。「社界学」辰巳氏より学ぶ。	
		24	近頃になく強風。予の部屋もゴミ入り家動く。業3時間、「倫理学」を学ぶ。夕、『法苑樹林』の綴	⑪上116p
			じたるを取りに行く。	
		25	藤堂来り共に出立、小石川にて古河勇君と出会う。音羽の近傍に行き、三条公の葬儀に出会う。	
		26	国へ日本新聞を送る。南條氏、業2時間。春秋夢の巻。岡本重昌君に書面出す。「助働言」を記す。	
		27	業3時間。下駄を盗られ、晩は雨に逢い、悪日なり。昨日までに歩船抄終る。報恩記始まる。	
		28	報恩記終る。業3時間。夜、藤堂を訪問し蕎麦を食す。松島静寿より書簡届く。	⑦389-396p
			2月分経費7円13銭5厘。	
24	3	6	父より書簡と15円受取る。法言よりの書状も同封。	⑦381-387p
		31	3月分経費7円8銭8厘。	
24	4	10	松島静寿より書簡届く。	⑦397-399p
		12	小金井小舟氏を訪問する。	
		21	皆乗より書簡届く。	⑦401-404p
		22	松島静寿より書簡届く。	⑦405p
		28	父より書簡と15円受取る。	
		30	4月分経費6円35銭1厘。	
24	5	31	5月分経費7円35銭9厘。	
24	6	2	斉入より書簡届く。	⑦411-416p
		7	津田村専龍寺にて開講の「大経和讃聞講記」を記述する。	
		30	6月分消す日6円70銭7厘。	
24	7	1	哲学館普通科を修了する。	普通科修了
		17	父より15円50銭受取る。	
		22	「東京南西近県紀行」に出かける。	夏期旅行出立
			東京⇒上総国・安房国⇒相模国・伊豆国⇒駿河国⇒甲斐国⇒武蔵国のコースを紀行。	⑬391-394p
		23	watashiroot4銭。Stiam hoat30銭。蒸気船で南房総へ着く。	
		24	hotel　19銭。日蓮上人の生誕地・南房総に滞在して、4種類の水練を会得する。	
		31	8日間の宿代2円29銭6厘。7月分経費7円51銭8厘。	
24	8	1	南房総滞在。	
		6	6日間の宿代1円27銭。Cake2銭。Steamboar32銭。hand carr10銭。	
			蒸気船で館山から大島経由で熱海へ。	
		7	hotel　20銭。熱海。exhibition5銭。	
		8	hotel　18銭。	
		9	hotel　18銭。	
		10	hotel　16銭。身延山(1,153m)巡拝。	
		11	hotel　18銭。	
		12	hotel　13銭。富士山へ登山。	
		13	hotel　26銭。富士山(3,776m)登頂。山頂で尺八を吹き歌を詠む。Mount map 2銭(富士山の木版刷)。	
			waraji3銭。Map2銭。	
			富上口月　夏　石峰	⑩116P
			富士の嶺に　去りなき月を　見る人の　ふく笛の音も　いまは絶えなる	
			分け入れし　人の背戸な里　山桜	
			やがて死ぬ　景色は見へぬ　蝉の声	

年	月	日	事　　項	参　　考
			無き人の　小袖を今や　土用ぼし	
			夏痩と　人に答へて　涙かな	
			秋の夜は　かがひものしは　まんまるな月　見ぬ人のこころかな	
			ふけてまてども　来ぬ人の　おとづる　ものは年ばか里	
			数ふる　ゆびのねつなきつ　わしやてらされて　居るわいな	
24	8	14	hotel　15銭。	
		15	hotel　15銭。浅間神社。Map1銭5厘(浅間神社の木版刷)。	
		16	hotel　16銭。	
		17	hotel　18銭。八王子泊。	
		18	hotel　20銭。朝霞を経て帰宅す。	帰宅
		31	8月分経費11円85銭6厘。「印度学因明」を聴講する。	
24	9	1	北条太洋君来訪。囲碁、花合せ等10時まで語る。村上氏の「天台　因明」が始まる。	春秋日記
		2	先月16日は、予が亡父法師の7回目祥月命日にて実に大切の忌日。精進に当日を守るべき処心	③139
			に思うも如何にせん旅行の途次にあり、不得止清日に送光することを得さりしは実に遺憾至り由て、	
			本日、暫に忌日の為、朝、大経上巻、午前の内「大経」下巻を音読せり。	
		3	「経巻観□□」を読む。	
		4	上野を散歩する。	
		5	ニコライ堂当たりを散歩する。	
		6	午前、図書館。午後、花田等と家屋を尋ねる。	
		7	近方を散歩する。馬場あたり迄。	
		8	夕方より明日にかけて大雨降る。	
		9	夕、北条太洋君の処に散歩せり。10時過ぎ帰る。予風邪に罹る。	
		10	夕、花田の処に至り10時過ぎ帰る。風あり強し。風邪に付き終日馬鹿に暮らす。	
		11	風あり強し。	
		12	風邪回復せず。縁日、散歩する。途中、秦君と逢い共に帰り、反省会のことを談す。	
		13	「国民の友」33号。夕、為替着く。有難し候。2時過ぎまで眠られず。＊父より書簡と14円受取る。	⑦417-425p
		14	午前、為替を受取り、図書館へ行く。経世新報社へ葉書を出す。	
		15	「経世新報」の購読を始める。哲学館へ行き講義録を選び帰る。藤堂へ葉書を出す。入浴す。	
		16	業始まる。但し、井上の演説のみ。えらい本気になり勉強せざるへからず。	
		17	授業始まる。旧8月15日、満月夜、湯島辺を散歩す。	
		18	□田君一寸来る。勉強は仕度するものはなし。大に困る。	
		19	土曜日。□田君夕、来遊せり。	
		20	休日。追分祭礼。根津神社の祭礼、出しども多し。	
		21	岡本氏千島行きの談話あり有益爽快てある。根津神社に参詣す。	
		22	井上哲次郎講義始まる。秦君来遊せり。	
		23	春季祭。岡本重昌より書簡届く。	⑦427-433p
		24	「東京西南近県紀行」を書き始める。	
		27	「東京西南近県紀行」を書き終える。	
		30	9月分経費6円85銭。	
		※	9月より12月まで、「天台・因明」村上氏の講義を受ける。	⑪上182p
24	10	1	曇天時々小雨。花田君当宿へ転移す。夕、麹町元園丁に行き梵学のことを受付に頼む。羽書を以て	③150-158p
			師の講義始まるを報知すと約を得て九段、勧工場、本郷勧工場を巡視して8時帰宅す。反省会雑誌	
			を頼みて書面出す。	
		2	無然を考え性を知り世道に関することを案出す。学理的にあらずして実際的なり。理論至極し安心	
			立命を得る理真の信仰心からの宗教及び哲学なり。処世は此安心の上にあり。	
		3	菅君より羽書着す。根岸辺を散歩して図書館に至る。仏教事情等を読む。今晩、外神田の福田屋	
			にて哲学研究会の茶話会に至る。毎月開会等を議決し、委員の一人となる。小田君と同道大いに	
			団結の乏しきを慨したり。この時晴天。諸星寂なり。	
		4	斬髪す。午後、日暮里村王子より秋景黄稲の美術を回り巣鴨に灘不動を通りて野外遠足をせり。	
			岩崎の広大綺麗な別荘に行き智徳研修会のことを案出せり。夜、反省会雑誌6冊着。石田氏より	
			書面着く。	
		5	夕景、佐竹氏を龍岡楼に訪問す。兼一君の病気見舞いたり。6月下旬より滞在なり。是より親密を	
			得ば不幸中の幸。岡本氏とも斗八郎君病気より親密となる。予は幸に無病幸哉。	
		6	哲学研究会(第150号)第一期会員となる。夕、講義録の綴じを持ち行き病院に寄るも面会せず。	
			毎夜談話をなす。	
		7	午後、佐竹兼市君を見舞就眠中なり。其顔更に放つ状なり。青白く未だ掌を見ざるものの如し。母	
			氏に逢い談聞して帰る。製本悪しき為に花田、中山に馬鹿にせられ立腹。近年に無き程に甚だし	
			く、自ら頑乞を自頭に加え涙将に出んとす。直ちに、再製を命じに出立す。車夫乗れ乗れと言う。	
			実に面倒千万。人の荷に当たり手に傷を受け、実に不幸千萬。嗚呼、此口惜立腹いやしいと言う	
			ことは独り自らあらば如何ことなる予は他人と語るを実に欲せず腹のたちくやしき時はいかほどか。	
			「仏教国地図」着く。	

年	月	日	事　　項	参　　考
24	10	8	晴。夜風あり。そばす。岡本より羽書着す。入浴す。	
		9	物理、化学始まる。夜、隣室に昨夜以来大学の吉原にて頭を打たれ傷き白木綿にて包むを見受け	
			其相談をなす。法科生、昨日の数種の新聞に出て予も改新新聞で読むる長島雄二郎とが嗚呼、	
			不法のやっかい物学生なる哉。	
		10	午前、図書館行。今村、宇加治君に面会す。大野弘将来る。湯島辺を散歩す。桑門来たり、二人	
			共々宿す。晴天。	
		11	午後、予等3人及岩田氏を訪問。共に四人新堀辺谷中等に散歩す。夜、佐竹氏に訪い種々談話。	
			学校のこと、国のこと、東京のこと等。兼一君病状居たって重く、彼の苦しみを見れば、予が病発	
			する程なりと言い心配せり。実に気の毒千万。ソバをよばれる。9時過ぎ帰宅。朝、入浴三人共。	
		12	只屑々談話通学す。夜、一寸桑門来る。内へと石田へ2通書面を出す。皆乗より羽書着く。	
		13	麹町より羽書着す。夜、囲碁す。	
		14	入浴す。島田講義あり。語句集始まる。石田喜三郎より書簡届く。	⑦435-442p
		15	午前、図書館。夕方、佐竹君を病院に見舞う。日光図幅を見る。欧州の形勢動く。	
		16	夜、宇加治を訪うも留守。御茶ノ水橋を始めて渡る。新立派なり。登へ「日本歴史」を送る。快晴。	
		17	新嘗祭休業。午後、麹町南條師宅を訪う。九段にて加藤忠松くんに逢う。麻布菅君を訪うも留守。	
			桑門も留守。由って弥生館に佐治及び原恒山の演説を聞く。桑門で夕食し、菅君を訪い梅原君、	
			中山君は塾のビワ会に行く。予と菅君と十番寄せ怪談を聞き、10時過ぎ菅君方に帰り宿す。	
		18	共に、桑門を訪い舟遊と決め大野を訪う。共に4人、品川より和船にて砲台辺に至る。干満潮共	
			に困難なり。7時頃、寄港。桑宅に於いてトランプ、ソバ等にて10時頃臥床。	
		19	銀生青物市辺を回り10時過ぎ帰宅す。午後6時迄の業には大困り。登より羽書着く。	
		20	午前、麹町に行く。散克律始まる。別状なし。夜、談話過陀す。斉より羽書着く。	
		21	朝、佐竹氏より兼一君、昨日午後6時15分死去せらることを報知せらる。直ちに病院屍室を見舞う。	
			10時帰宅して入湯。零時又直ちに至る湯棺すみ、人整い、午後4時出棺。大学裏門より浅草本然寺	
			禅に至る。葬式終わり車七列11人にて上野公園前にて会席料理、夕響應にあづかる。8頃帰宅す。	
			駒六君に面会す。嗚呼、15才の青年、今や新堀火谷の中なり。葬祭の上野公園の前、人往来幾	
			千万皆一度はこの郷に入る夫れも僅か50年、70年の内のことのみ。人生何ぞ此漏きや。	
		22	朝、拂掃をなす。本月は一昨夜、小雨。毎日、晴天無雨哉。僧たるものは、40迄教員をなし、而して、	
			後、品位、生涯の話経の資足り教育等に経験、熟練なる世に執着落ち色情等の減したる人たるべし。	
		23	麹町弋。宇野君に逢う。	
		24	入浴。高島の2時間話しあり。夜、秦君来たり。外5、6名10時過ぎに至る迄遊芸す。	
		25	昨日、佐竹氏来訪せるも留守中なりき。由って朝、訪問す。駒六、熊五口等あり。面かいす。今朝	
			帰郷せられたり。鱗祥院にて松本、武士道の話し、石川木母の話の演説を防長する。夜、岩田氏	
			と予等3人と4人上野を散歩す。夜10時頃迄遊芸せり。	
		26	国へと斉へと羽書2通出す。夜、菅君来宿せり。西口寺報恩講へ参詣する。	
		27	麹町より羽書着。3人と菅君と神泉亭の菊人形を見る。上野勘工場を散歩して帰る。夜、雨降る。	
			夜、岩田君来遊せり。	
		28	雨天少風あり。朝、大地震ゆる。家大に震る。	
		29	古河勇君来訪あり、談笑せり。昨日の地震にて美濃、尾張、大阪辺、数千の死傷者が出る。	
		30	麹町行。今朝、3時半頃、近火あり。桑門帰尾す。北条太洋君来訪す。	
		31	岩田氏ら一寸訪ねる。岩田氏来訪囲碁送夜す。10月分経費7円72銭2厘。	
24	11	6	久尾重哲より書簡届く。	⑦443-445p
		9	父より書簡と15円受取る。	⑦447-450p
		30	11月分経費12円44銭。	
24	12	11	藤堂哲より書簡届く。	⑦451-454p
		31	12月分経費8円。	
25	1	1	『Economy　Ⅲ』を書き始める。『Note.4』	
			日出山の句 「やまのはに　かくれる雲も　はれそめて　いつるあさひの　かけのさやける」	
		13	父より書簡と15円受取る。	⑦457-461p
		15	謙信より書簡届く。	⑧上61-65p
		18	「ヒューム哲学」柳沢氏を聴講する。	⑪上363p
		24	「ヒューム哲学」柳沢氏を聴講する。	
		31	1月分経費8円58銭。	
25	2	2	「支那学」(易)を聴講。	
		28	2月分経費6円39銭。	
		29	父より書簡と20円受取る。	⑧45-49p
25	3	1	本典信巻を読み始める。麹町行き。哲学館へ月謝を納める。	春秋日記③162p
			本日より大改心。万事白明清潔鋭敏晩強節倹義理実行信心進考退案見聞博深高経験万事注意	
			肝要膽練思想人情視察。天下経綸宗教を以ては天下の壬申をして安堵せしめ気膽を以ては海陸	
			山河国土社界を驚醒せん。これ予が生涯の希望と志願也。麦生君都文館入学。大野君来遊せり。	
		2	不動と弥陀如来の二尊を信奉する。予が一生も又この道を行い、この志願を説き、教えるにあり。	③163p
			教育史を調べる。哲学館で島田均一博士の講義あり。夜、高見君を訪ね名士の逸話等話しあり。	

年	月	日	事　　項	参　　考
25	3	3	edaaqw　午前、脳図を描く。午後1時間あり、本山君の室に至り10時迄囲碁。福岡人士に面す。	
		4	麹町行き。寺田福寿の寺にて小栗栖香頂の説教を拝聴。山田長政の伝記を求める。	
		5	午前、宮田君下へ転室する。午後は哲学館休業。金の困難去るも社交の出費が困難。	
			寺田福寿の寺にて小栗栖香頂の説教を聞く。	
		6	図書館行き。大塩平八郎の伝記を読む。午後、郷友会へ出席し、12、3人と懇談する。	
		7	佐々木、大野君来遊せり。本郷で大火あり。国より法話のことで葉書着く。	
		8	麹町行き。今日より井上円了の授業が始まる。巣鴨辺大火あり。ランプのホヤを壊す。	
		9	手帳綴じを行う。授業2時間。高見君天然痘に罹る。夜、前田の処で遊ぶ。	
		10	「ありの満んま雲枕」へ歌を書く。授業5時間。	
		11	雪2寸ばかり降り麹町行きを休む。井上円了氏の北海道講演巡回の話を聞く。	
		12	「神皇正統記」を読む。高見君を見舞う。大野君来談せり。	
		13	図書館行き。田中鶴吉傳を読む。菅君来遊、宿泊する。品川大臣内務を去る。	
		14	朝、菅君と上野を散歩する。済世学社の運動会を見る。天然痘の流行止まず。	
		15	麹町行き。藤堂に葉書を出す。	
		16	図書館行き。「出世鏡田中鶴吉傳」を読む。「雲井龍雄傳かこも読む。夜、大野君を訪ねる。	
		17	前年の英文を読み返し、目的の英文に冷担なるを知る。来月8日に英文雑誌を企画。	
			晩、大野君来遊。生芋焼、ソバ餅腹ふとくせり。大野君と一寸英文会の事を話す。	
		18	麹町行き。英文会について考え作文おも少し名芹。昨日は良く考えて少しあやぶみたれども今日は	
			まだはずむことになれり。仏教徒の全面を汚しはせぬかと思へども又尓もあらずと考えたり。この業	
			の如き作文拙きも志も高く目的もよく、執心もあり不得手のもの故仕様もなきこと(作文)又仏教徒中	
			にても主に青年のものの意味にせばさほど人もふしることなかるべし。夜床につくも眠られぬ。	
		19	俵・木村・大野君を訪ねるも留守。英文会のことひと時も忘れる事なし。桑門来遊、高見へ行く。	
			駿河台の妖怪の話を聞く。菅君より羽書届く。8時頃桑門来る。久しぶり也。高見に至り談話する。	
		20	大野・桑門・予と3人で神田を回り、三省堂で英文印刷を依頼するも撥ね付けられ落胆し、白山に	
			相談に行くこともせず、九段を回り実に不愉快なりき。秋季皇礼祭と日にちが重なり、数日も英誌上	
			に差し支えたり。	
			※23年から取り組んだ「二河白道の比喩」の英訳を三省堂で英文印刷を依頼したもの。	
		21	午後、授業の暇に麦生を訪問する。菅君より葉書着く。	
		22	麹町行き。白山君に英文会のことを相談し賛成を得る。南條氏へ葉書を出す。地学会へ行く。	
		23	篠原君の調べで、出版条例を聞く。秦君に英文会のことを話すも賛意を得られず落胆。	
			今日、宣教会、文学寮、内学院大学寮、高中、尋中へ英文会の件で書面を出す。4月8日に	英文会
			新仏教徒が誕生することを祈る。※釈尊降誕会に合わせたいと希望した。	
		24	頭痛で困る。授業3時間で早引きする。一粒金丹を4年ぶりに呑む。	
		25	今日は、スッカリ病いよし。麹町に行き白山、子安君にも話す。南條先生は名古屋へ出発。	
		26	＊藤堂より書面、荷物着く。井上先生に相談するも金の為に付き危ぶむ。秦、岩田君来遊。	⑦463-467p
		27	大強風降りで終日、寝て暮らす。	
		28	大野君を訪問。授業無し。リュウマチの様に体の全てが痛く、死するのではと遺言をも考える。	
		29	麹町へ行くことを忘れる。ベタレ雪一寸余も降る。哲学館休校。	
		30	終日、気分悪しきため授業欠席。	
		31	大野来遊。共に高見君を見舞う。4人で上野根岸を散歩する。子安、白山へ葉書を出す。	
			3月分経費8円12銭7厘。	
25	4	1	本山君転宿。学校休業一週間。麹町行を欠席する。	春秋日記③176p
		2	松谷氏来遊、囲碁する。吉野鉄太郎来る。晩、入湯。高見に寄り談話。夕食を頂く。10時に帰宅。	
		3	弁当持って大野と出掛ける時岩田来遊。共に小石宿に行き囲碁する。中食に3人で上野園遊会見物、	
			中央会堂にてカクラン氏の「スパーゼン伝」を聞く。北条氏来遊B＆Fして、夜、大野宿で一寸遊び帰る。	
		4	午後、囲碁で日を送り、午後、5人共に出て、両国、神田ステーションを散歩。晩、北条来談。	
		5	午前、麹町行。文典100頁。午後、岩田君来談、歌を歌い談す。雑誌の綴じ4冊出来。晩、禁酒に付	
			少談。女将さんと談話。この家賃13円。	
		6	橘大安君降誕会の話の為来る。3時頃入浴、直ちに岩田を訪ね囲碁10番。夜12時に帰る。	
		7	朝発して、神田、麹町、飯倉を経て芝の桑門に至り、白山を訪ね桑門と共に弥生館で油絵、十二支	
			等の画を見る。菅君に寄り、本通りを経て6時に帰る。晩、高見君話に来て、芳の、岩田も来る。	
		8	釈尊降誕会の聖日。麹町行。今日より、午前8時半より始め、正午に帰る。一休みして、神田斯文	降誕会
			学会に於いて降誕会に行く。行動の聴者、寺田福寿。大内青巒、島地黙雷の3演説あり、いずれも、	
			感動せしめ愉快を与えるは満足の至り。紺屋、三田熟に於いても演説と薩摩琵琶等あり盛会。	
			4時半帰る。前日、京都より帰り種々京の有様を聞く。高見を訪ね、幸田と共に3人で大野を訪ね、	
			上野の見張しにて大声で吟詠し、9時に帰る。桑門より羽書、国へ法話を送る。	
		9	桑門へ羽書を出す。午前入浴す。湯屋、昨日新築せり。岩田来遊せり。	
		10	神田猿楽町より出火、強風につれて神保町、錦町より日本橋に向けて数1,000戸焼失。	
			梅谷君下宿焼けて、古河勇の所に移る。	
		11	岡本重昌より書簡届く。昨日の楫4，700戸の全焼。70余戸半焼。19名死亡。この夜も火事あり。	⑦517-521p
		12	神田大火死人24人。又10日の晩、芝西久保500戸焼失。実に近頃火事多し。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			内にも芝合計1,000余戸の火事あり。哲学館3年生の試験は出来ず。	
			が慶応義塾演説館で行われる。	
25	4	13	図書館に行き、フィヂー島水路誌、八宗講要など読む。晩、麦生来り、蕎麦2杯、餅沢山食す。	
			今村、愛宕下宿火事で焼き出される。島本君も同様なる。	
		14	朝、上野で桜を見る。浅草公園を散歩、谷中に至る。業5時間、都文館。晩、高見を訪ね散歩する。	
			皆乗へ羽書を出す。	
		15	九段桜を見る。1、2日林。業5時間。晩、高見君、神崎君来談する。	
		16	「撰択集」を詠む。図書館へ行き地学雑報を詠む。人類学会雑誌にて、アイヌの研究を喜び、ホイト、	
			ノト、カミ、シャモ、アイヌ等の言語より彼等の宗教心まであり。皆乗へ羽書を出す。	
		17	日曜日。曇天。大野、高見、甲田ら4人で小石川伝通院から牛込仏仙掘まで歩き、イモと餅で中食す。	
			晩、高見を訪ね塩煎餅にて、岩田君も来遊。	
		18	朝、座禅40分間なす。井上円了の話あり、曰く「学問は人をして品位高尚になすにあり」。	
		19	業5時間。晩、上野辺より不忍が池辺を巡散歩する。	
		20	午前、神田焼け跡を巡見。臨済宗有志吟集館跡にて追悼柄あり、観念法門を詠む。午後、業無し。	
		21	気分甚だ悪し。午前就床。午後、業後、全生庵に荻野の講訳を聞く。	
		22	午前6時40分発、麹町行。白山謙致欠席。菅実丸より羽書。藤堂哲、菅実丸、白山謙致へ羽書を出す。	
		23	甲田と二人、谷中の全生庵で大禅の講義を聞く。大野加わり3人で予の宿に来る。岡本より羽書届く。	
		24	日曜日。午前、哲学研究会で演説あり、沢柳の教学、浜田健次郎の鉄道経済の論。加藤弘之の対等	
			条約交渉の演説。松谷、橘、金山と囲碁。夜、大野来る。宗教学につき大野、山中、予の3人で議論。	
		25	晩、古河、大野来遊。晩、そこらを散歩する。真宗館開館で人多く広し。夜店を回りて買える。	
		26	有心論を考える。業1時間、審美学。同道7人にて地学協会演説を聞く。	
		27	ロビンソン氏の話を読む。	
		28	業あり。北条太洋君来る。	
		29	「中央亜細亜地理」を調べる。	
		30	4月分経費8円10銭1厘。業無し囲碁す。	
25	5	1	日曜日。午後、浅草鵜遊館にて、石見国郷友懇親会に出席する。歴々の人に面す。講談、剣舞あり、	春秋日記③193p
			会者6、70人。同家で、出雲国懇親会もあり。止宿す。	
		2	朝、大野と共に帰る。大野と囲碁。晩まで在留。花田も加わる。	
		3	降雨止まず。山中逸転宿す。午後、花田と談話。北海道人類学地理の談をなす。	
		4	午前、図書館行。大野、桑門に出会う。上野散歩して帰る。午後、桑門来る。晩、佐野の部屋にて	
			囲碁す。山中下に宿す。	
		5	午前、図書館行。東邦協会雑誌読む。午後、業間中、大宮君を世尊院に訪ねる。晩、本郷を散歩し、	
			「亜細亜」27号を買い求める。	
		6	麹町行。九段招魂祭兵隊の参拝を見る。古宇田君と囲碁す。	
		7	山中、古宇田と蕎麦を食す。	
		8	9時発、深川、永代橋、千住、谷中を巡回して午後6時に帰る。	
		9	午後、大野君来る。日本地名鑑を見て帰る。宇賀治、吉野へ羽書を出す。	
		10	降雨強く道悪しく大困難。その上、学校にて下駄を取られる。これで、3度目だ。而も雨降りの日のみ。	
		11	父より為替状が届き15円受取る。佐藤の室で囲碁。晩、山中来る。菅より羽書届く。	
		12	朝、高見来る。神崎と3人で小石川植物園を散歩する。為替受け取る。午後、入浴。晩、山中を訪ね、	
			薬師縁日を散歩。9時に帰る。	
		13	麹町行。本山と囲碁。午後、高見を訪ねる。宇賀治より羽書届く。	
		14	橘氏等来る。午後、大野来る。晩、共に散歩し、根岸に行く。宿す。根岸の祭礼で舞を見る。	
		15	5時頃より大野と家を探しに三田氏団子坂に行く。酒出て花田、大野酔い、ソバをよばれ帰る。大に	
			困る。この時10時頃、飯食す。これより隣室の橘、金山の囲碁を見て2時頃に至り寝る。	
		16	午前、大野帰宅せり。橘の囲碁を見る。「感応妙」を学ぶ。晩、大野来たり。麦生君も来談する。	
		17	午前、入浴。午後、大野を訪ねる。大野、自炊屋に転宅する。晩、掃払致し共に大野と帰る。	
		18	朝、転宿の事を下宿に告げる。本山、岩田、山中、を訪問。午後、転宿す。佐藤氏らと囲碁す。業を	
			終え花田に至り、下宿の勘定を得る。自炊用品を勧工場等で買求める。蕎麦有り食す。花田来たり。	
			朝、パンを食べ茶を飲みたり。	
		19	国及越前へ羽書を出す。古宇田来遊す。晩、花田方へ来遊。加藤、小田君に名刺を渡す。麹町へ	
			羽書を出す。	
		23	「倫理学」中島力造の講義、「感応妙」続きを学ぶ。	
		31	5月分経費9円10銭2厘。	
25	6	30	6月分経費5円17銭2厘。	
25	7	1	哲学館高等科下級を修了する。	高等科下級修了
		16	午前8時、井上哲次郎	満もぼろし
		17	原松午後行き。父謙信より書簡届く。	⑧上51-57p
		18	午前、奥田行、及び村上、瑞泉寺。父より12円受取る。	
		19	商業学校。夜、豊本口信講。	
		20	朝、駒込峯岸を出て森岡に至り写真2回、1時間余。9時過発、車にて湯島に行く。松谷、菊池、	

年	月	日	事　　項	参　　考
			大橋、村上、古河、西依など7、8名会し、松山来談。蔵行新法後り。午後1時、発鉄馬車にて、	
			新橋馬車にて品川行。平松に行く。30分間談し、4時、横浜着。公園、海岸通り最壮快なり。	
			5時発、7時鎌倉へ着。三橋支店宿。秦、近角等居り、種々相談あり。今夜、麦生へ第1回羽	
			書を出す。国へも出立の羽書をこの所より出す。夜、雨降あり。	
25	7	21	朝、発雲頂院行。田中明林などに逢い講を聞く。その日に庵に行く。高見に逢い談す。富士見	
			亭、白鹿洞、北条□所、仏光国師墓、及び鐘堂を回り、予の行て談し、門前にて3人会食せり。	
			豪吟す。分かれ建長寺半僧坊、エンマ□、白ハタ山、女倉、大仏、長谷観音等を見る。	
			晩食し。夜、秦、三宅、松見、滝口等と談せり。晩、秦君と談話する。	
		22	7時5分発、4時40分岡崎着。5時、大野。7時、散歩。	
		23	□行4時迄。別院等を見て帰る。夜、談話す。	
		24	6時半発、7時20分着。8時21分、岡崎発にて9時50分頃名古屋着。談話。11時環着。大村等。	
			2時、大野去り、3時、小谷着。夜散歩す。	
		25	6時発、熱田神社を参拝。8時、港にて舟を借り汽船に至る。3人と分かれ、9時東海運輸丸	
			に乗り込む。四日市に12時頃着。2時、津。四時、神社。5時、二見角屋着。洗濯、談話。	
			茶話会。予の所につき談す。古河勇、桜井義肇、橘大心、原、山田、小山、加藤、10時退散。	
		26	朝、寺にて、小山、加藤の講話。10時発、橘、原、予の3人、山田に行く。外宮に参じ、古市、	
			内宮に参、2人と分かれ車にて8時、二見着。	
		27	6時発、艀にて、第三運輸に乗り込む。4時、熱田着。浪あり。車にて、名古屋着。この夜、公園	
			を小谷と散歩する。	
		28	昨日の船中より二見へ羽書を出す。朝、□□に行く。終りは桑門に遊ぶ。囲碁。	
		29	出発せんとして延引。滞在す。朝、小谷君、二見へ立つ。この夜、宴席に行くる12時帰床す。	
		30	一番□5時発、勘七の車にて行き、5時40分に乗り込み、7時、大垣着。車にて養老行。10時、	
			着る11時発、□行にて四条、京極、三条、粟田口、知恩院、丸山公園、四条新町を経て帰る。	
			「本願寺の壮を見ずんば何れ□知らん旧仏教の尊を」寺町光円寺。	
		31	7月分経費5円24銭9厘。	
25	8	3	谷中を発して、1時に通運丸に乗船、5時に横須賀着港。大野君在宿の石川喜三郎に6時着。	「東京南東紀行」
			知人の槙沢要塞歩兵軍曹に面会し、市中で芝居2幕見る。下宿料2円。	
		4	大野君と軍港近方を散歩、軍艦の停泊を見る。「日蓮宗祖真実略伝」を読む。	
		5	鈴木、清谷、山中、菅、麹町へ葉書出す。8里半の日蓮宗の旧跡を尋ねる。尺八6銭。	
		6	午後、槙沢君来り、3人で浦賀行。要塞訓練所の大砲など見る。	
		7	槙沢君来り軍港を案内される。厳島号4,200トンの最新の機械づくめを見学。	
		8	楠浦近方を散歩する。海水浴は、日課、去年房州にて覚え毎日の水練で上達せり。	
		9	要塞砲兵営所近方を散歩する。	
		10	4、5日費やして、「楚漢軍語」を読み終わる。世界の軍艦を調べる。	
		11	都合により、本日出発出来ず、読売新聞を購入、伊藤内閣の報を知る。寄席に行く。	
		12	今朝出発。大野君久比里村まで散歩方々見送られる。三崎町青柳亭投宿。	
			当夏は、北海道行きを予定していたが、都合により大島漫遊となった。船代60銭。	
		13	大島へ4、5里の所まで至れども風向き変じて三崎湊へ帰る。	
		14	船中滞在。大島人と種々の事情を話す。	
		15	午後、伝馬船を借りて、独り城ケ島に漕ぎ着け、遊泳する。	
		16	今日は、父の祥月命日。8時過ぎ順風にて出帆せり。相模灘を漂流し、初島近方に至り伊豆海岸	
			天城山を目指して進む。太陽没し、富士山隠れ、青天をの羅星を見ることと双眼鏡で村家の火を	
			見るのみ。	
		17	南行する内、正午より南風起こり、南西より北西大島に向う。午後5時過ぎ岡田村に着船す。	
			夜村内を散歩し、荷物を頭頂に載せる異風の別天地なり。	
		18	泉津村に至り、松吉という人に案内を頼む。	
		19	再び泉津村に至り案内を得て三原山に登る。頂上火口の所には30日の岡田村に着船す。	
			下山して鯨の群泳を見る。修行をなす者あらざれば案内せずという。下山して鯨の群泳を見る。	
		20	村内を巡遊する。大島近海は浪荒く難船すること多し。	
		21	早朝、船頭の甚五郎を雇い大島本村に至り、野増村にて一休す。岡田村300戸、泉津村150戸、	
			本村800戸、野増村150戸、差木地300戸、波浮150戸、合計1,850戸、人口8,000。牛2,000頭飼育。	
		22	当港から渋谷、大野、槙沢へ葉書を出す。朝発して元の道に帰り、差木地で一休す。本村を経て	
			岡田村へ帰る。途中海水浴を数回なす。	
		23	同道を得て1里半、山腹の湯場に至り湯治する。	
		24	今朝、別れを告げて泉津村に行き、便船三社丸に乗船し、いさましい鯨漁を見る。船代30銭。	
		25	朝4時に横須賀着く。一寸上陸して槙沢、高見へ葉書を出す。8時頃、出航観音崎引き潮で	
			2時間待ち、東京湾に入り、午後4時に隅田川鉄砲洲に着く。乗車して花田で宿す。	
		26	朝、谷中の無道庵に帰着せり。この日、谷中の諏訪神社の祭礼あり。旅費合計15円31銭。	帰宅
			概略　相模、伊豆、2カ国。里程凡140里。内海里100里。内歩行40里。日数満23日間。	
		31	8月分経費10円98銭4厘。	
25	9	9	父より書簡と15円受取る。	⑦469-474p

年	月	日	事　　項	参　　考
25	9	13	「東京南東紀行」を書き上げる。	「東京南東紀行」
		19	斉入より書簡届く。	⑦475-477p
		20	地学協会へ行く。	
		21	哲学館にて井上円了氏より「応用心理学」を聴講。	⑪下82p
		22	秋期星礼祭へ行く。	
		26	岡本重昌より書簡届く。	⑦479-481p
		30	9月分6円39銭9厘。	
25	10	5	「支那学荘子論」島田均一氏講座を聴講する。	⑪上314p
		14	哲学館にて、島田博士の『支那学史伝』講義を受ける。	⑪下36p
		27	法言より書簡届く。	⑦489-491pp
		28	父より書簡と20円受取る。	⑦483-488p
		31	10月分経費10円13銭6厘。	
		※	「梵学代六号」を書き始める。	
25	11	25	『梵学第八号』(梵文「無量寿経」の訳読ノート)を書き始める。	⑥99p
		29	「梵学第八号」を書く。	
		30	11月分経費6円10銭。	
25	12	5	「愛国護法論」を学ぶ。	
		6	「梵学第八号」を書く。	
		9	「梵学第八号」を書く。	
		13	「梵学第八号」を書く。	
		13	「梵学第八号」を書く。	
26	1	1	『No.4　Economy』を書き始める。	
		12	「人類学大意」坪井正五郎氏より聴講。	⑪上284p
		15	法言より書簡届く。	⑧上67-69p
		16	父より15円受取る。	
		19	「人類学大意」坪井正五郎氏より聴講。	
		24	「梵学第八号」を書く。	
		27	「梵学第八号」を書く。	
		31	1月分経費5円91銭7厘。「梵学第八号」を書く。「梵学第八号」を書く。	
26	2	2	坪井理学士から「人類学大意」を聴講する。	
		3	哲学館にて島田博士より「王陽明名守仁字伯安」を聴講。	
		4	「純正哲学自解」の記述を開始する。第一　定義を書く。	純正哲学自解
		6	「純正哲学自解」第二考究法、第三知識論、第四物心論を書く。	
		7	「純正哲学自解」第五唯理論、第六融通論を書くる	
		8	「純正哲学自解」道義学、第一知道、第二教育、第三心論を書く。	
		18	「純正哲学自解」宗教学、第一章宗教学定義、第二章他学との関係、第四章宗教の定義を書く。	
		20	「純正哲学自解」第八章宗教論(宗教学の完成を目指す)、哲学。第九章比較宗教学を書く。	
		21	「純正哲学自解」の目次、骨格を作る。	
		25	「純正哲学自解」因果論を書く。予の一生目的は、『宗教学』の完成にあると記述する。	宗教学
		28	2月分経費5円57銭5厘。	
26	3	8	常盤大定より書簡届く。	⑦495-499p
		10	父より書簡と15円受取る。	⑦501p
		20	藤間より書簡届く。	⑦503-508p
		21	「梵学第八号」を書く。	
		24	「梵学第八号」を書く。	
		31	3月分経費7円60銭。	
		※	「西蔵路程地図」(八枚続き)を抄写する。「西蔵通行地図Z＝線」(1枚)を写す。	⑥93p
26	4	3	斉入より書簡届く。	⑦509-513p
		8	釈尊降誕会が神田錦町の錦輝館で開催される。	釈尊降誕会
		27	「布教概理」を書く。「妖怪学」井上円了氏が始まる。	
		29	「純正哲学自解」(心・信・真)の記述を以て完成。	
			＊松本氏より「釈尊降誕会会計報告」の書簡が届く。	降誕会会計報告
			収入金69円55銭。支出金64円41銭6厘。残高5円13銭4厘。残金は、寺田福寿に預けたと記されて	⑥523-532
			いる。寄付者は、専門学校、哲学館、井上円了、奥田貫昭、慶応義塾、法学院、徳風会、南條文雄、	
			島地黙雷、村上専精、寺田福寿、勝友会、哲学書院、都文館。哲学館では、学年別に寄付金を募っ	
			ている。明治26年の釈尊降誕会は、神田錦町の錦輝館で開催され、講義室借用料6円。「御国の光」	
			1,200部、10円80銭。菓子370個、20円85銭。錦輝館支払8円82銭。琵琶手謝礼3円で開催された。	
		30	4月分経費6円10銭。	
26	5	9	哲学館にて「理気説」を聴講。	
		12	哲学館にて井上円了氏の「妖怪説明時代」を聴講。	
		31	5月分経費6円20銭。斉入より書簡届く。	⑦537-545p

年	月	日	事　　項	参　　考
26	6	2	父より書簡と20円受取る。	⑦533-535p
		19	上田繁丸より書簡届く。	⑦547-550p
		21	法言より書簡届く。	⑦551-553p
		30	6月分経費10円62銭8厘。	
26	7	4	神田佐久間町３丁目３７番地の小栗栖香頂師に面談する。父より20円受取る。	
		6	謙信より書簡届く。菅実丸より書簡届く。	⑥555p⑧上71p
		7	哲学館高等科上級を修了する。大経「無量寿経」の訳読が終り、記念に、子安、白山、能海の	高等科上級修了
			3人で記念写真を撮り、3枚一組の写真に、それぞれが自著して一枚づつ分ける。	三伽会
			岐阜県安八郡澤渡村浄勝寺　斐川　子安善義	
			東京市芝区三田北寺町西蓮寺　沛南　白山謙致	
			島根県石見国那賀郡波佐村天頂山浄蓮寺　石峰　能海寛	
			明治念六年重七梵文大経讀了日寫之以為紀念井徴能海君別。	
		20	朝、駒込の峯岸を出て、森岡で写真を撮る。湯島に行き、松谷、菊池、大橋、村上、古河、西依	
			などに会い、松山来り、蔵行きなど語る。午後1時に品川の平松を訪問。4時に横浜を回遊し、	
			7時に鎌倉へ着く。	
		21	雲頂院へ行き、田中明林などに逢い講義を聞く。佛日庵に行き高見に会う。富士見亭、白鹿洞、	鎌倉
			などを回り、三人で会食す。別れて、建長寺、半僧坊、閻魔堂、女岩、大仏などを見る。	
			夜は、秦、三宅、松見、瀧口等と懇談。晩、秦君来語。	
		22	7時5分発、4時40分岡崎着。5時半大野着。夜、散歩す。	
		23	随行4時まて。別院等を見て帰る。夜、談話す。	
		24	6時半発、7時20分着。8時21分岡崎発にて9時20分名古屋着談話。11時着。大村など	
			2時、大野去り、3時小谷着。夜、散歩す。	
		25	四人で、6時発、熱田神社参拝、9時に東海運輸丸にて四日市に正午着。4時に二見着。	
			茶話会あり、予の西蔵行きにつき話す。古河、桜井、橘、原、山田、小山、加藤、10時退散。	
		26	朝、寺にて小山、加藤の講話。10時発、橘、原、予の3人で山田に行く。外宮、内宮に参る。	
			二人に別れて、車にて8時に二見に着く。	二見
		27	6時発、艀にて第三運輸に乗り込み4時に熱田着。車にて名古屋着。夜、小谷と公園散歩す。	
		28	昨日、船中より二見へ葉書を出す。桑門を訪問する。	
		29	出発せんとして延引滞在する。小谷君、二見へ立つ。夜宴席あり12時帰床す。	
		30	5時40分の汽車に乗り7時、大垣着。車で養老行き。11時発、四条、京極、三条、知恩院、	
			丸山公園、四条、新町を経て帰る。	
		31	7月分経費11円49銭5厘る	
26	8	7	浄蓮寺へ帰山する。※大内青巒氏よりの書簡中に仏教青年会からの礼状が同封される。	帰郷
		18	豆不喰へ法務。	
		27	波根向屋へ法務。横屋へ法務。	
		28	栃の木へ法務。中間へ法務。藤尾へ法務。	
		29	竹の原へ法務。	
		30	落しへ法務。	
		31	河上屋へ法務。庵の木へ法務。荷物送り賃3円。7月20日から8月7日まで路費10円74銭6厘。	
			『世界に於ける佛教徒』の諸言を著わす。当初は、『新仏教徒論』とするも他人の勧告で変更す。	
26	9	1	梅の木へ法務。＊哲学館・井上円了より「妖怪学講義録」の案内と特別券が同封され届く。	⑧上85-86p
		5	尻の切へ法務。＊書林より書簡届く。『世界に於ける佛教徒』印刷完了通知。	⑧上151-153p
		10	才の原へ法務。	
		11	五反田へ法務。	
		12	古屋へ法務。突出へ法務。	
		16	吉田屋へ法務。＊西依金次郎より書簡届く。	⑧上83-99p
		17	子安善義より、近況報告の書簡が届く。「学術雑誌出版条例」に依る出版願の書式を同封する。	⑧上101-112p
		20	室崎へ法務。	
		22	上田屋新井屋へ法務。	
			『世界に於ける佛教徒』の序文を大内青巒氏が寄稿。	
		24	子安善義より書簡届く。南條博士宅へ寄留を勧める内容。	⑧上113-123p
26	10	4	堂迫へ法務。	
		5	二堂坊へ法務。石ケ淵へ法務。＊菅実丸より書簡届く。	⑧上125-129p
		17	小漆へ法務。	
		22	西依金次郎より書簡届く。	⑧上137-143p
26	11	2	岡田へ法務。笹ケ谷へ法務。	
		3	藤尾へ法務。	
		4	屋敷へ法務。	
		5	新宅へ法務。水口へ法務。	
		6	大潰へ法務。	
		7	小漆へ葬儀。	

年	月	日	事　　項	参　　考
26	11	8	獅子伏へ法務。	
		11	西方四軒、法要17日まで。	
		17	小国四戸、法要22日迄。	
		18	『世界に於ける佛教徒』(定価15銭)を哲学書院より発行する。	①101-207p
		21	内務省より、自著の『世界に於ける仏教徒』の「版権登録之証」を取得する。	
		23	梅の木へ法務。	
		24	室田屋へ法務。	
		25	上畑へ法務。	
		26	隠居へ法務。	
		28	助三屋敷へ法務。	
		29	西方13戸、12月3日迄法務。	
26	12	5	奥中谷へ法務。＊皆乗より書簡届く。	⑧上155-159p
		6	雄鹿原村、13戸、11日迄法務。	
		11	仲田屋へ法要。	
		12	寺田へ法要。惣丸へ法要。	
		21	※仏教青年会の席上で古河勇氏が、能海寛著『世界に於ける佛教徒』の出版披露を行う。	
		23	栗木田へ法要。	
		25	鉄屋へ法要。	
		26	下小法師へ法要。	
		27	金30円本山へ送金。15銭為替料。8銭書留料。	
		28	金30円本山へ送金。15銭為替料。8銭書留料。	
		30	斉入より書簡届く。	⑧上161-167p
27	1	1	4時晨起。6時10分勤行終り。7時晨食終り、漸々年始礼者有り。予其引受をなす。2時頃に至り、	
			来客薄らぐ。数うれば300人なり。大内青巒、南條文雄の二師に書面を出す。此夜火廻はし、	
			火消しなど遊戯をなす。	
		2	桑門、白山、平松、井円、小安、麦生、森岡、松田、□□に葉書を出し、古河(同窓を込め)書面を	
			出す。最勝寺より葉書を受く。明治17年の正月を重ねて以来、今春始めて逢う。今年の1月何と	
			か言う飯田筆太当寺檀家に来りたるも専光寺より元を言いて帰るを進む。専光寺に掛合うべし。	
			銀色界中金色人。	
		3	チベット探検に赴くために自らの考えを「口代」(遺書)に14項目を書き置く。	①「口代」遺書
			心だに　共に信の　もらせれば　いづくのはても　日々月見ん	
			年始筆末の開封す。100円50銭斗り也。昨年の秋布施高報恩講も30円也。昨年、当山報恩講、	
			米4石金10円也。□山、及び明清寺より葉書受く。	
		4	東温譲君の追葬勤行をなす。晩、西谷・榎木田で小寄り。	
		5	当山世代法名忌日表を作る。休石、石田屋へ年始行。長井、藤堂、麦生、森岡より葉書着。	
		6	日中、竹野屋惣吉報恩講行。好天気也。	
		7	昨夜より雪降る。終日続く。悪天気。晩、下の橋へ報恩講行。	
		8	終日、天気悪し。菅君より葉書着す。「遊学資料萬覚」に明治18年より26年12月までを精算記す。	⑫98p
		9	同じく雪降る。	
		10	昼、岩田屋へ報恩講法座。晩、浄円と共に石ケ渕報恩講。今日は好天気也。晩少く口たり。	
		11	同、同家法事、三部経。晩、下ケ原へ法座。	
			子安善義より書簡届く。西蔵行大成を望めば急行は顛躓の恐れありと知りたまえと伝える。	⑧上171-178p
		12	朝、隠居へ御座。日中、出ケ原へ御座共に拙著を話す。晩帰る。	
		13	菅舎為替の為行。永昌寺へ寄り、夕方まで談す。＊立花憲信より書簡届く。蔵研究で面談を希望。	⑧上178-181p
		14	永昌寺古録を写す。	
		15	浄蓮寺境内図を製す。	
		16	午後、漆谷仙次より小寄り。晩、岡田屋敷、四十九日法事行。	
		17	西村□香寺行5時着。	
		18	同寺滞在。石州法中協議。去る15日(実は13日)前大谷門跡御遷紀、一組より□□寺、2組より	
			正万寺上京に決す。	
		19	滞在会者14、5名中、多くは出立。専竜寺、□明寺、明清寺、浄慶寺等残り大談話。	
			西依り金次郎より書簡届く。	⑧上185-191p
		20	早朝発足12時、門田着。権房と話し、雪降る。笠松をば□治と共に越し、4時帰着。	
		21	厳如上人荘厳むき。其他□に付き多忙。西依からと立花から2通書面着。	
		22	□□を造る。20日頃、雪3寸降りしと。	
		23	本山へ香典20銭。晩、隅廣屋法事行。立花、花田、哲学書院へ3本葉書を送る、4銭。	
		24	この夕より法然上人御祥月。雨降る。	
		25	雨降る。膳、碗を構求せらる。	
		26	厳如上人御葬儀会執行。この日より雨降り出し。引地へ報恩講。	
		27	本山へ為替を出す。又横屋払に付意見を述ぶ。晩、西蔵行を兄、父に談せり。	
27	2	9	向原部屋へ報恩講。	

年	月	日	事　　項	参　　考
27	2	10	枯木谷へ報恩講。＊子安善義より書簡届く。探検の大目的にも大準備を要し1年、2年の延日	⑧上209-217p
			は、貴兄が終生の大事業に活かされる。「南條家にありて勉学を・・・」と進言する。	
		11	佐古下手へ報恩講。下長沢へ報恩講。	
		12	森田屋へ報恩講。下六路。中間へ報恩講。	
		13	田中屋へ報恩講。	
		14	桑田へ法務。	
		15	飯田信太へ法務。佐古へ法務。	
		16	栗木田へ法務。	
		17	漢詩（四行）を記す。天地引用離合理、人生男女相合気、離能得解造物妙、明哲為情闇亦宣宣。	⑭189p
		19	上屋敷へ法務。松原屋へ法務。	
		20	勘口へ法務。惣丸へ法務。前迫へ法務。	
		21	屋敷へ法務。山本へ法務。	
		22	岡崎屋へ法務。	
		23	橋ケ原へ法務。	
		25	中河原へ法務。	
		27	剪髪を一掴み和紙に包み「口代」に添え置き、万一帰国出来ない場合は遺髪として葬送されたいと	「口代」①212p
			書き留める。	
27	3	1	中田屋へ法務。	
		4	屋五郎へ法務。＊斉入・皆乗より書簡届く。	⑧上213-233p
		5	於手茂へ法務。	
		6	和田へ法務。佐古へ法務。新宅へ法務。	
		7	15年2月新調の『自教要授』を再増補する。小野原へ法務。半場へ法務。	15年2月新調
		8	岡田屋敷へ法務。	
		10	小角村室屋部屋へ法務。	
		11	小角村室屋部屋へ法務。西河内清治へ法務。	
		12	唐谷へ法務。	
		13	中間へ法務。	
		14	桑門へ郵便2銭。	
		15	上惣丸へ法務。掘田へ法務。	
		22	朱肉代1銭。	
		23	渡上りへ法務。	
		25	室屋谷へ法務。大原へ法務。＊西依金次郎より書簡届く。	⑧上235p
		26	河原へ法務。	
		29	徳田、迫へ法務。昼沢へ法務。	
		30	上手へ法務。	
27	4	2	木村へ法務。	
		5	三右衛門へ法務。	
		8	城ケ谷へ法務。	
		9	室田屋へ法務。＊三隅・岩本普満より、住職に任じて、後代理を命じ自由に遊応を企てるよう進言。	⑧上247-250p
		11	水口へ法務。飯田ケ原へ法務。	
		12	室田屋へ法務。	
		13	正古庵へ法務。	
		15	一寸原へ法務。西半場へ法務。	
		23	晩、法要	
		24	法要。「三鳥」九郎スル墨スラルル硯濃ヒモ薄ヒモ主次第	
27	7		西蔵探検の支援を受ける為に京都へ上京。京都東仲筋花屋町下ル片山方へ寄留する。	
			※本願寺役員の桑門至道氏を介して、本山に西蔵派遣僧としての上申を働きかける。	
		8	石田喜三郎より書簡届く。	⑧上257-261p
		15	哲学書院より、『世界に於ける佛教徒』の全国販売結果と出版費精算書が届く。不足額8円57銭。	⑧上263p
		25	日清戦争勃発により寛の西蔵探検行が頓挫する。	
		31	石田喜三郎より書簡届く。住職となるための住職試験に対する入費について知らす。	⑧上277-281p
27	8	2	日野義渕より書簡届く。	⑧上285-291p
27	9		一旦、帰国して再起を期すこととする。	
27	11	27	「暴風雨大逮夜」3首詠む。	
28	1	2	中間へ法務。	
		4	室田屋へ法務。助三へ法務。	
		6	角屋へ法務。	
		12	室田屋へ法務。	
		16	「讃聖天仁子征清之御意」を記す。	
		18	新屋へ法務。	
		24	尻の切へ法務。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	1	25	波佐倶楽部「新年初見会」案内廻章を発送する。周旋人能海寛。	
		28	松やへ法務。	
		29	岡田へ法務。	
		30	波佐倶楽部新年初見会開催。倶楽部会費65銭。	波佐倶楽部
28	2	1	新宅へ法務。竹の原へ法務。	
		4	岡崎へ法務。	
		5	下山根へ法務。	
		6	新屋へ法務。	
		7	専光寺へ法務	
		9	河原へ法務。屋敷へ法務。	
		11	波佐倶楽部会則を作る。	倶楽部会則
		12	新田屋へ法務。	
		13	妙蓮寺へ法務	
		19	柿屋へ法務。	
		24	室屋谷へ法務。	
		25	田の原へ法務。	
		28	平岩へ法務。	
28	3	1	片ケ原へ法務る	
		2	黒瀬へ法務。	
		4	「大佐山雪桜の観」を3首、「波佐川大橋」、「柏原山の月」、「浄蓮寺の鐘」を詠む。	
		5	「永昌寺閑静雅」、「笠松の橇」を詠む。	
		6	「吊愛猫急死」、「波佐開教」を詠む。	
		7	「御城山」1首を詠むる	
		15	藤尾へ法務。	
		18	彼岸。晩、読経。青年10名ばかり。	
		19	法座。60名(内女25人)。	
		20	法座。晩。青年45名(内女10人)。	
		22	日中、晩、お勤め。	
		23	昼、晩、お勤め。	
		24	日中、晩、お勤め。	
		25	日中、お勤め。	
		26	岡崎へ法務。栗木田へ法務。	
		27	西念寺へ法務。	
		28	西念寺へ法務。	
			※「墨染集」明治28年3月以後の綴。倹約貯蓄法規約。「予が四月六日」。説教の趣向。布教概理。	⑭439-690p
			西蔵派遣申請下書。説教の理論。西蔵国歴史年表。旧佛教破壊的文字。古今日本仏教の三大変遷。	
			当山縁起。焼野貫八氏略伝。学資金募集ニ付訂約書。履歴書。愛国護法論。地文学海水論。嗚呼。	
			化学後編。天頂山浄蓮寺史。波佐史料。石見案内。活用言尾辞片要覧。助働言。尺八音符。歌詠集。	
28	4	1	専教寺へ法務。	
		5	金120円。内2円横田へ。内2円石田へ預け登記費として。内114円京送り。68銭為替・書留料。	
			〆118円68銭。残1円32銭預かり。	
		6	「波佐開教」を詠む。	⑭374p
		16	金50円也。為替にて京送り。外32銭為替・書留料。以上残99銭預かり。	
		7	光雲寺へ法務　※ 住職は、佐々木智證。母ユクノの里。	
		8	光雲寺へ法務	
		9	光雲寺へ法務	
		10	安養寺へ法務	
		11	安養寺へ法務	
		12	安養寺へ法務	
		13	安養寺へ法務	
		14	安養寺へ法務	
		17	「都茂山科安養寺」を詠む。	
		18	「開祖洞円三百回忌」を詠む。	
		20	妙蓮寺へ法務　※　弟斉入が水野家へ婿養子で入院。	
		21	妙蓮寺へ法務	
		22	妙蓮寺へ法務	
		23	山廻家へ法務	
		27	波佐村長佐々岡延蔵あて、浄蓮寺門徒惣代の「証明願」を出す。	⑭502p
28	6	1	宇谷へ法要。「世宝入出守門記」を書く。	
		3	松江市滞在中の検診より書簡届く。	⑧上311-315p
		14	岡田屋敷へ法要。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	6	17	岡原村大原へ葬儀同行。	
		23	「偶意」を記す。	
		30	光楽寺へ法務同行。	
			オルコット云、普通の基礎とは、4つの観念を量す。	
28	7	2	岡原村下組追弔会。	
		3	専光寺同行。	
		9	田中屋へ法要。	
		10	下中祖へ法務る	
		11	唐谷へ法要。蔵前へ法要。	
		12	出店へ法要。	
		13	波佐天頂山(浄蓮寺)を発足。三隅正楽寺安居法会演説に行く。	
		14	日中まで正楽寺に滞在する。	
		15	古湊に出て、角の部屋にて高島への渡船を問い合わす。	
		18	正楽寺。	
		19	高島へ渡る為に古湊を訪問するも明日に船便があると聞き、正東寺岩本氏と同道し、	石見潟高嶋記
		20	荷物(書籍、カヤ、毛トンボ)及び弁当、口菜を下女に持たせ、午后6時発、古湊に一宿。酒2升	①225p
			みやげに持行。	
		21	朝7時、出舟10時過高嶋へ着。表屋島内多十郎に宅す。2階造りにて、上間6畳、下の間同上、	
			ウシロ4畳半、2間に庭あり。高き地にありて眼下に海及び沖本地を見下す。家内11人一老夫婦	
			80より90才也。菜か飯は弁当。さかな結構さしみ。後島人へ酒2升、子供に菓子を5個を与う。	
		22	午後、子供を集め体操を教える、叉島内を散歩す。戸数7軒。皆一か所。表屋の外は皆小屋也。	
			一昨年、大火のとき表屋の外、皆火事の為に消失。其年小舎掛の処叉々有名の大風皆倒し官	
			より本地移住を勧められ後、叉帰りて、この島を開く故に大に困難。特に、一昨年、及び昨年は	
			大干ばつ。畑物熟せず風の為に大老古樹但し、幼も皆枯死するに至る。島内ハマヤバの木、亀	
			ヒバシ、ウスビター、タチコード、コーゾ、桑、シヤカキ等あり、養蚕もなせり。2、3枚しはきたつる	
			に足るの教ありと。畑畠多くして大豆、サツマ芋、タバコ、キュウリ、ムギ、キビ、アワ、殆ど何にて	
			もよく出来。島の海辺は悉く皆、大岩、巨石、湾口、更になり。僅かに舟をつけに人を上げ其舟は	
			多の所10町も脇へ回し、不便の石岩の間に上げ置く。島地に4艘。□□□□□薪(タキギ)あり、	
			叉水も2ケ所あり。1ケ所は常に出る。充分。上は赤土多し深し、叉宮に参詣す。一間四角位い	
			也。今日は海水浴せず。昨日、一回入海せり。晩、説教を行う。	
		23	昨日は降霧両陸地点見えず、本日は、晴天にはあらざるも天気にて沖地も見へ今日は沖を蒸気	「高嶋詩歌記」
			船通り、叉「高嶋詩歌記」を出され之を写し、叉夜に入りては古事談を老翁より聞れり。云う当島の	
			神は明神にて元出羽村の神体三体□せ求むるにこの島にあり、其叉失す。やはりここにあり由て、	
			二体をを本島に□来し、一体を出羽に祭る。(子供其三体を見出したり云う)殆んど千年も前のこと	
			也と云う。叉寝物語に云う。三隅入道様の女を益田越中守様より所望になり之を嫌い三隅様落城。	
			この高島にに7人の家内にて逃げ隠れたまう。越中様この島に訪ね、的とか云う地にて見出し、	
			遂に血戦。7人共打ち死せり。今頃畑を開くとて打死に指の骨など出でり。是にて入り四角□にあら	
			らず。□□木都□□□禅寺の和尚外2人来島して其先祖を調べに来てこの話を聞きて満足して	
			帰り近年事なりと。高島へ10時過ぎ到着。島人へ酒2升と子供達へ菓子5個ずつ土産とする。	
			入浴せり。鮮魚結構也。毎度、子供体操及び晩、説教せり。	
		24	午後、子供を集めて体操を教え、晩、島民へ説教する。	
			高島伝を書き写す。七名所、七奇、高島の七驚、雑驚七奇を記す。高島表屋島内多十郎氏方所蔵	
			の巻軸にして重矩氏直筆の能書を書き写す。	
			朝、蒸気船就航せり。漁火は非常のものを数万軒の町屋数10町の河辺に相灯せん。	
			＊「高嶋之漁火及同島にて」の歌7首を詠む。	⑭175p
			石見潟　千浦に出る　漁火を　みはたしつくす　高島の人	
			石見潟　名も高島の　島人は　地方ながめて　日を送る	
			うらうらに　夜な夜な出る　漁火を　見て夜をふかす　島人や	
			石見潟　あちらこちらを　見わたせば　どこへ行くやら　帆かけ舟	
			石見潟　名も高島の　島かげに　磯うつ浪に　心くだきて	
			日の本の　すべはなくとも　君か民　安く月日を　送る島人	
			ありがたや　月はいづくも　照らすなり　高島人も　同じ詠めを	
		25	午前、愚考せり。午后、休み。且つ、島の話を聞く。島内7戸46人なり。表屋11人。中屋6人。	
			岩治方七人。コマヤ4人。隣7人。与市方4人。昨日より語々と国郡名、年号いろ少数字など教す。	
			本日は近日になき晴天弥畝山、大佐山、柏原山の頂少し、漁山など見ることを得たり。夜、説教す。	
		26	午前、教も月9日など教ゆ。一昨日、出舟大浜より帰着。本日、日中法会を開く。千畳敷の断崖絶壁、	
			仏ケ石など見物。永井、姫おとし、叉内宿見物し帰る。韋糧希夫人を語す。了解文を書与こと。	
		27	今日は、昨夜より非常に強風雨。渡島以来最も悪しき日にして少しも晴天ならず。子供には教えず。	
			晩、説教す。建夜を勤む。嵐もこの内より早起きも浪あり。	
		28	精進を命じ、朝事を勤む。法話す。海ゾウメンを多く食す。御和讃等多く書き与へ海水浴を充分せり。	
			子供を岩にまで育す。晩など種々天文器械などの話をなす。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	7	29	朝、子供に教ゆ。風強し。天気の様なり。午后、入浴充分あびたり。午后3時頃より魚舟を浮かべて	
			島を一周す。奇岩、霊屈至る所皆尓々ざる話し漁人は魚を釣る。	
		30	朝、荷支度致し、子供には体操を暇乞いに教え大に上達のきびあり。9時頃、高島より乗船浪高く	
			して舟上げ場に漕ぎつけ夫より帆を巻き大浪を凌ぎて11時頃無難に古湊角の部屋へ着き、遂に止	
			められて宿説教す、布施33銭。入浴せり。	
		31	古湊角の部屋宿料50銭。	
28	8	6	木竜師受傳『新流聲明秘伝』正信偈、念仏、和讃、回向、五三など。	⑭302p
		8	正万寺で法話、布施2円50銭。	
		14	順念寺で法話、布施2円50銭。	
		21	専竜寺で法話、布施2円50銭。津田青年会で法話、布施20銭。	
		23	大濱で法話55名、布施54銭。	
		28	津田青年会で法話。	
28	9	4	向田へ報恩講。	
		5	向原、新井屋へ報恩講。赤紐代2銭。雑誌、郵便為替70銭。	
		6	美田屋へ報恩講。	
		7	正古庵、上畑へ報恩講。米代正楽寺払30銭。	
		8	岡崎、西田屋へ報恩講。	
		9	植へ報恩講。	
		10	亀田屋へ報恩講。	
		11	城ケ迫へ報恩講。	
		12	河上屋へ報恩講。	
		13	鍛冶屋へ報恩講。当寺境内銅口代の内1円20銭。	
		14	皆乗へ30銭。寺へ10銭。切手16銭。	
		16	木村屋へ報恩講。	
		17	夜無へ報恩講。	
		18	花岡へ報恩講。	
		19	三田屋へ報恩講。	
		20	下新井屋へ報恩講。	
		29	足袋10銭7厘。金具3銭。専光寺香料10銭。	
28	10	2	専光寺へ法務。石板絵4枚8銭。	
		4	光楽寺へ法務。樫2銭。	
		6	順覚寺へ法務、香料5銭。広島県山県郡山廻村大字高野へ報恩講で巡回。当村は秋祭り。	**報恩講巡回日記**
		7	大谷郷に出て、早吉宅へ投宿。大谷戸数14、5戸。政府直轄の鉄穴を洗い、鈩吹きは月給で働く。	⑩203P
			5年ぶりに鉄穴を洗い、月に4、5回鈩吹きが行われる。鈩関係就業者は、24、5戸。鉄穴一洗いで	
			5年分十分。月に3，4回洗う。鉄穴人50人。下流川筋10里の間の各村へ米407石、3,000円の	
			資金(保障)也。	
		8	茶代1銭。	
		9	山県郡山廻村高野へ報恩講廻り。下駄尾4銭3厘。柿1銭。	
		10	大谷郷の早吉方へ報恩講で投宿。	
		20	平吉へ法要。虎次へ法要。高野村大谷へ法要。専光寺へ1円。	
		22	高野、大谷へ報恩講。	
		23	上市へ法要。半場へ法要。妙蓮寺へ布施10銭。	
		24	広島県の大隅慶助宅へ報恩講で巡回。大谷村の祭り。上市で法要。	
		25	上手近蔵へ法要。	
		26	下の橋へ法要。	
		29	平の原へ法要。	
		30	松原で法要。	
		31	倫敦駐在、清国公使の手を経て第一回の償金額に8,225,245傍（4分の3）が受領された。	⑩239P
			2億両の4分の1（5,000万両）通貨7,689万円。2回目は、29年5月7日に保償金。	
			浄蓮寺の七堂伽藍	
28	11	1	「思波佐」の歌を詠む。8首。	
		4	羽書1銭。	
		5	日中より小国集落の報恩講廻り。10日迄。	
		11	枯木谷へ法要。	
		12	二堂坊へ法要。亀田屋へ法要。	
		13	下新井屋へ法要。橋本屋へ法要。	
		14	印紙4銭。柿40銭。	
		15	山田屋へ法要。鍛冶屋へ法要。	
		16	日中より柚根集落の報恩講廻り。21日迄。	
		22	木妻屋へ法要。	
		23	沖の原下手へ法要。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	11	24	犬戻へ法要。	
		26	室田屋へ法要。佐古へ法要。	
		30	皆乗(登)より柿と手紙が届く。	
28	12	1	慰労会20銭。	
		2	半場へ法要。羽書10銭。	
		3	金穴堀へ法要。専光寺へ20銭。	
		4	堂迫へ法要。田村へ法要。	
		5	橋ケ原へ法要。鹿伏へ法要。上田屋仁井屋へ法要。	
		6	室田屋へ法要。小国田の原10戸、法要巡回。11日迄	
		8	羽書2銭。	
		11	藤ケ原へ法要。迫田へ法要。	
		12	する口へ法要。大樋ノ口へ法要。間所へ法要。	
		13	筏津へ法要。岡崎屋へ法要。芹原へ法要る	
		14	向田へ法要。柳屋へ法要。	
		15	前迫へ法要。竹屋へ法要。	
		16	竹屋へ法要。石橋部屋へ法要。松原屋へ法要。岡田屋へ法要。	
		17	藤岡へ法要。半場へ法要。室屋谷へ法要。	
		18	中江へ法要。亀谷隠居へ法要。下中祖へ法要。丸迫へ法要。	
		19	渡り上りへ法要。	
		20	岡田屋敷へ法要。中谷屋へ法要。	
		21	惣丸へ法要。小国13戸、26日迄法要巡回。	
		26	室田屋へ法要。千谷母屋へ法要。	
		28	帽子82銭。洋傘65銭。足袋9銭る下駄19銭。	
		29	千谷隠居へ法要。坂本屋へ法要。	
29	1	1	「世宝入出守門記」を調整する。	
		4	竹ノ屋へ報恩講。＊南條博士より西蔵行予備に、上京し子安と梵語辞編さんを勧める書簡届く。	⑧上331-334p
		7	上小坊子へ報恩講。	
		8	有田屋へ報恩講。	
		9	仲田屋へ報恩講。	
		10	木村屋へ報恩講。	
		11	沖ノ原表屋、新ン屋へ報恩講。	
		12	黒瀬へ報恩講。	
		13	河原へ報恩講。	
		15	正古庵、宇野屋へ報恩講。	
		16	鍛冶屋、尾山勇次へ報恩講。	
		17	岡田、藤尾へ報恩講。	
		18	森へ報恩講。	
		19	黒瀬鈩5戸へ報恩講。	
		21	鹿伏へ報恩講。	
		23	権社へ報恩講。	
29	2	19	波佐倶楽部設立案内廻章発送。	
		23	波佐倶楽部設立・新年宴会開催。会費40銭。	
		28	午後9時半、浄蓮寺を出発、雄鹿原・麦生家で一泊する。この夜、麦生で新年宴会、3時臥寝。	東上日記
			麦生の都合により出発を延引する。	
		29	西須磨、鶴谷方古河勇、清見喜市、本日荷物を持って加計へ出発。50銭清見に渡す。夜1時臥床。	
29	3	1	朝8時出発。松原を経て加計町へ午後4時に到着。6里程歩行。加計で一泊。人足共に宿代35銭。	
			荷物舟賃17銭6厘。舟賃20銭。松原及び渡し3銭5厘。	
		2	加計宿代15銭。舟22銭5厘。下駄32銭る	
		3	橋原泊20銭。車代12銭。汽車2円17銭。中飯29銭。車代8銭。	
		4	斉の印鑑75銭。	
		5	髪及湯7銭2厘。モモヒキ40銭。	
		6	京宿70銭。大垣、車代14銭。カブ千枚漬2個30銭。汽車3円29銭。	
		7	大垣の子安善義宅を訪問する。大垣宿代20銭。	
		8	飯、新聞、車42銭。	
		10	三冨街宿代80銭。シャツ50銭。湯1銭5厘。ふとん、枕3円15銭。インキ・ペン5銭。状袋2銭。羽書	
			10銭。引越車代5銭。	
		22	三伽会(白山謙致、子安善義、能海寛)三河屋に行く、会費35銭。 ※南條の下で梵文翻訳メンバー。	三伽会
		23	白上等ケット3円。原稿紙3,000枚35銭。	
		25	湯1銭5厘。	
		27	尺八の師範を取得する、20銭。「内外国勢の一班」7銭。「朝鮮地図」3銭。「明蔵目録」15銭。豆3銭。	尺八師範
			遠征図画14銭。台湾地図20銭。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	3	29	日記帳(虎枕)6銭5厘。ペンシル一本3銭。郵便8銭。※ 前夜、虎の夢を見たことで「虎枕日記」とする。	
		30	掛紙100枚10銭。	
		31	今月の聡計23円70銭8厘。	
29	4	3	パノラマ二人20銭る玉乗り見物2人3銭。そば代2銭6厘。	
		4	風呂代1銭5厘。	
		6	「予の四月六日」という寄稿文に、この日の一日の出来事を詳細に記している。	
		8	三士会(大場、子安、能海)に行く、25銭。剪髪5銭。インキ赤黒2瓶6銭。	
		9	ランプのホヤ5銭5厘。	
		10	「予の四月六日」という寄稿文を反省会雑誌に投稿した。切手2銭。	
			「阿弥陀如来根本施羅尼」サンスクリット語(デーバナーガリー文字)で表し和訳を記述する。	⑥19p
		11	汽車賃新宿迄3銭。品川まで中等9銭。神奈川濱万往復4銭。車代三会寺より神奈川18銭。	
		12	日曜日。会費15銭。仏教雑誌54銭。風呂代1銭5厘。	
		13	郵便切手2銭。羽書3銭。	
		15	エンドウ豆3銭。「Buddhist Tect Vol.11. Part 1.1894」タルチョーの詳細解説を書く。	⑥41p
		16	昨日の続きを書く。	
		17	風呂1銭5厘。16日の続きを書く。	
		18	手帳10銭。小筆代3銭。	
		19	岡本、佐々岡へ郵便2銭。	
		20	足袋2足洗濯4銭。	
		22	図書館、中飯4銭。	
		24	羽書6銭。	
		25	太陽13銭。	
		26	切手代3銭。	
		27	日本新聞、本など送付切手代3銭。風呂1銭5厘。ペン2本2銭。	
		28	本月分食費3円。吸い取り紙1銭3厘。	
		29	時事新報2銭5厘。東信第四号2銭。	
		30	国民新聞2銭。今月総計5円72銭4厘。	
		※	「西蔵文典　全」を写す。4月以降より✻「西蔵学雑録」を書き始める。	⑥93p
29	5	1	各国東洋船隊、露国太平洋艦隊の統計を調べる。東信第6、7号(国元へ)切手代5銭。	
		2	毎日新聞2銭。	
		3	仏教青年会費10銭を納める。朝日新聞1銭5厘。掛用箋3束9銭。	
		5	切手、羽書5厘。女礼式1冊13銭。遊就館3銭。	
		6	郵便6銭。風呂1銭5厘。	
		7	本山執事渥美契縁宛、チベット派遣僧の嘆願書を書き、「入蔵予定」、「履歴書」を添付し上申する。	
			【入蔵予定】	入蔵予定
			第1　方法　先ず清国に渡り凡1ケ年滞在し西蔵に関する参考書を求め、又入蔵の手順を正し、同伴	
			者を求め喇嘛僧と成り、商隊に混して、進蔵す準備致す目算に御座候。	
			第2　順路　先ず清国北京に着し、凡1ケ年の後、四川省に入り、夫より打箭炉、察木多等を通過して	
			前蔵、後蔵の首府に到着する予定の段に御座候。	
			第3　年限　凡そ往復及び滞蔵合計5年の予定に御座候。	
			第4　目的　地理、国体、仏教、言語、経典、仏具等の研究を主眼に致し居り候。	
			第5　入費　清渡100円、在清150円、参考書100円、入蔵100円、帰途150円、合計600円。	
		8	貝殻三個8厘。	
		10	風呂1銭5厘。剪髪6銭。夏物シャツ30銭。三番街砂場7銭5厘。	
		12	ペン先三個3銭。	
		14	反省会費1円。郵便5銭。✻『蔵英字書』1882年版で学ぶ。	⑥28p
		15	パン菓子10銭。『蔵英字書』続きを抄出する。	
		16	風呂1銭5厘。	
			佃島渡船8厘。麻裏8銭。✻『チベットの仏教』シュラーギントワイト著を書写する。	⑥51p
		19	羽書5銭。掛用紙11銭。『蔵英字書』続きを抄出する。	
		22	永昌寺へ郵便2銭。	
		23	大学講義室で「倫理学」中島力造講義を聴講。下駄直し4銭。インキ神田で3銭。	
		26	食費3円。ペン三個3銭。茶碇1銭。	
		27	洗濯毛ット5銭。シャツ、ズボン洗濯5銭。	
		28	箸箱3銭5厘。	
		29	郵便2銭。	
		31	菓子傳中と自分15銭。今月計5円85銭1厘。	
		※	『蔵英辞典』チョーマ・ド・ケレス著(中扉)を抄出する。「チベット語文法」も抄出する。	⑥58p.59p
		※	「西蔵語会話編」を書き写す。	⑥93p
29	6	1	羽書代5銭。	
		2	掛紙代2銭5厘。二七不動縁日3銭9厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	6	3	隅田川渡し3厘。夏帽子代45銭。風呂1銭5厘。	
		6	パン菓子代8銭。	
		7	経緯会の例会、会費20銭を納める。	経緯会
		8	和歌三首（社会黨・処世・遁世）を詠む。麦生へ郵便2銭。ペン3、インキ3など10銭。	
		9	各宗派寺院数の統計を書く。20,675寺。	
		10	郵便5銭。讀賣新聞1銭5厘。湯及び石鹸1銭8厘。	
		11	掛紙及び状袋4銭るめ新聞借払2銭。郵便4銭。	
		12	えんどう豆2銭。羽書2銭。	
		13	金沢詠集2銭。青柳綾口4銭。	
		14	和漢孔方図会15銭。銭二文5銭。	
		15	単衣73銭。羽書2銭。床屋行6銭。日本新聞1銭。打輪2銭5厘。	
		17	車九段より下六迄4銭。ペン先三本3銭。	
		18	「根本的破壊文字」を書く。切手2銭。讀賣新聞1銭5厘。風呂1銭5厘。	
		19	「當山縁起」を書く。読売新聞1銭5厘。	
		20	読売新聞1銭5厘。黒白紙3銭。	
		21	読売新聞1銭5厘。芝にてソバ5銭5厘。手拭4銭。種物4銭。切手1銭。芝かき氷5銭2厘。	
		23	羽書3銭。風呂1銭5厘。	
		24	日本新聞3銭。羽書3銭。	
		25	麦生へ郵便2銭。	
		26	風呂1銭5厘。食料3円。	
		27	掛紙2銭5厘る	
		28	菓子6銭・。郵便(岡本・麦生)4銭。氷3銭。氷砂糖(子安)25銭。	
		29	洋心代1銭。	
		30	今月の総計6円31銭2厘。	
29	7	1	「波佐倶楽部誌」第壱号発行(会則、倹約貯蓄規約、本会記事など掲載)。	
		3	東信第九、切手2銭。	
		6	日本新聞、郵便3銭。	
		7	郵便(原稿送り)2銭。	
		8	風呂1銭5厘。つり手1本1銭3厘。細引綱1本11銭。	
		9	シャツ(半袖)33銭。猿叉13銭。	
		11	経緯会費5銭を納める。田上へ香典30銭。机掛55銭。茶碗五個13銭。キビス一個10銭。	経緯会
			名家書画帖12銭。水画譜12銭。山水画10銭。小供あそび画12銭5厘。女礼式5銭5厘。	
			風俗画報8銭。木筆1本2銭。食塩2銭。名刺100枚31銭。寿司2銭5厘。ペン先2本2銭。	
		12	郵便切手5銭。「通戒偈梵文分解」(『仏教』第23号に掲載された南條文雄の論文)を抄出する。	
		13	麦生、冨田60銭。	
		16	氷砂糖16銭。砂糖5銭。	
		17	羽書6銭。角砂糖19銭。	
		18	剪髪6銭。	
		19	亜細亜言語集5銭。	
		22	ペン先二本ほか3銭。	
		23	日本形口の総覧3銭5厘。	
		24	手拭4銭5厘。羽書3銭。	
		25	川開き小遣6銭。	
		26	中央新聞及び切手2銭。	
		30	郵便切手1銭。	
		31	湯方洗濯4銭。ペン先3本2銭。掛紙一条2銭3厘。船名録2銭。食料3円。取替5銭。付落10銭5厘。	
			今月総計7円67銭1厘。	
		※	「西蔵史」、「神秀偈」、「慧能偈」の英訳を表す。	
		※	7月中に、「蔵行紀程　全」、「進蔵紀程　全」を書き写す。「入蔵者及年代経過地表」を調製する。	
			「西蔵学図書目録」を調製する。	
29	8	1	浴衣地三反73銭。印紙15銭。	
		2	仕立賃10銭。同肩上げ6銭。	
		5	御戸物9銭。	
		6	ランプのホヤ4銭。	
		7	羽書2銭。さら物4銭。	
		8	ホヤかさ一個10銭。	
		9	印形支印30銭。ホヤ4銭。	
		10	反省会雑誌桜井義肇より、25日発行の誌上に蔵文に関する一文を依頼の書簡届く。	⑧上439-442p
		12	日本新聞で「芸石鉄道」全長80哩の敷設の計画を知る。	
		13	紙・状袋5銭。剪髪5銭。葡萄3銭。ペン先2本2銭。インキ3銭。赤掛紙帳7銭。	
		16	濱田図幅25銭。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	8	17	日本新聞2銭。	
		18	強風の中、1里ばかり先で、数100戸が消失する大火災。＊斉入より親父の年賀の相談の書簡届く。	⑧上447-455p
		19	東信第11号を浄蓮寺宛に送る。	
		22	下駄36銭。風呂敷8銭5厘。砂糖15銭。人力5銭。菓子7銭。風呂1銭5厘。半紙掛紙17銭9厘。	
		24	切手2銭。	
		25	日進医報6銭。切手2銭。	
		30	切手2銭。食費3円。＊法言より父謙信の60の祝の件での書簡届く。	⑧上457-467p
		31	日本及び号外3銭。今月総計6円32銭9厘。	
29	9	1	羽書3銭。脚治湯15銭。	
		3	土瓶一個4銭5厘。	
		5	ペン2本2銭。煎餅代4銭。＊安本玉泉へ書面で、南條宅を略地図で知らす。	⑨47-49p
		7	白足袋14銭3厘。脚気薬13包30銭。壁月衝突代20銭。	
		9	新聞2銭。	
		10	羽書5銭。中央金庫入れ62銭。	
		11	剪髪6銭。切手及び塵紙3銭5厘。	
		13	経緯会例会、会費10銭を納める。半紙一条2銭。ペン先3本3銭。脚気薬30銭。薬代2銭。そば代3銭。	経緯会
		15	6月中から麦生、子安、へ太陽送り代両替消48銭。	
		19	南條博士から書簡届く。	
		20	もなか代5銭。	
		21	ビーン代2銭。半紙2銭。	
		23	日本新聞1銭。	
		25	懐中10銭。新小説11銭。ピー代2銭。	
		26	横井演舌5銭。	
		27	菓子5銭。	
		29	食料3円。	
		30	松田へ見舞15銭。車代5銭。今月総計6円30銭3厘。	
29	10	1	葉書代10銭。	
		2	新聞代10銭。	
		3	浜田迄荷送賃77銭。三河屋離別70銭。朱肉代20銭。筆代2本4銭。ハンカチ四枚18銭。	
			歯磨き粉6銭。時計3円28銭。セッタ86銭。茶10銭。足袋代15銭2厘。ペン先2銭。豆代3銭。	
			足袋2足29銭。菓子代6銭。	
		4	新橋迄車代13銭。汽車代20銭。横浜人力車5銭。敷島丸四日市迄1円25銭。中食宿へ25銭。	
			艀代10銭。本一冊2銭。	
		5	艀四日市7銭。菓子代3銭。荷持へ5銭る宿へ茶代20銭。	
		6	宿料30銭。汽車82銭。菓子1銭。中食15銭。餅10銭。□羽亭40銭。京宿へ20銭。	
		7	羽書8銭。電車2銭。菓子10銭。下駄20銭。	
		8	ロウソク1銭。宿料44銭。汽車47銭。神戸車代6銭。そば12銭。須磨車代4銭。	
		9	宿代15銭。車代4銭。汽車1円70銭。弁当20銭。広島車代12銭。宿へ10銭。車代4銭。菓子3銭。	
			御坊65銭。□□□□76銭。	
		10	宿代22銭。馬車18銭。加計菓子10銭。飯代5銭。鈴張茶代4銭。	
		11	宿代15銭。細見中飯5銭。	
		13	羽書代4銭。加計より荷送代17銭。	
		14	インキ5銭。	
		17	ようかん5銭。	
		20	帯一筋1円。	
		21	香料光楽寺へ10銭。	
		23	羽書8銭。	
		24	羽書10銭。	
		25	頼母子掛1円99銭5厘。	
		26	香料専光寺へ10銭。為替・半紙4銭。	
		27	浜田より荷運賃10銭。	
		29	香料最勝寺へ10銭。＊南條博士より書簡届く。	⑧上495-497p
		30	柿代7銭。＊南條博士より書簡届く。	⑧上499-501p
			※ 本山の改革派は、白川村を拠点に、教界時言社を設立し、「教界時言」創刊号を発刊する。	
		31	今月総計21円38銭7厘。	
29	11	2	香料浄本寺へ10銭。	
		6	郵便切手2銭。	
		12	斉入より書簡届く。	⑧上503-505p
		15	両組長両視察へ書面、返信料共16銭。	
		16	合袷着裏一反85銭。	
		23	羽織表裏仕立4円56銭5厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	11	24	浜田にて荷物賃6銭。＊子安善義より書簡届く。来月、上京の折りには、是非一泊をと記す。	⑧上507-514p
		25	中央金庫入れ90銭。舞□5銭。	
		28	餞別石橋へ5銭る	
		30	羽書10銭。往復羽書2銭。茶代15銭。今月総計6円97銭5厘。	
29	12	1	柿四連24銭。	
		2	郷里を出立。風雨・霰降る。岡原の田中屋、麦生、上田、妙蓮寺へ立寄り、松原の金崎で一泊。	
		3	2箇所で報恩講を済ませ、加計で一泊する。舟渡し8厘。清五郎へ2銭4厘。加計宿へ5銭。	
		4	加計辺り一面真っ白の降雪。舟中では降雪のため困難をきたす。可部あたりから天気。午後4時	
			半、広島橋平へ到着。6丁目の御坊行き、買物で汽車に乗遅れ、駅前の宿で一泊する。宿料2人	
			42銭。舟代30銭。下駄広島20銭。橋平夕食10銭。カバン第2円60銭。車代15銭。茶代10銭。	
		5	早朝一番の汽車6時20分に乗り、加古川て下り、麦生富郎君の所まで六里も歩くことは不便で	
			あり、神戸に至り、登、初、富郎君まで私の来るのを待っていた。4人で料理屋へ行き、夜2時ま	
			で話す。宿代25銭。汽車1円10銭。弁当10銭。加古川汽車26銭。神戸車15銭。汽車1銭。	
		6	3人で神戸市内を見学する。妹へ着物代として3円送ることを約束する。	
			離別67銭。ぜんざい餅代8銭。頼母子掛金残払50銭。	
		7	朝、8時神戸発、大阪にて上田の荷物を八尾中学校へ届ける。夜7時半、京都に着く。	
			水野に面会する。初へ1円90銭。大阪汽車20銭。八尾中飯10銭。汽車27銭。京都水野へ20銭。	
		8	朝、本山参詣。桑門氏訪問近状を聞く。午後、教界時言社へ里見君を訪問し意見を聞く。	
			車、上京より東福寺へ15銭。車7銭。土香炉45銭。仏器10銭。□□2銭。土香炉12銭。	
		9	朝、再び桑門氏を訪問。汽車3円29銭。ようかん20銭。線香6銭。宿料58銭。淀渕へ10銭。	
			菓子5銭。大阪車15銭。＊南條博士より書簡届く。	⑧上515p
		10	香料20銭。名古屋車8銭。車13銭。弁当10銭。	
		11	東京車代18銭。上田、麦生へ20銭ずつ40銭。剪髪6銭。郵便8銭。風呂1銭5厘。シャツ55銭。	
			兄法言へ書簡出す。状況時の模様を知らす。	⑨55-59p
		12	経緯会費20銭を納める。経緯会15銭。車代上野より九段8銭。ペン先2本、ペン軸3銭5厘。	経緯会
		13	羽書10銭。印紙20銭。手帳、懐中日記等3冊22銭1厘。筆3本6銭。墨池6銭。足袋20銭。	
			掛紙15銭。ズボン下50銭。菓子代5銭。萬朝報1銭。	
		14	そば、夜食7銭。青柳亭9銭。	
		15	井上円了氏へ火事見舞い1円。菓子、傳中へ5銭。	
		18	隅田川海軍演習、酉の市入費8銭。	
		19	風呂1銭5厘。	
		22	＊斉入より、「白川問題」を提起する書簡が届く。※ 寛は、中立を貫き、弟へは、回答を伝えなかった。	⑧525-526p
		23	歳末、松田へ20銭。	
		24	郵便先生へ2銭。	
		25	西依一六と銀座で会食等35銭。	
		26	もなか10銭。Savon24銭。	
		27	び一ふ会食17銭。紙2銭2厘。	
		29	※　本山執事、渥美契縁は、「白川問題」で、失脚する。	
		30	電報、為替、切手30銭。羽書代4銭。	
		31	食料3円。干枚通し、豆、湯、餅8銭。今月総計16円95銭5厘。	
30	1	1	6時起床。麦生より書留、哲学館、桜井義肇より羽書着く。岡本、善徳寺、正万寺、最勝寺、麦生、	使用日記
			深井、秋津、桑門、子安諸氏へ年始羽書出す。七里君、白山君来談。水筆1本3銭。羽書、切手20銭。	②5-203p
			日本新聞4銭。「明治30年使用日記」を南條博士より戴き、本年使用する。	
		2	5時起床。午前9時出宅、北条太洋を訪い本郷西依一六の京行きを見送る。本山政論を談し教界	
			時言社に伝言す。井上円了氏へ年始行。反省会へ年始行。白山謙致へ葉書出す。兄法言より書面。	
		3	5時半起床。安本君初めて来談。旭野君来談。今川君来談。水野より葉書着く。夜、万長亭に義太夫	
			外茶里太夫等の浄瑠璃を聞く南條氏に従う。	
		4	5時半起床。「枳橘易士集」付録第2巻書出始む4枚。蔵文典を自脩す3頁。麦生来訪、共に四谷郵	
			郵便局に行き為替受取り、大久保公園を散歩する。「太陽」1号13銭。	
		5	5時半起床。「枳橘易士集」3書枚。太田教尊君来り英文「南阿伝中鳳譚」のこと等の話を聞く。蔵文	
			典を自脩す、10頁。麻布及び羽書2銭。「仏教」63号、白山より戴く。	
		6	5時半起床、午前ラリタ講牛尾盤山(ゴーラングーラパリハルタナ)初回、白山謙致来る。桑門、池田	
			より2通葉書来る。枳附書出、3枚。	
		7	枳附書弟枚。ラリタ下調べ。「鳳譚逸事」英文写し反省社へ送る。入浴。岡本、麦生より葉書2枚着く。	
			中島来られ親鸞真伝のこと頼む。風呂1銭5厘。	
		8	枳附書出4枚。午後、製本屋へ使いに行き、その他用事の為丸で勉強出来ず、又夜分は眠くて	
			少しもせず。	
		9	午前、ラリタ講白山謙致来る。降雪1寸積る。白山君より宗教雑誌を送られ、これを読む。比較比較	
			宗教学会の記事あり。洋筆2本2銭。	
		10	蔵文典4、5頁読むのみ。外に一定の課業をなさず。先生名古屋行き出発。入湯。夜分、春谷へ宛	
			て春谷、兄上、父上へ3本の書状4匁出す。但し1封。兄上へ本山年中行事を郵送す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	1	11	枳書出(改二)12枚。桜井、中島来訪。皆乗より書面着、返信を認む。皇太后陛下御不例の号外	
			発行。午後5時50分崩御。法言、善徳寺より葉書着く。「英魯文反省雑誌」Vil.XII.No.1の寄贈を受く。	
		12	本日、午後3時頃崩御の号外出る。午前１１時中島氏へ行く。佐竹得成に面会し、御開山聖人伝	
			を聞くこと委し、蓋し、日本第一の明細博識強記の人なるべし。祖師の伝掌を見る如し。7時帰る。	
			上田来る。都新聞、皇太后不例の報を国へ送る。皆乗へ手紙2銭、善徳寺、麦生へ葉書出す。	
			都新聞1銭5厘。5厘切手1銭。	
		13	時事新報2銭5厘、皇太后御記事あり、国へ出す。枳附書(改三)書込み10枚。	
			昨日より「世界に於ける仏教徒」第二編著作の精神を発し大に計画す。桜井来訪。反省雑誌欧文	
			出来寄贈せらる。浄蓮寺寺史起稿の念を起こし大に計画す。	
		14	枳書出(改四)書込み6枚。「世界に於ける仏教徒」の稿を起こし第一章宗教革命の気運至れりを	
			草す。西依、京都より葉書送る。昨夜降雪、今朝6寸積る。浄蓮寺寺史第1檀より第7段まで編纂す。	
		15	枳書出(改五書込み)12枚。連雨、区役所に2度行く、道泥す。石田喜三郎氏、安藤鉄腸外2名、	
			右2通葉書着す。南條博士より「無尽燈」第3編15号を戴く。	
		16	曇、午後晴れ。電報打ちに行く。国へ葉書を出す、国旗のこと。寺史第八暖り12段まで稿を続く。	
			中島氏来訪。	
		17	寺史、新たに第3・4・5・6段を書く。8時発、小石川長町109久松閣に恒山君を訪い、白山前に酒生	
			訪問せんとす。境野訪問。傳中松田へ正月礼に行き餅を頂く。初音町に口道庵旧跡を訪う。	
			神社の遠望を試み築地1丁目2番に至り芝口平町3、麦生を訪い、午後8時帰る。	
			麦生より書面着く。昨夜大地震。菓子代20銭。	
		18	白山君、京行きの為東訪問。寺史続稿第15段まで書く。雨降り第13段より。掛紙一条2銭5厘。	
		19	午前、先生名古屋より帰宅。御話を承り、又電報来り京状大に明なり。中山理賢へ葉書を出す。	
			「枳橘易土集」26巻終る。印千本部終る。その間123日を費やす。但し、休日を除く。寺史続稿。	
			寒冷雪少々降る。	
		20	枳附書き出し5枚。寺史続稿。南條より色々改革談承る。岡田良平来り。井上円了氏より井上伯に	
			本山鎮圧を頼む件。	
		21	桑門氏へ書面出し2銭、厚演上辞職を申し送る。古田君来訪、大いに朝鮮開教篇等を論ずる。	
			寺史続稿。夜、上田来る。本山、上田へはがきを出す。ホヤ4銭。	
		22	キフ4枚。寺史序文書く。	
		23	キフ4枚。3巻始める。寺史附録編。本山より余を中学寮舎監に招聘するも不応。午後8時から	
			9時迄大井君。新井屋焼失、28日の朝知る。	
		24	午前寺史完結。〇午後、弥生館経緯会へ行く、会費5銭。〇北条太洋の処に寄り、本田、小林、	
			境地、予と5人で大会食。明清寺より書面着く。東光（朝鮮）よりはがき着く。「浄蓮寺寺史」を	
			完成する。	
		25	キフ3枚。客あり。書面を確認する。	
		26	キフ2枚。白山より、はがき着く。安藤鉄腸へはがき答飛檄。麦富へ書面。築地へ書面。剃髪。	
			白山へはがき出す。切手代4銭。剪髪第6銭。	
		27	ラリタ写。晩芝兼房町菊池へ行く。本日、正午出発京都へ行く。山口という人に面して帰る。	
		28	白山君よりはがき着く。兄よりきがき。２６日大井谷、新井屋火事通知あり。又、金受取る。キフ3半。	
			白山来訪。京都行きの話を承り大いに本山政策を談話する。食料3円。中央金庫入れ5円51銭9厘、	
			迫奥開拓費として。	
		29	朝、愛宕下町より書面着く。先生揮毫待てり。本山政論を談せり。キフ2半。「仏教講話集」(29年	
			夏期講習会掲載)を南條博士より戴く。	
		30	孝明天皇３０年祭阿弥陀経読誦。「梵文大経」再読始める。南條先生直講。安本、麦生来訪。	
			入浴中。高楠、奏来訪、先生と共に4人宝洋食亭に行き種々の談話を聞けり。キフ1枚半。	
			大井谷、新井屋（火事見舞出す）。「法之雨」109号を南條博士より戴く。	
		31	朝鮮京城本願寺別院東光憲雄へ羽書出す。大和国高市郡今井町御堂筋西、藤堂哲へはがき出す。	
			上田来訪金を渡す。斉藤繁人より書留着く。芝区愛宕町2丁目１３番、伝染病研究所へ書面出す。	
			午後４時。三省堂主人亀井氏来訪。	
			夜より降雨で寒し。切手3枚4銭。中央金庫入れ30銭。今月総計9円81銭9厘。「教界時言」第4号	
			を南條博士より戴く。	
30	2	1	雨天。水野より革新事情印刷通信3枚郵送される。麦生政一より羽書着く。	
			松の月　雁のたよりや　鶴のくび	
			キフ1枚半。昨年の今日頃は雪を冒しめ麦富を訪ね、東上の相談快悟中なりき。	
		2	午前10時発、泥土を冒しめ青山に至り12時。恐れ多くも皇太后殿下の御発柩を拝送し、	
			上る道中及び青山にて4回も涙す。白山謙致へ羽書を出す。北条太洋君、もなか5銭。羽書10銭。	
			「反省雑誌」12年1号、を購読する。	
		3	及び青山にて4回も涙す。〇白山へ羽書を出す。〇北条太洋君来訪。	
			来訪。反省雑誌着く。白山より羽書。水野より羽書。文まなぶ学者も、	
			今はぐちこぼす。羽書5銭。	
		4	芝区病院より羽書着く。反省会より羽書着く。村上氏、大学生4人、来訪。古田君来訪。	
			中河内、政一、水野、明清寺、反省会、以上5通の羽書を出す。大経梵講一時間、第2回。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			西依一六へはがき。「ツヲンクハパ」の傳訳を始める。筆、歯磨き楊枝4銭5厘。	
30	2	5	郵便局行。梵大経第3回、1時間3項まで。キフ3枚。入湯。白山へ葉書出す。	
		6	キフ3枚。白山より羽書着く。三省堂(亀井社長)より「和英大辞典」を頂く。梵大経第4回。	
			高楠歓迎会費及び写真35銭(経緯会主催)。上野より帰途紛失1円90銭。	
		7	午前、白山来り「ラリタ」遣る筈の処、来客の為なかりき。午後、上野公園顕松亭に高楠順次郎の	
			歓迎会あり、35～6人写真撮る。白山同道往復。	
		8	日曜休業。上田、麦政、金を受取りに来る。午後、法苑珠林など読む。渡辺海池、水野へ2通	
			羽書出す。種痘しらべ巡査来る。角砂糖、豆8銭。	
		9	キフ4枚。大経梵第5回。	
		10	キフ1枚。大経、村上専精講第6回偈文。午後8時築地より書面着く。夜、麦生来て金を渡す。	
			＊「蔵のうた」25句を詠む。白足袋代14銭。	⑩483P
		11	「ラリタ」あり白山来る。近辺用事。先生より法主(親展書差上げらる)。皆乗より書面着く。	
		12	朝四時半、四ッ谷大横町火事。古田の立花、中島夫婦、大場、白山、家等の客来たりて報恩講取り	
			延べ執行。夜6時散会。晴れ。〇〇〇は小人也。今日2回、高楠と中島に向いて、予を暗にノノシル	
			くそ馬鹿めが、はらが立ってたまらぬ。	
			「仏教」123号を購読する。	
		13	キフ2枚。登初(注4)へ書面出す。下調に感心するときのなし。予は今日求むる処は只徳者なり。	
			今日の世には一人もなき目白の訪れんと思う心7・8年前よりあり。これ一つのみ、前は外国のみ。	
			切手6銭。羽書2銭。先月反省会取替消(電報)15銭。	
		14	渡辺よりはがき着く。梵大経第7回当具説、これまですむ。その後は郵便局へ小使、風呂等の外は	
			墨摺りにまるまる。夜10時まで何の始まる処なく暮らす馬鹿らしきこと限りなし。嗚呼天向う尤情な	
			る何う予に不幸のみ多きや人世人世ああ、いや、いや、望みは、一つも叶わず馬鹿の目に逢う	
			ばかりかなしきの至り也。	
		15	キフ2枚。好天。先生京都へ出発。谷了然来訪。本日、白川7人を罰す。上田、麦生へ金を渡す。	
			北条来訪。晩北条に行く。	
		16	キフ1枚。麦生冨郎へ書面出す。斉藤竜作へ葉書を出す2銭。ペン先2本、掛洋箋5銭。状袋1銭5厘。	
		17	郵便局へ行。四谷火事あとを見に行く。キフ七枚。大勉強。大久保左南に行く。10時まで談す。	
			国目を出。水野より書面着く。郵便切手2銭。	
		18	宮島富三よりはがき着く。火鉢を本日廃す難。キフ6枚勉強。井上円了氏へ幽界物話を郵送。葉書を	
			井上円了氏へ出す。斉藤より書面着く。文章したたむ。風晴。キフ4枚。中嶋氏来訪。	
			筑地へ書面出す。風晴。	
		19	キフ6枚。「ラリタ」写5項。大経英写5項。大に雪降る。午後3時頃より	
			始める。済生よりはがき着く。	
		20	キフ5枚。朝、地震5分余間ゆれる。大英2項写す。晩、北条太洋の処に行語話。筑地より	
			通知あり。はても妙驚いたり、なをもいづけなきへんじのはやさ読み了りて、へんな心。	
			政一よりはがき着く。風呂2銭。ビーン3銭。菓子5銭。	
		21	キフ5枚。長々の「枳橘易土集」も、ようよう本日を以て千秋楽を告ぐ。午後、榎本館に高楠訪問、	
			反省会のこと蔵行のことなどを談す。反省会行長談快。掛紙80、筆2本15銭。ビーフ17銭。菓子3銭。	
		22	旭野外1人来る。桜井義肇来る。暗黒本願寺論を読む且つ批評す。	
		23	風邪甚し。兄へ書面出す。井上円了氏よりはがき着く。大経写本。上田来る。波佐地誌編する。	
		24	先生帰宅京都より。水野より本山革新報知を送る。井上円了来訪。散歩する。帰詠舎へ行く	
			も留守。〇外道哲学を読む。〇大経写本。ホヤ4銭。「波佐村地誌草稿」を自編する。	
		25	大経快写す。区役所へ行く。	
		26	水野より書面着く。写本大経。印捺する。其他屑々光陰矢のごとし。麦生来る語る種々。	
			経偉会よりはがき着く。水野よりはがき着く。	
		27	大経写本少々。午前、白山来先生風邪只語話のみ。半鐘門まで白山を送る。種々語話す。	
			水野へはがき出す。政一よりはがき着く。越中の上田某来り、改革の中傷説一時間半説く。	
			古田来る。夜、先生に字書及梵学に付忠告然たる恐見を申し上げる。食料3円。中央金庫入れ	
			30銭。神戸へ送り3円。	
		28	昨夜清谷よりはがき着く。今朝日本橋よりはがき着く。北条を今朝訪う。東山本山三幅対を買う。	
			午後、清谷来語、神田へ共に散歩する。菓子8銭。羽書2銭。9円96銭。	
30	3	1	大経講第8回1双12迄。北条来談。大学生4人来訪。おそく迄種々話しあり。	
			石川舜台氏の手紙。「無尽燈」第2巻壱号を南條博士より戴く。	
		2	春谷より書面着。水野より書面着。反省社より書面着。英文円労経しらべる。	
			入湯行。大経講第9回13より19双迄。晩、廣田来語。先生種々快語あり。湯行2銭。	
			「天台山勝境全図」を南條博士より戴く。反省会雑誌より書簡届く。＊南條博士へサンスクリットを	⑧下13-15p
			英文に翻訳するよう仲介を受ける。	
		3	麦生冨郎より書面着く。ラリタ講。3人客あり。麦生政一来る。勝珍氏手紙。改革報を送る。	
			切手明清寺など8銭。西依よりはがき着く。河上貞信、天竺より帰朝を報す。	
		4	大経第10回。大閉口。明清寺より書面着。日とめ改革の言文に接せざる事なし。うつうつ然たり。	
			白山より往復はがき着く。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	3	5	大経第11回。明清寺へ書面を出す。強風地震あり。石川舜台氏へ宛の厳敷南條の書面を読み	
			聞かさる。氏の強硬主義感じ入る。元教学部長辞任の強硬主義一対す。	
		6	先生式年本社行。湯行1銭5厘。先生の「諸行無常」原稿を写す。12枚。北条太洋に行く。	
			斉藤繁人より書面着く。反省会より書面着く。「反省雑誌」12年2号着く。	
		7	反省会へはがきを出す。〇水野へはがき。〇芝弥生館へ印度飢饉救助会に臨む、2銭。	
			芝浦散歩銀座三橋亭へ行く、30銭。北条、古田、予の3人。雨。いろは20銭。車10銭。	
		8	大経12回。赤松来る。雨。反省会へ書面出す。	
		9	大経13回88双済む。剃髪及び湯へ行く。降雨。北条へ行く。剪髪6銭。湯行1銭5厘。	
		10	兄より書面着く。迫奥の開拓を本日、着手すると云云。３月４日発。水野よりはがき着く。斉藤、	
			中河内、2本はがき出す、5銭。水野へ書面出す。ラリタあり崇議会々報を贈る。シャツ48銭。インキ	
			6銭。為替、切手5銭。「崇徳会会報」を白山より戴く。	
		11	蔵書調べる。月見来る。安藤、秦来る。	
		12	伊藤、吉本、天地、外に衆口員、井上円了先生、月見氏来る。改革午前10時より午後2時迄伊吹、	
			安藤来る。福井龍朝来る。中田門より書留着く。(麦生)政一へ羽書出す。北条へ羽書出す。	
			大経我建偈少々、第14回。	
		13	ラリタ。局へ行く。政一来る。湯行1銭5厘。上田来る荷物着く。洗濯12銭。印紙、切手6銭。	
		14	午前、梵文典日曜講義あり。大学生7、8人。午後、本郷傳中行、菓子10銭。晩降雨。松田へ20銭。	
		15	大経講第15回三誓終わる。国の兄へ書面出す。水野へ羽書出す。白山よりはがき着く。	
			局行、中島行、印捺し紙つぎ等うまく出来ぬ。	
		16	大経第16回。柳光亭へ石口、中村、桜、改革で行く。「仏教」124号を購読する。	
		17	彼岸の入り。晩、北条行、菊池謙譲来る。宇都宮紹介状貰う。大経第17回。中河内へ書面出す。	
			麦政一よりはがき着く。菓子5銭。	
		18	大経第18回。東洋哲学会より羽書。済生より羽書。経緯会より羽書。	
		19	大経第19回。雨小降。風呂、菓子4銭5厘。	
		20	午前、大学生講義。柏原来り。谷蔵行き助力の話をなし呉れる。ラリタ写本。降雪。	
		21	白山へ羽書出す、5銭。白山より羽書着く。白山より電報着く。白山晩に来訪。本日福口面談し	
			口を話す。	
		22	東洋哲学会羽書出す。石川舜台来上。大久保来る。明日京都へ行く。	
		23	御経書出一項半。清国より羽書着く。本月17日にて、凡そ、開拓済との通知也。大経写。	
			大に感ぜり精神入れかえたり。	
		24	石川舜台氏来訪。大口来る。深井隆三郎より書面。渡辺より書面着く。	
		25	先生に経緯会のこと社会常人の事等から、本山施政等を申し述べる。赤坂宇都宮の処、	
			政一より又未本代議士等へ行く。閉院式あり。渡辺、荻原へ羽書出す。深井降三郎へ書面出す。	
			白山へはがき出す。詠帰舎入学印紙1銭。	
		26	水野より書面着く。先生出立のはずが病にて延引となる。石川舜台より、京都行き同道、明日へ	
			延引を申して来る。羽書1銭。ペン先2本2銭。「東洋哲学」第4編1号を購読する。	
		27	雨。石川の宿林屋に行く。先生病の為延引。晩、北条来語せり。	
		28	強雨。経囲会羽書着く。本日、弥生館に改革に付会見も不出席。風呂行1銭5厘。	
		29	好天。榎本農商退任。	
		30	雨。政一来語。例に由って例の如し。先生病要中。水野より「改革通申」を郵送する。水野へ書面	
			出す。郵便切手5銭。倶楽部会費30銭。本月食料3円。	
		31	本月書出しは名集全インデックス九頁のみなり。外に大経和訳写51枚。先生本朝出立。	
			詠帰舎へ行。湯行1銭5厘。晩、北条太洋訪問改革語等を聞く。強風吹く。神戸補助1円。	
			今月総計6円64銭5厘。	
30	4	1	子安君へ書面出す。前晴・后曇。午後4時半詠帰舎東脩へ入学、1円。4月分月謝50銭。	
			言語集始めから習い始める。顔白し。6時半帰る。晩、近方散歩清及近諸多国、及湯さまし本を	
			購入する。時言社より「教界時言」5号を戴く。羽書5枚5銭。「清国及び近方地図」1銭。器具	
			4銭。状袋2銭。　※詠帰舎は、宮島大八氏が主宰する中国語学校である。	
		2	強雨。前写本。所感、予、立志三原は友人にして金蘭藤等是也。詠行(語話す)。能海登より書面着く。	
			「反省雑誌」12年3号着く。鉄道会議にて、広島浜田間は、「芸石鉄道」へ許可することに決定せり。	
		3	朝、強雨を犯して本郷傳中に行く。竜作、横浜へ行き不在。金講取り羽銭を頼む、政一も行き共に	
			帰る。上田により松本ビーフ行く3人分46銭。境地を訪ね、本山事件を談す。4か組納をして帰る。	
			この時夜9時。菓子代5銭。下駄直し14銭3厘。掛紙80枚10銭。同とじ本11銭。	
			朱及びペン先一個5銭。草書1本3銭。菓子代5銭。	
		4	中河内より書留着。水野より葉書着。昨日、出発帰国。午後、安本来談す、菓子5銭。	
		5	第一銀行へ行く。近方見物、32銭5厘。政一に寄り12時帰る。兄より書面着。北条来る。	
		6	降雨。昨夜二七不動の背火事見行く。＊南條先生より書面着く。榎本館の高楠へ梵本を届けるよ	⑧下27-30p
			う依頼を受ける。旅先より、降誕会の青海を想像する。胃腸病が再発したので貴宅の上了用した	
			い旨。反省より書面着く。反省へ原稿送る。はがき反省会へ出す。はがき高楠へ出す。	
		7	降雨。風呂1銭5厘。	
		8	午前、傳中行き羽織とりに行く。支那語行き休む。午後、降誕会へ行く、南條文雄、島地黙雷。大内青	釈尊降誕会

年	月	日	事　　項	参　　考
			巒、村上専精、20銭、夜7時散会。晴天。印度救済30銭。羽織合袷1円2銭。神田へ車代10銭。	
30	4	9	強雨。写本。詠帰行。	
		10	「大小二経梵和詔」写本終る。 製本代写本4銭。晴。詠帰舎行、(蔵見行、留守番也)。	
			大学のボートレースあり。明日専門学校。斉藤へはがき出す。荻原へはがき。	
		11	午後、新宿辺田畑の間を散歩する。羽書6銭。	
		12	荻原雲来来館。書出し。経緯会よりはがき着く。	
		13	書出し。風邪。蔵漸く開かんとす。	
		14	高楠、桜井義肇来訪。東洋哲学会よりはがき着く。剪髪13銭。	
		15	皆乗(登)より書面着く。雨降る。書出し。九州僧来る。ペン先3銭。麻裏13銭。「佛教」125号を購入。	
		16	皆乗へ書面出す。曇60度。北条太洋待居り。菊池謙譲を三番町に訪九段夜桜。	
		17	名経書出し終る。曇天67度。＊南條先生より書簡届く。	⑧下27-30p
		18	赤坂行くも留守。夜桜赤坂辺。「東洋哲学」第4編2号を購読。	
		19	雨天。東洋哲学会行。上野花見。水野から書面着く。「乱稿雑録」を作る。	
		20	百日祭に付学校休。夕方、宇都宮太郎大尉を訪問、有益の語話を聞く。支那より入るの便等大賛成	
			のとき福島安正大佐を紹介される。	
		21	□土開戦□は、この17日に□□布告。夜先生帰宅。	
		22	宗教学の必要原稿了。□□の□□第4集を読む□□。「法の雨」111号を南條氏より戴く。	
			「宗教学必要」自稿を作成する。	
		23	庭除草。水野へ書面出す。舎にて談。軍事出戦の件。秦来先生へ二条の内一	
			を申付けんとす。根本的改革の事を先生に語す。法主の懺悔□□。	
		24	ラリタあり白山来。晴天。ラリ写。□行。不快。今日屋中に波乱あり皆幾分の不快の念あり	
			あれくもり人心一同に感じるもの感所謂天地自然人間は小宇宙。菊池を訪問宴会帰る。マッチ3箱	
			13銭。「無尽燈」第2、第3号を南條博士より戴く。	
		25	内立宅午後、上田、栗栖来話、先に大久保辺散歩する。印紙2枚4銭。菓子5銭。	
		26	古田来て鯉上り建て殆ど仕事ならず。大経梵始む13編より。東京中学校寮長電報。訪問者小。	
			手帳一冊3銭。日本新聞2銭。「日本新聞週報95号」希臘地図、購読。	
		27	午前内院及びドウルヂャーバダーナの調べに費やす、午前、郵便局四谷に行く途中で馬車駄馬に	
			蹴倒され循去らる。山形某独立論本。	
		28	午前降雨。白山来、ラリタあり。夕、牛込蓬莱町3番地に福島安正大佐を訪問する。波斯、ビルマ等	
			の旅行語り支那両地のことなどを承る。この時、朝鮮人の張博氏居り、1時間ばかり話し帰る。	
			一寸菊池に寄る。神戸桑門君より書面着く。製本3冊7銭5厘。「梵文金剛経及般若心経対訳」、	
			「梵文楞伽経(第1巻)写」、「梵文方廣大荘厳経一巻」対訳。	
		29	伊藤大□来訪。古河へ書面出す。西村とか云う女来り大気えんを吐く。斉藤繁人より書留着く。	
			ホヤ及びカサ5銭7厘。	
		30	塩沢来る。上田来訪金渡す。倶楽部積金30銭。食料3円。今月総計9円43銭。	
30	5	1	午前三井銀行に行く。快晴、著物一枚を脱く。夜散歩して帰る。8時過ぎ近所茶屋の土蔵裏より出火	
			大騒動。国へ讀賣出す。先月中取替え未払16銭5厘。詠帰舎月謝50銭。讀賣新聞9銭。	
			切手6枚5銭。ピー2銭。	
		2	8時発、安本を訪い本郷へ行き、哲学書院、反省会、東洋哲学会、傳中夫より谷中花見等、初音町	
			中学等を回りて午後五時帰着。国へ太陽及新聞出す。太陽雑誌15銭。同郵送切手3銭。	
			東洋哲学雑誌3月より1年間60銭。菓子5銭。傳中へ御礼20銭。菓子6銭。	
		3	先生終日不在。本郷・子住の所へ行く。降雨強。風呂へ行く。宗教写す。学場宮嶋氏教授及会話。	
			新聞国へ送る。風呂1銭5厘。	
		4	午前印捺す。国へ新聞出す。午後7時、神田錦輝館に活動写真を見る。大いに感あり。一に曰く、	
			白痴教育、二曰くエジソンの大文明及平民的、3に文明的示威運動。活動写真及び下足代13銭。	
			「教界時言」6号を南條博士より戴く。	
		5	国へ手紙及び新聞出す。上半天白山来過る。ラリタあり。下半天月見及古田来大に改革派へ不平	
			を述べる。今晩是個。晴天。	
		6	9日迄春法事。浄蓮寺春法座。靖国神社祭礼。安本来語話。留守番。尺八。支那語臨休祭に付。	尺八
			＊登より書簡届く。卒業後は、布教教育を目指すという。	⑧下31-33p
		7	不平会勃起す。夜強雨降る。大経梵。妙蓮寺宛新聞出す。非常強雨、夜降雨。	
		8	曇うつうつ伏せたり。午前、ラリタ白山来る。『哲学雑誌』23年頃のか、加藤弘之氏が二宮径論、	
			学者か哲学者たるの評判常に有益なり写しとるべし。入湯。	
		9	午前、午後、西蔵学前には「予と西蔵」と題する記事をなす。午後より、「西蔵大蔵経目録概要」を	⑥89p
			訳出す。外出少しもせず。降雨。	
		10	反省会へ「西蔵国大蔵目録」原稿送る、切手2銭。茶の水橋八人殺し知れるとはやれはやれ寺も	
			近辺の蔵屋に縁あるものとは。	
		11	大雨。安藤弘君来る。秦君来る。晩去りざり。	
		12	白山来ラリタ。茶の水及岩井村の殺人等詳報出て読みて心持ち悪し。線香10銭。	
		13	「東洋哲学」3号を購入する。「宗教学の必要」を書く。	⑥183-188p
		14	平野来る。＊斉入より書簡届く。	⑧下35-37p

年	月	日	事　　項	参　　考
30	5	15	風狂。午後、経囲会を反省会にて開き行く。会費10銭納める。来者17、8名。月見、伊吹来る。	経緯会
			経緯会費10銭。先月分同会費20銭。豆3銭。風呂1銭5厘。＊「梵学11号」を書き始める。	⑥190p
			「佛教」126号を購入する。	
		16	午前、東洋哲学会に行き、井上哲二郎の蔵学の話あり。降雨。午後、青年会大会行き、会場設立	
			議決せり、会費10銭。	
		17	午前、書出せり。心中何となく不平。好天気なり。	
		19	77度。蓬来亭へ行く。「無尽燈」4号を南條博士より戴く。	
		21	子安氏着く。	
		22	白山来る。「ツヲンクハバ」を訳す。掛紙三条7銭5厘。	
		23	「ツヲンクハバ」伝書く。剪髪7銭。「日清会話　全」購入、35銭。	
		24	雨降る。萩原来る。「会報」浄土宗学友会3号を戴く。塵紙2銭。手帳3銭5厘。＊安藤弘より書簡届く。	⑧下35-41p
		25	黒下太下雨很雷鳴電射、天神さんも大ペケ。	
		26	蔵かへ。ピクニック1銭8厘。	
		27	古田来り、夜9時過ぎまで議論せり。	
		28	詠帰舎で宮坂九郎の支那行きの送別大会あり、会費35銭。	
		29	ラリタ白山来る。午前下雨。先生千葉へ行かれる。菊池謙譲を訪問留守。子安氏同道砂場行く、	
			10銭。降雨尻をからげて歩く。	
		30	終日在宅。真藤郵便未納4銭。	
		31	下女口帰る。78度。先生、子安と上野行。大経「インデックス」書出終る。大経東方偈終る	
			羽書10銭。法中頼母子掛2円。神戸へ補助2円。食料3円。今月総計10円87銭3厘。	
30	6	1	中河内へ書面出す。庵主来訪。上田へ金22円渡す。晴天78度。反省会	
			より書面着く。反省会へ返信出す。小経「インデックス」書出始なし。	
			反省会へ返信出す。小経「インデックス」書出始なし。花代3銭。	
		2	白山来る。月謝収む、50銭。運動中左足小指損く。80度。昨晩蔵立。「反省雑誌」5号購読。	
			「教界時言」7号、「報告書革新通申」を南條博士より戴く。	
		3	下半天下雨。近頃午後、毎日午睡す。穿上単衣裳。麦生へ金14円渡す。	
		4	毎日朝大経講義。大いに午睡する。75、6度。	
		5	74度。下雨。法話「ヂヤイナ教」を出す。尾揵子なりと可見。高下駄30銭。蝙蝠直し2銭5厘。	
			菓子5銭。「法の雨」112号を南條博士より戴く。	
		6	午後、安本、玉泉、同道し上田の所に至り、松本居にてB、43銭。Bにて分かれ、古田を訪ね、	
			非宗教学など7時迄語し、大雨を犯しめ三番町菊池に寄り、経緯会例会に付き話し、9時半帰宅。	
		7	非常に寒く62度となる。降雨。	
		8	本月経囲会例会当番、幹事、予と金とに付き本朝、本郷湯島に行く。夕方より雨降る。女児急病。	
			羽書8銭。	
		9	晴れる。67、8度単衣を合わせ着するに至る。山王山祭礼。「東洋哲学」4号を購読。	
		10	神戸登へ為替弐円添へ書面差出す。為替料3銭。曇天70度。ピクニック4銭。	
		11	国元にて、迫奥田新開田、大潰の牛供養により、数10宛の牛、鼓、五月女にてにぎやか田植え	
			見物をかくせりとの事。	
		12	午後、湯島麟禅院行。経緯会(積金1円・会費20銭)、田上追弔会、北条太洋送別会、予幹事5時	
			散会。三崎町まで大砲など相模へ行く、8銭。ビワ5銭。入湯1銭5厘。夜降雨。	
		13	在宅。夕方古田来共に砂場行10時過帰る。曇天。富郎へ書面出す。	
			「西蔵所伝釈尊入滅考異説」書く。「佛教」127号を購読する。	
		14	山王山今明日祭礼。好天80度。政一来る。安藤書面出す。「説教改善心理学上より論す」論文書く。	
		15	北条太洋来訪せり。	
		16	午前大経(「疑儀胎官五智」の章終わる)。降雨。先生名古屋、京都に向けて出立。	
		17	朝北条太洋に立寄り上野図書館行。図書館費5銭5厘。午前雨、午後晴れる。東洋哲学会より葉書	
			着く。岡野最中5銭。	
		18	午前7時発、北条太洋把刺、西爾国行き送別の為、新橋へ行き、8時15分汽車に同乗し、横浜着	
			直ぐ郵船会社陸上にて一休同社の小汽船にて、インプレスヲフチャイナ号に至り128号室乗り込み、	
			船内を一見、11時半帰り中食して、山手海岸通り散歩とき、同船、正午12時発船行を見認めたり。	
			大分花屋敷及公園にて、外人の運動等を見て3時35分にて4時半、新橋帰着。日中の田植あり。	
			霞が関より新橋へ車4銭。汽車上等6銭。郵船社まで車代10銭。小遣10銭。汽車帰都20銭。	
			風呂1銭5厘。	
		19	一昨夜、神戸より葉書着く。蓬莱亭3銭。	
		20	氷、ラムネ5銭。郵便切手6銭。芝濱館92銭。	
		21	午前、神田・岡本真一へ行く。北条の金渡す。午後、子安氏、同道三田白山にかり3人同道、芝浜館	
			至り、夜8時過迄快語。10時帰宅。猿叉10銭。楊子3銭。	
		22	午前、西依一六来訪。	
		23	午前、西依一六来訪同道三番町丁酉社に行く。3時過帰る。東洋学についての一文　雑録を書く。	
			夜九時より降雨。夜、高楠来スッタを貸す。河口慧海師西蔵に向う。	
		24	「西蔵文典」の訳を始める。午後、渡辺海旭来訪、西蔵話をなす。夜、宝亭に子安君と行く35銭。降雨。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	6	25	西蔵訳出する。雨降り寒し。	
		26	西蔵訳出する。曇り。	
		27	地震、安本、古田、高楠、奏、上田来る。真中、高楠のヨーロッパ風イヤニ気取る辺り、一寸オモシ	
			ロキ処なり。先生帰宅。	
		28	朝、白蓮社より西依一六、菊池大円の所に至る。「破塵問対」(占部観順著)を見る。	
			白山謙致へ見舞25銭。2回風呂3銭。	
		29	午前、石塚氏来訪、大いに化学的長寿養生御話しあり。非常に感動せり為に、今に日中の御菜より	
			断肉食勿論、朝も毎朝精進なれば、本日より精神也。夕食に鮎及「キュウリの酢物」も断然禁ず。	
			奏来る。白山謙致父病気見舞いに付総代として子安氏行かる。	
		30	朝、奥村女丈夫来る。円心朝鮮行しるし。白山よりはがき着く。本日大経読むはずの所先生病気に	
			付終わらず。線香14銭。食料3円。波佐倶楽部30銭。「無尽燈」5号を南條博士より戴く。	
			6月には、神戸補助出来ず何とも仕用なし。ここに其仕方なきことを付記する。今月総計9円47銭5厘。	
30	7	1	降雨。先月付落ち9銭7厘。	
		2	午前、大経梵読終わる。午後、市ヶ谷八幡辺を散歩す。白山君より手紙来り、実父宗英氏の死去を	
			聞かせり。昨夜6時死亡。降雨。詠帰舎月謝50銭。和筆2本4銭。「教界時言」8号、同附録「大谷	
			派組長人名」を南條博士より戴く。	
		3	午前、白山氏見舞い行く。午後、西依に行く。	
		4	広内より書面着く。京へ電打ち問い合わす。午後、経囲会白蓮社に開く(積金20銭・会費5銭)。	
			会するもの11人。夕方より古田、子安、予、3人宝亭、会費45銭。九段寄席(4銭)小清布引継、	
			正直堂行(名刺39銭)。10時帰宅大いに懺悔す。夏敷物2枚7銭5厘。＊白山謙致より実父の死を	⑧下49-52p
		5	朝、広内宛電報発し先生松島へ出発。ペン先5銭。	
		6	水谷氏、てんま町。ウイツリ島を発す、8月1日、總州勝浦に着す。京橋新湊町五丁目金十社、	
			水谷新六氏外4人。	
		7	冷75度。降雨、西依に行く。同道に子安3人青柳亭に行伯知の話を聞く。宴席費9銭5厘。	
		8	冷75度。先生松島より帰宅。梵本製本26銭。	
		9	曇天。砂場子安同道28銭。インキ5銭。	
		10	先生出立。子安帰国。西蔵国問題を書き始める。5厘切手2銭。	
			「太平洋源論」初号、「東洋哲学」、「佛教雑誌」を菊池より戴く。	
		11	91度。朝、出発上田、傳中(茶・盆礼20銭)、反省会にて中食、沢井来、安藤、西依8時半発、	
			9時半帰る。顔白し、洋の福も、話も、ゆかいの事多く聞く。晴天。兄よりはがき他着。	
			郷の迫奥未開田の田植供養報ぜり。はったい2銭。菓子5銭。紙1条2銭6厘。加藤博士祝賀10銭。	
			＊安藤弘より書簡届く。	⑧下53-55p
		12	松田傳中より羽書。麦冨より羽書。	
		13	降雨。「西蔵国問題」稿了。桜井義肇より「文学寮同窓名簿」を戴く。	
		14	兄より葉書。順覚寺住職死去の報、直ちに順覚寺へ葉書出す。90度巳上晴天。	
		15	向郷。砂糖・最中6銭。ピー2銭。	
			「佛教」第128号掲載、「西蔵国所伝釈尊入滅考異説」天頂山曇鞠のペンネームで掲載。	⑥190195p
		17	菊池君支那・朝鮮行きのため新橋迄見送る。麦生政一を訪ねる。晴天。	
		18	冨郎より書面着く。午後、安本玉泉来訪。6時迄語話。剪髪7銭。	
		19	麦岩より書留着く。麦冨へ為替入れ手紙出す、8銭。安藤、午後来訪種々雑談せり。ピー3銭。	
			曇後晴。土用入り午後8時。	
		20	雨。	
		21	雨。	
		22	雨。しま服90銭。1反及び仕立賃83銭。	
		23	先生の書の虫干しを始める。本日より好天。晩、本郷森川町、西依へ行く。	
		24	虫干し2。晩、西依行く。会者5人。菓子代5銭。	
		25	虫干し3。古田来り白川天神縁日行く。縁日費7銭。	
		26	虫干し4。国へ小包にて衣服を出す。兄へ書面出す。「亜細亜言語集」第一巻	
			4月1日始め、今日漸く終わる。小包24銭。切手2銭。	
		27	虫干し五。西依よりはがき。晩、丁茜社行柏原、西依、大円あり。27日不動	
			を巡り帰る。「亜細亜言語集」第3巻問答辺を始める。筆2本ほか5銭。掛紙2条日本道5銭4厘。	
		28	虫干し6。太平洋社へ「西蔵国問題」原稿送る。山口順太郎へ羽書出す。	
			「亜細亜言」第2巻は後に回す。切手7銭。	
		29	虫干し7。仏教学会へ原稿送る。23日より昨日迄満足の晴天。本日夕方少雨。	
		30	虫干し8甲。斉藤来る、上田来る。降雨。詠帰舎、今日限りにて夏休業とせり。	
		31	虫干し8乙、残を仕舞しのみ。〇蔵学す。〇岡本より書面着く。晩、神田上田、本郷安藤に行く。	
			金渡して帰る。曇、少し雨。倶楽部30銭。食料3円。神戸へ50銭。今月総計9円33銭7厘。	
30	8	1	朝より安藤来り快語。午後3時帰る。神田へ経囲に付き手紙出す。虫干し9。	
			実は、7月27日求む・8月に入る詠帰舎教科書『亜細亜言語集全2巻』58銭。先月付落ち31銭3厘。	
			内25銭は、香典。梅田へ郵便2銭。安藤共に、菓子、中食23銭。	
		2	政一来訪。梅原より書留着く。虫干し10。支那語学夏期講習を始める。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	8	3	暑天。午後3時より語学会。虫干し11。	
		4	前11時先生外2人帰宅来宅。午後白蓬社まで経囲会大いに舎是に付き議論す(会費8銭・	
			第3回積金20銭。)。「哲学館明治30年度報告」を麦生冨郎より戴く。	
			椀退会を申出ず。90余度大熱。哲学館報告来る。93度。斉藤へ為替及び切手5銭。	
		5	経囲会会是及び会員誓約書、並びに其説明書を作る。＊斉入より書簡届く。	⑧下75-81p
		6	天祐丸の記事あり。佐官来る。降雨少々。虫干し12。北条太洋ロンドンを出発す。	
		7	佐官。「太平洋洋論」2号を麦生冨郎より戴く。「東洋哲学」を購読。	
		8	伝中及び西依一六へ行く。	
		10	両国花火九段迄行(2銭)、橋の手すり落ちて死傷者あり。	
		11	虫干し13甲。梅田定君来る。本郷に行梅田同道、三田屋39銭。反省会に寄り帰る。93度。	
		12	口業史を熱心に調べる。虫干し13乙。佐官終わる。休口口休む。	
		13	大虫干し14。支那語休。93度。	
		14	大虫干し15。93度。夕方より強雨雷鳴。剪髪7銭。	
		15	梅田定、西依一六と共に、大円行夫より白山に立寄り、夫より山口に寄り泉岳寺(見物料7銭)に行き	
			銀座に往きて、大に個論を戦わし目鐘にて分れ、太平洋に寄り、9時帰る。下駄尾5銭5厘。	
			夕食二人20銭。Pet3銭。	
		16	白蓬社に行、経囲会場を頼む。父君23回の祥月命日と成る。まんじゅう、供え10銭。羽書2銭。	経緯会
			「佛教」を購入する。	
		17	虫干し16蔵量。ランプホヤ、カサ5銭8厘。	
		18	虫干し17。虫大尾。	
		19	午前、経囲会々是委員会、渡辺海旭、西依一六、境野哲海、梅田謙敬、予5人。午後、白蓬社にて	経緯会
			会議臨時会、会者8人。会員を定む。大いに議論あり。委員会・臨時会費23銭。	
			渡辺海旭より「会報」1号を戴く。	
			【経緯同盟会メンバー】 1.北条太洋、2.正木新、3.枚村廣太郎、4.海野詮教、5.境野哲海、6.西依一六、	⑭54-58p
			7.田上為吉、8.菊池謙譲、9.小林正盛、10.月見覚了、11.渡辺海旭、12.山口力磨、13.柏原文太郎、	
			14.古河勇、15.大久保格道、16.葦原雅亮、17.伊吹道暉、18.吉田友吉、19.本多澄雲、20.梶宝順、	
			21.花田凌雲、22.梅原融、23.桜井義肇、24.菅学応、25.清川円誠、26.能海寛、27.田嶋擔、28.金義鑑、	
			29.中島裁之、30.木山定生、31.菅眞海、32.妻木直良、33.佐々木恵瑋、34.梅田謙敬、35.旭野慧憲、	
			36.重田友助、37.鈴木貞太郎、38.高楠順次郎、39.古田復之、40.安藤弘。号外.大宮孝憲。	
			※会員は番号制で、寄稿された記事は、番号で表示。この内の11名が海外で活躍中。(能海寛資料)	
		20	午前、芝口辺斉藤の為行不在帰る。「午後『東洋の低気圧』文及『ツヲンクバパの異伝』2文を綴る	
			東洋哲学会に送る」。	
		21	朝より本郷森川町梅田謙敬、西依一六訪問。梅田と小石川植物園へ行く、4銭。父より書面着く。	
			「地学雑誌」9銭。	
		22	終日在宅。晴天。切手2銭。	
		23	梅田定、午後来訪。桜田門に御還御を奉迎。夫より永代橋散歩(2銭)、高楠順次郎を訪問、普通	
			の旧暦を語聞しめ9時半帰る。波佐地図製す経緯編。佐田帰る。	
		24	書出少々。屑々。晴天。水野より葉書着く。水野へ書面返信。冨郎へ葉書出す。	
		25	西依一六来語。大いに宗教学、経囲会、是に付き論じ共に砂場(西依と2人18銭)を経て丁酉社に	
			行く。「十鐵批判」を書き仏教へ送る。	
		26	書出し少々。切手4銭。	
		27	午前、西蔵図を写す。午後本郷西依一六、梅田定訪問議論、傳中へ行き斉藤の談話を聞き、境地	
			に寄り安藤弘に共に行快語密談。10時過ぎ帰る。高楠より手紙来り少しく不平の志起る。	
		28	斉藤繁人より葉書着20円受る。西蔵の蔵経アナリレスを調査。夜、強雨降雷鳴。羽書、切手5銭。	
		29	書出し方改正す。曇和。	
		30	書出し。晴れ。＊ロンドンより北条太洋書面を送る。午後、白山謙致、来訪、快語議論せり。	⑨66-69p
			午後4時より駒込真浄寺に経緯「仏教」会あり原セイミン、尺セイタン外、知人6、7人、高嶋大円を	
			訪い田中治六に訪い、夫より西依一六へ行き、桜井、安藤、渡辺、桜田等会の退会を本日処分	
			を決議し、10時半帰宅する。白山より「梧窓漫筆」を戴く。	
		31	210日。朝強雨。終日曇天。書出し。水野、帰国の旨神戸より聞せり。去る30日より経河屋来る。	
			神戸補助50銭。倶楽部30銭。本月付落ち分12銭5厘。食料3円。今月分支出総計7円8銭1厘。	
30	9	1	同大学北生今基督教調査中の中野君梅田の紹介にて来語、午前大いに談す。詠帰舎行。	
			半晴半曇。書出し。仏教雑誌1月より内払い50銭。ペン先3本3銭。	
		2	半晴半曇。書出。石村貞一来訪。夜おそく斉藤より非常の憐れの手紙を送る。紙3銭5厘。	
		3	午後、傳中へ(菓子5銭)行き斉藤と熟談。遂に彼帰国に決し金を用立。午後、帰途西依一六へ	
			行き(菓子5銭・石炭酸4銭5厘)梅田定と3人、大いに宗教哲学に付き研究其他快語。8時帰宅。	
			晴風。蝙蝠直し3銭。	
		4	強風外頭土大。書出し。晴天。西依一六等来る。梅田定、本朝帰京。斉藤神奈川へ出発。	
		5	降雨。午後、経緯会者5名で甚だ不振。経緯会費6銭・第4回積金20銭。夜、先生一行帰宅。	
		6	午前、雨を犯して竹橋、安本面会に行く。斉藤、広島へ着く。月謝詠帰舎50銭。	
		7	午前迄降雨。午後より晴れ来る。南條博士より「無尽燈」、「法の雨」、「教界時言」を戴く。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	9	8	終日強雨。経学伝終る。帰国に口乱あり。先生九州行新門の話あり。口口帰宅。	
		9	昨夜巳来、強雨雷鳴急。今朝より暑風となり、木を折り屋根を飛ばし、戸を放ち、雨も強雨被害少々	
			ならず。終日、其片付けに日を費やす。下駄直し1銭。	
		10	夜先生、予、三好、3人、九段より小川町辺へ散歩。九段下素行女義太夫行菅公公の段、寄席費	
			3銭5厘。花2銭。菓子5銭。掛紙100枚12銭5厘。	
		11	この夜三好帰国。	
		12	来客甚だ多し。石村貞一、井上円了等。龍出度発足。剪髪7銭。	
		13	森岡一週年忌。傳中に行き安藤弘、桜井義肇、西依一六に寄る。夜10時帰宅。晴天少々雨。	
			龍広着。松田へ菓子6銭。松田へ書賃20銭。	
		14	午前、日本橋萬町第百銀行へ行く。印鑑を失念して、午前2回往復す。降雨。公の段、寄席費	
			手紙書。白木屋1円71銭。倶楽部30銭。食料3円。	
		15	雨。中野来語。羽書8枚、切手一枚10銭。	
		16	雨。学校へ行く。中島へ行く。上田来る。風呂へ行く1銭5厘。旅行案内7銭。付落ち2銭5厘。	
		17	斉藤より書面着く。曇晴。カバン代2円。洋状袋5銭。吾妻楊子3銭。	
		18	午後、白山君を訪い夜9時帰宅。Pea2銭。	
		19	夕石川舜台を訪問するも留守。築地を巡り帰る。白足袋2足42銭。	
		20	降雨。茶入及び茶40銭。下駄5銭。付落ち13銭。	
		21	強雨さむし。午後、安本来訪せり。P3人3銭。	
		22	午前、麹局に行き、今朝着の龍作よりの為替受取又、本郷局に行く。同為替	
			の旧暦を語聞しめ9時半帰る。波佐地図製す経緯編。佐田帰る。上野の高楠順次郎に寄り6時	
			半帰宅。又上田にも寄る。国勢一般25銭。小供為掛紐7銭。馬車2銭。	
		23	11時発浅草本山にて石川舜台氏に面会蔵行の約、梵書出版の約、支那開教約、及社界問題等	
			の話しをなす。高楠を訪い梵学会設立を話し互いに考え整ことにせり。古田復之を訪い茶道等会語。	
			夜9時に帰る。林屋へ電話5銭。両替2銭5厘。地図宇品7銭。夜9時に帰る。林屋へ電話5銭。	
			茶台15銭。そば8銭5厘。菓子5銭。	
		24	大強雨。引籠り。夕方買物に神田行、富士平にて小政を聞く10種番(6銭5厘)、10時帰る。きれ3枚7銭。	
			足袋10足14銭。手帳2銭5厘。墨4銭。	
		25	午前5時発。6時、新橋発。汽車不通に付横浜にて朝顔丸1,525トン57号に乗る、3円。晴天。	
			正午発、伊豆崎にて夜に入る。新橋へ車22銭。汽車荷持12銭。汽車20銭。横濱車10銭。中食20銭。	
			ハシケ及び荷送り16銭。荷持込5銭。	
		26	熊野浦にて夜明紀州沖強雨を受、平穏にて午後7時、神戸着。強雨船中に寝る。	
		27	朝9時上陸登来迎強雨。麦冨来訪共に停車場に送り帰る。ハシケ及び桟橋12銭。人力車12銭。	
			神戸へ13銭5厘。	
		28	午前8時半発、須磨に古田復之を訪問。途中車死人あり夫に快語。晴天。瓦煎餅10銭。汽車6銭。	
		29	大々強雨、午後加之暴雨汽車不通。午後五時須磨発帰神。須磨宿料30銭。須磨人力車6銭。	
			汽車6銭。汽車1銭。神戸人力車7銭。	
		30	午前、水産博覧会見物12時帰る。晴天。水産博覧会4銭。瓦煎餅15銭。神戸21銭9厘。	
			今月支出総計7円93銭4厘。	
30	10	1	午前和田岬に水族館を見に行く。一見るべき価値あり。冨郎よりはがき着く。明石大風被多し。	
			国元へはがき出す。西依一六へはがき出す。汽船往復6銭。雑子、ビーン8銭。焼物花立1銭5厘。	
		2	好天。支那語復習。水野上京を伝へて、大いに困難。午後渡(布引)雌雄を散歩す。光雲寺へ	
			はがきを出す。	
		3	佐野の鉢木(時頼の潜行)。安宅勧進帳(義経運末)。大高源吾(伊勢分れ、	
			徘回)。老木の返咲(加藤、片桐、福島)。文覚上人(袈壊、那智瀧)。以上数号を読み終わる。	
			海岸通りを散歩す。好天。煎餅20銭。初へ足袋代、小遣20銭。付落ち27銭5厘。	
		4	午前10時千地着神。午後7時出立。10時半港出航隅田川丸460噸、180呎長、2円8銭。	
			ハシケ9銭。船中菓子5銭。晴天。豆5銭。煎餅8銭。	
		5	島度津朝飯。来島海峡中飯。伊予周防灘間晩飯。	
		6	午前1時門司着。2時馬関着。10時半出航。6連島中飯。大強風200人中180迄よい。7時半萩着。	
			10時出航。ビーフ及び貝缶詰2個28銭。浜田ハシケ5銭。車代7銭。萩にて柿3銭。	
		7	朝5時、浜田着。大湯屋へ行き、春谷登がおり大快語、散歩して宿へ。帽子1円25銭。菓子20銭。	
			※弟の登が仲立ちして、従妹の佐々木静子を引き合わせる。	
		8	有福行。入湯など32銭5厘。晩宿、大津谷にて説教。宿す。	
		9	午後1時発足。晩7時、波佐帰着す。未帰前書着落手。	
		10	築後、三池、南條先生へ書面。斎藤冨郎、水野斉入、西依一六へ葉書出す。羽書代10銭。	
		11	白山謙致、上田、子安善義、梅田定、古河勇へはがきを出す。荷物運賃13銭。	
		12	風雨。平岩へ葬式に行く。	
		14	＊安藤弘より書簡、「西依一六から突然の退会届が郵送されたことを知らせ、寛が不在で会も寂しき」	⑧下95-100p
		15	御命日。晩、小漆。	
		16	晩より報恩講。当山。好天気。	
		17	報恩講。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	10	18	報恩講。使僧。久保了温氏両御消具奉供。蓮如四百回忌待受一通。＊久留米から南條より書簡届く。	⑧下101-106p
		19	は(伴)使僧15銭。一通、久保了温教学根起しの消息。南條より書面着く。	
		20	浜田へ書面出す。春谷に晩泊に行く。＊「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」5首を記す。	⑭169p
		21	光東寺へ参る。	
		22	馬の原大原葬式。晩、竹の原へ法務。曇。	
		23	上来原、七条、久佐、和田。宿穴本(報恩講巡回のはがき出す)。ひるから晩、屋敷へ法務。	
			安藤弘に書面出す。	
		24	乙九日、中河内行く。大いに語しめ一宿。	
		25	中河内を出て、安養寺に寄り翠水君と論談。夫より上田、妙蓮室に寄り専光寺報恩講に参る。	
			この夜苅寺前火事。為替、郵便11銭。倶楽部30銭。	
		26	専光寺報恩講。半妙へ報恩講に行く。	
		27	専光寺老母法事、香資10銭。頼母子1円93銭3厘。	
		28	御命日。新宅へ報恩講。半場へ法務。	
		29	最勝寺参。	
		30	最勝寺報恩講。晩、斉藤に至り宿す。	
		31	斉竜と共に中河内に寄る。日中、休石へ報恩講び法事。藤岡へ法務。浜田より書面来る。	
			晩、藤岡へ報恩講。今月支出総計8円22銭8厘。	
30	11	1	在宅。春谷氏方につかる。后山清の法務逢い休務せり。羽書5銭。浜田雑費67銭2厘。	
		2	在宅。休務せり。	
		3	天長節。大宮(八幡宮)にて送迎会あり。夜、春谷氏に行く。	
		4	永代経。上来原の中田屋。	
		5	上片山、木原、権社。	
		6	朝事法事、権社。日中、竹の本。新打道見物。正午出発、4時浜田着。休息、入浴。6時夕飯。	
			6時半散歩。8時共に帰り九時迄談話。10時半帰去。	
		7	9時、松原外の浦行く。午前待受不来。午後1時半戸閉あり。午後、2時半浜田出発。	
			5時七条着幸三郎。	
		8	一里余り。堂ケ原。二反田。	
		9	町原。下廻り。	
		10	喜田には、今年3,000石の損。中大谷。下潰。	
		11	2里、和田徳田屋。福田権五郎。同作太。	
		12	1里、本郷の飯田安次。3里、坂本の平田屋。1里半、晩、宇栗の一ツ町。	
		13	前土曜の感。堂参、中間。「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」2首。	
		14	保養原朝。前の谷。日中、下向宿。「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」1首。	
		15	帰山。今田屋の葬式行く。昼より栗木田へ報恩講、晩迄。	
		16	落谷の隠居へ報恩講。晩、尻の切作右エ門へ報恩講。切手4銭。	
		17	朝より晩迄雨。橋ケ原三部経及報恩講。	
		18	高野村慶助へ報恩講に行く。微雨。	
		19	大谷村の原吉。英輔。梅次。晩、虎治へ報恩講。	
		20	日中より岡原(雄鹿原)、山田屋へ總佛報恩講。	
		21	朝、山田屋へ報恩講。帰山。七昼夜。晩、御内佛報恩講。降雨。	
		22	御正忌。石田屋へ報恩講、法事。強風あり。	
		23	山田屋へ報恩講。御正忌。強雨。	
		24	沖田屋へ報恩講。この夕、山頂始めて雪白を見る。	
		25	下の橋へ報恩講。	
		26	寄田屋へ報恩講、法事。	
		27	日中、妙蓮寺へ前僧上人23回忌に参り帰る。通夜を本年よりやむ。3時寝る。	
		28	降雨参者少し。斉入より書簡届く。	⑧下125-129p
		29	晩口城へ報恩講三部経。為替書簡13銭。積金30銭。	
		30	日中、石ケ淵へ報恩講。晩、下ケ原へ報恩講。少々雪降るも不積。南條より書簡届く。	⑧下131-135p
			今月支出総計1円19銭。	
30	12	1	朝、下手向原へ報恩講。日中、隠居へ報恩講　晩、川上屋へ報恩講。	
		2	日中、筏津へ報恩講。晩、木並屋へ報恩講。今朝始めて南條及び静よりの手紙を見東上を決定す。	
		3	日中、柏屋へ報恩講。春谷に夜三時迄話し込む。	
		4	休勤。静へ書面を出す。	
			＊「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」1作を詠む。　雪の下なる常葉の緑色をかえさで春をまつ	⑭197p
		5	晩、小国、室屋敷へ報恩講。	
		6	日中、柚根平田へ報恩講。日中、奥猿木。晩、栃の木へ報恩講。静出航する。羽書7銭6厘。	
		7	好天。日中、殿田へ報恩講。中間は移転不勤。晩、向金町へ報恩講。＊斉入より書簡届く。	⑧下139-141p
		8	朝事、順太へ報恩講。日中、横や。晩、間所へ報恩講。好天。	
		9	朝、天五郎へ報恩講。日中、泉屋。午後、間所葬式。晩、古屋へ報恩講。羽書1銭。木仏修繕55銭。	
		10	朝、藤井清一へ報恩講。日中、波佐谷。晩、数間へ報恩講。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	12	11	午前、下王里[大折]へ報恩講。午後、降雪を犯して海辺に出づ。道口厄本もれ宿。(大いに失敗)。	
			八時過ぎ帰宅寝る。出浜代70銭。	
		12	失望と安心を以って帰る。大いに雪あり3～4寸。午前、畑木。晩、表屋へ報恩講。＊登より書簡。	⑧下143-145p
		13	楮畑。新田屋。晩、上手へ報恩講。	
		14	下長沢へ報恩講。帰宅午後4時。大阪より(静)の書面見る。	
		15	日中　麦(生)冨、松原、本山へはがき。午後、川原小寄り。晩、竹屋へ報恩講。	
		16	風邪。晩、橋本屋へ報恩講。	
		17	風邪。晩春谷氏来り浄本寺ありビーフあり大に会食し、唄う三味ありゆかい也。牛肉20銭。羽書10銭。	
		18	朝、大阪及び南條氏へ書面出す。神戸、藤堂、美濃子安、古河へはがき出す。午後、3時出発。	
			才河内に止宿す。	
		19	松原斉藤に立寄り。晩、加計香川宿。瀧太人足。小遣5銭。加計宿茶代55銭。	
		20	7時半川舟発。降雪。午後4時半広着。かじや町、金野ツタ方宿。但し、別院に行き1時迄話し泊まる。	
			舟代40銭。荷賃3銭。金池へ宿、茶代23銭。シャツ62銭。	
		21	10時半、広島横川発、汽車中田舎くさくしめ行く。午後7時過ぎに着くべき物、遅れて9時半神戸着。	
			12時迄話して寝る。車8銭。汽車1円71銭。車神戸10銭。著物3円。張替30銭。毛ット2円。時間表3銭。	
			瓦煎餅47銭。汽車20銭。大阪車9銭。みかん10銭。羽書、袋9銭。	
		22	午前は買物に回り、午後4時三ノ宮発5時梅田へ着。直ちに、江戸掘南通4丁目20番本田治七方へ	
			行き、晩縁日へ散歩し帰って寝る。静子に面す、夜来床。車2人24銭。汽車54銭。＊南條より書簡届く。	⑧下147-148p
		23	午前9時過、梅田発11時京都着。下珠数池田に止宿。東山を(静子と)共に散歩する。水野に面す。	
			梅原融を訪問する。京茶代5銭。車2人10銭。木仏筆5銭。水野へ10銭。	
		24	午前、石川氏を訪うも留守。午後、梅田菅を訪問。二条辺迄行く。京極にて牡蠣飯、東山行く。	
			正木を訪う(静子と)共に宿に帰り大に語し。又正木来る。宿代2人30銭。下女へ10銭。	
		25	午前7時58分発、関が原大雪。名古屋で中食。午後5時、静岡着。大東館に投宿。12時迄語す。	
			ネズミ菓子を引く思いする。宿2人1円74銭。車4銭。洋車2人6円58銭。みかん10銭。弁当2個27銭。	
			千枚漬30銭。線香8銭。時間表7銭。宿代2人1円40銭。新聞2銭。弁当2個24銭。	
			東京車代30銭、内9銭は静子。	
		26	午前8時15分発、午後4時新橋着。(静子と)共に車を雇いて南北に分かる。南條方では報恩講中。	
			白山、古田、中島に逢う。切手4銭。静岡宿へ茶代30銭。	
			＊「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」を記す。	⑭197p
		27	午前10時半発し、牛込小石川を経て、松田を訪ねる。境野を訪い大いに談す。　安藤、桜井、西依を	
			を訪問して帰る留守及びし夜中島を訪う。才河内、石田、岡本、松原、神戸へはがき兄と古和へ	
			書面したため出す。食費3円。倶楽部積金30銭。	
		28	午前・午後にかけて春谷氏へ6枚の長文手紙を書く。内4枚は秘信也。今回東上の道中記たり。	
			午後3時投函する。切手、羽書9銭。	
		29	内に居て屑々寒気烈しい。晩、九段、東明館に行き上田訪門。佐竹へ葉書出す。足袋24銭5厘。	
			風呂敷19銭。手拭11銭。花、豆、筆など12銭2厘。	
		30	書出し。梶君へ、はがき出す。近角君来談。	
		31	安本玉泉を訪う。御前の御掃除荘厳をなして歳末の御勤をなす。今月支出総計29円56銭3厘。	
31	1	1	郵便切手8銭。ズボン下65銭。菓子、安本・上田5銭。蜜柑石本亭10銭。	
		3	湯豆煎餅12銭。	
		4	蜜柑煎餅17銭。	
		6	実業学校創立諸入費豫算書、実業学校経常費豫算書を記す。	
			「朝鮮国全羅道光州に設立すべき実業学校創立費並経常費御補助金御下附願」30.12.25付	
			真宗大谷派本願寺代表者南條文雄、外務大臣西徳二郎宛、本日を以て聞済となる。	
		7	菓子、白山氏へ20銭。	
		8	菓子10銭。砂場、西依氏共26銭。	
		9	伯刺西爾、北条太洋へ郵便10銭。	
		11	豆5銭。	
		12	煎餅5銭。豆2銭。	
		13	菓子5銭。菓子5銭。補助2円70銭。	
		15	黒、赤インキ、木筆2本10銭。	
		16	菓子3銭。	
		18	菓子と花12銭。倶楽部積金30銭。	
		19	月謝50銭。菓子代3銭。	
		20	豆3銭。剪髪7銭。	
		21	羊羹3銭。筆2本4銭。	
		23	芝浜館へ行く、74銭。菓子6銭。下駄38銭5厘。	
		24	切手代2銭。	
		25	切手、羽書10銭。菓子3銭。提灯12銭。「天頂山浄蓮寺境内図」を複写する。	
		26	豆2銭。	
		27	花など6銭る	

年	月	日	事　　項	参　　考
31	1	28	最中5銭。	
		29	傳中へ菓子5銭。手拭5銭5厘。菓子10銭。官話輯養5銭。	
		30	反省会1円12銭。安本来費など33銭。	
		31	食料3円。今月支出総計23円18銭。	
31	2	1	郵便切手3銭。白足袋15銭5厘。	
		2	倶楽部積金30銭。筆1本ペン先2本4銭。先月付落ち5銭9厘。	
		5	郵便切手10銭。	
		6	状袋1銭5厘。菓子3銭。切手3銭。登より書簡届く。	⑧下155-159p
		7	花王石鹸7銭。同入物3銭5厘。入湯2銭。詠帰舎月謝1円。	
		8	筆一本2銭。	
		9	手本21銭。	
		10	切手10銭。	
		11	筆、湯、豆6銭。	
		12	剪髪8銭。	
		13	菓子11銭。耳掻き3銭。	
		14	法言より、院内の様子を知らす書簡届く。	⑧下161-168p
		15	「佛教」第135号掲載「苦楽逆練」天頂山のペンネームで投稿。	⑥196-202p
		16	「梵学第13号」を書き始める。「梵漢英対照諸乗法数」を記述。	
		17	御厨子20銭。	
		18	「新宗大谷派講師譜」南條文雄編を写す。切手、Bean9銭。	
		19	斉入より書簡届く。	⑧下169-170p
		20	宝来4銭。寄席8銭。	
		22	湯2銭。掛紙二条、ペン先3本9銭。	
		23	東洋哲学へ切手2銭。	
		24	砂糖5銭。為替、切手5銭。補助1円。	
		25	川蒸気3銭。Bean3銭。寿司5銭。汽車4銭。菓子5銭。ハンケチ6銭。ノートブック3銭。	
		26	羽書2銭。風呂2銭。	
		27	菓子、白山氏へ20銭。砂糖15銭。状袋2銭。切手2銭。	
		28	菓子5銭。菓子5銭。洋紙3銭。食費3円。今月支出総計7円72銭9厘。	
			波佐倶楽部積金満期7円20銭。	
31	3	1	切手、羽書7銭。しるこ9銭。	
		3	食事3人38銭5厘。法言より書簡届く。	⑧下189-192p
		4	西依一六送別会を開く。会費1円。筆4銭。口柳、口費15銭5厘。羽書5銭。掛紙10銭。風呂2銭。	
		5	経緯会例会、会費5銭。Bean5銭。月謝詠帰舎1円。経緯会第2期第1回積金50銭。	経緯会
		8	切手2銭。	
		10	Bean4銭。	
		11	法言より書簡届く。	⑧下199-201p
		12	洋紙、木筆、ペン先12銭。切手10銭。菓子代10銭。	
		14	羽書4銭。	
		16	剪髪7銭。Bean3銭。	
		17	切手5銭。下駄の鼻緒2銭。「梵学廼13号」に書き込み。	
		18	「梵学第13号」に書き込み。	
		19	紅梅6銭。	
		20	菓子4銭。ペーパー6銭。	
		23	葉書5銭。	
		24	菓子5銭。状袋4銭。	
		25	新々文詩1銭。歯磨粉10銭。シャツ63銭。足袋24銭5厘。菓子5銭。かけ上田共8銭。九段12銭。	静子同伴
		26	洗濯仕立23銭。風呂2銭。洋食85銭る	
		27	目鏡迄6銭。浅草迄馬車上等8銭。写真35銭。菓子5銭。菓子5銭。達磨15銭。馬車6銭。	
		28	切手4銭。子安善義あて書簡を発出。	
		30	菓子5銭。切手、葉書10銭。食料3円。付落ち7銭6厘。	
		31	今月支出総計10円79銭1厘る	
31	4	1	詠帰舎月謝1円。経緯会第2期第2回積金50銭。	経緯会
		2	三管筆10銭5厘。	
		3	下駄前皮6銭5厘。人力及び馬車19銭。寄席15銭。	
		4	湯2銭。掛洋紙2帖7銭る	
		5	Bean3銭。	
		7	馬車、日本橋より上野6銭。菓子、斉藤へ5銭。菓子、松田、内へ15銭。	
		8	剪髪8銭。風呂2銭。車も降誕会14銭。Bean3銭。	
		11	靴皮直し10銭。菓子、古田、九段10銭。洗濯3枚11銭5厘。	
		12	池上へ、静子と2人で出かける。一泊して「池上にとまる」の歌を書き残す。池上行、菓子、汽車中等、	⑭198p

年	月	日	事　　項	参　　考
			宿料、茶代、車など4円91銭。	静子同伴
			【池上にとまる】	
			さいた桜江向嶋　　花の主とハ手をとりて	
			新橋たって大森に　　さらに池上さしてゆく	
			明保の桜のなが免るハ　　羽田の海の鴛鴦が	
			こころ一つに身はふたつ　　まことつくしの水あそび	
			とふく見ゆる遠げしき　　あの雲こゑて外国の	
			遠き旅路にたつわが身　　今宵ふしどこひとつねハ	
			志ざし己られのなごりをし　　羽田の鴛鴦ハ池上の	
			鐘にゆめをぞさますらん　　森の取はとくおきて	
			あそひさし込む明保のの　　あまどひきあけをき出でて	
			西と東にユくる身の　　その行末ぞいぢらしや	
			浮雲の　たよのなき身の　行末に　いづくの山ニ　かかりいてなり	
31	4	13	切手2銭。食費3円。	
		16	そば20銭。	
		17	経緯会例会、会費10銭。写真10枚1円54銭。菓子、井上円了氏へ50銭。菓子5銭。湯2銭。	経緯会
		18	切手、鎌倉2銭。汽車市ヶ谷より2銭。	
		21	ぬめ76銭。古画箋紙12銭。葉書8銭。ピスケット、白山へ40銭。硯箱(芝勧工場)、南條先生へ2円。	
			菓子皿28銭。花かんざし41銭。造花15銭。著筆11銭。足袋三足52銭。蝶造物5銭。車22銭。	
			夕食、安本共42銭。	
		22	羊羹、藤村へ14銭。車7銭。楊枝8銭。Bean、小遣7銭。菓子皿20銭。切手2銭。菓子10銭。傘1円8銭。	
			汽車3円29銭。帰途に着く。	
		23	弁当など29銭。京、車7銭。「梵学13号」に記述する。	⑥236p
		24	下駄38銭。威儀8銭。白山謙致より書簡届く。	⑧下231-235p
		26	剪髪8銭。湯1銭2厘。	
		27	本山大閣上り10銭。宿へ30銭。宿料2円。車7銭。郵便4銭。	
		28	汽車2円57銭。汽車中小遣20銭。車6銭。宿35銭。小遣10銭。	
		29	路費10銭。	
		30	加計宿代27銭。東京菓子皿80銭。広島宿へ10銭。京にて下駄14銭。今月支出総計32円33銭7厘。	
31	5	4	6時発、10時乗船。午後5時出帆。	帰途に就く
		5	5時、御前崎夜明け。午後5時、四日市着。8時迄停車場に待ち吉岡に投宿。神戸に葉書出す。	
		6	7時半発、11時、草津着。子安へ葉書を書き出す。2時着京。春日学寮を訪ねるも留守。桑門も	
			留守。梅田を訪問し桜井に逢い東寺へ行く。梅原に逢って菅学応に面し学応に分かれて鳥羽	
			亭に4人で会食。帰りに、春日を訪ね共に宿に帰り談話する。	
		7	朝、本山両堂参詣。直ちに、渥美、桜井を訪ねる。留守と病中なり。8時より五条から京極まで	
			散歩する。	
		8	神戸に立寄る。	
		12	「東洋哲学」第4編第3号掲載、「宗教学の必要」を投稿。	⑥183p
		15	葉書代10銭。南條より書簡届く。	⑧下241-243p
		17	切手40銭。	
		26	谷了然より、開教事務局を来月上旬に開く旨の書簡届く。	⑧下261-264p
31	6	4	為替書留18銭。	
		5	「天頂山晩鐘」、「発情歌俗作す」を詠む。	
		6	郵便8銭。書留14銭。羽織、袴、帯、足袋14円。西依一六より書簡届く。	⑧下265-p
		16	斉入より書簡で、病気入院中と伝える。	⑧下269-273p
		19	状袋5銭7厘。	
		23	斉入より書簡届く。	⑧下275-279p
		26	斉入より書簡届く。祝いには帰らない旨を伝える。	⑧下281-284p
			石川舜台より、8月上旬見込との書簡届く。	⑧下285p
		29	佐々木静子と結婚式を挙げる。	
			南條氏より、石川氏より承るところ、支那行は早くて8月中也。出発前には、今一度、東上をと書面。	⑧下294p
31	7	16	「浄蓮寺蔵書目録」の編纂に取り掛かる。	
		21	名古屋より南條氏から「兎も角も大奮発し事なれば初志を貫徹」との書簡届く。	⑧下317-323p
		28	「浄蓮寺蔵書目録」の編纂を終える。分類を7種類に分ける。 1.宗乗之部(天函・玄函・黄函の3箱)、	浄蓮寺蔵書目録
			2.餘乗之部(地函・黄函甲乙丙の2箱)、3.漢籍之部(宇函・宙函・へ函・ト函の4箱)、4.国典之部	
			(壱函・2函・参函の3箱)、5.宗乗末書之部(イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・チの6箱)、6.雑書及勧之部(四・	
			五・六の3箱)、7.當用之部(龍・蔵の2箱)。御堂用書之部、石峯文庫・別冊図書目録1冊、別函文庫	
			と詳細に分類。合計24箱。目録所載書籍数860部、1,757冊。他に雑誌120冊。本山報告書数10部。	
31	8	5	小遣56銭4厘。静子衣服代6円50銭。	
31	9	6	安藤弘より書簡届く。東上時期を知らせてと伝える。	⑧下331-333p
		8	南條より書簡届く。	⑧下335-339p

年	月	日	事　　項	参　　考
31	9	12	斉入より書簡届く。	⑧下341-343p
		15	石川舜台より書簡届く。	⑧下345p
		22	才乙村岡田所蔵の「岡本家系図」を謄写する。「専光寺世代記」を記す。	
		24	「先祖系図大略」完成する。	
		30	「波佐史私考」草稿完成。※波佐の中世史、近世史を纏める。	
31	10	4	半晴天。6時晨起。勤行終り、8時出発。数10名見送。浄蓮寺を出発。馬の原虎若にて、春谷氏、	渡清日記③221p
			志津(静子)、寺田、尻の切等々に分かれ、11時麦生着。妙蓮寺(4)に立寄り橋山を経て杉原、金崎に	
			立寄り、上田の事に関し談話。弁当して3時発、6時半加計香川着。年回に付き、隣家に宿す。	
			静へ私書。行程8里	
		5	曇天。朝6時、加計発。2時半広島着。川里18里(新道12里の所)。直ちに6丁目桑門氏を訪問。	
			5時半帰宅。池田氏所にて晩餐に預り。岡本法幢、麦生冨郎へ2本葉書。直に車にて横川停車場	
			に至り、6時57分夜行。191哩。	
		6	晴天。朝4時59分、神戸着。車にて江谷へ回りて登の新宅へ6時半着。中森隠見へ葉書。	
			午后1時2分、三の宮発3時20分京着。47哩。下珠数池田屋方投宿。夕方、水野来訪。入浴。	
			新佛、御願等金相渡済。夜菅君を訪問し、8時半帰宅。就寝。	
		7	晨朝、本山参詣。両堂拝礼。朝、石川氏留守宅を訪問。9時、本山出願。出京届を出す。	
			「今回西蔵国探検の目的を以て、清国へ渡航内定」通知を本山へ差出す。	
			太田祐慶氏に面談。数日の内、3手続を致すに由りて、東上可致旨談話。外務省へ機密よりか成田	
			安輝探蔵の計画ある由。午睡、入浴。南條氏へ葉書を出す。本山へへ招状を返戻す。午后、菅君、	
			水野、淀淵来訪。菅君と囲碁。晩食を終へ京極、四条辺へ散歩。分かれて9時帰宅。	
		8	本山参。少雨天。午前、本山泉湧寺門前に春日祐君を訪問して東京松田の用事を済まし11時帰宅。	
			午后、午睡。国へ新聞及び葉書を出す。叉教学報知を見る。本日、後藤及び伊藤、渡清の由。	
			水野新聞持ち来る。夜、和田康道君(本山役員)来訪。	
		9	好天。本山参。午前、太田祐慶を訪り語話せずして帰る。菅君来訪。昼食を共にして共に午后、	
			二条、川上貞信氏を訪問。西蔵談。非常に盛んにして甚だ快。二条より汽車で七条に5時帰る。	
			菅君この記を作る。夜、春日来訪。松田送り金5円預る。水野、麦生冨郎より書面着す。	
		10	好天。本山参。太田を訪う。昨日東上決す。本日、摂光院渡韓と成る。四条散歩。国へ新聞出す。	
			夜、菅君訪問。共に四条京極行、狂言を見る。	
		11	好天。朝、西本山参詣。大橋敏君に面会。大学林に大久保、及紀開蔵両君を訪問せり。「西域記」	
			を読む。内務大臣付石川舜台、監獄布教宣教師問題、文部大臣、民主同間、新紙上八ケ間敷、	
			本山寺務所に行、石川帰山。太田に面談す。東京行は取やめ。	
		12	石川舜台師に面談、上海行に決す。寺務所で太田に逢い、寄留の事を話す。松見録事に逢う。	
			今日、皇太子殿下京都行幸奉迎、東西並に各宗派管長玄関前に奉迎せり。此夜、西蔵国探検に	
			付、見込書を認め、凡4枚かく。家兄及静宛書、書認め夜10時半寝る。	
		13	本山参。家兄宛書面出す。近況を報す。静へも同封。西蔵探検見込書　第1目的、第2通路、	
			第3西蔵、第4言語、第5年限、第6費目(及追加)、履歴を編纂せり。晩、和田康道君承事を訪ひ、	
			大に談話、おもいつくして9時帰宅せり。天気。	
		14	朝参詣。巧如上人御祥月。見込諸書き終り、本山寺務所に行。太田祐慶に逢い見せ預け置く。	
			午后、本山御逮夜、夜参る。南條師より葉書着。国元へ報恩講に付、両御前へ香を呈送し、	
			叉葉書を出す。名古屋在南師へ書面出す。天気。夕、北方茂氏を東洞上珠上る米沢に訪ひ、	
			氏は肥満、45、6の年業、支那通を以て任し、本山渡清生を卒ひらるる由、29日頃出発。	
			夜、松見得聞録事を訪問。快語10時を過ぐ。大に本山政論(15)をなす。本山の弱点を論破。	
			其他諸事を語す。安藤弘君より深切の書面着す。出雲路を訪ふも留守。七条辺散歩。	
		15	西蔵達頼喇嘛教主獅あて親書を大谷法主が書きあげる。	
			朝事。日中、参詣。「講師譜」写す。国へ教学報知及新聞送る。子安兄より書面	
			着す。毎日、毎日不平不満。鬱々として不快。愉快ならざるはなし。夜、静へ近状及将来の事及	
			心得等を認め、親展書を郵送す。散歩。高島大円を訪ねる。小香炉を求めて帰り、御夕事を勤む。	
			【親書】　　謹　上　西蔵達頼喇嘛教主獅座下	大谷法主親書
			大日本本願寺法主　　大谷光瑩啓	
			西蔵達頼喇嘛教主獅座下恭維教祺安吉福寿円満曷勝額慶西蔵自古仏教盛行風俗淳僕唯因山河	
			遼遠交通不便未曾聞有敝邦人到境観光者洵為可憾本寺茲遺派能海寛親問教主安好并究教法之	
			源流考経文之異同口員始到貴境未通人情風俗而探教求経之業固非容易如蒙茲航指導保護遠人	
			俾伊得窺一班則不啻本寺之幸實斯教之幸也粛此佈懇并請崇安統希慈照不戩	
			大日本本願寺法主　大 谷 光 瑩　　印	
			大日本明治三十一年十月十五日	
		16	朝事参詣及朝事勤行す。安本秀人君、御影御供に上京面語す。太田祐慶を訪ふ。北方蒙氏あり。	
			共に大に支那事情を語す。今明の休日中に書類相しらべて、18、9日頃迄に何とか決定の運び	
			に致さん事。予の見込書は広陵録事の処にありとか。	
		17	本山参詣。覚泉寺へ出逢う。国元報ー為め、晨朝、御勤めをなす。昨夜より本山寺務意見書始む。	
			神嘗祭。午前、水野来訪。大学辺の話しあり。午后、安本秀人来。囲碁せり。	
			夜、教学報知及新聞を国へ出す。安本を一寸訪問。8時半帰宅。夫より一時間報恩講勤行す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
31	10	18	本山参詣。晨朝、勤行す。安本の打敷を買に油利へ同道。意見書かく。	
			覚泉寺父子様来訪。水野来れり。意見書稿成る。五ケ条、数10ケ貢目、8牧なり。8時より停車	
			場及七条散歩す。夜、報恩講勤行。二昼夜の報終る。精進15日より4日間なし。満足に終る。	
		19	朝、覚泉寺父子を能登摠に訪ひ、3人共に出発。寺町、京極、三条、そすい、	
			南禅寺、木上ゲ場、知恩院、祇園を経て、四条より電車に乗りて12時過ぎ帰宅。春谷より書面着。	
			内は静義のみ。出立巳来の様子を知らすなり。水野に意見書を貸、並びに東京遊学を勧む。晩、	
			醒ケ井に伊藤上京や否を問う。未着之由。由て、西洞花上ル竹屋に財間を訪ひ、明慶次男、長	
			尾3人にて旅行に付快談せり。8時出て、安本秀人に寄り、御影荷物を造り手伝い9時半帰宅す。	
		20	雨天。12日前少雨巳来の雨天也。食後、本山参詣。寺務所で広陵に面し、成行を正す。今会計	
			部2回りありて、予も北京行は(北方10余名)廃止。上海、重慶行也。午後、長坂及財間来訪、	
			探蔵、意見、改革等語話。5時すぎに至る。晩、寺川を訪問。13年め。彼始め記憶せず。	
			后、おもひ出せる如し。7時、安本を訪ふ。8時58分。七条発、帰国見送る。御影15幅。軸物に付、	
			2円40銭払う。手荷物にて通らず。ああ仕方もなし。	
		21	岡本より葉書着す。好天。本山参る。意見書清書す。夕方、東寺へ参り、灯明をあげ、叉石をさすり、	
			両足をなぜ、「南無大師遍正金剛」を称へ、「三誓偈」を勤め、西蔵行の安全を祈る。	
			昨今の新聞及教学報知出す。	
		22	本山行休業。太田も不在。和田君を訪問。長く談話し、旅券の事を聞き、直ちに役場へ原籍之	
			証明、戸主の承諾の為、父の方へ願書と2本手紙を出し、新聞も出す。本日は時代祭りなり。	
			午后、御所、仏光寺等へ参る。夜、覚泉寺を訪ひ、談話してかえる。三好香山より葉書着。石川	
			舜台を罰せざるに決し、不当と認めずの返書。内務へ出さるる報を得。	
		23	本山参。石川を訪問。『世界に於ける仏教徒』及(12枚半あり)寺務改正の為献白「議案」を渡す。	
			一々見て受領せり。夫より、入蔵の難、至急取運びの事。旅券東上等の事を談話せり。1時間	
			斗り話してかへる。午后、覚泉寺来訪。新聞及教学報知を国へ送る。叉葉書を国元へ出す。	
			三好香山へ葉書出す。ステーション散歩。総会所へ参る。岡本重昌へ葉書出す。	
		24	本山参向。着代外命日歟。寺務所に行く。4時半七条帰着。水野来。総会所へ参る。	
		25	降雨、夜半来雨下(火曜日)午前、藤川君を中珠今井に訪ひ、山政改革等に付大に談論せり。	
			京都府下葛野郡大内村字八条26番戸　教学報知新聞社　申込所　京都市東三本丸太町	
			上ル七番戸　教学報知支社	
		26	好天。本山参。本田祐護師に逢う。午前、藤川君来訪。本山政論。役員品評等快談。午后1時、	
			寺務所に出つ。昨認めの届を出す。明朝迄、待つべし。確報致すべし。叉来月5日の船は多分	
			間違なかるべし。始めて要領を得て帰る。太田、広陵の2氏に逢て決す。米子出生録事と面せり。	
			由て届書は持かへる。長谷経丸録事。14才で後藤に従て浄蓮寺に来る。予、彼れの小僧幼少の	
			影響を覚ゆ。午後、本田祐護擬講を訪問。数時間語話。帰る。晩、総会所参。五条寺町五橋	
			辺迄散歩。	
		27	朝時参詣。好天。匠綽栄の命日。余間にて早引あり。子安君帰郷の葉書着す。午前9時発、覚	
			泉寺父子、財間、予4人、山科別院参り1時帰宅。午后、御逮夜参。晩、春日、水野、財間来語。	
		28	晨朝参。叉日中参詣。伊太利親王殿下来山に付退出。従者共3名。外随行あり。御勤めあり。	
			為に12時過ぎ終る。静より書面着。無事在国。午后、新聞を出に七条停車場行、帰る。総会所。	
			五ケ条拝読。	
		29	朝、静よりと及波佐役場より2通書面着。朝、覚泉寺帰国に付、いとまの為来訪。11時頃寺務所	
			に出て、太田に面談す。近々との事、今も石川に催促しおく。手続きは万端ととのひおるとの事。	
			長坂冨彦に訪ふ、不在。午后、水野来。号外、憲政党解党の新聞あり。覚泉寺帰国。静へ返書	
			及情状を2枚書く。新聞、教学を出す。停車場に大久保君に逢ひ、入蔵難を話し、総会所へ参る。	
		30	博物館行。梵本は仏頂尊勝陀口尼及仁応経二巻のみ。系図、古書類おもしろし。南條師へ書面	
			出す。午后、祇園坐に各宗有士の監獄問題に付演舌あり。子安へ葉書出す。総会所へ参る。	
			静へ留守中の心得書をかく。晩、総会所。	
		31	父より調印書面来着。本山より何の沙汰なし。内に蟄居、遺憾やる方なし。苦境明状すべからず。	
			八方ふさがりの比にあらず。向く方一として凶ならざるはなし。財間来語。借金して10円丈宿に	
			払ふ。本田氏を訪ひ、安心語をきく。晩、総会所。	
31	11	1	筆を改めて本月の日記を創む。先月か実に愛別離苦。本山尤厭制不寥極まる。不快千万逆境	
			不満の月終り。午后早々寺務所出頭。太田氏に面談。財政の究迫の為に寺務役員月給未渡	
			状況より石川に於て、会計の政算なくして急に招懸たる為、其外の迷惑を掛けたり。遂に21日に	
			なるなりと。予、更らに方角を失す。只東京行を許されん事を乞う。太田氏云く、予がはからひを	
			以て取はからうべし。「今さら引あげて帰国する訳にも行かず」。実に肺肝より出づなみだ禁ずる	
			不能。大師堂側に泣を拭ひて帰宅。「波佐教会案」、「東京仏教会堂案」を稿す。終日在宅。晩、	
			総会所。七条行。	
		2	終日在宅。午后、長坂、財間来。囲碁。晩、総会所、七条行。本山より沙汰なし。	
		3	午前、水野来。安心語す。午后、冨彦に長坂を訪ひ、同人兄及財間し語話す。海上平穏無事。	
			参る。七条行。静へ一日認の留主心得、外書信を出す。毎夜、新聞を出すは例也。	
		4	京都清水堂参詣し、正面大絵額賛を写す。本山参詣。午前、午后、西大谷及清水へ参詣。額文	
			中縁起を写して帰る。本山より何の沙汰なし。本日は晴天の所、時々に狐の嫁入と云ふ。日照し	

年	月	日	事　　項	参　　考
			つつ降雨。叉虹たつ。晩、和田康道君を訪ひ、種々語話す。九時帰宅。	
31	11	5	本山参。直に石川を訪ふ。彼曰、今の会計は非教学者にして、2、3日前大議論あり、かかる会計	
			ならはやめて仕舞へと迄云ひたり云云。12日行に決すべき旨申され、太田へ書面来し、由りて	
			太田に行く。会はずしてかへる。10時、寺務所出頭雛に面し語す。上局に聞正して云書面。今	
			総務に行あり。かへるべし。其内に一所にかへらずは直にとりにつかわし、開教局へ回し、直に	
			辞令書渡ししむ。帰途、能登の人、桑門現祐君に面し、監獄事件に付事情を聞く。総代として上	
			る織田のひれつ手段を攻撃せり。彼れ内務の機密費を杉田定一の策にて使ひ運動すと。	
		6	神戸を経て静書面着。朝、雛径丸を訪ひ、和田君来り、共に太田に行。東行決し、東行旅費受取。	
			本山にて一寸語話してかへる。午后、北方を訪ふ。干時桑門至道氏に面し、室に至り改革談大に	
			すすみ、4時過ぎに至る。夜8時8分、七条停車場発。東上、夜行。	
		7	午前11時半、新橋着。好天。直に麹町南師邸に行。午后、語話に消光。夜、九段に行く。	
			臨時祭にて花火あり。	
		8	午前、外務省出頭。二橋氏に面語。蔵行之事政府外務省の意傾を聞き、特別保護の話をなす。	
			午后、本郷行、斉藤竜作、松田光道を訪問。帰途反省会、日華学堂により高楠、秦、桜井に面し、	
			夫より安藤君宅による。不在、帰宅。西蔵の経文を得る事。個用を得る事。阿含経、露国2千万	
			弗を払ふも、尚経を渡さずとそ。其得がたき可知。「チョーマー」其内2部を厚恩により得たり。	
			而して印度及英国の両亜細亜学会に寄付せり。	
		9	西依、藤堂、石丸、岡本へ葉書出す。午前、松本菊勇君を訪ひ、清国近状を聞き、芝を経て宝亭	
			送別会に行。古河、白山、古田、青年会へ寄る。面会を得ず。午后、面語す。午后1時。神田淡	
			路町一丁目宝亭で送別会を受ける。夜、白山来訪。帰途、詠帰舎(16)へ寄る。宮島先生に面し、	
			清国の状況を聞き、規則書を和漢40部預り、重慶其他支那へ配分を頼まる。安藤より葉書送	
			付。先生より薄贐一封、千金丹8、感応丸3、万金膏30、宝寿30、以上薬71包拝受。	
			【送別会参加者】 安藤弘、境野哲海、田中治六、三石賤夫、三島中洲、梶宝順、渡辺鉄海、海野	能海送別会
			詮教、梅原融、桜井義肇、秦敏之、枚村廣太郎、近角常観、宝閣善教、古田復之、南條文雄、高嶋	
			大円、の17名。普通教校、文学寮、反省会、経緯会、詠帰舎を通しての友人たちであった。	
		10	朝、6時20分新橋発。宮嶋大八、青柳、松本、濱田、宮島、向山、新橋送らる。夜8時52分、京	
			帰着。与けは叉叉叉叉延引とは、あきれ果てる事也。三好香山及南條師と2本書面及葉書着。	
			本日、中泉停車場にて皇太子殿下御乗汽車と會合致し龍顔を拝す。特に我等の方に向ひて座し	
			玉ひし為に御相好能く拝す旨難事なり。東中2件程ケ谷車より汽車併行下進せるは一奇なり。	
			京都駅に着く。	
		11	雛宅に行。明日一行出発と聞く。始めて聞き和田を訪ひ、長坂、北方、尾張を回り帰り、朝飯直	
			に本山行。服を受取り叉喇嘛へのを受く。夫より金を受取る。東京往復10円78銭、並に西蔵探	
			検費1,000余円の内3分の1,370円受取これ重慶迄の旅費及重慶5ケ月滞在費並に北京旅費、	
			在京滞在費也。これより法主へ拝謁、次て御戸御礼あり、一同帰宅。旅券受取る。午後、瓦町	
			大黒屋に地図1、字書3求め、京極四条にて支那かばん、毛っとを求め車にて帰り、大久保、長坂、	
			春日、鍬門典、よど、水野、登等来る。夜5時中村に送別会行。石川の話あり。7時半帰宅。水野、	
			登、予3人、汽車にて8時発10時、神戸。	
		12	朝、常葉舎行。船切符を求め一行14名の内一名岩崎残り13名。10時半乗り。11時神戸港出船。	神戸港より出港
			西京丸2913トン　船長コンナア氏。同行14名。	
			南條、国元へ電報。国兄、麦生冨、安藤、松原、斉藤同く葉書出す。	
		13	朝6時半、門司着。国元へ葉書及新聞を出す。8時神戸登より電報着(はしけ20銭)葉書にて返事を	
			なす。終日玄界灘を通過する。午前8時、門司発、夜11時長崎着。海上平穏無事。	
		14	午前7時、長崎上陸見物す。葉書国元、岡本、村長、古和、佐竹、三浦、佐田、水野、西依の9本。	
			書面神戸登、麦生岩次郎、濱田東屋へ3本出す。叉国元へ新聞読了を送る。岩崎(薫)一行に	
			加わる。東中町最勝寺、長井大幢君を訪問す。市中を巡回す。同夜出航する。	
		15	終日、陸を見ず。只洋々たる大海也。船中んし日、清、西洋、各国人雑居。今日は少しく風強く食せ	
			ざるもあり浪をかむるもあり。	
		16	橋本、杭州、原田1人西派、115、蘇州70、夜5時明朝8時上海着。中70本、上2円、下4銭。	上海着
		17	午后5時—午后8時、上2円、中8銭、下4銭、六双(三双宛)杭州、高辰橋堯大東分局、宮坂、	
			米祖界永安里、日清英学堂、甲斐寛中	
		18	漢口雑貨、東肥洋行、泳地を直行1丁斗り。晴天。總領事代理小田切萬寿之助氏に面会。	
			漢口、重慶、2領事へ招待状を案内。領事館にて護照願を私外南京行5名共に出す。正金銀行	
			に50円を黒銀50弗50銭にて引可ゆ。梶、水野、開教局、南京、＊浄蓮寺より書面。	⑨73-75p
		19	午前、諸井副領事を訪ひ以上の成問をなす。午后2時、谷氏帰朝。甲斐氏宅永安里に橋本共	
			3人行話す。午后5時、杭州行発、沼氏1名して一行7名。夜4馬詠迄5人散歩。清国図を求め	
			て帰へる。支那人打架了傷了。	
		20	午前、支那語会話。降雨。船中支那人、日本人、雑居にして話叉混同。洪山 (1)長江の濁れる	
			如く支那人の心濁れり。(2)支那茶如く2、3回の後始めて濃いりなり始めはでず。	
			(3)日本人は日本茶の如く始めて濃く出てあとはなし。	
			(4)日本人の心は日本料理の如く見かけ斗りにて実なし。	
		21	曇。出発届を出す(漢口へ向け)。郵社内郵船会社に行。南京5人、漢口1人の切符付手紙出す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			叉国元へ出立の葉書出し、叉小田切氏へ北京事情を宮嶋氏托して杉原に托す。護照は刷り置き	
			無きに付、明日漢口へ郵送の約束。公園に建碑式あり。正金銀行に227円を替へ娄くメキシコ弗	
			に換える。永安里、江左書院、四馬詠、城内（北門より東門へ）佛、英、居留地にて継て大東汽船	
			社に行。白岩に面す。夫より叉四馬詠に行。布団を得ずして、船中の用意をととのへらへる。	
			夜8時、天竜川丸に乗船。橋本（大東の）、甲斐君見送らる。書物を託され紹介を得る。佐野来見送	
			らる。南京行5人と予と也。この夜、21日午前2時半、出航。登へ書物目録及支那書に付手紙出す。	
			叉国元へ出立の葉書出し、小田切氏へ北京事情を宮嶋氏托して杉原に托す。夜、天龍川丸に乗り	
			込み寝て長江を遡る。勇壮の風景、皆物珍しく見る。	
31	11	22	朝、江子江の境を見るに永天相接し少々たる大河の思ありて江の感なし。王子の春花山にあると	
			やは遥かに傾く臺を見るよりも遠し。〇北方紙り武昌、柳原氏へ紹介名刺を得。叉同氏より漢口	
			支店長森氏へ紹介を得。〇岩崎君より武昌、木野村へ張徳に関し紹介状を得。漢口支店長（交代	
			新前原氏）叉西寺あり。夜、鎮江に着す。大寺あり。金山寺なり。170の僧あり。大釜の数10にて	
			飯をたくと云ふ。夜、互に胸襟を吐露す。夜、23日、午前3時、南京着。北方、一柳、長谷川、藤分、	
			岩崎5氏上陸。互に萬筆を称へて分かれ再会を期す。岩崎君より紹介状を得る。	
		23	（旧10日）午前11時頃、蕪湖に寄る。洋人の宅山上にあり。叉大なる教会堂立つ。十字架一見し	
			て見ゆ。六角の塔あり。高さ数10丈、五層ならん。日本店1戸ありという。汽船7、8双着せり。	
			商業繁昌す。江岸に塔あり。叉島上に寺院を見る。午後4時、大通寄港。南岸、支流にあり。	
		24	朝7時、九江に着。30分余止る。南京行きの先生方と分かれ、小生単独と相なる。江岸高く石垣を	
			を以て城頭、列し外人居留地あり。1時半、東主廳乙第3号佛説大集母逆子菩薩所用経を求め	
			る。5時、黄石港寄港。黄州は寝中にて覚へず。	
		25	午前2時、漢口着。船中に寝る。朝7時起、荷物を仕舞い8時上陸。商船会社に至る。漢陽に伯牙	
			牙臺、帰元寺等に至る。午前10時、東肥洋行に行き緒方氏に面し色々相談す。午後領事館行	
			瀬川氏に面し色々相談す。張への紹介。2時、東肥に行き、劉ボーイを借り、武昌に行き城内を	
			通り武備学堂に行き木野村、村山両氏に色々の話を聞く。	
		26	朝、勤行をす。午前、東肥行名刺のこと。両替のことを聞き、午后を約しめ帰る。午后、西川太郎	
			治氏と昨日のポーイを連れて漢陽に行き伯牙臺（ベヤータイ）（古琴臺）に行く。西川氏求之、之より帰光寺	
			に行く。色々話を聞く少しは談話し叉は筆談す。「金剛経」を得たり。清国漢口大阪商輸公司から	
			南條博士あてに葉書出す。釈迦佛、文殊、普賢、阿弥陀仏、観音等の像あり。定口、此係副寺、	
			寺内3、400の僧あり。夜、漢陽報にかき張雨泉に逢い筆談せり。東洋の同盟を話す。	
		27	朝、勤行。商船支店長森氏宅に行き昨朝宜昌より帰漢の話を聞く。午後、武昌より木野村志来られ	
			張之洞への頼みのこと。両3日中不定のことを聞き実に明日頃出発の考への処数日滞在に決し、	
			直に、午後4時、東肥洋行へ転宅す。＊水野斉入へ書簡出す。漢口大阪商輸公司滞在中。	⑨73-78p
		28	朝7時起。洗臉。大経上経讀了。叉正信偈。9時朝飯。支那名刺をたのむ。	
			3時過ぎ書屋に本買に行。市原君同道。地図12巻物を求む。この日精進。人々涅槃江を話す。	
			晩、談話す。杭州、沼氏宛書面認む。	
		29	反省会へ原稿6枚送る。「西蔵探検の方法」。開教事務局。南京。沼杭州。国元、静以上、5本の	
			手紙をしたため、内支那より2本出す。領事館より、この晩の食を招ばる。夜、領事館小田切、森、	
			前原、岡、予、瀬川夫婦、宮、外領事館官2名の会食す。	
		30	午前尓る森氏宅に行。固陵支那上等乗込の許をたのみ其周旋にて之を得たり。船中にて拂うこと	
			なり。両替墨弗、195円を銀魂136両8匁9分に替へ、叉銅銭2,700文を墨銀3弗にて替ゆ。	
			出立の用意買物等をなし。森、領事、漢口から、第2回、本山上申書を出す。商船社に暇乞を	
			なしに行、帰へる。反省会、開教局、国元静へ3書面。登、岡本、石田、藤本、小林久の5葉書を	
			大井丸に郵投す。農商務省取調員外留学生、今朝、10名斗りあり。	
			午後5時30分に固陵号に乗船し漢口を出発する。	
31	12	1	雨天。午前7時半晨起。言語不通。或は予を廣東人と云うあり。洋人はフィヂー人と云う。9時半、	
			新提（シンテイ）に寄る。小町なり。12時中食。味中々よし。昨夜、漢口より60清里に金口あり。	
			午後2時、洞庭湖の入口荊河口（チンホウカヲ）に寄る。只砂岸のみ。潮南省の辺岸は茅如きものを刈れり。	
			報告書を読みくらす。	
		2	7時半起、顔を洗い、8時半、食て甲板散歩し、事務員室で半話半筆にて談す。船中の雪隠は	
			3人並びにて糞す。何そ行くことを得ん。これは支那流に閉口せり。午後3時、沙市寄港。横田氏	
			名刺を得楊持帰る。晩食后、沙市散歩中に七層塔見る。曳子及び頭取をスケッチする。歌を詠む。	
		3	夜中は空しく船碇泊して昼間航す。故におそし。本日大に気咽を吐く。梵、漢、英、大経を読み聞か	
			せ、叉字同音不同、俗服不一様見僧服一様見と云う。	
		4	午前9時、南岸に虎牙臺の好景を見る。寧石の大橋を見る。午前11時宜昌港に到着する。	
			大房桟に投宿。第3回本山上申書を出す。	
		5	瓦罐子。木野村氏へ書面を出す。午前10時より12時迄、城壁の上に沿って1周。1里余なるべし。	
			関帝廟より、城外広大の墓地。人異等を見、鼓様あり。支流あり。12時帰宅。今日は支那流食事	
			2回し、午後、冬の行水をなす。漸く船を得て、午後5時乗込。大方番当及楊が見送りに来る。	
		6	朝、食事の粗末なる。きらずにて閉口。扨叉一度外人の目を避ける為に船頭室に押入れらる。	
			今朝再び「産語」を讀み始む。序文、跋文に照して大に得る所あり居り候。蔵行帰朝後の宗教上大に	

年	月	日	事　　項	参　　考
			考う。プタラの街に一古本を得。ダライラマに一の告を得、教界の大革新図るべし。	
			船中疲れて熟睡を得ず。	
31	12	7	10時、朝飯。洋人4名乗船。11時半宜昌港出航。この日、晴天。陣鐘を打ち報す。宜昌、狭口の	
			＊スケッチを書く。対岸にうつり、20名にして曳く。午後4時山迫り好景。5時、宜昌峡（黄牛峡）	④23p
			に着。碇泊す。この夜、大平台壩に碇泊。この地、南岸に村あり。北岸に船上ある。	
		8	午前、何の為か、数双（14、5双）皆、午前、空しく止まり、正午より出航。三峡皆、午前、空しく止まり、	
			正午より出航。三峡の好景を経て南佗をすぎ上流に止まる。干時、4時半。本日、好天。ズボン下を	
			ふくろべ縫いなどせり。＊平善壩、南沱の景色をスケッチする。	④24-25p
		9	朝七時発、黄陵二灘等を住て獺洞（タートン）の下の急流に一時間余を費し、復地に泊す。ザボン一つ、	
			1文2厘魚を買う。＊黄陵廟をスケッチする。	④26p
		10	朝七時発、新灘に於て2ケの急流を越す。西岸数百戸の家あり。叉両岸寺を見る。	
		11	今日一日は、やそ坊主の日曜だなどとぬかし、馬鹿の頑固の休日を固守し、空しくこの僻村狭き室	
			内にあり、クック及ババアと語して大に不平をならす。ミカン、乾魚を得て食す。泣きたくなる。	
			＊半峡口、新灘廟をスケッチする。	④26p
		12	楚古城跡。死帰州及帰州を経遥かに高山の頂を見しや。昨日の徴雨は雪なりしと見へて白雪を	
			頂く、石炭を産する地を見る。紅船を見る。急難を救う船なり。＊楚古城跡をスケッチする。	④27p
		13	本日は洩灘の下流2、3丁より進し14、5双の順を待て、灘を4時半にすぎ	
			2、3丁の上流に泊す。終日に清国1里にすぎず。	
		14	9時半、牛口灘をすぐ。北岸七層塔の寺を見る。12時、巴東県をすぐ。寺2、3ケ所あり。灘あり。	
			この地へ電線山を越へて通す。非常の急流をすぎ「ターシャー」に泊す。南岸の江辺なり。	
			＊「奪無」の題字ある場所で、船を引く様子をスケッチする。	④27p
		15	御命日。精進、勤行す。本日、四川省に入る。即ち布袋口に於て湖北四川の境たり。この地より	
			石牌を見る。急灘の数所をすぐ。5時過ぎ「無奪」と題せる橋橋（石）下をすぐ。江辺に泊す。	
			岩下無名の地なり。南岸。	
		16	揚暁発。夜来強風。冒寒者多く。老板クック、小供、予の与へた薬、宝寿を服す。順風に帆を上げ	
			快走す。11時20分、巴山県に到り、対岸に泪す。急灘を上らんとして、瀬の為4、5丁流さる。	
			後1時上り、尚急流、他船曳縄を切らし流さるること2灘10丁余。予らは一灘なりしにに彼れは之	
			に倍す。気の毒千番也。昨日は、伯す。伯所尚急流。夜来、水声ゴーゴー。旧11月5日。	
		17	錯開峡、巫山、翟塘峡。朝、一灘をすぐ。この辺灘所々にあり。昨夜、入蔵難、負傷の不可止の	
			夢を見る。本朝、五悪股訓読、五説会の必要を認む。帝都に於て立教開宗すべし。この経文	
			二切りの間を訓訳。	
		18	七双上水の図、薫渓。礼拝日とて例により休航。終日書を読み、叉考ふ。この地黛渓と称す。	
			上る船、下る船、何れも10数双、終日之を見る。他船持参の羊羹を味ひ叉柿を求む。一個4文。	
			午後、＊七双上水の図黛渓碇伯中(日曜)をスケッチする。	④28p
		19	翟塘峡口。薬県塩泉。渡海日記に誌す如し。翟塘峡を経夔門を過ぎ、午後4時、夔州に着す。	
			寧戸に鎖上ず。性急甚しく、叉筆を買ずれば一本と云う如く、悉く意に反す、故なり。晩食進まず。	
			気遣る所なく布団を被りて寝る。其他書くに記されず。想出せば海外に何の因果で来たるかが	
			迄思い、護照はなく、訴ふる所なくくやしやくやし。宜昌発航より13日目に三峡を過ぐ。乗船より	
			15日目なり。＊翟塘峡口をスケッチする。	④28p
		20	午前11時出航。この夔州や北岸にあり。やや広く山辺の城市にして江に臨む所。宜昌に似たり。	
			江辺には茅屋多く泊船数100双あり。語の通ぜぬ為に大閉口。クック来りて仲裁をなせり。	
			安坪の一里余下流に泊す。	
		21	安坪。安坪8時半着。順を待ち灘を越す。夫より4、5の小灘。2、3の大灘を越して、夜東洋子に	
			泊す。この辺急流なり。冬至。	
		22	東洋子。雲陽県。朝、老杉に叉談判なり。到重慶不要銭を□□。この夕、新雲灘に至り泊す。	
			この夕遭難船を見る。＊張垣候廟などをスケッチする。	④32p
		23	霊鐘千古、張垣候廟。「渡海日記」に記す。可見。朝、当航江中最大難灘たる新灘を越す。	
			を天に期して誠す。幸に安全。この夜蛇家嘴に泊す。＊新寧灘をスケッチする。	④32p
		24	両岸大に開けたり。尓れども平地、田を見ず。夜傾斜なり。毎日、朝7時発、五時萬県に着す。	
			対岸に山上及平地に二層塔あり。筍の皮をむぎたるが如し。萬県には鐘鼓楼、寺廟、城あり。	
			対岸砂浜に沿って通り小なり。上流西岸に泊す。船ならび寸の余地なし。	
		25	例により休業。日曜なり。叉耶蘇（クリス）マスの日なり。好天なり。予は誓う。国を救い世を助くるは中々	
			の大事にして之れに及ぼすには予は先ず我一家の真俗をととのへ夫より我檀家及村内の真俗	
			をととのへん。但織上の金を費す。	
		26	白水渓。東南に向て進む。方位全く反す。江面湯気を発す。南温流の来り。寒風に逢う。	
			＊西家佗をスケッチする。	④33p
		27	三層廟。9時到、五林磧（北岸）、無風渡を過ぎ。后2時、西家沱に至る。南岸なり。家7、800戸。	
			遠見美麗なり。3時、石家砦の宝塔、岩上の廟を見る。6時、永奥場（簸算子近方）に泊す。	
			この辺濃霧遠方を見る不能。萬県より晴天を見ず。西家沱にてみかん、野菜を求む。安価。	
			＊石宝砦、三層廟をスケッチする。	④33p

年	月	日	事　　項	参　　考
31	12	28	永奥場（北岸）を7時前発。対岸岩盤を見る。磐石は遂に江中全面に出没し、我数里に及び11時、	
			北岸に渡り同じ盤石の問を航す。降雨甚し、曳つな切れ、3、4丁流さる。この辺江の幅は（磐石	
			中江に島と成る）廣く30余町なり。南岸石垣に「保江」の二字を刻す。この所より漸く磐石を離る。	
			御命日、勤行す。雨大的很那。后、2時20分泊す。	
		29	8時20分発。后3時半、忠州を過く。本日寒く萬県巳来、数日の雲霧漸く晴る。而して風寒むなし。	
			6時20分北岸に泊す。	
		30	7時15分発。南岸に渡り、鄧家沱近方を過ぐ。100戸斗りの町あり。本日風寒むく、50度内外なり。	
			南方の高山白雪を見る。砂金を採収する処多し。1時半、羊肚渓を過ぎ、4時虎鬚子の灘にて	
			一寸斗流され磧洲を過ぎ、北岸に到り泊す。干時6時半。	
		31	酆都県。前7時15分発。9時、高家鎮到。南岸。10時半、宝塔を見る。一時、磐上に乗り上げ30分	
			間にして過ぎ、5時、酆都県に至る。半里（日本里）斗り、上流に到り、6時40分泊す。	
			本日は年末の事なれば午後、掃除をなし、湯をつかい體(からだ)を洗い。シャツを着替へ、少々	
			の物を買う。ハンケチを2枚与へ歳暮とし柑五個を仏前に供へ荘厳をなし仏前にて歳暮の御勤めを	
			なし。晩食には牛肉を貰いポーサ°イにて食事をなす。夜は、勘定をなし、ロウソクをつけて、今、	
			7時40分、この記をなす。昨年は南師の宅にあり。本年末はこの酆都県にあり。昨年末は娑婆	
			にありや。又何れに如何しておるや。前途を思へば闇黒なり。本年の概要をば渡海日記末に記し	
			置けり。為す事なき年なるも、又平年よりも特筆すべき事ある年なりし。明年は果たして如何、	
			暫く記して今年を送り来年を迎へんとす。清国四川省酆都県半里上流北岸碇泊、英人船室にて。	
32	1	1	本年の前途は如何、歳暮何処にある哉。午前7時半晨起、沐浴。8時半勤行。小経正信偈。	春秋日記
			念五、読三。9時、皮万12個、砂糖附。以て餅に代用、食事終り。三首を詠す。	
			今日、上流に向かいし船。大船3、40双。小船は4、50双なり。17，8丁上流北岸に滞在。	
			元旦　ゆ免のよは　くめど満たびじの　ゆめとても　よきゆめむすべ　ゆめの中にも	
			前途　月と日と　我身もともに　東より　ことしのくれは　西におちつけ	
			月も日も　我身も西に　入りてこそ　東のそらにまたのぼるなれ	
		2	午前5時20分前解纜、夜航2時間斗り也。6時晨起。沐浴勤行、三々。8時、馬頭子。10時、南沱	
			を過ぐ。1時、深渓を北岸に見。2時半、甑瓶磧なる島にかかり、3時、浅洲（岩礁）に乗上げ、船底	
			を損し1時間漏水を修覆し、5時に島の端に達し、6時半、北岸に泊す。＊曳子及び頭取をスケッチ。	④34p
		3	前5時半発。7時、新場を対岸に見る。8時、北岸に移る。11時半、湾州に着。12時半発。これより、	
			利正園の塩倉を見て、3時50分、李渡に至る。6時10分、李渡より10清里ばかり上流に泊す（北岸）。	
		4	午前7時15分発、降雨遅々として進む。剪刀峡、江幅一丁にすぎず。11時、寧石に至る。＊三目鏡	④34p
			橋をスケッチ。10万を費すという。5時、石家沱に至る。開市にて露店等多し。6時40分、北岸泊。	
		5	7時20分発。朝、潮水の如き峡を過ぐ。風景好。11時20分、七層の塔の下、張桓候の廟を見、其灘を	
			すぐ。一時、長寿県に至る。対岸大砂原なり。水牛を見る。扇背沱をすぐ。6時40分、北岸に泊す。	
		6	6時40分発、2小灘をすぎ、洛磧を過ぐ。老板女に明天到不倒を問う。昼は平座して膝痛く、30余日、	
			2枚敷外に一歩も出でず。4時10分、本東司に至る。小峡を過ぎ南岩の端に泊す。	
		7	6時15分発。11時、難灘にて4、5丁流される。生きたここちなし。南に洛磧を見、峡を入れば、	
			3時10分、唐家沱にして、出船、入船千双、上下船を査する地なり。唐家沱等に住て大仏寺に日没し、	
			夜8時半、重慶朝天門下に着泊す。夜景、神戸港の況、寒快なり。＊扇背佗をスケッチする。	④44p
		8	前9時、上陸。小梁子街、日本領事館に投ず。井戸川、原田、加藤、武田、諸氏と面し、喜び無限。	
			朝は、領事館に食し、昼は堺、武田氏の所に食し、夜は、井戸川氏の客来に宴会に列す。	
		9	井氏の談話により、護照願書、又居住届を2通宛出し、森田氏と談。昼飯は領事の御馳走にあづ	護照
			かる。昨朝、岡本重昌の葉書、登より手紙、南条氏上海、重慶、2領事への照会状入の書留着す。	
			夜は井土川、原田、成田氏の宅に談会話。それより堺氏室にて前途及滞在の諸事を談す。	
		10	午前、おそく房子を掃除致。午後、買物机を求めその他、器具類。支那人教育を見たり。晩、成田氏	
			と来談。西蔵、支那の事に関し2時半迄談す。	
		11	支那人、重慶、最富家の兄弟粛2人及老杉来訪。大に語話せり。夜3時迄成田氏室に行き談話せり。	
			蔵行、仏教等の事なり。手紙を3通認める。	
		12	昨夜、3時伏し。今朝10時半、起床。支那人蕭2人来る。学生来たり話す。国元、東肥へ書面出す。	
			髪をつむ。＊京都の水野へ書面出す。	⑨81-84p
		13	午前6時起。原田君と楊先生に行き、語学を学ぶ。重慶から、第4回本山上申書を出す。	
			南條、水野へ書面出す。	
		14	楊先生に行。又遊君来談。今日より会話を遊君に改め長く談話す。晩、勤行せり。今日、彭（ペン）	
			という従僕27才を雇う。	
		15	朝、善哉を作り各人に供す。格氏へ名刺を送る。寿法主御命日に付勤行。加藤夫人より書、みかん	
			を送られ、成田氏より恵心、書、筆入物送らる。成田、堺、原田、武田来る。加藤子2人、支那人	
			参る。佐良にて勤行。	
		16	勤行し、朝2時間、游より会話を学ぶ。下午東陽門城外神仙洞を散歩。道士寺を見る。月謝談判	
			3吊文と決す。粛兄より初七日、餐応に招かる。	
		17	午前、報恩寺に行き寺を見る。午後、蕭氏に招かれ花園に行。茶菓を食し、見物す。	
		18	10時10分、游君及下人連れ12時、浮図関（城あり）に至る。1時半、石橋舗の駅に至り、中食す。	
			3時半、花厳寺に至る。夜、談話。道中、3人茶代、草鞋代240文。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	1	19	金氏から＊中国語を学ぶ。この日、成田、原田氏来れり。施食あり。乞食如き近人1,000余集まる。	④14p
			夜、大和尚及糾察両人の話、茶話会をなす。花厳洞を見物す。納骨灰所睡仏。仙跡等あり。	
			橋下の偈を写す。夜、11時迄談話。今日室を変えたり。和尚帽子500文。	
		20	朝、再大和尚茶菓をよばれ、梵文彼り及シャムロ語の経典を見る。11時発籠に乗り、4時半帰宅。	
			静、国元より手紙着す。この夜、原田氏来談。西蔵僧を道に見る。	
		21	午前、語学。この時、貞宮殿下の死去の沙汰あり。領事に行き見舞す。晩餐後、食堂において	
			加藤氏来られ余蛮子降伏佛国布教師返へすとき話等10時迄談話す。	
		22	羅漢寺見物。后、唐家花園行。帰途嘉陵江を下る。奇談、千厂門に着き帰る。同所には武田、堺、	
			原田、予、遊、僕1名、6名なり。夜、加藤氏宅に行き雑談。手帳5冊180文。	
		23	午前、語学。午後、書面認め上海白岩、甲斐2氏、宮嶋先生へ書面出す。本山寺務所より書面着く。	
			宣教師帰着。曇天。日記帳を新たに作る故に其方に記す。	
		24	タルツェント劉氏宛て重慶道弟りの紹介状の文面を謄写する。	
		25	午前、語学。午後、蔵語対語章。夜、西蔵の草書を手習いする。	
		26	午前、移房園。午後、蔵語動詞1時間半。＊同語学(支那語)を学ぶ。中村警部来着。	④15p
		27	午前、語学。午後、蔵語及び修司。晩、村、武、原来語、11時に至る。今日、晴天。	
		28	勤行精進。午前、語学。午後、加藤領事に中村来着の祝宴に招かれる。囲碁す。羅漢寺僧来る。	
		29	午前10時発、老君洞行、400文。原田君、遊君、下人、4名で12時到着。後より江及び此本成2人	
			来る。2時半に帰る。夜、領事に囲碁。好天。	
		30	午前、語学。将棋を打つ。晩、金堂に談話する。降雨。	
		31	午前、語学。上申書を認める。子安、登へ2通書面出す。降雨。この夜、中村氏歓迎宴会を催す。	
32	2	1	午前、語学。午後、上海英字新聞を見、2氏蔵紀行を拝記す。好天。	
		2	午前、遊君と行き「西蔵図考」外3部、15冊(1,650文)を求める。好天。＊中国語を学ぶ。	④16p
		3	午前、語学。午後、迎春に付、見物の為、朝天門、江北城内を巡視す。好天。支那人2人連れ行く。	
			茶館及び麺舗子に初めて寄る。夜、黄粉餅を食す。本日の諸費572文。	
		4	重慶から、第5回本山上申書を出す。午前、語学。書信を認め、本山、国元へ書状出す。	
			夜、成田、原田氏と談す。降雨。	
		5	游氏より湯元をうく。昨日、月謝を送る。降雨甚だし。休業。蔵語を調べる。夜、中村警部より宴席	
			に招かれる。彭氏帰る。	
		6	午前、語学。この頃は、毎日、7時起き、9時、朝飯。2時、中飯。7時、晩飯。11時、就寝す。	
		7	午前、語学。夜、成田氏室に行き仏教上、其の他談話。2時、帰室。	
		8	午前、語学。遊先生の兄難船の話を聞き、二吊文を見舞にし、来月月謝を送る。昨夜、一人近方	
			散歩し、年末の況境を見る。	
		9	夾り休業。朝、嘉陵江上城壁を散歩し耶蘇、天主会堂内医院を見る。蔵記をなす。夜、遠近を巡	
			視す。火砲盛ん対子をかざる。夜中、中村氏宅に12時迄談す。☆中国語を学ぶ。	④17p
		10	早朝、通遠門、佛国領事館近辺金紫門辺を巡視して帰る。正月礼盛んなり。武田氏入院。午後、	
			江、楊2か所年始行き。夜、囲碁1時寝る。好暖天。	
		11	午前、江、楊2宅を訪ね拝年す。午後、領事に招かれ囲碁。晩飯は日本食、赤飯。紀元節なり。	
			夜、成田氏室に12時迄談話。降雨。	
		12	書面を認む静へ。外に午后、武田氏病院を見舞う。曇天。	
		13	強雨。蔵書を調べる。午後6時、前道台任氏離別宴に招かれ、加藤、堺、成田、中村、予6人行く。	
			8時帰宅。加藤宅へ囲碁、1時寝る。	
		14	午後1時より董氏に招かれ、井戸川、堺、成田、原田、予5人行く。轎去回。春谷宛静書面。岡本、	
			冨郎、石田、池武へ4葉書出す。	
		15	午前、語学、游来る。午後、千斯門外南泉寺(100文)に行く。僧不立。中飯出る。尼寺など見て帰る。	
		16	朝、南泉寺僧来る。游来るも業休み。夜、領事室に話に行く。＊中国語を学ぶ。	④19p
		17	午前、語学。漬物をつく。風邪まだ治せずね咳のため苦しむ。	
		18	午前、語学。午後、入浴、休む。今晩、リック李位を解雇する。	
		19	午前、午後、語学。武田氏来らる。夜、堺氏室に囲碁至2時。曇雨天。彭をして勤行に参らしむ。	
		20	午前、教家単語の支那音学。午後、暫く休む。曇天。七書僧中支那三僧の地を聞く不明。	
		21	午前、語学。午後、遊灰色布2匹持ち来り、求める。この夜前クック李来たり口答えし、叩き縛る。	
			彭妻病あり帰省を許す。	
		22	午前、語学。支那の幣を求める。夜、中村支を訪ね朝鮮語を聞く。この夕より西蔵地図を製す。	
		23	午前、＊語学。後にて大に支那の腐敗を語して聞かせり。地図製続。この日頃、北京公使へ日本僧	④20p
			入蔵同行者に付返電す。	
		24	御正月過年の終りにて午前語学。午後、通遠門辺城壁に散歩。五福宮等を見物す。彭僕帰る。	
			上海より佐野、南條師より書面着く。	
		25	午前、御正月。還寿す。成田氏屋舗40両を要す。成田氏送別会1吊(1.000文)。	
		26	地図一枚製し、中村氏の処に談す。午後、及びよるは、武田氏室にて東西文明の特出に付話す。	
		27	午前、語学。地図製。曇天。	
		28	語学。剃髪す。御命日勤行。西蔵地図完成。夜、加藤領事より成田氏送別会に招かれる。	
32	3	1	午前6時、起床。勤行、食事。8時、成田氏成都行、打箭炉へ出発を見送り、1里半余に至り、一同	

年	月	日	事　　項	参　　考
			分かれて帰る。業休む。「国民の友」を読む。降雨。	
32	3	2	語学。時計を正す。2週間に1時54分ばかり進めり。夜、武田氏室に談す。曇天。	
		3	午前、語学。午後、蔵語少し読む。上海白岩氏より、訃音書面至る。	
		4	午前、語学。白岩氏へ書面出す。僧服(500文)出記来る。夜、城壁を散歩、夜景よし。	
		5	午前、加藤一家族と共に野猫谷村に長島の墓に参観、経を読誦し、花春を詠みて帰る。加藤氏の	
			処へ囲碁、談話す。好天。	
		6	午前、語学。南泉寺僧来る。国元より父及び静書面着す。詩あり。	
		7	午前、語学。午後、蔵語少し読む。上海白岩氏より、訃音書面至る。通遠門外に原田君と散歩。	
			菜種花好し。晩、入浴。ミルクを求める。好天熱し。	
		8	午前、語学。午後、体操場を共に造る。入浴す。好天。夜、井戸川室に談す。	
		9	「銅盤子を得るの記」を記す。銅盤子3個を得たり。円形。直径2寸5分。内面銘「宜炙王大吉羊」	
			敷面に建武12年3月丙甲周儀造。顔色は緑にして古色を帯ぶ。質銅製。後漢初代光武皇帝実に、	
			本年より1,864年前の古品にして、日本では、西暦紀元36年。重慶府において来迎仏「西蔵仏」	
			丈2寸7分の西蔵伝来の観音の坐像。銅製に金箔を置く。午前、語学。古董舗を巡回す。	
			午後、話し、読書す。好天。夕方、運動する	
		10	少し会話す。西蔵佛古品2件4個、4両(5.000文)、来迎佛と尊称す。浜田の佐々木勉より葉書。	
			京都水野より書面と「無尽燈」付す。雨天。	
		11	午前、語学。少し西蔵学。浜田の東屋へ書面出す。相撲場を造る。夜、武田氏全快祝い宴会。	
			西蔵行難。領事成都行不行談あり。	
		12	降雨。運動す。夜、堺氏室に談話。盲目火消をなす。	
		13	午前、語学。午後、角力運動。夜、蔵語。曇天。	
			四川省大聖慈寺所有の証録より梵字を書写する。	
		14	午前、語学。午後、原田君と通遠門外散歩。菜種の花を見る。朝、勤行。夜、原田君と話す。	
		15	12時より遊君と朝天門下より乗船宴月橋と大傳寺、王家沱を巡拝し帰る。夜、井戸川氏室に談す。	
		16	午前、語学。午後、市街を散歩する。夜、原田君と連局などして遊び、11時休む。上海別院へ書面	
			出す。晴天。	
		17	午前、語学。午後、入浴及び運動する。蔵語、西派新法主、上海、漢口来の報を聞く。駐蔵大臣の	
			新聞報道あり。好天。	
		18	本日、自料理にて領事諸氏、日本人を招き宴会せり。	
		19	竹田、原田氏共、桂花園行。満開、帰途乗船流下英国新旧領事に面す。	
		20	游君遭難の話ありる曇天。南條師及び小林久太郎2本書面着く。午後、上海為替証を送り本山	
			より送金着す。	
		21	語学。本日、游君同行。打箭炉行を定める。1ヶ月、3両外に食料。彭、僕も帯行に決す。荷物を	
			負わせ1日、100文。食料は別なり。両人共帰泳費を給す。但し、1日、300文。	
		22	加藤氏成都に出発。神仙洞まで送る。午後、武田氏と米領事館を訪うも病に付不口。散歩して帰る。	
			語学少々。成田氏10日、成都着の報あり。	
		23	語学休む。予備買物す。重慶府日本領事館で写真撮る。好天。	**中国僧姿の写真**
		24	成田氏報着す。午食加藤氏によばれる。語学休む。予備買物カゴ、綢油、堺氏と源宝潤票号行	
			400両6銭2分受取る。水野より3通書面着。外に写真、雑誌着す。最勝寺叔父死去(2月28日)	
			方に接し精進す。	
		25	当地出発を4月1日と定む。書信を認。2本。本山上申。	
		26	游顕甫氏と2人、リッテル洋行にて記念写真を撮る。	游と記念写真
			游顕甫は、重慶語教師、成都から峨眉山、打箭炉に同行。彭春亭は、重慶中の従僕。今回の旅行	
			に連れ行く。書信3本認む。好天。多忙。	
		27	書信認む5～6本。出発準備多忙なり。	
		28	葉書認む10余本。御命日勤行。武田氏と談す。皆ね桂花園に行き留守。一人ゴロゴロ過ごす、	
			北京より寺本氏行のこと成田氏荷物のことの報あり。写真五枚代1,280文。	
		29	手紙数10通、書き終る。游氏、毎日来られ奔走尽力せらる。打箭炉へ金200両を送ることを力脚	
			に頼む。夜、強雨。成田氏室に談す。游先生月謝3,000文。写真代100文。	
			石川舜台宛て書簡の内容を要約して水野へ書簡出す。	⑨85-91p
			1.小姓、出外に関しては郷里に対し山命の公報必要有之候に付、辞令書御下附被成下国元へ	⑨340-341p
			御送付願候。	石川舜台あて
			2.小姓、未だ非教師にして国元へ対し其拝命有之迄に昨年春推挙有之候へ共、未だ受領不致候。	
			3.小姓、萬一不慮之変有之候はば家兄法言へ教師御命じ被下住職御申付相成度奉願候。	
		30	重慶から、第6回本山上申書を出す。20銭手紙7本。拾銭7本。葉書4銭16本。投郵函。	
			午後、楊先生、游兄弟及び公館内4名以上8名を五福宮楼外楼に招き酒宴す。荷仕度整す。	
			本日成田氏に金を預け。叉出発届を出す。	
		31	加藤より贈品を受く。游氏奔走尽力。夜、井戸川、中村、堺、武田、原田氏より宴に招かれる。	
			夜、12時寝る。本日、銀を当用に換える。準備整う。	
32	4	1	午前5時半、起床。荷物を仕舞、支那カバン及び西洋カバンを一團として、井戸川氏に託し本国へ	『第七号』
			好便で送りかへさることを約す。火砲3発、7時半、出発。游氏秘書口。従僕彭春亭及び荷物担ぎ	

年	月	日	事　　項	参　　考
			1名。巴口より差人1名の一行5名にて重慶を出発。通遠門外まで堺、武田、井戸川、原田、賀藤	重慶出発
			義規・きふ子、外ボーイ4～5名送り来る。彭通遠門に砲火し大いに失望。彼を打つ。橘柑を分け	
			て袖を分かつ。この日、好天。途中風あり良好なり。清国内地の剣山を越え風光甚佳なり。	
			小梁子3里、7時半発、通遠門3里。両路口10里、9時半。休み30分。浮図関15里、9時半、休み30分。	
			石橋舗10里、11時、休み1時間。黄泥口(300戸斗)凡5里。上橋15里、これより山に初めて登る。	
			山頂、亮風凹10里、3時半。(老関口)。白石駅開館34ヶ所。城口あり。市街145丁頗る繁昌す。	
			5時鴻新官店に投宿す。今日里程計60里。農業　鋤、唐箕、法方、皆日本と同じく以て日本の師	
			たることを知る。叉阿片の花盛りにして立派なり。山一面油光石、これ予は火成岩と思う。奇状を	
			呈す。土地豊繞。水車あり。水牛田を鋤く。蛙の声。游氏悉く歩行。＊「重慶成都間日記」を始める。	⑮157p
32	4	2	6時発、游氏足痛み轎子に乗る。行く事20里にして走馬場に至り、飯館に一休し、朝食事をなす。	
			到白石駅15里。鋤を用いること同じ。只少し小形にして丈夫なり。叉熊手を以て畦を塗る。田の深さ	
			膝に達す。鋤くに水牛を用いる。畦に富豆を植え叉菜種、芥子よく実る。芥子の花の中を行く。全く	
			別世界に行くの監あり。植えたる中に年々植え換えをなし、農法大いに進む。	
			道は、石を敷き、電線2本。換銭実に一定せず。皆一吊文。或は一吊口口と云う。走馬場は、人	
			家3百余戸。繁かの地なり。20余清里の山、金銀坡を超ゆ。山中炭礦あり。叉石灰出産。山中	
			二ヶ所の老関口を通る。山上一休み。1時半、来鳳駅に着し中食す。この地、金銀7～8ヶ所あり。	
			この地迄30里。游氏40里(20里轎子、20里馬)50里歩行。予は、20里轎子。70里歩行。	
			「四川農業及び雑誌」を記述する。	
		3	游氏35里歩行、60里馬。予は、95里歩行。途中阿片吹く所の者、来り200文を借せと云う。大声	
			阿片を吹くものは予の最無嘘の所なりと云う。実に好天にして昨夜の雨白のこともなし。田覇子	
			は、家屋の中を通りず。この所より双眼橋まで中河あり。船なし。茶の菓子を固めたる一魂5、6貫	
			目なるを3本竹にて荷ふ人数を見る。黄葛樹に宿するつもりの所、宿不潔にして大平まで進めり。	
			阿片館の盛んなるを見る。小丘は3、4ケ所過ぎたるも、一昨叉は昨よりの如き大山を越さず、只	
			南北両遠方に高山を見る。水牛叉はなぐりあり。田水を引く水車可なり。蜜柑園を見る。	
			林檎を見る。桐子あり。大いに異なる。茶居場にて位置り。人多く集まる。石塔の上に大木枝をさ	
			かゆ奇なり。阿片田多く花美なり。永川県まで電線2本あり。この地よりなし。食事は、下男に申	
			しつけ、下男冨豆、或はね猪肉、或は、筍等を買い、宿主に申付け煮さしむ。宿には、飯をくれる	
			のみ。菜なし。箸、茶碗、茶瓶等を携帯するを要す。	
		4	游氏、終日歩行。但し、舟60里。6時半、富亨桟投宿。	
		5	6時40分出発。道甚だ悪し。未明に降雨。9時30分、休み40分朝飯。街端より乗馬す。四川の	
			平野を望む寛大なり。2人、馬30里。3時半、銀象街着。1時間余り人即を待ち宿す。夕降雨。髪	
			を剃る。	
		6	6時40分出発。降雨強風。8時30分朝飯。乗轎。9時半、休30分。轎。11時休30分、さつま芋食す。	
			轎。1時、碑木鎮着。2時半、乗舟。発上水。この地にて中食す。河辺の茶屋。舟。6時半一品桟	
			に投宿す。加(藤)氏宿せる所と云う。	
		7	9時発、河は非常に深く、所々に瀬があり湖の如し。幅2、3丁。游氏、馬30里。道悪く曇天。桐	
			の花は、桜の花の如し。履にて50里歩行。3時10分、休30分、茶館。本日は、畠多く、田少し。	
			小山多し。6時蓮池舗に至る。資州に発不能で宿す。	
		8	6時半発、7時半に唐明渡。河を渡るも銭を取らず。8時40分、資州に着く。岩上羅漢洞あり。川	
			に沿うて城市あり。7、8千戸。大館あり。11時半、雙石舗に着く。この近辺は小丘あり2、3清里で	
			越す。2時、金帯舗。100戸ばかりの街。一休し、茶館で餅を食す。行台あり。3時40分、石子嶺。	
			4時15分、石橋舗7、80戸。6時20分、五里店、通順洪桟駅に泊す。游氏歩行。	
		9	6時半発、8時20分、新添舗を経て、9時半、南津駅で朝飯40分。老君舗、飛紅舗、砿成舗、	
			資陽県石梯舗、清泉舗を経て7時15分、臨江舗の福盛官店大上官房に着く。	
			游氏足を痛め豆2ケ。30里轎子。予は歩行。	
		10	6時50分発、石甕舗を経て、8時40分、楊家街へ着く。朝飯。花鹿舗、新市舗、龍橋舗、簡州に	
			入る。7～8千戸。九曲舗、河辺2,000戸の街。初めて前面に高山脈を見る。赤水舗、石の大なる	
			橋あり。7時15分、石盤舗に着く。游氏足痛。馬40里。	
		11	6時40分、南山舗を馬で出発。茶店子、山泉舗、龍泉駅、大面舗、錦東橋、得勝場を経て、成都	成都着
			東門城内へ到着。歩行787里。轎93里。馬75里。川舟50里。重慶から成都間合計1,025清里。	
			成都謡歌　　九曲湾赤水舗　　石盤南山柳溝坡	
			山泉龍泉口死馬　　大面紅蕃生山河	
		12	朝、江氏来られ面語する。9時、江氏宅を加藤氏と同道して訪問する。骨董品街を散歩し、漆箱、	
			西蔵佛、沿革図書等を求め4時に帰る。馬正泰氏に面す。氏は西蔵に行き、蔵図及び四川図を	テンゲーリン寺
			有せられ、井戸川氏へ紹介することを加藤氏より托せらる。	
			古釈迦仏銅製。丈7寸5分。西蔵伝来の古仏と拝す。仏像代500文。沿革地図2，240文(2両)。	
		13	11時発、城内2，3里城壁に上る。煉瓦城にして高さ4丈幅3丈半。一里毎に番所あり、南城門に	
			至る。門口広大、曲湾にして出ることを得、200余所前改修という。城外に小川あり。小舟通ず。	
			橋を渡り、左折して行くこと5里。大石橋を渡り、道士廟青羊宮に参す。青羊宮より3里西南、草	
			堂寺に至る。成都は四川の主府なり。四川第一等の大寺、第一等の人物あり。故に僧は重慶	
			地方に比して趣きあるを見る。游へ2,000文、彭へ2,200文を渡す。草堂寺行き入費200文。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	4	14	成都から、＊第7回「本山上申書」5枚を出す。午後5時、江氏に招かれる。8時帰る。草堂寺より	⑫573-577p
			僧来るも予は留住なり。周氏と10時迄語る。彼は明年日本に行くという。日清の話をする。	
			水野へ書簡出す。	⑨93-97p
		15	東門外下流3，4里馬頭にて加藤領事の開船を送る。10時分かれて雷祖廟を見る。11時に朝飯。	
			午後、北門の西、文殊門に詣でる。200年前に修造。境内40畝。寺禄900畝。僧160人。	
			仏像(文珠院)1.400文(2両2分)。蔵佛三躰(950文)。	
		16	10時発、北門外茶館より游君を返し、彭一人を連れ、12時、昭覚寺に至る。僧は400余人。	
			境内900畝。田地20畝。禅堂100余人、四方に参禅するザり。蔵経楼南版北版両版あり。	
			蔵佛蔵画増り。本堂三大尊、30間余。普陀山、五臺山、峨眉山、九花山、天下四大名山という。	
			蔵佛(昭覚寺)1,200文(1両)。	
		17	朝7時半発、天廻鎮、三河鎮を経て、新都県に至り、北門外寶光寺に至る。門前多くの穀物を干す。	
		18	11時38分発、城内西門入口より南、南門の西方にある満州城を見る。西門を出て支那車に乗り、	
			二仙菴に至る。北門内喇嘛古寺に行き蔵画副2(1,000文)、外に小さき「西蔵佛」(1200文)を得て	西蔵小仏像
			帰る。西蔵経を見る。甘粛より500里青海地方のものなりという。	
		19	留守中、昭覚寺の僧2人来るの由で在宅。游氏をして買物をなされば、剃頭す(50文)。少し午睡。	
			荷物の整理。　蔵仏第五号　甲　護身仏　1寸2分　銅箱入り　文殊院	
			乙　釈尊　2寸5分　銅箱入り　文殊院	
			丙　蔵仏　2寸　銅箱入り　文殊院	
			夜。游友人超氏来る。予は、夕方、柳子口に周氏を訪問。兄弟二人と大に東洋の急務につき	
			離す。彼、日本へ2～3年の内に行くという。談話凡そ3時間。8時頃帰る。東火街を散歩。	
			10時、麺舗を経て帰る。	
		20	午前2時、失火ありと叫び起す。戸を開ければ眼前大火となる。火の手盛んになり、掌櫃に談し、	
			開聞を迫り、宿代銀を与え、道中要人の為両人足及び游氏共に一個ずつ行李を担い予は、蔵幅、	
			カバン等を携え2～3清里に至る。尚鎮火せず。文殊院、尊堂寺、周氏の宅は尚遠し。江氏の宅は	
			遠けれど、火事に近し。3時間程で江氏の門前に至り、30分ばかりで萬有店に落ち着く。	
			午前8時過ぎ鎮火。この騒動で時計のガラスを壊す。火災5～600戸。死者1人。9時半朝飯。	
			この時、萬堂寺方丈、一人の伴増を率いて訪問され、30分面談。前は、漢口の大火数1,000人の	
			死者の思い生きた心地もなし。本山上申一通(成都記事)。南條師一通。宮島氏を認む。	
			周氏東洋語あり。逍氏来談される。時計のガラス直す。	
		21	8時半より彭を連れ、南門外、武候祠に至り、漢願昭烈帝位堂、武候堂、漢将軍諸候堂及び	
			花園等を見る。「石硯武候祠」(300文)を得、叉昭烈帝陵を拝し、帰り南門より城壁上を東門に行く。	武候祠拓本
			城外天主堂を見る。東門内、大慈寺に至り方丈円澄氏に面す。学識あり、2時間ばかり息も切ら	
			ず話す。大に好知巳を得たりる学術上の談話をなす。傳法のこと。梵文のことる目今の上京など	
			なり。后蔵住桜禮色、千仏堂を見る。蔵経桜上蔵経あり。広大なり。画あり。叉万仏あり。泥にし	
			て金箔をおく。明日、印文字を書き贈るという。予もね通戒4ケ吊口を贈る。昭覚寺より法子を持	
			ち来る。不可100文与えて返す。江少、周兄弟、同人友人王氏来談せらるる。水野、国元へ書面出	
			す。周、王三氏と日本仏教の組織等話す。江大より名刺持ち来る。原田君50円にて語学教師を	
			頼む。嘉定への紹介状を得たり。	
		22	朝、王氏来訪。日本に至るという。団羽、諸書し、蔵仏を造らる。予、大阪本願寺及び銀閣寺写真	
			写を贈る。成都から、重慶領事館、水野、南條、宮嶋、国元、仏教学会、反省会、東洋哲学会へ書	
			面出す。＊第8回「本山上申書」を出す。午後、古志堂にて、「印度雑記」、「成都図」(560文)を求める。	⑤315p
			560文。写真館で写真4葉(1,400文)を求め帰る。この時、井戸川、中村、原田3氏来着の報に接し、	
			れ、予不在。直ちに2丁ばかりの所旅宿へ行き書面を届け談話す。夜食、来訪者5、6名。留守中来	
			ら共に10名で晩食をなし、9時頃、帰る。	
		23	日本遊学志望者、成都、周嗣倍。江少翁。王棪。陳。李。　外略之。「四川地図」(560文)を求める。	
			11時半、井戸川、中村、原田、3氏来遊。一同、萬有店へ転宿に決し、共に出て、火事場を見る。	
			1時半、獅子巷、周嗣倍氏へ行き、井戸川氏の在都策談あり。この時、知府官李氏来り。談話の内	
			に餐応に預かり、5時に分かれて、江氏宅に至り、予、明日出立の分かれを告げ帰る。	
			彭に舟を見させむ。舟のある所まで歩行に決す。彭の紹介で賀守典氏を訪ね名刺交換をなす。	
		24	6時30分、成都東門を小舟で出発。蔴柳湾、中和場、中興場を経て、蘇碼頭に至る。80里歩行	成都出発
			10里。乗舟5里。船60里。	
		25	5時発。傳家覇を通過、この地方は小丘あり、阿片盛んなり、桑樹あり。古佛洞、黄龍渓、半邊街、	
			江口、彭山県に入り、夜2時過ぎ青神県西岸へ着く。	
		26	5時発。漢陽覇を経て、午後5時、嘉定府に着く。夜、公館を訪う。成田氏は、発10日(4月19日)	
			当地の三益店に一泊の由。峨眉及び雅州行の道を聞く。嘉定の外人30人ばかり。五薬寺幾10僧。	
			仏爺寺2～30僧。当地の一等の宿は、府街福有店、文星店とす。写真一葉を送る。	
			1時間ばかりして帰る。提灯を2人の従者に持たせ、予と游を送り宿に来り、数時間談話して帰る。	
			夜、井戸川氏に書面を出す。	
		27	6時半、嘉定府大西門を発ち、雅州河の末急流の草鞋渡で渡しあり。10時、蘇渓で朝飯を食す。	
			鎮子場は平地の街で、タバコ、ソラマメ、ムギ、米、桑等を見る。阿片殆どなし。6時、峨眉県着。	
		28	峨眉山へ登頂。峨眉山は平生頂を見ることを得ず。常に雲がかかる。1日20里中、10里は平地、	

年	月	日	事　　項	参　　考
			10里は斜にして、100里は柱を立てたるが如し。	
32	4	29	峨眉山頂、金殿の方丈心啓は不在。大雄殿、佛殿、最高殿、普賢塔、金頂正殿を参詣す。	峨眉山
		30	峨眉山下山。峨眉山高さ1万2千尺。	
32	5	1	10時半出北門、東行。峨眉県草鞋市街謙益店、遊氏及彭と分袖。四門あり。城内1清里半里。	④138P
			四方城内外3,000戸。平地田8、9部、西え山脈あり。石橋を経由。11時半、休み20分。	草鞋3足購入
			一面平地。春漪碻。水少し。桂記舗(コイチープー)2戸。1時、休み30分茶。双福場500戸。	
			中央河あり。平成橋開なり。東100里平野。周氏口祠(石橋)。北行、2時半休10分。過河。	
			劉渡50戸。雅河渡しあり。夾江20里。雅河急、渡らず。河の西岸に訪ふて上る。養蚕盛、	
			マユ上ぞく、ムロムキの葉。大道20里。夾江口林があるという。河辺茶店。分流合す。1戸。	
			5時休30分茶菓。四興桟河辺にあり4、5戸。船税関所紅旗あげり。2、3ケ所。古室。	
			6時半着。85度。木城、宏義官店泊。城あり。但し一方のみ内外5、600戸。河辺。夜剃頭。	
			御書人2人談話に来る。100戸。河辺。夜剃頭。御書人2人談話に来る。＊第9回「本山上申書」発送。	⑫585-586p
			＊水野宛書簡を出す。	
		2	6時発。7時20分、過河。塔の下に小河を渡る。8時朝飯。沙毛市(サーマコスー)150戸。8、9才	
			の子四番を通読す。情字庫あり。塔也。9時40分、洪雅県楊家場百戸。12時20分休40分、	
			柑子場、200戸、河の西岸を上る。平地養蚕の桑異なるを見る。葉小なり。柳の如き様のもの。	
			1時30分、壁雄府廟也。2時10分休40分、止才鎮、500戸。河辺口江。河を渡る。西岸過河。	
			4時10分水車田引水簡而便利、迎鳳場、5戸灘あり。全面山を見る。高さ3間。本日、阿片を多く	
			見る。小駅2、3戸。本日2度老口を打つ。田植えは籾を蒔きたる間を間引くのみ。羅壩(ローパー)	
			西岸、300戸、前口機悪口。老范の言うを聞き予を見に来て礼をなしヲミトーフ、等云う。	
			北西行、150里(85里)。4、5人あり。6時30分。85度。6時発、過河。	
		3	7時20分朝飯休30分、九鎮舗、東岸30戸。8時20分休、竹箐関、2戸、関所あり。9時30分、	
			観音場、50戸。小河大河に合す。島あり。寺あり。12時休茶を飲み餅を食す。草坦場、400戸、	
			東岸。天気よく熱くして日中難走。過河、船頭を叱して早く過河せしむ。尚1時間を費やす。	
			3時20分休茶。木駅郷、西岸、200戸。泰岩口当の石碑多し。福安橋にて厳拾寺牛の為に	
			行李を改められ開く。5時半入る宿を探す。雅州府、東門、3月24日、年一度のトヲドーホイ	
			の祭りにて遠近来会者多し城3里四方城内外5、6,000戸。北220里(70里)外人2名。	
			街、建福店泊。城内馬調教師夜アラレ降り叉強風。9時10分、寒し。対崖(トイガイ)50戸。	
			銅口、山口険。気候大いに異なる。桐の花茄子の花あり。沙駅沢山。。紫石里、120小。	
			11時10分、巴舗石(パープーネ)6千戸。氾人足を雇う。負荷し、田広し。小駅沢山。一時休30分、	
			観音舗、2、300戸。山間の市街なり。暴風なり。鳳舞亭。前蔵より2時30分、千尺。	
			茶屋4、5戸。飛龍山。一荷100両以上、山上まで。普済橋。20余人に遇う畠あり。高橋4、5戸。	
			栄径県塩卡あり。4時20分着、通行人多し。石家橋、河辺、80戸、宿よし。川北に流れ東口行。	
			天恩站宿。塩、鍋、石炭、銅、杓子、白口虫子、70里。雅州府東門。	草鞋2足購入
		4	降雨を犯して出発。紫石里。観音舗を経、千余尺の高山を越え、十家舗に宿。70清里。	
		5	5時50分、小駅あり。新店場100戸。此辺よりは米食少く黄色の包子(唐モロコシの粉を練り	
			丸くし焼きたるものか)を多く食す。白口虫子桃夫300余に過ふ、叉銅鉱の馬、石炭等多し、	
			口上大に人多きに困る。石道に敷く叉鍋のめいさん。東南行。叉茶も多く送る人夫を致百通り	
			越す眼弥押し。　小駅にて朝飯す。9時20分、河の南岸に上る。栄経県、4、5千戸、城壁	
			ひく、山間の一平地、河あり舟なし。10時20分、鹿鳴里(嶺頊帝故里)150戸、アヘン、ムギ、	
			菜種、冨豆、豌豆等多し。12時、休。小駅。1時15分、金家湾(チンクーザン)50戸。大通橋20戸、	
			石橋を渡る此川下にて川支流と合す。2時30分、棲止堡、100戸、此地ミカンあり、色紅く形ユズ	
			に似る。寒き地のミカンこれなるか。4時過ぎより降雨、雪山あり、田地あり。4時30分降雨、泊す。	
			黄泥舗、150戸、山間の一駅なり、山禺発店、6時食、子る7時。以上田畠なし。2時30分、	
			4時30分降雨、泊す。黄泥舗、150戸、山間の一駅なり、山禺発店、6時食、子る七時。田畠なし。	
		6	6時　55度、櫛を売る小駅あり。7時30分、小関拾余戸、茅葺き、宿あるも特に悪し。2、3戸の小駅、	
			坂急に上る、橋を渡る。9時30分、大関10戸斗り、板屋根、坂上の一駅。10時30分、小駅、板葺き	
			の雅屋なり。長寒。小駅。12時30分、大象嶺。凍雲庵、4、5戸。6,500尺以上の地をこす。6,000尺。	
			三大湾1戸。2時、草鞋坪頂上には家なく、少しく越して3、4戸あり。遠景山嶺重畳高。廿四盤、	
			7、8戸。深人跡なきの地なるが如し。羊圏門、20戸。4時30分、風強。青渓県、古黎口(チンチー	
			シェン)、城内外寂として繁昌せず、人家7、800戸。地形頗る奇沙流の斜地なり。徳性店、此辺田	
			なし、アヘン畠なし、麦畠なり。　＊大象嶺より眼下に草鞋平をスケッチする。	④62p
		7	7時30分、朝飯、休30分、冷飯口、2戸。河の両岸剣山にして草まれに生し焼土にして石崩れ流砂	
			甚しく荒地なり尓れども地悪しきゆえに僅少地もより耕し人民住す、人家まれにして異城異風蛮界	
			の入口たるの如し。冨奥場(フーシンチャン)、田、阿片畠あり、150戸、北岸に沿って上る。	
			10時10分　休20分、河、合点、右河に沿って上る、即北岸なり。12時30分、観音閣、一寺、対岸10戸。	
			小駅、3戸。2時30分、河合点、右岸に沿って上る北岸行なり。2時30分、河合点、右岸に沿って上る	
			北岸行なり。電線に合す。清渓の近辺羊圏よりの小分路ここに来り山を下りて本道に合す。	
			4時40分、小駅、10戸、桃、リンゴ、ビワ、梅、カキ、冨豆、阿片、麦、茶、唐モロコシなど。	
			260里(70里)。塩、鍋、石炭、銅、杓子、白口虫子、70里。	
		8	9時発、名楊官店。泥頭、300戸、黎洲西塞、四陸桜及塔あり。田、阿片、畠あり、河岸の上にあり。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			11時、朝飯。大湾頭、3戸、豆腐6厘。12時、高橋、石造5丈。12時40分、観音閣、近辺2、30戸。	
			1時、鵲来橋(三交口)20戸。2時、林口、5戸。石臼、水車、各種粉を挽く巾3尺。小駅、3戸、店あり。	
			小駅、5戸。5時、310里(50里)。	
32	5	9	6時、伏龍寺(龍盛店、3、4戸、老范ガタガタ振るい38度、風邪、手にもつ火円を口口、此近辺大雪	
			降る)7時、6千尺、飛越嶺関所、1戸、但し人住せず、石碑あり。7時半、飛越嶺。松林口(サンリン	
			カヲ)3戸。8時　朝飯食う。瓦菜坪(ワーヨーピン)、4戸。9時15分、化林坪、200戸、兵住し、繁化な	
			らず。烟水渓、10戸。11時半、馬松坡(マーソンポー)烟水渓、10戸。11時半、馬松坡(マーソンポ	
			ー)、5戸。小駅。12時　阿片、150戸。唐モロコシ。新鎮、5戸。2時半、冷磧、150戸、田畠広し、	
			但し阿片多し。小駅、1戸。小駅、3戸。5時着す、米飯を得ざる。甘露寺、勝景山林あり、寺立派、	
			僧住す。今日共、2日間。瓦九、10戸、桟房にあらず、房圏、予一人子だいあり通泳人の安宿なり。	
			385里(75里)、小駅。塩、鍋、石炭、銅、杓子、白口虫子、70里。	
			＊鑪廳東境に飛越関碑記(光緒23年立)があり、碑文を写す。	④138P63p
		10	6時20分発、大巴(ターパー)10戸。7時20分　朝飯、休40分、小駅。此辺砂金多し。小駅、玲磧より	濾定橋
			濾定に45里、2千尺を上る。10時20分、華に無事過橋西岸に休麺食す。濾定橋、東岸3百、橋長31丈	
			1尺、修復中。高5丈、巾9尺、危険、化身手を携へて渡り忽ち去る。11時半　休40分吃茶。小駅、新家。	
			1時30分　休吃豆腐。茶里(サーリー)、地廣く田畠あり、11時半　休40分吃茶。小駅、新家。	
			風大に異なり、石を畳み蔵の形とす、やや上地対岸。叉土蔵形石屋14、5戸(法輪常転、ラマ寺あり、	
			住せず。)3時半、弐戸。4時30分、サーワー、川に像あり、ラマ信徒の家旗を揚げる。	
			5時20分、大ペンパー、福興居あり、30戸。2、3戸。7、8戸。日暮れ夜道老范谷困る、洋傘を忘れ	
			2里取りに帰る谷川に架橋あり、谷山白雪。8時30分　最大難行。470里(85里)或は90里。或は100里。	
			＊「濾定橋を渡るの記」を記す。	「第八号」④61p
		11	8時発、瓦寺溝、大度江に濾河の合する地にして100余戸、露定より祠寺に60里、3,000尺を上る。	
			瀧あり、行台あり、近辺20余戸。10時半、日定、14戸。10時半、日定、14戸。3時40分、西南に屈る。	
			瓦寺溝より炉に至る、60里。或は65、或は70里。道甚だ悪しく上ること5,000尺。6時30分515里(45里)	
			或は50里。	
		12	8時20分、大生関(ターセンカ)、4、5戸、梅花の候なり。此夜食一膳を食して忽ちに目まい休む。	
			川、瓦寺より炉間60里、4、5千尺を上る。10時30分、宿着。打箭鑪、千余戸、此近辺の山幾分晴	
			れたる地にして四面山、白雪を頂く蔵人多し。530里(15里)。大道、川。小道。大道至西蔵重慶至	
			成都1,020里、重慶至成都1,020里、成都至嘉定390里、嘉定至峨眉80里、峨眉至至雅州220里、	
			雅州至打箭鑪530里、合計2,240里。格外到新都県(往復)80里、峨眉登山上下240里、計320里。	
			以上大合計2,560里。午前10時半、打箭鑪着。油海椒(トハイチャヲ)、酷菜、酷葱、塩、皮饅頭、	
			焼きパン、オモユ汁、を食す。午後、市中散歩。佐藤、小豆を求む。一合30文、半打70文。ラマ寺	
			を見る。薩迦寺に至り番僧及老婆と語す。寺の入口に犬のおるには閉口。品興合信局に行く。	
			銀は正に達徳宿に着しおるという。夜風邪を犯して書信をしたたむ。5、6本。夜夢見、実に難所	達徳店
			を経行き困難の夢うつつ、よく寝入られず。寒くして戸を閉つ。本日、散歩、採金(砂金)の方法を	
			見る。砂金を両口板に入れふりとる。	
		13	朝、老范帰慶。西炉老陝街達徳店宿。書面　重慶領事館(館員武田)途中、井戸川氏、水野宛	
			昨夜認む(風邪を犯して)　南條氏、＊第10回「本山上申書」、水野、国兄(国元、静)＞　降雨、終日、	⑤317p
			寝床に引き籠り風邪を治す。吃菜、木炭を求む。30斤、360文。卵2ケ、15文。卵2ケ、終日、寝床	
			に15文。515里(45里)或は50里。	
		14	明日精進を命す。朝遅く起き、宝内大掃除をなす。ゴミ多く実に大閉口なり。午後、炉より裏塘に至	
			る道程、里数、地名等を合照記出す。叉掌口に西蔵教師を雇うことを相談す。別紙の談話をなす。	
			降雨、寒く、50度、鈩に火を起こし寒を凌ぐ。午後、降雨、雷鳴。慶至炉費4日諸費。4、5両098、	
			12日迄。17両315、62両413。	
		15	御命日、精進す。蔵語等を口らず。会計を正す。午後、降雨、夜茶をなし伏す。	
		16	朝、ガラスにて左手親指を怪我す。勤行、小降雨、山上雪なり。12時発、川の右に沿って上る。	
			湯の湧き出るを見る。只馬に従うに過ぎず。勿体なき次第なり。牛を見る角三屈し毛羊の如し	
			黄教(ラムツ)ラマ寺に行く。犬の為に入らず。更に大ラマ寺(大教堂)に至る。叉犬の為に入らず。	
			門前の小ラマ寺に入り、ラマ僧6、七説教をなす。参詣人2、30人。板の仏間に座して聴聞す。	
			灯明バター(牛酪なり)立派なり。御水を呑む。堂を百遍廻る。同行多し。歌を謡う。話通ぜず。	
			要領を得ず。僧は座して読経出て来らず。観音、経皇主等を祭る。下に沿って下る。泳辺石に鞍文	
			刻むもの多し。降雨、市中を一見して帰る。天主堂牧善堂、西蔵人回堂、西洋店等あり。夕食甚だ	
			佳味ハイチャを混す。(本日シラミ5匹、ズボン下におる。10数年来の不潔生物)改第一支那人も	
			西蔵人も皆、自国の文の経を読むに日本人は何故に日本語の経を読む事を得ざるに日本人は	
			何故に日本語の経を読む事を得ざるか残念残念。帰朝早々日本文読経に革むること。	
			改第二、右手俗諦門。一、父子。二、朋友。三、君臣。四、夫婦。五、兄弟。仁口永智信。	
			左手真諦門。一、弥陀。二、回向　三、口。四、諸天呂神。五、法類故に拈香法坊　昭覚寺の如	
			風にして親指と高指に印を結び拝礼す。改三　晻嘛呢鉾彌吽を念仏と同様称念ののむけること。	
			含む輪を用ゆること。	
		17	強降雨、寒く椅子にてコタツを造りあたる。叉進蔵控覚を記す。	
			上海　2,370里(590哩、日本274里)。高低起点　。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			漢口　1,275里（393哩）、600尺。	
			宜昌　1,860里（4百哩）、1,000尺。重慶　1,040里。	
			成都　1,020里。打箭炉　合計7,545里。　東京　376哩。	
			神戸　564哩。上海　合計940英里。	
			本日終日、強雨降り「進蔵詠程照見」上・下を作る。夜12時迄夜学をなす。「サンクー」新カイスーの	
			地方に至る。20里。	
32	5	18	北門外1里斗り、散歩。帰途僧に逢い誘われて彼の寺に行く。即ち北門内、城隍廟北門にして名円	
			照と称す。天全にして五台、北京、上海等に皆廻りたる僧なり。外に一僧あり、峨眉山、九老洞の僧	
			なる由。談話、日清の国状及び佛教の有様、一ラマ僧教師を頼むこと。今、明日は釈尊降誕日に	
			て暇なし。追って我宿に来り共にラマ寺に行くことを約す。	
			進蔵サンパミエン、米等を持参すること。洋銭（3銭2分）に替えること。西蔵及び炉より裏塘にて	
			馬5ケ洋銭。裏塘より巴塘にて8ケ洋銭。巴より察木まで6ケ半洋銭。察木より丁日（テインツー）	
			まで14天、此後は寺に宿して蔵に行かるる。故に鞍に至るに1人歩行にては2個錠銀20両にては	
			2個錠銀20両にて達せらるる云しむ。　打炉には清国人1人、英人1、2人、住まる由、外人3人、	
			信者少し。炉に漢僧合計五人斗りなりたり。	
		19	晴天、かぜり、62度。掃を造る。蔵字及び蔵語を自独習す。気分大に好し。午後、微雨。3千年を	
			作る。釈尊年代考（異説を対照）を作る。	
		20	朝、58度。午前、煮豆。城隍寺僧円照及び九老洞僧2人来訪1時間斗り談話。明日行くことを約す。	
			二、掌櫃来談。大に蔵語教師を雇う事に付き談話す。打箭炉にて洋銭（3銭2分）に襖へ察木多に	
			至り再び西蔵銭に替えること。西蔵銭は①1銭5分（含同故に価1銭②3銭（三分一銅）②3銭（三分	
			一銅）③6銭（三分銅の3種なる由、七仏通戒偈和訳を一定し、清訳す。神袋を張る。神袋を張る。	
			晴天、夕方雨。）	
		21	朝、大浄洗をなし、板の間を拭く。朝50度。12時、強雨雷口。剃頭す。（日光、富士、筑波等に	
			登山は経験より左に）高低目算〇上海起点。宜昌、1,000尺　重慶、4,000尺。成都、5,500尺。	
			嘉定、5,000尺。峨眉県、5,100尺。峨眉山、15,000尺。雅州尺、6,000尺。観音舗山頂、7,500尺。	
			栄経県、6,500尺。大象嶺草鞋坪、13,000尺。清渓県、1,500尺。冨興庄、15,000尺。飛越嶺、	
			冷磧、13,000尺。瓦寺溝、14,000尺。打箭炉、17,000尺。老爺小便壺（シビン）を雨に洗い自ら室	
			に持ち入るあり。	
		22	朝、56度。朝掌櫃及び陝西人来る（予若し店子を襖るならば此人を入れん云しむ。予勿論店子	
			を替える心なし。故に語止む）此陝西人、昨日前蔵より帰炉出立巳来3ケ月。在蔵3年茶を價う。	
			詠上15人以上同行者を要す。賊あり、首級をは子荷物を奪う。蔵にも尚洋館舗蔵舗の両様を	
			用ゆ騎牲口、蔵より察木多迄10両。察木より炉に至る10両。合計寸乃玉さ5両を要すにて候。	
			衣服は皮衣一件。尚寒むく上に尚外套を被るを要にて候。12時出て西門て候。衣服は皮衣一件。	
			尚寒むく上に尚外套を被るを要にて候。12時出て西門外（西門なし西方の山）皮に沿うて上る。	
			温泉を見る。大呂り。西蔵に至る小詠にして明正に至ると云うこと大山を越す道。茶（6包）を	
			荷へる牛馬72頭7人の使牲口者過山見る。夫より山を斜に炉城の背後山頂に出て炉街を眼下に	
			一看し下り城隍廟に行く。僧不在。観音閣に行き僧と談話す。功果月1斗米。西蔵の印、キリ、小僧	
			を打つフロシキ（2円）、等を求め帰る。掌櫃姓解と話し銀200両の内百80両を受取り二錠銀子を	
			受取り二錠銀子を彼みだりに使用す。不届千万の漢なり。好天。歓待。〇洋銭（印度ルーピー）	
			3銭2分。価3銭5分銀子。3百5、60文。10両（1錠銀子）に付き2魂半、或は3魂洋銭を引き墺ゆ	
			本日1ケを得。（チャイツ、牛ライツ、サンパミユン、酥油［アヌ、ママル］夜、ボーイ来て談話）	
		23	朝、54度、スー油、3両36文（1両12文）、サンパ麺半汁（20文）を求む。午後、陝西人李氏来談。	蔵手鐘2個
			日本仏教事情を話す。邪書の生意なりし云う。外出す。城隍廟僧ラマ寺に「不能引我」と談し、	
			予は砂糖1斤を送る。我実に無情。出す。城隍廟僧ラマ寺に「不能引我」と談し、予は砂糖1斤を	
			送る。共に行くも蛮語を話す不能云候。にあるも実に外国僧を案内するをはばかるにあり。	
			仕方なければ分れい出て街上蔵の「リン」手鐘を求め帰る。本日掌櫃2錠銀子を持来たり、	
			正に受取り済。1錠銀子を洋銭（予音眼鏡と間違へらる）24個及び切り半個要銭5個。合計凡そ	
			26個半と9両四銭と替ゆ。或店には「9両2銭」に4個洋銭減とられ、予は他の店にて9、4銭に	
			3個洋銭減にて墺ゆ2ケ半分、3ケ洋銭（10錠に付引く）の相場なり。本日晴好天（日中70度）	
			岸教寺（ラマ寺）僧ラマ僧2人と少しく、城陰門前にて談話す。陝西府同官口人。蔵より2、3日	
			前帰りたる人来談。雪一丈もあり正月蔵出立、3か月にて到着。途上食物有り口口。夕方	
			雪口降雨。雪中馬やはり通す。蛮狗、予に噛みつかんと吼ゆ。打箭炉東経98度、北緯30度、	
			海面を抜く凡そ1万9千尺（目算、5月21日、日記の下に表を作る）	
		24	西蔵図考巻一及び第二源流考口を読み、叉習字並びに波利字、阿盲王代字、委曇字を写す。	
			本日は旧15日にて1日2度朔日となれり。店主より麺、菜を馳走す。バター甚だよし。毎日洋食の	
			如し。日中62度、風夕方微雨。暫く午睡す。夕食大馳走なり。	
			本山上申書発送表	
			第1回　明治31年11月18日。上海。（第1期、京都、上海間渡信記事）	
			第2回　同11月30日。漢口。（第2期、上海、漢口間及漢口、宜昌、漢陽記事）。	
			第3回　同12月4日。宜昌。（第3期、漢口、宜昌間、簡単）	
			第4回　明治32年1月13日。重慶。（第4期の1、宜昌、重慶間、送金高及及手続き）	

年	月	日	事　　項	参　　考
			第5回　同2月4日。重慶。（第4期の2、重慶記事、江北、華厳寺）	
			第6回　同3月30日。重慶。（第4期の3、送金領収書、江上紀行、重慶出発、写真）。	
			第7回　同4月14日。成都。（第5期の1、重慶、成都間、草堂寺）	
			第8回　同4月22日。成都。（第5期の2、成都記事、四大寺、成都出発）	
			第9回　同5月1日。峨眉県。（第5期の3、成都、峨眉間、峨眉山記事、単独眉出立）。	
			第10回　同5月13日。打箭鑪。（第5期の4、峨眉、西炉間）	
32	5	25	西蔵図考、源流考及読審隘篇を読む。午後、ふと洋銭を換へんと欲してふと心にまかせ道を南に	
			転じ道中漢蔵人の喧嘩を見過。河南門裏須に行く。この時、井戸川氏従僕劉を見当り偶然にも井	
			戸川大尉、原田氏、一昨着炉。予を探して見当たらず尓るに予ふと両氏に面するを得喜び限りなく、	
			この夜天主教徒周氏に逢。蔵語教詠を頼み其他快談する。包席を馳走、せられ右4人快話。	
			8時過ぎ雨を犯して帰る。今日談話する所有益の言多し。周氏巴塘にあり。	
			井戸川氏予の為に大に尽し申せられ異郷実に喜び限りなし。在炉信者100余。天主教会堂2ケ所。	
			外人2人。信者なし。英ヤソ会堂1ケ所。外人2人。巴塘天主会堂あり。この地方小路を行けば	
			2、300の天主会教徒あり。叉近方に3,000の教徒あり。皆蔵人なり。回々教徒在炉多く、寺叉肉、茶、	
			麺の商い皆回人なり。周氏はラマ寺の僧と懇意にして蔵を五学ぶ15年なり。	
			井戸川氏8日から10日頃、帰朝のはずなり。成田氏、7月始来炉のはずなる由。蒙古僧30人進蔵	
			せりという。狗をチンという。	
		26	朱先生不来。井戸川氏、原田氏両君来訪。1時間余談話共に出て北門観音閣を巡検。	
			分れ雨を犯して帰る。明日の包席を頼む。降強雨。夜月琴桜下に聞こゆ。旅情限りなし。耳、鼻、	
			防寒。雪にてすること。火及び湯最も悪し。足に汗出る干布にて拭くを要す。「打箭炉之図」を書く。	⑮231-233p
			金玉を皮にて包むこと。井戸川氏より硯石を送らる。即皇后陛下下賜のものなり。嘉定上流を描く。	
		27	晴天。朝、朱氏不来。食後11時、井戸川氏を訪い有益。石川氏の伝言、談話2時間。1時より外出。	
			上地より湧泉地を巡見。達徳店に帰り地理上等の談話をなし、4時より3名にて包席を食す。	
			朱氏本日忌日、不食故に不来。6時頃より共に井氏を訪う。途上ラマ人に逢い共に井氏宅に	
			井戸川氏宅に行き西蔵の模様及びターヂリンより前蔵の道並びに入蔵出蔵の手続きを聞く。	
			「ヤトトン」の関所にては下来人を蔵王殺す口話には大に閉口。この鞍人同じく帰蔵六ケ敷由。	
			叉朱氏来り共に談話。以上2人、蔵語を予に教ゆることを諾す。誠に便宜を得たり。九時帰宿。	
			「ヤタン」は中国の僧は出ることを得べし云しむ。8年前、英蔵戦争。其前英人3年在蔵帰印。	
			外人を嫌う甚だし。	
		28	御命日勤行。昨夜、1時迄、本山上申書面を認む。本日、国元及び宮島、上海へ宛て書面を認む。	
			午後4時、朱氏及び蔵人「ヨンチェー」氏来談。御住職（ラマ経）「三部祈祷法章」を蔵僧より送らる。	
			共に3人同道。井氏の宴席に臨む。予は精進す。叉「コヒ子」洋店の番頭2人来る。面す。	
			予9時帰宿。井氏へ托し石川舜台氏へ書面。書面　上海別院。宮島先生、「本山上申書」	
			＊第11回（第5期の5）。国元浄蓮寺。以上郵送。原田氏へ托す。峨眉山遠景を描く。	⑫562p
		29	昨夜強雨。好天。朝6時起。途上井戸川、原田氏に面し東門外1里送り。両氏帰慶、天全を従て	
			峨眉山嘉定舗州鑪州を経6回20日、帰慶8月10日頃、帰朝出立なり由。石川氏へ宛書面を託	
			す。好天。昨夜、西蔵経を字引にて調べ一句を読む。今朝、蔵経1頁を読了。12時発折多。	
			入湯行。蔵人「ヨン」と同道。大教堂の上みより駿牲口壱ケ洋銭。打箭鑪、南門。大教堂、寺を過	
			ぎて2里。道下、石房家、休む1時間半。一休騎馬。干珠尓、10軸あり。	
			左走折多山至河口。両大路、道上下に分かる山辺、河辺2、3の石室及対岸、天幕の家を見る。	
			右走玉麒宮、磨西麺。大興郷、1戸。河、折多河と玉麒宮川にかる。対岸の山上大雪山。	
			板橋を渡る。1、2戸散在。石橋を渡る。折多、所々15、6家散在。予は下より2戸目に宿	
			す。河二流に分かる。北行は進蔵。至雲南、（29日。上走、騎牲口12時発（途中1時間半休）	
			5時半折多着）（31日。下走。9時発、一時着炉、走路）	
			本日始めて蔵人の生活を見る。手にて粉をかく。酥油茶等。5時半、折多着。御飯後入浴。	
			陣かより山手上る1里川辺に出つ。冷熱雨水混す。風景好、山開き地廣し。夜ラマ僧等来話す。	
		30	好天。朝、入浴。帰宅同宿のラマ僧を訪い、談話。彼、仏蔵及経文を包みより出し拝せしむ。	
			叉蔵語を教へ2時間斗り談話干珠尓、丹珠尓のデゲーと称する地（折多より北行。15、6日里程、	
			北行土司あり。チェクーに達す。）にて300余部、全部1,000両斗りにて買る由。其他蔵内尚得るりと	
			いう。午後2時、出て上折多を巡回道、二支に分かれ進蔵は上走の由。山を経て入湯。雨を犯し	
			て帰り。牧牛、羊、豚、馬等の生活、蔵人の生活風を見る。夜強雨降る。	
		31	朝入湯。1ケ支那人自ら利せんとて人里なきと称し、予を困む。予は彼が鼻をあかせんとて自ら	
			布団を荷い9時出発。20里を下りて1人を雇い（10時半）、12時両大詠を経て1時帰着炉す。	
			今回の小旅行大に得る所あり。本日途中3、40頭の茶運の牛馬を見る。好天。	
			○　蔵駐蔵大臣、正月初三日頃当地発帰国	
			○　当駐蔵大臣正月10日は当地発進蔵3、400名。実は商人多し	
32	6	1	好天。日中70度。温暖なり。本日、四川近辺地図を調査するの外は、屑々。天主信者来君は	
			遂に来らず僧を嫌うか。主人に制せられたるかは内一つなり。10個洋銭を宿二掌柩に拂う。	
			夜8時頃、朱氏来り。蔵語を学ぶ。1時間余。数及天文語類。夜2時まで夜学をなし、達頼、班	
			禅の世代を調べ編輯す。	
		2	達頼9代及開祖。班禅の7代の傳を編了る日中74度。紅教の沿革を調べ編輯す。夜蔵語、	

年	月	日	事　　項	参　　考
			地理部及代名詞を学ぶ。晴天。夕方より風雷。晩降雨。	
32	6	3	日中62度。蔵仏教宗派を調ぶ。夜語学人事類。雷版少雨下る。	
		4	朝57度。西蔵学老客法を考へたるの外、炉察間小道。入蔵三大泳。西蔵雑事、天事、地利類篇	
			を読む。夜早くより休む。雷鳴、降雨。日曜に付、朱氏不来。曇天。	
		5	観経を読む「以酥蜜和麨」の実際をさとる。午後散歩。「黄ヤーモー」(蔵語センチー)五台山来的	珠数2連
			珠数二連半及陝西「リエアル石」青石を求め帰る。夜、蔵語朱氏来り、物産語類。夜雷雨風。	
		6	朝、50度。夜、物産語、蔵語学にて図考の名刺終る。夜、強雨。店子内病人を見る。	
			藁郷の念起こる。旧4月28日は中国の菜王会にて、バク竹、火砲盛なり。	
		7	好天。日中60度。冷し。図考7巻を読む。夜、会話を学ぶ。	
		8	初15日に付、唐子より馳走。午後、北門外7、8里、二道橋辺迄散歩。途上、銀礦わき分所	
			近郷炭高く休む。磺泉、硫黄の出るあり。夜、語学朱氏来る。	
		9	清国全地図の大略図を製す。終日かかる。昨夜、拉薩近方図を製す。雨あり。	
		10	行李ととのへ、炭を求む。菜□□倒す。夜、語学。昼、蔵人「ヨン」君来る。昨日帰炉の由。	
			の牛21洋銭。語学を教えることを得ず。雨あり。✻浄蓮寺宛て書簡を出す。	⑨115-117p
		11	西蔵経文を終日調べ漸く3、4行に過ぎず。強雨。出水。本日より「三誓偈和訓」誦す。	
		12	本日は5月5日の旧節句にてヨモギの葉を入口に筋り、叉二度吃酒、衣服を着替り。朝、馳走あり。	
			闘子始めボーイ4人へ国100文を与う。己練倒なりと云う。午後、東門外を散歩綱渡りを見物中	
			賑やか。洋人支那服着2人を見る。昨日の雨にて大水なり。夜、10時より午前2時迄、西蔵史を	
			調べ漸く初帝王の記を終る。	
		13	終日、蔵史を調べ漸く32代スロンザンガンポー迄編輯す。諸書照覧する昨日、蒙古ラマ6人	
			進蔵拝仏の為着炉の由。朱氏来りての話なり。	
		14	朱氏と共に出て、南門内に香及酥油を求めて帰る。終日、蔵史を調べ漸くうう代に至り一段落を告	
			ぐ。夜、雨。朱氏不来。夜、蔵の音楽を遥かに聞く。日本の飴売りの音曲に似たり。叉ホラを吹く。	
			回教ね真清寺の門口に入る。南礼門内の宅来る異躰西蔵経を見る。	
		15	御命日勤行。朝、蔵僧の行列蔵人の葬式を見る。ドラ(太鼓)鏡躰、ラッパ(蔵笛)、□□天蓋、等	
			賑なり。釈迦文仏。過去七仏舎利宝塔(木造十層閣)を安置し奉る。本日72度、温かなり。	
			✻「西蔵国地誌略」を書き始める。	④290p
		16	「頭蔵地図」を製す。朱氏来らず。天熱し。72度。本日より「梵文阿弥陀経」(闇誦)を始む。	
		17	打箭炉及裏塘地誌を編す。夜、朱氏来。察木多新官員、本日着炉。劉氏、天72度。陝西	
			会館に芝居を見る。面を被るあり。数10人。日本の芝居及狂言の如き看あり。✻「西輪日記』を読む。	④306p
		18	会館を設立し同郷人の知識、娯楽、道法に供す。新儒佛三道合併。其他会所。今朝、ラマ進蔵の	
			大ラマ死去の大葬を見る。僧200余。亡主は2人に引かれて藁沓を履きしめて、続いて行く。音楽	
			あわれなり。騎馬あり。叉蔵人の報員服美し。叉天蓋、幢バン、棺を黄なる紐にて皆引き	
			手にして行く。小僧叉ドラ、ホラ、黄なる如く帽を被る。巴塘、中甸、維西の地誌を書く。夜、語学。	
		19	朝、降雨。左の打電をなす。Narita Jopanese Consulate Chuny chings. ‘Oflicials depart	
			July 15.(Tachinlu)一字20仙にて八字、160仙(1両2銭)。3個ルーピー4分の3。	
			右重慶迄なり。漢字は少しく。安価なり。叉上海へは1字28銭なりと云う。電報局内上海は4人	
			り。午後、暫く武霊宮に芝居を見る。「ヨン」を□□。夜、語学。本日、江卡、乍了地誌を書く。	
		20	午前より食前「ヨン」氏来。西蔵文字につき語学及経曲を学ぶ。始めて意を得たり。食後散歩。	
			明正土司前にて土官数百(子供騎馬100斗り)の行列を見、役所の中を見る。中□より同様	
			立派なり。只、群集皆土人なり。それより武聖宮に行く。軍糧府□総督府□皆知唱□。	
			予も午後4時迄見て雨を犯して帰る。芝居は狂言。芝居、舞の混含同様なり。古代の事□□婦	
			人あり。王あり。蛮人あり。種々薩多なり。夕方、重慶成田氏の手紙着す。当分来られず寺本氏	
			出発とのことなり。察木多の地誌を書く。	
			◎古代三蔵又称三危	
			康　打箭炉、裏塘、巴塘、中甸、維西、察木多	
			衛　拉薩	
			蔵　札什倫布、阿里	
			◎近世三蔵	
			前蔵　察木多、拉薩	
			後蔵　札什倫布	
			底蔵　阿里	
			◎能海西蔵	
			頭蔵　康、附古代所属地(打箭炉、裏塘、巴塘、中甸、維西)	
			前蔵　衛	
			後蔵　蔵	
			底蔵　阿里	
		21	刺麻経を読み始む。成田及武田2氏宛並に国元宛の3書を認め、重慶へ送る。□□□本日不在	
			持帰る。皮靴を求め、明日出来るはずなり。城隍廟に看嬉。昨日よりもよし。老婦人、子供を連れ	
			縄にかかり后夫に逢い王前にて許さるる所、及一人の強者能く、数人に勝つ所なり。朱氏来らず。	
		22	降雨。(旧15日)、本朝、領事館へ宛書面出す。品奥合便。書面　重慶領事館(成田、武田、浄蓮	

年	月	日	事　　項	参　　考
			寺）夜、語学、皮靴出来来るも小なるゆへ受け取らず。	
32	6	23	本日は終日強雨。寒くして60度なり。西蔵城及水□の地理。昨日製図。乞食ラヲエー　チャニャ	
			ハッパッパー、ラタエーペパッー、パッパッパー、テッパッパー。今日は中国のそも何日なるや。	
			夜、九時過、四方バク竹、大砲発砲、叉店子内客人桜の上下。香をたき、ろを然し、鐘を叩き祈祷	
			す。奇々快々。遠近、叉鐘の音聞く。後にて聞けば是月蝕を□拝するなり。	
		24	強雨。50度。高山上降雪。	
		25	曇天。□□。	
		26	晴天。北門外散歩。靴未だ来らず。看玩、秤を求む。湯にて洗うこと。	
		27	りん楽山上ラマ寺に行く。午後4時、寺本君来着。談活。羅氏等来る。72度。晴天。夜1時頃迄談話。	寺本来着
		28	勤行。夜、談話。12時寝る。75度。熱し。本日軍糧府□への書面認め。寺本君と意見合	
			わず。予は糧台へ日本へ告げざる□。	
		29	本朝、名刺を軍糧府□にて通す。叉寺本君同様。夜、朱氏来。昨日、軍糧府行に付いろいろの事	
			を談し、依頼す。74度。	
		30	朝、寺本君宿所を探り回る。数戸。後、市中に履を求む。午後5時、軍糧府□へ行き劉氏に面し、	
			第一に入蔵（巴□拒絶）。第二、宇拉を1人2頭を得ること（□）。第三、蔵大臣への□所（不明）。	
			第四、察木多官員劉氏に面談の件（明日返事）有較る。寺本君同道。朱氏名刺を掲げて通ぜり。	
			第五、ラマ面談紹介の事（明日返事）。右の用を済し、2時間徒りして帰宅。	
			降雨有較る。寺本君同道。朱氏名刺を掲げて通ぜり。	
32	7	1	軍糧府より使者李来り、察台劉明府は遠来の佛友に面せざる旨を通ぜり。寺本君は各地支那僧	
			風にて入らんとし、夜は大に議論合せず。予は炉軍糧に面するの意なし。只寺君に誘はし若しも	
			文海□蔵大臣に添え書きをも得ば好都合と思いしも万事不得。実に□想外なり。	
		2	大鈕子、小鈕子、足袋、珠数100個、銭袋、紐など蔵道中用に求め、叉日記帳12冊（半）、を求め	
			帰る。夕方、朱氏、蔵「ヨンチョン」、羅、寺本4人を招き一吊6、700の馳走をなす。寺本着の祝意	
			なり。「ヨンチョン」、日曜日に付き不来。夜8時頃宴終る。	
		3	ラマ経１７冊(10銭5厘)、手帳１２冊(1銭5厘)などを買い求める。寺本君同道、城隍廟辺に散歩。	
			剣帽等を見る。午後、朱氏同道、皮堇皮2個（六）、皮口袋2個（200文）、両掛皮袋（一、）を求め、	
			叉察台官の預を見、叉蒙古僧に道に逢い同道致さる事を話す。	
		4	城内を巡回、準備、買物す。毛布、眼鏡1個、羊皮2個、、経典、布袋などを求める。	
		5	朝、銀塊を換え鞍下2枚、毛布1枚、灯器1など買物をなす。夕方より夜へかけ国元、本山、南條、	
			重慶への3通書信認む。＊国父・兄へ四川省西炉から書簡を出す。	⑨130-134p
		6	朝、軍糧府へ明日出立の旨通知。役所より李氏及馬方来り。明後日に定む。2城内を巡り袴下、	蒙古帽子
			毛皮、紙等を求め、午後、箱子を包み、夜全く準備整う。	
		7	役所より馬夫を紹介す。叉大刀子、□□□、大小□、□巴等を求め終日忙得很。朱氏へ左の	
			書面を重慶へ送ることを依頼す。重慶宛（一本加藤、武田両氏宛。一本「本山上申、第12回、第5期	
			の6。一本国元、＊水野、静）。外に麻包一個、井戸川氏帰朝持帰り。	⑨135-138p
			麻布包　重慶領事館宛7月7日朱氏へ頼み送りだす。本国送付。	
			一、蔵仏泥　八躰　観音　七躰	
			一、蔵文経典　十六部　小冊	
			一、蔵寺用風鈴　一握　金製	
			一、木塔　蔵珠　一連　五台山珠　一連	
			一、針□子　見本　数ケ	
			一、日記帳　4冊　第四号(語学)、外に1冊、第七号(慶都間日記)31年日記	
		8	打箭炉出発、一行は我々2騎外に軍糧府差人1騎、都督府兵士1騎、外に2頭の蛇牛、及び	
			2人馬夫、計四騎2夫2蛇。40里。上坡、折多宿。折多において極めて猛悪なる蛮狗と称する	折多
			西蔵狗に咬まれ、右足3箇所、右手3箇所、外に傷3箇所、大傷は3枚の衣類を抜き。尚五分ばか	
			り、広さ4分長さ一寸ばかり負傷す。幸い、寺本君の治療に預かり包帯いたし候。入蔵の一難は	
			この蛮狗毎戸に在り、鎖にてつなぎ有るも、尚近寄る不能。猛悪獅子形の西蔵狗に御座候。	
		9	上坡50里。下坡20里。提茄宿。途次不毛の地にして人家なく、数百の牧牛羊、及び天幕内の牧人	
			種帳房数100戸見受けたるのみ。	
		10	降雨。平地を下る20里。阿娘壩(平下)20里。鳥拉、瓦切の蔵人宅に宿。途上の人牧畜を業とし、	
			、僅かの麦、豌豆のみ。不毛寒冷の地。	
		11	降雨。平行30里。東俄落宿。西蔵人の家は広大且つ高くして1軒内3、4戸も相棲、入口蛮狗 2、3	
			頭実に我々閉口す。八角楼宿。	八角桜
		12	山を越える70里。臥龍口、内5O里は更に人家なく、松樅の樹林、及び頂上は平牧場、牛群を放	
			つ。帳房牧人種を見る。谷を下る40里。	
		13	晴、谷を下る4O里。中渡(河口)宿。途上5橋あり、一橋が無く、馬は迂回し、荷物は土人をして負	
			負渡さしめね非常に困却。河口は雅龍江と称する数千里流れきたる大江の東岸にして、人家漢	
			蔵50戸ばかりある。中渡汎あり。江幅12町、泥水溢る、両岸峻険、僅かに4艘の渡船あり、入蔵	
			のものこの汎を過ぎるる必ず入蔵の切手を要し、進蔵の一大鎮所。	
		14	在炉の羅氏、成田氏。朱氏。「本山上申書」第13回、南條氏、国元あての書簡を帰炉兵士に託す。	
			河口宿。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	7	15	河口を渡る。兵士2名護送致し、同日は40里にして麻蓋宗と称する地に泊。	
		16	大山を越え、山中3戸の剪子湾と称する地に名か食し、博浪工と称する地にして兵士替り、90里	
			にして西俄落宿。山間の僻村にして30戸ばかりあり、土司官あり。本日の越山路の多くテントを張	
			り牧畜を業となすの人種住し、山賊出没するを以て揆浪工に訊官ありて警戒をなす。	
		17	当地にて換鳥拉のため一日滞在。	
		18	山道を過ぎ、40里にして咱馬拉洞宿。人戸3軒。	
		19	60里にして火竹卡宿。本日、二つの牧山を過ぎる。山中牧人種の帳房20戸あり、牛馬羊数千頭。	
			火竹卡には訊官あり、人家45戸。	
		20	一山を越え裏塘に達す。行程60里。街上を見る。皆平底なる土口房にして支那人種居し2階ある	裏塘滞在
			屋は1戸もなく、街中、1間ばかりにして不潔なり。舗子は皆小売にして茶、糸、馬具、数珠玉、	
			粗木綿（黄赤白等）を主とし菓子只一種。砂糖、豆腐、パン、牛肉位のものにして皆炉城の価に	
			2倍、3倍、5倍、8倍なり。菜、大根、は河口より持ち来りたるもの。口巴等叉遥に数100里外より	
			来り。米は雲南米にして味悪く、支那街以外。裏塘宿。	
		21	近方を散歩し街上を回り理外ラマ僧と座談す。彼等甚だ傲慢なり。良く云えば活発。悪く云えば	
			生意気粗暴なり。根性よからず。但し、一ラマ我々に「サ゜ンパ」を贈る。近頃、西蔵国王と法王達	
			達頼と戦争し、大ラマは山に逃れおるという。裏塘宿。	
		22	軍糧府へ文書を送る間、人一人来り。我々馬牌、路牌の有りを正す。昨夜降雨。日中68度。	
			昌都糧台着裏塘。明後24日、鳥拉を詣せらるることの通知あり。	
		23	糧台衛門熊氏を訪う。水大にして不能過河の旨話さる。この時、昌都糧台来り、意を得ずして帰る。	
			「ラマ」、「ラッサンケーチョー」来る。達頼ラマの名は「チャンコレンポチェー」と云い、裏塘活佛の	
			名は「チセ゜ガヲコダテンビチセ゜」と云う由。叉昌都にも活佛あり。武間馬氏来活。菓子を送られ、	
			西蔵王名「ティーモーフ」（漢名）、「デワーヂュン」（蛮名）と云うる達頼を捕えラマは今山に遁れる。	
			蔵王の方正ショラマ悪し云う。昨年迄、4ケ年間、この近方南辺、5、6天路の地に於いて漢蛮	
			戦争あり。裏塘ラマ等の漢人と不仲なるより起こる。ラマ同じく戦えりという。叉成都兵2千人来り。	
			紅口子3人、監室子1人、戦死外兵死、凍冷死3、400人。今年は戦わず、ゴルカ出立後は糧台	
			出張の由。昨22日、河口に皮船を取りに行く。6日間の後、四双持来り。大河を渡る筈なりと云う。	
		24	街上散歩。馬氏を訪う。朝夕、甚だ冷。馬来談。	
		25	寺本氏熊糧台を訪う。不面して帰る。予、寺本2人叉統領府を訪う。帳氏出張不面。土司正副官	
			を馬上に見る。進卡の方法予の意見を寺本氏へ示す。	
		26	到底鳥拉見込なく糧台の不都合なるを感じ、自己雇牲口に決めて宿屋の亭主に申付く。これ夜	
			の事なり。但し、午前9時、将軍に口二服を送り面会。糧台へ鳥拉の事を語し取つがしむ。氏は	
			40余才にて活発断決あり。64度。	
		27	9時発。我々2名外に兵2名を連れ15日、熱路塘に行き入湯。家内にあり、清路2時発。3時40分	
			帰着。糧台鳥拉等の人来り、明日、相談いたせり通告あり。本日察木都糧台の湯2，3日。	
			晴天64度。夕、「ゴルカ」人来り「シャツ」をねだる。我々所有せず。本日寺本君、予連名書面を	
			糧台に贈る。予不賛成を称え、予が名を消さしむ。夜叉「ピストル」を350両と「ゴルカ」人に告ぐ	
			るに由り、昨夜同様大言虚語の不可を談して寺本君に説く。実に無教者の行過者には仕方なし。	
		28	管鳥拉口人王、ラマ5、6。蛮家百姓書記8、9名、同炉来り。我を脅迫して鳥拉10ケ洋銭余を貧	
			らる。我れ不幸。実に彼等の乱暴に伏従し遺憾千万。	
		29	第14回「本山上申書」を認む。夜、寺本君の京坂布教状況談を聞く。72度。	
		30	終日、殆ど語学を写し替え、街上散歩。糸30ケ及び木綿を買求む。夕方、打箭炉来人来り。	
			予の物品を持ち来り、炉軍糧府より頼まれ持参せることを告げる。曇天にて少し雨なり。	
			叉雷あり。62度。	
		31	朝、ラマより口巴を贈る。朝、叉日本荷物着す。御蔵経3部。経典2部。本尊2軸。外に重慶より	荷物着く
			銀40両外に本山宗報1号、2号、付録、四部着す。察木多行武官炉糧台府より托せられ楊氏及	
			び外に陳氏持来らる。右中、新聞及び宗報を読む。叉日本料理、鰹魚だき、及び漬け菜にて御飯	
			を食す。夕方、叉ラマ来談。菜を贈る。由て寺本君、小本尊一幅を贈る。喜びて持ち帰る。	
			曇晴半なり。曇晴半なり。66度。今月の支払い（8日以降）30個、18円。	
32	8	1	今朝、蛮家2、3人来り、明日出発に付、吾人の荷物の軽重を見る。叉後頼麻2人来り。明日は到底	
			発し難し云し述べ叉々吾人を苦しめ実に「ブンナグリ」たき程立腹せるも仕方なく、「ソンニーゾー、ソ	
			ンニンゾー」（明日行く）と申して告げたるのみ。夕方、ラマ来談。叉通師（トンス）なる。王の根性の悪	
			や、我々の鳥拉邪魔し実に大困難。馬武官来り。巴塘にてより聞正し乍了を無事に通過すること出	
			来ずば帰れと注告す。江卡（蛮名バコン）口「ゴルカ」荷物、400頭、夕方出発す。曇天。66度。	
			叉降雨。街上カーター18ケ、皮縄子11ケ、糸5ケ等求む。この夜、強雨降る。	
		2	午前、入蔵途次見聞雑記（18節）7枚を書く。午後、茶を飲み計算をなす。これに費やす所600余	
			円なり。本日、「ピーポンツ」（ゴルカを支那人の称）荷物を送る。我々、本日も、叉鳥拉を不得。降雨。	
			63度。	
		3	裏塘木賃宿料14日間分支払。裏塘出発。猪肉2斤（ラーゾー）、河渡し、牛皮船。	裏塘出発
			ゴルカ一行と同日出発したため宿屋なし。彼等の天幕を借り野宿す。頭塘では、雨降るに野営	
			を張る30余天幕。牛馬7800頭。炊烟立ち一大壮観なり。頭塘宿。	
		4	フイゴにて火を起こし張房は凍り、僅かな日光の当るを待ちて、これをたたむ。拉尒木賃宿料。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	8	5	ゴルカ一行は、一日滞在。我々と同行数百名は、前進する。拉尓と称する山間の一村落に宿す。	
			卵2ケ半。刺麻了宿。	
		6	コーコイ2ケ、酥油。大雪山の東面より南面に回り、西面に至るに3日を要する。雪多く、富士山	
			所の比にあらず。刺麻了滞在る	
		7	我々、ゴルカ一行と毎日同行ゆえ、毎日宿屋なく、二郎湾と称する雪山の下において破れ天幕、鳥	
			拉刺痲小使。を求め毎夜、雨の降る夜も、風の吹く夜も張房に毛布を被りて二郎湾で宿す。	
		8	三巴(サンパ)と称する大雪山の西麓にて張房に宿す。この日、ゴルカ一行7～800頭、三巴土人	
			牧畜、牛馬数100頭、巴塘より来る旅隊の牛馬数百頭。一夜に合す。幾千頭なるを知らず為に	
			牛馬混して、土人の喧嘩あり、大騒ぎとなり。吾々の馬幸いに渡せざりしも一時は非常に心配す。	
		9	大所にて野営する。馬一頭を盗まれた為に、叉々高価なる鳥拉雇いて、巴塘に至る。	
			叉大折にて、夜寝ておる所へ小盗来り、我が傘、手拭等を盗み去り。寺本君驚きたり。	
			行李には手を掛けず幸いなり。	
		10	道中にて、一頭に乗り、一頭の馬を曳きて行く。後を振り返りて見るは難しく、その間に、行李の	
			縄に挟みおきたる蛮刀子を抜きて、叉盗み取る。少しも油断ならぬ蛮人なり。	
			小巴冲木賃宿料。	
		11	午前10時半、巴塘着。牛肉、麺を食す。味甚好。鳥拉の一人来り、馬脚に刀傷ありとて、	巴塘着
			一頭50ケ洋銭云しむ。脅し遂に主人家の尽力にて1ケ洋銭の酒2、或は茶代と糸二線にて済む。	
			米代、麺及牛肉。兵士へ与える。巴塘宿。	
			巴塘ラマ寺は、定林寺と称し、3,000人のラマありと称すれども今は、1,800なりという。周囲は、	
			百間四方。中を見物せし所広大にして金屋根の本堂あり。常に念住す。食堂大。壁画鼻なり。	
			外人の入るを嫌う。巴塘には、軍糧府、都団府、汎専府守備正副、2土司官等あり。	
			糧台武氏に面し入蔵の許可を得、護照を示す。叉兵を派して蔵地内に送ることを告げらる。	
			裏塘よりの護送兵途中一所に来らざる為に道中非常に不便なりしゆえ其由を述べ、同行致す	
			様、糧台は申されたり。巴塘は、人家、漢人、蛮人、雑居で300余戸。何れも大家高桜なり。	
			裏塘に比して舗子少なく、2～3戸。高価なり。我々の道中用の小間物をも買いたがる程なり。	
			四面山にして、二方より河来る。北より来る河は、水流急、叉大水なり、下流30清里にして	
			金沙江に合す。	
		12	松茸あり。松茸、牛肉の麺好味。モーモー叉菓子の粗品の味あり。本日、鳥拉の一人亦来り。	
			我々の大所にて鳥拉、馬一頭紛失官に願うとて手を引っ張り行かんとし、同じく50ケ洋銭なり	
			しと脅し、叉主人家の尽力にて漸く5ケ洋銭の酒銭にて済む。夕方、兵と共に糧台府に行き、	
			武糧台に面談。明朝、護照を示すべき旨申さる。半曇。半晴。刺麻寺内を見る。	
			皮服仕立綿布代払い。卵8ケ。	
		13	朝、予一人、糧台に面し護照並びに本山法主書面等を示し、遊蔵に付、兵1名を給し、送らるる	
			を申さる。叉、重慶発の書面を受取る。国元、静、南條先生、成田、武田、炉の朱氏以上5通なり。	
			酥油1斤余、麺、牛肉を求める。	
		14	本山上申書第15回を認む。毎日、牛乳、麺好味なり。糧台より卡下への返書を写す。	
			水野宛に『入蔵途次見聞雑記』を送る。	入蔵途次見聞雑記
		15	御命日勤行。＊南條先生、重慶宛等の書面を認む。叉毎日、曇、晴、雨交互来る。洗濯。	⑮240p
		16	国元書面認む。亡父祥月命日勤行。15日、寺本君未だ鳥拉の返答なきを糧台より催促す。	
			明日、返答すべき旨話さる。由て16日に鳥拉口糧台上の通司、安氏来り。近頃、鳥拉なし、	
			当分待つべき旨申さる。鳥拉通司へ贈る。麺。＊河口から巴塘までの様子を父・兄へ書簡を出す。	⑨140-145p
		17	巴塘は、蝿、臭虫、蚊多し。蚊屋無で過ごす事を得ず。米、牛肉、塩を求める。	
		18	牛肉、麺を好食す。散歩に出て小河を渡り、近方10数町回覧す。叉夜、略地図を製す。毎日、松茸	
			の好吃、実に旅情を慰む。	
		19	贈り出す書面、糧台武氏へ数部頼む。白木綿4尺、紙10枚。第15回「本山上申書」を出す。	
			○ 巴塘にて本国をのぞみて　　石峯	
			うきくもは　風にふかれて　たちゆくも　あづまの山は　なをはれもせず	
			○ 巴塘宇蘭盆会　8月19日（旧7月14日）	
			たよりなき　巴塘のそらに　てらし来る　けふ七月の　うら盆のつき	
			本日は、松茸、麺を飽食し、叉夕は、善哉、漬菜等を大食し実に食事充分先ずは旅情を慰む。叉、	
			昌都進進飽的人等3人来訪せり。彼等尚ら口の為に用なくおると云う。この数日降雨強く出水洪為	
			に進蔵の路を妨ぐ。夕方、糧台に行く。武土人に面す。右の書面13本ばかり包み炉城に向け発す	
			ることを依頼す。然るに我々進蔵に付鳥拉を与えず。洋人と称する故に進蔵願活佛の大願を立て、	
			この願満足せずば死と同然なり。途上死するも本意なれば是非進入するとの旨申す。予は、自ら牲	
			口を求めよと云われる。由て、然る時は「路表」を給されんことを請う。彼諾せり。漸く、帰宅す。実に	
			炉城にて寺本君に為に大に失敗す。即ち本心たる支那僧として入蔵し路表等も得んとしたるに日本	
			人たることを明かし炉城糧台に面したることなりこれ予等の無事を誤りたる初めなり。後悔するも詮	
			なきも人の為に我大業を大に謝れり。嗚呼天仰いで長溜息するの外なし。桃求む。	
		20	旧7月15日、宇蘭盆。晴好天。朝、口巴午食し、ゴルカ通司馬氏の元に行き我々の鳥拉なし一の駄	
			子を与へられんことを乞う。彼れ口子みんとの返答をなせり後、叉裏塘にての地神王氏即ちゴルカ	
			通司李氏の下なり。彼来り李氏に頼み一の駄子を与へんことを談せり。叉衣服もラマ僧風となすべ	

年	月	日	事　　項	参　　考
			き旨話さる。夕、松茸飯を食す。夕方、□□家の内を訪う。数名来訪者ありたり。察木多迄16站、	
			察木より前蔵迄33站、計49站路なりという。叉3,790里、巴塘より前蔵迄ありという。	
			ゴルカ荷物3個、蛮塘間途上紛失損も2千数百円。為に1ヶ月間ばかりも出立出来ざる由。	
			西蔵の達頼、蔵王の戦争も平和となりたる由、叉近々飛脚来るという。前蔵より巴塘まで急行15日。	
			巴塘より打箭炉迄5日。計程19日に急行すという。	
32	8	21	晴れ、宗教学に付、少し記せり。夕麺。炉と巴とは経の音声大に異なる。本日、剃頭す。	
		22	墺洋銭7、8個入り(3錠)。終日、蔵文経を読む。大経始めより一キリ宛読み始める。晴天。	
		23	桃大7個半。川魚新鮮。麺2回。晴天。	
		24	馬氏及び進餉(察木多)人を訪い進蔵の近状を聞く。今路損し、当分出発する不能という。叉、夕方	
			安通司来訪。土司に行く。五度鳥拉をいうも我々は洋人なるをゴルカなどより告げられ今尚不得。	
			明日、明日なる返事する云しむ。清油半合。河魚1回。麺1回。晴天。	
		25	西蔵最初の屯に近づく。寺本君所蔵の「蔵印邊務録2巻」を見る。麺4斤。入湯。晴天。	
		26	馬死。馬上8人の人に会う不潔なり。察木多進向。本日進蔵。晴天。	
		27	馬疲休む。五の営あり。人口100.西蔵の駐蔵大臣ambanに増品を送る夫人あり。	
			人民淳睦。羊肉、牛酪、乾酪等に来る。この地、扎什倫布？聖人を奉す。	
		28	彼等が好むものを与えんとせば受取らず。麺、卵。本尊を前して御命日勤行。曇。	
		29	軍糧府、都閫府、専汎部聴、正栄官、副営官、定林寺、雅巴廟、関滞廟、城喤廟、天主堂。	
			青稞(□巴)、小麦(麺、温餅)、麦蕎(コーコイ、モーモー)。牛、羊、猪肉。オーセン、青菜、菠菜、	
			両花、南瓜、黄瓜、白瓜、葱子、クルミ、桃、梨、松茸。甲魚、叉雪魚、川魚。□油、牛皮履。白塩。	
			外来ものには、米、反物、小間物、茶、豆、黄糖等あり。	
		30	晴天。82度。茶碗を造る。製図。	
		31	曇。80度。□巴1回、麺1回。糸1ケ洋銭。20包。□子1ケ洋銭、20個。茶炉の倍。即ち3ケ。	
			裏の2ケ半のものなり。木綿4尺半ケ、紙10枚4分の1。	
			うきときは　おもいぞいずる　たびのそら　裏塘刺麻了の　人のつれなさ	
			たびすれば　世はさかさまに　なりにけ里　冬ゆきを見て　夏雪ぞふる	
			いなづまや　刺麻寺□　犬のほゆ	
		31	34～5人の者来たり、我等の進蔵を止めんとすの引き返へせし地なり。	
			今月の支払い18円60銭。残139個。	
32	9	1	降雨。70度。彼等の好むテントを建つ。彼よりテントに来るべしと申来る。長い支那服にて奢移	
			して談話す。ヌガチャクより越入るを不許可。而して、粉、米、酪、茶、羊を送り来る。予は、新約	
			書を送る。	
			冬かれや　花なき里の　たびじにも　ま□□きけ里　つまのをとづれ	
			夕暮れや　声はりあげて　唵嘛呢叭	
			ひげはやし　アロササ゜ンパサ　刺麻ポーサ	
			あか袈裟を　□且右肩の　羅漢刺麻	
		2	曇。70度。9月1日朝より座禅を始める。便利的座禅にして焼香沈心端□正念。	
			舞記。沿革。没落(歴史、風俗に微す。指図)。秋毎に村の社に神まつり舞よぞ夜を明かしける。	
			巴塘を去る5，6里の所に於いて旧8月1日より3日間刺麻の芝居あるとて巴塘全街のもの貧も富も	
			おしなべて或は皮の敷物或は椅子、其の他色々のものを馬などにのせて運び、沢山の食べ物持ち	
			年に一度の清客して遊ぶぞ、今日は、その仕度にいそがしき街の有様なり。ビーフーを食す。	
		3	晴。80度。	
		4	昨夜、降雨。70度。刺麻踊りにて皆行く。稀に縜服あり。自□麺不好□。僧三哲偈勤行。俗論偈	
		4	勤行る座禅。	
		5	召哉。3枚、9枚。座禅。刺麻踊り寺本氏行く。70度。夕方降雨。昨夜、強雨。	
		6	終日□巴。晴天。夕立。　夕立や　刺麻のおどりも　ひえにけり	
			72度。石持ってテントの縁にしゃがみけり。刺麻おどり見物。10時半より2時迄。巴塘全境図あり。	
		7	終日在宅。75度。「麻刺南経」訳読する。	
		8	ビーフー、巴塘踊りを見る。75度。	
		9	晴。75度。夕、婦人会の麺食を給せらる。本日は、「辺務録」を読み□□す。同じく踊りを見る。	
			本月3日より刺麻おどりあり、3日間に加え1日、加え、本日迄2日間のおくり祭り。巴塘の土人も	
			中々裕々閑々の人なるや。ラマ参行の時は隔日に食事す。夜、強雨。青稞9杯。散歩75度。	
		10	午前降雨。昨夜踊りを見る。本日、叉1ケ洋銭ねだられる。本日は、「西蔵通路」を調べ書き出す。	
			曇天。70度。酥油1斤求める。	
		11	電傳。上諭四川候補道安成着賞給副都統街作為駐蔵幇辨大臣循例駐駅往欽此　同日奉卵。	
			刺麻経を読む。雨。昼70度。巴塘この1ケ月、銀山順勝寺三蔵寺等奥復事業。	
		12	朝、62度。法事とは僧のみ読経すら謂ならず。経文の意を了して法味を委ぬ。楽するを法事という。	
			尓らは訓読し叉施主よく聞くすべし。文典シンタッキス。	
		13	文典。68度。火鉢材銭両人にて五個。30日間の木賃宿料支払い。叉子もに半個を与う。寺本君	
			少しく病あり。君は天寒性病を有し、本国にて数回起こりたることありたりという。昨夕、主人云う、	
			この2，3日の内、後蔵獨吉嶺地方官□の為数人来塘進蔵我々も同行可なる由、話す。或は成田	
			氏一行に□ざるや。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	9	14	文典。晴天。72度。佛国人□□李氏西蔵菠、南瓜、卵4ケ。蛮家打箭炉人姓魚にもたせ来談。洋	
			人は猿11日にヤーヘーコンに行き、18日頃、返るという。我々来ること、手紙来りおるという。魚を	
			雇う話しす。	
		15	咋今、文典を調らぶ。土人の服を持ち来る。曇天。68度。旧8日ー15日は、看月舎来る19日なり。	
			月かげの　□よりぬ里は　なけれども　□る人の　心にぞすむ	
			城隍廟は刺麻にもあり。この店子の前庵即はなり。これ死人を管する菩薩にしていわば□魔法姓。	
			黄糖、土人衣服。塩代。文典ナンバー。	
		16	父命日。65度。少しく冒寒頭痛気分別して悪敷、気浮立たず。物言うこと甚だ面倒世は味気なし。	
			本日は麺4斤。勉強も出来ず郷国に帰らんと浴欲して帰る不能進んと欲して進まれず。無理に進め	
			ば勉強も出来ず郷国に帰らんと浴欲して帰る不能進んと欲して進まれず。無理に進めば命を落と	
			すは目前。本日は麺4斤を支払う。	
		17	70度。午前散歩に出て遠く東北の丘上に至り巴塘の上流10数戸の村の河上にあり、畠を見る。ビ	
			ーフ2斤。一時間半にて帰宅。途上蘇通司先生に逢い1、2頭の駝子を通司の分にして得られざる	
			やを問う。彼たずねて見ると云へり。叉十余天して出発す。蛮塘よりの返事来たりと叉我々に同心	
			なりと彼云へり。。彼はよき人なり。北九後、衛門通司来り。今日、一の兵江卡より来り。我々2人	
			の洋人和尚は進去すること出来ず、転来帰国せよとのことなりと通し、叉主人家しり進去する不能	
			帰るべしとすすめ、尚、房銭は五分と半額なりと云いしむ。実に、実にひどいやつばかりなり。この	
			数日は予心中大に大決心することを案ぜり。国遠く実行するに到らん。陝西人、来訪2人で通路	
			をしらべり。世の味気なき　身ひとつに	
		18	12時、巴塘糧台武氏に面談し、江卡土司の通知書を示され、不得進蔵の旨申さる。護照面上争う	
			こと難す。江卡土司へ送りたる返書を写し取る。益なし。寺本、能海両人分袖に決す。この夜、2時	
			に看書す。	
		19	看月舎、主人家の馳走あり。寺本君は帰国に決し、予は、阿敦子行に略決す。名月。	
		20	朝、64度。昼、75度。西蔵里程図を製す。名月。	
		21	朝、60度。桃熟する「西蔵里程図」を制す。糧台より主人家を通う我々の所信を尋ねる。不得進去	
			云う。蛮菓子12個を求め食す。夜、佛教語。。	
		22	朝、62度。昼75度。本日、叉糧台より決定を催す。或は、雲南に出て支那寺に暫く滞在するも可	
			ならん。麺4斤。この夜、熟眠。色々のことを夢む。晴天。	
		23	二ケの糸。大桃10ケ。毎日天気好温度同様。巴塘□西人多。麝書一両に付8、9両。炉は10両。	
		24	朝より熱水塘行。近方散歩。帰途、五潮四海九江四河井泉。龍君社に送り帰る。夕方、糧台に面し、	
			予は、雲南、寺本君は、帰る旨話す。	
		25	朝、佛国人常氏に面し雲南路。信搬洋萬□等話す。雲南路行き等話す。叉糧台に行き10月1日発	
			の旨及び南路等話す。ビーフ、蛮菓子。剃頭。	
		26	麺を送り来た寺本君へ御文。文典を写す。曹婚書面を見る。都司周、春汎呉の二人来訪。裏塘に	
			送り雲南には送る不能。	
		27	往復60里、遠足。金沙江を見る。豆腐、パン、漬け菜よし。金沙江の辺にてスケッチを描き、	金沙江
			のぞめども　深山の奥の金沙江　つばさなければ　わたりえもせず	⑩596p
			と牛古渡にて歌を詠む。午後1時。「至牛古渡途上風景」、「金沙江風景」2点を描く。	⑩594-596p
		28	朝、葬式のここちにて御命日勤行。寺本君糧台に行く。予、帰裏の旨談す。由て烏拉を与うという。	
			麺、菓子。味噌。	
		29	朝、65度。河中75度。通司来る。心経読む。ビーフ。	
		30	荷物を整え帰炉仕度。麺、茶代、宿料。通司、ボーイ。今月の支払い11個（6円65銭）	
32	10	1	巴塘発。帰炉城朋察木宿。70里。	
			泥水に　こがねの砂を　流しゆく　幅は三町　岸は高山	
		2	大所宿。90里。烏拉察木多	
		3	三巴宿。80里。	
		4	烏拉三巴及馬一式。頭塘烏拉。二郎湾宿。	
		5	烏拉拉尓塘宿。拉尓兵より麺餅。90里。	
		6	乾海子烏拉。頭塘宿。90里。	
		7	大橋□ロ。米、ピーフ。氷糖リタン。裏塘着。60里。	裏塘
		8	裏塘滞在。軍糧府行護照を示す。雪変り。ラマ来る。烏拉2～3日の内に得。麺5斤、兵へ茶銭。	
			通司へ2度。	
		9	裏塘滞在。	
		10	「金剛経」完全版本小冊57葉(炉版)乙第弐号を求めるビーフ、サ゜ンパ、豆腐、雇牲口。魚代。	
			裏塘滞在。	
		11	火什卡宿。	
		12	雇牲口、西俄落宿。	
		13	西俄落滞在。。	
		14	麻蓋宗宿。	
		15	雇牲口、河口対岸宿。	
		16	河口宿。渡江。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	10	17	御経二軸。河口宿料。御経2軸、駝賃。八角楼宿。	八角楼
		18	臥竜石宿。	
		19	東俄落宿。	
		20	阿娘壩宿。	
		21	折多宿。	折多
		22	打箭炉帰着。麺、油、炭、梨、豆腐、パン、塩菜。	打箭炉着
		23	書面、重慶へ発送。4～5人を招き宴を張る。ねぎ、薪、醤油。	
		24	御経二部、25両。玉石2珠、コーコイ、塩菜、菜代、牲口民夫、茶代、米1斗、油。剃髪。	
			軍糧府へ名刺を通す。	
		25	御経雑5両。肉、薪、菜代、炭、コーコイ。兵へ。御経(5両)を求め丁附調査。糧台使と名刺を渡し帰る。	
		26	羅氏来る。御経丁附調査。コーコイ、菜、豆腐、油ほか。	
		27	コーコイ、油、菜。御経(3,500文)。風邪。	
		28	風邪。御命日勤行。中逆上、御経丁附。うどん、梨4個、胡ショー。	
		29	刺麻寺三ケ寺巡観。御経(5,300文)。梨5個、茶飯、コタツ。菜の油、牛乳、塩菜。絵1幅(2,200文)。	
		30	コーコイ、茶スーユー、茶代。御経丁附(14両)。	
		31	麻布2、縄子3本、ゼーフ、パン、ニンジン、イモ、薪、砂糖。御経運び2人。酥油4斤。	
32	11	1	パン、塩菜、茶、薪、刀子、ビーフ、麺、洋菜、豆腐、油、醤油。小サジ。御経重量214斤。	
		2	麺3、牛口子、菜代、油、。『西蔵図考』(1,100文)南條氏へ送付。寺本君帰朝炉発。	
		3	塩菜、菜、炭。	
		4	明正土司、循所より帰炉。梵文大経始め毎朝勤行。	
			四川省打箭鑪閣窓楼上。茶、塩菜、こしょう、みかん、菜代。	
		5	金剛経謄写。菜、油。	
		6	午後2時、福音堂行。	
		7	鉢麻三婆瓦の画を得る。仏画一幅。菜代。仏画一幅(300文)。	
		8	金剛経購入(450文)。状袋大小10枚。名刺紙50、ろうそく1本。砂糖1斤、麺、塩菜3斤。	
		9	乙第壱号・「麻尼百千頌経(蔵文)」御経一部179葉完全(4,770文)を求める。油、ビーフ。	
		10	乙第弐号・「金剛経」完全版本、小冊(57葉)炉版を買い求める。牧、菜、油。	
		11	菜、薪。	
		12	パン、炭、御経金剛経(100文)。菜、薪、米1斗。＊第16回「本山上申書」発送る南條師、国元へも	⑤336p
			書信出す。	
		13	牛乳11日分支払。宣託個。菜、油、茶、麺3杯。花生。「蔵文金剛経」を読み始める。	
		14	仏画7枚(2,100文)求める。大教堂刺麻大行道。拝胡図克図。菜、薪。	
		15	御命日勤行。塩菜、菜、油、薪。	
		16	乾醤、豆腐、塩菜、菜、薪、胡椒。	
		17	蔵佛銅製、泥佛購入。菜、薪代。蔵佛(銅及び泥体)。仏像代1,000文。	
		18	茶、薪、ロープ、洋ユイ、ビーフ、砂糖1斤。パンツ。	
		19	ビーフ。	
		20	第1、鹿苑の釈迦牟尼仏。第2、龍樹菩薩。第3、トヒスロンデサ゜ン王。第4、鉢特魔三婆瓦。	⑥95p
			第5、シャーンタラクシタ。第6、亜提舎。第7、菜楼。第8、魔尓巴。第9、ミラレパ聖人。	
			第10、宗喀巴。第11、第一世達頼刺麻。のスケッチと解説 を「丙第五号」に書き記す。	
			猪肉半斤。ロープ。	
		21	梨7個、柑個個、菓子4個、麺、花生、油。	
		22	御正忌精進。ネギ、ロープ。	
		23	御正忌精進。菜代朝夕、菓子4個、柑子4個。	
			第12、無量寿佛・銅像。第13、無量寿佛・画像。第14、五佛。第15、釈尊三味ノ図。	⑥101p
			第16、四手観音菩薩。第17、十一面観音。第18、白達拉。第19、緑達拉。第20、魔利支天。	
			第21、普賢。第22、文殊菩薩。第24、金剛手。第25、金剛陁羅。第26、金剛貝拉瓦。第27、グル	
			護神。第28、福金剛。第29、拉磨女神。第30、タムヂン神。第31、タムヂン円図。のスケッチ	
			と解説を「丙五号」に書き込む。※第23は欠。	
		24	御正忌精進。「佛説大集母、逆子菩薩所用経」完全128葉、外に119葉(3,180文)を買い求め	
			る。菜朝夕。	
		25	御正忌精進。醋。	
		26	御正忌精進。菜、豆腐、大根、ねぎ、酢。菓子8個、柑子12個、塩菜1斤。	
		27	御正忌精進。報恩講。燃黙会。ローザン上人。小豆5合、菜、いも、大根、酢、油、コーコイ麺1斤、	
			スーユー茶。	
		28	御正忌精進。報恩講。	
		29	するめ1枚、砂糖半斤、麺、包子1個。	
		30	コーコイ麺、薪、コーコイ茶。今月の支払い33円9銭9厘。	
32	12	1	酥油茶、稞穀、麺3杯、乾醤1斤、油。	
			「丙第六号」を書き始める。※一統教。ダイヤモンドの大福長者。次回入蔵準備などを掲載。	⑤119p
		2	葱子1把、ビーフ1斤、炭2荷。房銭旧10月分。下女2人支払。朱氏へ送賃。牛口子20日分支払。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	12	3	泥釈尊像(35文)購入。稞穀1斤打。砂糖1斤、麺3、団子。清人参廟。＊水野へ書簡。	⑨123-128p
		4	楼上上等室に移る。菜、油。	
		5	成田氏より書信来る。滙報を見る。＊父・兄への書簡を出す。	⑨146-148p
		6	朝、零度。日中8度。重慶及び国元へ発信。コーコイ、スーユー茶、油。	
		7	朝、3度。	
		8	朝、零度。雪片あり。釈尊仏画軸購入、400文。蔵小太鼓購入、200文。	
		9	仏画大幅一軸、800文。葱子一把。シャツ洗濯代。	
		10	後蔵喇嘛嘛と対談。50余と20才余の2のラマ後蔵デシンゲ（上書）寺のもの口什倫布を去る5日の	④200-201p
			地なり。前蔵より后蔵に至る騎馬5日里程。西蔵より青海を経西寧に至る40日。「コーパー」とは	
			トンドなり。トンボ(レ)扎什倫布コンブ苗。彼の通過せん道は	
			ラサゲンパ　　一千一万のラマ	
			リグゲン　　一千ラマ	
			セルゲン　　八百	
			ティワ゛ンゲン　三千	
			タルスー　　七千	
			ガルゲンパ　　二千これより西寧に至る13日	
			セ゜デンポ　　24日里程	
			青海周囲　　12日	
			前蔵大宝法王　30才　ギャワパンシャレンポチェー	
			后蔵大法法　コンタレンポチェー　40才	
		11	電傳　上諭四川候補道安成着賞給副都統街作為駐蔵幇辨大臣循例馳驛前往欽此　同日奉	
		12	井戸川氏曰く佛領事の言に目今西蔵内地戦乱あり。是れ蔵人の露国に朝貢贈物等をなせしより起	
			こるものなりと云へり。何れ明後日佛領事に逢へば悉しく尋ねる所あるべし。叉巴塘の仏教師英語	
			を解すこの人蔵語をよく学んでは如何と。後聞く。裏塘巴塘土人の反するものなりと。麺持ち来る。	
			花生小偈経、16文。	
		13	稞穀、茶、薪、ビーフ、野菜、薪3、麺子一斤。	
		14	＊「浄蓮寺師壇規約十二條」を稿了する。印版工銭2人。綿布一匹。花生、酢。	⑭114p
		15	茶、薪、きのこ、葱、薪。第三十二、ヂャンバラ神を「丙第五号」に書き込む。	⑥111p
		16	仏像2躰、12,800文。ロープ。第33、寺門神。第34、西門護王。第35、南門護王。第36、赤財神。	
			第37、西蔵古神像。第38、西蔵古代神僧。第39、天人。第40、東門護王。のスケッチと解説を	
			「丙第五号」に書き写す。	
		17	花生。	
		18	稞穀、茶、薪15把、花生。	
		20	「浄蓮寺波佐教会規約八條」を稿了する。硯台7個(1,200文)購入。砂糖1斤、牛乳1杯、猪肉半斤、	硯台⑭120p
			葱子一把生麺半斤。	
		22	冬至。「思想の変遷」9項目を書く。稞こん、茶。	『在渝日記』
			※仏教研究は、「西蔵学」が最も重要との考えに至ったことを記述する。	④239p
		23	古仏画2軸(100文)。仏画1軸(500文)。稞こん、茶、塩一斤、油、花生。	
			今般、大谷派管長より浄蓮寺14世住職を拝命に付、「諭達」稿了。	住職拝命⑭126p
		24	mien3cups。	
		25	猪肉半斤、生mien、茶、酢。	
		26	稞こん、茶、生麺。	
		27	新聞代。麺、花生両斤。	
		28	稞こん、茶、稞油一両。油、洋火。	
		29	塩菜一斤、小菜、豆腐、冨豆。	
		30	光緒26年暦を購入。菓子、みかん、醤菜、糯米3升。	
		31	餅を搗いてもらう。大教堂、麺、生麺、猪肉、葱、乾醤。2人工銭。朱氏へ送金。仏の箱。	
			今月の支払い39円98銭2厘。〆920円也。残100円。明治33年3月末。打箭炉で過年。	
33	1	1	何地に何様にあるや前途を思う。打箭炉楊通事正月。瓜子、花生、包席、酒代、油代、洗衣服。	
		2	油代。	
		3	みかん小10個。	
		4	白糖1斤、豆腐一丁。	
		5	ビーフ、油。	
		6	ビーフ、稞コン。	
		7	＊第17回「本山上申書」。大幣信銭、油。	打箭炉④253p
		8	みかん、胡椒、状袋10、筆一本。	
		9	茶、ビーフ、葱子、油。	
		10	済一俵、ビーフ、油。	
		11	Vegetable,Butter tea,Tiletan teaa Cells,　＊「般若心経」読み出し終る。	⑤343p
		12	志君洞、崇文鎮、三根汎、文峯場、5時、温塘に着す。twn picturcs, Cutter 2斤半。Tea,	
		13	一山を越え松樹あり。長江を望む。漁洞鎮は揚子江の辺にあり、人家200戸。12時、ミカン船に乗る。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			60里60文にして3時間半を要する。4時前に珊瑚覇に着す。Sugar 一斤。大根、うどん、ビーフ、油。	
33	1	15	『金剛経』(600文)購入。帖子、花生、大豆、	
		16	輪内釈尊画(600文)。泥蔵佛袋入(100文)。	
		17	tea,品信合信銭。みかん、モーモー、油。	
		18	クソミエン。ビーフ。	
		19	tea,mea、青菜、油。	
		20	皮帳(200文)を求める。	
		21	糯米2升。Tea,油、牛乳28日分。大豆、肉半斤青菜、ツーパー工銭。	
		22	版本蔵経入手。お経速支払(200文)。炭。	
		23	未肉一斤。青菜。ロープ。いんげん。	
		24	国元、谷、水野、成田、寺本の書面着く。tea,紙5枚。筆2本。砂糖。菓子2種1斤。牛乳2杯。梨。	
		25	観音來迎。蔵佛一個(470文)。米5升。パシャニヨ、猪肉	
		26	Tea,油。	
		27	散茶半斤。みかん2個。	
		28	油、Tea,	
		29	パシャニヨ2斤。油、豆腐、パン、葱子、大根。朱女筆末1ケ。主人家居銭。2人工銭。朱氏へ送金。	
		30	稞コン、茶。「金剛経」第弐編の直訳を開始する。	⑥204p
33	2	3	寺本君書及び新聞着く。	
		4	Tea,	
		5	文特殊歌画幅(300文)。Tea,大幣信銭。寺本婉雅君、上海へ書面出す。	
		6	油、mcat, Tables,	
		8	ダルツェンド滞在中に波佐八景を詠む。Tea,	
		9	本願寺電報取替。	
		10	油、マッチ。	
		11	Tea, meat, woods,紙、	
		12	油、	
		13	履物修繕。	
		14	炭小2包。	
		15	cocoi,tea, woods,Uegetalles, 薪、乾粉一斤。油、塩包、海椒、醤酪、塩菜2斤。	
		16	炭4包。Tea,父法幢の命日に当り、回想記を認める。	
		17	Tea,	
		18	Oil, Chanyu, ＊「蔵文金剛経」直訳完成する。	**丙第拾号⑥204p**
		19	包席2碗。	
		21	未刊3個。	
		22	豆腐、菜、茶。	
		23	油、菜。電報配達人へ。寺本君、東洋哲学へ書面。寺電着。	
		24	電報六字信。豆腐、肝油、茶、コーコイ。南條、寺本、水野より書着く。寺へ打電する。	
		25	＊第18回「本山上申書」、打箭炉。シャニヨ、太パン、茶。在慶支払。水野、国元、中村へ書信出す。	④253p
			英人ワツデルより「ラマ教法」を借りて一覧する。＊水野、国元、中村へ書信出す。	⑨151-160p
			水野への添付物、浄蓮寺師檀規約十ケ條(草稿)、浄蓮寺波佐教会規約八ケ條(草稿)	
		27		
		28	乾粉半斤。油、臭菜、海椒、生口。朱氏へ送金。キャンユイン工銭。	
33	3	1	茶、花生。	
		2	状紙、状袋。	
		3	筆一本、大状袋5枚、紙5枚。塩菜2斤、海椒油。	
		4	コーコイ一個。寺本婉雅より書面着く。父、石田、静の書面着く。	
		5	石川舜台、国元へ書面出す。chachol,　2包、大幣信銭、油。	
		6	mien,	
		7	ラーゾー3斤。	
		8	cocoi,tea, chcetom, oil, Fuitopan, sai,	
		9	cakc,　旧巴粮帰炉。	
		10	豆腐、chcetan,	
		11	chachol,　炭、菜、油、コーコイ、	
		12	65度。	
		13	68度。コーコイー、卵。	
		14	70度。Tea,　豆腐。	
		15	55度。成田、水野、春谷、浅野へ書面及び宗報着く。春谷訃報。豆腐、油。春谷氏の訃報に接しね	
			吊詠を詠む。つれなくも　風にさそはれ　ちるとても　はるにもまさる　みをや玉すばん	
		16	成田、春谷、浅野、静へ書面出す。Rice　5升。信銭。Tea4,コーコイ。	
		17	塩菜、油、海椒。	
		18	chachal2包。Tsonts2把。	

年	月	日	事　　項	参　　考
33	3	19	油。	
		20	mien,	
		21	仏画六軸購入、(7,800文)。コーコイ、茶、油、	
		22	包席、18日分の支払い。	
		23	Kanfea,chanyu,tsn,	
		24	御経、仏画六軸、4.000文。	
		25	コーコイ、茶、信銭、油。	
		26	＊「般若心経西蔵文直訳」梵・蔵・漢・英対照訳出訂正完成。帖記帳2冊、筆1本、時計購入	②208-232p
			(7,000文=6両6銭)。	
			般若心経西蔵文直訳	西蔵文直訳
			1. 案ずるに罽宝三蔵般共利言訳の般若波羅蜜多心経に符号す。	
			2. 梵文は、英国出版の大心経第一「ゼー」、第二「ダヴリュー」に符号す。	
			今は「ゼー」を冠頭に記す。	
			明治33年3月26日、梵蔵英対訳照訳出訂正畢る。	
			在清国四川省打箭鑪　　能　海　　寛	
		27	油、tsai, wood,　海椒。	
		28	コーコイ、wood,	
		29	＊「弥勒勝願経」を直訳を始める。	⑤135p⑥135p
		30	房銭。朱氏へ支払。Chanin,chachol2包。Mien3。「弥勒勝願経」を直訳(継続)。	
		31	油、kanfui,夕食前に「弥勒勝願経」の直訳を完了する。	
33	4	1	ホアセンニヨ。	重慶出発
		2	コーコイ。Eoods,Cake,	
		3	Eggs,thrci,Wood,Chanyu,　パシヤニヨ。	
		4	麻布一匹、経画包(230文)。炭5包。砂糖。Entsai, パシヤニヨ、tsai,　＊水野へ書簡を出す。	⑨165-157p
		6	mien, Cakes,	
		7	chanin書典(300文)。	
		8	cocai, woods, entsai, woods, Oil,woods,	
		10	Cake,	
		11	Catter, Tea, wood,　パシヤニヨ。Eentsai4, Tsai,	
		12	包席8日の分支払。	
		13	コーコイ2斤。Wood,tsai, tea,卵2個。大幣信（銀表運賃、2,700文）。Cake,	
		14	成都府北打金街萬有店より本山あて第5期上申書発送。	
		15	Tea,　woods,　時計1個。	
		16	袋状、筆1本。Calse, Oil,Kafen,tsai,	
		17	Tea, wood, tsai,	
		18	micn, Oil,	
		19	筆五本購入。ユーカルホ。Mien,	
		20	Tea, Cocoi, パシヤ。Tsai,wood, mien, Hantsai, cheeton.	
		21		
		22	Tea, wood, シヤニヨ。サ゜ヂャンコン。Oil, tsai,	
		23	wood, tofu,	
		24	コーコイ、wood,tea,	
		25	＊西蔵ボン教の「無量寿経」を翻訳完了する。Rice　5升。Mien,	**丙第九号②271p**
		26	パシヤニヨ。Oil,rsai,wood.	
		27	Cocoi,wood. Chen,Knyan.	
		28	tea,wood. Oil.	
		29	パシヤニヨ。Oil,　wood, tsai, 房銭。昌音工銭。朱氏へ送金。酥油。	
		30	tsai, potsai, wood, tea.	
33	5	1	momoi, Tibetan tranpet.	
		2	Egg,wood,	
		3	次回入蔵準備する。洋銭、印度ルーピー238個。この銀90両。Hantsai. Eggs,wood,	
		4	筆3本。手帳3冊(210文)。ダルツェンドから南條博士宛てに金剛経蔵葉57葉、訳本4冊小包で	
			発送。朱氏へ工銭給。状紙数枚。Wood,tsi.「次回入蔵準備」として、必要携行品を書き出す。	⑥164p
		5	ラマ帽黄色購入、240文。Carber.	
		16	第19回本山上申書を打箭鈩から発信。南條先生あて金剛経西蔵文葉、訳本計4冊発送の旨記す。	本山上申書
			明日、成都を経て甘粛蘭州に至り青海に至る予定で出発する。ラマ寺に西蔵黄教新教の開山誕	
			生地も訪問の予定。（第15信によると本山あて金剛経・般若心経・ほか二部の西蔵経文の直訳	
			を送付）　※「西蔵ボン教」も翻訳。	
			【上申書の内容】	
			第1　　青海を往て進蔵をはかるべし。荷物並びに旅費の半額は当地に遺し置き出発し。	
			第2　　青海策若し成しさざれば、再び当地に引可へし、萬題中の第一を試むべし。第一業たる小路	
			進蔵到底望みなりと。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			第3　冬期好期以て、雲南に業出て、第二を試むべしと。依って以上実行の為、明日、当地出発	
			新決定の論に上り候。就再び成都を経て、甘粛、蘭州に至り、青海に至る予定に御座候。	
			或いは序を以て松藩内地に於ける喇嘛寺に西蔵黄教新教の開山誕生地をも訪問致度存候。	
			二白、過日、寺務所内南條先生宛金剛経西蔵文葉並びに訳本、計4冊発送致置候。　以上　早々	
			5月16日　　歟在打箭炉　　能海	
			本山寺務所　布教局御中	
			※ 翻訳経典4冊とは、「般若心経」、「無量寿経」、「弥勒菩薩誓願経」、「金剛経」の4点である。	
33	5	17	午前9時半、打箭炉宅此役、朱氏宅にて小荷物を整へ小姑娘東門外にまで両口肩掛け持ち	**進蔵朝佛記⑤172p**
			送り来る。大生関に下れるは、11時半なり。途上一茶館に4文を拂いて喫茶。途上数回休み下る。	打箭炉発
			馬の交接を見る。始めてなり。足労かれ困る。途上2回知人に逢う。一人は佛画を魚通より持来らん	
			とせり。午後5時半、瓦寺溝着。日地頭道等にて休む。麺館二杯24文。茶館4文。補蓋代16文。	
			僧に逢い言語の通ぜらるに大に困るる廣東、東西辺口云へり。飯を造らんとして造る不能。8時、就	
			床僧と同室。所謂幻にて夜半に至る迄睡眠する不能。＊第19回本山上申書」打箭炉。	④253p
		18	朝未明降雨。5時20分出発。見れば山上一帯白雪なり。足痛。当地より水田叉は阿片園あり。途上	濾定橋
			一清里に付、10余人平均に逢う。昨日、7、800人に逢う。皆茶包荷なり。7時50分瀧橋の宿に着。	
			朝飯。時に炉軍糧府より一口人追来り。送り去りと云へり。大に困る。瓦寺溝に小河一橋。大河一番	
			舟あり。一橋を渡り大河辺魚通に達す。以上15里。冷関。10里大亨巴30戸。老王煙姻。	
		19	濾定橋　市内散歩。数日間、山道の食品。米、菜等を買入る。5里雇一休。廿四盤の高岸を上る。	
			岸上観音口あり。柑溝　10戸。豆腐あり。一休。食物。魚道溝泊。	
		20	降雨。魚道溝　一戸　しらみと寒気閉口。山間の一小屋のみ。馬鞍山5,000尺。五羊背　一戸。門関山	
			20戸。宿屋多し。雨甚だしく一休（茶咱地）この処皇口の竹山あり。数里間竹。50余戸。平地にて家	
			大なり。叉口あり。両辺、両橋あり。山頂へ50里。両路口この地、鉄釣橋あり。家大なり。支流。	
			廟教一休あり。20余戸。この辺より茶樹あり。後(ハヲ)刀(テャヲ)　18戸	
		21	水大坪　50戸。よき地なり。河辺高地。雨降り困る。山の肩を越ゆ。水流曲廻して来り。難巴子	
			10余戸。大魚渓　20戸。河辺のよき地なり。水田始めてあり。小魚渓　20戸。谷底平地地味よし。	
		22	紫石関（ツースーコアン）　百戸。町繁昌せず。鉄釣橋。大河。脚気坪。拝子地。鉄釣橋　支流。供武店。上水渓。	
			大砂河　河中鉄橋あり。支流。天全県城泊。	
		23	天全県（テンチュエン）　この地廣く街口。3,000戸。石炭、米。兵一官夫1人送り来る。始陽　米、市盛んなり。500戸。	雅州
			この処より小路を通る。大路は遠し。狭関に合す。この渡しにて荷物を落とし流す。幸拾い上げたり。	
			口河（渡し）口山河。飛仙関。峡関、この所風景よし。魚を売るあり。これを食す。風味日本以来よし。	
			峡山30里。平水にて汽船も通うことを得べし。川西道台。雅州泊。	
		24	雅州（ヤーチョー）　5,000戸。刺麻差使。4、50人。騎馬回族を見る。非常の平地なり。河に沿って下る。	
			釣橋　難関市小山越ゆ。名山県　5,000戸。官夫交替。市大繁昌。石炭あり。官夫1人、兵2人	
			送り来る。名山県　5,000戸。官夫交替。	
			口属口州口漢曰厳道。　雅州府口貢口州之域。属蜀郡西塊曰蒙山隋	
			口雅州後為臨功郡。唐宋元明曰雅州今陛底。百丈駅泊。	
		25	百丈駅（ペーチャン）　800戸。黒竹関　200戸。乾気舗。大塘舗。臥龍場。叩州泊。	
		26	叩州　5,000戸。数10日の日で川にて祈雨、南門を閉ず。兵2人送り来る。18里。東獄鎮。10戸。	
			高橋。楊場　800戸。待ち口。大平口。新津県泊。	
		27	新津県　4,000戸。兵2、官夫1人、3人送り来る。官夫交替。花橋、300戸。串頭場　200戸。	成都着
			串頭場　200戸。黄水舗　5百戸。雙流県4千戸を経て成都府着。河辺楊柳草地。散歩の好地なり。	
			城内繁昌。官夫交替。兵2人、官夫1人。3人送り来る。周橋500戸。武候祠門前を過ぐ。役夫6両。	
		28	打箭鑪老陜街達徳店より国元(父、兄、弟)へ書簡を送る。	
		29	成都滞在。	
		30	成都滞在。	
		31	成都滞在。	
33	6	1	4時半、成都府（鑪都、800里）発。天廻橋、500戸。三河橋　300戸。同善橋。11時半、新都県	成都出発
			5,000戸。烟草。三家市　600戸。上橋、500戸。通道橋。　漢州へ6時着、石梯橋泊。	
		2	4時半発、漢州、6,000戸。城内泊。大廣東館。麺、砂糖。和順橋。至保寧。小漢県・竹林舗)、500戸。	
			この所口道徳陽城内を通せざると云う。11時、徳陽県　6,000戸。大福建館。白口。3時着、黄許舗泊。	
		3	4時半発、黄許鎮。23里。600戸。砂大河を渡る。巾10丁。8時、羅江県　3,000戸。白塩塊。	
			太平橋　百間石橋。大井舗　20戸。12時、金山舗　300戸。平地にあり、街閙中頃に至る。	
			2時、新舗　10戸。山頂。4時半着。皂角舗泊。	
		4	皂角舗　100戸。平地、河あり。石橋舗　50戸。綿州　陜西館大。3,000戸。渡し船上下す。この所、	
			道に迷い北行す。20里。濫泥舗迷道より人を雇い小道によりこの所50戸。本道に出つる世文	
			を口口。沈香舗泊。	
		5	沈香舗　200戸。山間の低地駅なりる山上塔あり。街上桜橋あり。(西秦)魏城　500戸。石城、火山	
			土あり。一休み。宣化舗100戸。山辺の一村落。(古)石牛(保)、300戸。山間の一駅。板橋　5戸。	
			7時石橋着。梓滝県泊。	
		6	五時発、梓潼県、3,000戸。石橋を渡り城壁に沿うて入域。麦、麺。東門に出る。西門叉大通あり。	
			朝飯、1戸。茶屋、かゆ。吉陽舗15戸。山頂。廟あり。上亭舗10戸。降雨あり。麺、水少なし。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			10戸。演武舗10戸。瓦子埡舗を経て武璉駅泊。	
33	6	7	五時発武璉駅。300戸。昔武公駐兵、山間の底地にあり。街開剃頭す。岳泉舗5戸。柳池溝	
			柳池溝100戸。谷にある駅なり。麺あり。講書台3戸。4時半、凌山舗10戸。青山舗6戸。	
		8	剣州　2,000戸。街山に拠りてあり。段々下る。薬草。石橋　衛門高所、東門に出て橋を渡り山に上る。	
			10戸。石舗5戸。漢陽舗200戸。生糸、黄糸、養蚕盛んなり。剣門泊。	
		9	4時半発劒門叉は剣関と云う。200戸。平地にあり。劒門の西口にあり。5戸。(劒安橋)剣門72嶺。	
			鋸の如し。2、3戸孔道　2、3戸。この辺、両方の山高く道狭し。大木橋　20戸。山上の一駅なり。	
			ラマ差使に逢う。山頂一帯の河床を遠望す。降雨。10戸。山の峯を東行す。困難。牛頭山。3戸。	
			寺、高所にあり、見晴頗るし。3時着。紹化県泊。	
		10	5時発、昭化県。1,000戸。河の衝の平地にあり。石炭、羊□あり。渡し。嘉陵江□□多し。舟通す。	廣元県
			5戸。河に沿うて上る。廣元塔。3戸。河辺。嘉陵江(県、塔)江中魚おどる流漫々。この所弘。	
			1時着。廣元県泊。	
		11	午前4時半発、廣元県　5,000戸。沼、河、山に□る。53里。石炭、福□□。平陸。	
			千佛崖。河江□□佛像一、成都へ8清程。西安へ18清。蘭州へ24清。	
			嘉陵峡(石炭孔多く産出大なり。幾百双の舟、炭塊を積して下る)。飛僊関　2戸。一休す。5戸。	
			この辺谷に沿うて上る。8戸。茅屋。小屋店。至□□保寧。朝天山。朝天関　朝天峡800尺の上に	
			あり。午后2時着。朝天鎮泊。	
		12	4時20分発、朝天鎮。90里(840里)、150戸。□官あり。この夜、腹痛、吐□す。□石。支流。	
			6時、5戸、一休。8時、龍背　関所。この崖下数里間の水道トンネルあり。龍□の□駅あり。100戸。	
			9時、神宣司　駅あり。100戸。平地。10時、紙房舗　10戸。12時、中子舗　50戸。一休。かゆ。	
			阿片あり。1時、大中堡　50戸。2時40分着、小中堡泊、70戸。	
		13	4時20分発、小中堡。この夜少し腹痛。七盤関　四川廣元県石峡関　陝西寧□州、この間一小河	
			あり。7時発、黄大壩。汎官あり。平地、田あり。(6人のひき子輪子) この所南東大山	
			九時、南(分水嶺)　3戸。山頂。この所嘉陵と漢陽、両河分水。10時、廻水河　五十戸。	
			蒙古手前を見る。徳耳へ。7里坦　2、3戸。阿片。この辺へ一、水田多し。　午后1時着、寧姜州泊。	
		14	4時半発、寧姜州　城外に宿す。城内小規模。2,000戸斗り。6時半、(5里輔)5戸。朝飯。唐麦、豌豆、	
			むぎ。　滴水輔　30戸。駅場。山頂。5戸。以上川に沿うて上り。5丁関　5戸。以下川に沿うて下る。	
			飛石渡り多し。11時、寛川関　30戸。駅場なり。阿片(金手駅後有金牛池□も10里迄5丁□)烈き場	
			30戸。川辺の一市。2時着、太安駅泊。	
		15	4時発、太安　駅場　川を挟みて街す。この辺やや廣し。村芝居群集。　6時、桑樹湾　廿戸。	
			朝飯、漬け菜り。満足。青陽駅　50戸。駅へ橋あり。川を挟み一大寺あり。駐蔵□命に逢う。	
			新輔湾　2ケ所、100戸。水平流。□県　洛陽県へ170里。城内只畠のみ人家なし。東門外800戸。	
			川に沿う。この地より甘粛秦州へ6、7日程大路。菜園渡1,000戸。商業唱なり。昭列故都　50戸。	
			砂河巾廣し。柳樹営　10戸。黄砂「武公製木牛流馬処」3百戸。新街子　河辺2百戸。合路す。	
			20戸。(江園)100戸。一休す。太砂河。□米3万石。午后4時着、西門を入る。漢中府　5,000戸。	
			紙幣通す。110里。城内外数里。沔県泊。	
		16	漢中府泊。	漢中府
		17	日曜。4時、北門を出つ。漢中府。平地、8里輔。秦恵公南鄙漢中。20里輔。宋営鎮　50戸。両岸、	
			□城県、800戸。絶壁、白石土地。廟小石碑多く並ぶ。□頭関、5戸。支流橋釣。□城卡□城卡。	
			山河、□□保5戸。青柳河　釣橋支流。20戸。青橋駅　10戸午后6時着、20里舗泊。	
		18	4時発、山河、20里舗。115里。50戸。店子多し。6時、馬道駅　50戸。釣橋、支流。8時、馬通行多し。	
			山河、武曲舗10戸。9時半、草根木皮菜種。飛仙溝　5戸。この山奥より出ること多し甘菜等極多。	
			鉄佛殿30戸。くるみ。(古三交城)山河。鉄佛殿武休兵□。10戸。店子。武関。姜□子5戸。大流と	
			□る。1時半。武付兵。青羊舗　15戸。小流に沿うて上る。画眉関　寺あり。1戸。5時着宿、留壩庁泊。	
		19	4時半発、留壩庁　800戸。平地あり。廣さ5清里。乱石舗　7戸。朝飯。8時より12時まで。	
			棗欄木　廻竜寺に雨を□□。寺内に休み急に立つ。紫柏山道士　漢張留候□□□1時、紫関嶺山頂。	
			2時、小河に沿うて下り。5戸。わらじ求む。3時、松林駅20戸(自安山至此60里)	
			楡林舗10戸。5時、畠、7戸。6時15分着、雲蓮寺　50戸。南星泊。	
		20	四時半発、南星　50戸(南新店見る)寒く手こじける。この辺より温炉□を見る。　この辺畠。蒙古	
			刺麻四人進蔵互いに談話す。小河に沿うて上る。□飯。留鳳関　30戸。楚項□萬封□□□。	
			本日は寧姜の税関数人較子同道。三岔駅30戸。市街樹林、畠多し。心紅舗　8戸。コーコイ等この	
			数日甚価高し。深山駅。山頂。南天門　古朝陽寺あり。山頂の見晴紹化を見下すと同一徹なり。	
			(古舗)8戸　蒙古ラマ3人雇う。午后3時半着、鳳県(赤土の城壁、嘉陵江岸にして江叉廣く巾大なり。	
			凡そ7、800戸)。本日87里。　鳳県泊。	
		21	4時半発、川に沿うて上る。6時　灘　朝飯。白石舗15戸。土窟多し。8戸。茶屋。所々阿片あり。	
			花盛りなり。8時半、白家店25戸。　この風俗大に異なる。五星台5戸。この辺只(ヤキパン、コーコ	
			イ)を常食す。一斤60文。食品甚高価。草涼駅卅戸。1時半、紅花舗30戸。宿多し。是□城より一站路	
			85里なり。長橋30戸。茶木少なし。竹などなし。30戸。田少し。4時半着。黄牛舗泊。	
		22	黄牛舗50戸。駅あり。負われて渡る。昨の清泥水洪なり。保家庄20戸。次の集落20戸で朝飯。	
			煎茶波。東河橋この辺廣し。数100戸。9時　東北に見る。(丈座波)山頂、3戸。釣鐘あり。箱根より	
			小田原の観。平波□地。10時半、観音堂　廿戸。駅。紅花舗より1清路。古大散関1戸。茶屋数戸。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			畠。大湾舗20戸。鎮(J叉作夷門鎮)　非常に廣平地。畠。蓋門舗10戸。茶店。渭水渡なり。	
			泥水数条平船にて渡る。4時半着　南門入る。宝雉県1,000戸。黄河の□□高く町をなす。茶店多し。	
33	6	23	3時半発、□数用多、一吊文は(800文にして100文は56大銭、24小銭なり)。寶□県泊。	
			6時、茶店3戸。□中、宝雉より鳳□に至る70里。鳳□より岐山40里。　8時半、五村。(陳倉□)	
			五十戸。めん。この時、刺麻差検中、灯にて知人従へり。予の元に来り談す。旅上、始めて知人に逢	
			うも后不語□。11時、コイセン城　1千余戸。大商家多し。□船のぞきあり。かゆ等。宝県よりこの城に	
			寄らず岐山に出る。予は見物の為よる。12時、東西1,000里、道に迷う。3時、南北100里。茶屋2、3戸。	
			土城。この土城たるやこの一帯の高平原、所々に村落城砦をなす。土城。大河に出る。7時日没し	
			て着す。岐山県　西門入り、東門へ出る。1,000戸□商多し。馬車通行。外深く掘る。水なし。岐山県泊。	
		24	4時半発、日曜。茶屋。低地あり。土硯を売る。麦、トウモロコシ等。竜益溝。土穴居村落。寛永店に	
			休み、メン食。20戸。馬車。益点鎮。100余戸。繁昌す。茶屋。2、3戸。ちまき、なつめ入り。1ケ6文。	
			扶風県。400。小豆かゆ等。剃頭。水少なし。茶屋。2、3戸。6時着。この辺にて急病人道に卒側	
			を見る。茂林鎮泊。	
		25	5時半発、茂林鎮。100戸。よき地。店子叉あり。始めてよく寝られ宝叉上官房心地よし。新築きれい。	
			(扶武間50里)西鳳営風。2、3戸。8時半、武功県。城外を通る。城内外2、300戸。小流あり。	
			貞元鎮7、8戸。毛銭多用。150文。太平野。麦、トウモロコシ。甚地味。赤土なり。	
			3時半着、東河舗宿。	
		26	5時半発、(東河府)50戸。長寧駅。唐楊貴妃の墓と記せる小寺廟あり。　7時、西風協汎。(土城)	
			馬□(マーウェイ)。土城外を通る。5、6茶屋。城内数100戸あるべしる□□この辺地や。低く、処々井あり。	
			干田に□□。8時半、一休。茶屋、寺あり。涼しい。　10時より11時、興平県。2ケの塔あり。	
			凡そ400戸。なつめ、ちまき多し。銀を銭に替える。1両に付き1,700文。内55大銭、45毛銭、半々銭。	
			南方遠望山かすかなり。寺に休む。茶屋に休む。(涌泉池)貪婆舗あり。涌泉池2ケ所、。目によし。	
			10余戸。茶屋1戸。　6時半、北方土城併置築せり。咸陽県。2,000戸。西□より電信通す。渭水の河上	
			に城をなし、商盛んなり。油商多し。咸陽県泊。	
		27	5時半発、渭水渡河あり。上城100戸。茶屋、10戸。馬で楊柳道に沿って泥にて雨には□□□らず。	西安
			長咸。50戸。茶屋、朝飯。南方終南山を見る。100里を距つ。車で三橋鎮。浜営3ケ所(成都西安間	
			2,310里、内60里漢中含も大46、叉は37□大銭)武備祠堂、福音道堂。東方丘山を望む。	
			秋米86万石。11時、西安着。西門泊。✻「長安に至るの記」を書く。	⑤174p
		28	西安。臥竜寺に出る。僧7、80人。当地、第一の大寺。雲水堂に泊す。2回勤行に同席仕す。	
			三度麺と粥。方丈、東避と称し、69才。山東の人、光緒元年に入る。	
		29	西安。朝、方丈、主葬、古蹟、梵・英・蔵・和の字を書し、小経を一辺にて覚えたと語る。出て、北門を	
			見る当地の繁地は中心より西門間15丁ばかりなり。	
		30	西安滞在。	
33	7	1	西安。雁塔。奥教寺。	
		2	西安。	
		3	午前4時西安発、南門、西安府　長安県安定門西門入り。平涼門東門散歩。城中3丈高3丈、24丁	西安出発
			四方。城皇店は銭。慈恩、観□の如く勧工場あり。賑やかなり。刀等鉄物産あり。石炭は宝□以来各	
			県人用ゆるを見る。南五台山、大奥善寺。義浄、叉この地西洋品多し。城内外20万人をすぎず。洋人	
			数人。終南山、三橋鎮。祈雨の村人5、600群行。奥教寺玄奘三蔵、塔院。茶屋。　渭水10時、	
			咸陽県。南門を入り、北門へ出つ。皇陵墳墓丘陵多し。この辺里数大なり。周公文主武王陵。茶店。	
			10戸。かゆ。茶屋。卵あり。午后四時着、店張鎮泊。	
		4	3時半発、店張鎮。50戸(粛桐国祀)。只電線と柳楊の樹に沿うて北行。南に終南山一帯を遥か	
			に見る。茶屋。2戸。7時、8時頃、醴泉県。東南門を入り西門に出づ。800戸。すもも等多し。半々銭。	
			馬車往来あり。東北□山を見る。560里。寺あり施湯。12時着、乾州泊。	
		5	3時半発、乾州。東門を入り北門へ出づ。2,000戸。□大37銭。陵坡この所古皇陵あり。皆南面。	
			叉寺あり。18里歩。3戸茶屋。(営迅)10余戸。茶屋2戸。9時着。10時出及監軍鎮駅という。	
			この地土城内100戸。道凹滔し、両側俟ちり。遠望、畠。110戸。茶屋1戸。兎野田に飛ぶ数匹。両方	
			くぼみ谷なれども川なし。3時着、永壽県泊。	
		6	3時半発、永寿県。1、200戸。城内数10戸。東門外少しく町あり。宿す。店子叉1戸。穴居人100戸。	
			100戸。高地に城あり。150戸。大半穴居。青草山。　6時、穴居人路店2戸。粟湯。朝飯。粟粒2、3個	
			のみ。粉を食するものあり。6時、穴居人路店2戸。粟湯。朝飯。粟粒2、3個のみ。粉を食するものあり。	
			馬8頭にて車を引上。7時半、張口五戸。茶店溝あり。麻作。清水。9時、開口。両所に30戸。	
			茶店5、6戸。この地麻を作る多し。小水流あり。小路を通り□をなす。野雉多し。茶屋車宿あり。	
			この所より流河を望む。12時半着西行行、梨、茶及び柿を栽植し、□方株大□□らん。	
			至霊台60里。邠州泊。	
		7	3時半発、邠州。1,000戸。東門を入り西門へ出つ。山に対半より河に面して城あり。物価高。墺銀	
			4銭4分。660文7丈3小(閇半々銭)河に沿うて上る。茶屋。棗木林20余里。20里と云へども25里。	
			支流の泥河を渡る。尚大巾3丁水□間。　7時、大仏寺。洞岩に刻し、河辺にあり。石佛像。寺20戸。	
			茶屋10戸。亭口鎮。店子及び茶屋行代り。20戸。11時、二厰里。数戸。土穴。茶路店。たまご1個	
			3文。□店堡土城及び営り。土穴□2、30戸。　2時半着夕立あり。長武県。東門入城内2百戸。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			西門外泊。対半銭。300戸。東京年数万円、梨叉多く、 阿牙及び小草烟少々蘭州の水烟輸出	
			多く外に薬才叉あり。塊樹、桐、他地になし。水に腐らず。至慶陽。長武県泊。	
33	7	8	午前3時半発、長武県。□郷少し風邪。本日頭痛。加えて道里100里。実は120里もあり生じて巳来	
			困難。□雲に泊し本日里呈にするよし。洪家舗路店2戸。窰店。100余戸。麺麻飯。鎮。7時、今日より	
			柳樹大にして日の陰をなすよし。9時、□雲鎮。陝西甘粛□分関所2ケ所。戸数30戸。11時、高鎮。	
			50戸るモーモー50文□。1時間毎に30分宛休む。遥かに四方の低地を望む千里。柳樹大なり。	
			この辺すべて里長し。3時この辺最も苦しむ。 この所10里といえども20里あり山頂平丘の頭なり。	
			10戸。今日里程甚100里と云へども130里なり。山のおりつき。5時半、漸く着。徑州泊。	
		9	有執甚6時半発、涇州。50戸。回々多く長武、径州20余年、前城を焼きしと云う。1,000戸。	
			朝飯を食して□□す。大河を渡る。背負ある。8時半、古瑶池。降母慮。古は平京を陘云しことあり。	
			阿片開花、極平地、20里舗。10時、巾15町、河水あり。11時半、王村鎮。40戸。土城あり。	
			1時、甚困難、10里毎に30分。この所に休み起きあとへ行き始めて□僕のすすめにて西行せり。	
			如何にもくたぶれたり。2時半着、花所鎮。30戸。行台り。叉は40分宛。路辺に横□□眼す。	
			この所10里といえども20里あり。今日里程甚100里と云へども130里なり。山のおりつき。	
			5時半、漸く着。	
		10	午前3時半発、所々4、5戸の村あり。冷茶を売る。実は涇州泉間93里程なりと6時着休。140里の	
			半路宿所。泉汎3里舗。貴州人麺館に休む。予は風邪の為これを3日に行ことに定なりく。阿片やや	
			多今開花、畠、水田あり。白水鎮叉駅、300戸。城あり。行台28。茶1杯26文とは高し。10里毎に	
			3、40分宛休む。11時着、40里舗泊	
		11	4時半、昨夜巳来、40里舗。100戸。この夜寝不能。只気□正気なし。64の脉は93里に上れり。	平涼府
			頭痛癒甚しく昨夜吐す。今日路上大難行。甲磧路5、6戸。2、3戸路□10里舗。丘店。40里路2店。	
			□□。大道柳樹大四列にせり。30間、50間の道中。梅、棗、ちまき1、2個食すのみ。11時着泊、	
			食すすまず日にまし悪し。平凉府。東門外5里。泊坊。500戸。城内□□少しもよからず。平凉府泊。	
		12	平凉府。一日滞留。	
		13	平凉府。病全治4時発、8時に頁河子20戸。休朝飯。兵300斗り。安国鎮、27里、50戸。小丘上に在り	
			土をなす。宿屋多し。□店。100戸。杖等木細工物価店多し宿もあり。この辺水あれども田も畠も殆ど	
			無く、平坡なりまま天幕を見る。羊、牛馬群牧多し。寒くして犬大なり。三関口、古金佛峡、寺ありる	
			2戸。峡山あり。(千出吹)20戸。店あり。5時着、瓦亭泊。毎日水要。清水溝。10戸。店あり。	
		14	4時発、朝50度。瓦亭。固原に至る80里回々の住地清渓舗に至る。土砦大なれども人家100余。	
			固原と蘭州への大路の分店にあり原野に□をなし牧場廣く、叉寒し。和尚舗(私云火焼舗)寺あり、	
			人家30戸。山麓にあり、犬大なり。馬車尚越山。茶屋10戸。寺あり。六盤山山頂2,000尺。	
			山頂、2戸あり。寺あり東西を見晴らす。六盤山古塞、東□亭30里。平凉120里。固原120里。	
			西□徳20里。神林舗65里。静寧州110里。南泰□□。360里。絡盤道。□□□楊家店。	
			堡廿戸る茶屋あり。犬居る。11時半着隆徳県泊。東門を入る。裏町を回る寂たり。300戸。通り筋	
			100戸斗りなり。甚ださみしく(県正堂に居らず、衛門もなし。只小官居るのみ)	
		15	城小人家少。茶牧地多し寂漠如寒村、この地山間巾5丁。寂漠如寒村、この地山間巾5丁。砂糖舗。	
			30戸。朝飯。開市、雑踊。8時半9時発、阿片。神林舗。50戸。茶屋宿多。河巾廣く泥路近道を行く。	
			道良くて行く事は□□。羊牛牧人多し。阿片。峡間。1時50分着、静寧州泊。市大、賑やか、	
			人家2,000。曲屈して通す。野菜、其他皆生す。地よし。	
		16	4時半、苦水河。負われて渡る。ワラジを履き替ゆ。方向西に向く。昨夜来降雨。暫く見合、路悪	
			行転ぶこと3回泥に染む。山頂1,000尺。高家堡。50戸。店多し。界名舗。50戸。店多し。	
			小峡あり。2、3戸。穴居。3時半着、青家駅泊。1,000尺。	
		17	4時発、(清凉駅)清家駅。土屋100戸。車店泊。分水嶺。渭水と黄河の水分かれ。5、6戸。閉店□	
			牧畜。太平店。30戸。朝飯。この両平日は草の薪に木一本も無し。1,000尺。この辺柳柏少し。毛毯	
			出産。翟家所。城ありる100戸。天水井数個。麺食す。山間泥流。牧山。本日里数叉大45里は	
			63里に当たるとか。計110里なりと。牧山群羊。村落塞あり。廟あり。10戸。張成か。	
			大快走、土の凹所平政橋を架す。数10ケ所阿片に沿うて下る。泥水、河を渡る。2回。背に負われて	
			渡る。大明朝の碑多く存す。3時半着、会寧県泊。南門入泊。城外城二重になる。1,000戸。水苦	
			くしてニガリの如く呑むべからず。	
		18	4時半発、朝50度冷得很。橋なし、流れに沿って上る。河を渡る。3回。北流す。牛羊糞薪、牧人多し。	
			7時、雞児嘴。30戸。低地。朝飯。屋根瓦なく炭がまの如し。山間10町中馬車上坡難。本日里程53里	
			なれども大里。にして小里にして70里なりという焼酒にて脚をもむ。茶屋低地河辺にあり水苦くして	
			呑むべからず。10余戸。11時着、西鞏駅泊。快走。茶屋2戸。	
		19	朝50度冷□很。牧山、奥雲嶺2,000尺。青凉山。茶屋5戸。水なくして茶貴なり。茶屋2、3戸。	
			皆畠山を遠望。(木家湾)30戸。宿あり。泊すべし。吃麺とき休。2時間落せり。本日里程大路にて	
			80里なれという。この3日左足をくじかん。痛み歩み難し。東20里舗、2、3戸。東10里舗、2、3戸。	
			この所小路を下る。5、6里。見晴よし。2時過着、安定県泊。	
		20	4時発、安定県。水北に流れる。橋あり。東門入り泊す。平地にして裏塘の看あり。白葡萄甘し。	
			1,500戸。新旧城二□□。安定河に沿うて下る。6時、頭痛困難。18里舗20戸。	
			馬車往来繁　巾20丁。地平寛。穀耕適。土城あれども入らず。北30里舗2、3戸。10時、晩関口。	
			土城あり。人家300戸。安定河と称す釣河と合し北流す。称釣河に沿うて上る。本日天甚熱難行。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			12時半着、秤釣駅泊。	
33	7	21	2時50分発、称釣駅。土城あり。城に入らず泊す。100戸。苦水甚し。天水苦し。朝道を錯へ2里余。	
			朝道を錯へる2里余。牧牛。茶屋7、8戸。休み、吃茶。西方高山あり。甲斐口色。茶屋。この山上	
			非常に曲がり行く、車道嶺。4、5戸。9時半着、甘草舗店泊。300余戸。閉地にあり地豊なり。水高	
			価、苦水多。流れに沿うて下る。	
		22	夜来雨降みちに出ては曇り微雨。巾10町。この辺地味最好。清水鎮。200戸。白内大なれども城を	
			なさず。朝飯吃麺。西門外人家多し。この時6時半発、この辺山の頭を離れば周囲非常に寛大。4、	
			50清里。この所小路を通り直行。2、3里近し。9時半、休み半時間。塔新営。30戸斗り。吃茶不休。	
			今日里程70里。水至る所に引き阿片は田地の5分の4。外麦、米、瓜、梅大口多し。下関営。土城	
			あり。叉口官営に作る。西門外人家多く150戸。吃茶少しコーコイを食す。水田叉有。この所河巾廣	
			くして東南岸小路を行く。両山18丁巾。河清水流れ、分路。麺店に半時間余休む。遇店子。	
			土城外を過す。2、30戸。1時半着、金家崖泊。00戸。2、3ケ所に街をなす。	
		23	3時10分発、金家崖。200余戸。街上閙熱店子ふさがり困る。阿片、麦、水田未だ苗を植えず。	蘭州
			百子堡か。50戸。茶店あり。この所地図皆錯誤せり。黄河を始めて見る。山間急流。6時朝飯。	
			小水子。東河鎮、(白水舗か)等と書せり。百子堡。茶屋あり。阿片、麦。休1時間野に伏す。	
			甘草舗河黄河に合する所なり。地図は誤れり。桑園(子)茶屋あり。2ケ所なり。一口流黄河に入る。	
			黄河三流水車あり。阿片。(根口根)口山麓30戸。それより数里(口だてて数10戸)土城中を通る。	
			車道にあらず。休半時間。菓物。石橋あり。　万里長城か山を高くけつずりおれせり。城外数10戸。	
			外城3、400戸。白内未見。1時漸く着泊。蘭州省。南門入外城宿。人口15万。東西10里。南北八里。	
			黄河の峡にあり。	
		24	蘭州。	
		25	蘭州。	
		26	蘭州。	
		27	蘭州。	
		28	蘭州。＊第20回本山へ上申書を出す。	④253p
		29	蘭州。第19回「本山上申書」を出す・	
		30	5時半発、城内西門。西北行(北京へ565日本里)鎮橋。金山寺。黄河に口み山上に高楼台閣多く	蘭州出発
			風景最好。「至北京3,935里」360歩。この辺茄子、棗白大菜等果林小菜の畑多し。	
			8時、朝飯、この所10里と雖実は18里程なりという。実口り。今日大快走電柱のみあり電線なし。	
			10里店。僕口よし。この所土城あり入らず。茶店15戸。黄河に沿うて上る。この所より山間低地を行	
			やや西、寧路車道不好走の故大路をとる。今日40里。実は66里。長城。四方卓(ユーファンチョー、	
			山形)12時半着。この日従者李荷重難関。朱家井泊。叉40里舗という。50戸。山間の平地寛。	
			産西瓜、水口材高価。黄河の水卅里。	
		31	5時発、この夜降雨急なり。楡中、蘭州の西より口山に属す。村落あり。畠口米とて餅粟を作る多し。	
			秦始皇。この辺砂地なり。山叉草なく赤土なり。8時、8時半発、朝飯。山頂、西側急坂を下る。崖梁。	
			兪家湾。50戸。蘭州よりの1清里地。風景大に異り蒙古の風あり。茶屋店子。20戸斗りあり。樹崖塘。	
			大原野耕作せず少々の畠。陳家灘。11時10分、12時10分発、苦水。50戸。店子あり。麺食。休1時間。	
			溝中塩田を見る。原野耕作せず少々畠、野ねずみ多し。七家舗。7戸。溝水紅、土白粉をつくねる如し。	
			自兪家湾至鹹水河40里。理大実有60里。本日計90里。3時着、鹹水河泊。	
33	8	1	4時半発、鹹水河。水溝あり。水あれども鹹味甚しく呑むべからず。50戸。喇麻の旗を見る。	
			旧7月7日、大村落。河娘巴叉はタラセ辺西蔵の風あり。番地まで阿片、茄子の畠と化しにけり。	
			大村落。家屋土にして高楼あり。この辺水あり田畠好収穫。徐家磨。50戸。茶店、朝飯。平番河辺	
			に出る。河寛大流水灌漑好。8時途上休まず尚3時間半、この辺地廣巾20清里ある。古城。300戸。	
			土城あり。街閙。紅城堡。100余戸。麦、阿片、豆腐、麻、菜種等四川と同様大ある。休み1時間。	
			この対岸の山や水なく草木なく一種の風あり。水なく草木なく一種の風あり。今日程50里。実60里余。	
			麦漸く刈、菜種花咲、阿片尚存一口花。午後1時着、青寺堡泊。城内100戸。北門外30戸。	
		2	4時40分発、この辺路傍樹木大。毎日馬車に逢う。100余台騎馬2、300人往来しげし。	
			昨夜来寒45度。洋麦、にんじん等。樹木叉多し。南大通。城内100余戸。北門外朝飯。7時休1時間。	
			水灌漑よし。昨夜叉々風邪熱出て難行。菜種、阿片の花盛。路側に休1時間余　溝辺草の上に疲れ	
			て寝る。荘浪。人家なし。石がき、村落か。番子所住練瓦口口口口。路里50里なれども60余里。	
			蛮城。大城あれども入らず。城外南北100余戸。12時半着、平番県。城外泊。内外千戸。	
			蛮子、番子雑居。風邪脈98。当地1日滞在療病。	
		3	滞留、平番県。	
		4	4時20分発、大河口。小流背に負われて渡る。7、8回。小流4、5。過河40分。山頂。水冷足凍せ	
			りという。遥かに蛮州を見る。　(夢至拉薩有日本大商館姓中野に餞別数10両)8時半30里余あり	
			90里に1本の木も見えぬ里。楊家溝灘。蛮家10余店子4、5戸。砂溝。20余戸。店子あり。	
			石炭を積む馬車西より来る。20戸。麺もなし。吃茶。20戸。麺もなし。吃茶。塘坊馹。4、5戸。	
			冬には凉州より駱駝洋貨を拕して来るという。本日一本の樹木なし。3時着、里毎1時間。蘭州省	
			南門入外城塘坊馹泊。人口15万。東西10里。南北8里。黄河の峡にあり。	
		5	4時半発、店子7、8戸斗りあり。砂地にして道は溝なれば溝巾2、30間。この辺州路南行若し南行	
			若し南行せば4、5里五渠土司地にして大通、田園、河辺にあり繁り。一見して美地なり。	

年	月	日	事　　項	参　　考
33	8	5	この辺暖気にして烟草、菜種等、殆ど甘省と同様に出産あり大通河の船渡水深流急幅叉寛。麻縄	
			に曳きて渡る巾一丁。4、5戸村。同じく地口作物好。1戸。この所にて西南に向かい山間平坡。	
			熱茶一時間休む。(赤石溝)この辺にて路傍に火を焼き茶を熬る。水少し苦水にして口なり。	
			30里間1戸の店子なく番外。山溝、路なし。この辺馬車難行、路悪。2時着、氷溝泊。15、6戸。	
			山間の寒地。家屋皆土屋回々多。	
		6	四時半朝発、氷溝山。山頂畠あり。下坡大快下走。廟一ケ所あり。　今朝だけは朝飯前に40余里	
			(苦水溝)8時10分～9時発、以上40里は45里余。老鴉堡。50戸。回々多。朝飯。西寧辺に至る。	
			地味善き馬蓮に尚勝る。廣さ20丁河巾10町。20戸。白崖子。10戸。水巾30間。水磨塘20戸。	
			新冨豆煎あり好。長田20戸。11時30分～12時、烟草。高廟局。200戸。小流あり。小河あり。	
			阿片・7、8戸。洋芋あり。好道快走。　数戸。しばしばラマを見る。但し、回々多し。水膝に至るを渡。	
			流石急水。午后4時着、碾伯県泊。古楽都群7、8戸。	
		7	4時半発、西寧河を渡り、蛮堡数所を経て、南門外平戒馹泊。内外城1,000戸。番店。南瓜あり。	
			城堅固。外域市繁。船渡し15文。西寧河。堡あり。堡内30戸。店2、3戸。柿、ぶどう。口口崖あり。	
			7時半～8時40分、煮南瓜。(20里舗)4、5戸。店子。朝飯、南瓜好。水流急。数戸。阿片、麦、梨、	
			リンゴ、梅等好。阿片最多。洋芋。道平坦。荒野。10余里。峡あり。数里。対岸通あり。寧に至るを得。	
			休20分。蛮堡あるも破壊。人家僅かに数戸。一休。好田。阿片、麦。　70里に当たる。	
			本日60里。70里に当たる。12里、83里。荒野10余里。　午后1時半平戎着泊　綿、白菜。	
		8	3時45分発、綿。平戎駅。この地小水流あり。これを挟み西街、長1清里。100戸堡あり大。夜回々	西寧
			5人同宿。やかましく困る。対岸崖あり。崖あり。この間35里あり。支流渡背。7時半～8時半、飯を	
			口き食う。茶屋1戸。公官り。青海大臣至るとか。この辺巾20丁背にて渡る。支流(普遍、菜種、	
			麦、蛮胡麻等毎々同様)東川碇。巾二丁、東川口。大河架橋世間。峡口にあり。武定関。茶店2戸。	
			本日60里程。2ケ所に3戸の茶店あるのみ。この辺巾20丁。この辺山辺荒野。(60里程済以上70里)	
			この間、35里あり。本日計50里実は83里自蘭州至西寧府八口(10日間)600里。城3丁。西寧府。	
			東門外城。300余戸。内城2千。内城東門を入り過、衛門前。午后1時西寧府西門内城泊。	
			8月9日は旧7月15日宇蘭盆なり。	
		9	西寧。滞在。青海進蔵の準備をなす。	
		10	滞在。	
		11	滞在。	
		12	滞在。	
		13	滞在。	
		14	8時半、西寧発。長橋この所50戸。三大流合す。路店1戸。牛乳壱碗。10時半　休10分、陵墳の如き	西寧出発
			山3、4丘あり。里路大巾田地1里半耕好。山上耕。対岸村落。口店1戸。外に2、3戸。赤土潰へあり。	
			口店1戸。外に2、3戸。赤土潰へあり12時半。1時半、陰山塘。10戸。茶店数戸。牛乳、茶、麦、洋麦、	
			豌豆、菜種、蕎麦、冨豆、麺、卵、馬鈴薯、阿片、叉樹木あり。5時半、青海堡着泊。	
		15	閻門塘、喇課栄、响河爾塘を経て、丹喝尓着。	タンガル
		16	丹喝尓。	
		17	丹喝尓。	
		18	丹喝尓。タンガルから騎馬にて青海内を探検する。4日間。	
		19	丹喝尓。	
		20	青海。	青海
		21	青海。	
		22	青海。盗難に遭遇し、ラマ服、青海横断の為購入した物品を売却して僅かの旅費を得て帰途を決断。	盗難に遭遇
		23	タンガルを発し帰途に着く。青海堡泊、40里。	青海出発
		24	西寧府に帰る。回々村を経由することを決す。50里。	西寧
		25	西寧府に滞在。	
		26	西寧府に滞在。	
		27	西寧府出発。東川口泊、30里。	西寧出発
		28	回々城を経て新川の回々村に泊50里。	
		29	乢思観堡、大マキ真を越え、扎爾巴の回々村に宿す。40里。	
		30	店子、上哇灘荘など、回々地区を経て巴燕戎格の回城に泊。60里。	
		31	巴燕戒格滞在。	
33	9	1	巴燕戒格を出発。拉咱山を越え、山根に泊。この地方回々、蕃子相半ば。45里。	
		2	黄河を再び渡り、循化に泊。この地方の回々巣窟。この地にて始めて北京の変を聞く。循化着。45里。	循化
		3	循化出発。水済橋を渡り、火隆堡泊。皇帝、西安に遁ると聞く。70里。	
		4	一大牧山を越え、韓家鎮泊。70里。	
		5	雙城を経て、河州泊。この地区回々の巣履にして回々寺多し。雨の為め止る。50里。	河州
		6	雨。滞在。	
		7	雨。滞在。	
		8	20里、30里、40里の諸舗を経て、一山越え、買家巷泊。80里。	
		9	太子寺、20里舗を経て、狭道州泊。この地団兵を募集し、城内各戸に充つ。100里。	
		10	狭道州に滞在。	狭道

年	月	日	事　　項	参　　考
33	9	11	狭道州、チューツー寺の下に泊す。道甚だ悪し。70里。	
		12	狭道州出発。硤城街を経て、クマヲー泊。80里。	
		13	坡上口、嘛呢吽等蕃子部落を経て、ニユイン泊。50里。	
		14	一大山を越え、チョンサ゜イチーを経て、ミーチョアン営泊。65里。	
		15	茶埠峪を経て、泯州泊。35里。	泯州
		16	スアル溝、一山を越え、アソ河を経て、哈達舗泊。60里。	
		17	脚力舗、達子舗、宕昌泊。60里。	泯州出発
		18	新城、臨江舗、干江頭、鄧々橋を経て、接官亭泊。70里。	
		19	泰家峪、大峪里、石関子、両河口、清水子泊。50里。	
		20	後石門、殺賊等を経て、石門泊。70里。	
		21	両水等を経て、楷州泊。50里。	
		22	楷州滞在。60里。	楷州
		23	干間、佛堂を経て、大岸廟泊。60里。	
		24	楷州出発。外納、滔奇子等を経て、王家埧泊。60里。	楷州出発
		25	臨江郷、蒿子店、ヴーエン巴泊。60里。	
		26	中家巴、雞子巴、高頭巴を経て、苗家巴泊。55里。	
		27	玉塁郷を経て、高家巴泊。65里。	
		28	譲水橋を渡り、碧峪鎮着。川舟を待つ。碧口宿。30里。	碧口
		29	碧口滞在。	
		30	碧口滞在。	
33	10	1	碧口滞在。	
		2	碧口滞在。	
		3	碧口滞在。	
		4	碧口滞在。	
		5	碧口滞在。	
		6	碧口滞在。	
		7	碧口滞在。	
		8	碧口滞在。	
		9	碧口より川舟に乗り下る。姚家渡泊。	碧口出発
		10	滞在。	
		11	白水街の下流泊。75里。	
		12	水磨溝、炭場を経て、紹化県泊。135里。	
		13	紹化滞在。	紹化
		14	紹化滞在。	
		15	紹化出発。張王廟泊。70里。	紹化出発
		16	姚上泊。70里。	
		17	左岸頭泊。90里。	
		18	蒼溪県を過ぎ、保寧府泊。70里。	保寧
		19	右岸泊。5里。	
		20	雙龍場泊。25里。	
		21	南部県を経て、爐溪埧泊。60里。	
		22	新鎮埧を経て、左岸泊。50里。	
		23	王家場、金溪鎮を経て、右岸泊。70里。	
		24	周子鎮、蓬州を経て、左岸泊。40里。	蓬州
		25	龍門場泊。100里。	
		26	順慶府泊。40里。	
		27	80里を下り、左岸泊。	
		28	李渡場を経て、左岸泊。80里。	
		29	両面溪を下り、石盤渡泊。110里。	
		30	沿口鎮を経て、右岸泊。40里。	
		31	定遠県を経て左岸泊。60里。	定遠県
33	11	1	清水河等を経て、雲門鎮泊。70里。	
		2	合州を経て、左岸泊。60里。	
		3	北杜場杜渡を経て、左岸泊。天長節。110里。	
		4	午前10時、四川省重慶府千厠門帰着。小梁子と楊先生宅を経て井戸川大尉宅に至る。40里。	重慶着
			タンガルより合計3,340清里。甘省の地里長大なれば4,000里夾に当れり。	
			以上総計8.530清さと、この外青海内地、西安にて南五台等に至るを合計せば8,180清里となる。	
			若し、甘粛の里程をも川陝同様の距離に計算せば、10,010清里となり。半年間の歩行を要する。	
		5	新聞読む。	
		6	新聞読む。	
		7	出街。状袋、状紙を求める。	

年	月	日	事　　項	参　　考
33	11	8	陝甘旅記を認む。＊水野へ書簡を出す。巴塘にて、西洋人と誤解された旨。井戸川氏へ支那カバン、	⑨175-178p
			竹行李、麻布包を托したことを伝える。	
		9	＊第21回「本山上申書（重慶）」を出す。	④253p
		11	朝、天門の対岸、燐寸製造主鄧宅の宴に招かる。	
		12	南條、国元、杭州へ書面出す。＊第22回本山上申書(重慶)を出す。	④253p
		14	出慶に決す。降雨のため中止。郭氏来る。	
		15	井戸川氏の勧に由り炉行を変更する。	
		17	江北を散歩す。原田氏同行。	
		18	打箭炉へ打電、荷物を取り寄す。炉城。	
		19	打箭炉へ書面出す。石川参務へ書面出す。	
		22	旧10月朔にて下元会、通遠門外非常雑踏見物。難路。	
		23	通遠門外山上に遊ぶ。	
		24	南内外に散歩。	
		25	嘉陵江辺洋館辺より下流へ散歩。	
		26	神仙洞行。	
		27	雨。	
		28	雨。	
		29	観音巌行。	
33	12	2	江北、朝、天門を散歩する。	
		3	降雨。寺本、水野、上海へ書面出す。	
		4	降雨。	
		5	降雨。荷出。	
		6	降雨。	
		7	降雨。	
		8	古本屋へ行き2冊買求める。晴天。	
		9	曇天。	
		10	後蔵喇嘛2人来る。国元へ書面出す。讀賣新聞、日本新聞着く。「外交時報」35号読む。	
		11	讀賣、朝日新聞を読む。	
		12	『支那彊域沿革略説』を求める。	
		15	「蜀放」八冊、「蜀水攷」2冊求める。	
		16	門外散歩。	
		17	「入蜀記」、「呉船録」、「天下里程」を求める。	
		18	新聞着読。日本及び朝日。来年の今日はいづれにありや32年12月18日、記す。今日朝炉。	
			伊犂辺の談話を聞く。	
		19	晴、出街。「製旅行図」。「徑国美談前編」読了。	
		20	「タンガル図」を製す。	タンガル図
		21	蒙古新疆調べ写す。「思想の変遷」を記す。	思想の変遷
			「思想の変遷」 1. 学問は、何の為に学ぶべきものや。2. 普通学の必要。 3. 欧米布教策。 4. 英文	④229p
			研究時代。 5. 翻訳には、梵学の必要を感じたこと。 6. 梵文経典の不足を感ぜし時代。 7. 自動的	
			当洋楽研究の必要。 8. 西蔵行の感念。 9. 西蔵学の必要。	
		22	雲南路対照写し。夜、井戸川氏宴会に行く。天大人等。冬至前夜知事街を巡視する。	
		23	『学問思想の変遷』を書く。荷物届く。書面10本。	
		24	朝より語学始める。張氏へ日本語を教える。十奇撰。阿多へ名刺を送る。	
		25	朝、語学。日本より新聞着く。『夜雨物語一号』を書き始める。苦笑子・独楽子合著	雨夜物語
		26	打箭炉朱氏へ書面出す。元史調べる。『夜雨物語二号』を書く。	
		27	堺、成田、岩村、中村、浜田、「本山上申書」へ4通の書面を認める。蘭州図を書く。	蘭州図
			『夜雨物語』を書く。	
		28	語学。兵操を見る。長安兵を百棒す。昨日、ドイツ船沈没の報り。『夜雨物語』を書く。	
		29	語学。書面をしたたむ。	
		30	両路口を散歩する。書面を認める。語学す。	
		31	重慶で明治33年を送る。32年12月6日の記を見て感慨交々起こる。新年状を本日投函す。7本。	
34	1	1	＊第23回本山上申書を発送。寺本、南條文雄、＊井上円了、国許、堺、中村、成田宛て書簡発送。	④253p ⑨346p
		11	『夜雨物語』を書く。	
		12	温塘行。哥老会。	
		13	漁洞を経て帰る。	
		15	松林、山崎、父（静）、登より書面来る。	
		17	麻書土司。＊第24回本山上申書発送。南條（登）、松林へ書面出す。	④253p
		19	我建入蔵願　必至布達拉　斯願不成功　誓不帰本土	
		20	我於長旅行　不為大智徳　普済腐敗世　誓不帰本土	
		21	我至興新宗　名声超萬邦　若有不信帰　誓不帰本土	
			国許、水野へ書面出す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
34	1	24	平戎駅。	
		25	回々、拉咱山。「東邦近世史」を読む。	
		27	夜、「猿と駱駝の話」を記述する。	
		28	如佛元礙智　如釈尊満徳　　願戎亦如此　等聖天人師	
		29	温泉行	
		30	界石行	
		31	温泉の八景を選定　1.大温泉　2.小温塘　3.大石橋　4.古井山廟　5.太鼓坪　6.石磐瀧　7.白鶴林	
			8.仙女洞	
			温泉近方10ケ所　1.老廠　2.六角廠　3.界石舗　4.魚洞鎮　5.土蟜子　6.李家陀　7.大渡口　8.渓口	
			9.回口　10.苦竹舗	
34	2	1	世尊我果遂　如斯願満足　　大千界應動　華雨當降下	
		2	時風吹雪下　天楽奏空中　　天番普熏言　汝必成覚士	
		4	本山、水野宛て2通書面出す。	
		9	上海電に接す。	
		10	在清渝城。郷里の友人小林久太郎・酒井十平へ書簡と別紙「波佐八首」、「四風四景」を出す。	
		11	紀元節。	
		20	南條師あて書信発送。明日、当地出発、中甸、阿敦子、江卡を経て進蔵の予定と記載。	
		21	重慶を出発	
34	3	9	「黙南識略」6冊を北貴陽府で購入する。	
		11	貴州省城を出発する。58里。清鎮県(チンチェンシェン)泊。	貴州出発
		12	58里。安平県(アンピンシェン)泊。	
		13	83里。安順府(アンシュンフ)泊。	
		14	63里。鎮冉州(チェンジャンチョー)泊。	
		15	62里。坡貢(ホコン)泊。	
		16	63里。朗岱庁(ライタンテン)泊。	
		17	45里。毛口（マカオ）泊。	
		18	45里。花貢（ホウコン）泊。	
		19	50里。口子窟(クワンツーヤヲ)泊。	
		20	45里。楊松泊。	
		21	55里。両頭河泊。	
		22	50里。赤資孔泊。	
		23	雲貴省の境を経て、50里、平口県(ピンイシエン)泊。	
		24	60里、白水泊。	
		25	45里、霑益州(テンイチヨー)泊。	
		26	73里、馬龍州(マルンチヨー)泊。	
		27	87里、易降(インヤン)泊。	
		28	70里、楊林(ヤンリン)泊。	
		29	60里、板橋(バンチャヲ)泊。	
		30	40里、雲南省城（昆明）に到着（重慶から1,162里）	
		31	清鎮県に泊まる	
34	4	1	滞在。	
		2	滞在。	
		3	滞在。重慶以来連れ来る雇人を当地より重慶へ返す。	
		4	雲南を出発。雲南省経滇池30里、碧鶏関40里。	
		5	安寧州25里。茶舗5里。椽口街15里。	
		6	老鴉関35里。腰站（会煉象）35里。	
		7	緑豊県45里。响水関45里。	
		8	捨資60里。	
		9	広通県45里。腰站35里。	
		10	楚雄府30里。大石舗30里。	
		11	呂合30里。鎮南州35里。	
		12	沙橋50里。英武関45里。	
		13	普湖45里。沐滂舗20里。	
		14	雪南駅古匡州30里。經青龍海葉舗45里。	
		15	紅厓15里。定西嶺45里。	
		16	趙州30里。下関30里。溯海、大理府南門、午後1時到着。城内泊。重慶、大理間3,032清里。	
		17	本山寺務所谷了然あて書簡発送。	
			今や極めて僅少なる金力にて内地に入り込まんこと歩一歩困難を加へ、前途気遣はしき事に候へ	
			ども、千難萬障は勿論無二の生命をも佛陀に托し、雲南を西北に去る覚悟に御座候。	
		18	南條博士宛て書面発送。	
		21	雲南省鄧川から静子宛て書面発送。	

能海　寛関連記事

明治			事　　項	参　　考
36	9	16	哲学館より「講師の称号」が留守家族の元に贈られる。	
37	9	29	南條博士から能海謙信宛て「河口慧海師へ能海寛の探索を依頼した旨の書簡」	⑮498p
38	7	7	同郷の岡田利喜太が従軍先から情報として軍事郵便で「能海寛の横死」を小林久太郎へ伝える。	
		9	浄蓮寺で、書簡の写しを添えて東京の南條博士へ伝えた。	
			南條博士は早速、関係者やマスコミへ情報を公開した。	
		12	上京中の能海静子から水野斉入宛て書簡。	⑮504p
		25	東京朝日新聞など諸新聞は競って故人の伝記を掲載した。	
		26	浅草本願寺にて「故能海寛追弔法会」が南條博士が導師を勤めた。静子氏も参列。遺品展も開催。	
			井上円了の弔辞。	⑮490p
		29	南條文雄から水野斉入宛て書簡。	⑮516p
			南條文雄から能海静子に「紙函中物品目録」で能海寛の遺品が渡される。	⑮522p
38	8	4	井戸川辰三から岡田利喜太宛て横死否定の書簡。	⑮542p
		10	井戸川辰三から松島宗衛宛て横死否定の書簡。	⑮534p
			反省会主幹の桜井義肇は、友人の松島宗衛へ横死情報の真相を照会する。	
		12	松島宗衛から桜井義肇宛て回答の書簡。	⑮528p
		24	南條文雄から水野斉入宛て書簡。	⑮526p
大正			事　　項	参　　考
6	2	10	能海法恵から水野斉入宛て書簡。	⑮546p
		16	南條文雄「能海寛君略伝」原稿。	⑮570p
6	3	16	西川静から能海師の写真は南條博士に探索依頼のために手渡した旨を妙蓮寺宛てに書簡。	⑮552p
6	4	30	「能海寛遺稿」が刊行される。	能海寛追憶会
6	5	1	能海寛17回忌法要が浄蓮寺で勤行される。寺本婉雅師も出席して記念講演を行う。	
		20	真宗大谷大学で「故人追憶会記念法会併記念講演会」が講師に河口慧海師を迎えて開催された。	
昭和			事　　項	参　　考
17	8	20	サンデー毎日の記事「雲南国境の人柱　能海寛」で特集される。	
17	11	4	真宗大谷派管長から「大僧都」の証が能海寛40回忌法要時に伝達される。	
17	12	5	40回忌法要が浄蓮寺において勤行される。	
			真宗大谷派京都教務所長武田雷雄「追悼の辞」	⑮494p
25	9	29	藤岡了淳から能海譲宛て書簡。※南條氏の「能海寛君略伝原稿」が同封送付される。	⑮564p
44	10	22	能海寛の生誕から100年経過後の昭和44年10月20日付、「年月日時分不詳死亡」として戸籍抹消。	
51	11	28	郷土の傑人顕彰板(能海寛・島村抱月)が建立される。	波佐文化協会
53	11	3	金城歴史民俗資料館で能海寛資料が公開展示される。	
55	9	24	NHK松江放送局制作「島根人物伝・能海寛」(15分)が放映される。	
56	11	3	「ラマの都チベット写真展」、「世界の屋ねラマの都を訪ねて」の講演会を開催。	波佐文化協会
57	6	6	能海寛師顕彰碑が建立される。	能海寛顕彰会
62	8	22	波佐寺小屋セミナーで、「能海寛と東洋哲学」講師:山口瑞鳳氏の講演会を開催。	波佐文化協会
58	2	23	NHK松江放送局制作「知られざる先駆者・探検家能海寛」(30分)が中国地方で放映される。	
62	3	27	能海寛の足跡を訪ねるドキュメンタリー番組「中国大秘境」フジテレビ系で全国放映される。	
63	5	1	「能海寛生誕120年特別展」が金城歴史民俗資料館で開催される。	
平成			事　　項	参　　考
1	12	15	「チベット探検家『求道の師　能海寛』」が刊行される。	波佐文化協会
7	1	22	能海寛研究会が設立される。	能海寛研究会
10	3	7	能海寛チベット壮途100年記念「地平線発」－21世紀の旅人たち－写真展開催。	波佐文化協会
			スライド＆トーク「日本人の旅と冒険―21世紀に向けて―」講師:江本嘉伸氏を開催。	波佐文化協会
11	5	18	能海寛全身像(彫塑)が完成する。	能海寛研究会
12	8	19	中国・寧夏自治区銀川市で、「能海寛研究会日中合同世界会議」を開催。	能海寛研究会
14	8	1	まんが「西蔵探検家　能海寛」を出版する。	波佐文化協会
16	10	23	第1回能海寛ふるさと100kトレイル遠足(とおあし)全国大会開催。	
17	4	18	能海寛歌碑10基建立。	波佐文化協会
17	10	22	第2回能海寛ふるさと100kトレイル遠足(とおあし)全国大会開催。	
18	5	5	能海寛歌碑めぐりウォーク大会が始まる。	波佐文化協会
20	7	23	能海寛関係資料が「浜田市指定文化財(歴史資料)357点」となる。	
21	3	31	「能海寛著作集」全15巻17冊、別巻1冊が刊行される。	能海寛研究会
21	6	30	改訂版「チベット巡礼探検家『求道の師　能海寛』」が刊行される。	USS出版
30	5	1	「能海寛生誕150年特別展」が金城歴史民俗資料館で開催される。	
30	5	18	「新仏教徒運動の提唱者　『求道の師　能海寛』」が刊行される。	波佐文化協会
30	7	8	能海寛生誕150年「記念式典＆記念シンポジウム」がときわ会館で開催される。	能海寛研究会
30	10	20	能海の母校・東洋大学で、「能海寛生誕150年記念シンポジウム」が開催される。	東洋大学
			併せて、井上円了記念館で、企画展「新仏教徒　能海寛」が開催される。	

能 海　寛 生 涯 日 録

隅田正三編集

年	月	日	事　　項	参　考
元	5	18	浄蓮寺12世住職父・法幢、母ユクノの次男・能海寛として誕生する。	**明治元年生誕**
			※永禄11年創建。真宗大谷派の寺院。檀家数390戸。法幢は、広島県刈屋形・専光寺より入院。	
5	3	14	浜田地震(震度7)激震で537人の死者、消失家屋230軒、半壊家屋9,478軒をだす。	
7	1	13	父・法幢教導職試補となる。	
8	8	16	父・法幢逝去する。	
8	12	4	義父・佐々木謙信が浄蓮寺後継13世住職となる。※謙信は、九州・中津の照雲寺松島善譲に学ぶ。	
			父・法幢の里、専光寺にて養育される。刈屋形小学校へ入学。	養育
10	6	12	広島市寺町円龍寺内の広島小教校(進徳教校)へ入学する。	広島教校
			広島別院の桑門至道の後見を受け通学する。	
12	4		『簿記法初歩』を学ぶ。	
12	10	2	兄・法言と2人で、京都本山で得度のため旅立つ。	得度・上京
			＊『得度ニ付道中及入払帳』に京都往復の経費を記帳する。	①9p
		9	「得度願」上申書を本山へ提出する。京都滞在が長引き「得度剃髪式嘆願」を5名連名で提出する。	
			※石川県上町村・本浄寺衆徒中畠正玄、石川県高松村・発願寺衆徒小池田大宣、島根県長浜村・	
			明清寺衆徒上野覚十郎、島根県長田村・浄蓮寺衆徒能海法言、同村・同寺衆徒能海寛の5名。	
		21	「得度願」書面伺済の許可書を頂く。	
		28	本山大谷光勝法主より得度(宗徒)の授牒を頂く。	
14	7		予科2級を卒業して、養育先の専光寺へ戻る。専光寺にて『八宗綱要』を書写する。	
15	2	21	専光寺にて、『時教要授』を新調する。	⑫344p
15	10	19	寛は、専光寺を暇して、浄蓮寺へ帰山する。『自教要授』を増補する。	⑫532p
			義父・謙信より4年間、宗教学(梵語を含む)を学ぶ。	
16	7		石見学場(専竜寺)で夏期講習会を受講する。高塚和上師の講和を拝聴し向学心を燃やす。	石見学場
16	8	4	「時教要授録」第4巻を調整する。	
17	3		「開悟院述　願成就文聞記　全」を書写する。	
17	5	23	順念寺(益田)。	
17	7	3	石見学場(正楽寺・善徳寺)で夏期講習会を受講する。	石見学場
		15	石見国那賀郡芦谷村善徳寺において「尊号直像名文 本」の書写を行い7月3日～15日に完成する。	
		23	引き続き「尊号直像銘文　末」の書写を終える。	
17	12	9	小国・突出九平葬儀、高橋屋で休み。	
18	1	8	「予が意見に10里歩くと思えば7、8里の時足痛む。15里と思えば10里頃から足痛む。学問も日に	
			10枚と思えば7、8枚でたいぎ。大学校卒業と思えば中学位なり。	
18	4	18	※ 京都西六條に普通教校を開校する。	
18	5	24	徳田・鍛冶屋葬儀。	
18	7		石見学場(正万寺)で夏期講習会を受講する。	石見学場
18	9	9	専光寺行き安本円海師に進路の相談をする。	
		11	専光寺から帰山する。檀家の伊豫ケ谷の葬式に出向く。	
		12	一宿三快。	
		13	柏原通り半賀知受、広島へ出る。	出広島
		14	午後、浄蓮寺を出発。専光寺に宿す。出広島時の私有金2円84銭。	⑭580p
		15	専光寺・安本若(玉泉)と同道して広島へ向かう。広島3丁目、野田マサ方へ宿す。	
		16	1丁目広島教校へ入校する。＊以後、高僧和讃、三国伝、通縁起、十八史略などを教受する。	⑭300p
		28	「一枚起請文講解」を筆録1として記録する。	筆録1
18	10	1	父から2円送金を受ける。	
18	12	8	広島説教場に行く。	
		12	広島教校(大手町壱丁目)にて＊『愚痴乃親玉』を書き始める。	⑭205p
		13	父から1円送金を受ける。	
		20	広島教校の試験終了する。これを以て広島教校は閉校となり、京都の普通教校へ統合となる。	
		21	6丁目の桑門道方へ寄留する。	
		31	9/4～12/31に要した学資金3円58銭。	
19	1	16	寄留先の桑門方を出発帰途につく。庄原喜作方宿す。	
		17	専光寺に着く。	
		18	専光寺滞在。	
		19	専光寺から浄蓮寺へ帰山。	帰郷
		23	浄蓮寺を出立。専光寺宿す。この時の所持金11円なり。	
		24	専光寺滞在。	
		25	道中。庄原喜作方宿す。	
		26	6丁目桑門方着。広島別院御坊泊。	
		27	滞在。	
		28	滞在。	
		29	乗船サ丰キ丸で京都に向かう。	

年	月	日	事　　項	参　　考
19	1	30	乗船。	
		31	朝、大阪着。12時、京都新町桑門宅へ到着す。暫く、寄留する。	
19	2	1	同家へ寄留。	
19	3	2	『大日本新撰地図（京橋）』菅沼和歌山士族を入手する。	⑩83p
		5	普通教校へ入校する。東中筋御前通上ル分舎宿。父から2円送金を受ける。	
		18	普通教校東寮3号室、垣山清、蚊野遷次郎、小池智覚、能海の4名が同室となった。	東寮入寮
			乙80号「飯費之通」を普通教校で使用開始する。	
		31	3月18日よりの食料費65銭。	
19	4		普通教校内で「反省有志会」が誕生する。	反省会有志会
		30	4月分食料費1円50銭。	
19	5	5	専光寺から18円送金。（内3円は私有金）	
		29	「反省有志会員証」第83号を取得。	会員証
			※会員証の裏面に「本会大意　一、禁酒の事。一、卑猥ノ場所ニ立入ル可ラズ」と印字されている。	
		31	5月分食料費1円50銭。	
19	6	11	コレラの流行により、普通教校は閉校となる。	
		12	帰郷するため、大阪港を出航する。	
		13	広島港へ到着。野田宅で2泊する。	
		14	滞在。	
		15	庄原で一泊する。	
		16	専光寺で二泊する。	
		17	滞在。	
		18	浄蓮寺へ帰山する。	帰郷
		30	6月分食料費(12日分)95銭。	
19	9	9	上京に当たって、10円を受け取る。	
		10	学校が再開されたため、再び上京する。途中、都志見(北広島町)で一泊する。	再上京
		11	加計から丁川の運河を出発、太田川を下り、広島の船着場へ到着。『反省会雑誌』9冊販売。	
		12	夜、広島港から乗船する。	
		13	蒸気船。	
		14	朝、大阪港へ着す。京都の桑門至道宅で一泊する。大阪で『反省会雑誌』3冊販、列車で5冊販売。	
		15	普通教校へ帰校した。	
		30	9月分食料費(15日より)80銭。	
19	10	10	反省会へ「永久会員誓約書」を提出する。	**反省会永久会員**
		23	西蔵探検行を公言する。西寮2号室の親友蚊野仙次郎から＊「活眼」の激励文を頂く。	活眼⑭9p
			※普通教校へ英人セッパード夫妻、ボールウィン、和田義軌、手島春治らが英語教師陣となる。	
		31	10月分食料費1円50銭。	
19	11	23	「ニュー・ナショナル第3読本」30章までの英文を学習する。	
		30	11月分食料費1円50銭。	
19	12	31	「ニュー・ナショナル」第2巻を修了する。12月分食料費1円50銭。	
20	1		小永井小舟に就き「文章軌範虫記」を学ぶ。『令知会雑誌』を購読する。	
		7	予科12科目の平均点82.5点。英語91.8点。	「学科點表」
		31	1月分食料費1円50銭。	
20	2	28	2月分食料費1円50銭。	
20	3	3	普通教校予科から本科初年級へ編入される。	本科初年級
			小栗栖香頂より「任倫注」を学ぶ。	
		10	父・上京中に寮を訪問し、3円50銭頂く。	
		15	父滞在の宿を訪問して1円50銭頂く。	
		31	3月分食料費1円50銭。	
20	4	14	普通教校大行軍(奈良・吉野・和歌山・大阪)に参加する。	
		30	4月分食料費1円90銭。	
	5	25	母より羽織代として1円50銭受取る。	
		31	5月分食料費2円10銭。	
	6	21	「令知会雑誌」第39号、会員一覧表に掲載される。	⑮474p
		30	6月分食料費2円10銭。郵送で10円受け取る。	
	7	4	10円送金される。	
		12	本日まで校内に留まる。	
		13	午後4時45分、汽車に乗り摂津国島下郡吹田村の直海玄祐を頼って夏期旅行に出かけ寄留する。	光徳寺**621番地**
			※この間、直海玄祐と2人で比叡山へ参詣する。	
		28	吹田の人、三の瀧で落石で死亡する。	
		31	7月分食料費(13日迄)91銭。	
20	8	1	大阪に遊び、金を落とし大いに困る。	
		11	直海君と野畑村の桜井義肇君宅を訪問する。美濃の滝を見物する。	

年	月	日	事　　項	参　　考
20	8	12	午後、直海玄祐君宅へ戻る。帰り道に山に入り迷う。	
		16	午前4時50分起、5時10分より勤行。大経一巻、訓読一巻終り、朝飯後、休息、大経下巻	
			訓読一巻終り。この時8時10分なり。4時30分より6時まで観経、小経、両経訓読終る。	
			後、正信偈等勤める。吹田村光口寺。※父の祥月命日。	
		17	桜井方宿、吹田神社（亀田神主と対面）へ参詣。	
20	9	5	夏期旅行から無事帰校する。	⑭583p
		14	15円送金される。	
		16	午前4時50分起、5時10分より勤行。大経一巻、訓読一巻終り、朝飯後、休息、大経下巻	
			訓読一巻終り。この時8時10分なり。4時30分より6時まで観経、小経、両経訓読終る。	
			後、正信偈等勤める。吹田村光徳寺。※父の祥月命日。	
		30	9月分食料費1円37銭。	
20	10	31	10月分食料費1円20銭。	
20	11	11	普通教校大行軍、午後1時、出発。3時30分伏見着。5時、エンバーク。5時30分、出航。	⑩27-33p
		12	午前1時、大坂着。6艘の内(教員・役員、1小隊、2小隊、3小隊、4小隊、予備)の内、予は	
			4小隊に属し、第3着であった。6時に上陸し茶屋で朝飯。直ちに御坊へ行く。	
			御坊拝観後、昼飯。午後、住吉神社に参詣。4時50分堺着。6時夕食。風呂へ5人で行く。	
		13	午前7時、起床。8時朝飯。9時、出発して浜へ。小隊運動、体操、綱引き。1時間散歩。	
			1時30分より乗船し、3時30分帰岸。4時より帰路に着く。足を痛める。5時30分帰着す。	
			夕食後、6時より外出して2時間散歩する(井上、清谷、桜井、能海)。	
		14	5時起床、支度。7時住吉にて休み。天王寺にて休み、五重塔に登る。大阪を横切り河内	
			森口にて昼食。河内枚方に5時着。凡そ10里。単隊34人で風呂に行く。7時夕食。	
		15	5時起床。枚方より淀へ3里半、京へ2里半、〆て6里。6時、出足。10時男山神社に登る。	
			3時30分帰校。風呂に行く。	
			○仏教一英文章一会話一演説一耶蘇一其の他教一法律一政治一経済一英学、普通学。	
		30	11月分食料費1円20銭。	
20	12	1	「反省会雑誌」創刊号、20.7.3制定反省会の詳細な内容が掲載された。正会員９９名。賛正会員３６名。	
		3	父から１０円送金される。	
		27	午后2時、普通教校の教官セッパード夫妻に招かれ洋食を戴く。※この時、名刺に「Kuwan Noumi」	Kuwan Noumi
			「Mr and Mis.Shapherad　元に行き洋食を頂く。♡ hape.happy new Yer to yow」と手帳に記す。	⑩20p
		31	朝、西本願寺、及び奥正寺へ参詣。日中後、東本願寺へ参り西大谷より高台寺と午鉋報	⑩24p
			東大谷に参り、祇園神社、四条仏光寺へ参り帰る。7時、勤行、法話11時まで。	
			12月分食料費1円20銭。	
21	1	4	＊直海玄祐より書簡が届く。能海が伝えた信条の「五戒」に共感した旨言及。	⑧上17p
		6	徳永満之より科学哲学及び宗教の関係。物理学一班を聴講。	
		7	学業成績/平均点82.5点、英語91.8点。一週間の授業時間29時間の内、英語は14時間。	
			※哲学館外員(23年まで)※島地黙雷「日本人」創刊。	
		31	1月分食料費1円10銭。	
21	2	6	父より１０円郵送される。	
		28	2月分食料費1円20銭。	
21	3	9	「寄留地応徴願」を島根県知事あてに上申する。	
			※『国民の友』の購読を開始する。	
		21	「寄留地応徴願」が認められる。	
		31	3月分食料費1円20銭。	
21	4	8	釈尊降誕会にちなみ普通教校内で「English Composing Socaety」(英作文会)を設立する。	英文会
			『弘法大師一代記』(M21.3.1刊)を読み感化される。	
		12	父より１０円送金される。	
		14	普通教校大行軍。奈良、吉野、和歌山、大阪など。	⑩40p
		30	4月分食料費1円20銭。	
21	5	21	降誕会につき嵐山の北高雄の南仁和寺の西の山の間にて発火演習をする。	
		31	5月分食料費1円20銭。	
21	6	7	南條文雄師文学博士となる。	
		8	父より１０円送金される。	
		30	6月分食料費1円20銭。	
		31	7月分食料費1円20銭。	
		24	「本山に外国の書生を受け入れ、本山近郊に洋館の学校を建て、佛教と普通学を伝授し、外国人の	⑦40p
			使教者となすべし。教員は、外国人及び本国仏学者にして、校長は、外国に於いても名ある如き日	
			本人仏教者とすべし。」と手帳に記す。	
		31	8月分食料費1円20銭。	
21	8		※「海外宣教会」が発足する。	海外宣教会
21	9	4	直海玄祐君と大阪へ行く。	
		5	午前１１時、汽車にて京都普通教校へ帰校する。	

年	月	日	事　　項	参　　考
21	9	30	9月分食料費1円20銭。	
21	10	14	「The Literature(文学)」(英文会の機関誌)を創刊する。※毎週日曜日に発行。	英文会
			【会員メンバー】 梅田、橘、笠原、宮、島津、植田、吉田、堀、佐田、加藤、北側、荒木、村上、川口、	
			吉津、護城、金近、猪口、花房、大内、堀部、新田、品川、桜井、松浦、清谷、岡崎、平山、綿谷、	
			竹下、能海の47名。	
			【新仏教徒の目的】「諸君は、仏陀の偉大な愛によって生まれた。全ての衆生と喜びを享受し、真理	
			の樹から因果の果実を摘み取り、モラルの庭園で自ら美味を味わうためにE.C.Sは、そのような新仏教	
			徒の目的を成功させるために組織したのだ。」と、能海寛が記述している。	
			【英文会の目的】 1.翻訳　2.文通　3.月刊雑誌ニュース　4.文化・教養の団体。	
			※考えを表現することで大切なことは、第一に「書くこと」、第二に「話すこと」である。雄弁さより文章の	
			方が利するところ大である。しゃべる人は、その場かぎりである。著述はどこにでも飛んでゆく。と記述。	
			※英文会シンボル印は、日の丸の旗を中心に「ENGLISH COMPOSING SOCIETY . KYPTO」の文字が	
			円形に配置されている。	
		17	父より10円送金される。	
		21	「The Literature(文学)」No.2	
		28	「The Literature(文学)」No.3	
		30	父より11円送金される。(内1円は買物料)	
		31	10月分食料費1円20銭。	
21	11	4	「The Literature(文学)」No.4	
		11	「The Literature(文学)」No.5	
		18	「New Scholar(新学生)」No.6　※この号からタイトルを変更する。	
		25	「New Scholar(新学生)No.7	
		30	11月分食料費1円20銭。＊石井清貴より書簡「日光作用簡易複写法」の規則を同封。	⑧上22-24p
21	12	2	「New Scholar(新学生)No.8	
		9	「New Scholar(新学生)No.9	
		11	普通教校閉校記念写真を知恩院にて撮る。	
		16	「New Scholar(新学生)No.10	
		23	「New Scholar(新学生)No.11	
		25	大学林の発布により京都普通教校は閉校となる。	
		30	「New Scholar(新学者)No.12	
		31	朝、西本願寺と奥正寺へ参詣する。午後、東本願寺へ参り西大谷、高台寺、東大谷へ参り、	
			祇園神社、四条佛光寺へ参る。夜、勤行、法話。12月分食料費1円20銭。	
22	1	6	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.13　※この号からタイトルを「新仏教徒」に変更する。	新仏教徒
			※表紙の言葉 「Namo Tassa Rhagavato Arahatosamm'a Sambuddhassa.」(パーリ語)	
			every sundays in the week. (毎週日曜日に発行)	
		13	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」NO.14	
		17	父から10円送金される。	
		20	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.15	
		27	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.16	
		28	文学寮本科2年甲生へ編入となる。	
		30	文学寮「預金渡通」を開設し、普通教校から5円が振替られる。	
22	2	1	「文学寮在学中豫備金」3円を納める。	
		3	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.17	
		10	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.18	
		17	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.19	
		24	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.20	
		25	＊京都の病院に入院中のダルマパーラ氏を見舞・看護する。秦、沢井も交替で看護する。	⑩65－66p
			※看護中にダルマパーラへ英文機関誌「新仏教徒」運動等を話す。	
22	3	3	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.21	
		5	本日までダルマパーラ氏の看護を終え帰郷の準備に入る。	
		8	祖母より餞別として、1円頂く。	
		10	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.22	
		11	学資金調達のため帰郷する。	
		15	午後4時、第一徳山丸にて出航する。	
		16	午後5時、宇品港に着く。	
		17	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.23	
		19	専光寺に着く。	
		20	滞在。彼岸法会。	
		21	滞在。彼岸法会。	
		22	滞在。彼岸法会。	
		23	滞在	

年	月	日	事　　項	参　　考
22	3	24	浄蓮寺へ帰山する。「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.24。	
		31	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.25。文学寮3月分食料費1円80銭。	
22	4	2	M.Takeshitaより英文会投稿の英文書簡届く。	⑦27-31p
		7	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.26	
		10	英文会員の平山より英文会投稿の英文書簡が届く。	
		12	第一期学資簿「Polical Economy」を書き始める。	
		14	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.27	
		18	無名瀧、魚切より水道を通して紡績会社を造る思案について表記。	
		19	葬式、法要での反省会の禁酒について記述する。＊R.Nishiyorより英文の書簡が届く。	⑦61-66p
		21	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.28	
		30	岡本斗八良君の弔意文を書く。	
22	5	6	河野始治・島津正人より書簡届く。「運動会遊戯及人名」が同封される。	⑦71-78p
		10	笠原松二郎より書簡、反省会のこと。築地の大運動会へダルマパーラら特待員100名来場した旨	⑦17-25p
			を知らす。文中・初志を変易せず、切磋琢磨の功を積み真宗に能海ありと評判と記す。	
		14	M.Takeshita・E.Hirayamaより英文会投稿の英文書簡が届く。	⑦39-51p
			佐々木作一より書簡届く。反省会4周年記念運動会の後、宣布院で菅・渋谷・秦・今津が演説。	
			文学寮と内学院の紛争(禁酒を巡って)を伝える。	
		16	平山寿海より英文会投稿の英文書簡届く。	⑦79-81p
		21	清谷寛之より書簡届く。	⑦83-91p
		29	Tenpoenshiより英文会投稿の英文書簡届く。	⑦95-97p
		30	岡本斗八良君の弔意文を書く。	⑩36-37p
22	6	1	石見学場(浜田・浄慶寺)において「仏説観無量寿経」海老原静寿師の集中講義を聴講する。	石見学場
			「仏説観無量寿経」本(第1席～第21席)　に記録する。	
			※ 海老原師は、尾張国・信力寺住職で、本山の三等学師。40日間の集中講義を受ける。	
		2	「仏説観無量寿経」第2席を聴講。	
			西依金次郎より書簡届く。「英文会の消長は必ず貴慮を患はすらん。然るに無異に消光不在候間休	⑦99-107p
			憩い下度候」。※この書簡をもって「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」発行を一時、中断する。	
		3	「仏説観無量寿経」第3席を聴講。文学寮から12月末まで補充員規則で京都に寄留するよう通知を受ける。	
		4	「仏説観無量寿経」第4席を聴講。	
		5	「仏説観無量寿経」第5席を聴講	
		7	「仏説観無量寿経」第6席を聴講。	
		8	「仏説観無量寿経」第7席を聴講。	
		9	「仏説観無量寿経」第8席を聴講。	
		10	「仏説観無量寿経」第9席を聴講。	
		11	「仏説観無量寿経」第10席を聴講。	
		13	「仏説観無量寿経」第11席を聴講。	
		14	「仏説観無量寿経」第12席を聴講。	
		15	「仏説観無量寿経」第13席を聴講。	
		16	「仏説観無量寿経」第14席を聴講。	
		17	「仏説観無量寿経」第15席を聴講。	
		18	「仏説観無量寿経」第16席を聴講。	
		19	「仏説観無量寿経」第17席を聴講。	
		20	「仏説観無量寿経」第18席を聴講。	
		21	「仏説観無量寿経」第19席を聴講。	
		22	「仏説観無量寿経」第20席を聴講。	
		23	「仏説観無量寿経」第21席を聴講。	
		24	「仏説観無量寿経」22席から正宗分を「仏説観無量寿経」末(第22席～第36席)に記録する。	
		25	「仏説観無量寿経」第23席を聴講。	
		26	「仏説観無量寿経」第24席・観三想結を聴講。	
		28	「仏説観無量寿経」第25席を聴講。	
		29	「仏説観無量寿経」第26席を聴講。	
		30	「仏説観無量寿経」第27席を聴講。	
22	7	1	「仏説観無量寿経」第28席を聴講。	
		2	「仏説観無量寿経」第29席を聴講。	
		3	「仏説観無量寿経」第30席を聴講。	
		4	「仏説観無量寿経」第31席を聴講。	
		6	「仏説観無量寿経」第32席を聴講。	
		7	「仏説観無量寿経」第33席を聴講。	
		8	「仏説観無量寿経」第34席を聴講。	
		9	「仏説観無量寿経」第35席を聴講。	
		10	「仏説観無量寿経」全36席が満講となる。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			※この講座に於いて、「智慧と慈悲」を会得し、構想練り翌年、「Wisdom and Mercy」の発刊に至る。	
22	8	8	梅の木より5銭頂く。	
		23	光雲坊より資本の為、1円貰う。同坊にて同道の御礼に61銭3厘を頂く。	
		28	隅田金助より5銭頂く。	
		29	光雲坊より1円貰う。斉入より書簡届く。	⑦173-177p
22	9	3	「金簿」二記入する。前甚が家より10銭貰う。	
		4	向こう4年半の学資金の支援を得て、檀家総代と「学資金募集ニ付訂約書」を交わす。	学資金⑭586p
			※向う4ケ年半間の学資金見込み270円を檀家一統より支援を頂き、学問成就の節は浄蓮寺後継と	
			成り、仏祖先崇敬を始め、檀家布教を本とし寺内和合して、子弟の教育を尽力し、決して他に移転等	
			の不道徳なることを致すまじく盟言如斯候。と4箇条の締約を交している。	
		5	浄蓮寺を出立し、京都に向かう。	
		7	加計にて宿泊料、2人分20銭。この日から「金簿」三を書き始める。	
		8	加計より広島舟賃14銭。車代3銭5厘。小遣2銭。蒸気船25銭。車8銭。さん橋3銭。小遣1銭。	
		9	車8銭。汽車27銭。車4銭。	
		10	反省誌代3銭。	
		11	鳥庄50銭。ぶどうなし3銭。コウモリ傘44銭。	
		12	亜細亜の宝珠8銭。小刀10銭。下駄10銭。	
		13	午後、高等中学校、吉田、村河、原久尋常中学に行き帰る。書箱代30銭。	
		14	文学寮北寮6号室に入寮する。同室者(能海寛、久冨米次郎、村上寅吉、西原荘十郎、平尾一夫)の5名	文学寮北寮
		15	一週間のカリキューラムを日記に記載する。平岡君、井上操来る。藤堂哲と二人、島庄へ行く。	
		16	大谷参詣。授業を受ける。	
		17	講堂において宮島舎監の説論あり。	
		18	安本円海、斉藤宇八郎より郵便書面を受ける。B行19銭。上田と二人。	
		19	斉藤宇八郎、一寸原組連中へ手紙を書く。洋服を作ること。三角定規3銭5厘。ピクニック2銭。	
		20	彼岸の入り。門限、就寝、起床の広告出る。少雨。文章十。	
		21	反省会の会幹を投票する。曇天。岡本重昌へ羽書出す。	反省会
		22	河口君と合い英文会のことを話す。	
		23	藤堂上京する。汽車二人4銭。柿4銭。	
		24	冬洋服を猿橋に頼む。岡本重昌より手紙受ける。斉へ短書を出す。	
		25	入寮。課業表を写しおく。	
			月曜日　漢・池野、地・佐久間、代・角田、訳・松山、内・熱田	
			火曜日　体・池野、幾・角田、訳・松山、図・宮島、読・セッパード	
			水曜日　博・中川、英作・ランバート、代・角田、地・佐久間、漢・中村	
			木曜日　体・池野、会・セッパード、訳・松山、幾・角田、内・熱田	
			金曜日　漢・中村、博・中川、地・佐久間、図・宮島、英作・セッパート	
			土曜日　体・池野、内・熱田、代・角田、訳・松山、文・ランパート	
		26	本山へ参詣する。来土曜日、英文会で、「アジアの宝珠」、「十二宗綱要」を人を分けて翻訳、	英文会
			日本文へ、又英よりの手紙、新聞等を日本に訳す。英文会の附属部として、本趣意し英文を	
			解して作文するにあり。	
		27	翻訳家、(将来遠国)布教家。自らの進むべき方向を記している。	
		28	道徳こそ、予の目的なり。晩、笠原、安藤と僕3人で、前途につき思想を述べ互いに得るところ	
			あり。洋服代2円10銭。	
		29	藤堂哲から葉書着く。	
		30	斉より手紙を送る。斉へ手紙出す。文学寮費9月分食料費1円19銭。	
			今月の入費は、8円96銭5厘也(道中諸費分)。	
22	10	1	朝、鼻血出る。本山参詣する。「政教日記」と「法の道しば」を斉へ送る。8円70銭の内4円を貯金す。	春秋日記
		2	前上人御正月につき休み。大谷へ参詣する。西依に寄る。風邪で早く就寝する。	
		3	下宿願いを出す。	
		4	Bに行く。	
		5	梅田定と2人、和服で話しながら同道して、愉快なり。本山参を怠る。	
		6	斉へ頓智雑誌を送る。藤堂等へ手紙を出す。井上氏の刑法講義あり。	
		7	東大学寮で、柳祐信、徳永満之、南條文雄、所感を述べる。	
		8	笠原と2人で野外で遊ぶ。スケッチ380頁なれば、一日15頁、1ケ月で十分終わる。専門にすべし。	
		9	許可が下りて、宝町通り魚棚上ル廣﨑方安本宅、当分勉強の為車中筋花屋町上ル片山方で下宿。	
		10	「反省雑誌」発せらる4銭。「政教史」4銭。藤堂へ手紙、清谷へ葉書出す。兄へ手紙出す。	
		11	法言兄から手紙届く。兄へ手紙を出す。晩、湯に行く。	
		12	課業表14日より改正される。名古屋東橋町29番安本円海に短書出す。	
		13	能海の上京により、中止していた「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.29　を発行する。	
			橘大心等と野間吉作の所へ行く。後に中学へ行き、清谷寮に入る。学課等を注文。	
		14	足利軍曹来たり面会する。田中友に宿す。「英文会一周年目也」(「春秋日記」に記す)。	
		15	足利氏大津に帰る。火3、午前11時から勤行の為休み。本山にて下駄を取られて、素足で帰る。	

年	月	日	事　　項	参　　考
22	10	15	龍谷会。大雨。	
		16	大谷龍谷山報恩講につき休業、午前参詣す。七条を散歩する。	
		17	学校へ行き、東山君に面会す。登へ法話を送る。午後2時笠原来り、一緒に校へ行き勤行、	
			斉藤氏の説教を聞く。新聞を読む。伊藤伯の辞職その他条約改正議論ごうごうたり。梅田、笠原と	
			野外に散歩す。知恩院で帝国哲学院演説あり、西依等行く。予は不行。晩、橋本を訪問する。	
		18	大経御勤、奥教院の廿日正月なり。午後2時、建夜報恩講執行説教、伊井様実に感じ入りたり。	
			晩、初夜勤行、説教小山氏実に感心仕候。橘と話す。	
		19	朝6時出校、勤行説教、松島氏。	
		20	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.30	
			午前、井上操氏の刑法講義あり。日中、久冨米次郎とBへ行く。藤島了隠氏欧米より帰朝して初	
			対面、演説あり。	
		21	伝道会雑誌17出る。晩、新町辺まで散歩す。	
		22	京都での「英文会」を引き継ぐため河野始治と前田得念へ書面出す。来る27日、日曜日を以って	英文会③30p
			「新佛教徒」第31号を出すべし。英和文一部おく。	
		23	学校新築の図を見る。橘大心宅を訪問する。	
		27	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.31。✻謙信より書簡届く。	⑦179-185p
		31	10月分入費4円18銭6厘。	
22	11	2	そば代9銭。Bean2銭。みかん代1銭5厘。	
		3	ぜん代1銭。	
		4	ぜん代2銭。	
		6	荷物32銭。そば2銭。Bean2銭。	
		7	神智規則4銭。日の宮2銭。東福寺3銭。仏教事情3銭。	
		9	郵便2銭。掛紙3銭。Bean2銭。	
		10	仏教事情3銭。	
		11	反省誌3銭5厘。斉入より書簡届く。	⑦191-194p
		14	法言より書簡届く。	⑦187-189p
		15	本代3銭。	
		17	Bean不銭。	
		18	郵便2銭。Bean不銭。	
		22	渋沢氏4銭5厘。Bean2銭。髪4銭。	
		30	飯費2円55銭。雑費15銭。11月分入費3円72銭5厘。	
22	12	5	切手5銭。	
		6	剪髪10銭。	
		7	油代5銭。式問反雑15銭。反雑3銭5厘。	
		9	日本外史90銭	
		10	Bean2銭。	
		11	みかん2銭。餅2銭。シャツ30銭。靴下5銭。片山宿料1円8銭。家へ30銭。反省会50銭。	
		13	友人の西依金次郎、松島静寿、能海寛の3人は京都を去り上京する。この時の所有金11円44銭。	上京
			外に1円59銭、斉書代預かり金。朝5時出発。車代4銭。汽車賃3円29銭。名古屋での車代6銭。	
		14	静岡宿料20銭。東京新宿より車代9銭。道中小遣い10銭。	
		15	駒込車・中飯代17銭。	
		16	駒込車・中飯代12銭。	
		17	西依金次郎、松島静寿、能海の3人は、東京本郷区元町2丁目47番地白井花方へ下宿する。	転居
			1月5日まで。箸及び箱3銭5厘。懐中16銭5厘。車8銭。はがき7銭。切手4銭。	
		18	暦略1銭。小遣い2銭。ランプ10銭。炭油8銭。	
		19	風呂1銭3厘。はがき2銭。洋とじ書15銭。はす里3銭。法言・斉入より書簡届く。	⑦195-208p
		20	郵便切手2銭。	
		30	法言より書簡届く。	⑦209p
		31	下宿料1円74銭。今月の経費合計12円36銭。(京都3円89銭5厘。東京8円46銭5厘)。	
			23年へ持越金4円56銭5厘。斉分共。	
23	1	1	朝7時半起床。阿弥陀経文、正信偈、大経上巻、真宗法典を訓読勤行をなす。父、兄、岡本重昌	春秋ノ日記
			へ書面を書く。藤堂哲から葉書着く。午前10時より福田君、漆谷君に寄り、日本橋小網町の豊島	③33-112p
			へ年賀で雑煮を頂く。築地本願寺に参詣。藤本教順の宿へ寄るも京都へ帰られて不在。	
			藤堂君の宿にて晩飯を頂く。鈴木藤丸君脚気で入院。『Economy Ⅰ』を書き始める。	
			祝儀17銭5厘。讀賣新聞2銭。	
		2	加藤飛雲へ葉書を出す。席料白米、茶、油、炭、月謝、筆紙、小使、火鉢、器、茶碗、盆、火鉢、	
			小ブトン、雪平、箸、盆膳、油入れ合計4円47銭。書箱50銭。車代10銭。4円47銭。書箱50銭。	
			車代10銭。羽書3銭。	
		3	10時より、赤坂の吉野精順宅へ行き、梅原融に寄り、弓削正雄の所に寄るもこの2人は不在。今	
			村等年賀に来る。稗田等3人へ葉書を出す。下駄代13銭。中飯3銭9連。国民の友4銭5厘。日本人	
			4銭5厘。時事1月1日1銭5厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	1	4	笠原松次郎より3人宛葉書を受く。晩、B店へ行く、10銭5厘。	
		5	朝より白井花方より荷を仕舞い、11時出発、芝区三田四国町二番地4号田中きん方へ転宿す。	転居
			松島静寿、山中逸、能海寛、古河勇の4名。下宿料56銭1厘。本代20銭。羽書1銭。	
		6	平山寿海、加藤飛雲より葉書受く。片山より3人宛て葉書受く。Bean2銭。	
		7	朝、双書を貰いに校に行き、後ち弓削正雄君の所へ散歩し談話して帰る。古河勇君来る。	
			吉野静順来る。晩、芝を散歩する。	
		8	朝より青山錬兵場に行き元普生村上意興に逢う。離宮より大久保の碑を経て帰る。梅原融来る。	
			古河勇当家に下宿する。竹下より葉書受く。古河勇と故普通教校以来の懐内を談し彼の夢遊等	
			面白きものを見聞せしを聞く。天蓮、石峯、焼寛、天頂山、洞達、石峰生などを雅号とする。	
		9	佐々木作一より葉書受く。郷へ手紙を送る。日野義渕氏へ書面出す。晩、弓削正雄を訪問。	
			印紙、羽書5銭。ペン先1銭。書面袋3銭。	
		10	岡本重昌より葉書を受く。豊島の兄来る。古河勇の文章力に触発され文章英知最も必要なこと	③42p
			益々感ず。学ぶべし。	
		11	吉野君一寸来る。檜山君来る。19日、元普通教生の青年会を立てることをなし、月一度集会を	
			する様、古河勇君等尽力中なり。風呂へ行く。断髪5銭。茶代4銭。風呂1銭3厘。	
		12	日曜日、故普通校を論ず。新文学寮を論ず。亜細亜の宝珠を論ず。海外宣教会を論ず。	
			西本願寺を論ず。東本願寺を論ず。将来の仏教を論ず。真宗を論ず。英文会を論ず。	
			新仏教徒を論ず。	
		13	慶応義塾へ双書と＊履歴書を出す。入社金3円。国民の友を読む。古河勇と下宿先を探す。	履歴書③50p
			大福3銭。請人は豊島勝太郎氏に依頼する。今朝、三部経終わる。	
		14	芝公園を散歩する。晩、古河転宿す。印度史、朝鮮、安南、緬甸などを読む。新聞第1銭5厘。	
		15	偈行品終る。「真宗法典」を1日より取り組む。予、毎月16日と28日は精進すべし。Bean2銭。	
		16	「吐論」終る。明後18日、午前8時入学試験執行を申し来る。その結果如何か。風呂1銭3厘。	
		17	父謙信の書簡で、慶応義塾入学は、世評からして不可。宗学の道へ転学を勧める。	
			「弘法大師一代記」を読む。梅原融来る。	
		18	慶応義塾で試験を受ける。予科3番1に入れられる。別科5級の再試験を頼むも聞きいれられず。	
			晩、古河勇、弓削正雄君来る。「日蓮伝記」を読む。Bean2銭。草履、下駄3厘。	
		19	「日本博士全伝かこを読む。午後1時より築地で松山氏の日本仏教青年会設立と故普生徒集まる。	
			会者、今村恵猛、古河勇、弓削正雄、吉野精順、藤本教順、戸田、橘大心、小原良輔、良甫、吉住、	
			菊池謙譲等。この日、このメンバーで「経緯同盟会」をつくる。	**経緯同盟会設立**
		20	風呂1銭3厘。	
		21	寄宿所を尋ねる。晩、書面と共に金10円、父より受ける。古河等4人で散歩する。「倭父範」を	
			買う、15銭。午後より「倫理学」を棚橋より受ける。＊父謙信より「宗学に志無きは畢竟、哲学館へ	⑦213-226p
			の転学を」との書簡を受け取る。	
		22	品川の近方を散歩する。晩、古河、吉野君来る。倭父範を読む。金を局より受けたり。	
		23	古河勇来る。西依金次郎「英国史」を買う、2冊4円。風呂1銭3厘。「支那学」を学ぶ。	
		24	「蓮如上人伝」を読む。晩、古河勇来り。島地氏の仏教改革の為竜宮。菓子代10銭。「日本全図」5銭。	蓮如上人
		25	吉野来る。西依金次郎、山中逸、神田区に転宿。豊島君来る。午後3時より芝区三田豊岡町63番地	
			龍源寺越渓宗逸方へ転居する。宿代(5日より25日迄)2円31銭。洗濯、炭、油代34銭。	龍源寺へ転居
			インキ第2銭5厘。切手、羽書10銭。土器等陶器15銭5厘。諸入費42銭8厘。米煮料10銭。	
		26	「地質学」、「進化論」を聴講する。	
			藤堂哲君来る。「徳島十良兵」を読み涙流す。夕飯を食し、散歩の為出て藤堂哲を見送る。小遣1銭。	
		27	朝より藤堂哲と共に浅草に行き、蕎麦を食して公園を散歩する。午後、古河勇の元を訪ね書物を	
			返し、談話中に弓削正雄、松島静寿君来る。青大豆10銭。展覧会2人分5銭。	
		28	法典論註上下終る。英文を以て主義とす。新島譲君は3、4日前死す。24日、晩古河勇君より聞く。	
			佛家の政談演舌は不認可なり。	
		29	「Wisdom and Mercy」No.1を作り、英文を作り主義を述べる。掛洋紙2銭。画紙2銭。黒紙1銭。	
		30	英文を少し作る。6時頃、予は独り考え実業も盛んになる又必要なるに金のみ使うて長々勉強	
			しめ未へ望みなきか。一層、哲学館に入り、来年8月、卒業し、よければ福沢の大学に入り止め	
			れば返る。又哲学館なれば金安く、佛友も出来、種々よし。福塾も大学に入る目的なりは、予に	
			望みなし。予は、これに入るは只一寸位置のみ得たりきなり。年限も凡そ5、6年必定。洋紙綴じ	
			5厘。四十七人義士見物5厘。風呂1銭。米2升5合25銭。席料18銭2厘。油、炭、薪代18銭5厘。	
		31	今朝は4時過ぎより寝られず。将来の方針のみ考え一考す。案出ずるは決め哲館に入るへから	
			ず。やはり福の大学を卒業すべし。今後、満4年は郷より資本出す約束。後2年は本山に仰ぐの	
			み。将来の目的についても父母有志へ対しても6年には充分卒業すべし。その為には予科にて	
			もよし、正科に入るべし、来月は、その決心。豊島と石田へ書面出す。	
			英文会月刊機関誌『Wisdom and Mearcy』(「智慧と慈悲」)Vol.1 No.1stを創刊する。	英文会機関誌
			1月分支出総計9円45銭。	
23	2	1	慶応義塾で入学試験を受ける。国民新聞1銭5厘。	
			午前、一寸塾に行く。藤堂哲に英文にて金借の葉書を出す。「安楽集」読み始める。古河、吉野君	
			来る。国民新聞1号を買う。豊島兄弟2人来る。晩、松島談話を聞きに行く。新島は、先月23日	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	2	1	午後3時20分死亡。晩、英作。	
		2	午前11時より散歩方々麻生、御所を経て藤堂に行く。聞けば、昨夜1時頃、沢井洵、上京し加藤	
			方に投宿の由し。午後5時頃、山中逸の所へ行き、藤堂哲と九段まで同道、勧工場を見て別れる。	
			Bean2銭。	
		3	朝、「国民の友」を買い新島譲の肖像を見る。8時塾に行き履歴書を出し予科2番の1へ入り書籍	
			「英国史」、「化学」、「ナショナル第4読本」、月謝を納め、10時より会話フアーロット女史の授業	
			業を受く。11時より漢籍。午後2時より英国史の輪読。3時より化学終わりて少年等の体操を見	
			て帰る。国民の友4銭5厘。月謝料1円75銭。社費15銭。書籍借料10銭。	
		4	10時より音読。午後2時より「簿記学」、初めてに付甚だわからず。3時より「化学」。吉野来る。	
		5	10時より塾に行く。書取り、漢籍。2時より英国史、化学終わり帰る。松島は家探しに神田へ行く。	
			簿記掛紙2銭。福沢塾の後方に富士山遥かに望み、実に立派立派。彼の如く秀でざる可らず。	
		6	「安東集」260頁に毘冨羅山とはヒマラヤ山ならん。又昨日読みたる中に猛虎等の多き所等は	
			皆印度の地の有様にして、これら世界と言えるなるべし。午前、音読、漢籍続「文章軌範」。	
			午後、簿記、化学を受ける。郵便2銭。作文掛紙2銭。風呂代1銭。	
		7	午前、書取と漢籍。午後、英国史と化学。吉野精順来る。松島静寿は未だ7時にも帰らず。米代1銭。	
		8	朝、松島静寿君は、神田屋の所へ移転す。当分は、この寺に居る。屋室3畳て50銭。実に寂しく	
			かわる。吉野君一寸来る。藤堂よりハガキ受く。古河勇の宿へ行く。席料20銭。諸入費53銭。	
			米4升代40銭。炭代一俵11銭。茶代3銭。油代6銭。	
		9	進化学を学ぶ。藤堂から葉書受け、返信する。郷里へ手紙を書く。1年予備、3年の大学如何。	⑪上48p
			日曜日休み。漬菜代1銭。醤油代4銭。	
		10	予学成就の上は、『仏教大学を設立し諸宗合同して南條君を校長に命じ文学科を置く。撰科を	
			置きて仏学専門となす。生徒は僧俗を選ばず。資本は、本山及び仏徒とす。』	
			午前8時から物理、会話、漢籍、簿記、化学の授業を受ける。晩、弓削、古河勇来たり。「経緯会」	経緯同盟会
			のことを種々話し、古河勇も近々、来るべく言いし、自炊大いに賛成する。藤堂から葉書受く。	
			樫炭代20銭。鰹魚4銭る硯代7銭。墨代3銭。筆2本4銭。掛紙2銭4厘。掛洋紙代1銭5厘る	
		11	紀元節。藤堂哲より葉書受ける。沢井（後の高楠）帰京す。「安東集」終る。皇居を経て西依に行き	
			松島と話し、昼食を頂く。次に藤堂へ行き談す。大雪6時頃まで5、6寸降る。国民新聞など4銭。	
			改進3銭。切手3銭。菓子4銭。	
		12	朝、授業3時間あるも休み、藤堂の下宿に行く。藤堂君神田区猿楽町4番地松本逸方へ転宅す。	
		13	朝帰る。9時帰着。10時から代理のロイス氏音読。11時から漢書。午後は、簿記、化学を受く。	
			晩風呂1銭。稗田、安本秀人へ葉書を出す反省会費50銭を稗田へ渡す。羽書5銭。帳面代2銭。	
			黒大豆代4銭。	
		14	8時から物理、書取り、漢籍。午後2時から英国史、化学。豊島の所へ立寄る。晩、弓削、古河勇	
			来り。経緯会のこと種々談し、古河勇も近々来るべく言いし、自炊に大いに賛成す。	経緯同盟会
		15	弓削君来り共に梅原融の所へ行き3人で九段の階行社開業式に行く。松島の所で吉野に出逢う。	
			予は、晩食を藤堂の元でなす。8時に帰着す。黄粉3銭。昆布3銭。砂糖2銭。塩代1銭。	
		16	「玄義」終る。晩、勤行する。午後、三田を散歩する。稗田訓より今月の雑誌2部と葉書を受く。	
			今日は、父死亡の日なり。嗚呼、早く帰りて、母上を安心と楽、祖母上、兄上、初、楽させ喜ば	
			せたや。其他皆内外の人々を喜ばせ度きこそ小生の存念なり。黒豆4銭。餅代4銭。	
		17	朝、豊島の所へ行きダーウヰ氏の傳を読み大いに語る。11時から簿記。3時から化学を受ける。	
			一昨夜、又三田義塾にて廃娼演説議論ストライキあるを聞く。	
		18	大いに私立大教校を我が故郷に設立したとき存念起こる。所は薬師山の南なり。普通科、高等	
			科、別科等5名くらいの教員にしてよろし。午前11時から竹下・漢籍、ハロット休みなり。	
			学術を以て緯とし道法を以て線とす。午後2時から英国史、化学を受ける。古河勇来り、明日移転。	
		19	8時から物理、音読。今日は代理としてウイリアム君来る。日本語が上手い。4時からはサー・	③97p
			エドウイン・アーノルド令嬢と共に福沢先生等数名来塾。その時、サー・アーノルドは、我々に	
			空気を分解せば酸素と窒素となる。酸は炭素と化合して炭酸になりて用をなす。窒素、残りたる	
			ものは如何なる用をなすぞや。答えれば20円やると言えり。先生に問う。世界の一問題にして	
			只今では只酸り猛毒を防ぐ為のみと言えり。3時間半休業。演舌堂において長々と氏演舌せり。	
			予等は、Budahien or Christronity　写言の少し知れたるのみ通弁なき為了解せざりし。感じたる	
			は、国に英雄出て、世界の光をなす人、生まれば、その国の光栄たること例えば英にワット、	
			ミルトン、セキスピヤー等出て世界を利し既に欧米にフランクリン等の如し。古河勇、予の元に転	**古河龍源寺へ**
			宿せり。パン食古河勇に於いてなす。宿代19日より28日迄17銭。席料26銭5厘。	
			※能海と古河勇の共同生活を「木石書院」と名付る。この時の様子を古河が「自炊」と題し寄稿。	木石書院
			「自　炊」（『青年文学』明治25年3月掲載）古河　勇より一部分を抜粋。	
			（1）木石書院	
			豊岡町の龍源寺と云う。門前あり。北より流れ来りて直ちにまた西に折れる。東南角にあり、川	
			を隔てて廣尾、木村の疏屋、菩提樹に迷うを見るべし。門に入って本堂、左に傍うて小門を入れば	
			2屋あり。南に面して並び立つ。何れも6畳、3畳の2間ほどの家。小庖厨之に付き小雪隠（トイレ）	
			これに添付す。共に人に貸さんとして同寺住職の建てし者、もとより月々の小家賃で晩酌を快飲せ	
			んと欲するに過ぎず。天下の二大蟄龍が一春、突然として此処に和会し、或は叫び、その自炊の	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	2	19	大経験綸を実行して法門千歳の事を定むるあらんとは、余輩の自炊房は、実に、この長屋の西の	
			方なり。同宿の能海寛は、石峯居士と云う。「放浪の奇人、夙に遠大の希望を抱き、性朴直にして	
			義を好む。」嘗て余（古河）と西都（京都・普通教校）に同学せし者なり。余（古河）は、木国人（紀伊）。	
			彼（能海）は石州人（石見）此に於いて自炊房を名づけて「木石書院」と云う。	
		20	学問成就の暁には、仏教大学を設立する構想を持つ。	
			法典300片紙終る。9時からクライブ伝。10時から音読ロイド。11時から漢籍。午後2時から	
			英史。3時から化学。豊島と梅原来る。三田を回遊せり。	
		21	8時から物理。9時からクライブ。10時から音読、ウイリアム氏。11時から漢籍。2時から代数	
			始まる。3時から化学。スキントンの「英国史」を読む。米代20銭。	
		22	朝パン、昨夜もパン。9時から作文。予、痔の気あることを今日知る。昼過ぎから銀座を経て	
			両国橋を渡り深川、新橋を経て7時に帰着。終日パン食をなす。砂糖2銭。パン3銭。Bean1銭。	
		23	日曜日。43日ぶりに髪を摘む。晩パン。痔にて実に困る。風呂1銭。髪切3銭5厘。バン1銭5厘。	
		24	W・ウエストンから物理クライブ伝会話。ウエストンと会話を交わす。漢籍。英国史。勤惰表出る。	W.ウエストン
		25	物理クライブ音読（今日は、Frances という宣教師にて前に金の十字をかけ授業せり）。漢籍。	
			午後、豊島の所に一寸寄り、10銭受取る。代数、化学、弓削の所に寄り、化学書を借りる。	
			英作、エドウイン「亜細亜の宝珠」に付き考える。菓子代4銭。	
		26	物理クライフ伝音読（ウエストン君）この時間より火事あり、赤坂124、5戸焼ける。「漢書王命論」	
			甚だよし。英国史、化学（当る）。	
		27	物理クライブ音読。漢書にてありき。代数、化学の授業を受ける。Bean1銭。郵便2銭。	
		28	W・ウエストンから物理「クライブ伝」音読。英国ダービーシャー県の英字新聞を持ち来て授業する。	
			入費割分27銭。2月分支出総計6円48銭4厘。父謙信へ「信を先にして、学問を第二となす」と書簡	
			出す。『Wisdom and Mercy』No.2ndを書く。	英文会機関誌
23	3	1	『第5号　春秋の日記』を書き始める。5月31日まで。	⑬262p
			絵入自由新聞、時事新報、東京日日新聞、報知新聞、日本「讀賣、都、東西、湖江」	⑩82p
			予は本科を卒業して、外へ。斉は内へ、登はアドベンチャー。井上（円了）に斉のことを頼む。	⑩83p
		2	西依宅訪問、マコーリーのエッセイを購入希望67銭。英歴史、天文学、フランスガイドブックなど	
			購入44銭。購入本の予定「アジアの光」。洋帳2冊5銭。	
		3	Mrs.Sfallot.Mr,Takeshita 休講。風呂代1銭。Rice1銭。Two eggs　2銭。	
		4	Mr.Weston来る。雑誌「ユニテリアン」No.1(6銭)を読む。ノートブック3銭。インキ3銭5厘。パン1銭。	
		5	慶応義塾附近で火災あり。	
		6	慶応義塾休校。小遣5銭。器ブリキ1銭。油代6銭。	
		7	沢井(高楠順次郎)と会う。	後の高楠
		8	古河勇の「明治学院」を訪問する。バン2銭6厘。	
		9	風呂1銭。郵便2銭。	
		10	沢井(高楠順次郎)フランス船で欧州へ出発する。父から10円受取る。	
		11	慶応義塾で漢文・代数・歴史、Burkeの翻訳などの試験あり。京都より「反省会雑誌」届く。	
			パン2銭6厘。落す1銭。	
		12	英語教師の交替Mr.Hionyon,Mr.(Frea)Algebra。	
		13	郵便2銭。月謝2円。	
		14	ちり紙2銭。風呂1銭。郵便2銭。	
		15	代議政体8銭。砂糖2銭。藤本へ火事見舞20銭。図書館2銭。	
		16	Bean2銭。ノート書2銭。	
		17	岡本へ郵便2銭。斎へ郵便2銭。	
		18	のし代3銭。	
		20	下駄14銭。	
		21	名代餅6銭。	
		22	E.アーノルド卿を訪問するも来客の為、明日、午後3時に改めて訪問を約す。	
		23	麻布赤坂今井町41番地のE・アーノルド卿の自宅を訪問し英文の添削を受ける。来日時の横浜、	アーノルド卿
			鎌倉の様子、『英文雑誌』や4月にアーノルドが京都に行く事を聞く。（吉谷覚寿師から享受したこ	⑩84p
			とを伝える。）菓子類7銭。そば2銭4厘。風呂1銭3厘。	
		25	古河勇の勤める明治学院で開催された文学会へ行き、講演や音楽を聞く。	
		26	石油5合6銭。	
		27	英字新誌28～29号12銭。	
		29	状袋6銭。綴物5厘。洋紙1銭8厘。	
		30	2回目の訪問で、アーノルドから直筆の英詩を戴く。アーノルド宅周辺をスケッチする。	アーノルド卿
			英詩訳　〇諸悪莫作衆善奉行自浄吾意是諸佛教　Eduin Arnold。風呂1銭3厘。ホヤ2銭5厘。	⑩116p
		31	『Wisdom and Mercy』No.3rdを書く。3月分支出総計6円50銭5厘。	英文会機関誌
			帰郷せば田舎にて、漢籍、仏学、英学、普通学、作文、東脩壱円。大教場、小学生100人。	⑩89p
			普通学生（高等小学100人、高中学100人）、仏学生50人の学校設立構想を描く。	
			Wisdom and Mecy『智恵と慈悲』。　智恵には、世智と出世智の2種ある。	⑩103p
			【英文会員】 平山、竹下、綿谷、垣山、清谷、梅田、笠原、橘、宮、川口、堀、上田、荒木、後藤、	英文会員

年	月	日	事　　項	参　　考
			吉田、加藤、島津、久富、橋本、能海。凡て4級生20名。	
			桑門至道より手紙。哲学館に行くこと。差出し場所不明「通万寿寺西へ入17番山陰道詰所」からの手紙	⑩103p
23	4	8	仏陀誕生日。	
		10	アフリカ絵を見て、単独で行きたいと思った。	
		12	父から15円(内10円は叔母出し)受取る。	
		13	午後、南豊島郡張谷村赤十字社病院前から西へ2里散歩する。茶園、麦畑、菜の花畑、水車を見る。	⑩87p
		14	『反省会雑誌』No.29着く。TheW＆Mの骨子を作る。	
		16	『Wisdom and Mercy』Vol.1 No.4で「宗教革命論」中西牛郎著を論説。「二河白道の比喩」を英文翻訳。	英文会機関誌
			日本の布教、世界の布教（英文会）について書く。	⑩93p
		19	午前8時に水産館、美術館、農商地図館、器械館などに入り、午後3時に出る。	
		20	駒込、哲学館、大学を歩く。庭、池、草花、楓など綺麗。	
		21	『萬国史』(スキントン氏)を読む。	⑪上63p
		22	歌集「梅古木集」を作る。※ アーノルド卿・令嬢との交流で影響を受けた内容を詠んだ歌集。	⑭412p
		26	沢井(高楠順次郎)4月19日にロンドン着。	高楠渡航
		28	宝典終了650頁。	
		30	4月分経費6円21銭。	
			【断つべきもの】 ① 名誉心、② 女色心。 増殖すべきこと① 智恵、② 慈悲、③ 道徳。	
			日本の布教は、郷国の僧侶を教化し、時々、巡回して布教し、叉郷村、近村、檀家の布教を充分	
			になすを以て英文会の日本の布教とす。	
			慶応義塾の教場の配置図を書く。	⑩94p
			E.C.SのPurposes(目的)を書く。	英文会⑩95p
			1. Jrans Cation	
			2. Corespondonce	
			3. Magabine or News	
			4. Fonrigne Cultors	
			5. Collage of 1,2,3, and 4.	
23	5	1	仏典翻訳を指導する学校を造りたいと考える。普通学、仏教、因果を否定するものではない。	
			『Wisdom and Mercy』Vol.1 No.5を書く。	英文機関誌
		2	Fallotsの授業に遅刻する。	
		3	『宗教革命』、『19世紀の大事件』を読む。	
		6	「化学後編」を学ぶ。	⑪上34p
		8	宝典700頁。	
		10	夕日に感動して、夕日のスケッチを書く。	
		13	Ojiyoshu 3rd before has finished,	
		17	運動会(障害競走、柵跳び、旗取競争、球拾いなど)	
		19	「六塾因中異塾録」とは、異類に塾する因と果とある。「異塾録」とは、原因(善・悪)果―無記なる	⑪上44p
			ものなり。	
		24	第一回目の会合、麻布一ノ橋で7名参加。※土曜会設立に繋がった会合となった。	東京・英文会
		31	5月分経費6円32銭6厘。	
23	6	1	三田寺町の西蓮寺(白山謙致)へ転宿する。桑門環と同宿する。※白山謙致と子安善義は慶応義塾生。	転居
			『Wisdom and Mercy』No.6 No.7。※常陸国稲田郷を訪ねる旅行記などを記す。	英文機関誌
			『第6号　春秋日録』を書き始める。9月30日まで。	日記
			※能海の転宿により、西連寺が土曜会の設立協議会場となる。	
		5	友人と組織仏教論を話し合う。	
		9	麹町行。	
		14	父から17円受取る。麹町行。	
		28	清谷寛之、桑門至道より書簡届く。	⑦261-265p
		30	6月分経費6円68銭8厘。	
	7	1	第一回衆議院議員総選挙。	
		6	「宝典」1,000頁終える、	
		9	西蓮寺へ南條氏来訪。	
		10	SS生雨山逸人より書簡届く。外国で仏教が広がっているニュースを得る。	⑦267-276p
		11	上田繁丸より書簡届く。	⑦277-281p
		15	「満もぼろし」の記録帳を購入する。この時、芝区三田西蓮寺所持主能海寛と記す。	
			旅行に付入費払、麦帽50銭、メリヤス40銭、カバン70銭、手帳15銭、〆1円75銭。	
		20	晩、三田にて草履（6銭）、レモン油（5銭）、砂糖（2銭）、晩8時より臥眠する。	
		21	朝、5時10分起床。30分出発。小山、増上寺の北側、露月町にてミルの「自由論」（45銭）、	東京東北近県紀行
			銀座、京橋を経て深川に渡り、千葉へ至る。	①21-73p
			本日の統計表　行程12里弱。内12里は歩行。内4里は人力車。路費23銭5厘。	
		22	午前5時30分発足。5里の山道を通り、佐倉の郷に出る。成田山を経て飯田屋に投宿する。	
			休憩後、不動尊参詣する。本日の統計表　行程8里余。皆歩行。路費32銭5厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
23	7	23	再び不動尊に参詣する。滑川を経て高岡村に休憩する。築波山を遥かに望み、遂に佐原町に着く。	
			銚子へ下る川汽船、銚子丸に乗込む。汽船の甲板にて尺八を吹く。１１時銚子港へ着く。宿に投宿す。	
			本日の統計表　行程19里。内9里歩行。内10里は汽船。路費73銭5厘。	
		24	雨降りで大いに困る。市中を徘徊す。鹿島神社まで10里、鹿取は3里程度。鹿島泊。	
			本日の統計表　行程10里。皆歩行。路費13銭5厘。	
		25	朝、鹿取神社参詣す。鎌田町に午後6時着、浜の屋へ投宿す。	
			本日の統計表　行程8里余。皆歩行。路費22銭5厘。	
		26	朝、6時発して諏訪に出る。茨城町上市へ6時着き投宿す。	
			本日の統計表　行程8里。皆歩行。路費28銭3厘。	
		27	笠間を経て稲田の郷へ到着す。	
			本日の統計表　行程8里。皆歩行。路費28銭3厘。皆歩行。路費27銭。	
		28	大覚寺、大塚にて各休息後、柿岡に出る。筑波着。	
			本日の統計表　里程18里。内8里歩行。内10里記者。路費66銭8厘。	
		29	荷物は宿に預け置き築波山を眺め、天の浮橋を渡り、9時30分、列車で宇都宮に着く。	
			本日の統計表　里程13里。内7里記者。内2里馬車。内4里歩行。路定1円32銭4厘。	
		30	5時25分の一番汽車に乗って今市に着く。馬車にて8時日光に着く。地図を買い求める。	
			三佛堂を拝見する。東照宮に至る。中善寺湖岸ホテル泊。	
			本日の統計表　里程9里。皆歩行。路費59銭。	
		31	朝早く、花厳の瀧に行く。湯瀧を経て湯元に着し、茶屋て入浴す。下総を去り上野国に移る。	
			白根山を経て白川村に出る。7月分経費11円71銭9厘。	
			本日の統計表　里程8里。皆歩行。路費31銭。	
23	8	1	赤根山を経て、午後7時沼田町へ着す。	
			本日の統計表　里程8里。皆歩行。路費31銭。	
		2	長坂に着き休息す。本街道に出て、4時頃、沼田温泉宿屋に着き、入浴、散歩す。	
			本日の統計表　里程8里。内3里馬車。内5里歩行。路費54銭。	
		3	高崎に着く。浅間山を見て、赤羽に着く。4時、列車にて目黒停車場、5時、西蓮寺に着す。	帰宅
			本日の統計表　里程30里。内6里半歩行。内23里半記者。路費92銭5厘。総経費7円31銭5厘。	
		11	友人と逢い旅行の話をする。	
		13	皆乗より書簡届く。	⑦283-285p
		14	夏期旅行日記『東北紀行』草稿を著す。	
		15	斉入りより書簡届く。	⑦287-299p
		22	反省会へ手紙を出す。	
		24	法言、謙信より書簡届く。	⑦301-307p
		25	父から15円受取る。	
		31	8月分経費5円91銭2厘。山中逸より書簡届く。	⑦317-320p
23	9	10	法言より書簡届く。	⑦321-323p
		14	I met to Nanjio.	
		19	トルコ軍艦遭難。	
		26	仏書を英語に訳すこと。海外布教すること。	
		28	宝典下巻本読了する。	
		30	9月分経費6円26銭3厘。	
23	10	1	上田繁丸より書簡届く。	⑦325-327p
		8	岡本重昌より書簡届く。	⑦329-334p
		14	『Wisdm and Mercy』No.Ⅰを書く。※創刊3年目とE.S.Sの将来を記述。	英文機関誌
		19	清祥寺にて仏教講演会が行われた。講演者は、大内精諭、大内青巒、巽青次郎、佐治実然。	
			「比較宗教の有用点」、「ユニテリアン宗教」など。	
		25	慶応義塾において「土曜会」を組織した。会員数約30名各宗派の僧侶が集まり、運動、スピーチ、	土曜会
			作文等行う。	
		31	10月分経費5円74銭2厘。	
23	11	5	「英語夜学会」へ入会する。入会金1円。授業料1円。校費10銭。	
		6	能海実利(登)より書簡届く。	⑦335-337p
		7	父から10円受取る。	
		9	謙信より書簡届く。住職検査の件。	⑧上35
		12	「普通教校人士」が印刷・発行される。	普通教校人士
		14	飯倉通りの英語夜学会に行き、ロビンソンクルーソの講義を受けた。	
			『Wisdm and Mercy』No.Ⅱを書く。	英文機関誌
		15	桑門志道(函館・本山寺務出張所)より書簡届く。長男環・同宿の礼状が届く。	⑦339-341p
		25	斉入より書簡届く。	⑦351-354p
		30	11月分経費8円84銭4厘。	
23	12	14	『Wisdm and Mercy』No.Ⅲを書く。※「水交社記事」の会員購読を開始する。	英文機関誌
		21	父から書簡と10円受取る。	⑦343-347p

年	月	日	事　　項	参　　考
23	12	31	12月分経費7円92銭9厘。	
			12月の試験を受け落第せば1月より何処にか1年間、教員をなし、又24年12月に来て、試験を受く	
			故に学問の予備は此12月迄なり。	
			※僧侶としての勉強の証が必要という檀家の切望により慶應義塾を退学する。	慶応義塾を退学
24	1	1	新年の歌を詠む。朝、白山帰る。本田、桑門、予の3人当宿にて雑炊を食す。真宗法典、和文の	春秋日録第9号
			部を始める。三経文教一部を読み終わる。後藤弥九郎君来訪。本年は、純潔ピュウリタンたれ。	③115-136p
			品行方正たれ。道徳人を感服せしむるに至れ。学問学理大栄進たれ。故に勉強怠る勿れ精神	
			正確たれ。気性活発たり。病疾近寄る勿れ。社界者たれ。高僧たれ。一大聖人たれ。文章家	
			たれ。文学家たれ。記して歳暮の良果を期す。午後、白山氏へ年礼に参る。4人で芝公園を	
			散歩する。他の3人は寄席に行く。桑門、土田、石田、3氏へ葉書を出す。岡本君へ書面出す。	
			『Economr Ⅱ』を書き始める。	
		2	「校異三経文類」一部を読み終る。吉野君を訪問する。午後、東洋の地図を開き大いに感考する。	
		3	午後、弓削正雄、中山逸、梅原融、大内を訪問する。白山氏来訪参河に行くと聞く。「石州第一号」	
			を書き始める。松島静寿、安本円海、稗田雪崖君へ葉書を出す。上田麦生より葉書着く。	
		4	今日、「真像銘文」終る。昨年、法典漢文の部を読みしは、御勤めのかわり仏学の為。又初巻読み	
			たれども外に漢文を読むの熟練習の為も幾分あり。他に和文章を書く練習の為も幾分かある。	
		5	本郷の山中逸君を訪問する。共に藤堂哲へ行く。渋谷君来り人物論を議論す。夜、藤堂で宿す。	
		6	山中逸と共に下宿家を探す。駒込を回り、追分町哲学館に約束し芝宅へ帰る。白山謙致氏を訪問し	
			本田に逢い移転を知らす。午後4時頃より荷物を仕舞し、5時に芝三田を発って本郷に7時着す。	
		7	郷里の父・兄へ書面、専光寺、最勝寺、桑門至道、日本新聞社へ葉書を出す。藤堂哲、山中逸を	
			訪問するもいずれも風邪。予も北向きの室なる為と強風の為にて軽風邪をひく。	
		8	昨夕6時に薬王丸を飲み直ちに就寝し、今日の正午まで寝る。午後、散歩して葛、砂糖を求め	
			呑む。せきが出て真齢丹を服す。朝飯を控えたので大いに体弱る。	
		9	午後、藤堂哲を訪問。彼も風邪なり。鯛の刺身を食し、梨、ミカンを食す。久しぶりの病気なり。	
		10	風邪にて終日床中にて送光す実に苦しい。	
		11	午後、藤堂哲を訪問する。古河勇、秦敏之君に逢い談する。	
		12	無為在宅。咳強く困難せり。火事あり騒ぐ。	
		13	咳コンコンに送光するのみ。午後、上野に散歩。妹すえ（末子）午後11時死亡せり。	
		14	天気良しされど風強く寒い。午後は床中にて送日す。	
		15	午前、哲学館に至り入館金月謝を収む。午後、藤堂、山中逸を訪問。山中は脚気で足立たずという。	哲学館へ編入
			日本新聞社へ葉書出す。「未灯抄」終る。	
		16	午後、哲学館の授業を受ける。井上哲二郎、沢柳の両氏なり。	⑪上94p
		17	支那学一時間受ける。風邪未だ全快には至らず。10有余日に至るインフルエンザなり。	
		18	午前入湯。11日目なり。水野斉に書面出す。午後、藤堂哲を訪問する。「御消息集」終る。	
		19	印度学あり。進化論(石川氏口述)を聞く。「純正哲学」井上円了氏の試験問題、(1)支那哲学と	⑪上138.145p
			印度哲学との別如何。(2)希臘文明の起源如何。など5問が提示された。「人類学」を聴講。	
		20	教員皆風邪の為休校。国会議事堂消失す。	
		21	棚橋氏の「論理学」2時間あり。「口傳抄」終る。「仏教論評」を作る。	⑫29p.146
		22	予が経歴に付き考える処ありたり。南條氏の特言学講義を聞く。郷里へ葉書を出す。	
			執特抄終る。帰国の念交々至る。	
		23	「願々抄」、「最要抄」、「本願抄」を読み終える。2時間授業。晩、藤堂を訪問し反省会雑誌を読む。	
		24	午前、山中逸を訪問す。帰り道に下谷区長岡本の葬式を見る。寄送者数千人にて盛大なり。	
		25	クルーソー傳終る。＊斉より書面を受ける。学問方針のことあり。哀れむべし、妹のすえ13日に	③25p
			死亡せりとのこと。嗚呼なんと悲しく哀れ、果かなきものぞ。南無阿弥陀佛、この報の悲しみいわ	
			んことなし。言語の述べつくす能はず。藤堂哲、秦敏之君来遊せり。囲碁をする。	
		26	午前、山中逸を訪問する。入学証を哲学館へ出す。手控録を作る。「新化論」1時間受ける。	⑪上132.134p
		27	午前、山中逸を訪問する。改邪抄終る。晩、秦敏之君来り囲碁をする。『日本語学』を読む。	⑪上99p
		28	掛紙を落とし墨池より墨こぼし掛紙を汚し、時間に遅れ3時間のみ授業を受ける。父より10円受取る。	
		29	浄瑠璃は「和文範」妙味あり。授業皆無。午後、山中を訪問、共に牛込の猪ノ口に至る。	
		30	昨夜、猪ノ口に宿す。午後、帰宿す。留守中に桑門、藤堂、秦君来るという。国より為替着く。	
			午後、芝三田へ行く。白山を訪し、桑門環へ宿す。白山本円、三河に行けり。	
		31	11時発にて帰る。議事堂の消失跡を見る。ストーブ、チムニーの並立を見る。憐れむべし。	
			午後、授業1時間。「歎異抄」終る。月費9円42銭4厘。	
		※	ヘッケル著『動物学』を読む。	
24	2	1	日曜日。散髪す。「安心決定抄」を読む。午後、秦、藤堂君来遊、囲碁す。	
		2	午前、為替を受取りに行く。平尾君に逢う。2時間授業。藤堂来る。郷里へ書面出す。「人類学」聴講。	
		3	授業1時間、「日本語学」松本氏。斉へ「講話集」、「回覧始末」を送る。夜、藤堂を訪問。「倭文範」	⑪上104p
			を読む。＊斉入より書簡届く。	⑦363-365p
		4	11時に本田君来り、昼過ぎ帰る。授業3時間。早就寝する。	
		5	授業皆無。藤堂哲来遊。「持名抄」を読む。	
		6	授業3時間。井上哲二郎の講義。	

年	月	日	事　　項	参　　考
24	2	7	人類学ありたるも知らずたる欠席す。1時間授業を受ける。夜、秦君来遊。「無聞書」一部終る。	
		8	「仏教話論」法経。昼過ぎ本郷、下谷、神田、麹町、牛込、小石川を散歩する。反省会へ書面。	
			「真要抄」始める。本の方終る。＊松島静寿より書簡届く。	⑦367-373p
		9	午前、山中逸より葉書着く。宿を訪問する。藤堂と共に正午まで談す。午後、藤堂来り共に散歩す。	
			授業2時間。松島君より書面着く。	
		10	入湯。授業1時間。机の上の水墨も凍るほどの寒さなり。藤堂君を訪問する。	
		11	紀元節。午後、古河勇、山中逸を訪問するも留守。藤堂哲を訪問中に山中来る。	
		12	藤堂哲と共に谷中近方を2時間散歩す。授業梵学2時間。反省雑誌3部着く。	
		13	授業3時間。井上哲二郎の講義。入湯。すえ初月忌に当り読経する。晩、山中来談。	
		14	昨日「本懐集」終る。今「破邪顕正抄」始める。授業3時間。夕、山中を訪問。	
		15	午前、藤堂哲、古河勇、予の3人、山中を訪問。彼は熱田温泉へ行く。	
		16	親の命日。業2時より1時間訳。晩、桑門に至る.。寮を訪うも留守。蕎麦をランプにて食う。	
		17	業なく欠席す。「破邪顕正抄」終る。兄へ書面出す。山中より葉書着く。活用言尾辞変化要覧を写す。	
		18	一時間業。監事へ各々不服を称え業少なきを言う。	
		19	山中逸へ葉書出す。祖母よりは書き着く。午後、藤堂哲来り、碁を打ちたる。業に欠席す。	
		20	広島別院に葉書差し出す。清谷君へ書面出す。業2時間。午後、藤堂に行きトランプに5時まで	
			送る。不勉強驚くに堪えたり。	
		21	業1時間。後の1は欠。藤堂哲に行く。本綴じをする。＊山中逸より書簡届く。	⑦375-379p
		22	山中へ反省雑誌を送る。藤堂哲、古河勇来る。晩、秦千代丸君来遊碁を打つ。	
		23	国へ書面出す。業3時間。「社界学」辰巳氏より学ぶ。	
		24	近頃になく強風。予の部屋もゴミ入り家動く。業3時間、「倫理学」を学ぶ。夕、『法苑樹林』の綴	⑪上116p
			じたるを取りに行く。	
		25	藤堂来り共に出立、小石川にて古河勇君と出会う。音羽の近傍に行き、三条公の葬儀に出会う。	
		26	国へ日本新聞を送る。南條氏、業2時間。春秋夢の巻。岡本重昌君に書面出す。「助働言」を記す。	
		27	業3時間。下駄を盗られ、晩は雨に逢い、悪日なり。昨日までに歩船抄終る。報恩記始まる。	
		28	報恩記終る。業3時間。夜、藤堂を訪問し蕎麦を食す。松島静寿より書簡届く。	⑦389-396p
			2月分経費7円13銭5厘。	
24	3	6	父より書簡と15円受取る。法言よりの書状も同封。	⑦381-387p
		31	3月分経費7円8銭8厘。	
24	4	10	松島静寿より書簡届く。	⑦397-399p
		12	小金井小舟氏を訪問する。	
		21	皆乗より書簡届く。	⑦401-404p
		22	松島静寿より書簡届く。	⑦405p
		28	父より書簡と15円受取る。	
		30	4月分経費6円35銭1厘。	
24	5	31	5月分経費7円35銭9厘。	
24	6	2	斉入より書簡届く。	⑦411-416p
		7	津田村専龍寺にて開講の「大経和讃聞講記」を記述する。	
		30	6月分消す日6円70銭7厘。	
24	7	1	哲学館普通科を修了する。	普通科修了
		17	父より15円50銭受取る。	
		22	「東京南西近県紀行」に出かける。	夏期旅行出立
			東京⇒上総国・安房国⇒相模国・伊豆国⇒駿河国⇒甲斐国⇒武蔵国のコースを紀行。	⑬391-394p
		23	watashiroot4銭。Stiam hoat30銭。蒸気船で南房総へ着く。	
		24	hotel　19銭。日蓮上人の生誕地・南房総に滞在して、4種類の水練を会得する。	
		31	8日間の宿代2円29銭6厘。7月分経費7円51銭8厘。	
24	8	1	南房総滞在。	
		6	6日間の宿代1円27銭。Cake2銭。Steamboar32銭。hand carr10銭。	
			蒸気船で館山から大島経由で熱海へ。	
		7	hotel　20銭。熱海。exhibition5銭。	
		8	hotel　18銭。	
		9	hotel　18銭。	
		10	hotel　16銭。身延山(1,153m)巡拝。	
		11	hotel　18銭。	
		12	hotel　13銭。富士山へ登山。	
		13	hotel　26銭。富士山(3,776m)登頂。山頂で尺八を吹き歌を詠む。Mount map 2銭(富士山の木版刷)。	
			waraji3銭。Map2銭。	
			富上口月　夏　石峰	⑩116P
			富士の嶺に　去りなき月を　見る人の　ふく笛の音も　いまは絶えなる	
			分け入れし　人の背戸な里　山桜	
			やがて死ぬ　景色は見へぬ　蝉の声	

年	月	日	事　　項	参　　考
			無き人の　小袖を今や　土用ぼし	
			夏痩と　人に答へて　涙かな	
			秋の夜は　かがひものしは　まんまるな月　見ぬ人のこころかな	
			ふけてまてども　来ぬ人の　おとづる　ものは年ばか里	
			数ふる　ゆびのねつなきつ　わしやてらされて　居るわいな	
24	8	14	hotel　15銭。	
		15	hotel　15銭。浅間神社。Map1銭5厘(浅間神社の木版刷)。	
		16	hotel　16銭。	
		17	hotel　18銭。八王子泊。	
		18	hotel　20銭。朝霞を経て帰宅す。	帰宅
		31	8月分経費11円85銭6厘。「印度学因明」を聴講する。	
24	9	1	北条太洋君来訪。囲碁、花合せ等10時まで語る。村上氏の「天台　因明」が始まる。	春秋日記
		2	先月16日は、予が亡父法師の7回目祥月命日にて実に大切の忌日。精進に当日を守るべき処心	③139
			に思うも如何にせん旅行の途次にあり、不得止清日に送光することを得さりしは実に遺憾至り由て、	
			本日、暫に忌日の為、朝、大経上巻、午前の内「大経」下巻を音読せり。	
		3	「経巻観□□」を読む。	
		4	上野を散歩する。	
		5	ニコライ堂当たりを散歩する。	
		6	午前、図書館。午後、花田等と家屋を尋ねる。	
		7	近方を散歩する。馬場あたり迄。	
		8	夕方より明日にかけて大雨降る。	
		9	夕、北条太洋君の処に散歩せり。10時過ぎ帰る。予風邪に罹る。	
		10	夕、花田の処に至り10時過ぎ帰る。風あり強し。風邪に付き終日馬鹿に暮らす。	
		11	風あり強し。	
		12	風邪回復せず。縁日、散歩する。途中、秦君と逢い共に帰り、反省会のことを談す。	
		13	「国民の友」33号。夕、為替着く。有難し候。2時過ぎまで眠られず。＊父より書簡と14円受取る。	⑦417-425p
		14	午前、為替を受取り、図書館へ行く。経世新報社へ葉書を出す。	
		15	「経世新報」の購読を始める。哲学館へ行き講義録を選び帰る。藤堂へ葉書を出す。入浴す。	
		16	業始まる。但し、井上の演説のみ。えらい本気になり勉強せざるへからず。	
		17	授業始まる。旧8月15日、満月夜、湯島辺を散歩す。	
		18	□田君一寸来る。勉強は仕度するものはなし。大に困る。	
		19	土曜日。□田君夕、来遊せり。	
		20	休日。追分祭礼。根津神社の祭礼、出しども多し。	
		21	岡本氏千島行きの談話あり有益爽快てある。根津神社に参詣す。	
		22	井上哲次郎講義始まる。秦君来遊せり。	
		23	春季祭。岡本重昌より書簡届く。	⑦427-433p
		24	「東京西南近県紀行」を書き始める。	
		27	「東京西南近県紀行」を書き終える。	
		30	9月分経費6円85銭。	
		※	9月より12月まで、「天台・因明」村上氏の講義を受ける。	⑪上182p
24	10	1	曇天時々小雨。花田君当宿へ転移す。夕、麹町元園丁に行き梵学のことを受付に頼む。羽書を以て	③150-158p
			師の講義始まるを報知すと約を得て九段、勧工場、本郷勧工場を巡視して8時帰宅す。反省会雑誌	
			を頼みて書面出す。	
		2	無然を考え性を知り世道に関することを案出す。学理的にあらずして実際的なり。理論至極し安心	
			立命を得る理真の信仰心からの宗教及び哲学なり。処世は此安心の上にあり。	
		3	菅君より羽書着す。根岸辺を散歩して図書館に至る。仏教事情等を読む。今晩、外神田の福田屋	
			にて哲学研究会の茶話会に至る。毎月開会等を議決し、委員の一人となる。小田君と同道大いに	
			団結の乏しきを慨したり。この時晴天。諸星寂なり。	
		4	斬髪す。午後、日暮里村王子より秋景黄稲の美術を回り巣鴨に灘不動を通りて野外遠足をせり。	
			岩崎の広大綺麗な別荘に行き智徳研修会のことを案出せり。夜、反省会雑誌6冊着。石田氏より	
			書面着く。	
		5	夕景、佐竹氏を龍岡楼に訪問す。兼一君の病気見舞いたり。6月下旬より滞在なり。是より親密を	
			得ば不幸中の幸。岡本氏とも斗八郎君病気より親密となる。予は幸に無病幸哉。	
		6	哲学研究会(第150号)第一期会員となる。夕、講義録の綴じを持ち行き病院に寄るも面会せず。	
			毎夜談話をなす。	
		7	午後、佐竹兼市君を見舞就眠中なり。其顔更に放つ状なり。青白く未だ掌を見ざるものの如し。母	
			氏に逢い談聞して帰る。製本悪しき為に花田、中山に馬鹿にせられ立腹。近年に無き程に甚だし	
			く、自ら頑乞を自頭に加え涙将に出んとす。直ちに、再製を命じに出立す。車夫乗れ乗れと言う。	
			実に面倒千万。人の荷に当たり手に傷を受け、実に不幸千萬。嗚呼、此口惜立腹いやしいと言う	
			ことは独り自らあらば如何ことなる予は他人と語るを実に欲せず腹のたちくやしき時はいかほどか。	
			「仏教国地図」着く。	

年	月	日	事　　項	参　　考
24	10	8	晴。夜風あり。そばす。岡本より羽書着す。入浴す。	
		9	物理、化学始まる。夜、隣室に昨夜以来大学の吉原にて頭を打たれ傷き白木綿にて包むを見受け	
			其相談をなす。法科生、昨日の数種の新聞に出て予も改新新聞で読むる長島雄二郎とが嗚呼、	
			不法のやっかい物学生なる哉。	
		10	午前、図書館行。今村、宇加治君に面会す。大野弘将来る。湯島辺を散歩す。桑門来たり、二人	
			共々宿す。晴天。	
		11	午後、予等3人及岩田氏を訪問。共に四人新堀辺谷中等に散歩す。夜、佐竹氏に訪い種々談話。	
			学校のこと、国のこと、東京のこと等。兼一君病状居たって重く、彼の苦しみを見れば、予が病発	
			する程なりと言い心配せり。実に気の毒千万。ソバをよばれる。9時過ぎ帰宅。朝、入浴三人共。	
		12	只屑々談話通学す。夜、一寸桑門来る。内へと石田へ2通書面を出す。皆乗より羽書着く。	
		13	麹町より羽書着す。夜、囲碁す。	
		14	入浴す。島田講義あり。語句集始まる。石田喜三郎より書簡届く。	⑦435-442p
		15	午前、図書館。夕方、佐竹君を病院に見舞う。日光図幅を見る。欧州の形勢動く。	
		16	夜、宇加治を訪うも留守。御茶ノ水橋を始めて渡る。新立派なり。登へ「日本歴史」を送る。快晴。	
		17	新嘗祭休業。午後、麹町南條師宅を訪う。九段にて加藤忠松くんに逢う。麻布菅君を訪うも留守。	
			桑門も留守。由って弥生館に佐治及び原恒山の演説を聞く。桑門で夕食し、菅君を訪い梅原君、	
			中山君は塾のビワ会に行く。予と菅君と十番寄せ怪談を聞き、10時過ぎ菅君方に帰り宿す。	
		18	共に、桑門を訪い舟遊と決め大野を訪う。共に4人、品川より和船にて砲台辺に至る。干満潮共	
			に困難なり。7時頃、寄港。桑宅に於いてトランプ、ソバ等にて10時頃臥床。	
		19	銀生青物市辺を回り10時過ぎ帰宅す。午後6時迄の業には大困り。登より羽書着く。	
		20	午前、麹町に行く。散克律始まる。別状なし。夜、談話過陀す。斉より羽書着く。	
		21	朝、佐竹氏より兼一君、昨日午後6時15分死去せらることを報知せらる。直ちに病院屍室を見舞う。	
			10時帰宅して入湯。零時又直ちに至る湯棺すみ、人整い、午後4時出棺。大学裏門より浅草本然寺	
			禅に至る。葬式終わり車七列11人にて上野公園前にて会席料理、夕響應にあづかる。8頃帰宅す。	
			駒六君に面会す。嗚呼、15才の青年、今や新堀火谷の中なり。葬祭の上野公園の前、人往来幾	
			千万皆一度はこの郷に入る夫れも僅か50年、70年の内のことのみ。人生何ぞ此漏きや。	
		22	朝、拂掃をなす。本月は一昨夜、小雨。毎日、晴天無雨哉。僧たるものは、40迄教員をなし、而して、	
			後、品位、生涯の話経の資足り教育等に経験、熟練なる世に執着落ち色情等の減したる人たるべし。	
		23	麹町弋。宇野君に逢う。	
		24	入浴。高島の2時間話しあり。夜、秦君来たり。外5、6名10時過ぎに至る迄遊芸す。	
		25	昨日、佐竹氏来訪せるも留守中なりき。由って朝、訪問す。駒六、熊五口等あり。面かいす。今朝	
			帰郷せられたり。鱗祥院にて松本、武士道の話し、石川木母の話の演説を防長する。夜、岩田氏	
			と予等3人と4人上野を散歩す。夜10時頃迄遊芸せり。	
		26	国へと斉へと羽書2通出す。夜、菅君来宿せり。西口寺報恩講へ参詣する。	
		27	麹町より羽書着。3人と菅君と神泉亭の菊人形を見る。上野勘工場を散歩して帰る。夜、雨降る。	
			夜、岩田君来遊せり。	
		28	雨天少風あり。朝、大地震ゆる。家大に震る。	
		29	古河勇君来訪あり、談笑せり。昨日の地震にて美濃、尾張、大阪辺、数千の死傷者が出る。	
		30	麹町行。今朝、3時半頃、近火あり。桑門帰尾す。北条太洋君来訪す。	
		31	岩田氏ら一寸訪ねる。岩田氏来訪囲碁送夜す。10月分経費7円72銭2厘。	
24	11	6	久尾重哲より書簡届く。	⑦443-445p
		9	父より書簡と15円受取る。	⑦447-450p
		30	11月分経費12円44銭。	
24	12	11	藤堂哲より書簡届く。	⑦451-454p
		31	12月分経費8円。	
25	1	1	『Economy　Ⅲ』を書き始める。『Note.4』	
			日出山の句 「やまのはに　かくれる雲も　はれそめて　いつるあさひの　かけのさやける」	
		13	父より書簡と15円受取る。	⑦457-461p
		15	謙信より書簡届く。	⑧上61-65p
		18	「ヒューム哲学」柳沢氏を聴講する。	⑪上363p
		24	「ヒューム哲学」柳沢氏を聴講する。	
		31	1月分経費8円58銭。	
25	2	2	「支那学」(易)を聴講。	
		28	2月分経費6円39銭。	
		29	父より書簡と20円受取る。	⑧45-49p
25	3	1	本典信巻を読み始める。麹町行き。哲学館へ月謝を納める。	春秋日記③162p
			本日より大改心。万事白明清潔鋭敏晩強節倹義理実行信心進考退案見聞博深高経験万事注意	
			肝要膽練思想人情視察。天下経綸宗教を以ては天下の壬申をして安堵せしめ気膽を以ては海陸	
			山河国土社界を驚醒せん。これ予が生涯の希望と志願也。麦生君都文館入学。大野君来遊せり。	
		2	不動と弥陀如来の二尊を信奉する。予が一生も又この道を行い、この志願を説き、教えるにあり。	③163p
			教育史を調べる。哲学館で島田均一博士の講義あり。夜、高見君を訪ね名士の逸話等話しあり。	

年	月	日	事　　項	参　　考
25	3	3	edaaqw　午前、脳図を描く。午後1時間あり、本山君の室に至り10時迄囲碁。福岡人士に面す。	
		4	麹町行き。寺田福寿の寺にて小栗栖香頂の説教を拝聴。山田長政の伝記を求める。	
		5	午前、宮田君下へ転室する。午後は哲学館休業。金の困難去るも社交の出費が困難。	
			寺田福寿の寺にて小栗栖香頂の説教を聞く。	
		6	図書館行き。大塩平八郎の伝記を読む。午後、郷友会へ出席し、12、3人と懇談する。	
		7	佐々木、大野君来遊せり。本郷で大火あり。国より法話のことで葉書着く。	
		8	麹町行き。今日より井上円了の授業が始まる。巣鴨辺大火あり。ランプのホヤを壊す。	
		9	手帳綴じを行う。授業2時間。高見君天然痘に罹る。夜、前田の処で遊ぶ。	
		10	「ありの満んま雲枕」へ歌を書く。授業5時間。	
		11	雪2寸ばかり降り麹町行きを休む。井上円了氏の北海道講演巡回の話を聞く。	
		12	「神皇正統記」を読む。高見君を見舞う。大野君来談せり。	
		13	図書館行き。田中鶴吉傳を読む。菅君来遊、宿泊する。品川大臣内務を去る。	
		14	朝、菅君と上野を散歩する。済世学社の運動会を見る。天然痘の流行止まず。	
		15	麹町行き。藤堂に葉書を出す。	
		16	図書館行き。「出世鏡田中鶴吉傳」を読む。「雲井龍雄傳かこも読む。夜、大野君を訪ねる。	
		17	前年の英文を読み返し、目的の英文に冷担なるを知る。来月8日に英文雑誌を企画。	
			晩、大野君来遊。生芋焼、ソバ餅腹ふとくせり。大野君と一寸英文会の事を話す。	
		18	麹町行き。英文会について考え作文おも少し名芹。昨日は良く考えて少しあやぶみたれども今日は	
			まだはずむことになれり。仏教徒の全面を汚しはせぬかと思へども又尓もあらずと考えたり。この業	
			の如き作文拙きも志も高く目的もよく、執心もあり不得手のもの故仕様もなきこと(作文)又仏教徒中	
			にても主に青年のものの意味にせばさほど人もふしることなかるべし。夜床につくも眠られぬ。	
		19	俵・木村・大野君を訪ねるも留守。英文会のことひと時も忘れる事なし。桑門来遊、高見へ行く。	
			駿河台の妖怪の話を聞く。菅君より羽書届く。8時頃桑門来る。久しぶり也。高見に至り談話する。	
		20	大野・桑門・予と3人で神田を回り、三省堂で英文印刷を依頼するも撥ね付けられ落胆し、白山に	
			相談に行くこともせず、九段を回り実に不愉快なりき。秋季皇礼祭と日にちが重なり、数日も英誌上	
			に差し支えたり。	
			※23年から取り組んだ「二河白道の比喩」の英訳を三省堂で英文印刷を依頼したもの。	
		21	午後、授業の暇に麦生を訪問する。菅君より葉書着く。	
		22	麹町行き。白山君に英文会のことを相談し賛成を得る。南條氏へ葉書を出す。地学会へ行く。	
		23	篠原君の調べで、出版条例を聞く。秦君に英文会のことを話すも賛意を得られず落胆。	
			今日、宣教会、文学寮、内学院大学寮、高中、尋中へ英文会の件で書面を出す。4月8日に	英文会
			新仏教徒が誕生することを祈る。※釈尊降誕会に合わせたいと希望した。	
		24	頭痛で困る。授業3時間で早引きする。一粒金丹を4年ぶりに呑む。	
		25	今日は、スッカリ病いよし。麹町に行き白山、子安君にも話す。南條先生は名古屋へ出発。	
		26	＊藤堂より書面、荷物着く。井上先生に相談するも金の為に付き危ぶむ。秦、岩田君来遊。	⑦463-467p
		27	大強風降りで終日、寝て暮らす。	
		28	大野君を訪問。授業無し。リュウマチの様に体の全てが痛く、死するのではと遺言をも考える。	
		29	麹町へ行くことを忘れる。ベタレ雪一寸余も降る。哲学館休校。	
		30	終日、気分悪しきため授業欠席。	
		31	大野来遊。共に高見君を見舞う。4人で上野根岸を散歩する。子安、白山へ葉書を出す。	
			3月分経費8円12銭7厘。	
25	4	1	本山君転宿。学校休業一週間。麹町行を欠席する。	春秋日記③176p
		2	松谷氏来遊、囲碁する。吉野鉄太郎来る。晩、入湯。高見に寄り談話。夕食を頂く。10時に帰宅。	
		3	弁当持って大野と出掛ける時岩田来遊。共に小石宿に行き囲碁する。中食に3人で上野園遊会見物、	
			中央会堂にてカクラン氏の「スパーゼン伝」を聞く。北条氏来遊B＆Fして、夜、大野宿で一寸遊び帰る。	
		4	午後、囲碁で日を送り、午後、5人共に出て、両国、神田ステーションを散歩。晩、北条来談。	
		5	午前、麹町行。文典100頁。午後、岩田君来談、歌を歌い談す。雑誌の綴じ4冊出来。晩、禁酒に付	
			少談。女将さんと談話。この家賃13円。	
		6	橘大安君降誕会の話の為来る。3時頃入浴、直ちに岩田を訪ね囲碁10番。夜12時に帰る。	
		7	朝発して、神田、麹町、飯倉を経て芝の桑門に至り、白山を訪ね桑門と共に弥生館で油絵、十二支	
			等の画を見る。菅君に寄り、本通りを経て6時に帰る。晩、高見君話に来て、芳の、岩田も来る。	
		8	釈尊降誕会の聖日。麹町行。今日より、午前8時半より始め、正午に帰る。一休みして、神田斯文	降誕会
			学会に於いて降誕会に行く。行動の聴者、寺田福寿。大内青巒、島地黙雷の3演説あり、いずれも、	
			感動せしめ愉快を与えるは満足の至り。紺屋、三田熟に於いても演説と薩摩琵琶等あり盛会。	
			4時半帰る。前日、京都より帰り種々京の有様を聞く。高見を訪ね、幸田と共に3人で大野を訪ね、	
			上野の見張しにて大声で吟詠し、9時に帰る。桑門より羽書、国へ法話を送る。	
		9	桑門へ羽書を出す。午前入浴す。湯屋、昨日新築せり。岩田来遊せり。	
		10	神田猿楽町より出火、強風につれて神保町、錦町より日本橋に向けて数1,000戸焼失。	
			梅谷君下宿焼けて、古河勇の所に移る。	
		11	岡本重昌より書簡届く。昨日の楫4，700戸の全焼。70余戸半焼。19名死亡。この夜も火事あり。	⑦517-521p
		12	神田大火死人24人。又10日の晩、芝西久保500戸焼失。実に近頃火事多し。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			内にも芝合計1,000余戸の火事あり。哲学館3年生の試験は出来ず。	
			が慶応義塾演説館で行われる。	
25	4	13	図書館に行き、フィヂー島水路誌、八宗講要など読む。晩、麦生来り、蕎麦2杯、餅沢山食す。	
			今村、愛宕下宿火事で焼き出される。島本君も同様なる。	
		14	朝、上野で桜を見る。浅草公園を散歩、谷中に至る。業5時間、都文館。晩、高見を訪ね散歩する。	
			皆乗へ羽書を出す。	
		15	九段桜を見る。1、2日林。業5時間。晩、高見君、神崎君来談する。	
		16	「撰択集」を詠む。図書館へ行き地学雑報を詠む。人類学会雑誌にて、アイヌの研究を喜び、ホイト、	
			ノト、カミ、シャモ、アイヌ等の言語より彼等の宗教心まであり。皆乗へ羽書を出す。	
		17	日曜日。曇天。大野、高見、甲田ら4人で小石川伝通院から牛込仏仙掘まで歩き、イモと餅で中食す。	
			晩、高見を訪ね塩煎餅にて、岩田君も来遊。	
		18	朝、座禅40分間なす。井上円了の話あり、曰く「学問は人をして品位高尚になすにあり」。	
		19	業5時間。晩、上野辺より不忍が池辺を巡散歩する。	
		20	午前、神田焼け跡を巡見。臨済宗有志吟集館跡にて追悼柄あり、観念法門を詠む。午後、業無し。	
		21	気分甚だ悪し。午前就床。午後、業後、全生庵に荻野の講訳を聞く。	
		22	午前6時40分発、麹町行。白山謙致欠席。菅実丸より羽書。藤堂哲、菅実丸、白山謙致へ羽書を出す。	
		23	甲田と二人、谷中の全生庵で大禅の講義を聞く。大野加わり3人で予の宿に来る。岡本より羽書届く。	
		24	日曜日。午前、哲学研究会で演説あり、沢柳の教学、浜田健次郎の鉄道経済の論。加藤弘之の対等	
			条約交渉の演説。松谷、橘、金山と囲碁。夜、大野来る。宗教学につき大野、山中、予の3人で議論。	
		25	晩、古河、大野来遊。晩、そこらを散歩する。真宗館開館で人多く広し。夜店を回りて買える。	
		26	有心論を考える。業1時間、審美学。同道7人にて地学協会演説を聞く。	
		27	ロビンソン氏の話を読む。	
		28	業あり。北条太洋君来る。	
		29	「中央亜細亜地理」を調べる。	
		30	4月分経費8円10銭1厘。業無し囲碁す。	
25	5	1	日曜日。午後、浅草鵜遊館にて、石見国郷友懇親会に出席する。歴々の人に面す。講談、剣舞あり、	春秋日記③193p
			会者6、70人。同家で、出雲国懇親会もあり。止宿す。	
		2	朝、大野と共に帰る。大野と囲碁。晩まで在留。花田も加わる。	
		3	降雨止まず。山中逸転宿す。午後、花田と談話。北海道人類学地理の談をなす。	
		4	午前、図書館行。大野、桑門に出会う。上野散歩して帰る。午後、桑門来る。晩、佐野の部屋にて	
			囲碁す。山中下に宿す。	
		5	午前、図書館行。東邦協会雑誌読む。午後、業間中、大宮君を世尊院に訪ねる。晩、本郷を散歩し、	
			「亜細亜」27号を買い求める。	
		6	麹町行。九段招魂祭兵隊の参拝を見る。古宇田君と囲碁す。	
		7	山中、古宇田と蕎麦を食す。	
		8	9時発、深川、永代橋、千住、谷中を巡回して午後6時に帰る。	
		9	午後、大野君来る。日本地名鑑を見て帰る。宇賀治、吉野へ羽書を出す。	
		10	降雨強く道悪しく大困難。その上、学校にて下駄を取られる。これで、3度目だ。而も雨降りの日のみ。	
		11	父より為替状が届き15円受取る。佐藤の室で囲碁。晩、山中来る。菅より羽書届く。	
		12	朝、高見来る。神崎と3人で小石川植物園を散歩する。為替受け取る。午後、入浴。晩、山中を訪ね、	
			薬師縁日を散歩。9時に帰る。	
		13	麹町行。本山と囲碁。午後、高見を訪ねる。宇賀治より羽書届く。	
		14	橘氏等来る。午後、大野来る。晩、共に散歩し、根岸に行く。宿す。根岸の祭礼で舞を見る。	
		15	5時頃より大野と家を探しに三田氏団子坂に行く。酒出て花田、大野酔い、ソバをよばれ帰る。大に	
			困る。この時10時頃、飯食す。これより隣室の橘、金山の囲碁を見て2時頃に至り寝る。	
		16	午前、大野帰宅せり。橘の囲碁を見る。「感応妙」を学ぶ。晩、大野来たり。麦生君も来談する。	
		17	午前、入浴。午後、大野を訪ねる。大野、自炊屋に転宅する。晩、掃払致し共に大野と帰る。	
		18	朝、転宿の事を下宿に告げる。本山、岩田、山中、を訪問。午後、転宿す。佐藤氏らと囲碁す。業を	
			終え花田に至り、下宿の勘定を得る。自炊用品を勧工場等で買求める。蕎麦有り食す。花田来たり。	
			朝、パンを食べ茶を飲みたり。	
		19	国及越前へ羽書を出す。古宇田来遊す。晩、花田方へ来遊。加藤、小田君に名刺を渡す。麹町へ	
			羽書を出す。	
		23	「倫理学」中島力造の講義、「感応妙」続きを学ぶ。	
		31	5月分経費9円10銭2厘。	
25	6	30	6月分経費5円17銭2厘。	
25	7	1	哲学館高等科下級を修了する。	高等科下級修了
		16	午前8時、井上哲次郎	満もぼろし
		17	原松午後行き。父謙信より書簡届く。	⑧上51-57p
		18	午前、奥田行、及び村上、瑞泉寺。父より12円受取る。	
		19	商業学校。夜、豊本口信講。	
		20	朝、駒込峯岸を出て森岡に至り写真2回、1時間余。9時過発、車にて湯島に行く。松谷、菊池、	

年	月	日	事　　項	参　　考
			大橋、村上、古河、西依など7、8名会し、松山来談。蔵行新法後り。午後1時、発鉄馬車にて、	
			新橋馬車にて品川行。平松に行く。30分間談し、4時、横浜着。公園、海岸通り最壮快なり。	
			5時発、7時鎌倉へ着。三橋支店宿。秦、近角等居り、種々相談あり。今夜、麦生へ第1回羽	
			書を出す。国へも出立の羽書をこの所より出す。夜、雨降あり。	
25	7	21	朝、発雲頂院行。田中明林などに逢い講を聞く。その日に庵に行く。高見に逢い談す。富士見	
			亭、白鹿洞、北条□所、仏光国師墓、及び鐘堂を回り、予の行て談し、門前にて3人会食せり。	
			豪吟す。分かれ建長寺半僧坊、エンマ□、白ハタ山、女倉、大仏、長谷観音等を見る。	
			晩食し。夜、秦、三宅、松見、滝口等と談せり。晩、秦君と談話する。	
		22	7時5分発、4時40分岡崎着。5時、大野。7時、散歩。	
		23	□行4時迄。別院等を見て帰る。夜、談話す。	
		24	6時半発、7時20分着。8時21分、岡崎発にて9時50分頃名古屋着。談話。11時環着。大村等。	
			2時、大野去り、3時、小谷着。夜散歩す。	
		25	6時発、熱田神社を参拝。8時、港にて舟を借り汽船に至る。3人と分かれ、9時東海運輸丸	
			に乗り込む。四日市に12時頃着。2時、津。四時、神社。5時、二見角屋着。洗濯、談話。	
			茶話会。予の所につき談す。古河勇、桜井義肇、橘大心、原、山田、小山、加藤、10時退散。	
		26	朝、寺にて、小山、加藤の講話。10時発、橘、原、予の3人、山田に行く。外宮に参じ、古市、	
			内宮に参、2人と分かれ車にて8時、二見着。	
		27	6時発、艀にて、第三運輸に乗り込む。4時、熱田着。浪あり。車にて、名古屋着。この夜、公園	
			を小谷と散歩する。	
		28	昨日の船中より二見へ羽書を出す。朝、□□に行く。終りは桑門に遊ぶ。囲碁。	
		29	出発せんとして延引。滞在す。朝、小谷君、二見へ立つ。この夜、宴席に行くる12時帰床す。	
		30	一番□5時発、勘七の車にて行き、5時40分に乗り込み、7時、大垣着。車にて養老行。10時、	
			着る11時発、□行にて四条、京極、三条、粟田口、知恩院、丸山公園、四条新町を経て帰る。	
			「本願寺の壮を見ずんば何れ□知らん旧仏教の尊を」寺町光円寺。	
		31	7月分経費5円24銭9厘。	
25	8	3	谷中を発して、1時に通運丸に乗船、5時に横須賀着港。大野君在宿の石川喜三郎に6時着。	「東京南東紀行」
			知人の槙沢要塞歩兵軍曹に面会し、市中で芝居2幕見る。下宿料2円。	
		4	大野君と軍港近方を散歩、軍艦の停泊を見る。「日蓮宗祖真実略伝」を読む。	
		5	鈴木、清谷、山中、菅、麹町へ葉書出す。8里半の日蓮宗の旧跡を尋ねる。尺八6銭。	
		6	午後、槙沢君来り、3人で浦賀行。要塞訓練所の大砲など見る。	
		7	槙沢君来り軍港を案内される。厳島号4,200トンの最新の機械づくめを見学。	
		8	楠浦近方を散歩する。海水浴は、日課、去年房州にて覚え毎日の水練で上達せり。	
		9	要塞砲兵営所近方を散歩する。	
		10	4、5日費やして、「楚漢軍語」を読み終わる。世界の軍艦を調べる。	
		11	都合により、本日出発出来ず、読売新聞を購入、伊藤内閣の報を知る。寄席に行く。	
		12	今朝出発。大野君久比里村まで散歩方々見送られる。三崎町青柳亭投宿。	
			当夏は、北海道行きを予定していたが、都合により大島漫遊となった。船代60銭。	
		13	大島へ4、5里の所まで至れども風向き変じて三崎湊へ帰る。	
		14	船中滞在。大島人と種々の事情を話す。	
		15	午後、伝馬船を借りて、独り城ケ島に漕ぎ着け、遊泳する。	
		16	今日は、父の祥月命日。8時過ぎ順風にて出帆せり。相模灘を漂流し、初島近方に至り伊豆海岸	
			天城山を目指して進む。太陽没し、富士山隠れ、青天をの羅星を見ることと双眼鏡で村家の火を	
			見るのみ。	
		17	南行する内、正午より南風起こり、南西より北西大島に向う。午後5時過ぎ岡田村に着船す。	
			夜村内を散歩し、荷物を頭頂に載せる異風の別天地なり。	
		18	泉津村に至り、松吉という人に案内を頼む。	
		19	再び泉津村に至り案内を得て三原山に登る。頂上火口の所には30日の岡田村に着船す。	
			下山して鯨の群泳を見る。修行をなす者あらざれば案内せずという。下山して鯨の群泳を見る。	
		20	村内を巡遊する。大島近海は浪荒く難船すること多し。	
		21	早朝、船頭の甚五郎を雇い大島本村に至り、野増村にて一休す。岡田村300戸、泉津村150戸、	
			本村800戸、野増村150戸、差木地300戸、波浮150戸、合計1,850戸、人口8,000。牛2,000頭飼育。	
		22	当港から渋谷、大野、槙沢へ葉書を出す。朝発して元の道に帰り、差木地で一休す。本村を経て	
			岡田村へ帰る。途中海水浴を数回なす。	
		23	同道を得て1里半、山腹の湯場に至り湯治する。	
		24	今朝、別れを告げて泉津村に行き、便船三社丸に乗船し、いさましい鯨漁を見る。船代30銭。	
		25	朝4時に横須賀着く。一寸上陸して槙沢、高見へ葉書を出す。8時頃、出航観音崎引き潮で	
			2時間待ち、東京湾に入り、午後4時に隅田川鉄砲洲に着く。乗車して花田で宿す。	
		26	朝、谷中の無道庵に帰着せり。この日、谷中の諏訪神社の祭礼あり。旅費合計15円31銭。	帰宅
			概略　相模、伊豆、2カ国。里程凡140里。内海里100里。内歩行40里。日数満23日間。	
		31	8月分経費10円98銭4厘。	
25	9	9	父より書簡と15円受取る。	⑦469-474p

年	月	日	事　　項	参　　考
25	9	13	「東京南東紀行」を書き上げる。	「東京南東紀行」
		19	斉入より書簡届く。	⑦475-477p
		20	地学協会へ行く。	
		21	哲学館にて井上円了氏より「応用心理学」を聴講。	⑪下82p
		22	秋期星礼祭へ行く。	
		26	岡本重昌より書簡届く。	⑦479-481p
		30	9月分6円39銭9厘。	
25	10	5	「支那学荘子論」島田均一氏講座を聴講する。	⑪上314p
		14	哲学館にて、島田博士の『支那学史伝』講義を受ける。	⑪下36p
		27	法言より書簡届く。	⑦489-491pp
		28	父より書簡と20円受取る。	⑦483-488p
		31	10月分経費10円13銭6厘。	
		※	「梵学代六号」を書き始める。	
25	11	25	『梵学第八号』(梵文「無量寿経」の訳読ノート)を書き始める。	⑥99p
		29	「梵学第八号」を書く。	
		30	11月分経費6円10銭。	
25	12	5	「愛国護法論」を学ぶ。	
		6	「梵学第八号」を書く。	
		9	「梵学第八号」を書く。	
		13	「梵学第八号」を書く。	
		13	「梵学第八号」を書く。	
26	1	1	『No.4　Economy』を書き始める。	
		12	「人類学大意」坪井正五郎氏より聴講。	⑪上284p
		15	法言より書簡届く。	⑧上67-69p
		16	父より15円受取る。	
		19	「人類学大意」坪井正五郎氏より聴講。	
		24	「梵学第八号」を書く。	
		27	「梵学第八号」を書く。	
		31	1月分経費5円91銭7厘。「梵学第八号」を書く。「梵学第八号」を書く。	
26	2	2	坪井理学士から「人類学大意」を聴講する。	
		3	哲学館にて島田博士より「王陽明名守仁字伯安」を聴講。	
		4	「純正哲学自解」の記述を開始する。第一　定義を書く。	純正哲学自解
		6	「純正哲学自解」第二考究法、第三知識論、第四物心論を書く。	
		7	「純正哲学自解」第五唯理論、第六融通論を書くる	
		8	「純正哲学自解」道義学、第一知道、第二教育、第三心論を書く。	
		18	「純正哲学自解」宗教学、第一章宗教学定義、第二章他学との関係、第四章宗教の定義を書く。	
		20	「純正哲学自解」第八章宗教論(宗教学の完成を目指す)、哲学。第九章比較宗教学を書く。	
		21	「純正哲学自解」の目次、骨格を作る。	
		25	「純正哲学自解」因果論を書く。予の一生目的は、『宗教学』の完成にあると記述する。	宗教学
		28	2月分経費5円57銭5厘。	
26	3	8	常盤大定より書簡届く。	⑦495-499p
		10	父より書簡と15円受取る。	⑦501p
		20	藤間より書簡届く。	⑦503-508p
		21	「梵学第八号」を書く。	
		24	「梵学第八号」を書く。	
		31	3月分経費7円60銭。	
		※	「西蔵路程地図」(八枚続き)を抄写する。「西蔵通行地図Z＝線」(1枚)を写す。	⑥93p
26	4	3	斉入より書簡届く。	⑦509-513p
		8	釈尊降誕会が神田錦町の錦輝館で開催される。	釈尊降誕会
		27	「布教概理」を書く。「妖怪学」井上円了氏が始まる。	
		29	「純正哲学自解」(心・信・真)の記述を以て完成。	
			＊松本氏より「釈尊降誕会会計報告」の書簡が届く。	降誕会会計報告
			収入金69円55銭。支出金64円41銭6厘。残高5円13銭4厘。残金は、寺田福寿に預けたと記されて	⑥523-532
			いる。寄付者は、専門学校、哲学館、井上円了、奥田貫昭、慶応義塾、法学院、徳風会、南條文雄、	
			島地黙雷、村上専精、寺田福寿、勝友会、哲学書院、都文館。哲学館では、学年別に寄付金を募っ	
			ている。明治26年の釈尊降誕会は、神田錦町の錦輝館で開催され、講義室借用料6円。「御国の光」	
			1,200部、10円80銭。菓子370個、20円85銭。錦輝館支払8円82銭。琵琶手謝礼3円で開催された。	
		30	4月分経費6円10銭。	
26	5	9	哲学館にて「理気説」を聴講。	
		12	哲学館にて井上円了氏の「妖怪説明時代」を聴講。	
		31	5月分経費6円20銭。斉入より書簡届く。	⑦537-545p

年	月	日	事　　項	参　　考
26	6	2	父より書簡と20円受取る。	⑦533-535p
		19	上田繁丸より書簡届く。	⑦547-550p
		21	法言より書簡届く。	⑦551-553p
		30	6月分経費10円62銭8厘。	
26	7	4	神田佐久間町３丁目３７番地の小栗栖香頂師に面談する。父より20円受取る。	
		6	謙信より書簡届く。菅実丸より書簡届く。	⑥555p⑧上71p
		7	哲学館高等科上級を修了する。大経「無量寿経」の訳読が終り、記念に、子安、白山、能海の	高等科上級修了
			3人で記念写真を撮り、3枚一組の写真に、それぞれが自著して一枚づつ分ける。	三伽会
			岐阜県安八郡澤渡村浄勝寺　斐川　子安善義	
			東京市芝区三田北寺町西蓮寺　沛南　白山謙致	
			島根県石見国那賀郡波佐村天頂山浄蓮寺　石峰　能海寛	
			明治念六年重七梵文大経讀了日寫之以為紀念井徴能海君別。	
		20	朝、駒込の峯岸を出て、森岡で写真を撮る。湯島に行き、松谷、菊池、大橋、村上、古河、西依	
			などに会い、松山来り、蔵行きなど語る。午後1時に品川の平松を訪問。4時に横浜を回遊し、	
			7時に鎌倉へ着く。	
		21	雲頂院へ行き、田中明林などに逢い講義を聞く。佛日庵に行き高見に会う。富士見亭、白鹿洞、	鎌倉
			などを回り、三人で会食す。別れて、建長寺、半僧坊、閻魔堂、女岩、大仏などを見る。	
			夜は、秦、三宅、松見、瀧口等と懇談。晩、秦君来語。	
		22	7時5分発、4時40分岡崎着。5時半大野着。夜、散歩す。	
		23	随行4時まて。別院等を見て帰る。夜、談話す。	
		24	6時半発、7時20分着。8時21分岡崎発にて9時20分名古屋着談話。11時着。大村など	
			2時、大野去り、3時小谷着。夜、散歩す。	
		25	四人で、6時発、熱田神社参拝、9時に東海運輸丸にて四日市に正午着。4時に二見着。	
			茶話会あり、予の西蔵行きにつき話す。古河、桜井、橘、原、山田、小山、加藤、10時退散。	
		26	朝、寺にて小山、加藤の講話。10時発、橘、原、予の3人で山田に行く。外宮、内宮に参る。	
			二人に別れて、車にて8時に二見に着く。	二見
		27	6時発、艀にて第三運輸に乗り込み4時に熱田着。車にて名古屋着。夜、小谷と公園散歩す。	
		28	昨日、船中より二見へ葉書を出す。桑門を訪問する。	
		29	出発せんとして延引滞在する。小谷君、二見へ立つ。夜宴席あり12時帰床す。	
		30	5時40分の汽車に乗り7時、大垣着。車で養老行き。11時発、四条、京極、三条、知恩院、	
			丸山公園、四条、新町を経て帰る。	
		31	7月分経費11円49銭5厘る	
26	8	7	浄蓮寺へ帰山する。※大内青巒氏よりの書簡中に仏教青年会からの礼状が同封される。	帰郷
		18	豆不喰へ法務。	
		27	波根向屋へ法務。横屋へ法務。	
		28	栃の木へ法務。中間へ法務。藤尾へ法務。	
		29	竹の原へ法務。	
		30	落しへ法務。	
		31	河上屋へ法務。庵の木へ法務。荷物送り賃3円。7月20日から8月7日まで路費10円74銭6厘。	
			『世界に於ける佛教徒』の諸言を著わす。当初は、『新仏教徒論』とするも他人の勧告で変更す。	
26	9	1	梅の木へ法務。＊哲学館・井上円了より「妖怪学講義録」の案内と特別券が同封され届く。	⑧上85-86p
		5	尻の切へ法務。＊書林より書簡届く。『世界に於ける佛教徒』印刷完了通知。	⑧上151-153p
		10	才の原へ法務。	
		11	五反田へ法務。	
		12	古屋へ法務。突出へ法務。	
		16	吉田屋へ法務。＊西依金次郎より書簡届く。	⑧上83-99p
		17	子安善義より、近況報告の書簡が届く。「学術雑誌出版条例」に依る出版願の書式を同封する。	⑧上101-112p
		20	室崎へ法務。	
		22	上田屋新井屋へ法務。	
			『世界に於ける佛教徒』の序文を大内青巒氏が寄稿。	
		24	子安善義より書簡届く。南條博士宅へ寄留を勧める内容。	⑧上113-123p
26	10	4	堂迫へ法務。	
		5	二堂坊へ法務。石ケ淵へ法務。＊菅実丸より書簡届く。	⑧上125-129p
		17	小漆へ法務。	
		22	西依金次郎より書簡届く。	⑧上137-143p
26	11	2	岡田へ法務。笹ケ谷へ法務。	
		3	藤尾へ法務。	
		4	屋敷へ法務。	
		5	新宅へ法務。水口へ法務。	
		6	大潰へ法務。	
		7	小漆へ葬儀。	

年	月	日	事　　項	参　　考
26	11	8	獅子伏へ法務。	
		11	西方四軒、法要17日まで。	
		17	小国四戸、法要22日迄。	
		18	『世界に於ける佛教徒』(定価15銭)を哲学書院より発行する。	①101-207p
		21	内務省より、自著の『世界に於ける仏教徒』の「版権登録之証」を取得する。	
		23	梅の木へ法務。	
		24	室田屋へ法務。	
		25	上畑へ法務。	
		26	隠居へ法務。	
		28	助三屋敷へ法務。	
		29	西方13戸、12月3日迄法務。	
26	12	5	奥中谷へ法務。＊皆乗より書簡届く。	⑧上155-159p
		6	雄鹿原村、13戸、11日迄法務。	
		11	仲田屋へ法要。	
		12	寺田へ法要。惣丸へ法要。	
		21	※仏教青年会の席上で古河勇氏が、能海寛著『世界に於ける佛教徒』の出版披露を行う。	
		23	栗木田へ法要。	
		25	鉄屋へ法要。	
		26	下小法師へ法要。	
		27	金30円本山へ送金。15銭為替料。8銭書留料。	
		28	金30円本山へ送金。15銭為替料。8銭書留料。	
		30	斉入より書簡届く。	⑧上161-167p
27	1	1	4時晨起。6時10分勤行終り。7時晨食終り、漸々年始礼者有り。予其引受をなす。2時頃に至り、	
			来客薄らぐ。数うれば300人なり。大内青巒、南條文雄の二師に書面を出す。此夜火廻はし、	
			火消しなど遊戯をなす。	
		2	桑門、白山、平松、井円、小安、麦生、森岡、松田、□□に葉書を出し、古河(同窓を込め)書面を	
			出す。最勝寺より葉書を受く。明治17年の正月を重ねて以来、今春始めて逢う。今年の1月何と	
			か言う飯田筆太当寺檀家に来りたるも専光寺より元を言いて帰るを進む。専光寺に掛合うべし。	
			銀色界中金色人。	
		3	チベット探検に赴くために自らの考えを「口代」(遺書)に14項目を書き置く。	①「口代」遺書
			心だに　共に信の　もらせれば　いづくのはても　日々月見ん	
			年始筆末の開封す。100円50銭斗り也。昨年の秋布施高報恩講も30円也。昨年、当山報恩講、	
			米4石金10円也。□山、及び明清寺より葉書受く。	
		4	東温譲君の追葬勤行をなす。晩、西谷・榎木田で小寄り。	
		5	当山世代法名忌日表を作る。休石、石田屋へ年始行。長井、藤堂、麦生、森岡より葉書着。	
		6	日中、竹野屋惣吉報恩講行。好天気也。	
		7	昨夜より雪降る。終日続く。悪天気。晩、下の橋へ報恩講行。	
		8	終日、天気悪し。菅君より葉書着す。「遊学資料萬覚」に明治18年より26年12月までを精算記す。	⑫98p
		9	同じく雪降る。	
		10	昼、岩田屋へ報恩講法座。晩、浄円と共に石ケ渕報恩講。今日は好天気也。晩少く口たり。	
		11	同、同家法事、三部経。晩、下ケ原へ法座。	
			子安善義より書簡届く。西蔵行大成を望めば急行は顛躓の恐れありと知りたまえと伝える。	⑧上171-178p
		12	朝、隠居へ御座。日中、出ケ原へ御座共に拙著を話す。晩帰る。	
		13	菅舎為替の為行。永昌寺へ寄り、夕方まで談す。＊立花憲信より書簡届く。蔵研究で面談を希望。	⑧上178-181p
		14	永昌寺古録を写す。	
		15	浄蓮寺境内図を製す。	
		16	午後、漆谷仙次より小寄り。晩、岡田屋敷、四十九日法事行。	
		17	西村□香寺行5時着。	
		18	同寺滞在。石州法中協議。去る15日(実は13日)前大谷門跡御遷紀、一組より□□寺、2組より	
			正万寺上京に決す。	
		19	滞在会者14、5名中、多くは出立。専竜寺、□明寺、明清寺、浄慶寺等残り大談話。	
			西依り金次郎より書簡届く。	⑧上185-191p
		20	早朝発足12時、門田着。権房と話し、雪降る。笠松をば□治と共に越し、4時帰着。	
		21	厳如上人荘厳むき。其他□に付き多忙。西依からと立花から2通書面着。	
		22	□□を造る。20日頃、雪3寸降りしと。	
		23	本山へ香典20銭。晩、隅廣屋法事行。立花、花田、哲学書院へ3本葉書を送る、4銭。	
		24	この夕より法然上人御祥月。雨降る。	
		25	雨降る。膳、碗を構求せらる。	
		26	厳如上人御葬儀会執行。この日より雨降り出し。引地へ報恩講。	
		27	本山へ為替を出す。又横屋払に付意見を述ぶ。晩、西蔵行を兄、父に談せり。	
27	2	9	向原部屋へ報恩講。	

年	月	日	事　　項	参　　考
27	2	10	枯木谷へ報恩講。＊子安善義より書簡届く。探検の大目的にも大準備を要し1年、2年の延日	⑧上209-217p
			は、貴兄が終生の大事業に活かされる。「南條家にありて勉学を・・・」と進言する。	
		11	佐古下手へ報恩講。下長沢へ報恩講。	
		12	森田屋へ報恩講。下六路。中間へ報恩講。	
		13	田中屋へ報恩講。	
		14	桑田へ法務。	
		15	飯田信太へ法務。佐古へ法務。	
		16	栗木田へ法務。	
		17	漢詩（四行）を記す。天地引用離合理、人生男女相合気、離能得解造物妙、明哲為情闇亦宣宣。	⑭189p
		19	上屋敷へ法務。松原屋へ法務。	
		20	勘口へ法務。惣丸へ法務。前迫へ法務。	
		21	屋敷へ法務。山本へ法務。	
		22	岡崎屋へ法務。	
		23	橋ケ原へ法務。	
		25	中河原へ法務。	
		27	剪髪を一掴み和紙に包み「口代」に添え置き、万一帰国出来ない場合は遺髪として葬送されたいと	「口代」①212p
			書き留める。	
27	3	1	中田屋へ法務。	
		4	屋五郎へ法務。＊斉入・皆乗より書簡届く。	⑧上213-233p
		5	於手茂へ法務。	
		6	和田へ法務。佐古へ法務。新宅へ法務。	
		7	15年2月新調の『自教要授』を再増補する。小野原へ法務。半場へ法務。	15年2月新調
		8	岡田屋敷へ法務。	
		10	小角村室屋部屋へ法務。	
		11	小角村室屋部屋へ法務。西河内清治へ法務。	
		12	唐谷へ法務。	
		13	中間へ法務。	
		14	桑門へ郵便2銭。	
		15	上惣丸へ法務。掘田へ法務。	
		22	朱肉代1銭。	
		23	渡上りへ法務。	
		25	室屋谷へ法務。大原へ法務。＊西依金次郎より書簡届く。	⑧上235p
		26	河原へ法務。	
		29	徳田、迫へ法務。昼沢へ法務。	
		30	上手へ法務。	
27	4	2	木村へ法務。	
		5	三右衛門へ法務。	
		8	城ケ谷へ法務。	
		9	室田屋へ法務。＊三隅・岩本普満より、住職に任じて、後代理を命じ自由に遊応を企てるよう進言。	⑧上247-250p
		11	水口へ法務。飯田ケ原へ法務。	
		12	室田屋へ法務。	
		13	正古庵へ法務。	
		15	一寸原へ法務。西半場へ法務。	
		23	晩、法要	
		24	法要。「三鳥」九郎スル墨スラルル硯濃ヒモ薄ヒモ主次第	
27	7		西蔵探検の支援を受ける為に京都へ上京。京都東仲筋花屋町下ル片山方へ寄留する。	
			※本願寺役員の桑門至道氏を介して、本山に西蔵派遣僧としての上申を働きかける。	
		8	石田喜三郎より書簡届く。	⑧上257-261p
		15	哲学書院より、『世界に於ける佛教徒』の全国販売結果と出版費精算書が届く。不足額8円57銭。	⑧上263p
		25	日清戦争勃発により寛の西蔵探検行が頓挫する。	
		31	石田喜三郎より書簡届く。住職となるための住職試験に対する入費について知らす。	⑧上277-281p
27	8	2	日野義渕より書簡届く。	⑧上285-291p
27	9		一旦、帰国して再起を期すこととする。	
27	11	27	「暴風雨大逮夜」3首詠む。	
28	1	2	中間へ法務。	
		4	室田屋へ法務。助三へ法務。	
		6	角屋へ法務。	
		12	室田屋へ法務。	
		16	「讃聖天仁子征清之御意」を記す。	
		18	新屋へ法務。	
		24	尻の切へ法務。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	1	25	波佐倶楽部「新年初見会」案内廻章を発送する。周旋人能海寛。	
		28	松やへ法務。	
		29	岡田へ法務。	
		30	波佐倶楽部新年初見会開催。倶楽部会費65銭。	波佐倶楽部
28	2	1	新宅へ法務。竹の原へ法務。	
		4	岡崎へ法務。	
		5	下山根へ法務。	
		6	新屋へ法務。	
		7	専光寺へ法務	
		9	河原へ法務。屋敷へ法務。	
		11	波佐倶楽部会則を作る。	倶楽部会則
		12	新田屋へ法務。	
		13	妙蓮寺へ法務	
		19	柿屋へ法務。	
		24	室屋谷へ法務。	
		25	田の原へ法務。	
		28	平岩へ法務。	
28	3	1	片ケ原へ法務る	
		2	黒瀬へ法務。	
		4	「大佐山雪桜の観」を3首、「波佐川大橋」、「柏原山の月」、「浄蓮寺の鐘」を詠む。	
		5	「永昌寺閑静雅」、「笠松の橇」を詠む。	
		6	「吊愛猫急死」、「波佐開教」を詠む。	
		7	「御城山」1首を詠むる	
		15	藤尾へ法務。	
		18	彼岸。晩、読経。青年10名ばかり。	
		19	法座。60名(内女25人)。	
		20	法座。晩。青年45名(内女10人)。	
		22	日中、晩、お勤め。	
		23	昼、晩、お勤め。	
		24	日中、晩、お勤め。	
		25	日中、お勤め。	
		26	岡崎へ法務。栗木田へ法務。	
		27	西念寺へ法務。	
		28	西念寺へ法務。	
			※「墨染集」明治28年3月以後の綴。倹約貯蓄法規約。「予が四月六日」。説教の趣向。布教概理。	⑭439-690p
			西蔵派遣申請下書。説教の理論。西蔵国歴史年表。旧佛教破壊的文字。古今日本仏教の三大変遷。	
			当山縁起。焼野貫八氏略伝。学資金募集ニ付訂約書。履歴書。愛国護法論。地文学海水論。嗚呼。	
			化学後編。天頂山浄蓮寺史。波佐史料。石見案内。活用言尾辞片要覧。助働言。尺八音符。歌詠集。	
28	4	1	専教寺へ法務。	
		5	金120円。内2円横田へ。内2円石田へ預け登記費として。内114円京送り。68銭為替・書留料。	
			〆118円68銭。残1円32銭預かり。	
		6	「波佐開教」を詠む。	⑭374p
		16	金50円也。為替にて京送り。外32銭為替・書留料。以上残99銭預かり。	
		7	光雲寺へ法務　※ 住職は、佐々木智證。母ユクノの里。	
		8	光雲寺へ法務	
		9	光雲寺へ法務	
		10	安養寺へ法務	
		11	安養寺へ法務	
		12	安養寺へ法務	
		13	安養寺へ法務	
		14	安養寺へ法務	
		17	「都茂山科安養寺」を詠む。	
		18	「開祖洞円三百回忌」を詠む。	
		20	妙蓮寺へ法務　※　弟斉入が水野家へ婿養子で入院。	
		21	妙蓮寺へ法務	
		22	妙蓮寺へ法務	
		23	山廻家へ法務	
		27	波佐村長佐々岡延蔵あて、浄蓮寺門徒惣代の「証明願」を出す。	⑭502p
28	6	1	宇谷へ法要。「世宝入出守門記」を書く。	
		3	松江市滞在中の検診より書簡届く。	⑧上311-315p
		14	岡田屋敷へ法要。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	6	17	岡原村大原へ葬儀同行。	
		23	「偶意」を記す。	
		30	光楽寺へ法務同行。	
			オルコット云、普通の基礎とは、4つの観念を量す。	
28	7	2	岡原村下組追弔会。	
		3	専光寺同行。	
		9	田中屋へ法要。	
		10	下中祖へ法務る	
		11	唐谷へ法要。蔵前へ法要。	
		12	出店へ法要。	
		13	波佐天頂山(浄蓮寺)を発足。三隅正楽寺安居法会演説に行く。	
		14	日中まで正楽寺に滞在する。	
		15	古湊に出て、角の部屋にて高島への渡船を問い合わす。	
		18	正楽寺。	
		19	高島へ渡る為に古湊を訪問するも明日に船便があると聞き、正東寺岩本氏と同道し、	石見潟高嶋記
		20	荷物(書籍、カヤ、毛トンボ)及び弁当、口菜を下女に持たせ、午后6時発、古湊に一宿。酒2升	①225p
			みやげに持行。	
		21	朝7時、出舟10時過高嶋へ着。表屋島内多十郎に宅す。2階造りにて、上間6畳、下の間同上、	
			ウシロ4畳半、2間に庭あり。高き地にありて眼下に海及び沖本地を見下す。家内11人一老夫婦	
			80より90才也。菜か飯は弁当。さかな結構さしみ。後島人へ酒2升、子供に菓子を5個を与う。	
		22	午後、子供を集め体操を教える、叉島内を散歩す。戸数7軒。皆一か所。表屋の外は皆小屋也。	
			一昨年、大火のとき表屋の外、皆火事の為に消失。其年小舎掛の処叉々有名の大風皆倒し官	
			より本地移住を勧められ後、叉帰りて、この島を開く故に大に困難。特に、一昨年、及び昨年は	
			大干ばつ。畑物熟せず風の為に大老古樹但し、幼も皆枯死するに至る。島内ハマヤバの木、亀	
			ヒバシ、ウスビター、タチコード、コーゾ、桑、シヤカキ等あり、養蚕もなせり。2、3枚しはきたつる	
			に足るの教ありと。畑畠多くして大豆、サツマ芋、タバコ、キュウリ、ムギ、キビ、アワ、殆ど何にて	
			もよく出来。島の海辺は悉く皆、大岩、巨石、湾口、更になり。僅かに舟をつけに人を上げ其舟は	
			多の所10町も脇へ回し、不便の石岩の間に上げ置く。島地に4艘。□□□□□薪(タキギ)あり、	
			叉水も2ケ所あり。1ケ所は常に出る。充分。上は赤土多し深し、叉宮に参詣す。一間四角位い	
			也。今日は海水浴せず。昨日、一回入海せり。晩、説教を行う。	
		23	昨日は降霧両陸地点見えず、本日は、晴天にはあらざるも天気にて沖地も見へ今日は沖を蒸気	「高嶋詩歌記」
			船通り、叉「高嶋詩歌記」を出され之を写し、叉夜に入りては古事談を老翁より聞れり。云う当島の	
			神は明神にて元出羽村の神体三体□せ求むるにこの島にあり、其叉失す。やはりここにあり由て、	
			二体をを本島に□来し、一体を出羽に祭る。(子供其三体を見出したり云う)殆んど千年も前のこと	
			也と云う。叉寝物語に云う。三隅入道様の女を益田越中守様より所望になり之を嫌い三隅様落城。	
			この高島にに7人の家内にて逃げ隠れたまう。越中様この島に訪ね、的とか云う地にて見出し、	
			遂に血戦。7人共打ち死せり。今頃畑を開くとて打死に指の骨など出でり。是にて入り四角□にあら	
			らず。□□木都□□□禅寺の和尚外2人来島して其先祖を調べに来てこの話を聞きて満足して	
			帰り近年事なりと。高島へ10時過ぎ到着。島人へ酒2升と子供達へ菓子5個ずつ土産とする。	
			入浴せり。鮮魚結構也。毎度、子供体操及び晩、説教せり。	
		24	午後、子供を集めて体操を教え、晩、島民へ説教する。	
			高島伝を書き写す。七名所、七奇、高島の七驚、雑驚七奇を記す。高島表屋島内多十郎氏方所蔵	
			の巻軸にして重矩氏直筆の能書を書き写す。	
			朝、蒸気船就航せり。漁火は非常のものを数万軒の町屋数10町の河辺に相灯せん。	
			＊「高嶋之漁火及同島にて」の歌7首を詠む。	⑭175p
			石見潟　千浦に出る　漁火を　みはたしつくす　高島の人	
			石見潟　名も高島の　島人は　地方ながめて　日を送る	
			うらうらに　夜な夜な出る　漁火を　見て夜をふかす　島人や	
			石見潟　あちらこちらを　見わたせば　どこへ行くやら　帆かけ舟	
			石見潟　名も高島の　島かげに　磯うつ浪に　心くだきて	
			日の本の　すべはなくとも　君か民　安く月日を　送る島人	
			ありがたや　月はいづくも　照らすなり　高島人も　同じ詠めを	
		25	午前、愚考せり。午后、休み。且つ、島の話を聞く。島内7戸46人なり。表屋11人。中屋6人。	
			岩治方七人。コマヤ4人。隣7人。与市方4人。昨日より語々と国郡名、年号いろ少数字など教す。	
			本日は近日になき晴天弥畝山、大佐山、柏原山の頂少し、漁山など見ることを得たり。夜、説教す。	
		26	午前、教も月9日など教ゆ。一昨日、出舟大浜より帰着。本日、日中法会を開く。千畳敷の断崖絶壁、	
			仏ケ石など見物。永井、姫おとし、叉内宿見物し帰る。韋糧希夫人を語す。了解文を書与こと。	
		27	今日は、昨夜より非常に強風雨。渡島以来最も悪しき日にして少しも晴天ならず。子供には教えず。	
			晩、説教す。建夜を勤む。嵐もこの内より早起きも浪あり。	
		28	精進を命じ、朝事を勤む。法話す。海ゾウメンを多く食す。御和讃等多く書き与へ海水浴を充分せり。	
			子供を岩にまで育す。晩など種々天文器械などの話をなす。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	7	29	朝、子供に教ゆ。風強し。天気の様なり。午后、入浴充分あびたり。午后3時頃より魚舟を浮かべて	
			島を一周す。奇岩、霊屈至る所皆尓々ざる話し漁人は魚を釣る。	
		30	朝、荷支度致し、子供には体操を暇乞いに教え大に上達のきびあり。9時頃、高島より乗船浪高く	
			して舟上げ場に漕ぎつけ夫より帆を巻き大浪を凌ぎて11時頃無難に古湊角の部屋へ着き、遂に止	
			められて宿説教す、布施33銭。入浴せり。	
		31	古湊角の部屋宿料50銭。	
28	8	6	木竜師受傳『新流聲明秘伝』正信偈、念仏、和讃、回向、五三など。	⑭302p
		8	正万寺で法話、布施2円50銭。	
		14	順念寺で法話、布施2円50銭。	
		21	専竜寺で法話、布施2円50銭。津田青年会で法話、布施20銭。	
		23	大濱で法話55名、布施54銭。	
		28	津田青年会で法話。	
28	9	4	向田へ報恩講。	
		5	向原、新井屋へ報恩講。赤紐代2銭。雑誌、郵便為替70銭。	
		6	美田屋へ報恩講。	
		7	正古庵、上畑へ報恩講。米代正楽寺払30銭。	
		8	岡崎、西田屋へ報恩講。	
		9	植へ報恩講。	
		10	亀田屋へ報恩講。	
		11	城ケ迫へ報恩講。	
		12	河上屋へ報恩講。	
		13	鍛冶屋へ報恩講。当寺境内銅口代の内1円20銭。	
		14	皆乗へ30銭。寺へ10銭。切手16銭。	
		16	木村屋へ報恩講。	
		17	夜無へ報恩講。	
		18	花岡へ報恩講。	
		19	三田屋へ報恩講。	
		20	下新井屋へ報恩講。	
		29	足袋10銭7厘。金具3銭。専光寺香料10銭。	
28	10	2	専光寺へ法務。石板絵4枚8銭。	
		4	光楽寺へ法務。樫2銭。	
		6	順覚寺へ法務、香料5銭。広島県山県郡山廻村大字高野へ報恩講で巡回。当村は秋祭り。	**報恩講巡回日記**
		7	大谷郷に出て、早吉宅へ投宿。大谷戸数14、5戸。政府直轄の鉄穴を洗い、鈩吹きは月給で働く。	⑩203P
			5年ぶりに鉄穴を洗い、月に4、5回鈩吹きが行われる。鈩関係就業者は、24、5戸。鉄穴一洗いで	
			5年分十分。月に3，4回洗う。鉄穴人50人。下流川筋10里の間の各村へ米407石、3,000円の	
			資金(保障)也。	
		8	茶代1銭。	
		9	山県郡山廻村高野へ報恩講廻り。下駄尾4銭3厘。柿1銭。	
		10	大谷郷の早吉方へ報恩講で投宿。	
		20	平吉へ法要。虎次へ法要。高野村大谷へ法要。専光寺へ1円。	
		22	高野、大谷へ報恩講。	
		23	上市へ法要。半場へ法要。妙蓮寺へ布施10銭。	
		24	広島県の大隅慶助宅へ報恩講で巡回。大谷村の祭り。上市で法要。	
		25	上手近蔵へ法要。	
		26	下の橋へ法要。	
		29	平の原へ法要。	
		30	松原で法要。	
		31	倫敦駐在、清国公使の手を経て第一回の償金額に8,225,245傍（4分の3）が受領された。	⑩239P
			2億両の4分の1（5,000万両）通貨7,689万円。2回目は、29年5月7日に保償金。	
			浄蓮寺の七堂伽藍	
28	11	1	「思波佐」の歌を詠む。8首。	
		4	羽書1銭。	
		5	日中より小国集落の報恩講廻り。10日迄。	
		11	枯木谷へ法要。	
		12	二堂坊へ法要。亀田屋へ法要。	
		13	下新井屋へ法要。橋本屋へ法要。	
		14	印紙4銭。柿40銭。	
		15	山田屋へ法要。鍛冶屋へ法要。	
		16	日中より柚根集落の報恩講廻り。21日迄。	
		22	木妻屋へ法要。	
		23	沖の原下手へ法要。	

年	月	日	事　　項	参　　考
28	11	24	犬戻へ法要。	
		26	室田屋へ法要。佐古へ法要。	
		30	皆乗(登)より柿と手紙が届く。	
28	12	1	慰労会20銭。	
		2	半場へ法要。羽書10銭。	
		3	金穴堀へ法要。専光寺へ20銭。	
		4	堂迫へ法要。田村へ法要。	
		5	橋ケ原へ法要。鹿伏へ法要。上田屋仁井屋へ法要。	
		6	室田屋へ法要。小国田の原10戸、法要巡回。11日迄	
		8	羽書2銭。	
		11	藤ケ原へ法要。迫田へ法要。	
		12	する口へ法要。大樋ノ口へ法要。間所へ法要。	
		13	筏津へ法要。岡崎屋へ法要。芹原へ法要る	
		14	向田へ法要。柳屋へ法要。	
		15	前迫へ法要。竹屋へ法要。	
		16	竹屋へ法要。石橋部屋へ法要。松原屋へ法要。岡田屋へ法要。	
		17	藤岡へ法要。半場へ法要。室屋谷へ法要。	
		18	中江へ法要。亀谷隠居へ法要。下中祖へ法要。丸迫へ法要。	
		19	渡り上りへ法要。	
		20	岡田屋敷へ法要。中谷屋へ法要。	
		21	惣丸へ法要。小国13戸、26日迄法要巡回。	
		26	室田屋へ法要。千谷母屋へ法要。	
		28	帽子82銭。洋傘65銭。足袋9銭る下駄19銭。	
		29	千谷隠居へ法要。坂本屋へ法要。	
29	1	1	「世宝入出守門記」を調整する。	
		4	竹ノ屋へ報恩講。＊南條博士より西蔵行予備に、上京し子安と梵語辞編さんを勧める書簡届く。	⑧上331-334p
		7	上小坊子へ報恩講。	
		8	有田屋へ報恩講。	
		9	仲田屋へ報恩講。	
		10	木村屋へ報恩講。	
		11	沖ノ原表屋、新ン屋へ報恩講。	
		12	黒瀬へ報恩講。	
		13	河原へ報恩講。	
		15	正古庵、宇野屋へ報恩講。	
		16	鍛冶屋、尾山勇次へ報恩講。	
		17	岡田、藤尾へ報恩講。	
		18	森へ報恩講。	
		19	黒瀬鈩5戸へ報恩講。	
		21	鹿伏へ報恩講。	
		23	権社へ報恩講。	
29	2	19	波佐倶楽部設立案内廻章発送。	
		23	波佐倶楽部設立・新年宴会開催。会費40銭。	
		28	午後9時半、浄蓮寺を出発、雄鹿原・麦生家で一泊する。この夜、麦生で新年宴会、3時臥寝。	東上日記
			麦生の都合により出発を延引する。	
		29	西須磨、鶴谷方古河勇、清見喜市、本日荷物を持って加計へ出発。50銭清見に渡す。夜1時臥床。	
29	3	1	朝8時出発。松原を経て加計町へ午後4時に到着。6里程歩行。加計で一泊。人足共に宿代35銭。	
			荷物舟賃17銭6厘。舟賃20銭。松原及び渡し3銭5厘。	
		2	加計宿代15銭。舟22銭5厘。下駄32銭る	
		3	橋原泊20銭。車代12銭。汽車2円17銭。中飯29銭。車代8銭。	
		4	斉の印鑑75銭。	
		5	髪及湯7銭2厘。モモヒキ40銭。	
		6	京宿70銭。大垣、車代14銭。カブ千枚漬2個30銭。汽車3円29銭。	
		7	大垣の子安善義宅を訪問する。大垣宿代20銭。	
		8	飯、新聞、車42銭。	
		10	三冨街宿代80銭。シャツ50銭。湯1銭5厘。ふとん、枕3円15銭。インキ・ペン5銭。状袋2銭。羽書	
			10銭。引越車代5銭。	
		22	三伽会(白山謙致、子安善義、能海寛)三河屋に行く、会費35銭。 ※南條の下で梵文翻訳メンバー。	三伽会
		23	白上等ケット3円。原稿紙3,000枚35銭。	
		25	湯1銭5厘。	
		27	尺八の師範を取得する、20銭。「内外国勢の一班」7銭。「朝鮮地図」3銭。「明蔵目録」15銭。豆3銭。	尺八師範
			遠征図画14銭。台湾地図20銭。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	3	29	日記帳(虎枕)6銭5厘。ペンシル一本3銭。郵便8銭。※ 前夜、虎の夢を見たことで「虎枕日記」とする。	
		30	掛紙100枚10銭。	
		31	今月の聡計23円70銭8厘。	
29	4	3	パノラマ二人20銭る玉乗り見物2人3銭。そば代2銭6厘。	
		4	風呂代1銭5厘。	
		6	「予の四月六日」という寄稿文に、この日の一日の出来事を詳細に記している。	
		8	三士会(大場、子安、能海)に行く、25銭。剪髪5銭。インキ赤黒2瓶6銭。	
		9	ランプのホヤ5銭5厘。	
		10	「予の四月六日」という寄稿文を反省会雑誌に投稿した。切手2銭。	
			「阿弥陀如来根本施羅尼」サンスクリット語(デーバナーガリー文字)で表し和訳を記述する。	⑥19p
		11	汽車賃新宿迄3銭。品川まで中等9銭。神奈川濱万往復4銭。車代三会寺より神奈川18銭。	
		12	日曜日。会費15銭。仏教雑誌54銭。風呂代1銭5厘。	
		13	郵便切手2銭。羽書3銭。	
		15	エンドウ豆3銭。「Buddhist Tect Vol.11. Part 1.1894」タルチョーの詳細解説を書く。	⑥41p
		16	昨日の続きを書く。	
		17	風呂1銭5厘。16日の続きを書く。	
		18	手帳10銭。小筆代3銭。	
		19	岡本、佐々岡へ郵便2銭。	
		20	足袋2足洗濯4銭。	
		22	図書館、中飯4銭。	
		24	羽書6銭。	
		25	太陽13銭。	
		26	切手代3銭。	
		27	日本新聞、本など送付切手代3銭。風呂1銭5厘。ペン2本2銭。	
		28	本月分食費3円。吸い取り紙1銭3厘。	
		29	時事新報2銭5厘。東信第四号2銭。	
		30	国民新聞2銭。今月総計5円72銭4厘。	
		※	「西蔵文典　全」を写す。4月以降より✻「西蔵学雑録」を書き始める。	⑥93p
29	5	1	各国東洋船隊、露国太平洋艦隊の統計を調べる。東信第6、7号(国元へ)切手代5銭。	
		2	毎日新聞2銭。	
		3	仏教青年会費10銭を納める。朝日新聞1銭5厘。掛用箋3束9銭。	
		5	切手、羽書5厘。女礼式1冊13銭。遊就館3銭。	
		6	郵便6銭。風呂1銭5厘。	
		7	本山執事渥美契縁宛、チベット派遣僧の嘆願書を書き、「入蔵予定」、「履歴書」を添付し上申する。	
			【入蔵予定】	入蔵予定
			第1　方法　先ず清国に渡り凡1ケ年滞在し西蔵に関する参考書を求め、又入蔵の手順を正し、同伴	
			者を求め喇嘛僧と成り、商隊に混して、進蔵す準備致す目算に御座候。	
			第2　順路　先ず清国北京に着し、凡1ケ年の後、四川省に入り、夫より打箭炉、察木多等を通過して	
			前蔵、後蔵の首府に到着する予定の段に御座候。	
			第3　年限　凡そ往復及び滞蔵合計5年の予定に御座候。	
			第4　目的　地理、国体、仏教、言語、経典、仏具等の研究を主眼に致し居り候。	
			第5　入費　清渡100円、在清150円、参考書100円、入蔵100円、帰途150円、合計600円。	
		8	貝殻三個8厘。	
		10	風呂1銭5厘。剪髪6銭。夏物シャツ30銭。三番街砂場7銭5厘。	
		12	ペン先三個3銭。	
		14	反省会費1円。郵便5銭。✻『蔵英字書』1882年版で学ぶ。	⑥28p
		15	パン菓子10銭。『蔵英字書』続きを抄出する。	
		16	風呂1銭5厘。	
			佃島渡船8厘。麻裏8銭。✻『チベットの仏教』シュラーギントワイト著を書写する。	⑥51p
		19	羽書5銭。掛用紙11銭。『蔵英字書』続きを抄出する。	
		22	永昌寺へ郵便2銭。	
		23	大学講義室で「倫理学」中島力造講義を聴講。下駄直し4銭。インキ神田で3銭。	
		26	食費3円。ペン三個3銭。茶碇1銭。	
		27	洗濯毛ット5銭。シャツ、ズボン洗濯5銭。	
		28	箸箱3銭5厘。	
		29	郵便2銭。	
		31	菓子傳中と自分15銭。今月計5円85銭1厘。	
		※	『蔵英辞典』チョーマ・ド・ケレス著(中扉)を抄出する。「チベット語文法」も抄出する。	⑥58p.59p
		※	「西蔵語会話編」を書き写す。	⑥93p
29	6	1	羽書代5銭。	
		2	掛紙代2銭5厘。二七不動縁日3銭9厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	6	3	隅田川渡し3厘。夏帽子代45銭。風呂1銭5厘。	
		6	パン菓子代8銭。	
		7	経緯会の例会、会費20銭を納める。	経緯会
		8	和歌三首（社会黨・処世・遁世）を詠む。麦生へ郵便2銭。ペン3、インキ3など10銭。	
		9	各宗派寺院数の統計を書く。20,675寺。	
		10	郵便5銭。讀賣新聞1銭5厘。湯及び石鹸1銭8厘。	
		11	掛紙及び状袋4銭るめ新聞借払2銭。郵便4銭。	
		12	えんどう豆2銭。羽書2銭。	
		13	金沢詠集2銭。青柳綾口4銭。	
		14	和漢孔方図会15銭。銭二文5銭。	
		15	単衣73銭。羽書2銭。床屋行6銭。日本新聞1銭。打輪2銭5厘。	
		17	車九段より下六迄4銭。ペン先三本3銭。	
		18	「根本的破壊文字」を書く。切手2銭。讀賣新聞1銭5厘。風呂1銭5厘。	
		19	「當山縁起」を書く。読売新聞1銭5厘。	
		20	読売新聞1銭5厘。黒白紙3銭。	
		21	読売新聞1銭5厘。芝にてソバ5銭5厘。手拭4銭。種物4銭。切手1銭。芝かき氷5銭2厘。	
		23	羽書3銭。風呂1銭5厘。	
		24	日本新聞3銭。羽書3銭。	
		25	麦生へ郵便2銭。	
		26	風呂1銭5厘。食料3円。	
		27	掛紙2銭5厘る	
		28	菓子6銭・。郵便(岡本・麦生)4銭。氷3銭。氷砂糖(子安)25銭。	
		29	洋心代1銭。	
		30	今月の総計6円31銭2厘。	
29	7	1	「波佐倶楽部誌」第壱号発行(会則、倹約貯蓄規約、本会記事など掲載)。	
		3	東信第九、切手2銭。	
		6	日本新聞、郵便3銭。	
		7	郵便(原稿送り)2銭。	
		8	風呂1銭5厘。つり手1本1銭3厘。細引綱1本11銭。	
		9	シャツ(半袖)33銭。猿叉13銭。	
		11	経緯会費5銭を納める。田上へ香典30銭。机掛55銭。茶碗五個13銭。キビス一個10銭。	経緯会
			名家書画帖12銭。水画譜12銭。山水画10銭。小供あそび画12銭5厘。女礼式5銭5厘。	
			風俗画報8銭。木筆1本2銭。食塩2銭。名刺100枚31銭。寿司2銭5厘。ペン先2本2銭。	
		12	郵便切手5銭。「通戒偈梵文分解」(『仏教』第23号に掲載された南條文雄の論文)を抄出する。	
		13	麦生、冨田60銭。	
		16	氷砂糖16銭。砂糖5銭。	
		17	羽書6銭。角砂糖19銭。	
		18	剪髪6銭。	
		19	亜細亜言語集5銭。	
		22	ペン先二本ほか3銭。	
		23	日本形口の総覧3銭5厘。	
		24	手拭4銭5厘。羽書3銭。	
		25	川開き小遣6銭。	
		26	中央新聞及び切手2銭。	
		30	郵便切手1銭。	
		31	湯方洗濯4銭。ペン先3本2銭。掛紙一条2銭3厘。船名録2銭。食料3円。取替5銭。付落10銭5厘。	
			今月総計7円67銭1厘。	
		※	「西蔵史」、「神秀偈」、「慧能偈」の英訳を表す。	
		※	7月中に、「蔵行紀程　全」、「進蔵紀程　全」を書き写す。「入蔵者及年代経過地表」を調製する。	
			「西蔵学図書目録」を調製する。	
29	8	1	浴衣地三反73銭。印紙15銭。	
		2	仕立賃10銭。同肩上げ6銭。	
		5	御戸物9銭。	
		6	ランプのホヤ4銭。	
		7	羽書2銭。さら物4銭。	
		8	ホヤかさ一個10銭。	
		9	印形支印30銭。ホヤ4銭。	
		10	反省会雑誌桜井義肇より、25日発行の誌上に蔵文に関する一文を依頼の書簡届く。	⑧上439-442p
		12	日本新聞で「芸石鉄道」全長80哩の敷設の計画を知る。	
		13	紙・状袋5銭。剪髪5銭。葡萄3銭。ペン先2本2銭。インキ3銭。赤掛紙帳7銭。	
		16	濱田図幅25銭。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	8	17	日本新聞2銭。	
		18	強風の中、1里ばかり先で、数100戸が消失する大火災。＊斉入より親父の年賀の相談の書簡届く。	⑧上447-455p
		19	東信第11号を浄蓮寺宛に送る。	
		22	下駄36銭。風呂敷8銭5厘。砂糖15銭。人力5銭。菓子7銭。風呂1銭5厘。半紙掛紙17銭9厘。	
		24	切手2銭。	
		25	日進医報6銭。切手2銭。	
		30	切手2銭。食費3円。＊法言より父謙信の60の祝の件での書簡届く。	⑧上457-467p
		31	日本及び号外3銭。今月総計6円32銭9厘。	
29	9	1	羽書3銭。脚治湯15銭。	
		3	土瓶一個4銭5厘。	
		5	ペン2本2銭。煎餅代4銭。＊安本玉泉へ書面で、南條宅を略地図で知らす。	⑨47-49p
		7	白足袋14銭3厘。脚気薬13包30銭。壁月衝突代20銭。	
		9	新聞2銭。	
		10	羽書5銭。中央金庫入れ62銭。	
		11	剪髪6銭。切手及び塵紙3銭5厘。	
		13	経緯会例会、会費10銭を納める。半紙一条2銭。ペン先3本3銭。脚気薬30銭。薬代2銭。そば代3銭。	経緯会
		15	6月中から麦生、子安、へ太陽送り代両替消48銭。	
		19	南條博士から書簡届く。	
		20	もなか代5銭。	
		21	ビーン代2銭。半紙2銭。	
		23	日本新聞1銭。	
		25	懐中10銭。新小説11銭。ピー代2銭。	
		26	横井演舌5銭。	
		27	菓子5銭。	
		29	食料3円。	
		30	松田へ見舞15銭。車代5銭。今月総計6円30銭3厘。	
29	10	1	葉書代10銭。	
		2	新聞代10銭。	
		3	浜田迄荷送賃77銭。三河屋離別70銭。朱肉代20銭。筆代2本4銭。ハンカチ四枚18銭。	
			歯磨き粉6銭。時計3円28銭。セッタ86銭。茶10銭。足袋代15銭2厘。ペン先2銭。豆代3銭。	
			足袋2足29銭。菓子代6銭。	
		4	新橋迄車代13銭。汽車代20銭。横浜人力車5銭。敷島丸四日市迄1円25銭。中食宿へ25銭。	
			艀代10銭。本一冊2銭。	
		5	艀四日市7銭。菓子代3銭。荷持へ5銭る宿へ茶代20銭。	
		6	宿料30銭。汽車82銭。菓子1銭。中食15銭。餅10銭。□羽亭40銭。京宿へ20銭。	
		7	羽書8銭。電車2銭。菓子10銭。下駄20銭。	
		8	ロウソク1銭。宿料44銭。汽車47銭。神戸車代6銭。そば12銭。須磨車代4銭。	
		9	宿代15銭。車代4銭。汽車1円70銭。弁当20銭。広島車代12銭。宿へ10銭。車代4銭。菓子3銭。	
			御坊65銭。□□□□76銭。	
		10	宿代22銭。馬車18銭。加計菓子10銭。飯代5銭。鈴張茶代4銭。	
		11	宿代15銭。細見中飯5銭。	
		13	羽書代4銭。加計より荷送代17銭。	
		14	インキ5銭。	
		17	ようかん5銭。	
		20	帯一筋1円。	
		21	香料光楽寺へ10銭。	
		23	羽書8銭。	
		24	羽書10銭。	
		25	頼母子掛1円99銭5厘。	
		26	香料専光寺へ10銭。為替・半紙4銭。	
		27	浜田より荷運賃10銭。	
		29	香料最勝寺へ10銭。＊南條博士より書簡届く。	⑧上495-497p
		30	柿代7銭。＊南條博士より書簡届く。	⑧上499-501p
			※ 本山の改革派は、白川村を拠点に、教界時言社を設立し、「教界時言」創刊号を発刊する。	
		31	今月総計21円38銭7厘。	
29	11	2	香料浄本寺へ10銭。	
		6	郵便切手2銭。	
		12	斉入より書簡届く。	⑧上503-505p
		15	両組長両視察へ書面、返信料共16銭。	
		16	合袷着裏一反85銭。	
		23	羽織表裏仕立4円56銭5厘。	

年	月	日	事　　項	参　　考
29	11	24	浜田にて荷物賃6銭。＊子安善義より書簡届く。来月、上京の折りには、是非一泊をと記す。	⑧上507-514p
		25	中央金庫入れ90銭。舞□5銭。	
		28	餞別石橋へ5銭る	
		30	羽書10銭。往復羽書2銭。茶代15銭。今月総計6円97銭5厘。	
29	12	1	柿四連24銭。	
		2	郷里を出立。風雨・霰降る。岡原の田中屋、麦生、上田、妙蓮寺へ立寄り、松原の金崎で一泊。	
		3	2箇所で報恩講を済ませ、加計で一泊する。舟渡し8厘。清五郎へ2銭4厘。加計宿へ5銭。	
		4	加計辺り一面真っ白の降雪。舟中では降雪のため困難をきたす。可部あたりから天気。午後4時	
			半、広島橋平へ到着。6丁目の御坊行き、買物で汽車に乗遅れ、駅前の宿で一泊する。宿料2人	
			42銭。舟代30銭。下駄広島20銭。橋平夕食10銭。カバン第2円60銭。車代15銭。茶代10銭。	
		5	早朝一番の汽車6時20分に乗り、加古川て下り、麦生富郎君の所まで六里も歩くことは不便で	
			あり、神戸に至り、登、初、富郎君まで私の来るのを待っていた。4人で料理屋へ行き、夜2時ま	
			で話す。宿代25銭。汽車1円10銭。弁当10銭。加古川汽車26銭。神戸車15銭。汽車1銭。	
		6	3人で神戸市内を見学する。妹へ着物代として3円送ることを約束する。	
			離別67銭。ぜんざい餅代8銭。頼母子掛金残払50銭。	
		7	朝、8時神戸発、大阪にて上田の荷物を八尾中学校へ届ける。夜7時半、京都に着く。	
			水野に面会する。初へ1円90銭。大阪汽車20銭。八尾中飯10銭。汽車27銭。京都水野へ20銭。	
		8	朝、本山参詣。桑門氏訪問近状を聞く。午後、教界時言社へ里見君を訪問し意見を聞く。	
			車、上京より東福寺へ15銭。車7銭。土香炉45銭。仏器10銭。□□2銭。土香炉12銭。	
		9	朝、再び桑門氏を訪問。汽車3円29銭。ようかん20銭。線香6銭。宿料58銭。淀渕へ10銭。	
			菓子5銭。大阪車15銭。＊南條博士より書簡届く。	⑧上515p
		10	香料20銭。名古屋車8銭。車13銭。弁当10銭。	
		11	東京車代18銭。上田、麦生へ20銭ずつ40銭。剪髪6銭。郵便8銭。風呂1銭5厘。シャツ55銭。	
			兄法言へ書簡出す。状況時の模様を知らす。	⑨55-59p
		12	経緯会費20銭を納める。経緯会15銭。車代上野より九段8銭。ペン先2本、ペン軸3銭5厘。	経緯会
		13	羽書10銭。印紙20銭。手帳、懐中日記等3冊22銭1厘。筆3本6銭。墨池6銭。足袋20銭。	
			掛紙15銭。ズボン下50銭。菓子代5銭。萬朝報1銭。	
		14	そば、夜食7銭。青柳亭9銭。	
		15	井上円了氏へ火事見舞い1円。菓子、傳中へ5銭。	
		18	隅田川海軍演習、酉の市入費8銭。	
		19	風呂1銭5厘。	
		22	＊斉入より、「白川問題」を提起する書簡が届く。※ 寛は、中立を貫き、弟へは、回答を伝えなかった。	⑧525-526p
		23	歳末、松田へ20銭。	
		24	郵便先生へ2銭。	
		25	西依一六と銀座で会食等35銭。	
		26	もなか10銭。Savon24銭。	
		27	び一ふ会食17銭。紙2銭2厘。	
		29	※　本山執事、渥美契縁は、「白川問題」で、失脚する。	
		30	電報、為替、切手30銭。羽書代4銭。	
		31	食料3円。干枚通し、豆、湯、餅8銭。今月総計16円95銭5厘。	
30	1	1	6時起床。麦生より書留、哲学館、桜井義肇より羽書着く。岡本、善徳寺、正万寺、最勝寺、麦生、	使用日記
			深井、秋津、桑門、子安諸氏へ年始羽書出す。七里君、白山君来談。水筆1本3銭。羽書、切手20銭。	②5-203p
			日本新聞4銭。「明治30年使用日記」を南條博士より戴き、本年使用する。	
		2	5時起床。午前9時出宅、北条太洋を訪い本郷西依一六の京行きを見送る。本山政論を談し教界	
			時言社に伝言す。井上円了氏へ年始行。反省会へ年始行。白山謙致へ葉書出す。兄法言より書面。	
		3	5時半起床。安本君初めて来談。旭野君来談。今川君来談。水野より葉書着く。夜、万長亭に義太夫	
			外茶里太夫等の浄瑠璃を聞く南條氏に従う。	
		4	5時半起床。「枳橘易士集」付録第2巻書出始む4枚。蔵文典を自脩す3頁。麦生来訪、共に四谷郵	
			郵便局に行き為替受取り、大久保公園を散歩する。「太陽」1号13銭。	
		5	5時半起床。「枳橘易士集」3書枚。太田教尊君来り英文「南阿伝中鳳譚」のこと等の話を聞く。蔵文	
			典を自脩す、10頁。麻布及び羽書2銭。「仏教」63号、白山より戴く。	
		6	5時半起床、午前ラリタ講牛尾盤山(ゴーラングーラパリハルタナ)初回、白山謙致来る。桑門、池田	
			より2通葉書来る。枳附書出、3枚。	
		7	枳附書弟枚。ラリタ下調べ。「鳳譚逸事」英文写し反省社へ送る。入浴。岡本、麦生より葉書2枚着く。	
			中島来られ親鸞真伝のこと頼む。風呂1銭5厘。	
		8	枳附書出4枚。午後、製本屋へ使いに行き、その他用事の為丸で勉強出来ず、又夜分は眠くて	
			少しもせず。	
		9	午前、ラリタ講白山謙致来る。降雪1寸積る。白山君より宗教雑誌を送られ、これを読む。比較比較	
			宗教学会の記事あり。洋筆2本2銭。	
		10	蔵文典4、5頁読むのみ。外に一定の課業をなさず。先生名古屋行き出発。入湯。夜分、春谷へ宛	
			て春谷、兄上、父上へ3本の書状4匁出す。但し1封。兄上へ本山年中行事を郵送す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	1	11	枳書出(改二)12枚。桜井、中島来訪。皆乗より書面着、返信を認む。皇太后陛下御不例の号外	
			発行。午後5時50分崩御。法言、善徳寺より葉書着く。「英魯文反省雑誌」Vil.XII.No.1の寄贈を受く。	
		12	本日、午後3時頃崩御の号外出る。午前１１時中島氏へ行く。佐竹得成に面会し、御開山聖人伝	
			を聞くこと委し、蓋し、日本第一の明細博識強記の人なるべし。祖師の伝掌を見る如し。7時帰る。	
			上田来る。都新聞、皇太后不例の報を国へ送る。皆乗へ手紙2銭、善徳寺、麦生へ葉書出す。	
			都新聞1銭5厘。5厘切手1銭。	
		13	時事新報2銭5厘、皇太后御記事あり、国へ出す。枳附書(改三)書込み10枚。	
			昨日より「世界に於ける仏教徒」第二編著作の精神を発し大に計画す。桜井来訪。反省雑誌欧文	
			出来寄贈せらる。浄蓮寺寺史起稿の念を起こし大に計画す。	
		14	枳書出(改四)書込み6枚。「世界に於ける仏教徒」の稿を起こし第一章宗教革命の気運至れりを	
			草す。西依、京都より葉書送る。昨夜降雪、今朝6寸積る。浄蓮寺寺史第1檀より第7段まで編纂す。	
		15	枳書出(改五書込み)12枚。連雨、区役所に2度行く、道泥す。石田喜三郎氏、安藤鉄腸外2名、	
			右2通葉書着す。南條博士より「無尽燈」第3編15号を戴く。	
		16	曇、午後晴れ。電報打ちに行く。国へ葉書を出す、国旗のこと。寺史第八暖り12段まで稿を続く。	
			中島氏来訪。	
		17	寺史、新たに第3・4・5・6段を書く。8時発、小石川長町109久松閣に恒山君を訪い、白山前に酒生	
			訪問せんとす。境野訪問。傳中松田へ正月礼に行き餅を頂く。初音町に口道庵旧跡を訪う。	
			神社の遠望を試み築地1丁目2番に至り芝口平町3、麦生を訪い、午後8時帰る。	
			麦生より書面着く。昨夜大地震。菓子代20銭。	
		18	白山君、京行きの為東訪問。寺史続稿第15段まで書く。雨降り第13段より。掛紙一条2銭5厘。	
		19	午前、先生名古屋より帰宅。御話を承り、又電報来り京状大に明なり。中山理賢へ葉書を出す。	
			「枳橘易土集」26巻終る。印千本部終る。その間123日を費やす。但し、休日を除く。寺史続稿。	
			寒冷雪少々降る。	
		20	枳附書き出し5枚。寺史続稿。南條より色々改革談承る。岡田良平来り。井上円了氏より井上伯に	
			本山鎮圧を頼む件。	
		21	桑門氏へ書面出し2銭、厚演上辞職を申し送る。古田君来訪、大いに朝鮮開教篇等を論ずる。	
			寺史続稿。夜、上田来る。本山、上田へはがきを出す。ホヤ4銭。	
		22	キフ4枚。寺史序文書く。	
		23	キフ4枚。3巻始める。寺史附録編。本山より余を中学寮舎監に招聘するも不応。午後8時から	
			9時迄大井君。新井屋焼失、28日の朝知る。	
		24	午前寺史完結。〇午後、弥生館経緯会へ行く、会費5銭。〇北条太洋の処に寄り、本田、小林、	
			境地、予と5人で大会食。明清寺より書面着く。東光（朝鮮）よりはがき着く。「浄蓮寺寺史」を	
			完成する。	
		25	キフ3枚。客あり。書面を確認する。	
		26	キフ2枚。白山より、はがき着く。安藤鉄腸へはがき答飛檄。麦富へ書面。築地へ書面。剃髪。	
			白山へはがき出す。切手代4銭。剪髪第6銭。	
		27	ラリタ写。晩芝兼房町菊池へ行く。本日、正午出発京都へ行く。山口という人に面して帰る。	
		28	白山君よりはがき着く。兄よりきがき。２６日大井谷、新井屋火事通知あり。又、金受取る。キフ3半。	
			白山来訪。京都行きの話を承り大いに本山政策を談話する。食料3円。中央金庫入れ5円51銭9厘、	
			迫奥開拓費として。	
		29	朝、愛宕下町より書面着く。先生揮毫待てり。本山政論を談せり。キフ2半。「仏教講話集」(29年	
			夏期講習会掲載)を南條博士より戴く。	
		30	孝明天皇３０年祭阿弥陀経読誦。「梵文大経」再読始める。南條先生直講。安本、麦生来訪。	
			入浴中。高楠、奏来訪、先生と共に4人宝洋食亭に行き種々の談話を聞けり。キフ1枚半。	
			大井谷、新井屋（火事見舞出す）。「法之雨」109号を南條博士より戴く。	
		31	朝鮮京城本願寺別院東光憲雄へ羽書出す。大和国高市郡今井町御堂筋西、藤堂哲へはがき出す。	
			上田来訪金を渡す。斉藤繁人より書留着く。芝区愛宕町2丁目１３番、伝染病研究所へ書面出す。	
			午後４時。三省堂主人亀井氏来訪。	
			夜より降雨で寒し。切手3枚4銭。中央金庫入れ30銭。今月総計9円81銭9厘。「教界時言」第4号	
			を南條博士より戴く。	
30	2	1	雨天。水野より革新事情印刷通信3枚郵送される。麦生政一より羽書着く。	
			松の月　雁のたよりや　鶴のくび	
			キフ1枚半。昨年の今日頃は雪を冒しめ麦富を訪ね、東上の相談快悟中なりき。	
		2	午前10時発、泥土を冒しめ青山に至り12時。恐れ多くも皇太后殿下の御発柩を拝送し、	
			上る道中及び青山にて4回も涙す。白山謙致へ羽書を出す。北条太洋君、もなか5銭。羽書10銭。	
			「反省雑誌」12年1号、を購読する。	
		3	及び青山にて4回も涙す。〇白山へ羽書を出す。〇北条太洋君来訪。	
			来訪。反省雑誌着く。白山より羽書。水野より羽書。文まなぶ学者も、	
			今はぐちこぼす。羽書5銭。	
		4	芝区病院より羽書着く。反省会より羽書着く。村上氏、大学生4人、来訪。古田君来訪。	
			中河内、政一、水野、明清寺、反省会、以上5通の羽書を出す。大経梵講一時間、第2回。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			西依一六へはがき。「ツヲンクハパ」の傳訳を始める。筆、歯磨き楊枝4銭5厘。	
30	2	5	郵便局行。梵大経第3回、1時間3項まで。キフ3枚。入湯。白山へ葉書出す。	
		6	キフ3枚。白山より羽書着く。三省堂(亀井社長)より「和英大辞典」を頂く。梵大経第4回。	
			高楠歓迎会費及び写真35銭(経緯会主催)。上野より帰途紛失1円90銭。	
		7	午前、白山来り「ラリタ」遣る筈の処、来客の為なかりき。午後、上野公園顕松亭に高楠順次郎の	
			歓迎会あり、35～6人写真撮る。白山同道往復。	
		8	日曜休業。上田、麦政、金を受取りに来る。午後、法苑珠林など読む。渡辺海池、水野へ2通	
			羽書出す。種痘しらべ巡査来る。角砂糖、豆8銭。	
		9	キフ4枚。大経梵第5回。	
		10	キフ1枚。大経、村上専精講第6回偈文。午後8時築地より書面着く。夜、麦生来て金を渡す。	
			＊「蔵のうた」25句を詠む。白足袋代14銭。	⑩483P
		11	「ラリタ」あり白山来る。近辺用事。先生より法主(親展書差上げらる)。皆乗より書面着く。	
		12	朝四時半、四ッ谷大横町火事。古田の立花、中島夫婦、大場、白山、家等の客来たりて報恩講取り	
			延べ執行。夜6時散会。晴れ。〇〇〇は小人也。今日2回、高楠と中島に向いて、予を暗にノノシル	
			くそ馬鹿めが、はらが立ってたまらぬ。	
			「仏教」123号を購読する。	
		13	キフ2枚。登初(注4)へ書面出す。下調に感心するときのなし。予は今日求むる処は只徳者なり。	
			今日の世には一人もなき目白の訪れんと思う心7・8年前よりあり。これ一つのみ、前は外国のみ。	
			切手6銭。羽書2銭。先月反省会取替消(電報)15銭。	
		14	渡辺よりはがき着く。梵大経第7回当具説、これまですむ。その後は郵便局へ小使、風呂等の外は	
			墨摺りにまるまる。夜10時まで何の始まる処なく暮らす馬鹿らしきこと限りなし。嗚呼天向う尤情な	
			る何う予に不幸のみ多きや人世人世ああ、いや、いや、望みは、一つも叶わず馬鹿の目に逢う	
			ばかりかなしきの至り也。	
		15	キフ2枚。好天。先生京都へ出発。谷了然来訪。本日、白川7人を罰す。上田、麦生へ金を渡す。	
			北条来訪。晩北条に行く。	
		16	キフ1枚。麦生冨郎へ書面出す。斉藤竜作へ葉書を出す2銭。ペン先2本、掛洋箋5銭。状袋1銭5厘。	
		17	郵便局へ行。四谷火事あとを見に行く。キフ七枚。大勉強。大久保左南に行く。10時まで談す。	
			国目を出。水野より書面着く。郵便切手2銭。	
		18	宮島富三よりはがき着く。火鉢を本日廃す難。キフ6枚勉強。井上円了氏へ幽界物話を郵送。葉書を	
			井上円了氏へ出す。斉藤より書面着く。文章したたむ。風晴。キフ4枚。中嶋氏来訪。	
			筑地へ書面出す。風晴。	
		19	キフ6枚。「ラリタ」写5項。大経英写5項。大に雪降る。午後3時頃より	
			始める。済生よりはがき着く。	
		20	キフ5枚。朝、地震5分余間ゆれる。大英2項写す。晩、北条太洋の処に行語話。筑地より	
			通知あり。はても妙驚いたり、なをもいづけなきへんじのはやさ読み了りて、へんな心。	
			政一よりはがき着く。風呂2銭。ビーン3銭。菓子5銭。	
		21	キフ5枚。長々の「枳橘易土集」も、ようよう本日を以て千秋楽を告ぐ。午後、榎本館に高楠訪問、	
			反省会のこと蔵行のことなどを談す。反省会行長談快。掛紙80、筆2本15銭。ビーフ17銭。菓子3銭。	
		22	旭野外1人来る。桜井義肇来る。暗黒本願寺論を読む且つ批評す。	
		23	風邪甚し。兄へ書面出す。井上円了氏よりはがき着く。大経写本。上田来る。波佐地誌編する。	
		24	先生帰宅京都より。水野より本山革新報知を送る。井上円了来訪。散歩する。帰詠舎へ行く	
			も留守。〇外道哲学を読む。〇大経写本。ホヤ4銭。「波佐村地誌草稿」を自編する。	
		25	大経快写す。区役所へ行く。	
		26	水野より書面着く。写本大経。印捺する。其他屑々光陰矢のごとし。麦生来る語る種々。	
			経偉会よりはがき着く。水野よりはがき着く。	
		27	大経写本少々。午前、白山来先生風邪只語話のみ。半鐘門まで白山を送る。種々語話す。	
			水野へはがき出す。政一よりはがき着く。越中の上田某来り、改革の中傷説一時間半説く。	
			古田来る。夜、先生に字書及梵学に付忠告然たる恐見を申し上げる。食料3円。中央金庫入れ	
			30銭。神戸へ送り3円。	
		28	昨夜清谷よりはがき着く。今朝日本橋よりはがき着く。北条を今朝訪う。東山本山三幅対を買う。	
			午後、清谷来語、神田へ共に散歩する。菓子8銭。羽書2銭。9円96銭。	
30	3	1	大経講第8回1双12迄。北条来談。大学生4人来訪。おそく迄種々話しあり。	
			石川舜台氏の手紙。「無尽燈」第2巻壱号を南條博士より戴く。	
		2	春谷より書面着。水野より書面着。反省社より書面着。英文円労経しらべる。	
			入湯行。大経講第9回13より19双迄。晩、廣田来語。先生種々快語あり。湯行2銭。	
			「天台山勝境全図」を南條博士より戴く。反省会雑誌より書簡届く。＊南條博士へサンスクリットを	⑧下13-15p
			英文に翻訳するよう仲介を受ける。	
		3	麦生冨郎より書面着く。ラリタ講。3人客あり。麦生政一来る。勝珍氏手紙。改革報を送る。	
			切手明清寺など8銭。西依よりはがき着く。河上貞信、天竺より帰朝を報す。	
		4	大経第10回。大閉口。明清寺より書面着。日とめ改革の言文に接せざる事なし。うつうつ然たり。	
			白山より往復はがき着く。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	3	5	大経第11回。明清寺へ書面を出す。強風地震あり。石川舜台氏へ宛の厳敷南條の書面を読み	
			聞かさる。氏の強硬主義感じ入る。元教学部長辞任の強硬主義一対す。	
		6	先生式年本社行。湯行1銭5厘。先生の「諸行無常」原稿を写す。12枚。北条太洋に行く。	
			斉藤繁人より書面着く。反省会より書面着く。「反省雑誌」12年2号着く。	
		7	反省会へはがきを出す。〇水野へはがき。〇芝弥生館へ印度飢饉救助会に臨む、2銭。	
			芝浦散歩銀座三橋亭へ行く、30銭。北条、古田、予の3人。雨。いろは20銭。車10銭。	
		8	大経12回。赤松来る。雨。反省会へ書面出す。	
		9	大経13回88双済む。剃髪及び湯へ行く。降雨。北条へ行く。剪髪6銭。湯行1銭5厘。	
		10	兄より書面着く。迫奥の開拓を本日、着手すると云云。３月４日発。水野よりはがき着く。斉藤、	
			中河内、2本はがき出す、5銭。水野へ書面出す。ラリタあり崇議会々報を贈る。シャツ48銭。インキ	
			6銭。為替、切手5銭。「崇徳会会報」を白山より戴く。	
		11	蔵書調べる。月見来る。安藤、秦来る。	
		12	伊藤、吉本、天地、外に衆口員、井上円了先生、月見氏来る。改革午前10時より午後2時迄伊吹、	
			安藤来る。福井龍朝来る。中田門より書留着く。(麦生)政一へ羽書出す。北条へ羽書出す。	
			大経我建偈少々、第14回。	
		13	ラリタ。局へ行く。政一来る。湯行1銭5厘。上田来る荷物着く。洗濯12銭。印紙、切手6銭。	
		14	午前、梵文典日曜講義あり。大学生7、8人。午後、本郷傳中行、菓子10銭。晩降雨。松田へ20銭。	
		15	大経講第15回三誓終わる。国の兄へ書面出す。水野へ羽書出す。白山よりはがき着く。	
			局行、中島行、印捺し紙つぎ等うまく出来ぬ。	
		16	大経第16回。柳光亭へ石口、中村、桜、改革で行く。「仏教」124号を購読する。	
		17	彼岸の入り。晩、北条行、菊池謙譲来る。宇都宮紹介状貰う。大経第17回。中河内へ書面出す。	
			麦政一よりはがき着く。菓子5銭。	
		18	大経第18回。東洋哲学会より羽書。済生より羽書。経緯会より羽書。	
		19	大経第19回。雨小降。風呂、菓子4銭5厘。	
		20	午前、大学生講義。柏原来り。谷蔵行き助力の話をなし呉れる。ラリタ写本。降雪。	
		21	白山へ羽書出す、5銭。白山より羽書着く。白山より電報着く。白山晩に来訪。本日福口面談し	
			口を話す。	
		22	東洋哲学会羽書出す。石川舜台来上。大久保来る。明日京都へ行く。	
		23	御経書出一項半。清国より羽書着く。本月17日にて、凡そ、開拓済との通知也。大経写。	
			大に感ぜり精神入れかえたり。	
		24	石川舜台氏来訪。大口来る。深井隆三郎より書面。渡辺より書面着く。	
		25	先生に経緯会のこと社会常人の事等から、本山施政等を申し述べる。赤坂宇都宮の処、	
			政一より又未本代議士等へ行く。閉院式あり。渡辺、荻原へ羽書出す。深井降三郎へ書面出す。	
			白山へはがき出す。詠帰舎入学印紙1銭。	
		26	水野より書面着く。先生出立のはずが病にて延引となる。石川舜台より、京都行き同道、明日へ	
			延引を申して来る。羽書1銭。ペン先2本2銭。「東洋哲学」第4編1号を購読する。	
		27	雨。石川の宿林屋に行く。先生病の為延引。晩、北条来語せり。	
		28	強雨。経囲会羽書着く。本日、弥生館に改革に付会見も不出席。風呂行1銭5厘。	
		29	好天。榎本農商退任。	
		30	雨。政一来語。例に由って例の如し。先生病要中。水野より「改革通申」を郵送する。水野へ書面	
			出す。郵便切手5銭。倶楽部会費30銭。本月食料3円。	
		31	本月書出しは名集全インデックス九頁のみなり。外に大経和訳写51枚。先生本朝出立。	
			詠帰舎へ行。湯行1銭5厘。晩、北条太洋訪問改革語等を聞く。強風吹く。神戸補助1円。	
			今月総計6円64銭5厘。	
30	4	1	子安君へ書面出す。前晴・后曇。午後4時半詠帰舎東脩へ入学、1円。4月分月謝50銭。	
			言語集始めから習い始める。顔白し。6時半帰る。晩、近方散歩清及近諸多国、及湯さまし本を	
			購入する。時言社より「教界時言」5号を戴く。羽書5枚5銭。「清国及び近方地図」1銭。器具	
			4銭。状袋2銭。　※詠帰舎は、宮島大八氏が主宰する中国語学校である。	
		2	強雨。前写本。所感、予、立志三原は友人にして金蘭藤等是也。詠行(語話す)。能海登より書面着く。	
			「反省雑誌」12年3号着く。鉄道会議にて、広島浜田間は、「芸石鉄道」へ許可することに決定せり。	
		3	朝、強雨を犯して本郷傳中に行く。竜作、横浜へ行き不在。金講取り羽銭を頼む、政一も行き共に	
			帰る。上田により松本ビーフ行く3人分46銭。境地を訪ね、本山事件を談す。4か組納をして帰る。	
			この時夜9時。菓子代5銭。下駄直し14銭3厘。掛紙80枚10銭。同とじ本11銭。	
			朱及びペン先一個5銭。草書1本3銭。菓子代5銭。	
		4	中河内より書留着。水野より葉書着。昨日、出発帰国。午後、安本来談す、菓子5銭。	
		5	第一銀行へ行く。近方見物、32銭5厘。政一に寄り12時帰る。兄より書面着。北条来る。	
		6	降雨。昨夜二七不動の背火事見行く。＊南條先生より書面着く。榎本館の高楠へ梵本を届けるよ	⑧下27-30p
			う依頼を受ける。旅先より、降誕会の青海を想像する。胃腸病が再発したので貴宅の上了用した	
			い旨。反省より書面着く。反省へ原稿送る。はがき反省会へ出す。はがき高楠へ出す。	
		7	降雨。風呂1銭5厘。	
		8	午前、傳中行き羽織とりに行く。支那語行き休む。午後、降誕会へ行く、南條文雄、島地黙雷。大内青	釈尊降誕会

年	月	日	事　　項	参　　考
			巒、村上専精、20銭、夜7時散会。晴天。印度救済30銭。羽織合袷1円2銭。神田へ車代10銭。	
30	4	9	強雨。写本。詠帰行。	
		10	「大小二経梵和詔」写本終る。 製本代写本4銭。晴。詠帰舎行、(蔵見行、留守番也)。	
			大学のボートレースあり。明日専門学校。斉藤へはがき出す。荻原へはがき。	
		11	午後、新宿辺田畑の間を散歩する。羽書6銭。	
		12	荻原雲来来館。書出し。経緯会よりはがき着く。	
		13	書出し。風邪。蔵漸く開かんとす。	
		14	高楠、桜井義肇来訪。東洋哲学会よりはがき着く。剪髪13銭。	
		15	皆乗(登)より書面着く。雨降る。書出し。九州僧来る。ペン先3銭。麻裏13銭。「佛教」125号を購入。	
		16	皆乗へ書面出す。曇60度。北条太洋待居り。菊池謙譲を三番町に訪九段夜桜。	
		17	名経書出し終る。曇天67度。＊南條先生より書簡届く。	⑧下27-30p
		18	赤坂行くも留守。夜桜赤坂辺。「東洋哲学」第4編2号を購読。	
		19	雨天。東洋哲学会行。上野花見。水野から書面着く。「乱稿雑録」を作る。	
		20	百日祭に付学校休。夕方、宇都宮太郎大尉を訪問、有益の語話を聞く。支那より入るの便等大賛成	
			のとき福島安正大佐を紹介される。	
		21	□土開戦□は、この17日に□□布告。夜先生帰宅。	
		22	宗教学の必要原稿了。□□の□□第4集を読む□□。「法の雨」111号を南條氏より戴く。	
			「宗教学必要」自稿を作成する。	
		23	庭除草。水野へ書面出す。舎にて談。軍事出戦の件。秦来先生へ二条の内一	
			を申付けんとす。根本的改革の事を先生に語す。法主の懺悔□□。	
		24	ラリタあり白山来。晴天。ラリ写。□行。不快。今日屋中に波乱あり皆幾分の不快の念あり	
			あれくもり人心一同に感じるもの感所謂天地自然人間は小宇宙。菊池を訪問宴会帰る。マッチ3箱	
			13銭。「無尽燈」第2、第3号を南條博士より戴く。	
		25	内立宅午後、上田、栗栖来話、先に大久保辺散歩する。印紙2枚4銭。菓子5銭。	
		26	古田来て鯉上り建て殆ど仕事ならず。大経梵始む13編より。東京中学校寮長電報。訪問者小。	
			手帳一冊3銭。日本新聞2銭。「日本新聞週報95号」希臘地図、購読。	
		27	午前内院及びドウルヂャーバダーナの調べに費やす、午前、郵便局四谷に行く途中で馬車駄馬に	
			蹴倒され循去らる。山形某独立論本。	
		28	午前降雨。白山来、ラリタあり。夕、牛込蓬莱町3番地に福島安正大佐を訪問する。波斯、ビルマ等	
			の旅行語り支那両地のことなどを承る。この時、朝鮮人の張博氏居り、1時間ばかり話し帰る。	
			一寸菊池に寄る。神戸桑門君より書面着く。製本3冊7銭5厘。「梵文金剛経及般若心経対訳」、	
			「梵文楞伽経(第1巻)写」、「梵文方廣大荘厳経一巻」対訳。	
		29	伊藤大□来訪。古河へ書面出す。西村とか云う女来り大気えんを吐く。斉藤繁人より書留着く。	
			ホヤ及びカサ5銭7厘。	
		30	塩沢来る。上田来訪金渡す。倶楽部積金30銭。食料3円。今月総計9円43銭。	
30	5	1	午前三井銀行に行く。快晴、著物一枚を脱く。夜散歩して帰る。8時過ぎ近所茶屋の土蔵裏より出火	
			大騒動。国へ讀賣出す。先月中取替え未払16銭5厘。詠帰舎月謝50銭。讀賣新聞9銭。	
			切手6枚5銭。ピー2銭。	
		2	8時発、安本を訪い本郷へ行き、哲学書院、反省会、東洋哲学会、傳中夫より谷中花見等、初音町	
			中学等を回りて午後五時帰着。国へ太陽及新聞出す。太陽雑誌15銭。同郵送切手3銭。	
			東洋哲学雑誌3月より1年間60銭。菓子5銭。傳中へ御礼20銭。菓子6銭。	
		3	先生終日不在。本郷・子住の所へ行く。降雨強。風呂へ行く。宗教写す。学場宮嶋氏教授及会話。	
			新聞国へ送る。風呂1銭5厘。	
		4	午前印捺す。国へ新聞出す。午後7時、神田錦輝館に活動写真を見る。大いに感あり。一に曰く、	
			白痴教育、二曰くエジソンの大文明及平民的、3に文明的示威運動。活動写真及び下足代13銭。	
			「教界時言」6号を南條博士より戴く。	
		5	国へ手紙及び新聞出す。上半天白山来過る。ラリタあり。下半天月見及古田来大に改革派へ不平	
			を述べる。今晩是個。晴天。	
		6	9日迄春法事。浄蓮寺春法座。靖国神社祭礼。安本来語話。留守番。尺八。支那語臨休祭に付。	尺八
			＊登より書簡届く。卒業後は、布教教育を目指すという。	⑧下31-33p
		7	不平会勃起す。夜強雨降る。大経梵。妙蓮寺宛新聞出す。非常強雨、夜降雨。	
		8	曇うつうつ伏せたり。午前、ラリタ白山来る。『哲学雑誌』23年頃のか、加藤弘之氏が二宮径論、	
			学者か哲学者たるの評判常に有益なり写しとるべし。入湯。	
		9	午前、午後、西蔵学前には「予と西蔵」と題する記事をなす。午後より、「西蔵大蔵経目録概要」を	⑥89p
			訳出す。外出少しもせず。降雨。	
		10	反省会へ「西蔵国大蔵目録」原稿送る、切手2銭。茶の水橋八人殺し知れるとはやれはやれ寺も	
			近辺の蔵屋に縁あるものとは。	
		11	大雨。安藤弘君来る。秦君来る。晩去りざり。	
		12	白山来ラリタ。茶の水及岩井村の殺人等詳報出て読みて心持ち悪し。線香10銭。	
		13	「東洋哲学」3号を購入する。「宗教学の必要」を書く。	⑥183-188p
		14	平野来る。＊斉入より書簡届く。	⑧下35-37p

年	月	日	事　　項	参　　考
30	5	15	風狂。午後、経囲会を反省会にて開き行く。会費10銭納める。来者17、8名。月見、伊吹来る。	経緯会
			経緯会費10銭。先月分同会費20銭。豆3銭。風呂1銭5厘。＊「梵学11号」を書き始める。	⑥190p
			「佛教」126号を購入する。	
		16	午前、東洋哲学会に行き、井上哲二郎の蔵学の話あり。降雨。午後、青年会大会行き、会場設立	
			議決せり、会費10銭。	
		17	午前、書出せり。心中何となく不平。好天気なり。	
		19	77度。蓬来亭へ行く。「無尽燈」4号を南條博士より戴く。	
		21	子安氏着く。	
		22	白山来る。「ツヲンクハバ」を訳す。掛紙三条7銭5厘。	
		23	「ツヲンクハバ」伝書く。剪髪7銭。「日清会話　全」購入、35銭。	
		24	雨降る。萩原来る。「会報」浄土宗学友会3号を戴く。塵紙2銭。手帳3銭5厘。＊安藤弘より書簡届く。	⑧下35-41p
		25	黒下太下雨很雷鳴電射、天神さんも大ペケ。	
		26	蔵かへ。ピクニック1銭8厘。	
		27	古田来り、夜9時過ぎまで議論せり。	
		28	詠帰舎で宮坂九郎の支那行きの送別大会あり、会費35銭。	
		29	ラリタ白山来る。午前下雨。先生千葉へ行かれる。菊池謙譲を訪問留守。子安氏同道砂場行く、	
			10銭。降雨尻をからげて歩く。	
		30	終日在宅。真藤郵便未納4銭。	
		31	下女口帰る。78度。先生、子安と上野行。大経「インデックス」書出終る。大経東方偈終る	
			羽書10銭。法中頼母子掛2円。神戸へ補助2円。食料3円。今月総計10円87銭3厘。	
30	6	1	中河内へ書面出す。庵主来訪。上田へ金22円渡す。晴天78度。反省会	
			より書面着く。反省会へ返信出す。小経「インデックス」書出始なし。	
			反省会へ返信出す。小経「インデックス」書出始なし。花代3銭。	
		2	白山来る。月謝収む、50銭。運動中左足小指損く。80度。昨晩蔵立。「反省雑誌」5号購読。	
			「教界時言」7号、「報告書革新通申」を南條博士より戴く。	
		3	下半天下雨。近頃午後、毎日午睡す。穿上単衣裳。麦生へ金14円渡す。	
		4	毎日朝大経講義。大いに午睡する。75、6度。	
		5	74度。下雨。法話「ヂヤイナ教」を出す。尾揵子なりと可見。高下駄30銭。蝙蝠直し2銭5厘。	
			菓子5銭。「法の雨」112号を南條博士より戴く。	
		6	午後、安本、玉泉、同道し上田の所に至り、松本居にてB、43銭。Bにて分かれ、古田を訪ね、	
			非宗教学など7時迄語し、大雨を犯しめ三番町菊池に寄り、経緯会例会に付き話し、9時半帰宅。	
		7	非常に寒く62度となる。降雨。	
		8	本月経囲会例会当番、幹事、予と金とに付き本朝、本郷湯島に行く。夕方より雨降る。女児急病。	
			羽書8銭。	
		9	晴れる。67、8度単衣を合わせ着するに至る。山王山祭礼。「東洋哲学」4号を購読。	
		10	神戸登へ為替弐円添へ書面差出す。為替料3銭。曇天70度。ピクニック4銭。	
		11	国元にて、迫奥田新開田、大潰の牛供養により、数10宛の牛、鼓、五月女にてにぎやか田植え	
			見物をかくせりとの事。	
		12	午後、湯島麟禅院行。経緯会(積金1円・会費20銭)、田上追弔会、北条太洋送別会、予幹事5時	
			散会。三崎町まで大砲など相模へ行く、8銭。ビワ5銭。入湯1銭5厘。夜降雨。	
		13	在宅。夕方古田来共に砂場行10時過帰る。曇天。富郎へ書面出す。	
			「西蔵所伝釈尊入滅考異説」書く。「佛教」127号を購読する。	
		14	山王山今明日祭礼。好天80度。政一来る。安藤書面出す。「説教改善心理学上より論す」論文書く。	
		15	北条太洋来訪せり。	
		16	午前大経(「疑儀胎官五智」の章終わる)。降雨。先生名古屋、京都に向けて出立。	
		17	朝北条太洋に立寄り上野図書館行。図書館費5銭5厘。午前雨、午後晴れる。東洋哲学会より葉書	
			着く。岡野最中5銭。	
		18	午前7時発、北条太洋把刺、西爾国行き送別の為、新橋へ行き、8時15分汽車に同乗し、横浜着	
			直ぐ郵船会社陸上にて一休同社の小汽船にて、インプレスヲフチャイナ号に至り128号室乗り込み、	
			船内を一見、11時半帰り中食して、山手海岸通り散歩とき、同船、正午12時発船行を見認めたり。	
			大分花屋敷及公園にて、外人の運動等を見て3時35分にて4時半、新橋帰着。日中の田植あり。	
			霞が関より新橋へ車4銭。汽車上等6銭。郵船社まで車代10銭。小遣10銭。汽車帰都20銭。	
			風呂1銭5厘。	
		19	一昨夜、神戸より葉書着く。蓬莱亭3銭。	
		20	氷、ラムネ5銭。郵便切手6銭。芝濱館92銭。	
		21	午前、神田・岡本真一へ行く。北条の金渡す。午後、子安氏、同道三田白山にかり3人同道、芝浜館	
			至り、夜8時過迄快語。10時帰宅。猿叉10銭。楊子3銭。	
		22	午前、西依一六来訪。	
		23	午前、西依一六来訪同道三番町丁酉社に行く。3時過帰る。東洋学についての一文　雑録を書く。	
			夜九時より降雨。夜、高楠来スッタを貸す。河口慧海師西蔵に向う。	
		24	「西蔵文典」の訳を始める。午後、渡辺海旭来訪、西蔵話をなす。夜、宝亭に子安君と行く35銭。降雨。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	6	25	西蔵訳出する。雨降り寒し。	
		26	西蔵訳出する。曇り。	
		27	地震、安本、古田、高楠、奏、上田来る。真中、高楠のヨーロッパ風イヤニ気取る辺り、一寸オモシ	
			ロキ処なり。先生帰宅。	
		28	朝、白蓮社より西依一六、菊池大円の所に至る。「破塵問対」(占部観順著)を見る。	
			白山謙致へ見舞25銭。2回風呂3銭。	
		29	午前、石塚氏来訪、大いに化学的長寿養生御話しあり。非常に感動せり為に、今に日中の御菜より	
			断肉食勿論、朝も毎朝精進なれば、本日より精神也。夕食に鮎及「キュウリの酢物」も断然禁ず。	
			奏来る。白山謙致父病気見舞いに付総代として子安氏行かる。	
		30	朝、奥村女丈夫来る。円心朝鮮行しるし。白山よりはがき着く。本日大経読むはずの所先生病気に	
			付終わらず。線香14銭。食料3円。波佐倶楽部30銭。「無尽燈」5号を南條博士より戴く。	
			6月には、神戸補助出来ず何とも仕用なし。ここに其仕方なきことを付記する。今月総計9円47銭5厘。	
30	7	1	降雨。先月付落ち9銭7厘。	
		2	午前、大経梵読終わる。午後、市ヶ谷八幡辺を散歩す。白山君より手紙来り、実父宗英氏の死去を	
			聞かせり。昨夜6時死亡。降雨。詠帰舎月謝50銭。和筆2本4銭。「教界時言」8号、同附録「大谷	
			派組長人名」を南條博士より戴く。	
		3	午前、白山氏見舞い行く。午後、西依に行く。	
		4	広内より書面着く。京へ電打ち問い合わす。午後、経囲会白蓮社に開く(積金20銭・会費5銭)。	
			会するもの11人。夕方より古田、子安、予、3人宝亭、会費45銭。九段寄席(4銭)小清布引継、	
			正直堂行(名刺39銭)。10時帰宅大いに懺悔す。夏敷物2枚7銭5厘。＊白山謙致より実父の死を	⑧下49-52p
		5	朝、広内宛電報発し先生松島へ出発。ペン先5銭。	
		6	水谷氏、てんま町。ウイツリ島を発す、8月1日、總州勝浦に着す。京橋新湊町五丁目金十社、	
			水谷新六氏外4人。	
		7	冷75度。降雨、西依に行く。同道に子安3人青柳亭に行伯知の話を聞く。宴席費9銭5厘。	
		8	冷75度。先生松島より帰宅。梵本製本26銭。	
		9	曇天。砂場子安同道28銭。インキ5銭。	
		10	先生出立。子安帰国。西蔵国問題を書き始める。5厘切手2銭。	
			「太平洋源論」初号、「東洋哲学」、「佛教雑誌」を菊池より戴く。	
		11	91度。朝、出発上田、傳中(茶・盆礼20銭)、反省会にて中食、沢井来、安藤、西依8時半発、	
			9時半帰る。顔白し、洋の福も、話も、ゆかいの事多く聞く。晴天。兄よりはがき他着。	
			郷の迫奥未開田の田植供養報ぜり。はったい2銭。菓子5銭。紙1条2銭6厘。加藤博士祝賀10銭。	
			＊安藤弘より書簡届く。	⑧下53-55p
		12	松田傳中より羽書。麦冨より羽書。	
		13	降雨。「西蔵国問題」稿了。桜井義肇より「文学寮同窓名簿」を戴く。	
		14	兄より葉書。順覚寺住職死去の報、直ちに順覚寺へ葉書出す。90度巳上晴天。	
		15	向郷。砂糖・最中6銭。ピー2銭。	
			「佛教」第128号掲載、「西蔵国所伝釈尊入滅考異説」天頂山曇鞠のペンネームで掲載。	⑥190195p
		17	菊池君支那・朝鮮行きのため新橋迄見送る。麦生政一を訪ねる。晴天。	
		18	冨郎より書面着く。午後、安本玉泉来訪。6時迄語話。剪髪7銭。	
		19	麦岩より書留着く。麦冨へ為替入れ手紙出す、8銭。安藤、午後来訪種々雑談せり。ピー3銭。	
			曇後晴。土用入り午後8時。	
		20	雨。	
		21	雨。	
		22	雨。しま服90銭。1反及び仕立賃83銭。	
		23	先生の書の虫干しを始める。本日より好天。晩、本郷森川町、西依へ行く。	
		24	虫干し2。晩、西依行く。会者5人。菓子代5銭。	
		25	虫干し3。古田来り白川天神縁日行く。縁日費7銭。	
		26	虫干し4。国へ小包にて衣服を出す。兄へ書面出す。「亜細亜言語集」第一巻	
			4月1日始め、今日漸く終わる。小包24銭。切手2銭。	
		27	虫干し五。西依よりはがき。晩、丁茜社行柏原、西依、大円あり。27日不動	
			を巡り帰る。「亜細亜言語集」第3巻問答辺を始める。筆2本ほか5銭。掛紙2条日本道5銭4厘。	
		28	虫干し6。太平洋社へ「西蔵国問題」原稿送る。山口順太郎へ羽書出す。	
			「亜細亜言」第2巻は後に回す。切手7銭。	
		29	虫干し7。仏教学会へ原稿送る。23日より昨日迄満足の晴天。本日夕方少雨。	
		30	虫干し8甲。斉藤来る、上田来る。降雨。詠帰舎、今日限りにて夏休業とせり。	
		31	虫干し8乙、残を仕舞しのみ。〇蔵学す。〇岡本より書面着く。晩、神田上田、本郷安藤に行く。	
			金渡して帰る。曇、少し雨。倶楽部30銭。食料3円。神戸へ50銭。今月総計9円33銭7厘。	
30	8	1	朝より安藤来り快語。午後3時帰る。神田へ経囲に付き手紙出す。虫干し9。	
			実は、7月27日求む・8月に入る詠帰舎教科書『亜細亜言語集全2巻』58銭。先月付落ち31銭3厘。	
			内25銭は、香典。梅田へ郵便2銭。安藤共に、菓子、中食23銭。	
		2	政一来訪。梅原より書留着く。虫干し10。支那語学夏期講習を始める。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	8	3	暑天。午後3時より語学会。虫干し11。	
		4	前11時先生外2人帰宅来宅。午後白蓬社まで経囲会大いに舎是に付き議論す(会費8銭・	
			第3回積金20銭。)。「哲学館明治30年度報告」を麦生冨郎より戴く。	
			椀退会を申出ず。90余度大熱。哲学館報告来る。93度。斉藤へ為替及び切手5銭。	
		5	経囲会会是及び会員誓約書、並びに其説明書を作る。＊斉入より書簡届く。	⑧下75-81p
		6	天祐丸の記事あり。佐官来る。降雨少々。虫干し12。北条太洋ロンドンを出発す。	
		7	佐官。「太平洋洋論」2号を麦生冨郎より戴く。「東洋哲学」を購読。	
		8	伝中及び西依一六へ行く。	
		10	両国花火九段迄行(2銭)、橋の手すり落ちて死傷者あり。	
		11	虫干し13甲。梅田定君来る。本郷に行梅田同道、三田屋39銭。反省会に寄り帰る。93度。	
		12	口業史を熱心に調べる。虫干し13乙。佐官終わる。休口口休む。	
		13	大虫干し14。支那語休。93度。	
		14	大虫干し15。93度。夕方より強雨雷鳴。剪髪7銭。	
		15	梅田定、西依一六と共に、大円行夫より白山に立寄り、夫より山口に寄り泉岳寺(見物料7銭)に行き	
			銀座に往きて、大に個論を戦わし目鐘にて分れ、太平洋に寄り、9時帰る。下駄尾5銭5厘。	
			夕食二人20銭。Pet3銭。	
		16	白蓬社に行、経囲会場を頼む。父君23回の祥月命日と成る。まんじゅう、供え10銭。羽書2銭。	経緯会
			「佛教」を購入する。	
		17	虫干し16蔵量。ランプホヤ、カサ5銭8厘。	
		18	虫干し17。虫大尾。	
		19	午前、経囲会々是委員会、渡辺海旭、西依一六、境野哲海、梅田謙敬、予5人。午後、白蓬社にて	経緯会
			会議臨時会、会者8人。会員を定む。大いに議論あり。委員会・臨時会費23銭。	
			渡辺海旭より「会報」1号を戴く。	
			【経緯同盟会メンバー】 1.北条太洋、2.正木新、3.枚村廣太郎、4.海野詮教、5.境野哲海、6.西依一六、	⑭54-58p
			7.田上為吉、8.菊池謙譲、9.小林正盛、10.月見覚了、11.渡辺海旭、12.山口力磨、13.柏原文太郎、	
			14.古河勇、15.大久保格道、16.葦原雅亮、17.伊吹道暉、18.吉田友吉、19.本多澄雲、20.梶宝順、	
			21.花田凌雲、22.梅原融、23.桜井義肇、24.菅学応、25.清川円誠、26.能海寛、27.田嶋擔、28.金義鑑、	
			29.中島裁之、30.木山定生、31.菅眞海、32.妻木直良、33.佐々木恵瑋、34.梅田謙敬、35.旭野慧憲、	
			36.重田友助、37.鈴木貞太郎、38.高楠順次郎、39.古田復之、40.安藤弘。号外.大宮孝憲。	
			※会員は番号制で、寄稿された記事は、番号で表示。この内の11名が海外で活躍中。(能海寛資料)	
		20	午前、芝口辺斉藤の為行不在帰る。「午後『東洋の低気圧』文及『ツヲンクバパの異伝』2文を綴る	
			東洋哲学会に送る」。	
		21	朝より本郷森川町梅田謙敬、西依一六訪問。梅田と小石川植物園へ行く、4銭。父より書面着く。	
			「地学雑誌」9銭。	
		22	終日在宅。晴天。切手2銭。	
		23	梅田定、午後来訪。桜田門に御還御を奉迎。夫より永代橋散歩(2銭)、高楠順次郎を訪問、普通	
			の旧暦を語聞しめ9時半帰る。波佐地図製す経緯編。佐田帰る。	
		24	書出少々。屑々。晴天。水野より葉書着く。水野へ書面返信。冨郎へ葉書出す。	
		25	西依一六来語。大いに宗教学、経囲会、是に付き論じ共に砂場(西依と2人18銭)を経て丁酉社に	
			行く。「十鐵批判」を書き仏教へ送る。	
		26	書出し少々。切手4銭。	
		27	午前、西蔵図を写す。午後本郷西依一六、梅田定訪問議論、傳中へ行き斉藤の談話を聞き、境地	
			に寄り安藤弘に共に行快語密談。10時過ぎ帰る。高楠より手紙来り少しく不平の志起る。	
		28	斉藤繁人より葉書着20円受る。西蔵の蔵経アナリレスを調査。夜、強雨降雷鳴。羽書、切手5銭。	
		29	書出し方改正す。曇和。	
		30	書出し。晴れ。＊ロンドンより北条太洋書面を送る。午後、白山謙致、来訪、快語議論せり。	⑨66-69p
			午後4時より駒込真浄寺に経緯「仏教」会あり原セイミン、尺セイタン外、知人6、7人、高嶋大円を	
			訪い田中治六に訪い、夫より西依一六へ行き、桜井、安藤、渡辺、桜田等会の退会を本日処分	
			を決議し、10時半帰宅する。白山より「梧窓漫筆」を戴く。	
		31	210日。朝強雨。終日曇天。書出し。水野、帰国の旨神戸より聞せり。去る30日より経河屋来る。	
			神戸補助50銭。倶楽部30銭。本月付落ち分12銭5厘。食料3円。今月分支出総計7円8銭1厘。	
30	9	1	同大学北生今基督教調査中の中野君梅田の紹介にて来語、午前大いに談す。詠帰舎行。	
			半晴半曇。書出し。仏教雑誌1月より内払い50銭。ペン先3本3銭。	
		2	半晴半曇。書出。石村貞一来訪。夜おそく斉藤より非常の憐れの手紙を送る。紙3銭5厘。	
		3	午後、傳中へ(菓子5銭)行き斉藤と熟談。遂に彼帰国に決し金を用立。午後、帰途西依一六へ	
			行き(菓子5銭・石炭酸4銭5厘)梅田定と3人、大いに宗教哲学に付き研究其他快語。8時帰宅。	
			晴風。蝙蝠直し3銭。	
		4	強風外頭土大。書出し。晴天。西依一六等来る。梅田定、本朝帰京。斉藤神奈川へ出発。	
		5	降雨。午後、経緯会者5名で甚だ不振。経緯会費6銭・第4回積金20銭。夜、先生一行帰宅。	
		6	午前、雨を犯して竹橋、安本面会に行く。斉藤、広島へ着く。月謝詠帰舎50銭。	
		7	午前迄降雨。午後より晴れ来る。南條博士より「無尽燈」、「法の雨」、「教界時言」を戴く。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	9	8	終日強雨。経学伝終る。帰国に口乱あり。先生九州行新門の話あり。口口帰宅。	
		9	昨夜巳来、強雨雷鳴急。今朝より暑風となり、木を折り屋根を飛ばし、戸を放ち、雨も強雨被害少々	
			ならず。終日、其片付けに日を費やす。下駄直し1銭。	
		10	夜先生、予、三好、3人、九段より小川町辺へ散歩。九段下素行女義太夫行菅公公の段、寄席費	
			3銭5厘。花2銭。菓子5銭。掛紙100枚12銭5厘。	
		11	この夜三好帰国。	
		12	来客甚だ多し。石村貞一、井上円了等。龍出度発足。剪髪7銭。	
		13	森岡一週年忌。傳中に行き安藤弘、桜井義肇、西依一六に寄る。夜10時帰宅。晴天少々雨。	
			龍広着。松田へ菓子6銭。松田へ書賃20銭。	
		14	午前、日本橋萬町第百銀行へ行く。印鑑を失念して、午前2回往復す。降雨。公の段、寄席費	
			手紙書。白木屋1円71銭。倶楽部30銭。食料3円。	
		15	雨。中野来語。羽書8枚、切手一枚10銭。	
		16	雨。学校へ行く。中島へ行く。上田来る。風呂へ行く1銭5厘。旅行案内7銭。付落ち2銭5厘。	
		17	斉藤より書面着く。曇晴。カバン代2円。洋状袋5銭。吾妻楊子3銭。	
		18	午後、白山君を訪い夜9時帰宅。Pea2銭。	
		19	夕石川舜台を訪問するも留守。築地を巡り帰る。白足袋2足42銭。	
		20	降雨。茶入及び茶40銭。下駄5銭。付落ち13銭。	
		21	強雨さむし。午後、安本来訪せり。P3人3銭。	
		22	午前、麹局に行き、今朝着の龍作よりの為替受取又、本郷局に行く。同為替	
			の旧暦を語聞しめ9時半帰る。波佐地図製す経緯編。佐田帰る。上野の高楠順次郎に寄り6時	
			半帰宅。又上田にも寄る。国勢一般25銭。小供為掛紐7銭。馬車2銭。	
		23	11時発浅草本山にて石川舜台氏に面会蔵行の約、梵書出版の約、支那開教約、及社界問題等	
			の話しをなす。高楠を訪い梵学会設立を話し互いに考え整ことにせり。古田復之を訪い茶道等会語。	
			夜9時に帰る。林屋へ電話5銭。両替2銭5厘。地図宇品7銭。夜9時に帰る。林屋へ電話5銭。	
			茶台15銭。そば8銭5厘。菓子5銭。	
		24	大強雨。引籠り。夕方買物に神田行、富士平にて小政を聞く10種番(6銭5厘)、10時帰る。きれ3枚7銭。	
			足袋10足14銭。手帳2銭5厘。墨4銭。	
		25	午前5時発。6時、新橋発。汽車不通に付横浜にて朝顔丸1,525トン57号に乗る、3円。晴天。	
			正午発、伊豆崎にて夜に入る。新橋へ車22銭。汽車荷持12銭。汽車20銭。横濱車10銭。中食20銭。	
			ハシケ及び荷送り16銭。荷持込5銭。	
		26	熊野浦にて夜明紀州沖強雨を受、平穏にて午後7時、神戸着。強雨船中に寝る。	
		27	朝9時上陸登来迎強雨。麦冨来訪共に停車場に送り帰る。ハシケ及び桟橋12銭。人力車12銭。	
			神戸へ13銭5厘。	
		28	午前8時半発、須磨に古田復之を訪問。途中車死人あり夫に快語。晴天。瓦煎餅10銭。汽車6銭。	
		29	大々強雨、午後加之暴雨汽車不通。午後五時須磨発帰神。須磨宿料30銭。須磨人力車6銭。	
			汽車6銭。汽車1銭。神戸人力車7銭。	
		30	午前、水産博覧会見物12時帰る。晴天。水産博覧会4銭。瓦煎餅15銭。神戸21銭9厘。	
			今月支出総計7円93銭4厘。	
30	10	1	午前和田岬に水族館を見に行く。一見るべき価値あり。冨郎よりはがき着く。明石大風被多し。	
			国元へはがき出す。西依一六へはがき出す。汽船往復6銭。雑子、ビーン8銭。焼物花立1銭5厘。	
		2	好天。支那語復習。水野上京を伝へて、大いに困難。午後渡(布引)雌雄を散歩す。光雲寺へ	
			はがきを出す。	
		3	佐野の鉢木(時頼の潜行)。安宅勧進帳(義経運末)。大高源吾(伊勢分れ、	
			徘回)。老木の返咲(加藤、片桐、福島)。文覚上人(袈壊、那智瀧)。以上数号を読み終わる。	
			海岸通りを散歩す。好天。煎餅20銭。初へ足袋代、小遣20銭。付落ち27銭5厘。	
		4	午前10時千地着神。午後7時出立。10時半港出航隅田川丸460噸、180呎長、2円8銭。	
			ハシケ9銭。船中菓子5銭。晴天。豆5銭。煎餅8銭。	
		5	島度津朝飯。来島海峡中飯。伊予周防灘間晩飯。	
		6	午前1時門司着。2時馬関着。10時半出航。6連島中飯。大強風200人中180迄よい。7時半萩着。	
			10時出航。ビーフ及び貝缶詰2個28銭。浜田ハシケ5銭。車代7銭。萩にて柿3銭。	
		7	朝5時、浜田着。大湯屋へ行き、春谷登がおり大快語、散歩して宿へ。帽子1円25銭。菓子20銭。	
			※弟の登が仲立ちして、従妹の佐々木静子を引き合わせる。	
		8	有福行。入湯など32銭5厘。晩宿、大津谷にて説教。宿す。	
		9	午後1時発足。晩7時、波佐帰着す。未帰前書着落手。	
		10	築後、三池、南條先生へ書面。斎藤冨郎、水野斉入、西依一六へ葉書出す。羽書代10銭。	
		11	白山謙致、上田、子安善義、梅田定、古河勇へはがきを出す。荷物運賃13銭。	
		12	風雨。平岩へ葬式に行く。	
		14	＊安藤弘より書簡、「西依一六から突然の退会届が郵送されたことを知らせ、寛が不在で会も寂しき」	⑧下95-100p
		15	御命日。晩、小漆。	
		16	晩より報恩講。当山。好天気。	
		17	報恩講。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	10	18	報恩講。使僧。久保了温氏両御消具奉供。蓮如四百回忌待受一通。＊久留米から南條より書簡届く。	⑧下101-106p
		19	は(伴)使僧15銭。一通、久保了温教学根起しの消息。南條より書面着く。	
		20	浜田へ書面出す。春谷に晩泊に行く。＊「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」5首を記す。	⑭169p
		21	光東寺へ参る。	
		22	馬の原大原葬式。晩、竹の原へ法務。曇。	
		23	上来原、七条、久佐、和田。宿穴本(報恩講巡回のはがき出す)。ひるから晩、屋敷へ法務。	
			安藤弘に書面出す。	
		24	乙九日、中河内行く。大いに語しめ一宿。	
		25	中河内を出て、安養寺に寄り翠水君と論談。夫より上田、妙蓮室に寄り専光寺報恩講に参る。	
			この夜苅寺前火事。為替、郵便11銭。倶楽部30銭。	
		26	専光寺報恩講。半妙へ報恩講に行く。	
		27	専光寺老母法事、香資10銭。頼母子1円93銭3厘。	
		28	御命日。新宅へ報恩講。半場へ法務。	
		29	最勝寺参。	
		30	最勝寺報恩講。晩、斉藤に至り宿す。	
		31	斉竜と共に中河内に寄る。日中、休石へ報恩講び法事。藤岡へ法務。浜田より書面来る。	
			晩、藤岡へ報恩講。今月支出総計8円22銭8厘。	
30	11	1	在宅。春谷氏方につかる。后山清の法務逢い休務せり。羽書5銭。浜田雑費67銭2厘。	
		2	在宅。休務せり。	
		3	天長節。大宮(八幡宮)にて送迎会あり。夜、春谷氏に行く。	
		4	永代経。上来原の中田屋。	
		5	上片山、木原、権社。	
		6	朝事法事、権社。日中、竹の本。新打道見物。正午出発、4時浜田着。休息、入浴。6時夕飯。	
			6時半散歩。8時共に帰り九時迄談話。10時半帰去。	
		7	9時、松原外の浦行く。午前待受不来。午後1時半戸閉あり。午後、2時半浜田出発。	
			5時七条着幸三郎。	
		8	一里余り。堂ケ原。二反田。	
		9	町原。下廻り。	
		10	喜田には、今年3,000石の損。中大谷。下潰。	
		11	2里、和田徳田屋。福田権五郎。同作太。	
		12	1里、本郷の飯田安次。3里、坂本の平田屋。1里半、晩、宇栗の一ツ町。	
		13	前土曜の感。堂参、中間。「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」2首。	
		14	保養原朝。前の谷。日中、下向宿。「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」1首。	
		15	帰山。今田屋の葬式行く。昼より栗木田へ報恩講、晩迄。	
		16	落谷の隠居へ報恩講。晩、尻の切作右エ門へ報恩講。切手4銭。	
		17	朝より晩迄雨。橋ケ原三部経及報恩講。	
		18	高野村慶助へ報恩講に行く。微雨。	
		19	大谷村の原吉。英輔。梅次。晩、虎治へ報恩講。	
		20	日中より岡原(雄鹿原)、山田屋へ總佛報恩講。	
		21	朝、山田屋へ報恩講。帰山。七昼夜。晩、御内佛報恩講。降雨。	
		22	御正忌。石田屋へ報恩講、法事。強風あり。	
		23	山田屋へ報恩講。御正忌。強雨。	
		24	沖田屋へ報恩講。この夕、山頂始めて雪白を見る。	
		25	下の橋へ報恩講。	
		26	寄田屋へ報恩講、法事。	
		27	日中、妙蓮寺へ前僧上人23回忌に参り帰る。通夜を本年よりやむ。3時寝る。	
		28	降雨参者少し。斉入より書簡届く。	⑧下125-129p
		29	晩口城へ報恩講三部経。為替書簡13銭。積金30銭。	
		30	日中、石ケ淵へ報恩講。晩、下ケ原へ報恩講。少々雪降るも不積。南條より書簡届く。	⑧下131-135p
			今月支出総計1円19銭。	
30	12	1	朝、下手向原へ報恩講。日中、隠居へ報恩講　晩、川上屋へ報恩講。	
		2	日中、筏津へ報恩講。晩、木並屋へ報恩講。今朝始めて南條及び静よりの手紙を見東上を決定す。	
		3	日中、柏屋へ報恩講。春谷に夜三時迄話し込む。	
		4	休勤。静へ書面を出す。	
			＊「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」1作を詠む。　雪の下なる常葉の緑色をかえさで春をまつ	⑭197p
		5	晩、小国、室屋敷へ報恩講。	
		6	日中、柚根平田へ報恩講。日中、奥猿木。晩、栃の木へ報恩講。静出航する。羽書7銭6厘。	
		7	好天。日中、殿田へ報恩講。中間は移転不勤。晩、向金町へ報恩講。＊斉入より書簡届く。	⑧下139-141p
		8	朝事、順太へ報恩講。日中、横や。晩、間所へ報恩講。好天。	
		9	朝、天五郎へ報恩講。日中、泉屋。午後、間所葬式。晩、古屋へ報恩講。羽書1銭。木仏修繕55銭。	
		10	朝、藤井清一へ報恩講。日中、波佐谷。晩、数間へ報恩講。	

年	月	日	事　　項	参　　考
30	12	11	午前、下王里[大折]へ報恩講。午後、降雪を犯して海辺に出づ。道口厄本もれ宿。(大いに失敗)。	
			八時過ぎ帰宅寝る。出浜代70銭。	
		12	失望と安心を以って帰る。大いに雪あり3～4寸。午前、畑木。晩、表屋へ報恩講。＊登より書簡。	⑧下143-145p
		13	楮畑。新田屋。晩、上手へ報恩講。	
		14	下長沢へ報恩講。帰宅午後4時。大阪より(静)の書面見る。	
		15	日中　麦(生)冨、松原、本山へはがき。午後、川原小寄り。晩、竹屋へ報恩講。	
		16	風邪。晩、橋本屋へ報恩講。	
		17	風邪。晩春谷氏来り浄本寺ありビーフあり大に会食し、唄う三味ありゆかい也。牛肉20銭。羽書10銭。	
		18	朝、大阪及び南條氏へ書面出す。神戸、藤堂、美濃子安、古河へはがき出す。午後、3時出発。	
			才河内に止宿す。	
		19	松原斉藤に立寄り。晩、加計香川宿。瀧太人足。小遣5銭。加計宿茶代55銭。	
		20	7時半川舟発。降雪。午後4時半広着。かじや町、金野ツタ方宿。但し、別院に行き1時迄話し泊まる。	
			舟代40銭。荷賃3銭。金池へ宿、茶代23銭。シャツ62銭。	
		21	10時半、広島横川発、汽車中田舎くさくしめ行く。午後7時過ぎに着くべき物、遅れて9時半神戸着。	
			12時迄話して寝る。車8銭。汽車1円71銭。車神戸10銭。著物3円。張替30銭。毛ット2円。時間表3銭。	
			瓦煎餅47銭。汽車20銭。大阪車9銭。みかん10銭。羽書、袋9銭。	
		22	午前は買物に回り、午後4時三ノ宮発5時梅田へ着。直ちに、江戸掘南通4丁目20番本田治七方へ	
			行き、晩縁日へ散歩し帰って寝る。静子に面す、夜来床。車2人24銭。汽車54銭。＊南條より書簡届く。	⑧下147-148p
		23	午前9時過、梅田発11時京都着。下珠数池田に止宿。東山を(静子と)共に散歩する。水野に面す。	
			梅原融を訪問する。京茶代5銭。車2人10銭。木仏筆5銭。水野へ10銭。	
		24	午前、石川氏を訪うも留守。午後、梅田菅を訪問。二条辺迄行く。京極にて牡蠣飯、東山行く。	
			正木を訪う(静子と)共に宿に帰り大に語し。又正木来る。宿代2人30銭。下女へ10銭。	
		25	午前7時58分発、関が原大雪。名古屋で中食。午後5時、静岡着。大東館に投宿。12時迄語す。	
			ネズミ菓子を引く思いする。宿2人1円74銭。車4銭。洋車2人6円58銭。みかん10銭。弁当2個27銭。	
			千枚漬30銭。線香8銭。時間表7銭。宿代2人1円40銭。新聞2銭。弁当2個24銭。	
			東京車代30銭、内9銭は静子。	
		26	午前8時15分発、午後4時新橋着。(静子と)共に車を雇いて南北に分かる。南條方では報恩講中。	
			白山、古田、中島に逢う。切手4銭。静岡宿へ茶代30銭。	
			＊「阿里野まん満雲枕」に「発情歌俗作」を記す。	⑭197p
		27	午前10時半発し、牛込小石川を経て、松田を訪ねる。境野を訪い大いに談す。　安藤、桜井、西依を	
			を訪問して帰る留守及びし夜中島を訪う。才河内、石田、岡本、松原、神戸へはがき兄と古和へ	
			書面したため出す。食費3円。倶楽部積金30銭。	
		28	午前・午後にかけて春谷氏へ6枚の長文手紙を書く。内4枚は秘信也。今回東上の道中記たり。	
			午後3時投函する。切手、羽書9銭。	
		29	内に居て屑々寒気烈しい。晩、九段、東明館に行き上田訪門。佐竹へ葉書出す。足袋24銭5厘。	
			風呂敷19銭。手拭11銭。花、豆、筆など12銭2厘。	
		30	書出し。梶君へ、はがき出す。近角君来談。	
		31	安本玉泉を訪う。御前の御掃除荘厳をなして歳末の御勤をなす。今月支出総計29円56銭3厘。	
31	1	1	郵便切手8銭。ズボン下65銭。菓子、安本・上田5銭。蜜柑石本亭10銭。	
		3	湯豆煎餅12銭。	
		4	蜜柑煎餅17銭。	
		6	実業学校創立諸入費豫算書、実業学校経常費豫算書を記す。	
			「朝鮮国全羅道光州に設立すべき実業学校創立費並経常費御補助金御下附願」30.12.25付	
			真宗大谷派本願寺代表者南條文雄、外務大臣西徳二郎宛、本日を以て聞済となる。	
		7	菓子、白山氏へ20銭。	
		8	菓子10銭。砂場、西依氏共26銭。	
		9	伯刺西爾、北条太洋へ郵便10銭。	
		11	豆5銭。	
		12	煎餅5銭。豆2銭。	
		13	菓子5銭。菓子5銭。補助2円70銭。	
		15	黒、赤インキ、木筆2本10銭。	
		16	菓子3銭。	
		18	菓子と花12銭。倶楽部積金30銭。	
		19	月謝50銭。菓子代3銭。	
		20	豆3銭。剪髪7銭。	
		21	羊羹3銭。筆2本4銭。	
		23	芝浜館へ行く、74銭。菓子6銭。下駄38銭5厘。	
		24	切手代2銭。	
		25	切手、羽書10銭。菓子3銭。提灯12銭。「天頂山浄蓮寺境内図」を複写する。	
		26	豆2銭。	
		27	花など6銭る	

年	月	日	事　　項	参　　考
31	1	28	最中5銭。	
		29	傳中へ菓子5銭。手拭5銭5厘。菓子10銭。官話輯養5銭。	
		30	反省会1円12銭。安本来費など33銭。	
		31	食料3円。今月支出総計23円18銭。	
31	2	1	郵便切手3銭。白足袋15銭5厘。	
		2	倶楽部積金30銭。筆1本ペン先2本4銭。先月付落ち5銭9厘。	
		5	郵便切手10銭。	
		6	状袋1銭5厘。菓子3銭。切手3銭。登より書簡届く。	⑧下155-159p
		7	花王石鹸7銭。同入物3銭5厘。入湯2銭。詠帰舎月謝1円。	
		8	筆一本2銭。	
		9	手本21銭。	
		10	切手10銭。	
		11	筆、湯、豆6銭。	
		12	剪髪8銭。	
		13	菓子11銭。耳掻き3銭。	
		14	法言より、院内の様子を知らす書簡届く。	⑧下161-168p
		15	「佛教」第135号掲載「苦楽逆練」天頂山のペンネームで投稿。	⑥196-202p
		16	「梵学第13号」を書き始める。「梵漢英対照諸乗法数」を記述。	
		17	御厨子20銭。	
		18	「新宗大谷派講師譜」南條文雄編を写す。切手、Bean9銭。	
		19	斉入より書簡届く。	⑧下169-170p
		20	宝来4銭。寄席8銭。	
		22	湯2銭。掛紙二条、ペン先3本9銭。	
		23	東洋哲学へ切手2銭。	
		24	砂糖5銭。為替、切手5銭。補助1円。	
		25	川蒸気3銭。Bean3銭。寿司5銭。汽車4銭。菓子5銭。ハンケチ6銭。ノートブック3銭。	
		26	羽書2銭。風呂2銭。	
		27	菓子、白山氏へ20銭。砂糖15銭。状袋2銭。切手2銭。	
		28	菓子5銭。菓子5銭。洋紙3銭。食費3円。今月支出総計7円72銭9厘。	
			波佐倶楽部積金満期7円20銭。	
31	3	1	切手、羽書7銭。しるこ9銭。	
		3	食事3人38銭5厘。法言より書簡届く。	⑧下189-192p
		4	西依一六送別会を開く。会費1円。筆4銭。口柳、口費15銭5厘。羽書5銭。掛紙10銭。風呂2銭。	
		5	経緯会例会、会費5銭。Bean5銭。月謝詠帰舎1円。経緯会第2期第1回積金50銭。	経緯会
		8	切手2銭。	
		10	Bean4銭。	
		11	法言より書簡届く。	⑧下199-201p
		12	洋紙、木筆、ペン先12銭。切手10銭。菓子代10銭。	
		14	羽書4銭。	
		16	剪髪7銭。Bean3銭。	
		17	切手5銭。下駄の鼻緒2銭。「梵学廼13号」に書き込み。	
		18	「梵学第13号」に書き込み。	
		19	紅梅6銭。	
		20	菓子4銭。ペーパー6銭。	
		23	葉書5銭。	
		24	菓子5銭。状袋4銭。	
		25	新々文詩1銭。歯磨粉10銭。シャツ63銭。足袋24銭5厘。菓子5銭。かけ上田共8銭。九段12銭。	静子同伴
		26	洗濯仕立23銭。風呂2銭。洋食85銭る	
		27	目鏡迄6銭。浅草迄馬車上等8銭。写真35銭。菓子5銭。菓子5銭。達磨15銭。馬車6銭。	
		28	切手4銭。子安善義あて書簡を発出。	
		30	菓子5銭。切手、葉書10銭。食料3円。付落ち7銭6厘。	
		31	今月支出総計10円79銭1厘る	
31	4	1	詠帰舎月謝1円。経緯会第2期第2回積金50銭。	経緯会
		2	三管筆10銭5厘。	
		3	下駄前皮6銭5厘。人力及び馬車19銭。寄席15銭。	
		4	湯2銭。掛洋紙2帖7銭る	
		5	Bean3銭。	
		7	馬車、日本橋より上野6銭。菓子、斉藤へ5銭。菓子、松田、内へ15銭。	
		8	剪髪8銭。風呂2銭。車も降誕会14銭。Bean3銭。	
		11	靴皮直し10銭。菓子、古田、九段10銭。洗濯3枚11銭5厘。	
		12	池上へ、静子と2人で出かける。一泊して「池上にとまる」の歌を書き残す。池上行、菓子、汽車中等、	⑭198p

年	月	日	事　　項	参　　考
			宿料、茶代、車など4円91銭。	静子同伴
			【池上にとまる】	
			さいた桜江向嶋　　花の主とハ手をとりて	
			新橋たって大森に　　さらに池上さしてゆく	
			明保の桜のなが免るハ　　羽田の海の鴛鴦が	
			こころ一つに身はふたつ　　まことつくしの水あそび	
			とふく見ゆる遠げしき　　あの雲こゑて外国の	
			遠き旅路にたつわが身　　今宵ふしどこひとつねハ	
			志ざし己られのなごりをし　　羽田の鴛鴦ハ池上の	
			鐘にゆめをぞさますらん　　森の取はとくおきて	
			あそひさし込む明保のの　　あまどひきあけをき出でて	
			西と東にユくる身の　　その行末ぞいぢらしや	
			浮雲の　たよのなき身の　行末に　いづくの山ニ　かかりいてなり	
31	4	13	切手2銭。食費3円。	
		16	そば20銭。	
		17	経緯会例会、会費10銭。写真10枚1円54銭。菓子、井上円了氏へ50銭。菓子5銭。湯2銭。	経緯会
		18	切手、鎌倉2銭。汽車市ヶ谷より2銭。	
		21	ぬめ76銭。古画箋紙12銭。葉書8銭。ピスケット、白山へ40銭。硯箱(芝勧工場)、南條先生へ2円。	
			菓子皿28銭。花かんざし41銭。造花15銭。著筆11銭。足袋三足52銭。蝶造物5銭。車22銭。	
			夕食、安本共42銭。	
		22	羊羹、藤村へ14銭。車7銭。楊枝8銭。Bean、小遣7銭。菓子皿20銭。切手2銭。菓子10銭。傘1円8銭。	
			汽車3円29銭。帰途に着く。	
		23	弁当など29銭。京、車7銭。「梵学13号」に記述する。	⑥236p
		24	下駄38銭。威儀8銭。白山謙致より書簡届く。	⑧下231-235p
		26	剪髪8銭。湯1銭2厘。	
		27	本山大閣上り10銭。宿へ30銭。宿料2円。車7銭。郵便4銭。	
		28	汽車2円57銭。汽車中小遣20銭。車6銭。宿35銭。小遣10銭。	
		29	路費10銭。	
		30	加計宿代27銭。東京菓子皿80銭。広島宿へ10銭。京にて下駄14銭。今月支出総計32円33銭7厘。	
31	5	4	6時発、10時乗船。午後5時出帆。	帰途に就く
		5	5時、御前崎夜明け。午後5時、四日市着。8時迄停車場に待ち吉岡に投宿。神戸に葉書出す。	
		6	7時半発、11時、草津着。子安へ葉書を書き出す。2時着京。春日学寮を訪ねるも留守。桑門も	
			留守。梅田を訪問し桜井に逢い東寺へ行く。梅原に逢って菅学応に面し学応に分かれて鳥羽	
			亭に4人で会食。帰りに、春日を訪ね共に宿に帰り談話する。	
		7	朝、本山両堂参詣。直ちに、渥美、桜井を訪ねる。留守と病中なり。8時より五条から京極まで	
			散歩する。	
		8	神戸に立寄る。	
		12	「東洋哲学」第4編第3号掲載、「宗教学の必要」を投稿。	⑥183p
		15	葉書代10銭。南條より書簡届く。	⑧下241-243p
		17	切手40銭。	
		26	谷了然より、開教事務局を来月上旬に開く旨の書簡届く。	⑧下261-264p
31	6	4	為替書留18銭。	
		5	「天頂山晩鐘」、「発情歌俗作す」を詠む。	
		6	郵便8銭。書留14銭。羽織、袴、帯、足袋14円。西依一六より書簡届く。	⑧下265-p
		16	斉入より書簡で、病気入院中と伝える。	⑧下269-273p
		19	状袋5銭7厘。	
		23	斉入より書簡届く。	⑧下275-279p
		26	斉入より書簡届く。祝いには帰らない旨を伝える。	⑧下281-284p
			石川舜台より、8月上旬見込との書簡届く。	⑧下285p
		29	佐々木静子と結婚式を挙げる。	
			南條氏より、石川氏より承るところ、支那行は早くて8月中也。出発前には、今一度、東上をと書面。	⑧下294p
31	7	16	「浄蓮寺蔵書目録」の編纂に取り掛かる。	
		21	名古屋より南條氏から「兎も角も大奮発し事なれば初志を貫徹」との書簡届く。	⑧下317-323p
		28	「浄蓮寺蔵書目録」の編纂を終える。分類を7種類に分ける。 1.宗乗之部(天函・玄函・黄函の3箱)、	浄蓮寺蔵書目録
			2.餘乗之部(地函・黄函甲乙丙の2箱)、3.漢籍之部(宇函・宙函・へ函・ト函の4箱)、4.国典之部	
			(壱函・2函・参函の3箱)、5.宗乗末書之部(イ・ロ・ハ・ニ・ホ・ヘ・チの6箱)、6.雑書及勧之部(四・	
			五・六の3箱)、7.當用之部(龍・蔵の2箱)。御堂用書之部、石峯文庫・別冊図書目録1冊、別函文庫	
			と詳細に分類。合計24箱。目録所載書籍数860部、1,757冊。他に雑誌120冊。本山報告書数10部。	
31	8	5	小遣56銭4厘。静子衣服代6円50銭。	
31	9	6	安藤弘より書簡届く。東上時期を知らせてと伝える。	⑧下331-333p
		8	南條より書簡届く。	⑧下335-339p

年	月	日	事　　項	参　　考
31	9	12	斉入より書簡届く。	⑧下341-343p
		15	石川舜台より書簡届く。	⑧下345p
		22	才乙村岡田所蔵の「岡本家系図」を謄写する。「専光寺世代記」を記す。	
		24	「先祖系図大略」完成する。	
		30	「波佐史私考」草稿完成。※波佐の中世史、近世史を纏める。	
31	10	4	半晴天。6時晨起。勤行終り、8時出発。数10名見送。浄蓮寺を出発。馬の原虎若にて、春谷氏、	渡清日記③221p
			志津(静子)、寺田、尻の切等々に分かれ、11時麦生着。妙蓮寺(4)に立寄り橋山を経て杉原、金崎に	
			立寄り、上田の事に関し談話。弁当して3時発、6時半加計香川着。年回に付き、隣家に宿す。	
			静へ私書。行程8里	
		5	曇天。朝6時、加計発。2時半広島着。川里18里(新道12里の所)。直ちに6丁目桑門氏を訪問。	
			5時半帰宅。池田氏所にて晩餐に預り。岡本法幢、麦生冨郎へ2本葉書。直に車にて横川停車場	
			に至り、6時57分夜行。191哩。	
		6	晴天。朝4時59分、神戸着。車にて江谷へ回りて登の新宅へ6時半着。中森隠見へ葉書。	
			午后1時2分、三の宮発3時20分京着。47哩。下珠数池田屋方投宿。夕方、水野来訪。入浴。	
			新佛、御願等金相渡済。夜菅君を訪問し、8時半帰宅。就寝。	
		7	晨朝、本山参詣。両堂拝礼。朝、石川氏留守宅を訪問。9時、本山出願。出京届を出す。	
			「今回西蔵国探検の目的を以て、清国へ渡航内定」通知を本山へ差出す。	
			太田祐慶氏に面談。数日の内、3手続を致すに由りて、東上可致旨談話。外務省へ機密よりか成田	
			安輝探蔵の計画ある由。午睡、入浴。南條氏へ葉書を出す。本山へへ招状を返戻す。午后、菅君、	
			水野、淀淵来訪。菅君と囲碁。晩食を終へ京極、四条辺へ散歩。分かれて9時帰宅。	
		8	本山参。少雨天。午前、本山泉湧寺門前に春日祐君を訪問して東京松田の用事を済まし11時帰宅。	
			午后、午睡。国へ新聞及び葉書を出す。叉教学報知を見る。本日、後藤及び伊藤、渡清の由。	
			水野新聞持ち来る。夜、和田康道君(本山役員)来訪。	
		9	好天。本山参。午前、太田祐慶を訪り語話せずして帰る。菅君来訪。昼食を共にして共に午后、	
			二条、川上貞信氏を訪問。西蔵談。非常に盛んにして甚だ快。二条より汽車で七条に5時帰る。	
			菅君この記を作る。夜、春日来訪。松田送り金5円預る。水野、麦生冨郎より書面着す。	
		10	好天。本山参。太田を訪う。昨日東上決す。本日、摂光院渡韓と成る。四条散歩。国へ新聞出す。	
			夜、菅君訪問。共に四条京極行、狂言を見る。	
		11	好天。朝、西本山参詣。大橋敏君に面会。大学林に大久保、及紀開蔵両君を訪問せり。「西域記」	
			を読む。内務大臣付石川舜台、監獄布教宣教師問題、文部大臣、民主同間、新紙上八ケ間敷、	
			本山寺務所に行、石川帰山。太田に面談す。東京行は取やめ。	
		12	石川舜台師に面談、上海行に決す。寺務所で太田に逢い、寄留の事を話す。松見録事に逢う。	
			今日、皇太子殿下京都行幸奉迎、東西並に各宗派管長玄関前に奉迎せり。此夜、西蔵国探検に	
			付、見込書を認め、凡4枚かく。家兄及静宛書、書認め夜10時半寝る。	
		13	本山参。家兄宛書面出す。近況を報す。静へも同封。西蔵探検見込書　第1目的、第2通路、	
			第3西蔵、第4言語、第5年限、第6費目(及追加)、履歴を編纂せり。晩、和田康道君承事を訪ひ、	
			大に談話、おもいつくして9時帰宅せり。天気。	
		14	朝参詣。巧如上人御祥月。見込諸書き終り、本山寺務所に行。太田祐慶に逢い見せ預け置く。	
			午后、本山御逮夜、夜参る。南條師より葉書着。国元へ報恩講に付、両御前へ香を呈送し、	
			叉葉書を出す。名古屋在南師へ書面出す。天気。夕、北方茂氏を東洞上珠上る米沢に訪ひ、	
			氏は肥満、45、6の年業、支那通を以て任し、本山渡清生を卒ひらるる由、29日頃出発。	
			夜、松見得聞録事を訪問。快語10時を過ぐ。大に本山政論(15)をなす。本山の弱点を論破。	
			其他諸事を語す。安藤弘君より深切の書面着す。出雲路を訪ふも留守。七条辺散歩。	
		15	西蔵達頼喇嘛教主獅あて親書を大谷法主が書きあげる。	
			朝事。日中、参詣。「講師譜」写す。国へ教学報知及新聞送る。子安兄より書面	
			着す。毎日、毎日不平不満。鬱々として不快。愉快ならざるはなし。夜、静へ近状及将来の事及	
			心得等を認め、親展書を郵送す。散歩。高島大円を訪ねる。小香炉を求めて帰り、御夕事を勤む。	
			【親書】　　謹　上　西蔵達頼喇嘛教主獅座下	大谷法主親書
			大日本本願寺法主　　大谷光瑩啓	
			西蔵達頼喇嘛教主獅座下恭維教祺安吉福寿円満曷勝額慶西蔵自古仏教盛行風俗淳僕唯因山河	
			遼遠交通不便未曾聞有敝邦人到境観光者洵為可憾本寺茲遺派能海寛親問教主安好并究教法之	
			源流考経文之異同口員始到貴境未通人情風俗而探教求経之業固非容易如蒙茲航指導保護遠人	
			俾伊得窺一班則不啻本寺之幸實斯教之幸也粛此佈懇并請崇安統希慈照不戩	
			大日本本願寺法主　大 谷 光 瑩　　印	
			大日本明治三十一年十月十五日	
		16	朝事参詣及朝事勤行す。安本秀人君、御影御供に上京面語す。太田祐慶を訪ふ。北方蒙氏あり。	
			共に大に支那事情を語す。今明の休日中に書類相しらべて、18、9日頃迄に何とか決定の運び	
			に致さん事。予の見込書は広陵録事の処にありとか。	
		17	本山参詣。覚泉寺へ出逢う。国元報ー為め、晨朝、御勤めをなす。昨夜より本山寺務意見書始む。	
			神嘗祭。午前、水野来訪。大学辺の話しあり。午后、安本秀人来。囲碁せり。	
			夜、教学報知及新聞を国へ出す。安本を一寸訪問。8時半帰宅。夫より一時間報恩講勤行す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
31	10	18	本山参詣。晨朝、勤行す。安本の打敷を買に油利へ同道。意見書かく。	
			覚泉寺父子様来訪。水野来れり。意見書稿成る。五ケ条、数10ケ貢目、8牧なり。8時より停車	
			場及七条散歩す。夜、報恩講勤行。二昼夜の報終る。精進15日より4日間なし。満足に終る。	
		19	朝、覚泉寺父子を能登摠に訪ひ、3人共に出発。寺町、京極、三条、そすい、	
			南禅寺、木上ゲ場、知恩院、祇園を経て、四条より電車に乗りて12時過ぎ帰宅。春谷より書面着。	
			内は静義のみ。出立巳来の様子を知らすなり。水野に意見書を貸、並びに東京遊学を勧む。晩、	
			醒ケ井に伊藤上京や否を問う。未着之由。由て、西洞花上ル竹屋に財間を訪ひ、明慶次男、長	
			尾3人にて旅行に付快談せり。8時出て、安本秀人に寄り、御影荷物を造り手伝い9時半帰宅す。	
		20	雨天。12日前少雨巳来の雨天也。食後、本山参詣。寺務所で広陵に面し、成行を正す。今会計	
			部2回りありて、予も北京行は(北方10余名)廃止。上海、重慶行也。午後、長坂及財間来訪、	
			探蔵、意見、改革等語話。5時すぎに至る。晩、寺川を訪問。13年め。彼始め記憶せず。	
			后、おもひ出せる如し。7時、安本を訪ふ。8時58分。七条発、帰国見送る。御影15幅。軸物に付、	
			2円40銭払う。手荷物にて通らず。ああ仕方もなし。	
		21	岡本より葉書着す。好天。本山参る。意見書清書す。夕方、東寺へ参り、灯明をあげ、叉石をさすり、	
			両足をなぜ、「南無大師遍正金剛」を称へ、「三誓偈」を勤め、西蔵行の安全を祈る。	
			昨今の新聞及教学報知出す。	
		22	本山行休業。太田も不在。和田君を訪問。長く談話し、旅券の事を聞き、直ちに役場へ原籍之	
			証明、戸主の承諾の為、父の方へ願書と2本手紙を出し、新聞も出す。本日は時代祭りなり。	
			午后、御所、仏光寺等へ参る。夜、覚泉寺を訪ひ、談話してかえる。三好香山より葉書着。石川	
			舜台を罰せざるに決し、不当と認めずの返書。内務へ出さるる報を得。	
		23	本山参。石川を訪問。『世界に於ける仏教徒』及(12枚半あり)寺務改正の為献白「議案」を渡す。	
			一々見て受領せり。夫より、入蔵の難、至急取運びの事。旅券東上等の事を談話せり。1時間	
			斗り話してかへる。午后、覚泉寺来訪。新聞及教学報知を国へ送る。叉葉書を国元へ出す。	
			三好香山へ葉書出す。ステーション散歩。総会所へ参る。岡本重昌へ葉書出す。	
		24	本山参向。着代外命日歟。寺務所に行く。4時半七条帰着。水野来。総会所へ参る。	
		25	降雨、夜半来雨下(火曜日)午前、藤川君を中珠今井に訪ひ、山政改革等に付大に談論せり。	
			京都府下葛野郡大内村字八条26番戸　教学報知新聞社　申込所　京都市東三本丸太町	
			上ル七番戸　教学報知支社	
		26	好天。本山参。本田祐護師に逢う。午前、藤川君来訪。本山政論。役員品評等快談。午后1時、	
			寺務所に出つ。昨認めの届を出す。明朝迄、待つべし。確報致すべし。叉来月5日の船は多分	
			間違なかるべし。始めて要領を得て帰る。太田、広陵の2氏に逢て決す。米子出生録事と面せり。	
			由て届書は持かへる。長谷経丸録事。14才で後藤に従て浄蓮寺に来る。予、彼れの小僧幼少の	
			影響を覚ゆ。午後、本田祐護擬講を訪問。数時間語話。帰る。晩、総会所参。五条寺町五橋	
			辺迄散歩。	
		27	朝時参詣。好天。匠綽栄の命日。余間にて早引あり。子安君帰郷の葉書着す。午前9時発、覚	
			泉寺父子、財間、予4人、山科別院参り1時帰宅。午后、御逮夜参。晩、春日、水野、財間来語。	
		28	晨朝参。叉日中参詣。伊太利親王殿下来山に付退出。従者共3名。外随行あり。御勤めあり。	
			為に12時過ぎ終る。静より書面着。無事在国。午后、新聞を出に七条停車場行、帰る。総会所。	
			五ケ条拝読。	
		29	朝、静よりと及波佐役場より2通書面着。朝、覚泉寺帰国に付、いとまの為来訪。11時頃寺務所	
			に出て、太田に面談す。近々との事、今も石川に催促しおく。手続きは万端ととのひおるとの事。	
			長坂冨彦に訪ふ、不在。午后、水野来。号外、憲政党解党の新聞あり。覚泉寺帰国。静へ返書	
			及情状を2枚書く。新聞、教学を出す。停車場に大久保君に逢ひ、入蔵難を話し、総会所へ参る。	
		30	博物館行。梵本は仏頂尊勝陀口尼及仁応経二巻のみ。系図、古書類おもしろし。南條師へ書面	
			出す。午后、祇園坐に各宗有士の監獄問題に付演舌あり。子安へ葉書出す。総会所へ参る。	
			静へ留守中の心得書をかく。晩、総会所。	
		31	父より調印書面来着。本山より何の沙汰なし。内に蟄居、遺憾やる方なし。苦境明状すべからず。	
			八方ふさがりの比にあらず。向く方一として凶ならざるはなし。財間来語。借金して10円丈宿に	
			払ふ。本田氏を訪ひ、安心語をきく。晩、総会所。	
31	11	1	筆を改めて本月の日記を創む。先月か実に愛別離苦。本山尤厭制不寥極まる。不快千万逆境	
			不満の月終り。午后早々寺務所出頭。太田氏に面談。財政の究迫の為に寺務役員月給未渡	
			状況より石川に於て、会計の政算なくして急に招懸たる為、其外の迷惑を掛けたり。遂に21日に	
			なるなりと。予、更らに方角を失す。只東京行を許されん事を乞う。太田氏云く、予がはからひを	
			以て取はからうべし。「今さら引あげて帰国する訳にも行かず」。実に肺肝より出づなみだ禁ずる	
			不能。大師堂側に泣を拭ひて帰宅。「波佐教会案」、「東京仏教会堂案」を稿す。終日在宅。晩、	
			総会所。七条行。	
		2	終日在宅。午后、長坂、財間来。囲碁。晩、総会所、七条行。本山より沙汰なし。	
		3	午前、水野来。安心語す。午后、冨彦に長坂を訪ひ、同人兄及財間し語話す。海上平穏無事。	
			参る。七条行。静へ一日認の留主心得、外書信を出す。毎夜、新聞を出すは例也。	
		4	京都清水堂参詣し、正面大絵額賛を写す。本山参詣。午前、午后、西大谷及清水へ参詣。額文	
			中縁起を写して帰る。本山より何の沙汰なし。本日は晴天の所、時々に狐の嫁入と云ふ。日照し	

年	月	日	事　　項	参　　考
			つつ降雨。叉虹たつ。晩、和田康道君を訪ひ、種々語話す。九時帰宅。	
31	11	5	本山参。直に石川を訪ふ。彼曰、今の会計は非教学者にして、2、3日前大議論あり、かかる会計	
			ならはやめて仕舞へと迄云ひたり云云。12日行に決すべき旨申され、太田へ書面来し、由りて	
			太田に行く。会はずしてかへる。10時、寺務所出頭雛に面し語す。上局に聞正して云書面。今	
			総務に行あり。かへるべし。其内に一所にかへらずは直にとりにつかわし、開教局へ回し、直に	
			辞令書渡ししむ。帰途、能登の人、桑門現祐君に面し、監獄事件に付事情を聞く。総代として上	
			る織田のひれつ手段を攻撃せり。彼れ内務の機密費を杉田定一の策にて使ひ運動すと。	
		6	神戸を経て静書面着。朝、雛径丸を訪ひ、和田君来り、共に太田に行。東行決し、東行旅費受取。	
			本山にて一寸語話してかへる。午后、北方を訪ふ。干時桑門至道氏に面し、室に至り改革談大に	
			すすみ、4時過ぎに至る。夜8時8分、七条停車場発。東上、夜行。	
		7	午前11時半、新橋着。好天。直に麹町南師邸に行。午后、語話に消光。夜、九段に行く。	
			臨時祭にて花火あり。	
		8	午前、外務省出頭。二橋氏に面語。蔵行之事政府外務省の意傾を聞き、特別保護の話をなす。	
			午后、本郷行、斉藤竜作、松田光道を訪問。帰途反省会、日華学堂により高楠、秦、桜井に面し、	
			夫より安藤君宅による。不在、帰宅。西蔵の経文を得る事。個用を得る事。阿含経、露国2千万	
			弗を払ふも、尚経を渡さずとそ。其得がたき可知。「チョーマー」其内2部を厚恩により得たり。	
			而して印度及英国の両亜細亜学会に寄付せり。	
		9	西依、藤堂、石丸、岡本へ葉書出す。午前、松本菊勇君を訪ひ、清国近状を聞き、芝を経て宝亭	
			送別会に行。古河、白山、古田、青年会へ寄る。面会を得ず。午后、面語す。午后1時。神田淡	
			路町一丁目宝亭で送別会を受ける。夜、白山来訪。帰途、詠帰舎(16)へ寄る。宮島先生に面し、	
			清国の状況を聞き、規則書を和漢40部預り、重慶其他支那へ配分を頼まる。安藤より葉書送	
			付。先生より薄贐一封、千金丹8、感応丸3、万金膏30、宝寿30、以上薬71包拝受。	
			【送別会参加者】 安藤弘、境野哲海、田中治六、三石賤夫、三島中洲、梶宝順、渡辺鉄海、海野	能海送別会
			詮教、梅原融、桜井義肇、秦敏之、枚村廣太郎、近角常観、宝閣善教、古田復之、南條文雄、高嶋	
			大円、の17名。普通教校、文学寮、反省会、経緯会、詠帰舎を通しての友人たちであった。	
		10	朝、6時20分新橋発。宮嶋大八、青柳、松本、濱田、宮島、向山、新橋送らる。夜8時52分、京	
			帰着。与けは叉叉叉叉延引とは、あきれ果てる事也。三好香山及南條師と2本書面及葉書着。	
			本日、中泉停車場にて皇太子殿下御乗汽車と會合致し龍顔を拝す。特に我等の方に向ひて座し	
			玉ひし為に御相好能く拝す旨難事なり。東中2件程ケ谷車より汽車併行下進せるは一奇なり。	
			京都駅に着く。	
		11	雛宅に行。明日一行出発と聞く。始めて聞き和田を訪ひ、長坂、北方、尾張を回り帰り、朝飯直	
			に本山行。服を受取り叉喇嘛へのを受く。夫より金を受取る。東京往復10円78銭、並に西蔵探	
			検費1,000余円の内3分の1,370円受取これ重慶迄の旅費及重慶5ケ月滞在費並に北京旅費、	
			在京滞在費也。これより法主へ拝謁、次て御戸御礼あり、一同帰宅。旅券受取る。午後、瓦町	
			大黒屋に地図1、字書3求め、京極四条にて支那かばん、毛っとを求め車にて帰り、大久保、長坂、	
			春日、鍬門典、よど、水野、登等来る。夜5時中村に送別会行。石川の話あり。7時半帰宅。水野、	
			登、予3人、汽車にて8時発10時、神戸。	
		12	朝、常葉舎行。船切符を求め一行14名の内一名岩崎残り13名。10時半乗り。11時神戸港出船。	神戸港より出港
			西京丸2913トン　船長コンナア氏。同行14名。	
			南條、国元へ電報。国兄、麦生冨、安藤、松原、斉藤同く葉書出す。	
		13	朝6時半、門司着。国元へ葉書及新聞を出す。8時神戸登より電報着(はしけ20銭)葉書にて返事を	
			なす。終日玄界灘を通過する。午前8時、門司発、夜11時長崎着。海上平穏無事。	
		14	午前7時、長崎上陸見物す。葉書国元、岡本、村長、古和、佐竹、三浦、佐田、水野、西依の9本。	
			書面神戸登、麦生岩次郎、濱田東屋へ3本出す。叉国元へ新聞読了を送る。岩崎(薫)一行に	
			加わる。東中町最勝寺、長井大幢君を訪問す。市中を巡回す。同夜出航する。	
		15	終日、陸を見ず。只洋々たる大海也。船中んし日、清、西洋、各国人雑居。今日は少しく風強く食せ	
			ざるもあり浪をかむるもあり。	
		16	橋本、杭州、原田1人西派、115、蘇州70、夜5時明朝8時上海着。中70本、上2円、下4銭。	上海着
		17	午后5時—午后8時、上2円、中8銭、下4銭、六双(三双宛)杭州、高辰橋堯大東分局、宮坂、	
			米祖界永安里、日清英学堂、甲斐寛中	
		18	漢口雑貨、東肥洋行、泳地を直行1丁斗り。晴天。總領事代理小田切萬寿之助氏に面会。	
			漢口、重慶、2領事へ招待状を案内。領事館にて護照願を私外南京行5名共に出す。正金銀行	
			に50円を黒銀50弗50銭にて引可ゆ。梶、水野、開教局、南京、＊浄蓮寺より書面。	⑨73-75p
		19	午前、諸井副領事を訪ひ以上の成問をなす。午后2時、谷氏帰朝。甲斐氏宅永安里に橋本共	
			3人行話す。午后5時、杭州行発、沼氏1名して一行7名。夜4馬詠迄5人散歩。清国図を求め	
			て帰へる。支那人打架了傷了。	
		20	午前、支那語会話。降雨。船中支那人、日本人、雑居にして話叉混同。洪山 (1)長江の濁れる	
			如く支那人の心濁れり。(2)支那茶如く2、3回の後始めて濃いりなり始めはでず。	
			(3)日本人は日本茶の如く始めて濃く出てあとはなし。	
			(4)日本人の心は日本料理の如く見かけ斗りにて実なし。	
		21	曇。出発届を出す(漢口へ向け)。郵社内郵船会社に行。南京5人、漢口1人の切符付手紙出す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			叉国元へ出立の葉書出し、叉小田切氏へ北京事情を宮嶋氏托して杉原に托す。護照は刷り置き	
			無きに付、明日漢口へ郵送の約束。公園に建碑式あり。正金銀行に227円を替へ娄くメキシコ弗	
			に換える。永安里、江左書院、四馬詠、城内（北門より東門へ）佛、英、居留地にて継て大東汽船	
			社に行。白岩に面す。夫より叉四馬詠に行。布団を得ずして、船中の用意をととのへらへる。	
			夜8時、天竜川丸に乗船。橋本（大東の）、甲斐君見送らる。書物を託され紹介を得る。佐野来見送	
			らる。南京行5人と予と也。この夜、21日午前2時半、出航。登へ書物目録及支那書に付手紙出す。	
			叉国元へ出立の葉書出し、小田切氏へ北京事情を宮嶋氏托して杉原に托す。夜、天龍川丸に乗り	
			込み寝て長江を遡る。勇壮の風景、皆物珍しく見る。	
31	11	22	朝、江子江の境を見るに永天相接し少々たる大河の思ありて江の感なし。王子の春花山にあると	
			やは遥かに傾く臺を見るよりも遠し。〇北方紙り武昌、柳原氏へ紹介名刺を得。叉同氏より漢口	
			支店長森氏へ紹介を得。〇岩崎君より武昌、木野村へ張徳に関し紹介状を得。漢口支店長（交代	
			新前原氏）叉西寺あり。夜、鎮江に着す。大寺あり。金山寺なり。170の僧あり。大釜の数10にて	
			飯をたくと云ふ。夜、互に胸襟を吐露す。夜、23日、午前3時、南京着。北方、一柳、長谷川、藤分、	
			岩崎5氏上陸。互に萬筆を称へて分かれ再会を期す。岩崎君より紹介状を得る。	
		23	（旧10日）午前11時頃、蕪湖に寄る。洋人の宅山上にあり。叉大なる教会堂立つ。十字架一見し	
			て見ゆ。六角の塔あり。高さ数10丈、五層ならん。日本店1戸ありという。汽船7、8双着せり。	
			商業繁昌す。江岸に塔あり。叉島上に寺院を見る。午後4時、大通寄港。南岸、支流にあり。	
		24	朝7時、九江に着。30分余止る。南京行きの先生方と分かれ、小生単独と相なる。江岸高く石垣を	
			を以て城頭、列し外人居留地あり。1時半、東主廳乙第3号佛説大集母逆子菩薩所用経を求め	
			る。5時、黄石港寄港。黄州は寝中にて覚へず。	
		25	午前2時、漢口着。船中に寝る。朝7時起、荷物を仕舞い8時上陸。商船会社に至る。漢陽に伯牙	
			牙臺、帰元寺等に至る。午前10時、東肥洋行に行き緒方氏に面し色々相談す。午後領事館行	
			瀬川氏に面し色々相談す。張への紹介。2時、東肥に行き、劉ボーイを借り、武昌に行き城内を	
			通り武備学堂に行き木野村、村山両氏に色々の話を聞く。	
		26	朝、勤行をす。午前、東肥行名刺のこと。両替のことを聞き、午后を約しめ帰る。午后、西川太郎	
			治氏と昨日のポーイを連れて漢陽に行き伯牙臺（ベヤータイ）（古琴臺）に行く。西川氏求之、之より帰光寺	
			に行く。色々話を聞く少しは談話し叉は筆談す。「金剛経」を得たり。清国漢口大阪商輸公司から	
			南條博士あてに葉書出す。釈迦佛、文殊、普賢、阿弥陀仏、観音等の像あり。定口、此係副寺、	
			寺内3、400の僧あり。夜、漢陽報にかき張雨泉に逢い筆談せり。東洋の同盟を話す。	
		27	朝、勤行。商船支店長森氏宅に行き昨朝宜昌より帰漢の話を聞く。午後、武昌より木野村志来られ	
			張之洞への頼みのこと。両3日中不定のことを聞き実に明日頃出発の考への処数日滞在に決し、	
			直に、午後4時、東肥洋行へ転宅す。＊水野斉入へ書簡出す。漢口大阪商輸公司滞在中。	⑨73-78p
		28	朝7時起。洗臉。大経上経讀了。叉正信偈。9時朝飯。支那名刺をたのむ。	
			3時過ぎ書屋に本買に行。市原君同道。地図12巻物を求む。この日精進。人々涅槃江を話す。	
			晩、談話す。杭州、沼氏宛書面認む。	
		29	反省会へ原稿6枚送る。「西蔵探検の方法」。開教事務局。南京。沼杭州。国元、静以上、5本の	
			手紙をしたため、内支那より2本出す。領事館より、この晩の食を招ばる。夜、領事館小田切、森、	
			前原、岡、予、瀬川夫婦、宮、外領事館官2名の会食す。	
		30	午前尓る森氏宅に行。固陵支那上等乗込の許をたのみ其周旋にて之を得たり。船中にて拂うこと	
			なり。両替墨弗、195円を銀魂136両8匁9分に替へ、叉銅銭2,700文を墨銀3弗にて替ゆ。	
			出立の用意買物等をなし。森、領事、漢口から、第2回、本山上申書を出す。商船社に暇乞を	
			なしに行、帰へる。反省会、開教局、国元静へ3書面。登、岡本、石田、藤本、小林久の5葉書を	
			大井丸に郵投す。農商務省取調員外留学生、今朝、10名斗りあり。	
			午後5時30分に固陵号に乗船し漢口を出発する。	
31	12	1	雨天。午前7時半晨起。言語不通。或は予を廣東人と云うあり。洋人はフィヂー人と云う。9時半、	
			新提（シンテイ）に寄る。小町なり。12時中食。味中々よし。昨夜、漢口より60清里に金口あり。	
			午後2時、洞庭湖の入口荊河口（チンホウカヲ）に寄る。只砂岸のみ。潮南省の辺岸は茅如きものを刈れり。	
			報告書を読みくらす。	
		2	7時半起、顔を洗い、8時半、食て甲板散歩し、事務員室で半話半筆にて談す。船中の雪隠は	
			3人並びにて糞す。何そ行くことを得ん。これは支那流に閉口せり。午後3時、沙市寄港。横田氏	
			名刺を得楊持帰る。晩食后、沙市散歩中に七層塔見る。曳子及び頭取をスケッチする。歌を詠む。	
		3	夜中は空しく船碇泊して昼間航す。故におそし。本日大に気咽を吐く。梵、漢、英、大経を読み聞か	
			せ、叉字同音不同、俗服不一様見僧服一様見と云う。	
		4	午前9時、南岸に虎牙臺の好景を見る。寧石の大橋を見る。午前11時宜昌港に到着する。	
			大房桟に投宿。第3回本山上申書を出す。	
		5	瓦罐子。木野村氏へ書面を出す。午前10時より12時迄、城壁の上に沿って1周。1里余なるべし。	
			関帝廟より、城外広大の墓地。人異等を見、鼓様あり。支流あり。12時帰宅。今日は支那流食事	
			2回し、午後、冬の行水をなす。漸く船を得て、午後5時乗込。大方番当及楊が見送りに来る。	
		6	朝、食事の粗末なる。きらずにて閉口。扨叉一度外人の目を避ける為に船頭室に押入れらる。	
			今朝再び「産語」を讀み始む。序文、跋文に照して大に得る所あり居り候。蔵行帰朝後の宗教上大に	

年	月	日	事　　項	参　　考
			考う。プタラの街に一古本を得。ダライラマに一の告を得、教界の大革新図るべし。	
			船中疲れて熟睡を得ず。	
31	12	7	10時、朝飯。洋人4名乗船。11時半宜昌港出航。この日、晴天。陣鐘を打ち報す。宜昌、狭口の	
			＊スケッチを書く。対岸にうつり、20名にして曳く。午後4時山迫り好景。5時、宜昌峡（黄牛峡）	④23p
			に着。碇泊す。この夜、大平台壩に碇泊。この地、南岸に村あり。北岸に船上ある。	
		8	午前、何の為か、数双（14、5双）皆、午前、空しく止まり、正午より出航。三峡皆、午前、空しく止まり、	
			正午より出航。三峡の好景を経て南佗をすぎ上流に止まる。干時、4時半。本日、好天。ズボン下を	
			ふくろべ縫いなどせり。＊平善壩、南沱の景色をスケッチする。	④24-25p
		9	朝七時発、黄陵二灘等を住て獺洞（タートン）の下の急流に一時間余を費し、復地に泊す。ザボン一つ、	
			1文2厘魚を買う。＊黄陵廟をスケッチする。	④26p
		10	朝七時発、新灘に於て2ケの急流を越す。西岸数百戸の家あり。叉両岸寺を見る。	
		11	今日一日は、やそ坊主の日曜だなどとぬかし、馬鹿の頑固の休日を固守し、空しくこの僻村狭き室	
			内にあり、クック及ババアと語して大に不平をならす。ミカン、乾魚を得て食す。泣きたくなる。	
			＊半峡口、新灘廟をスケッチする。	④26p
		12	楚古城跡。死帰州及帰州を経遥かに高山の頂を見しや。昨日の徴雨は雪なりしと見へて白雪を	
			頂く、石炭を産する地を見る。紅船を見る。急難を救う船なり。＊楚古城跡をスケッチする。	④27p
		13	本日は洩灘の下流2、3丁より進し14、5双の順を待て、灘を4時半にすぎ	
			2、3丁の上流に泊す。終日に清国1里にすぎず。	
		14	9時半、牛口灘をすぐ。北岸七層塔の寺を見る。12時、巴東県をすぐ。寺2、3ケ所あり。灘あり。	
			この地へ電線山を越へて通す。非常の急流をすぎ「ターシャー」に泊す。南岸の江辺なり。	
			＊「奪無」の題字ある場所で、船を引く様子をスケッチする。	④27p
		15	御命日。精進、勤行す。本日、四川省に入る。即ち布袋口に於て湖北四川の境たり。この地より	
			石牌を見る。急灘の数所をすぐ。5時過ぎ「無奪」と題せる橋橋（石）下をすぐ。江辺に泊す。	
			岩下無名の地なり。南岸。	
		16	揚暁発。夜来強風。冒寒者多く。老板クック、小供、予の与へた薬、宝寿を服す。順風に帆を上げ	
			快走す。11時20分、巴山県に到り、対岸に泪す。急灘を上らんとして、瀬の為4、5丁流さる。	
			後1時上り、尚急流、他船曳縄を切らし流さるること2灘10丁余。予らは一灘なりしにに彼れは之	
			に倍す。気の毒千番也。昨日は、伯す。伯所尚急流。夜来、水声ゴーゴー。旧11月5日。	
		17	錯開峡、巫山、翟塘峡。朝、一灘をすぐ。この辺灘所々にあり。昨夜、入蔵難、負傷の不可止の	
			夢を見る。本朝、五悪股訓読、五説会の必要を認む。帝都に於て立教開宗すべし。この経文	
			二切りの間を訓訳。	
		18	七双上水の図、薫渓。礼拝日とて例により休航。終日書を読み、叉考ふ。この地黛渓と称す。	
			上る船、下る船、何れも10数双、終日之を見る。他船持参の羊羹を味ひ叉柿を求む。一個4文。	
			午後、＊七双上水の図黛渓碇伯中(日曜)をスケッチする。	④28p
		19	翟塘峡口。薬県塩泉。渡海日記に誌す如し。翟塘峡を経夔門を過ぎ、午後4時、夔州に着す。	
			寧戸に鎖上ず。性急甚しく、叉筆を買ずれば一本と云う如く、悉く意に反す、故なり。晩食進まず。	
			気遣る所なく布団を被りて寝る。其他書くに記されず。想出せば海外に何の因果で来たるかが	
			迄思い、護照はなく、訴ふる所なくくやしやくやし。宜昌発航より13日目に三峡を過ぐ。乗船より	
			15日目なり。＊翟塘峡口をスケッチする。	④28p
		20	午前11時出航。この夔州や北岸にあり。やや広く山辺の城市にして江に臨む所。宜昌に似たり。	
			江辺には茅屋多く泊船数100双あり。語の通ぜぬ為に大閉口。クック来りて仲裁をなせり。	
			安坪の一里余下流に泊す。	
		21	安坪。安坪8時半着。順を待ち灘を越す。夫より4、5の小灘。2、3の大灘を越して、夜東洋子に	
			泊す。この辺急流なり。冬至。	
		22	東洋子。雲陽県。朝、老杉に叉談判なり。到重慶不要銭を□□。この夕、新雲灘に至り泊す。	
			この夕遭難船を見る。＊張垣候廟などをスケッチする。	④32p
		23	霊鐘千古、張垣候廟。「渡海日記」に記す。可見。朝、当航江中最大難灘たる新灘を越す。	
			を天に期して誠す。幸に安全。この夜蛇家嘴に泊す。＊新寧灘をスケッチする。	④32p
		24	両岸大に開けたり。尓れども平地、田を見ず。夜傾斜なり。毎日、朝7時発、五時萬県に着す。	
			対岸に山上及平地に二層塔あり。筍の皮をむぎたるが如し。萬県には鐘鼓楼、寺廟、城あり。	
			対岸砂浜に沿って通り小なり。上流西岸に泊す。船ならび寸の余地なし。	
		25	例により休業。日曜なり。叉耶蘇（クリス）マスの日なり。好天なり。予は誓う。国を救い世を助くるは中々	
			の大事にして之れに及ぼすには予は先ず我一家の真俗をととのへ夫より我檀家及村内の真俗	
			をととのへん。但織上の金を費す。	
		26	白水渓。東南に向て進む。方位全く反す。江面湯気を発す。南温流の来り。寒風に逢う。	
			＊西家佗をスケッチする。	④33p
		27	三層廟。9時到、五林磧（北岸）、無風渡を過ぎ。后2時、西家沱に至る。南岸なり。家7、800戸。	
			遠見美麗なり。3時、石家砦の宝塔、岩上の廟を見る。6時、永奥場（簸算子近方）に泊す。	
			この辺濃霧遠方を見る不能。萬県より晴天を見ず。西家沱にてみかん、野菜を求む。安価。	
			＊石宝砦、三層廟をスケッチする。	④33p

年	月	日	事　　項	参　　考
31	12	28	永奥場（北岸）を7時前発。対岸岩盤を見る。磐石は遂に江中全面に出没し、我数里に及び11時、	
			北岸に渡り同じ盤石の問を航す。降雨甚し、曳つな切れ、3、4丁流さる。この辺江の幅は（磐石	
			中江に島と成る）廣く30余町なり。南岸石垣に「保江」の二字を刻す。この所より漸く磐石を離る。	
			御命日、勤行す。雨大的很那。后、2時20分泊す。	
		29	8時20分発。后3時半、忠州を過く。本日寒く萬県巳来、数日の雲霧漸く晴る。而して風寒むなし。	
			6時20分北岸に泊す。	
		30	7時15分発。南岸に渡り、鄧家沱近方を過ぐ。100戸斗りの町あり。本日風寒むく、50度内外なり。	
			南方の高山白雪を見る。砂金を採収する処多し。1時半、羊肚渓を過ぎ、4時虎鬚子の灘にて	
			一寸斗流され磧洲を過ぎ、北岸に到り泊す。干時6時半。	
		31	酆都県。前7時15分発。9時、高家鎮到。南岸。10時半、宝塔を見る。一時、磐上に乗り上げ30分	
			間にして過ぎ、5時、酆都県に至る。半里（日本里）斗り、上流に到り、6時40分泊す。	
			本日は年末の事なれば午後、掃除をなし、湯をつかい體(からだ)を洗い。シャツを着替へ、少々	
			の物を買う。ハンケチを2枚与へ歳暮とし柑五個を仏前に供へ荘厳をなし仏前にて歳暮の御勤めを	
			なし。晩食には牛肉を貰いポーサ°イにて食事をなす。夜は、勘定をなし、ロウソクをつけて、今、	
			7時40分、この記をなす。昨年は南師の宅にあり。本年末はこの酆都県にあり。昨年末は娑婆	
			にありや。又何れに如何しておるや。前途を思へば闇黒なり。本年の概要をば渡海日記末に記し	
			置けり。為す事なき年なるも、又平年よりも特筆すべき事ある年なりし。明年は果たして如何、	
			暫く記して今年を送り来年を迎へんとす。清国四川省酆都県半里上流北岸碇泊、英人船室にて。	
32	1	1	本年の前途は如何、歳暮何処にある哉。午前7時半晨起、沐浴。8時半勤行。小経正信偈。	春秋日記
			念五、読三。9時、皮万12個、砂糖附。以て餅に代用、食事終り。三首を詠す。	
			今日、上流に向かいし船。大船3、40双。小船は4、50双なり。17，8丁上流北岸に滞在。	
			元旦　ゆ免のよは　くめど満たびじの　ゆめとても　よきゆめむすべ　ゆめの中にも	
			前途　月と日と　我身もともに　東より　ことしのくれは　西におちつけ	
			月も日も　我身も西に　入りてこそ　東のそらにまたのぼるなれ	
		2	午前5時20分前解纜、夜航2時間斗り也。6時晨起。沐浴勤行、三々。8時、馬頭子。10時、南沱	
			を過ぐ。1時、深渓を北岸に見。2時半、甑瓶磧なる島にかかり、3時、浅洲（岩礁）に乗上げ、船底	
			を損し1時間漏水を修覆し、5時に島の端に達し、6時半、北岸に泊す。＊曳子及び頭取をスケッチ。	④34p
		3	前5時半発。7時、新場を対岸に見る。8時、北岸に移る。11時半、湾州に着。12時半発。これより、	
			利正園の塩倉を見て、3時50分、李渡に至る。6時10分、李渡より10清里ばかり上流に泊す（北岸）。	
		4	午前7時15分発、降雨遅々として進む。剪刀峡、江幅一丁にすぎず。11時、寧石に至る。＊三目鏡	④34p
			橋をスケッチ。10万を費すという。5時、石家沱に至る。開市にて露店等多し。6時40分、北岸泊。	
		5	7時20分発。朝、潮水の如き峡を過ぐ。風景好。11時20分、七層の塔の下、張桓候の廟を見、其灘を	
			すぐ。一時、長寿県に至る。対岸大砂原なり。水牛を見る。扇背沱をすぐ。6時40分、北岸に泊す。	
		6	6時40分発、2小灘をすぎ、洛磧を過ぐ。老板女に明天到不倒を問う。昼は平座して膝痛く、30余日、	
			2枚敷外に一歩も出でず。4時10分、本東司に至る。小峡を過ぎ南岩の端に泊す。	
		7	6時15分発。11時、難灘にて4、5丁流される。生きたここちなし。南に洛磧を見、峡を入れば、	
			3時10分、唐家沱にして、出船、入船千双、上下船を査する地なり。唐家沱等に住て大仏寺に日没し、	
			夜8時半、重慶朝天門下に着泊す。夜景、神戸港の況、寒快なり。＊扇背佗をスケッチする。	④44p
		8	前9時、上陸。小梁子街、日本領事館に投ず。井戸川、原田、加藤、武田、諸氏と面し、喜び無限。	
			朝は、領事館に食し、昼は堺、武田氏の所に食し、夜は、井戸川氏の客来に宴会に列す。	
		9	井氏の談話により、護照願書、又居住届を2通宛出し、森田氏と談。昼飯は領事の御馳走にあづ	護照
			かる。昨朝、岡本重昌の葉書、登より手紙、南条氏上海、重慶、2領事への照会状入の書留着す。	
			夜は井土川、原田、成田氏の宅に談会話。それより堺氏室にて前途及滞在の諸事を談す。	
		10	午前、おそく房子を掃除致。午後、買物机を求めその他、器具類。支那人教育を見たり。晩、成田氏	
			と来談。西蔵、支那の事に関し2時半迄談す。	
		11	支那人、重慶、最富家の兄弟粛2人及老杉来訪。大に語話せり。夜3時迄成田氏室に行き談話せり。	
			蔵行、仏教等の事なり。手紙を3通認める。	
		12	昨夜、3時伏し。今朝10時半、起床。支那人蕭2人来る。学生来たり話す。国元、東肥へ書面出す。	
			髪をつむ。＊京都の水野へ書面出す。	⑨81-84p
		13	午前6時起。原田君と楊先生に行き、語学を学ぶ。重慶から、第4回本山上申書を出す。	
			南條、水野へ書面出す。	
		14	楊先生に行。又遊君来談。今日より会話を遊君に改め長く談話す。晩、勤行せり。今日、彭（ペン）	
			という従僕27才を雇う。	
		15	朝、善哉を作り各人に供す。格氏へ名刺を送る。寿法主御命日に付勤行。加藤夫人より書、みかん	
			を送られ、成田氏より恵心、書、筆入物送らる。成田、堺、原田、武田来る。加藤子2人、支那人	
			参る。佐良にて勤行。	
		16	勤行し、朝2時間、游より会話を学ぶ。下午東陽門城外神仙洞を散歩。道士寺を見る。月謝談判	
			3吊文と決す。粛兄より初七日、餐応に招かる。	
		17	午前、報恩寺に行き寺を見る。午後、蕭氏に招かれ花園に行。茶菓を食し、見物す。	
		18	10時10分、游君及下人連れ12時、浮図関（城あり）に至る。1時半、石橋舗の駅に至り、中食す。	
			3時半、花厳寺に至る。夜、談話。道中、3人茶代、草鞋代240文。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	1	19	金氏から＊中国語を学ぶ。この日、成田、原田氏来れり。施食あり。乞食如き近人1,000余集まる。	④14p
			夜、大和尚及糾察両人の話、茶話会をなす。花厳洞を見物す。納骨灰所睡仏。仙跡等あり。	
			橋下の偈を写す。夜、11時迄談話。今日室を変えたり。和尚帽子500文。	
		20	朝、再大和尚茶菓をよばれ、梵文彼り及シャムロ語の経典を見る。11時発籠に乗り、4時半帰宅。	
			静、国元より手紙着す。この夜、原田氏来談。西蔵僧を道に見る。	
		21	午前、語学。この時、貞宮殿下の死去の沙汰あり。領事に行き見舞す。晩餐後、食堂において	
			加藤氏来られ余蛮子降伏佛国布教師返へすとき話等10時迄談話す。	
		22	羅漢寺見物。后、唐家花園行。帰途嘉陵江を下る。奇談、千厂門に着き帰る。同所には武田、堺、	
			原田、予、遊、僕1名、6名なり。夜、加藤氏宅に行き雑談。手帳5冊180文。	
		23	午前、語学。午後、書面認め上海白岩、甲斐2氏、宮嶋先生へ書面出す。本山寺務所より書面着く。	
			宣教師帰着。曇天。日記帳を新たに作る故に其方に記す。	
		24	タルツェント劉氏宛て重慶道弟りの紹介状の文面を謄写する。	
		25	午前、語学。午後、蔵語対語章。夜、西蔵の草書を手習いする。	
		26	午前、移房園。午後、蔵語動詞1時間半。＊同語学(支那語)を学ぶ。中村警部来着。	④15p
		27	午前、語学。午後、蔵語及び修司。晩、村、武、原来語、11時に至る。今日、晴天。	
		28	勤行精進。午前、語学。午後、加藤領事に中村来着の祝宴に招かれる。囲碁す。羅漢寺僧来る。	
		29	午前10時発、老君洞行、400文。原田君、遊君、下人、4名で12時到着。後より江及び此本成2人	
			来る。2時半に帰る。夜、領事に囲碁。好天。	
		30	午前、語学。将棋を打つ。晩、金堂に談話する。降雨。	
		31	午前、語学。上申書を認める。子安、登へ2通書面出す。降雨。この夜、中村氏歓迎宴会を催す。	
32	2	1	午前、語学。午後、上海英字新聞を見、2氏蔵紀行を拝記す。好天。	
		2	午前、遊君と行き「西蔵図考」外3部、15冊(1,650文)を求める。好天。＊中国語を学ぶ。	④16p
		3	午前、語学。午後、迎春に付、見物の為、朝天門、江北城内を巡視す。好天。支那人2人連れ行く。	
			茶館及び麺舗子に初めて寄る。夜、黄粉餅を食す。本日の諸費572文。	
		4	重慶から、第5回本山上申書を出す。午前、語学。書信を認め、本山、国元へ書状出す。	
			夜、成田、原田氏と談す。降雨。	
		5	游氏より湯元をうく。昨日、月謝を送る。降雨甚だし。休業。蔵語を調べる。夜、中村警部より宴席	
			に招かれる。彭氏帰る。	
		6	午前、語学。この頃は、毎日、7時起き、9時、朝飯。2時、中飯。7時、晩飯。11時、就寝す。	
		7	午前、語学。夜、成田氏室に行き仏教上、其の他談話。2時、帰室。	
		8	午前、語学。遊先生の兄難船の話を聞き、二吊文を見舞にし、来月月謝を送る。昨夜、一人近方	
			散歩し、年末の況境を見る。	
		9	夾り休業。朝、嘉陵江上城壁を散歩し耶蘇、天主会堂内医院を見る。蔵記をなす。夜、遠近を巡	
			視す。火砲盛ん対子をかざる。夜中、中村氏宅に12時迄談す。☆中国語を学ぶ。	④17p
		10	早朝、通遠門、佛国領事館近辺金紫門辺を巡視して帰る。正月礼盛んなり。武田氏入院。午後、	
			江、楊2か所年始行き。夜、囲碁1時寝る。好暖天。	
		11	午前、江、楊2宅を訪ね拝年す。午後、領事に招かれ囲碁。晩飯は日本食、赤飯。紀元節なり。	
			夜、成田氏室に12時迄談話。降雨。	
		12	書面を認む静へ。外に午后、武田氏病院を見舞う。曇天。	
		13	強雨。蔵書を調べる。午後6時、前道台任氏離別宴に招かれ、加藤、堺、成田、中村、予6人行く。	
			8時帰宅。加藤宅へ囲碁、1時寝る。	
		14	午後1時より董氏に招かれ、井戸川、堺、成田、原田、予5人行く。轎去回。春谷宛静書面。岡本、	
			冨郎、石田、池武へ4葉書出す。	
		15	午前、語学、游来る。午後、千斯門外南泉寺(100文)に行く。僧不立。中飯出る。尼寺など見て帰る。	
		16	朝、南泉寺僧来る。游来るも業休み。夜、領事室に話に行く。＊中国語を学ぶ。	④19p
		17	午前、語学。漬物をつく。風邪まだ治せずね咳のため苦しむ。	
		18	午前、語学。午後、入浴、休む。今晩、リック李位を解雇する。	
		19	午前、午後、語学。武田氏来らる。夜、堺氏室に囲碁至2時。曇雨天。彭をして勤行に参らしむ。	
		20	午前、教家単語の支那音学。午後、暫く休む。曇天。七書僧中支那三僧の地を聞く不明。	
		21	午前、語学。午後、遊灰色布2匹持ち来り、求める。この夜前クック李来たり口答えし、叩き縛る。	
			彭妻病あり帰省を許す。	
		22	午前、語学。支那の幣を求める。夜、中村支を訪ね朝鮮語を聞く。この夕より西蔵地図を製す。	
		23	午前、＊語学。後にて大に支那の腐敗を語して聞かせり。地図製続。この日頃、北京公使へ日本僧	④20p
			入蔵同行者に付返電す。	
		24	御正月過年の終りにて午前語学。午後、通遠門辺城壁に散歩。五福宮等を見物す。彭僕帰る。	
			上海より佐野、南條師より書面着く。	
		25	午前、御正月。還寿す。成田氏屋舗40両を要す。成田氏送別会1吊(1.000文)。	
		26	地図一枚製し、中村氏の処に談す。午後、及びよるは、武田氏室にて東西文明の特出に付話す。	
		27	午前、語学。地図製。曇天。	
		28	語学。剃髪す。御命日勤行。西蔵地図完成。夜、加藤領事より成田氏送別会に招かれる。	
32	3	1	午前6時、起床。勤行、食事。8時、成田氏成都行、打箭炉へ出発を見送り、1里半余に至り、一同	

年	月	日	事　　項	参　　考
			分かれて帰る。業休む。「国民の友」を読む。降雨。	
32	3	2	語学。時計を正す。2週間に1時54分ばかり進めり。夜、武田氏室に談す。曇天。	
		3	午前、語学。午後、蔵語少し読む。上海白岩氏より、訃音書面至る。	
		4	午前、語学。白岩氏へ書面出す。僧服(500文)出記来る。夜、城壁を散歩、夜景よし。	
		5	午前、加藤一家族と共に野猫谷村に長島の墓に参観、経を読誦し、花春を詠みて帰る。加藤氏の	
			処へ囲碁、談話す。好天。	
		6	午前、語学。南泉寺僧来る。国元より父及び静書面着す。詩あり。	
		7	午前、語学。午後、蔵語少し読む。上海白岩氏より、訃音書面至る。通遠門外に原田君と散歩。	
			菜種花好し。晩、入浴。ミルクを求める。好天熱し。	
		8	午前、語学。午後、体操場を共に造る。入浴す。好天。夜、井戸川室に談す。	
		9	「銅盤子を得るの記」を記す。銅盤子3個を得たり。円形。直径2寸5分。内面銘「宜炙王大吉羊」	
			敷面に建武12年3月丙甲周儀造。顔色は緑にして古色を帯ぶ。質銅製。後漢初代光武皇帝実に、	
			本年より1,864年前の古品にして、日本では、西暦紀元36年。重慶府において来迎仏「西蔵仏」	
			丈2寸7分の西蔵伝来の観音の坐像。銅製に金箔を置く。午前、語学。古董舗を巡回す。	
			午後、話し、読書す。好天。夕方、運動する	
		10	少し会話す。西蔵佛古品2件4個、4両(5.000文)、来迎佛と尊称す。浜田の佐々木勉より葉書。	
			京都水野より書面と「無尽燈」付す。雨天。	
		11	午前、語学。少し西蔵学。浜田の東屋へ書面出す。相撲場を造る。夜、武田氏全快祝い宴会。	
			西蔵行難。領事成都行不行談あり。	
		12	降雨。運動す。夜、堺氏室に談話。盲目火消をなす。	
		13	午前、語学。午後、角力運動。夜、蔵語。曇天。	
			四川省大聖慈寺所有の証録より梵字を書写する。	
		14	午前、語学。午後、原田君と通遠門外散歩。菜種の花を見る。朝、勤行。夜、原田君と話す。	
		15	12時より遊君と朝天門下より乗船宴月橋と大傳寺、王家沱を巡拝し帰る。夜、井戸川氏室に談す。	
		16	午前、語学。午後、市街を散歩する。夜、原田君と連局などして遊び、11時休む。上海別院へ書面	
			出す。晴天。	
		17	午前、語学。午後、入浴及び運動する。蔵語、西派新法主、上海、漢口来の報を聞く。駐蔵大臣の	
			新聞報道あり。好天。	
		18	本日、自料理にて領事諸氏、日本人を招き宴会せり。	
		19	竹田、原田氏共、桂花園行。満開、帰途乗船流下英国新旧領事に面す。	
		20	游君遭難の話ありる曇天。南條師及び小林久太郎2本書面着く。午後、上海為替証を送り本山	
			より送金着す。	
		21	語学。本日、游君同行。打箭炉行を定める。1ヶ月、3両外に食料。彭、僕も帯行に決す。荷物を	
			負わせ1日、100文。食料は別なり。両人共帰泳費を給す。但し、1日、300文。	
		22	加藤氏成都に出発。神仙洞まで送る。午後、武田氏と米領事館を訪うも病に付不口。散歩して帰る。	
			語学少々。成田氏10日、成都着の報あり。	
		23	語学休む。予備買物す。重慶府日本領事館で写真撮る。好天。	**中国僧姿の写真**
		24	成田氏報着す。午食加藤氏によばれる。語学休む。予備買物カゴ、綢油、堺氏と源宝潤票号行	
			400両6銭2分受取る。水野より3通書面着。外に写真、雑誌着す。最勝寺叔父死去(2月28日)	
			方に接し精進す。	
		25	当地出発を4月1日と定む。書信を認。2本。本山上申。	
		26	游顕甫氏と2人、リッテル洋行にて記念写真を撮る。	游と記念写真
			游顕甫は、重慶語教師、成都から峨眉山、打箭炉に同行。彭春亭は、重慶中の従僕。今回の旅行	
			に連れ行く。書信3本認む。好天。多忙。	
		27	書信認む5～6本。出発準備多忙なり。	
		28	葉書認む10余本。御命日勤行。武田氏と談す。皆ね桂花園に行き留守。一人ゴロゴロ過ごす、	
			北京より寺本氏行のこと成田氏荷物のことの報あり。写真五枚代1,280文。	
		29	手紙数10通、書き終る。游氏、毎日来られ奔走尽力せらる。打箭炉へ金200両を送ることを力脚	
			に頼む。夜、強雨。成田氏室に談す。游先生月謝3,000文。写真代100文。	
			石川舜台宛て書簡の内容を要約して水野へ書簡出す。	⑨85-91p
			1.小姓、出外に関しては郷里に対し山命の公報必要有之候に付、辞令書御下附被成下国元へ	⑨340-341p
			御送付願候。	石川舜台あて
			2.小姓、未だ非教師にして国元へ対し其拝命有之迄に昨年春推挙有之候へ共、未だ受領不致候。	
			3.小姓、萬一不慮之変有之候はば家兄法言へ教師御命じ被下住職御申付相成度奉願候。	
		30	重慶から、第6回本山上申書を出す。20銭手紙7本。拾銭7本。葉書4銭16本。投郵函。	
			午後、楊先生、游兄弟及び公館内4名以上8名を五福宮楼外楼に招き酒宴す。荷仕度整す。	
			本日成田氏に金を預け。叉出発届を出す。	
		31	加藤より贈品を受く。游氏奔走尽力。夜、井戸川、中村、堺、武田、原田氏より宴に招かれる。	
			夜、12時寝る。本日、銀を当用に換える。準備整う。	
32	4	1	午前5時半、起床。荷物を仕舞、支那カバン及び西洋カバンを一團として、井戸川氏に託し本国へ	『第七号』
			好便で送りかへさることを約す。火砲3発、7時半、出発。游氏秘書口。従僕彭春亭及び荷物担ぎ	

年	月	日	事　　項	参　　考
			1名。巴口より差人1名の一行5名にて重慶を出発。通遠門外まで堺、武田、井戸川、原田、賀藤	重慶出発
			義規・きふ子、外ボーイ4～5名送り来る。彭通遠門に砲火し大いに失望。彼を打つ。橘柑を分け	
			て袖を分かつ。この日、好天。途中風あり良好なり。清国内地の剣山を越え風光甚佳なり。	
			小梁子3里、7時半発、通遠門3里。両路口10里、9時半。休み30分。浮図関15里、9時半、休み30分。	
			石橋舗10里、11時、休み1時間。黄泥口(300戸斗)凡5里。上橋15里、これより山に初めて登る。	
			山頂、亮風凹10里、3時半。(老関口)。白石駅開館34ヶ所。城口あり。市街145丁頗る繁昌す。	
			5時鴻新官店に投宿す。今日里程計60里。農業　鋤、唐箕、法方、皆日本と同じく以て日本の師	
			たることを知る。叉阿片の花盛りにして立派なり。山一面油光石、これ予は火成岩と思う。奇状を	
			呈す。土地豊繞。水車あり。水牛田を鋤く。蛙の声。游氏悉く歩行。＊「重慶成都間日記」を始める。	⑮157p
32	4	2	6時発、游氏足痛み轎子に乗る。行く事20里にして走馬場に至り、飯館に一休し、朝食事をなす。	
			到白石駅15里。鋤を用いること同じ。只少し小形にして丈夫なり。叉熊手を以て畦を塗る。田の深さ	
			膝に達す。鋤くに水牛を用いる。畦に富豆を植え叉菜種、芥子よく実る。芥子の花の中を行く。全く	
			別世界に行くの監あり。植えたる中に年々植え換えをなし、農法大いに進む。	
			道は、石を敷き、電線2本。換銭実に一定せず。皆一吊文。或は一吊口口と云う。走馬場は、人	
			家3百余戸。繁かの地なり。20余清里の山、金銀坡を超ゆ。山中炭礦あり。叉石灰出産。山中	
			二ヶ所の老関口を通る。山上一休み。1時半、来鳳駅に着し中食す。この地、金銀7～8ヶ所あり。	
			この地迄30里。游氏40里(20里轎子、20里馬)50里歩行。予は、20里轎子。70里歩行。	
			「四川農業及び雑誌」を記述する。	
		3	游氏35里歩行、60里馬。予は、95里歩行。途中阿片吹く所の者、来り200文を借せと云う。大声	
			阿片を吹くものは予の最無嘘の所なりと云う。実に好天にして昨夜の雨白のこともなし。田覇子	
			は、家屋の中を通りず。この所より双眼橋まで中河あり。船なし。茶の菓子を固めたる一魂5、6貫	
			目なるを3本竹にて荷ふ人数を見る。黄葛樹に宿するつもりの所、宿不潔にして大平まで進めり。	
			阿片館の盛んなるを見る。小丘は3、4ケ所過ぎたるも、一昨叉は昨よりの如き大山を越さず、只	
			南北両遠方に高山を見る。水牛叉はなぐりあり。田水を引く水車可なり。蜜柑園を見る。	
			林檎を見る。桐子あり。大いに異なる。茶居場にて位置り。人多く集まる。石塔の上に大木枝をさ	
			かゆ奇なり。阿片田多く花美なり。永川県まで電線2本あり。この地よりなし。食事は、下男に申	
			しつけ、下男冨豆、或はね猪肉、或は、筍等を買い、宿主に申付け煮さしむ。宿には、飯をくれる	
			のみ。菜なし。箸、茶碗、茶瓶等を携帯するを要す。	
		4	游氏、終日歩行。但し、舟60里。6時半、富亨桟投宿。	
		5	6時40分出発。道甚だ悪し。未明に降雨。9時30分、休み40分朝飯。街端より乗馬す。四川の	
			平野を望む寛大なり。2人、馬30里。3時半、銀象街着。1時間余り人即を待ち宿す。夕降雨。髪	
			を剃る。	
		6	6時40分出発。降雨強風。8時30分朝飯。乗轎。9時半、休30分。轎。11時休30分、さつま芋食す。	
			轎。1時、碑木鎮着。2時半、乗舟。発上水。この地にて中食す。河辺の茶屋。舟。6時半一品桟	
			に投宿す。加(藤)氏宿せる所と云う。	
		7	9時発、河は非常に深く、所々に瀬があり湖の如し。幅2、3丁。游氏、馬30里。道悪く曇天。桐	
			の花は、桜の花の如し。履にて50里歩行。3時10分、休30分、茶館。本日は、畠多く、田少し。	
			小山多し。6時蓮池舗に至る。資州に発不能で宿す。	
		8	6時半発、7時半に唐明渡。河を渡るも銭を取らず。8時40分、資州に着く。岩上羅漢洞あり。川	
			に沿うて城市あり。7、8千戸。大館あり。11時半、雙石舗に着く。この近辺は小丘あり2、3清里で	
			越す。2時、金帯舗。100戸ばかりの街。一休し、茶館で餅を食す。行台あり。3時40分、石子嶺。	
			4時15分、石橋舗7、80戸。6時20分、五里店、通順洪桟駅に泊す。游氏歩行。	
		9	6時半発、8時20分、新添舗を経て、9時半、南津駅で朝飯40分。老君舗、飛紅舗、砿成舗、	
			資陽県石梯舗、清泉舗を経て7時15分、臨江舗の福盛官店大上官房に着く。	
			游氏足を痛め豆2ケ。30里轎子。予は歩行。	
		10	6時50分発、石甕舗を経て、8時40分、楊家街へ着く。朝飯。花鹿舗、新市舗、龍橋舗、簡州に	
			入る。7～8千戸。九曲舗、河辺2,000戸の街。初めて前面に高山脈を見る。赤水舗、石の大なる	
			橋あり。7時15分、石盤舗に着く。游氏足痛。馬40里。	
		11	6時40分、南山舗を馬で出発。茶店子、山泉舗、龍泉駅、大面舗、錦東橋、得勝場を経て、成都	成都着
			東門城内へ到着。歩行787里。轎93里。馬75里。川舟50里。重慶から成都間合計1,025清里。	
			成都謡歌　　九曲湾赤水舗　　石盤南山柳溝坡	
			山泉龍泉口死馬　　大面紅蕃生山河	
		12	朝、江氏来られ面語する。9時、江氏宅を加藤氏と同道して訪問する。骨董品街を散歩し、漆箱、	
			西蔵佛、沿革図書等を求め4時に帰る。馬正泰氏に面す。氏は西蔵に行き、蔵図及び四川図を	テンゲーリン寺
			有せられ、井戸川氏へ紹介することを加藤氏より托せらる。	
			古釈迦仏銅製。丈7寸5分。西蔵伝来の古仏と拝す。仏像代500文。沿革地図2，240文(2両)。	
		13	11時発、城内2，3里城壁に上る。煉瓦城にして高さ4丈幅3丈半。一里毎に番所あり、南城門に	
			至る。門口広大、曲湾にして出ることを得、200余所前改修という。城外に小川あり。小舟通ず。	
			橋を渡り、左折して行くこと5里。大石橋を渡り、道士廟青羊宮に参す。青羊宮より3里西南、草	
			堂寺に至る。成都は四川の主府なり。四川第一等の大寺、第一等の人物あり。故に僧は重慶	
			地方に比して趣きあるを見る。游へ2,000文、彭へ2,200文を渡す。草堂寺行き入費200文。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	4	14	成都から、＊第7回「本山上申書」5枚を出す。午後5時、江氏に招かれる。8時帰る。草堂寺より	⑫573-577p
			僧来るも予は留住なり。周氏と10時迄語る。彼は明年日本に行くという。日清の話をする。	
			水野へ書簡出す。	⑨93-97p
		15	東門外下流3，4里馬頭にて加藤領事の開船を送る。10時分かれて雷祖廟を見る。11時に朝飯。	
			午後、北門の西、文殊門に詣でる。200年前に修造。境内40畝。寺禄900畝。僧160人。	
			仏像(文珠院)1.400文(2両2分)。蔵佛三躰(950文)。	
		16	10時発、北門外茶館より游君を返し、彭一人を連れ、12時、昭覚寺に至る。僧は400余人。	
			境内900畝。田地20畝。禅堂100余人、四方に参禅するザり。蔵経楼南版北版両版あり。	
			蔵佛蔵画増り。本堂三大尊、30間余。普陀山、五臺山、峨眉山、九花山、天下四大名山という。	
			蔵佛(昭覚寺)1,200文(1両)。	
		17	朝7時半発、天廻鎮、三河鎮を経て、新都県に至り、北門外寶光寺に至る。門前多くの穀物を干す。	
		18	11時38分発、城内西門入口より南、南門の西方にある満州城を見る。西門を出て支那車に乗り、	
			二仙菴に至る。北門内喇嘛古寺に行き蔵画副2(1,000文)、外に小さき「西蔵佛」(1200文)を得て	西蔵小仏像
			帰る。西蔵経を見る。甘粛より500里青海地方のものなりという。	
		19	留守中、昭覚寺の僧2人来るの由で在宅。游氏をして買物をなされば、剃頭す(50文)。少し午睡。	
			荷物の整理。　蔵仏第五号　甲　護身仏　1寸2分　銅箱入り　文殊院	
			乙　釈尊　2寸5分　銅箱入り　文殊院	
			丙　蔵仏　2寸　銅箱入り　文殊院	
			夜。游友人超氏来る。予は、夕方、柳子口に周氏を訪問。兄弟二人と大に東洋の急務につき	
			離す。彼、日本へ2～3年の内に行くという。談話凡そ3時間。8時頃帰る。東火街を散歩。	
			10時、麺舗を経て帰る。	
		20	午前2時、失火ありと叫び起す。戸を開ければ眼前大火となる。火の手盛んになり、掌櫃に談し、	
			開聞を迫り、宿代銀を与え、道中要人の為両人足及び游氏共に一個ずつ行李を担い予は、蔵幅、	
			カバン等を携え2～3清里に至る。尚鎮火せず。文殊院、尊堂寺、周氏の宅は尚遠し。江氏の宅は	
			遠けれど、火事に近し。3時間程で江氏の門前に至り、30分ばかりで萬有店に落ち着く。	
			午前8時過ぎ鎮火。この騒動で時計のガラスを壊す。火災5～600戸。死者1人。9時半朝飯。	
			この時、萬堂寺方丈、一人の伴増を率いて訪問され、30分面談。前は、漢口の大火数1,000人の	
			死者の思い生きた心地もなし。本山上申一通(成都記事)。南條師一通。宮島氏を認む。	
			周氏東洋語あり。逍氏来談される。時計のガラス直す。	
		21	8時半より彭を連れ、南門外、武候祠に至り、漢願昭烈帝位堂、武候堂、漢将軍諸候堂及び	
			花園等を見る。「石硯武候祠」(300文)を得、叉昭烈帝陵を拝し、帰り南門より城壁上を東門に行く。	武候祠拓本
			城外天主堂を見る。東門内、大慈寺に至り方丈円澄氏に面す。学識あり、2時間ばかり息も切ら	
			ず話す。大に好知巳を得たりる学術上の談話をなす。傳法のこと。梵文のことる目今の上京など	
			なり。后蔵住桜禮色、千仏堂を見る。蔵経桜上蔵経あり。広大なり。画あり。叉万仏あり。泥にし	
			て金箔をおく。明日、印文字を書き贈るという。予もね通戒4ケ吊口を贈る。昭覚寺より法子を持	
			ち来る。不可100文与えて返す。江少、周兄弟、同人友人王氏来談せらるる。水野、国元へ書面出	
			す。周、王三氏と日本仏教の組織等話す。江大より名刺持ち来る。原田君50円にて語学教師を	
			頼む。嘉定への紹介状を得たり。	
		22	朝、王氏来訪。日本に至るという。団羽、諸書し、蔵仏を造らる。予、大阪本願寺及び銀閣寺写真	
			写を贈る。成都から、重慶領事館、水野、南條、宮嶋、国元、仏教学会、反省会、東洋哲学会へ書	
			面出す。＊第8回「本山上申書」を出す。午後、古志堂にて、「印度雑記」、「成都図」(560文)を求める。	⑤315p
			560文。写真館で写真4葉(1,400文)を求め帰る。この時、井戸川、中村、原田3氏来着の報に接し、	
			れ、予不在。直ちに2丁ばかりの所旅宿へ行き書面を届け談話す。夜食、来訪者5、6名。留守中来	
			ら共に10名で晩食をなし、9時頃、帰る。	
		23	日本遊学志望者、成都、周嗣倍。江少翁。王棪。陳。李。　外略之。「四川地図」(560文)を求める。	
			11時半、井戸川、中村、原田、3氏来遊。一同、萬有店へ転宿に決し、共に出て、火事場を見る。	
			1時半、獅子巷、周嗣倍氏へ行き、井戸川氏の在都策談あり。この時、知府官李氏来り。談話の内	
			に餐応に預かり、5時に分かれて、江氏宅に至り、予、明日出立の分かれを告げ帰る。	
			彭に舟を見させむ。舟のある所まで歩行に決す。彭の紹介で賀守典氏を訪ね名刺交換をなす。	
		24	6時30分、成都東門を小舟で出発。蔴柳湾、中和場、中興場を経て、蘇碼頭に至る。80里歩行	成都出発
			10里。乗舟5里。船60里。	
		25	5時発。傳家覇を通過、この地方は小丘あり、阿片盛んなり、桑樹あり。古佛洞、黄龍渓、半邊街、	
			江口、彭山県に入り、夜2時過ぎ青神県西岸へ着く。	
		26	5時発。漢陽覇を経て、午後5時、嘉定府に着く。夜、公館を訪う。成田氏は、発10日(4月19日)	
			当地の三益店に一泊の由。峨眉及び雅州行の道を聞く。嘉定の外人30人ばかり。五薬寺幾10僧。	
			仏爺寺2～30僧。当地の一等の宿は、府街福有店、文星店とす。写真一葉を送る。	
			1時間ばかりして帰る。提灯を2人の従者に持たせ、予と游を送り宿に来り、数時間談話して帰る。	
			夜、井戸川氏に書面を出す。	
		27	6時半、嘉定府大西門を発ち、雅州河の末急流の草鞋渡で渡しあり。10時、蘇渓で朝飯を食す。	
			鎮子場は平地の街で、タバコ、ソラマメ、ムギ、米、桑等を見る。阿片殆どなし。6時、峨眉県着。	
		28	峨眉山へ登頂。峨眉山は平生頂を見ることを得ず。常に雲がかかる。1日20里中、10里は平地、	

年	月	日	事　　項	参　　考
			10里は斜にして、100里は柱を立てたるが如し。	
32	4	29	峨眉山頂、金殿の方丈心啓は不在。大雄殿、佛殿、最高殿、普賢塔、金頂正殿を参詣す。	峨眉山
		30	峨眉山下山。峨眉山高さ1万2千尺。	
32	5	1	10時半出北門、東行。峨眉県草鞋市街謙益店、遊氏及彭と分袖。四門あり。城内1清里半里。	④138P
			四方城内外3,000戸。平地田8、9部、西え山脈あり。石橋を経由。11時半、休み20分。	草鞋3足購入
			一面平地。春漪碻。水少し。桂記舗(コイチープー)2戸。1時、休み30分茶。双福場500戸。	
			中央河あり。平成橋開なり。東100里平野。周氏口祠(石橋)。北行、2時半休10分。過河。	
			劉渡50戸。雅河渡しあり。夾江20里。雅河急、渡らず。河の西岸に訪ふて上る。養蚕盛、	
			マユ上ぞく、ムロムキの葉。大道20里。夾江口林があるという。河辺茶店。分流合す。1戸。	
			5時休30分茶菓。四興桟河辺にあり4、5戸。船税関所紅旗あげり。2、3ケ所。古室。	
			6時半着。85度。木城、宏義官店泊。城あり。但し一方のみ内外5、600戸。河辺。夜剃頭。	
			御書人2人談話に来る。100戸。河辺。夜剃頭。御書人2人談話に来る。＊第9回「本山上申書」発送。	⑫585-586p
			＊水野宛書簡を出す。	
		2	6時発。7時20分、過河。塔の下に小河を渡る。8時朝飯。沙毛市(サーマコスー)150戸。8、9才	
			の子四番を通読す。情字庫あり。塔也。9時40分、洪雅県楊家場百戸。12時20分休40分、	
			柑子場、200戸、河の西岸を上る。平地養蚕の桑異なるを見る。葉小なり。柳の如き様のもの。	
			1時30分、壁雄府廟也。2時10分休40分、止才鎮、500戸。河辺口江。河を渡る。西岸過河。	
			4時10分水車田引水簡而便利、迎鳳場、5戸灘あり。全面山を見る。高さ3間。本日、阿片を多く	
			見る。小駅2、3戸。本日2度老口を打つ。田植えは籾を蒔きたる間を間引くのみ。羅壩(ローパー)	
			西岸、300戸、前口機悪口。老范の言うを聞き予を見に来て礼をなしヲミトーフ、等云う。	
			北西行、150里(85里)。4、5人あり。6時30分。85度。6時発、過河。	
		3	7時20分朝飯休30分、九鎮舗、東岸30戸。8時20分休、竹箐関、2戸、関所あり。9時30分、	
			観音場、50戸。小河大河に合す。島あり。寺あり。12時休茶を飲み餅を食す。草坦場、400戸、	
			東岸。天気よく熱くして日中難走。過河、船頭を叱して早く過河せしむ。尚1時間を費やす。	
			3時20分休茶。木駅郷、西岸、200戸。泰岩口当の石碑多し。福安橋にて厳拾寺牛の為に	
			行李を改められ開く。5時半入る宿を探す。雅州府、東門、3月24日、年一度のトヲドーホイ	
			の祭りにて遠近来会者多し城3里四方城内外5、6,000戸。北220里(70里)外人2名。	
			街、建福店泊。城内馬調教師夜アラレ降り叉強風。9時10分、寒し。対崖(トイガイ)50戸。	
			銅口、山口険。気候大いに異なる。桐の花茄子の花あり。沙駅沢山。。紫石里、120小。	
			11時10分、巴舗石(パープーネ)6千戸。氾人足を雇う。負荷し、田広し。小駅沢山。一時休30分、	
			観音舗、2、300戸。山間の市街なり。暴風なり。鳳舞亭。前蔵より2時30分、千尺。	
			茶屋4、5戸。飛龍山。一荷100両以上、山上まで。普済橋。20余人に遇う畠あり。高橋4、5戸。	
			栄径県塩卡あり。4時20分着、通行人多し。石家橋、河辺、80戸、宿よし。川北に流れ東口行。	
			天恩站宿。塩、鍋、石炭、銅、杓子、白口虫子、70里。雅州府東門。	草鞋2足購入
		4	降雨を犯して出発。紫石里。観音舗を経、千余尺の高山を越え、十家舗に宿。70清里。	
		5	5時50分、小駅あり。新店場100戸。此辺よりは米食少く黄色の包子(唐モロコシの粉を練り	
			丸くし焼きたるものか)を多く食す。白口虫子桃夫300余に過ふ、叉銅鉱の馬、石炭等多し、	
			口上大に人多きに困る。石道に敷く叉鍋のめいさん。東南行。叉茶も多く送る人夫を致百通り	
			越す眼弥押し。　小駅にて朝飯す。9時20分、河の南岸に上る。栄経県、4、5千戸、城壁	
			ひく、山間の一平地、河あり舟なし。10時20分、鹿鳴里(嶺頊帝故里)150戸、アヘン、ムギ、	
			菜種、冨豆、豌豆等多し。12時、休。小駅。1時15分、金家湾(チンクーザン)50戸。大通橋20戸、	
			石橋を渡る此川下にて川支流と合す。2時30分、棲止堡、100戸、此地ミカンあり、色紅く形ユズ	
			に似る。寒き地のミカンこれなるか。4時過ぎより降雨、雪山あり、田地あり。4時30分降雨、泊す。	
			黄泥舗、150戸、山間の一駅なり、山禺発店、6時食、子る7時。以上田畠なし。2時30分、	
			4時30分降雨、泊す。黄泥舗、150戸、山間の一駅なり、山禺発店、6時食、子る七時。田畠なし。	
		6	6時　55度、櫛を売る小駅あり。7時30分、小関拾余戸、茅葺き、宿あるも特に悪し。2、3戸の小駅、	
			坂急に上る、橋を渡る。9時30分、大関10戸斗り、板屋根、坂上の一駅。10時30分、小駅、板葺き	
			の雅屋なり。長寒。小駅。12時30分、大象嶺。凍雲庵、4、5戸。6,500尺以上の地をこす。6,000尺。	
			三大湾1戸。2時、草鞋坪頂上には家なく、少しく越して3、4戸あり。遠景山嶺重畳高。廿四盤、	
			7、8戸。深人跡なきの地なるが如し。羊圏門、20戸。4時30分、風強。青渓県、古黎口(チンチー	
			シェン)、城内外寂として繁昌せず、人家7、800戸。地形頗る奇沙流の斜地なり。徳性店、此辺田	
			なし、アヘン畠なし、麦畠なり。　＊大象嶺より眼下に草鞋平をスケッチする。	④62p
		7	7時30分、朝飯、休30分、冷飯口、2戸。河の両岸剣山にして草まれに生し焼土にして石崩れ流砂	
			甚しく荒地なり尓れども地悪しきゆえに僅少地もより耕し人民住す、人家まれにして異城異風蛮界	
			の入口たるの如し。冨奥場(フーシンチャン)、田、阿片畠あり、150戸、北岸に沿って上る。	
			10時10分　休20分、河、合点、右河に沿って上る、即北岸なり。12時30分、観音閣、一寺、対岸10戸。	
			小駅、3戸。2時30分、河合点、右岸に沿って上る北岸行なり。2時30分、河合点、右岸に沿って上る	
			北岸行なり。電線に合す。清渓の近辺羊圏よりの小分路ここに来り山を下りて本道に合す。	
			4時40分、小駅、10戸、桃、リンゴ、ビワ、梅、カキ、冨豆、阿片、麦、茶、唐モロコシなど。	
			260里(70里)。塩、鍋、石炭、銅、杓子、白口虫子、70里。	
		8	9時発、名楊官店。泥頭、300戸、黎洲西塞、四陸桜及塔あり。田、阿片、畠あり、河岸の上にあり。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			11時、朝飯。大湾頭、3戸、豆腐6厘。12時、高橋、石造5丈。12時40分、観音閣、近辺2、30戸。	
			1時、鵲来橋(三交口)20戸。2時、林口、5戸。石臼、水車、各種粉を挽く巾3尺。小駅、3戸、店あり。	
			小駅、5戸。5時、310里(50里)。	
32	5	9	6時、伏龍寺(龍盛店、3、4戸、老范ガタガタ振るい38度、風邪、手にもつ火円を口口、此近辺大雪	
			降る)7時、6千尺、飛越嶺関所、1戸、但し人住せず、石碑あり。7時半、飛越嶺。松林口(サンリン	
			カヲ)3戸。8時　朝飯食う。瓦菜坪(ワーヨーピン)、4戸。9時15分、化林坪、200戸、兵住し、繁化な	
			らず。烟水渓、10戸。11時半、馬松坡(マーソンポー)烟水渓、10戸。11時半、馬松坡(マーソンポ	
			ー)、5戸。小駅。12時　阿片、150戸。唐モロコシ。新鎮、5戸。2時半、冷磧、150戸、田畠広し、	
			但し阿片多し。小駅、1戸。小駅、3戸。5時着す、米飯を得ざる。甘露寺、勝景山林あり、寺立派、	
			僧住す。今日共、2日間。瓦九、10戸、桟房にあらず、房圏、予一人子だいあり通泳人の安宿なり。	
			385里(75里)、小駅。塩、鍋、石炭、銅、杓子、白口虫子、70里。	
			＊鑪廳東境に飛越関碑記(光緒23年立)があり、碑文を写す。	④138P63p
		10	6時20分発、大巴(ターパー)10戸。7時20分　朝飯、休40分、小駅。此辺砂金多し。小駅、玲磧より	濾定橋
			濾定に45里、2千尺を上る。10時20分、華に無事過橋西岸に休麺食す。濾定橋、東岸3百、橋長31丈	
			1尺、修復中。高5丈、巾9尺、危険、化身手を携へて渡り忽ち去る。11時半　休40分吃茶。小駅、新家。	
			1時30分　休吃豆腐。茶里(サーリー)、地廣く田畠あり、11時半　休40分吃茶。小駅、新家。	
			風大に異なり、石を畳み蔵の形とす、やや上地対岸。叉土蔵形石屋14、5戸(法輪常転、ラマ寺あり、	
			住せず。)3時半、弐戸。4時30分、サーワー、川に像あり、ラマ信徒の家旗を揚げる。	
			5時20分、大ペンパー、福興居あり、30戸。2、3戸。7、8戸。日暮れ夜道老范谷困る、洋傘を忘れ	
			2里取りに帰る谷川に架橋あり、谷山白雪。8時30分　最大難行。470里(85里)或は90里。或は100里。	
			＊「濾定橋を渡るの記」を記す。	「第八号」④61p
		11	8時発、瓦寺溝、大度江に濾河の合する地にして100余戸、露定より祠寺に60里、3,000尺を上る。	
			瀧あり、行台あり、近辺20余戸。10時半、日定、14戸。10時半、日定、14戸。3時40分、西南に屈る。	
			瓦寺溝より炉に至る、60里。或は65、或は70里。道甚だ悪しく上ること5,000尺。6時30分515里(45里)	
			或は50里。	
		12	8時20分、大生関(ターセンカ)、4、5戸、梅花の候なり。此夜食一膳を食して忽ちに目まい休む。	
			川、瓦寺より炉間60里、4、5千尺を上る。10時30分、宿着。打箭鑪、千余戸、此近辺の山幾分晴	
			れたる地にして四面山、白雪を頂く蔵人多し。530里(15里)。大道、川。小道。大道至西蔵重慶至	
			成都1,020里、重慶至成都1,020里、成都至嘉定390里、嘉定至峨眉80里、峨眉至至雅州220里、	
			雅州至打箭鑪530里、合計2,240里。格外到新都県(往復)80里、峨眉登山上下240里、計320里。	
			以上大合計2,560里。午前10時半、打箭鑪着。油海椒(トハイチャヲ)、酷菜、酷葱、塩、皮饅頭、	
			焼きパン、オモユ汁、を食す。午後、市中散歩。佐藤、小豆を求む。一合30文、半打70文。ラマ寺	
			を見る。薩迦寺に至り番僧及老婆と語す。寺の入口に犬のおるには閉口。品興合信局に行く。	
			銀は正に達徳宿に着しおるという。夜風邪を犯して書信をしたたむ。5、6本。夜夢見、実に難所	達徳店
			を経行き困難の夢うつつ、よく寝入られず。寒くして戸を閉つ。本日、散歩、採金(砂金)の方法を	
			見る。砂金を両口板に入れふりとる。	
		13	朝、老范帰慶。西炉老陝街達徳店宿。書面　重慶領事館(館員武田)途中、井戸川氏、水野宛	
			昨夜認む(風邪を犯して)　南條氏、＊第10回「本山上申書」、水野、国兄(国元、静)＞　降雨、終日、	⑤317p
			寝床に引き籠り風邪を治す。吃菜、木炭を求む。30斤、360文。卵2ケ、15文。卵2ケ、終日、寝床	
			に15文。515里(45里)或は50里。	
		14	明日精進を命す。朝遅く起き、宝内大掃除をなす。ゴミ多く実に大閉口なり。午後、炉より裏塘に至	
			る道程、里数、地名等を合照記出す。叉掌口に西蔵教師を雇うことを相談す。別紙の談話をなす。	
			降雨、寒く、50度、鈩に火を起こし寒を凌ぐ。午後、降雨、雷鳴。慶至炉費4日諸費。4、5両098、	
			12日迄。17両315、62両413。	
		15	御命日、精進す。蔵語等を口らず。会計を正す。午後、降雨、夜茶をなし伏す。	
		16	朝、ガラスにて左手親指を怪我す。勤行、小降雨、山上雪なり。12時発、川の右に沿って上る。	
			湯の湧き出るを見る。只馬に従うに過ぎず。勿体なき次第なり。牛を見る角三屈し毛羊の如し	
			黄教(ラムツ)ラマ寺に行く。犬の為に入らず。更に大ラマ寺(大教堂)に至る。叉犬の為に入らず。	
			門前の小ラマ寺に入り、ラマ僧6、七説教をなす。参詣人2、30人。板の仏間に座して聴聞す。	
			灯明バター(牛酪なり)立派なり。御水を呑む。堂を百遍廻る。同行多し。歌を謡う。話通ぜず。	
			要領を得ず。僧は座して読経出て来らず。観音、経皇主等を祭る。下に沿って下る。泳辺石に鞍文	
			刻むもの多し。降雨、市中を一見して帰る。天主堂牧善堂、西蔵人回堂、西洋店等あり。夕食甚だ	
			佳味ハイチャを混す。(本日シラミ5匹、ズボン下におる。10数年来の不潔生物)改第一支那人も	
			西蔵人も皆、自国の文の経を読むに日本人は何故に日本語の経を読む事を得ざるに日本人は	
			何故に日本語の経を読む事を得ざるか残念残念。帰朝早々日本文読経に革むること。	
			改第二、右手俗諦門。一、父子。二、朋友。三、君臣。四、夫婦。五、兄弟。仁口永智信。	
			左手真諦門。一、弥陀。二、回向　三、口。四、諸天呂神。五、法類故に拈香法坊　昭覚寺の如	
			風にして親指と高指に印を結び拝礼す。改三　晻嘛呢鉾彌吽を念仏と同様称念ののむけること。	
			含む輪を用ゆること。	
		17	強降雨、寒く椅子にてコタツを造りあたる。叉進蔵控覚を記す。	
			上海　2,370里(590哩、日本274里)。高低起点　。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			漢口　1,275里（393哩）、600尺。	
			宜昌　1,860里（4百哩）、1,000尺。重慶　1,040里。	
			成都　1,020里。打箭炉　合計7,545里。　東京　376哩。	
			神戸　564哩。上海　合計940英里。	
			本日終日、強雨降り「進蔵詠程照見」上・下を作る。夜12時迄夜学をなす。「サンクー」新カイスーの	
			地方に至る。20里。	
32	5	18	北門外1里斗り、散歩。帰途僧に逢い誘われて彼の寺に行く。即ち北門内、城隍廟北門にして名円	
			照と称す。天全にして五台、北京、上海等に皆廻りたる僧なり。外に一僧あり、峨眉山、九老洞の僧	
			なる由。談話、日清の国状及び佛教の有様、一ラマ僧教師を頼むこと。今、明日は釈尊降誕日に	
			て暇なし。追って我宿に来り共にラマ寺に行くことを約す。	
			進蔵サンパミエン、米等を持参すること。洋銭（3銭2分）に替えること。西蔵及び炉より裏塘にて	
			馬5ケ洋銭。裏塘より巴塘にて8ケ洋銭。巴より察木まで6ケ半洋銭。察木より丁日（テインツー）	
			まで14天、此後は寺に宿して蔵に行かるる。故に鞍に至るに1人歩行にては2個錠銀20両にては	
			2個錠銀20両にて達せらるる云しむ。　打炉には清国人1人、英人1、2人、住まる由、外人3人、	
			信者少し。炉に漢僧合計五人斗りなりたり。	
		19	晴天、かぜり、62度。掃を造る。蔵字及び蔵語を自独習す。気分大に好し。午後、微雨。3千年を	
			作る。釈尊年代考（異説を対照）を作る。	
		20	朝、58度。午前、煮豆。城隍寺僧円照及び九老洞僧2人来訪1時間斗り談話。明日行くことを約す。	
			二、掌櫃来談。大に蔵語教師を雇う事に付き談話す。打箭炉にて洋銭（3銭2分）に襖へ察木多に	
			至り再び西蔵銭に替えること。西蔵銭は①1銭5分（含同故に価1銭②3銭（三分一銅）②3銭（三分	
			一銅）③6銭（三分銅の3種なる由、七仏通戒偈和訳を一定し、清訳す。神袋を張る。神袋を張る。	
			晴天、夕方雨。）	
		21	朝、大浄洗をなし、板の間を拭く。朝50度。12時、強雨雷口。剃頭す。（日光、富士、筑波等に	
			登山は経験より左に）高低目算〇上海起点。宜昌、1,000尺　重慶、4,000尺。成都、5,500尺。	
			嘉定、5,000尺。峨眉県、5,100尺。峨眉山、15,000尺。雅州尺、6,000尺。観音舗山頂、7,500尺。	
			栄経県、6,500尺。大象嶺草鞋坪、13,000尺。清渓県、1,500尺。冨興庄、15,000尺。飛越嶺、	
			冷磧、13,000尺。瓦寺溝、14,000尺。打箭炉、17,000尺。老爺小便壺（シビン）を雨に洗い自ら室	
			に持ち入るあり。	
		22	朝、56度。朝掌櫃及び陝西人来る（予若し店子を襖るならば此人を入れん云しむ。予勿論店子	
			を替える心なし。故に語止む）此陝西人、昨日前蔵より帰炉出立巳来3ケ月。在蔵3年茶を價う。	
			詠上15人以上同行者を要す。賊あり、首級をは子荷物を奪う。蔵にも尚洋館舗蔵舗の両様を	
			用ゆ騎牲口、蔵より察木多迄10両。察木より炉に至る10両。合計寸乃玉さ5両を要すにて候。	
			衣服は皮衣一件。尚寒むく上に尚外套を被るを要にて候。12時出て西門て候。衣服は皮衣一件。	
			尚寒むく上に尚外套を被るを要にて候。12時出て西門外（西門なし西方の山）皮に沿うて上る。	
			温泉を見る。大呂り。西蔵に至る小詠にして明正に至ると云うこと大山を越す道。茶（6包）を	
			荷へる牛馬72頭7人の使牲口者過山見る。夫より山を斜に炉城の背後山頂に出て炉街を眼下に	
			一看し下り城隍廟に行く。僧不在。観音閣に行き僧と談話す。功果月1斗米。西蔵の印、キリ、小僧	
			を打つフロシキ（2円）、等を求め帰る。掌櫃姓解と話し銀200両の内百80両を受取り二錠銀子を	
			受取り二錠銀子を彼みだりに使用す。不届千万の漢なり。好天。歓待。〇洋銭（印度ルーピー）	
			3銭2分。価3銭5分銀子。3百5、60文。10両（1錠銀子）に付き2魂半、或は3魂洋銭を引き墺ゆ	
			本日1ケを得。（チャイツ、牛ライツ、サンパミユン、酥油［アヌ、ママル］夜、ボーイ来て談話）	
		23	朝、54度、スー油、3両36文（1両12文）、サンパ麺半汁（20文）を求む。午後、陝西人李氏来談。	蔵手鐘2個
			日本仏教事情を話す。邪書の生意なりし云う。外出す。城隍廟僧ラマ寺に「不能引我」と談し、	
			予は砂糖1斤を送る。我実に無情。出す。城隍廟僧ラマ寺に「不能引我」と談し、予は砂糖1斤を	
			送る。共に行くも蛮語を話す不能云候。にあるも実に外国僧を案内するをはばかるにあり。	
			仕方なければ分れい出て街上蔵の「リン」手鐘を求め帰る。本日掌櫃2錠銀子を持来たり、	
			正に受取り済。1錠銀子を洋銭（予音眼鏡と間違へらる）24個及び切り半個要銭5個。合計凡そ	
			26個半と9両四銭と替ゆ。或店には「9両2銭」に4個洋銭減とられ、予は他の店にて9、4銭に	
			3個洋銭減にて墺ゆ2ケ半分、3ケ洋銭（10錠に付引く）の相場なり。本日晴好天（日中70度）	
			岸教寺（ラマ寺）僧ラマ僧2人と少しく、城陰門前にて談話す。陝西府同官口人。蔵より2、3日	
			前帰りたる人来談。雪一丈もあり正月蔵出立、3か月にて到着。途上食物有り口口。夕方	
			雪口降雨。雪中馬やはり通す。蛮狗、予に噛みつかんと吼ゆ。打箭炉東経98度、北緯30度、	
			海面を抜く凡そ1万9千尺（目算、5月21日、日記の下に表を作る）	
		24	西蔵図考巻一及び第二源流考口を読み、叉習字並びに波利字、阿盲王代字、委曇字を写す。	
			本日は旧15日にて1日2度朔日となれり。店主より麺、菜を馳走す。バター甚だよし。毎日洋食の	
			如し。日中62度、風夕方微雨。暫く午睡す。夕食大馳走なり。	
			本山上申書発送表	
			第1回　明治31年11月18日。上海。（第1期、京都、上海間渡信記事）	
			第2回　同11月30日。漢口。（第2期、上海、漢口間及漢口、宜昌、漢陽記事）。	
			第3回　同12月4日。宜昌。（第3期、漢口、宜昌間、簡単）	
			第4回　明治32年1月13日。重慶。（第4期の1、宜昌、重慶間、送金高及及手続き）	

年	月	日	事　　項	参　　考
			第5回　同2月4日。重慶。（第4期の2、重慶記事、江北、華厳寺）	
			第6回　同3月30日。重慶。（第4期の3、送金領収書、江上紀行、重慶出発、写真）。	
			第7回　同4月14日。成都。（第5期の1、重慶、成都間、草堂寺）	
			第8回　同4月22日。成都。（第5期の2、成都記事、四大寺、成都出発）	
			第9回　同5月1日。峨眉県。（第5期の3、成都、峨眉間、峨眉山記事、単独眉出立）。	
			第10回　同5月13日。打箭鑪。（第5期の4、峨眉、西炉間）	
32	5	25	西蔵図考、源流考及読審隘篇を読む。午後、ふと洋銭を換へんと欲してふと心にまかせ道を南に	
			転じ道中漢蔵人の喧嘩を見過。河南門裏須に行く。この時、井戸川氏従僕劉を見当り偶然にも井	
			戸川大尉、原田氏、一昨着炉。予を探して見当たらず尓るに予ふと両氏に面するを得喜び限りなく、	
			この夜天主教徒周氏に逢。蔵語教詠を頼み其他快談する。包席を馳走、せられ右4人快話。	
			8時過ぎ雨を犯して帰る。今日談話する所有益の言多し。周氏巴塘にあり。	
			井戸川氏予の為に大に尽し申せられ異郷実に喜び限りなし。在炉信者100余。天主教会堂2ケ所。	
			外人2人。信者なし。英ヤソ会堂1ケ所。外人2人。巴塘天主会堂あり。この地方小路を行けば	
			2、300の天主会教徒あり。叉近方に3,000の教徒あり。皆蔵人なり。回々教徒在炉多く、寺叉肉、茶、	
			麺の商い皆回人なり。周氏はラマ寺の僧と懇意にして蔵を五学ぶ15年なり。	
			井戸川氏8日から10日頃、帰朝のはずなり。成田氏、7月始来炉のはずなる由。蒙古僧30人進蔵	
			せりという。狗をチンという。	
		26	朱先生不来。井戸川氏、原田氏両君来訪。1時間余談話共に出て北門観音閣を巡検。	
			分れ雨を犯して帰る。明日の包席を頼む。降強雨。夜月琴桜下に聞こゆ。旅情限りなし。耳、鼻、	
			防寒。雪にてすること。火及び湯最も悪し。足に汗出る干布にて拭くを要す。「打箭炉之図」を書く。	⑮231-233p
			金玉を皮にて包むこと。井戸川氏より硯石を送らる。即皇后陛下下賜のものなり。嘉定上流を描く。	
		27	晴天。朝、朱氏不来。食後11時、井戸川氏を訪い有益。石川氏の伝言、談話2時間。1時より外出。	
			上地より湧泉地を巡見。達徳店に帰り地理上等の談話をなし、4時より3名にて包席を食す。	
			朱氏本日忌日、不食故に不来。6時頃より共に井氏を訪う。途上ラマ人に逢い共に井氏宅に	
			井戸川氏宅に行き西蔵の模様及びターヂリンより前蔵の道並びに入蔵出蔵の手続きを聞く。	
			「ヤトトン」の関所にては下来人を蔵王殺す口話には大に閉口。この鞍人同じく帰蔵六ケ敷由。	
			叉朱氏来り共に談話。以上2人、蔵語を予に教ゆることを諾す。誠に便宜を得たり。九時帰宿。	
			「ヤタン」は中国の僧は出ることを得べし云しむ。8年前、英蔵戦争。其前英人3年在蔵帰印。	
			外人を嫌う甚だし。	
		28	御命日勤行。昨夜、1時迄、本山上申書面を認む。本日、国元及び宮島、上海へ宛て書面を認む。	
			午後4時、朱氏及び蔵人「ヨンチェー」氏来談。御住職（ラマ経）「三部祈祷法章」を蔵僧より送らる。	
			共に3人同道。井氏の宴席に臨む。予は精進す。叉「コヒ子」洋店の番頭2人来る。面す。	
			予9時帰宿。井氏へ托し石川舜台氏へ書面。書面　上海別院。宮島先生、「本山上申書」	
			＊第11回（第5期の5）。国元浄蓮寺。以上郵送。原田氏へ托す。峨眉山遠景を描く。	⑫562p
		29	昨夜強雨。好天。朝6時起。途上井戸川、原田氏に面し東門外1里送り。両氏帰慶、天全を従て	
			峨眉山嘉定舗州鑪州を経6回20日、帰慶8月10日頃、帰朝出立なり由。石川氏へ宛書面を託	
			す。好天。昨夜、西蔵経を字引にて調べ一句を読む。今朝、蔵経1頁を読了。12時発折多。	
			入湯行。蔵人「ヨン」と同道。大教堂の上みより駿牲口壱ケ洋銭。打箭鑪、南門。大教堂、寺を過	
			ぎて2里。道下、石房家、休む1時間半。一休騎馬。干珠尓、10軸あり。	
			左走折多山至河口。両大路、道上下に分かる山辺、河辺2、3の石室及対岸、天幕の家を見る。	
			右走玉麒宮、磨西麺。大興郷、1戸。河、折多河と玉麒宮川にかる。対岸の山上大雪山。	
			板橋を渡る。1、2戸散在。石橋を渡る。折多、所々15、6家散在。予は下より2戸目に宿	
			す。河二流に分かる。北行は進蔵。至雲南、（29日。上走、騎牲口12時発（途中1時間半休）	
			5時半折多着）（31日。下走。9時発、一時着炉、走路）	
			本日始めて蔵人の生活を見る。手にて粉をかく。酥油茶等。5時半、折多着。御飯後入浴。	
			陣かより山手上る1里川辺に出つ。冷熱雨水混す。風景好、山開き地廣し。夜ラマ僧等来話す。	
		30	好天。朝、入浴。帰宅同宿のラマ僧を訪い、談話。彼、仏蔵及経文を包みより出し拝せしむ。	
			叉蔵語を教へ2時間斗り談話干珠尓、丹珠尓のデゲーと称する地（折多より北行。15、6日里程、	
			北行土司あり。チェクーに達す。）にて300余部、全部1,000両斗りにて買る由。其他蔵内尚得るりと	
			いう。午後2時、出て上折多を巡回道、二支に分かれ進蔵は上走の由。山を経て入湯。雨を犯し	
			て帰り。牧牛、羊、豚、馬等の生活、蔵人の生活風を見る。夜強雨降る。	
		31	朝入湯。1ケ支那人自ら利せんとて人里なきと称し、予を困む。予は彼が鼻をあかせんとて自ら	
			布団を荷い9時出発。20里を下りて1人を雇い（10時半）、12時両大詠を経て1時帰着炉す。	
			今回の小旅行大に得る所あり。本日途中3、40頭の茶運の牛馬を見る。好天。	
			○　蔵駐蔵大臣、正月初三日頃当地発帰国	
			○　当駐蔵大臣正月10日は当地発進蔵3、400名。実は商人多し	
32	6	1	好天。日中70度。温暖なり。本日、四川近辺地図を調査するの外は、屑々。天主信者来君は	
			遂に来らず僧を嫌うか。主人に制せられたるかは内一つなり。10個洋銭を宿二掌柩に拂う。	
			夜8時頃、朱氏来り。蔵語を学ぶ。1時間余。数及天文語類。夜2時まで夜学をなし、達頼、班	
			禅の世代を調べ編輯す。	
		2	達頼9代及開祖。班禅の7代の傳を編了る日中74度。紅教の沿革を調べ編輯す。夜蔵語、	

年	月	日	事　　項	参　　考
			地理部及代名詞を学ぶ。晴天。夕方より風雷。晩降雨。	
32	6	3	日中62度。蔵仏教宗派を調ぶ。夜語学人事類。雷版少雨下る。	
		4	朝57度。西蔵学老客法を考へたるの外、炉察間小道。入蔵三大泳。西蔵雑事、天事、地利類篇	
			を読む。夜早くより休む。雷鳴、降雨。日曜に付、朱氏不来。曇天。	
		5	観経を読む「以酥蜜和麨」の実際をさとる。午後散歩。「黄ヤーモー」(蔵語センチー)五台山来的	珠数2連
			珠数二連半及陝西「リエアル石」青石を求め帰る。夜、蔵語朱氏来り、物産語類。夜雷雨風。	
		6	朝、50度。夜、物産語、蔵語学にて図考の名刺終る。夜、強雨。店子内病人を見る。	
			藁郷の念起こる。旧4月28日は中国の菜王会にて、バク竹、火砲盛なり。	
		7	好天。日中60度。冷し。図考7巻を読む。夜、会話を学ぶ。	
		8	初15日に付、唐子より馳走。午後、北門外7、8里、二道橋辺迄散歩。途上、銀礦わき分所	
			近郷炭高く休む。磺泉、硫黄の出るあり。夜、語学朱氏来る。	
		9	清国全地図の大略図を製す。終日かかる。昨夜、拉薩近方図を製す。雨あり。	
		10	行李ととのへ、炭を求む。菜□□倒す。夜、語学。昼、蔵人「ヨン」君来る。昨日帰炉の由。	
			の牛21洋銭。語学を教えることを得ず。雨あり。✻浄蓮寺宛て書簡を出す。	⑨115-117p
		11	西蔵経文を終日調べ漸く3、4行に過ぎず。強雨。出水。本日より「三誓偈和訓」誦す。	
		12	本日は5月5日の旧節句にてヨモギの葉を入口に筋り、叉二度吃酒、衣服を着替り。朝、馳走あり。	
			闘子始めボーイ4人へ国100文を与う。己練倒なりと云う。午後、東門外を散歩綱渡りを見物中	
			賑やか。洋人支那服着2人を見る。昨日の雨にて大水なり。夜、10時より午前2時迄、西蔵史を	
			調べ漸く初帝王の記を終る。	
		13	終日、蔵史を調べ漸く32代スロンザンガンポー迄編輯す。諸書照覧する昨日、蒙古ラマ6人	
			進蔵拝仏の為着炉の由。朱氏来りての話なり。	
		14	朱氏と共に出て、南門内に香及酥油を求めて帰る。終日、蔵史を調べ漸くうう代に至り一段落を告	
			ぐ。夜、雨。朱氏不来。夜、蔵の音楽を遥かに聞く。日本の飴売りの音曲に似たり。叉ホラを吹く。	
			回教ね真清寺の門口に入る。南礼門内の宅来る異躰西蔵経を見る。	
		15	御命日勤行。朝、蔵僧の行列蔵人の葬式を見る。ドラ(太鼓)鏡躰、ラッパ(蔵笛)、□□天蓋、等	
			賑なり。釈迦文仏。過去七仏舎利宝塔(木造十層閣)を安置し奉る。本日72度、温かなり。	
			✻「西蔵国地誌略」を書き始める。	④290p
		16	「頭蔵地図」を製す。朱氏来らず。天熱し。72度。本日より「梵文阿弥陀経」(闇誦)を始む。	
		17	打箭炉及裏塘地誌を編す。夜、朱氏来。察木多新官員、本日着炉。劉氏、天72度。陝西	
			会館に芝居を見る。面を被るあり。数10人。日本の芝居及狂言の如き看あり。✻「西輪日記』を読む。	④306p
		18	会館を設立し同郷人の知識、娯楽、道法に供す。新儒佛三道合併。其他会所。今朝、ラマ進蔵の	
			大ラマ死去の大葬を見る。僧200余。亡主は2人に引かれて藁沓を履きしめて、続いて行く。音楽	
			あわれなり。騎馬あり。叉蔵人の報員服美し。叉天蓋、幢バン、棺を黄なる紐にて皆引き	
			手にして行く。小僧叉ドラ、ホラ、黄なる如く帽を被る。巴塘、中甸、維西の地誌を書く。夜、語学。	
		19	朝、降雨。左の打電をなす。Narita Jopanese Consulate Chuny chings. ‘Oflicials depart	
			July 15.(Tachinlu)一字20仙にて八字、160仙(1両2銭)。3個ルーピー4分の3。	
			右重慶迄なり。漢字は少しく。安価なり。叉上海へは1字28銭なりと云う。電報局内上海は4人	
			り。午後、暫く武霊宮に芝居を見る。「ヨン」を□□。夜、語学。本日、江卡、乍了地誌を書く。	
		20	午前より食前「ヨン」氏来。西蔵文字につき語学及経曲を学ぶ。始めて意を得たり。食後散歩。	
			明正土司前にて土官数百(子供騎馬100斗り)の行列を見、役所の中を見る。中□より同様	
			立派なり。只、群集皆土人なり。それより武聖宮に行く。軍糧府□総督府□皆知唱□。	
			予も午後4時迄見て雨を犯して帰る。芝居は狂言。芝居、舞の混含同様なり。古代の事□□婦	
			人あり。王あり。蛮人あり。種々薩多なり。夕方、重慶成田氏の手紙着す。当分来られず寺本氏	
			出発とのことなり。察木多の地誌を書く。	
			◎古代三蔵又称三危	
			康　打箭炉、裏塘、巴塘、中甸、維西、察木多	
			衛　拉薩	
			蔵　札什倫布、阿里	
			◎近世三蔵	
			前蔵　察木多、拉薩	
			後蔵　札什倫布	
			底蔵　阿里	
			◎能海西蔵	
			頭蔵　康、附古代所属地(打箭炉、裏塘、巴塘、中甸、維西)	
			前蔵　衛	
			後蔵　蔵	
			底蔵　阿里	
		21	刺麻経を読み始む。成田及武田2氏宛並に国元宛の3書を認め、重慶へ送る。□□□本日不在	
			持帰る。皮靴を求め、明日出来るはずなり。城隍廟に看嬉。昨日よりもよし。老婦人、子供を連れ	
			縄にかかり后夫に逢い王前にて許さるる所、及一人の強者能く、数人に勝つ所なり。朱氏来らず。	
		22	降雨。(旧15日)、本朝、領事館へ宛書面出す。品奥合便。書面　重慶領事館(成田、武田、浄蓮	

年	月	日	事　　項	参　　考
			寺）夜、語学、皮靴出来来るも小なるゆへ受け取らず。	
32	6	23	本日は終日強雨。寒くして60度なり。西蔵城及水□の地理。昨日製図。乞食ラヲエー　チャニャ	
			ハッパッパー、ラタエーペパッー、パッパッパー、テッパッパー。今日は中国のそも何日なるや。	
			夜、九時過、四方バク竹、大砲発砲、叉店子内客人桜の上下。香をたき、ろを然し、鐘を叩き祈祷	
			す。奇々快々。遠近、叉鐘の音聞く。後にて聞けば是月蝕を□拝するなり。	
		24	強雨。50度。高山上降雪。	
		25	曇天。□□。	
		26	晴天。北門外散歩。靴未だ来らず。看玩、秤を求む。湯にて洗うこと。	
		27	りん楽山上ラマ寺に行く。午後4時、寺本君来着。談活。羅氏等来る。72度。晴天。夜1時頃迄談話。	寺本来着
		28	勤行。夜、談話。12時寝る。75度。熱し。本日軍糧府□への書面認め。寺本君と意見合	
			わず。予は糧台へ日本へ告げざる□。	
		29	本朝、名刺を軍糧府□にて通す。叉寺本君同様。夜、朱氏来。昨日、軍糧府行に付いろいろの事	
			を談し、依頼す。74度。	
		30	朝、寺本君宿所を探り回る。数戸。後、市中に履を求む。午後5時、軍糧府□へ行き劉氏に面し、	
			第一に入蔵（巴□拒絶）。第二、宇拉を1人2頭を得ること（□）。第三、蔵大臣への□所（不明）。	
			第四、察木多官員劉氏に面談の件（明日返事）有較る。寺本君同道。朱氏名刺を掲げて通ぜり。	
			第五、ラマ面談紹介の事（明日返事）。右の用を済し、2時間徒りして帰宅。	
			降雨有較る。寺本君同道。朱氏名刺を掲げて通ぜり。	
32	7	1	軍糧府より使者李来り、察台劉明府は遠来の佛友に面せざる旨を通ぜり。寺本君は各地支那僧	
			風にて入らんとし、夜は大に議論合せず。予は炉軍糧に面するの意なし。只寺君に誘はし若しも	
			文海□蔵大臣に添え書きをも得ば好都合と思いしも万事不得。実に□想外なり。	
		2	大鈕子、小鈕子、足袋、珠数100個、銭袋、紐など蔵道中用に求め、叉日記帳12冊（半）、を求め	
			帰る。夕方、朱氏、蔵「ヨンチョン」、羅、寺本4人を招き一吊6、700の馳走をなす。寺本着の祝意	
			なり。「ヨンチョン」、日曜日に付き不来。夜8時頃宴終る。	
		3	ラマ経１７冊(10銭5厘)、手帳１２冊(1銭5厘)などを買い求める。寺本君同道、城隍廟辺に散歩。	
			剣帽等を見る。午後、朱氏同道、皮堇皮2個（六）、皮口袋2個（200文）、両掛皮袋（一、）を求め、	
			叉察台官の預を見、叉蒙古僧に道に逢い同道致さる事を話す。	
		4	城内を巡回、準備、買物す。毛布、眼鏡1個、羊皮2個、、経典、布袋などを求める。	
		5	朝、銀塊を換え鞍下2枚、毛布1枚、灯器1など買物をなす。夕方より夜へかけ国元、本山、南條、	
			重慶への3通書信認む。＊国父・兄へ四川省西炉から書簡を出す。	⑨130-134p
		6	朝、軍糧府へ明日出立の旨通知。役所より李氏及馬方来り。明後日に定む。2城内を巡り袴下、	蒙古帽子
			毛皮、紙等を求め、午後、箱子を包み、夜全く準備整う。	
		7	役所より馬夫を紹介す。叉大刀子、□□□、大小□、□巴等を求め終日忙得很。朱氏へ左の	
			書面を重慶へ送ることを依頼す。重慶宛（一本加藤、武田両氏宛。一本「本山上申、第12回、第5期	
			の6。一本国元、＊水野、静）。外に麻包一個、井戸川氏帰朝持帰り。	⑨135-138p
			麻布包　重慶領事館宛7月7日朱氏へ頼み送りだす。本国送付。	
			一、蔵仏泥　八躰　観音　七躰	
			一、蔵文経典　十六部　小冊	
			一、蔵寺用風鈴　一握　金製	
			一、木塔　蔵珠　一連　五台山珠　一連	
			一、針□子　見本　数ケ	
			一、日記帳　4冊　第四号(語学)、外に1冊、第七号(慶都間日記)31年日記	
		8	打箭炉出発、一行は我々2騎外に軍糧府差人1騎、都督府兵士1騎、外に2頭の蛇牛、及び	
			2人馬夫、計四騎2夫2蛇。40里。上坡、折多宿。折多において極めて猛悪なる蛮狗と称する	折多
			西蔵狗に咬まれ、右足3箇所、右手3箇所、外に傷3箇所、大傷は3枚の衣類を抜き。尚五分ばか	
			り、広さ4分長さ一寸ばかり負傷す。幸い、寺本君の治療に預かり包帯いたし候。入蔵の一難は	
			この蛮狗毎戸に在り、鎖にてつなぎ有るも、尚近寄る不能。猛悪獅子形の西蔵狗に御座候。	
		9	上坡50里。下坡20里。提茄宿。途次不毛の地にして人家なく、数百の牧牛羊、及び天幕内の牧人	
			種帳房数100戸見受けたるのみ。	
		10	降雨。平地を下る20里。阿娘壩(平下)20里。鳥拉、瓦切の蔵人宅に宿。途上の人牧畜を業とし、	
			、僅かの麦、豌豆のみ。不毛寒冷の地。	
		11	降雨。平行30里。東俄落宿。西蔵人の家は広大且つ高くして1軒内3、4戸も相棲、入口蛮狗 2、3	
			頭実に我々閉口す。八角楼宿。	八角桜
		12	山を越える70里。臥龍口、内5O里は更に人家なく、松樅の樹林、及び頂上は平牧場、牛群を放	
			つ。帳房牧人種を見る。谷を下る40里。	
		13	晴、谷を下る4O里。中渡(河口)宿。途上5橋あり、一橋が無く、馬は迂回し、荷物は土人をして負	
			負渡さしめね非常に困却。河口は雅龍江と称する数千里流れきたる大江の東岸にして、人家漢	
			蔵50戸ばかりある。中渡汎あり。江幅12町、泥水溢る、両岸峻険、僅かに4艘の渡船あり、入蔵	
			のものこの汎を過ぎるる必ず入蔵の切手を要し、進蔵の一大鎮所。	
		14	在炉の羅氏、成田氏。朱氏。「本山上申書」第13回、南條氏、国元あての書簡を帰炉兵士に託す。	
			河口宿。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	7	15	河口を渡る。兵士2名護送致し、同日は40里にして麻蓋宗と称する地に泊。	
		16	大山を越え、山中3戸の剪子湾と称する地に名か食し、博浪工と称する地にして兵士替り、90里	
			にして西俄落宿。山間の僻村にして30戸ばかりあり、土司官あり。本日の越山路の多くテントを張	
			り牧畜を業となすの人種住し、山賊出没するを以て揆浪工に訊官ありて警戒をなす。	
		17	当地にて換鳥拉のため一日滞在。	
		18	山道を過ぎ、40里にして咱馬拉洞宿。人戸3軒。	
		19	60里にして火竹卡宿。本日、二つの牧山を過ぎる。山中牧人種の帳房20戸あり、牛馬羊数千頭。	
			火竹卡には訊官あり、人家45戸。	
		20	一山を越え裏塘に達す。行程60里。街上を見る。皆平底なる土口房にして支那人種居し2階ある	裏塘滞在
			屋は1戸もなく、街中、1間ばかりにして不潔なり。舗子は皆小売にして茶、糸、馬具、数珠玉、	
			粗木綿（黄赤白等）を主とし菓子只一種。砂糖、豆腐、パン、牛肉位のものにして皆炉城の価に	
			2倍、3倍、5倍、8倍なり。菜、大根、は河口より持ち来りたるもの。口巴等叉遥に数100里外より	
			来り。米は雲南米にして味悪く、支那街以外。裏塘宿。	
		21	近方を散歩し街上を回り理外ラマ僧と座談す。彼等甚だ傲慢なり。良く云えば活発。悪く云えば	
			生意気粗暴なり。根性よからず。但し、一ラマ我々に「サ゜ンパ」を贈る。近頃、西蔵国王と法王達	
			達頼と戦争し、大ラマは山に逃れおるという。裏塘宿。	
		22	軍糧府へ文書を送る間、人一人来り。我々馬牌、路牌の有りを正す。昨夜降雨。日中68度。	
			昌都糧台着裏塘。明後24日、鳥拉を詣せらるることの通知あり。	
		23	糧台衛門熊氏を訪う。水大にして不能過河の旨話さる。この時、昌都糧台来り、意を得ずして帰る。	
			「ラマ」、「ラッサンケーチョー」来る。達頼ラマの名は「チャンコレンポチェー」と云い、裏塘活佛の	
			名は「チセ゜ガヲコダテンビチセ゜」と云う由。叉昌都にも活佛あり。武間馬氏来活。菓子を送られ、	
			西蔵王名「ティーモーフ」（漢名）、「デワーヂュン」（蛮名）と云うる達頼を捕えラマは今山に遁れる。	
			蔵王の方正ショラマ悪し云う。昨年迄、4ケ年間、この近方南辺、5、6天路の地に於いて漢蛮	
			戦争あり。裏塘ラマ等の漢人と不仲なるより起こる。ラマ同じく戦えりという。叉成都兵2千人来り。	
			紅口子3人、監室子1人、戦死外兵死、凍冷死3、400人。今年は戦わず、ゴルカ出立後は糧台	
			出張の由。昨22日、河口に皮船を取りに行く。6日間の後、四双持来り。大河を渡る筈なりと云う。	
		24	街上散歩。馬氏を訪う。朝夕、甚だ冷。馬来談。	
		25	寺本氏熊糧台を訪う。不面して帰る。予、寺本2人叉統領府を訪う。帳氏出張不面。土司正副官	
			を馬上に見る。進卡の方法予の意見を寺本氏へ示す。	
		26	到底鳥拉見込なく糧台の不都合なるを感じ、自己雇牲口に決めて宿屋の亭主に申付く。これ夜	
			の事なり。但し、午前9時、将軍に口二服を送り面会。糧台へ鳥拉の事を語し取つがしむ。氏は	
			40余才にて活発断決あり。64度。	
		27	9時発。我々2名外に兵2名を連れ15日、熱路塘に行き入湯。家内にあり、清路2時発。3時40分	
			帰着。糧台鳥拉等の人来り、明日、相談いたせり通告あり。本日察木都糧台の湯2，3日。	
			晴天64度。夕、「ゴルカ」人来り「シャツ」をねだる。我々所有せず。本日寺本君、予連名書面を	
			糧台に贈る。予不賛成を称え、予が名を消さしむ。夜叉「ピストル」を350両と「ゴルカ」人に告ぐ	
			るに由り、昨夜同様大言虚語の不可を談して寺本君に説く。実に無教者の行過者には仕方なし。	
		28	管鳥拉口人王、ラマ5、6。蛮家百姓書記8、9名、同炉来り。我を脅迫して鳥拉10ケ洋銭余を貧	
			らる。我れ不幸。実に彼等の乱暴に伏従し遺憾千万。	
		29	第14回「本山上申書」を認む。夜、寺本君の京坂布教状況談を聞く。72度。	
		30	終日、殆ど語学を写し替え、街上散歩。糸30ケ及び木綿を買求む。夕方、打箭炉来人来り。	
			予の物品を持ち来り、炉軍糧府より頼まれ持参せることを告げる。曇天にて少し雨なり。	
			叉雷あり。62度。	
		31	朝、ラマより口巴を贈る。朝、叉日本荷物着す。御蔵経3部。経典2部。本尊2軸。外に重慶より	荷物着く
			銀40両外に本山宗報1号、2号、付録、四部着す。察木多行武官炉糧台府より托せられ楊氏及	
			び外に陳氏持来らる。右中、新聞及び宗報を読む。叉日本料理、鰹魚だき、及び漬け菜にて御飯	
			を食す。夕方、叉ラマ来談。菜を贈る。由て寺本君、小本尊一幅を贈る。喜びて持ち帰る。	
			曇晴半なり。曇晴半なり。66度。今月の支払い（8日以降）30個、18円。	
32	8	1	今朝、蛮家2、3人来り、明日出発に付、吾人の荷物の軽重を見る。叉後頼麻2人来り。明日は到底	
			発し難し云し述べ叉々吾人を苦しめ実に「ブンナグリ」たき程立腹せるも仕方なく、「ソンニーゾー、ソ	
			ンニンゾー」（明日行く）と申して告げたるのみ。夕方、ラマ来談。叉通師（トンス）なる。王の根性の悪	
			や、我々の鳥拉邪魔し実に大困難。馬武官来り。巴塘にてより聞正し乍了を無事に通過すること出	
			来ずば帰れと注告す。江卡（蛮名バコン）口「ゴルカ」荷物、400頭、夕方出発す。曇天。66度。	
			叉降雨。街上カーター18ケ、皮縄子11ケ、糸5ケ等求む。この夜、強雨降る。	
		2	午前、入蔵途次見聞雑記（18節）7枚を書く。午後、茶を飲み計算をなす。これに費やす所600余	
			円なり。本日、「ピーポンツ」（ゴルカを支那人の称）荷物を送る。我々、本日も、叉鳥拉を不得。降雨。	
			63度。	
		3	裏塘木賃宿料14日間分支払。裏塘出発。猪肉2斤（ラーゾー）、河渡し、牛皮船。	裏塘出発
			ゴルカ一行と同日出発したため宿屋なし。彼等の天幕を借り野宿す。頭塘では、雨降るに野営	
			を張る30余天幕。牛馬7800頭。炊烟立ち一大壮観なり。頭塘宿。	
		4	フイゴにて火を起こし張房は凍り、僅かな日光の当るを待ちて、これをたたむ。拉尒木賃宿料。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	8	5	ゴルカ一行は、一日滞在。我々と同行数百名は、前進する。拉尓と称する山間の一村落に宿す。	
			卵2ケ半。刺麻了宿。	
		6	コーコイ2ケ、酥油。大雪山の東面より南面に回り、西面に至るに3日を要する。雪多く、富士山	
			所の比にあらず。刺麻了滞在る	
		7	我々、ゴルカ一行と毎日同行ゆえ、毎日宿屋なく、二郎湾と称する雪山の下において破れ天幕、鳥	
			拉刺痲小使。を求め毎夜、雨の降る夜も、風の吹く夜も張房に毛布を被りて二郎湾で宿す。	
		8	三巴(サンパ)と称する大雪山の西麓にて張房に宿す。この日、ゴルカ一行7～800頭、三巴土人	
			牧畜、牛馬数100頭、巴塘より来る旅隊の牛馬数百頭。一夜に合す。幾千頭なるを知らず為に	
			牛馬混して、土人の喧嘩あり、大騒ぎとなり。吾々の馬幸いに渡せざりしも一時は非常に心配す。	
		9	大所にて野営する。馬一頭を盗まれた為に、叉々高価なる鳥拉雇いて、巴塘に至る。	
			叉大折にて、夜寝ておる所へ小盗来り、我が傘、手拭等を盗み去り。寺本君驚きたり。	
			行李には手を掛けず幸いなり。	
		10	道中にて、一頭に乗り、一頭の馬を曳きて行く。後を振り返りて見るは難しく、その間に、行李の	
			縄に挟みおきたる蛮刀子を抜きて、叉盗み取る。少しも油断ならぬ蛮人なり。	
			小巴冲木賃宿料。	
		11	午前10時半、巴塘着。牛肉、麺を食す。味甚好。鳥拉の一人来り、馬脚に刀傷ありとて、	巴塘着
			一頭50ケ洋銭云しむ。脅し遂に主人家の尽力にて1ケ洋銭の酒2、或は茶代と糸二線にて済む。	
			米代、麺及牛肉。兵士へ与える。巴塘宿。	
			巴塘ラマ寺は、定林寺と称し、3,000人のラマありと称すれども今は、1,800なりという。周囲は、	
			百間四方。中を見物せし所広大にして金屋根の本堂あり。常に念住す。食堂大。壁画鼻なり。	
			外人の入るを嫌う。巴塘には、軍糧府、都団府、汎専府守備正副、2土司官等あり。	
			糧台武氏に面し入蔵の許可を得、護照を示す。叉兵を派して蔵地内に送ることを告げらる。	
			裏塘よりの護送兵途中一所に来らざる為に道中非常に不便なりしゆえ其由を述べ、同行致す	
			様、糧台は申されたり。巴塘は、人家、漢人、蛮人、雑居で300余戸。何れも大家高桜なり。	
			裏塘に比して舗子少なく、2～3戸。高価なり。我々の道中用の小間物をも買いたがる程なり。	
			四面山にして、二方より河来る。北より来る河は、水流急、叉大水なり、下流30清里にして	
			金沙江に合す。	
		12	松茸あり。松茸、牛肉の麺好味。モーモー叉菓子の粗品の味あり。本日、鳥拉の一人亦来り。	
			我々の大所にて鳥拉、馬一頭紛失官に願うとて手を引っ張り行かんとし、同じく50ケ洋銭なり	
			しと脅し、叉主人家の尽力にて漸く5ケ洋銭の酒銭にて済む。夕方、兵と共に糧台府に行き、	
			武糧台に面談。明朝、護照を示すべき旨申さる。半曇。半晴。刺麻寺内を見る。	
			皮服仕立綿布代払い。卵8ケ。	
		13	朝、予一人、糧台に面し護照並びに本山法主書面等を示し、遊蔵に付、兵1名を給し、送らるる	
			を申さる。叉、重慶発の書面を受取る。国元、静、南條先生、成田、武田、炉の朱氏以上5通なり。	
			酥油1斤余、麺、牛肉を求める。	
		14	本山上申書第15回を認む。毎日、牛乳、麺好味なり。糧台より卡下への返書を写す。	
			水野宛に『入蔵途次見聞雑記』を送る。	入蔵途次見聞雑記
		15	御命日勤行。＊南條先生、重慶宛等の書面を認む。叉毎日、曇、晴、雨交互来る。洗濯。	⑮240p
		16	国元書面認む。亡父祥月命日勤行。15日、寺本君未だ鳥拉の返答なきを糧台より催促す。	
			明日、返答すべき旨話さる。由て16日に鳥拉口糧台上の通司、安氏来り。近頃、鳥拉なし、	
			当分待つべき旨申さる。鳥拉通司へ贈る。麺。＊河口から巴塘までの様子を父・兄へ書簡を出す。	⑨140-145p
		17	巴塘は、蝿、臭虫、蚊多し。蚊屋無で過ごす事を得ず。米、牛肉、塩を求める。	
		18	牛肉、麺を好食す。散歩に出て小河を渡り、近方10数町回覧す。叉夜、略地図を製す。毎日、松茸	
			の好吃、実に旅情を慰む。	
		19	贈り出す書面、糧台武氏へ数部頼む。白木綿4尺、紙10枚。第15回「本山上申書」を出す。	
			○ 巴塘にて本国をのぞみて　　石峯	
			うきくもは　風にふかれて　たちゆくも　あづまの山は　なをはれもせず	
			○ 巴塘宇蘭盆会　8月19日（旧7月14日）	
			たよりなき　巴塘のそらに　てらし来る　けふ七月の　うら盆のつき	
			本日は、松茸、麺を飽食し、叉夕は、善哉、漬菜等を大食し実に食事充分先ずは旅情を慰む。叉、	
			昌都進進飽的人等3人来訪せり。彼等尚ら口の為に用なくおると云う。この数日降雨強く出水洪為	
			に進蔵の路を妨ぐ。夕方、糧台に行く。武土人に面す。右の書面13本ばかり包み炉城に向け発す	
			ることを依頼す。然るに我々進蔵に付鳥拉を与えず。洋人と称する故に進蔵願活佛の大願を立て、	
			この願満足せずば死と同然なり。途上死するも本意なれば是非進入するとの旨申す。予は、自ら牲	
			口を求めよと云われる。由て、然る時は「路表」を給されんことを請う。彼諾せり。漸く、帰宅す。実に	
			炉城にて寺本君に為に大に失敗す。即ち本心たる支那僧として入蔵し路表等も得んとしたるに日本	
			人たることを明かし炉城糧台に面したることなりこれ予等の無事を誤りたる初めなり。後悔するも詮	
			なきも人の為に我大業を大に謝れり。嗚呼天仰いで長溜息するの外なし。桃求む。	
		20	旧7月15日、宇蘭盆。晴好天。朝、口巴午食し、ゴルカ通司馬氏の元に行き我々の鳥拉なし一の駄	
			子を与へられんことを乞う。彼れ口子みんとの返答をなせり後、叉裏塘にての地神王氏即ちゴルカ	
			通司李氏の下なり。彼来り李氏に頼み一の駄子を与へんことを談せり。叉衣服もラマ僧風となすべ	

年	月	日	事　　項	参　　考
			き旨話さる。夕、松茸飯を食す。夕方、□□家の内を訪う。数名来訪者ありたり。察木多迄16站、	
			察木より前蔵迄33站、計49站路なりという。叉3,790里、巴塘より前蔵迄ありという。	
			ゴルカ荷物3個、蛮塘間途上紛失損も2千数百円。為に1ヶ月間ばかりも出立出来ざる由。	
			西蔵の達頼、蔵王の戦争も平和となりたる由、叉近々飛脚来るという。前蔵より巴塘まで急行15日。	
			巴塘より打箭炉迄5日。計程19日に急行すという。	
32	8	21	晴れ、宗教学に付、少し記せり。夕麺。炉と巴とは経の音声大に異なる。本日、剃頭す。	
		22	墺洋銭7、8個入り(3錠)。終日、蔵文経を読む。大経始めより一キリ宛読み始める。晴天。	
		23	桃大7個半。川魚新鮮。麺2回。晴天。	
		24	馬氏及び進餉(察木多)人を訪い進蔵の近状を聞く。今路損し、当分出発する不能という。叉、夕方	
			安通司来訪。土司に行く。五度鳥拉をいうも我々は洋人なるをゴルカなどより告げられ今尚不得。	
			明日、明日なる返事する云しむ。清油半合。河魚1回。麺1回。晴天。	
		25	西蔵最初の屯に近づく。寺本君所蔵の「蔵印邊務録2巻」を見る。麺4斤。入湯。晴天。	
		26	馬死。馬上8人の人に会う不潔なり。察木多進向。本日進蔵。晴天。	
		27	馬疲休む。五の営あり。人口100.西蔵の駐蔵大臣ambanに増品を送る夫人あり。	
			人民淳睦。羊肉、牛酪、乾酪等に来る。この地、扎什倫布？聖人を奉す。	
		28	彼等が好むものを与えんとせば受取らず。麺、卵。本尊を前して御命日勤行。曇。	
		29	軍糧府、都閫府、専汎部聴、正栄官、副営官、定林寺、雅巴廟、関滞廟、城喤廟、天主堂。	
			青稞(□巴)、小麦(麺、温餅)、麦蕎(コーコイ、モーモー)。牛、羊、猪肉。オーセン、青菜、菠菜、	
			両花、南瓜、黄瓜、白瓜、葱子、クルミ、桃、梨、松茸。甲魚、叉雪魚、川魚。□油、牛皮履。白塩。	
			外来ものには、米、反物、小間物、茶、豆、黄糖等あり。	
		30	晴天。82度。茶碗を造る。製図。	
		31	曇。80度。□巴1回、麺1回。糸1ケ洋銭。20包。□子1ケ洋銭、20個。茶炉の倍。即ち3ケ。	
			裏の2ケ半のものなり。木綿4尺半ケ、紙10枚4分の1。	
			うきときは　おもいぞいずる　たびのそら　裏塘刺麻了の　人のつれなさ	
			たびすれば　世はさかさまに　なりにけ里　冬ゆきを見て　夏雪ぞふる	
			いなづまや　刺麻寺□　犬のほゆ	
		31	34～5人の者来たり、我等の進蔵を止めんとすの引き返へせし地なり。	
			今月の支払い18円60銭。残139個。	
32	9	1	降雨。70度。彼等の好むテントを建つ。彼よりテントに来るべしと申来る。長い支那服にて奢移	
			して談話す。ヌガチャクより越入るを不許可。而して、粉、米、酪、茶、羊を送り来る。予は、新約	
			書を送る。	
			冬かれや　花なき里の　たびじにも　ま□□きけ里　つまのをとづれ	
			夕暮れや　声はりあげて　唵嘛呢叭	
			ひげはやし　アロササ゜ンパサ　刺麻ポーサ	
			あか袈裟を　□且右肩の　羅漢刺麻	
		2	曇。70度。9月1日朝より座禅を始める。便利的座禅にして焼香沈心端□正念。	
			舞記。沿革。没落(歴史、風俗に微す。指図)。秋毎に村の社に神まつり舞よぞ夜を明かしける。	
			巴塘を去る5，6里の所に於いて旧8月1日より3日間刺麻の芝居あるとて巴塘全街のもの貧も富も	
			おしなべて或は皮の敷物或は椅子、其の他色々のものを馬などにのせて運び、沢山の食べ物持ち	
			年に一度の清客して遊ぶぞ、今日は、その仕度にいそがしき街の有様なり。ビーフーを食す。	
		3	晴。80度。	
		4	昨夜、降雨。70度。刺麻踊りにて皆行く。稀に縜服あり。自□麺不好□。僧三哲偈勤行。俗論偈	
		4	勤行る座禅。	
		5	召哉。3枚、9枚。座禅。刺麻踊り寺本氏行く。70度。夕方降雨。昨夜、強雨。	
		6	終日□巴。晴天。夕立。　夕立や　刺麻のおどりも　ひえにけり	
			72度。石持ってテントの縁にしゃがみけり。刺麻おどり見物。10時半より2時迄。巴塘全境図あり。	
		7	終日在宅。75度。「麻刺南経」訳読する。	
		8	ビーフー、巴塘踊りを見る。75度。	
		9	晴。75度。夕、婦人会の麺食を給せらる。本日は、「辺務録」を読み□□す。同じく踊りを見る。	
			本月3日より刺麻おどりあり、3日間に加え1日、加え、本日迄2日間のおくり祭り。巴塘の土人も	
			中々裕々閑々の人なるや。ラマ参行の時は隔日に食事す。夜、強雨。青稞9杯。散歩75度。	
		10	午前降雨。昨夜踊りを見る。本日、叉1ケ洋銭ねだられる。本日は、「西蔵通路」を調べ書き出す。	
			曇天。70度。酥油1斤求める。	
		11	電傳。上諭四川候補道安成着賞給副都統街作為駐蔵幇辨大臣循例駐駅往欽此　同日奉卵。	
			刺麻経を読む。雨。昼70度。巴塘この1ケ月、銀山順勝寺三蔵寺等奥復事業。	
		12	朝、62度。法事とは僧のみ読経すら謂ならず。経文の意を了して法味を委ぬ。楽するを法事という。	
			尓らは訓読し叉施主よく聞くすべし。文典シンタッキス。	
		13	文典。68度。火鉢材銭両人にて五個。30日間の木賃宿料支払い。叉子もに半個を与う。寺本君	
			少しく病あり。君は天寒性病を有し、本国にて数回起こりたることありたりという。昨夕、主人云う、	
			この2，3日の内、後蔵獨吉嶺地方官□の為数人来塘進蔵我々も同行可なる由、話す。或は成田	
			氏一行に□ざるや。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	9	14	文典。晴天。72度。佛国人□□李氏西蔵菠、南瓜、卵4ケ。蛮家打箭炉人姓魚にもたせ来談。洋	
			人は猿11日にヤーヘーコンに行き、18日頃、返るという。我々来ること、手紙来りおるという。魚を	
			雇う話しす。	
		15	咋今、文典を調らぶ。土人の服を持ち来る。曇天。68度。旧8日ー15日は、看月舎来る19日なり。	
			月かげの　□よりぬ里は　なけれども　□る人の　心にぞすむ	
			城隍廟は刺麻にもあり。この店子の前庵即はなり。これ死人を管する菩薩にしていわば□魔法姓。	
			黄糖、土人衣服。塩代。文典ナンバー。	
		16	父命日。65度。少しく冒寒頭痛気分別して悪敷、気浮立たず。物言うこと甚だ面倒世は味気なし。	
			本日は麺4斤。勉強も出来ず郷国に帰らんと浴欲して帰る不能進んと欲して進まれず。無理に進め	
			ば勉強も出来ず郷国に帰らんと浴欲して帰る不能進んと欲して進まれず。無理に進めば命を落と	
			すは目前。本日は麺4斤を支払う。	
		17	70度。午前散歩に出て遠く東北の丘上に至り巴塘の上流10数戸の村の河上にあり、畠を見る。ビ	
			ーフ2斤。一時間半にて帰宅。途上蘇通司先生に逢い1、2頭の駝子を通司の分にして得られざる	
			やを問う。彼たずねて見ると云へり。叉十余天して出発す。蛮塘よりの返事来たりと叉我々に同心	
			なりと彼云へり。。彼はよき人なり。北九後、衛門通司来り。今日、一の兵江卡より来り。我々2人	
			の洋人和尚は進去すること出来ず、転来帰国せよとのことなりと通し、叉主人家しり進去する不能	
			帰るべしとすすめ、尚、房銭は五分と半額なりと云いしむ。実に、実にひどいやつばかりなり。この	
			数日は予心中大に大決心することを案ぜり。国遠く実行するに到らん。陝西人、来訪2人で通路	
			をしらべり。世の味気なき　身ひとつに	
		18	12時、巴塘糧台武氏に面談し、江卡土司の通知書を示され、不得進蔵の旨申さる。護照面上争う	
			こと難す。江卡土司へ送りたる返書を写し取る。益なし。寺本、能海両人分袖に決す。この夜、2時	
			に看書す。	
		19	看月舎、主人家の馳走あり。寺本君は帰国に決し、予は、阿敦子行に略決す。名月。	
		20	朝、64度。昼、75度。西蔵里程図を製す。名月。	
		21	朝、60度。桃熟する「西蔵里程図」を制す。糧台より主人家を通う我々の所信を尋ねる。不得進去	
			云う。蛮菓子12個を求め食す。夜、佛教語。。	
		22	朝、62度。昼75度。本日、叉糧台より決定を催す。或は、雲南に出て支那寺に暫く滞在するも可	
			ならん。麺4斤。この夜、熟眠。色々のことを夢む。晴天。	
		23	二ケの糸。大桃10ケ。毎日天気好温度同様。巴塘□西人多。麝書一両に付8、9両。炉は10両。	
		24	朝より熱水塘行。近方散歩。帰途、五潮四海九江四河井泉。龍君社に送り帰る。夕方、糧台に面し、	
			予は、雲南、寺本君は、帰る旨話す。	
		25	朝、佛国人常氏に面し雲南路。信搬洋萬□等話す。雲南路行き等話す。叉糧台に行き10月1日発	
			の旨及び南路等話す。ビーフ、蛮菓子。剃頭。	
		26	麺を送り来た寺本君へ御文。文典を写す。曹婚書面を見る。都司周、春汎呉の二人来訪。裏塘に	
			送り雲南には送る不能。	
		27	往復60里、遠足。金沙江を見る。豆腐、パン、漬け菜よし。金沙江の辺にてスケッチを描き、	金沙江
			のぞめども　深山の奥の金沙江　つばさなければ　わたりえもせず	⑩596p
			と牛古渡にて歌を詠む。午後1時。「至牛古渡途上風景」、「金沙江風景」2点を描く。	⑩594-596p
		28	朝、葬式のここちにて御命日勤行。寺本君糧台に行く。予、帰裏の旨談す。由て烏拉を与うという。	
			麺、菓子。味噌。	
		29	朝、65度。河中75度。通司来る。心経読む。ビーフ。	
		30	荷物を整え帰炉仕度。麺、茶代、宿料。通司、ボーイ。今月の支払い11個（6円65銭）	
32	10	1	巴塘発。帰炉城朋察木宿。70里。	
			泥水に　こがねの砂を　流しゆく　幅は三町　岸は高山	
		2	大所宿。90里。烏拉察木多	
		3	三巴宿。80里。	
		4	烏拉三巴及馬一式。頭塘烏拉。二郎湾宿。	
		5	烏拉拉尓塘宿。拉尓兵より麺餅。90里。	
		6	乾海子烏拉。頭塘宿。90里。	
		7	大橋□ロ。米、ピーフ。氷糖リタン。裏塘着。60里。	裏塘
		8	裏塘滞在。軍糧府行護照を示す。雪変り。ラマ来る。烏拉2～3日の内に得。麺5斤、兵へ茶銭。	
			通司へ2度。	
		9	裏塘滞在。	
		10	「金剛経」完全版本小冊57葉(炉版)乙第弐号を求めるビーフ、サ゜ンパ、豆腐、雇牲口。魚代。	
			裏塘滞在。	
		11	火什卡宿。	
		12	雇牲口、西俄落宿。	
		13	西俄落滞在。。	
		14	麻蓋宗宿。	
		15	雇牲口、河口対岸宿。	
		16	河口宿。渡江。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	10	17	御経二軸。河口宿料。御経2軸、駝賃。八角楼宿。	八角楼
		18	臥竜石宿。	
		19	東俄落宿。	
		20	阿娘壩宿。	
		21	折多宿。	折多
		22	打箭炉帰着。麺、油、炭、梨、豆腐、パン、塩菜。	打箭炉着
		23	書面、重慶へ発送。4～5人を招き宴を張る。ねぎ、薪、醤油。	
		24	御経二部、25両。玉石2珠、コーコイ、塩菜、菜代、牲口民夫、茶代、米1斗、油。剃髪。	
			軍糧府へ名刺を通す。	
		25	御経雑5両。肉、薪、菜代、炭、コーコイ。兵へ。御経(5両)を求め丁附調査。糧台使と名刺を渡し帰る。	
		26	羅氏来る。御経丁附調査。コーコイ、菜、豆腐、油ほか。	
		27	コーコイ、油、菜。御経(3,500文)。風邪。	
		28	風邪。御命日勤行。中逆上、御経丁附。うどん、梨4個、胡ショー。	
		29	刺麻寺三ケ寺巡観。御経(5,300文)。梨5個、茶飯、コタツ。菜の油、牛乳、塩菜。絵1幅(2,200文)。	
		30	コーコイ、茶スーユー、茶代。御経丁附(14両)。	
		31	麻布2、縄子3本、ゼーフ、パン、ニンジン、イモ、薪、砂糖。御経運び2人。酥油4斤。	
32	11	1	パン、塩菜、茶、薪、刀子、ビーフ、麺、洋菜、豆腐、油、醤油。小サジ。御経重量214斤。	
		2	麺3、牛口子、菜代、油、。『西蔵図考』(1,100文)南條氏へ送付。寺本君帰朝炉発。	
		3	塩菜、菜、炭。	
		4	明正土司、循所より帰炉。梵文大経始め毎朝勤行。	
			四川省打箭鑪閣窓楼上。茶、塩菜、こしょう、みかん、菜代。	
		5	金剛経謄写。菜、油。	
		6	午後2時、福音堂行。	
		7	鉢麻三婆瓦の画を得る。仏画一幅。菜代。仏画一幅(300文)。	
		8	金剛経購入(450文)。状袋大小10枚。名刺紙50、ろうそく1本。砂糖1斤、麺、塩菜3斤。	
		9	乙第壱号・「麻尼百千頌経(蔵文)」御経一部179葉完全(4,770文)を求める。油、ビーフ。	
		10	乙第弐号・「金剛経」完全版本、小冊(57葉)炉版を買い求める。牧、菜、油。	
		11	菜、薪。	
		12	パン、炭、御経金剛経(100文)。菜、薪、米1斗。＊第16回「本山上申書」発送る南條師、国元へも	⑤336p
			書信出す。	
		13	牛乳11日分支払。宣託個。菜、油、茶、麺3杯。花生。「蔵文金剛経」を読み始める。	
		14	仏画7枚(2,100文)求める。大教堂刺麻大行道。拝胡図克図。菜、薪。	
		15	御命日勤行。塩菜、菜、油、薪。	
		16	乾醤、豆腐、塩菜、菜、薪、胡椒。	
		17	蔵佛銅製、泥佛購入。菜、薪代。蔵佛(銅及び泥体)。仏像代1,000文。	
		18	茶、薪、ロープ、洋ユイ、ビーフ、砂糖1斤。パンツ。	
		19	ビーフ。	
		20	第1、鹿苑の釈迦牟尼仏。第2、龍樹菩薩。第3、トヒスロンデサ゜ン王。第4、鉢特魔三婆瓦。	⑥95p
			第5、シャーンタラクシタ。第6、亜提舎。第7、菜楼。第8、魔尓巴。第9、ミラレパ聖人。	
			第10、宗喀巴。第11、第一世達頼刺麻。のスケッチと解説 を「丙第五号」に書き記す。	
			猪肉半斤。ロープ。	
		21	梨7個、柑個個、菓子4個、麺、花生、油。	
		22	御正忌精進。ネギ、ロープ。	
		23	御正忌精進。菜代朝夕、菓子4個、柑子4個。	
			第12、無量寿佛・銅像。第13、無量寿佛・画像。第14、五佛。第15、釈尊三味ノ図。	⑥101p
			第16、四手観音菩薩。第17、十一面観音。第18、白達拉。第19、緑達拉。第20、魔利支天。	
			第21、普賢。第22、文殊菩薩。第24、金剛手。第25、金剛陁羅。第26、金剛貝拉瓦。第27、グル	
			護神。第28、福金剛。第29、拉磨女神。第30、タムヂン神。第31、タムヂン円図。のスケッチ	
			と解説を「丙五号」に書き込む。※第23は欠。	
		24	御正忌精進。「佛説大集母、逆子菩薩所用経」完全128葉、外に119葉(3,180文)を買い求め	
			る。菜朝夕。	
		25	御正忌精進。醋。	
		26	御正忌精進。菜、豆腐、大根、ねぎ、酢。菓子8個、柑子12個、塩菜1斤。	
		27	御正忌精進。報恩講。燃黙会。ローザン上人。小豆5合、菜、いも、大根、酢、油、コーコイ麺1斤、	
			スーユー茶。	
		28	御正忌精進。報恩講。	
		29	するめ1枚、砂糖半斤、麺、包子1個。	
		30	コーコイ麺、薪、コーコイ茶。今月の支払い33円9銭9厘。	
32	12	1	酥油茶、稞穀、麺3杯、乾醤1斤、油。	
			「丙第六号」を書き始める。※一統教。ダイヤモンドの大福長者。次回入蔵準備などを掲載。	⑤119p
		2	葱子1把、ビーフ1斤、炭2荷。房銭旧10月分。下女2人支払。朱氏へ送賃。牛口子20日分支払。	

年	月	日	事　　項	参　　考
32	12	3	泥釈尊像(35文)購入。稞穀1斤打。砂糖1斤、麺3、団子。清人参廟。＊水野へ書簡。	⑨123-128p
		4	楼上上等室に移る。菜、油。	
		5	成田氏より書信来る。滙報を見る。＊父・兄への書簡を出す。	⑨146-148p
		6	朝、零度。日中8度。重慶及び国元へ発信。コーコイ、スーユー茶、油。	
		7	朝、3度。	
		8	朝、零度。雪片あり。釈尊仏画軸購入、400文。蔵小太鼓購入、200文。	
		9	仏画大幅一軸、800文。葱子一把。シャツ洗濯代。	
		10	後蔵喇嘛嘛と対談。50余と20才余の2のラマ後蔵デシンゲ（上書）寺のもの口什倫布を去る5日の	④200-201p
			地なり。前蔵より后蔵に至る騎馬5日里程。西蔵より青海を経西寧に至る40日。「コーパー」とは	
			トンドなり。トンボ(レ)扎什倫布コンブ苗。彼の通過せん道は	
			ラサゲンパ　　一千一万のラマ	
			リグゲン　　一千ラマ	
			セルゲン　　八百	
			ティワ゛ンゲン　三千	
			タルスー　　七千	
			ガルゲンパ　　二千これより西寧に至る13日	
			セ゜デンポ　　24日里程	
			青海周囲　　12日	
			前蔵大宝法王　30才　ギャワパンシャレンポチェー	
			后蔵大法法　コンタレンポチェー　40才	
		11	電傳　上諭四川候補道安成着賞給副都統街作為駐蔵幇辨大臣循例馳驛前往欽此　同日奉	
		12	井戸川氏曰く佛領事の言に目今西蔵内地戦乱あり。是れ蔵人の露国に朝貢贈物等をなせしより起	
			こるものなりと云へり。何れ明後日佛領事に逢へば悉しく尋ねる所あるべし。叉巴塘の仏教師英語	
			を解すこの人蔵語をよく学んでは如何と。後聞く。裏塘巴塘土人の反するものなりと。麺持ち来る。	
			花生小偈経、16文。	
		13	稞穀、茶、薪、ビーフ、野菜、薪3、麺子一斤。	
		14	＊「浄蓮寺師壇規約十二條」を稿了する。印版工銭2人。綿布一匹。花生、酢。	⑭114p
		15	茶、薪、きのこ、葱、薪。第三十二、ヂャンバラ神を「丙第五号」に書き込む。	⑥111p
		16	仏像2躰、12,800文。ロープ。第33、寺門神。第34、西門護王。第35、南門護王。第36、赤財神。	
			第37、西蔵古神像。第38、西蔵古代神僧。第39、天人。第40、東門護王。のスケッチと解説を	
			「丙第五号」に書き写す。	
		17	花生。	
		18	稞穀、茶、薪15把、花生。	
		20	「浄蓮寺波佐教会規約八條」を稿了する。硯台7個(1,200文)購入。砂糖1斤、牛乳1杯、猪肉半斤、	硯台⑭120p
			葱子一把生麺半斤。	
		22	冬至。「思想の変遷」9項目を書く。稞こん、茶。	『在渝日記』
			※仏教研究は、「西蔵学」が最も重要との考えに至ったことを記述する。	④239p
		23	古仏画2軸(100文)。仏画1軸(500文)。稞こん、茶、塩一斤、油、花生。	
			今般、大谷派管長より浄蓮寺14世住職を拝命に付、「諭達」稿了。	住職拝命⑭126p
		24	mien3cups。	
		25	猪肉半斤、生mien、茶、酢。	
		26	稞こん、茶、生麺。	
		27	新聞代。麺、花生両斤。	
		28	稞こん、茶、稞油一両。油、洋火。	
		29	塩菜一斤、小菜、豆腐、冨豆。	
		30	光緒26年暦を購入。菓子、みかん、醤菜、糯米3升。	
		31	餅を搗いてもらう。大教堂、麺、生麺、猪肉、葱、乾醤。2人工銭。朱氏へ送金。仏の箱。	
			今月の支払い39円98銭2厘。〆920円也。残100円。明治33年3月末。打箭炉で過年。	
33	1	1	何地に何様にあるや前途を思う。打箭炉楊通事正月。瓜子、花生、包席、酒代、油代、洗衣服。	
		2	油代。	
		3	みかん小10個。	
		4	白糖1斤、豆腐一丁。	
		5	ビーフ、油。	
		6	ビーフ、稞コン。	
		7	＊第17回「本山上申書」。大幣信銭、油。	打箭炉④253p
		8	みかん、胡椒、状袋10、筆一本。	
		9	茶、ビーフ、葱子、油。	
		10	済一俵、ビーフ、油。	
		11	Vegetable,Butter tea,Tiletan teaa Cells,　＊「般若心経」読み出し終る。	⑤343p
		12	志君洞、崇文鎮、三根汎、文峯場、5時、温塘に着す。twn picturcs, Cutter 2斤半。Tea,	
		13	一山を越え松樹あり。長江を望む。漁洞鎮は揚子江の辺にあり、人家200戸。12時、ミカン船に乗る。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			60里60文にして3時間半を要する。4時前に珊瑚覇に着す。Sugar 一斤。大根、うどん、ビーフ、油。	
33	1	15	『金剛経』(600文)購入。帖子、花生、大豆、	
		16	輪内釈尊画(600文)。泥蔵佛袋入(100文)。	
		17	tea,品信合信銭。みかん、モーモー、油。	
		18	クソミエン。ビーフ。	
		19	tea,mea、青菜、油。	
		20	皮帳(200文)を求める。	
		21	糯米2升。Tea,油、牛乳28日分。大豆、肉半斤青菜、ツーパー工銭。	
		22	版本蔵経入手。お経速支払(200文)。炭。	
		23	未肉一斤。青菜。ロープ。いんげん。	
		24	国元、谷、水野、成田、寺本の書面着く。tea,紙5枚。筆2本。砂糖。菓子2種1斤。牛乳2杯。梨。	
		25	観音來迎。蔵佛一個(470文)。米5升。パシャニヨ、猪肉	
		26	Tea,油。	
		27	散茶半斤。みかん2個。	
		28	油、Tea,	
		29	パシャニヨ2斤。油、豆腐、パン、葱子、大根。朱女筆末1ケ。主人家居銭。2人工銭。朱氏へ送金。	
		30	稞コン、茶。「金剛経」第弐編の直訳を開始する。	⑥204p
33	2	3	寺本君書及び新聞着く。	
		4	Tea,	
		5	文特殊歌画幅(300文)。Tea,大幣信銭。寺本婉雅君、上海へ書面出す。	
		6	油、mcat, Tables,	
		8	ダルツェンド滞在中に波佐八景を詠む。Tea,	
		9	本願寺電報取替。	
		10	油、マッチ。	
		11	Tea, meat, woods,紙、	
		12	油、	
		13	履物修繕。	
		14	炭小2包。	
		15	cocoi,tea, woods,Uegetalles, 薪、乾粉一斤。油、塩包、海椒、醤酪、塩菜2斤。	
		16	炭4包。Tea,父法幢の命日に当り、回想記を認める。	
		17	Tea,	
		18	Oil, Chanyu, ＊「蔵文金剛経」直訳完成する。	**丙第拾号⑥204p**
		19	包席2碗。	
		21	未刊3個。	
		22	豆腐、菜、茶。	
		23	油、菜。電報配達人へ。寺本君、東洋哲学へ書面。寺電着。	
		24	電報六字信。豆腐、肝油、茶、コーコイ。南條、寺本、水野より書着く。寺へ打電する。	
		25	＊第18回「本山上申書」、打箭炉。シャニヨ、太パン、茶。在慶支払。水野、国元、中村へ書信出す。	④253p
			英人ワツデルより「ラマ教法」を借りて一覧する。＊水野、国元、中村へ書信出す。	⑨151-160p
			水野への添付物、浄蓮寺師檀規約十ケ條(草稿)、浄蓮寺波佐教会規約八ケ條(草稿)	
		27		
		28	乾粉半斤。油、臭菜、海椒、生口。朱氏へ送金。キャンユイン工銭。	
33	3	1	茶、花生。	
		2	状紙、状袋。	
		3	筆一本、大状袋5枚、紙5枚。塩菜2斤、海椒油。	
		4	コーコイ一個。寺本婉雅より書面着く。父、石田、静の書面着く。	
		5	石川舜台、国元へ書面出す。chachol,　2包、大幣信銭、油。	
		6	mien,	
		7	ラーゾー3斤。	
		8	cocoi,tea, chcetom, oil, Fuitopan, sai,	
		9	cakc,　旧巴粮帰炉。	
		10	豆腐、chcetan,	
		11	chachol,　炭、菜、油、コーコイ、	
		12	65度。	
		13	68度。コーコイー、卵。	
		14	70度。Tea,　豆腐。	
		15	55度。成田、水野、春谷、浅野へ書面及び宗報着く。春谷訃報。豆腐、油。春谷氏の訃報に接しね	
			吊詠を詠む。つれなくも　風にさそはれ　ちるとても　はるにもまさる　みをや玉すばん	
		16	成田、春谷、浅野、静へ書面出す。Rice　5升。信銭。Tea4,コーコイ。	
		17	塩菜、油、海椒。	
		18	chachal2包。Tsonts2把。	

年	月	日	事　　項	参　　考
33	3	19	油。	
		20	mien,	
		21	仏画六軸購入、(7,800文)。コーコイ、茶、油、	
		22	包席、18日分の支払い。	
		23	Kanfea,chanyu,tsn,	
		24	御経、仏画六軸、4.000文。	
		25	コーコイ、茶、信銭、油。	
		26	＊「般若心経西蔵文直訳」梵・蔵・漢・英対照訳出訂正完成。帖記帳2冊、筆1本、時計購入	②208-232p
			(7,000文=6両6銭)。	
			般若心経西蔵文直訳	西蔵文直訳
			1. 案ずるに罽宝三蔵般共利言訳の般若波羅蜜多心経に符号す。	
			2. 梵文は、英国出版の大心経第一「ゼー」、第二「ダヴリュー」に符号す。	
			今は「ゼー」を冠頭に記す。	
			明治33年3月26日、梵蔵英対訳照訳出訂正畢る。	
			在清国四川省打箭鑪　　能　海　　寛	
		27	油、tsai, wood,　海椒。	
		28	コーコイ、wood,	
		29	＊「弥勒勝願経」を直訳を始める。	⑤135p⑥135p
		30	房銭。朱氏へ支払。Chanin,chachol2包。Mien3。「弥勒勝願経」を直訳(継続)。	
		31	油、kanfui,夕食前に「弥勒勝願経」の直訳を完了する。	
33	4	1	ホアセンニヨ。	重慶出発
		2	コーコイ。Eoods,Cake,	
		3	Eggs,thrci,Wood,Chanyu,　パシヤニヨ。	
		4	麻布一匹、経画包(230文)。炭5包。砂糖。Entsai, パシヤニヨ、tsai,　＊水野へ書簡を出す。	⑨165-157p
		6	mien, Cakes,	
		7	chanin書典(300文)。	
		8	cocai, woods, entsai, woods, Oil,woods,	
		10	Cake,	
		11	Catter, Tea, wood,　パシヤニヨ。Eentsai4, Tsai,	
		12	包席8日の分支払。	
		13	コーコイ2斤。Wood,tsai, tea,卵2個。大幣信（銀表運賃、2,700文）。Cake,	
		14	成都府北打金街萬有店より本山あて第5期上申書発送。	
		15	Tea,　woods,　時計1個。	
		16	袋状、筆1本。Calse, Oil,Kafen,tsai,	
		17	Tea, wood, tsai,	
		18	micn, Oil,	
		19	筆五本購入。ユーカルホ。Mien,	
		20	Tea, Cocoi, パシヤ。Tsai,wood, mien, Hantsai, cheeton.	
		21		
		22	Tea, wood, シヤニヨ。サ゜ヂャンコン。Oil, tsai,	
		23	wood, tofu,	
		24	コーコイ、wood,tea,	
		25	＊西蔵ボン教の「無量寿経」を翻訳完了する。Rice　5升。Mien,	**丙第九号②271p**
		26	パシヤニヨ。Oil,rsai,wood.	
		27	Cocoi,wood. Chen,Knyan.	
		28	tea,wood. Oil.	
		29	パシヤニヨ。Oil,　wood, tsai, 房銭。昌音工銭。朱氏へ送金。酥油。	
		30	tsai, potsai, wood, tea.	
33	5	1	momoi, Tibetan tranpet.	
		2	Egg,wood,	
		3	次回入蔵準備する。洋銭、印度ルーピー238個。この銀90両。Hantsai. Eggs,wood,	
		4	筆3本。手帳3冊(210文)。ダルツェンドから南條博士宛てに金剛経蔵葉57葉、訳本4冊小包で	
			発送。朱氏へ工銭給。状紙数枚。Wood,tsi.「次回入蔵準備」として、必要携行品を書き出す。	⑥164p
		5	ラマ帽黄色購入、240文。Carber.	
		16	第19回本山上申書を打箭鈩から発信。南條先生あて金剛経西蔵文葉、訳本計4冊発送の旨記す。	本山上申書
			明日、成都を経て甘粛蘭州に至り青海に至る予定で出発する。ラマ寺に西蔵黄教新教の開山誕	
			生地も訪問の予定。（第15信によると本山あて金剛経・般若心経・ほか二部の西蔵経文の直訳	
			を送付）　※「西蔵ボン教」も翻訳。	
			【上申書の内容】	
			第1　　青海を往て進蔵をはかるべし。荷物並びに旅費の半額は当地に遺し置き出発し。	
			第2　　青海策若し成しさざれば、再び当地に引可へし、萬題中の第一を試むべし。第一業たる小路	
			進蔵到底望みなりと。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			第3　冬期好期以て、雲南に業出て、第二を試むべしと。依って以上実行の為、明日、当地出発	
			新決定の論に上り候。就再び成都を経て、甘粛、蘭州に至り、青海に至る予定に御座候。	
			或いは序を以て松藩内地に於ける喇嘛寺に西蔵黄教新教の開山誕生地をも訪問致度存候。	
			二白、過日、寺務所内南條先生宛金剛経西蔵文葉並びに訳本、計4冊発送致置候。　以上　早々	
			5月16日　　歟在打箭炉　　能海	
			本山寺務所　布教局御中	
			※ 翻訳経典4冊とは、「般若心経」、「無量寿経」、「弥勒菩薩誓願経」、「金剛経」の4点である。	
33	5	17	午前9時半、打箭炉宅此役、朱氏宅にて小荷物を整へ小姑娘東門外にまで両口肩掛け持ち	**進蔵朝佛記⑤172p**
			送り来る。大生関に下れるは、11時半なり。途上一茶館に4文を拂いて喫茶。途上数回休み下る。	打箭炉発
			馬の交接を見る。始めてなり。足労かれ困る。途上2回知人に逢う。一人は佛画を魚通より持来らん	
			とせり。午後5時半、瓦寺溝着。日地頭道等にて休む。麺館二杯24文。茶館4文。補蓋代16文。	
			僧に逢い言語の通ぜらるに大に困るる廣東、東西辺口云へり。飯を造らんとして造る不能。8時、就	
			床僧と同室。所謂幻にて夜半に至る迄睡眠する不能。＊第19回本山上申書」打箭炉。	④253p
		18	朝未明降雨。5時20分出発。見れば山上一帯白雪なり。足痛。当地より水田叉は阿片園あり。途上	濾定橋
			一清里に付、10余人平均に逢う。昨日、7、800人に逢う。皆茶包荷なり。7時50分瀧橋の宿に着。	
			朝飯。時に炉軍糧府より一口人追来り。送り去りと云へり。大に困る。瓦寺溝に小河一橋。大河一番	
			舟あり。一橋を渡り大河辺魚通に達す。以上15里。冷関。10里大亨巴30戸。老王煙姻。	
		19	濾定橋　市内散歩。数日間、山道の食品。米、菜等を買入る。5里雇一休。廿四盤の高岸を上る。	
			岸上観音口あり。柑溝　10戸。豆腐あり。一休。食物。魚道溝泊。	
		20	降雨。魚道溝　一戸　しらみと寒気閉口。山間の一小屋のみ。馬鞍山5,000尺。五羊背　一戸。門関山	
			20戸。宿屋多し。雨甚だしく一休（茶咱地）この処皇口の竹山あり。数里間竹。50余戸。平地にて家	
			大なり。叉口あり。両辺、両橋あり。山頂へ50里。両路口この地、鉄釣橋あり。家大なり。支流。	
			廟教一休あり。20余戸。この辺より茶樹あり。後(ハヲ)刀(テャヲ)　18戸	
		21	水大坪　50戸。よき地なり。河辺高地。雨降り困る。山の肩を越ゆ。水流曲廻して来り。難巴子	
			10余戸。大魚渓　20戸。河辺のよき地なり。水田始めてあり。小魚渓　20戸。谷底平地地味よし。	
		22	紫石関（ツースーコアン）　百戸。町繁昌せず。鉄釣橋。大河。脚気坪。拝子地。鉄釣橋　支流。供武店。上水渓。	
			大砂河　河中鉄橋あり。支流。天全県城泊。	
		23	天全県（テンチュエン）　この地廣く街口。3,000戸。石炭、米。兵一官夫1人送り来る。始陽　米、市盛んなり。500戸。	雅州
			この処より小路を通る。大路は遠し。狭関に合す。この渡しにて荷物を落とし流す。幸拾い上げたり。	
			口河（渡し）口山河。飛仙関。峡関、この所風景よし。魚を売るあり。これを食す。風味日本以来よし。	
			峡山30里。平水にて汽船も通うことを得べし。川西道台。雅州泊。	
		24	雅州（ヤーチョー）　5,000戸。刺麻差使。4、50人。騎馬回族を見る。非常の平地なり。河に沿って下る。	
			釣橋　難関市小山越ゆ。名山県　5,000戸。官夫交替。市大繁昌。石炭あり。官夫1人、兵2人	
			送り来る。名山県　5,000戸。官夫交替。	
			口属口州口漢曰厳道。　雅州府口貢口州之域。属蜀郡西塊曰蒙山隋	
			口雅州後為臨功郡。唐宋元明曰雅州今陛底。百丈駅泊。	
		25	百丈駅（ペーチャン）　800戸。黒竹関　200戸。乾気舗。大塘舗。臥龍場。叩州泊。	
		26	叩州　5,000戸。数10日の日で川にて祈雨、南門を閉ず。兵2人送り来る。18里。東獄鎮。10戸。	
			高橋。楊場　800戸。待ち口。大平口。新津県泊。	
		27	新津県　4,000戸。兵2、官夫1人、3人送り来る。官夫交替。花橋、300戸。串頭場　200戸。	成都着
			串頭場　200戸。黄水舗　5百戸。雙流県4千戸を経て成都府着。河辺楊柳草地。散歩の好地なり。	
			城内繁昌。官夫交替。兵2人、官夫1人。3人送り来る。周橋500戸。武候祠門前を過ぐ。役夫6両。	
		28	打箭鑪老陜街達徳店より国元(父、兄、弟)へ書簡を送る。	
		29	成都滞在。	
		30	成都滞在。	
		31	成都滞在。	
33	6	1	4時半、成都府（鑪都、800里）発。天廻橋、500戸。三河橋　300戸。同善橋。11時半、新都県	成都出発
			5,000戸。烟草。三家市　600戸。上橋、500戸。通道橋。　漢州へ6時着、石梯橋泊。	
		2	4時半発、漢州、6,000戸。城内泊。大廣東館。麺、砂糖。和順橋。至保寧。小漢県・竹林舗)、500戸。	
			この所口道徳陽城内を通せざると云う。11時、徳陽県　6,000戸。大福建館。白口。3時着、黄許舗泊。	
		3	4時半発、黄許鎮。23里。600戸。砂大河を渡る。巾10丁。8時、羅江県　3,000戸。白塩塊。	
			太平橋　百間石橋。大井舗　20戸。12時、金山舗　300戸。平地にあり、街閙中頃に至る。	
			2時、新舗　10戸。山頂。4時半着。皂角舗泊。	
		4	皂角舗　100戸。平地、河あり。石橋舗　50戸。綿州　陜西館大。3,000戸。渡し船上下す。この所、	
			道に迷い北行す。20里。濫泥舗迷道より人を雇い小道によりこの所50戸。本道に出つる世文	
			を口口。沈香舗泊。	
		5	沈香舗　200戸。山間の低地駅なりる山上塔あり。街上桜橋あり。(西秦)魏城　500戸。石城、火山	
			土あり。一休み。宣化舗100戸。山辺の一村落。(古)石牛(保)、300戸。山間の一駅。板橋　5戸。	
			7時石橋着。梓滝県泊。	
		6	五時発、梓潼県、3,000戸。石橋を渡り城壁に沿うて入域。麦、麺。東門に出る。西門叉大通あり。	
			朝飯、1戸。茶屋、かゆ。吉陽舗15戸。山頂。廟あり。上亭舗10戸。降雨あり。麺、水少なし。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			10戸。演武舗10戸。瓦子埡舗を経て武璉駅泊。	
33	6	7	五時発武璉駅。300戸。昔武公駐兵、山間の底地にあり。街開剃頭す。岳泉舗5戸。柳池溝	
			柳池溝100戸。谷にある駅なり。麺あり。講書台3戸。4時半、凌山舗10戸。青山舗6戸。	
		8	剣州　2,000戸。街山に拠りてあり。段々下る。薬草。石橋　衛門高所、東門に出て橋を渡り山に上る。	
			10戸。石舗5戸。漢陽舗200戸。生糸、黄糸、養蚕盛んなり。剣門泊。	
		9	4時半発劒門叉は剣関と云う。200戸。平地にあり。劒門の西口にあり。5戸。(劒安橋)剣門72嶺。	
			鋸の如し。2、3戸孔道　2、3戸。この辺、両方の山高く道狭し。大木橋　20戸。山上の一駅なり。	
			ラマ差使に逢う。山頂一帯の河床を遠望す。降雨。10戸。山の峯を東行す。困難。牛頭山。3戸。	
			寺、高所にあり、見晴頗るし。3時着。紹化県泊。	
		10	5時発、昭化県。1,000戸。河の衝の平地にあり。石炭、羊□あり。渡し。嘉陵江□□多し。舟通す。	廣元県
			5戸。河に沿うて上る。廣元塔。3戸。河辺。嘉陵江(県、塔)江中魚おどる流漫々。この所弘。	
			1時着。廣元県泊。	
		11	午前4時半発、廣元県　5,000戸。沼、河、山に□る。53里。石炭、福□□。平陸。	
			千佛崖。河江□□佛像一、成都へ8清程。西安へ18清。蘭州へ24清。	
			嘉陵峡(石炭孔多く産出大なり。幾百双の舟、炭塊を積して下る)。飛僊関　2戸。一休す。5戸。	
			この辺谷に沿うて上る。8戸。茅屋。小屋店。至□□保寧。朝天山。朝天関　朝天峡800尺の上に	
			あり。午后2時着。朝天鎮泊。	
		12	4時20分発、朝天鎮。90里(840里)、150戸。□官あり。この夜、腹痛、吐□す。□石。支流。	
			6時、5戸、一休。8時、龍背　関所。この崖下数里間の水道トンネルあり。龍□の□駅あり。100戸。	
			9時、神宣司　駅あり。100戸。平地。10時、紙房舗　10戸。12時、中子舗　50戸。一休。かゆ。	
			阿片あり。1時、大中堡　50戸。2時40分着、小中堡泊、70戸。	
		13	4時20分発、小中堡。この夜少し腹痛。七盤関　四川廣元県石峡関　陝西寧□州、この間一小河	
			あり。7時発、黄大壩。汎官あり。平地、田あり。(6人のひき子輪子) この所南東大山	
			九時、南(分水嶺)　3戸。山頂。この所嘉陵と漢陽、両河分水。10時、廻水河　五十戸。	
			蒙古手前を見る。徳耳へ。7里坦　2、3戸。阿片。この辺へ一、水田多し。　午后1時着、寧姜州泊。	
		14	4時半発、寧姜州　城外に宿す。城内小規模。2,000戸斗り。6時半、(5里輔)5戸。朝飯。唐麦、豌豆、	
			むぎ。　滴水輔　30戸。駅場。山頂。5戸。以上川に沿うて上り。5丁関　5戸。以下川に沿うて下る。	
			飛石渡り多し。11時、寛川関　30戸。駅場なり。阿片(金手駅後有金牛池□も10里迄5丁□)烈き場	
			30戸。川辺の一市。2時着、太安駅泊。	
		15	4時発、太安　駅場　川を挟みて街す。この辺やや廣し。村芝居群集。　6時、桑樹湾　廿戸。	
			朝飯、漬け菜り。満足。青陽駅　50戸。駅へ橋あり。川を挟み一大寺あり。駐蔵□命に逢う。	
			新輔湾　2ケ所、100戸。水平流。□県　洛陽県へ170里。城内只畠のみ人家なし。東門外800戸。	
			川に沿う。この地より甘粛秦州へ6、7日程大路。菜園渡1,000戸。商業唱なり。昭列故都　50戸。	
			砂河巾廣し。柳樹営　10戸。黄砂「武公製木牛流馬処」3百戸。新街子　河辺2百戸。合路す。	
			20戸。(江園)100戸。一休す。太砂河。□米3万石。午后4時着、西門を入る。漢中府　5,000戸。	
			紙幣通す。110里。城内外数里。沔県泊。	
		16	漢中府泊。	漢中府
		17	日曜。4時、北門を出つ。漢中府。平地、8里輔。秦恵公南鄙漢中。20里輔。宋営鎮　50戸。両岸、	
			□城県、800戸。絶壁、白石土地。廟小石碑多く並ぶ。□頭関、5戸。支流橋釣。□城卡□城卡。	
			山河、□□保5戸。青柳河　釣橋支流。20戸。青橋駅　10戸午后6時着、20里舗泊。	
		18	4時発、山河、20里舗。115里。50戸。店子多し。6時、馬道駅　50戸。釣橋、支流。8時、馬通行多し。	
			山河、武曲舗10戸。9時半、草根木皮菜種。飛仙溝　5戸。この山奥より出ること多し甘菜等極多。	
			鉄佛殿30戸。くるみ。(古三交城)山河。鉄佛殿武休兵□。10戸。店子。武関。姜□子5戸。大流と	
			□る。1時半。武付兵。青羊舗　15戸。小流に沿うて上る。画眉関　寺あり。1戸。5時着宿、留壩庁泊。	
		19	4時半発、留壩庁　800戸。平地あり。廣さ5清里。乱石舗　7戸。朝飯。8時より12時まで。	
			棗欄木　廻竜寺に雨を□□。寺内に休み急に立つ。紫柏山道士　漢張留候□□□1時、紫関嶺山頂。	
			2時、小河に沿うて下り。5戸。わらじ求む。3時、松林駅20戸(自安山至此60里)	
			楡林舗10戸。5時、畠、7戸。6時15分着、雲蓮寺　50戸。南星泊。	
		20	四時半発、南星　50戸(南新店見る)寒く手こじける。この辺より温炉□を見る。　この辺畠。蒙古	
			刺麻四人進蔵互いに談話す。小河に沿うて上る。□飯。留鳳関　30戸。楚項□萬封□□□。	
			本日は寧姜の税関数人較子同道。三岔駅30戸。市街樹林、畠多し。心紅舗　8戸。コーコイ等この	
			数日甚価高し。深山駅。山頂。南天門　古朝陽寺あり。山頂の見晴紹化を見下すと同一徹なり。	
			(古舗)8戸　蒙古ラマ3人雇う。午后3時半着、鳳県(赤土の城壁、嘉陵江岸にして江叉廣く巾大なり。	
			凡そ7、800戸)。本日87里。　鳳県泊。	
		21	4時半発、川に沿うて上る。6時　灘　朝飯。白石舗15戸。土窟多し。8戸。茶屋。所々阿片あり。	
			花盛りなり。8時半、白家店25戸。　この風俗大に異なる。五星台5戸。この辺只(ヤキパン、コーコ	
			イ)を常食す。一斤60文。食品甚高価。草涼駅卅戸。1時半、紅花舗30戸。宿多し。是□城より一站路	
			85里なり。長橋30戸。茶木少なし。竹などなし。30戸。田少し。4時半着。黄牛舗泊。	
		22	黄牛舗50戸。駅あり。負われて渡る。昨の清泥水洪なり。保家庄20戸。次の集落20戸で朝飯。	
			煎茶波。東河橋この辺廣し。数100戸。9時　東北に見る。(丈座波)山頂、3戸。釣鐘あり。箱根より	
			小田原の観。平波□地。10時半、観音堂　廿戸。駅。紅花舗より1清路。古大散関1戸。茶屋数戸。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			畠。大湾舗20戸。鎮(J叉作夷門鎮)　非常に廣平地。畠。蓋門舗10戸。茶店。渭水渡なり。	
			泥水数条平船にて渡る。4時半着　南門入る。宝雉県1,000戸。黄河の□□高く町をなす。茶店多し。	
33	6	23	3時半発、□数用多、一吊文は(800文にして100文は56大銭、24小銭なり)。寶□県泊。	
			6時、茶店3戸。□中、宝雉より鳳□に至る70里。鳳□より岐山40里。　8時半、五村。(陳倉□)	
			五十戸。めん。この時、刺麻差検中、灯にて知人従へり。予の元に来り談す。旅上、始めて知人に逢	
			うも后不語□。11時、コイセン城　1千余戸。大商家多し。□船のぞきあり。かゆ等。宝県よりこの城に	
			寄らず岐山に出る。予は見物の為よる。12時、東西1,000里、道に迷う。3時、南北100里。茶屋2、3戸。	
			土城。この土城たるやこの一帯の高平原、所々に村落城砦をなす。土城。大河に出る。7時日没し	
			て着す。岐山県　西門入り、東門へ出る。1,000戸□商多し。馬車通行。外深く掘る。水なし。岐山県泊。	
		24	4時半発、日曜。茶屋。低地あり。土硯を売る。麦、トウモロコシ等。竜益溝。土穴居村落。寛永店に	
			休み、メン食。20戸。馬車。益点鎮。100余戸。繁昌す。茶屋。2、3戸。ちまき、なつめ入り。1ケ6文。	
			扶風県。400。小豆かゆ等。剃頭。水少なし。茶屋。2、3戸。6時着。この辺にて急病人道に卒側	
			を見る。茂林鎮泊。	
		25	5時半発、茂林鎮。100戸。よき地。店子叉あり。始めてよく寝られ宝叉上官房心地よし。新築きれい。	
			(扶武間50里)西鳳営風。2、3戸。8時半、武功県。城外を通る。城内外2、300戸。小流あり。	
			貞元鎮7、8戸。毛銭多用。150文。太平野。麦、トウモロコシ。甚地味。赤土なり。	
			3時半着、東河舗宿。	
		26	5時半発、(東河府)50戸。長寧駅。唐楊貴妃の墓と記せる小寺廟あり。　7時、西風協汎。(土城)	
			馬□(マーウェイ)。土城外を通る。5、6茶屋。城内数100戸あるべしる□□この辺地や。低く、処々井あり。	
			干田に□□。8時半、一休。茶屋、寺あり。涼しい。　10時より11時、興平県。2ケの塔あり。	
			凡そ400戸。なつめ、ちまき多し。銀を銭に替える。1両に付き1,700文。内55大銭、45毛銭、半々銭。	
			南方遠望山かすかなり。寺に休む。茶屋に休む。(涌泉池)貪婆舗あり。涌泉池2ケ所、。目によし。	
			10余戸。茶屋1戸。　6時半、北方土城併置築せり。咸陽県。2,000戸。西□より電信通す。渭水の河上	
			に城をなし、商盛んなり。油商多し。咸陽県泊。	
		27	5時半発、渭水渡河あり。上城100戸。茶屋、10戸。馬で楊柳道に沿って泥にて雨には□□□らず。	西安
			長咸。50戸。茶屋、朝飯。南方終南山を見る。100里を距つ。車で三橋鎮。浜営3ケ所(成都西安間	
			2,310里、内60里漢中含も大46、叉は37□大銭)武備祠堂、福音道堂。東方丘山を望む。	
			秋米86万石。11時、西安着。西門泊。✻「長安に至るの記」を書く。	⑤174p
		28	西安。臥竜寺に出る。僧7、80人。当地、第一の大寺。雲水堂に泊す。2回勤行に同席仕す。	
			三度麺と粥。方丈、東避と称し、69才。山東の人、光緒元年に入る。	
		29	西安。朝、方丈、主葬、古蹟、梵・英・蔵・和の字を書し、小経を一辺にて覚えたと語る。出て、北門を	
			見る当地の繁地は中心より西門間15丁ばかりなり。	
		30	西安滞在。	
33	7	1	西安。雁塔。奥教寺。	
		2	西安。	
		3	午前4時西安発、南門、西安府　長安県安定門西門入り。平涼門東門散歩。城中3丈高3丈、24丁	西安出発
			四方。城皇店は銭。慈恩、観□の如く勧工場あり。賑やかなり。刀等鉄物産あり。石炭は宝□以来各	
			県人用ゆるを見る。南五台山、大奥善寺。義浄、叉この地西洋品多し。城内外20万人をすぎず。洋人	
			数人。終南山、三橋鎮。祈雨の村人5、600群行。奥教寺玄奘三蔵、塔院。茶屋。　渭水10時、	
			咸陽県。南門を入り、北門へ出つ。皇陵墳墓丘陵多し。この辺里数大なり。周公文主武王陵。茶店。	
			10戸。かゆ。茶屋。卵あり。午后四時着、店張鎮泊。	
		4	3時半発、店張鎮。50戸(粛桐国祀)。只電線と柳楊の樹に沿うて北行。南に終南山一帯を遥か	
			に見る。茶屋。2戸。7時、8時頃、醴泉県。東南門を入り西門に出づ。800戸。すもも等多し。半々銭。	
			馬車往来あり。東北□山を見る。560里。寺あり施湯。12時着、乾州泊。	
		5	3時半発、乾州。東門を入り北門へ出づ。2,000戸。□大37銭。陵坡この所古皇陵あり。皆南面。	
			叉寺あり。18里歩。3戸茶屋。(営迅)10余戸。茶屋2戸。9時着。10時出及監軍鎮駅という。	
			この地土城内100戸。道凹滔し、両側俟ちり。遠望、畠。110戸。茶屋1戸。兎野田に飛ぶ数匹。両方	
			くぼみ谷なれども川なし。3時着、永壽県泊。	
		6	3時半発、永寿県。1、200戸。城内数10戸。東門外少しく町あり。宿す。店子叉1戸。穴居人100戸。	
			100戸。高地に城あり。150戸。大半穴居。青草山。　6時、穴居人路店2戸。粟湯。朝飯。粟粒2、3個	
			のみ。粉を食するものあり。6時、穴居人路店2戸。粟湯。朝飯。粟粒2、3個のみ。粉を食するものあり。	
			馬8頭にて車を引上。7時半、張口五戸。茶店溝あり。麻作。清水。9時、開口。両所に30戸。	
			茶店5、6戸。この地麻を作る多し。小水流あり。小路を通り□をなす。野雉多し。茶屋車宿あり。	
			この所より流河を望む。12時半着西行行、梨、茶及び柿を栽植し、□方株大□□らん。	
			至霊台60里。邠州泊。	
		7	3時半発、邠州。1,000戸。東門を入り西門へ出つ。山に対半より河に面して城あり。物価高。墺銀	
			4銭4分。660文7丈3小(閇半々銭)河に沿うて上る。茶屋。棗木林20余里。20里と云へども25里。	
			支流の泥河を渡る。尚大巾3丁水□間。　7時、大仏寺。洞岩に刻し、河辺にあり。石佛像。寺20戸。	
			茶屋10戸。亭口鎮。店子及び茶屋行代り。20戸。11時、二厰里。数戸。土穴。茶路店。たまご1個	
			3文。□店堡土城及び営り。土穴□2、30戸。　2時半着夕立あり。長武県。東門入城内2百戸。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			西門外泊。対半銭。300戸。東京年数万円、梨叉多く、 阿牙及び小草烟少々蘭州の水烟輸出	
			多く外に薬才叉あり。塊樹、桐、他地になし。水に腐らず。至慶陽。長武県泊。	
33	7	8	午前3時半発、長武県。□郷少し風邪。本日頭痛。加えて道里100里。実は120里もあり生じて巳来	
			困難。□雲に泊し本日里呈にするよし。洪家舗路店2戸。窰店。100余戸。麺麻飯。鎮。7時、今日より	
			柳樹大にして日の陰をなすよし。9時、□雲鎮。陝西甘粛□分関所2ケ所。戸数30戸。11時、高鎮。	
			50戸るモーモー50文□。1時間毎に30分宛休む。遥かに四方の低地を望む千里。柳樹大なり。	
			この辺すべて里長し。3時この辺最も苦しむ。 この所10里といえども20里あり山頂平丘の頭なり。	
			10戸。今日里程甚100里と云へども130里なり。山のおりつき。5時半、漸く着。徑州泊。	
		9	有執甚6時半発、涇州。50戸。回々多く長武、径州20余年、前城を焼きしと云う。1,000戸。	
			朝飯を食して□□す。大河を渡る。背負ある。8時半、古瑶池。降母慮。古は平京を陘云しことあり。	
			阿片開花、極平地、20里舗。10時、巾15町、河水あり。11時半、王村鎮。40戸。土城あり。	
			1時、甚困難、10里毎に30分。この所に休み起きあとへ行き始めて□僕のすすめにて西行せり。	
			如何にもくたぶれたり。2時半着、花所鎮。30戸。行台り。叉は40分宛。路辺に横□□眼す。	
			この所10里といえども20里あり。今日里程甚100里と云へども130里なり。山のおりつき。	
			5時半、漸く着。	
		10	午前3時半発、所々4、5戸の村あり。冷茶を売る。実は涇州泉間93里程なりと6時着休。140里の	
			半路宿所。泉汎3里舗。貴州人麺館に休む。予は風邪の為これを3日に行ことに定なりく。阿片やや	
			多今開花、畠、水田あり。白水鎮叉駅、300戸。城あり。行台28。茶1杯26文とは高し。10里毎に	
			3、40分宛休む。11時着、40里舗泊	
		11	4時半、昨夜巳来、40里舗。100戸。この夜寝不能。只気□正気なし。64の脉は93里に上れり。	平涼府
			頭痛癒甚しく昨夜吐す。今日路上大難行。甲磧路5、6戸。2、3戸路□10里舗。丘店。40里路2店。	
			□□。大道柳樹大四列にせり。30間、50間の道中。梅、棗、ちまき1、2個食すのみ。11時着泊、	
			食すすまず日にまし悪し。平凉府。東門外5里。泊坊。500戸。城内□□少しもよからず。平凉府泊。	
		12	平凉府。一日滞留。	
		13	平凉府。病全治4時発、8時に頁河子20戸。休朝飯。兵300斗り。安国鎮、27里、50戸。小丘上に在り	
			土をなす。宿屋多し。□店。100戸。杖等木細工物価店多し宿もあり。この辺水あれども田も畠も殆ど	
			無く、平坡なりまま天幕を見る。羊、牛馬群牧多し。寒くして犬大なり。三関口、古金佛峡、寺ありる	
			2戸。峡山あり。(千出吹)20戸。店あり。5時着、瓦亭泊。毎日水要。清水溝。10戸。店あり。	
		14	4時発、朝50度。瓦亭。固原に至る80里回々の住地清渓舗に至る。土砦大なれども人家100余。	
			固原と蘭州への大路の分店にあり原野に□をなし牧場廣く、叉寒し。和尚舗(私云火焼舗)寺あり、	
			人家30戸。山麓にあり、犬大なり。馬車尚越山。茶屋10戸。寺あり。六盤山山頂2,000尺。	
			山頂、2戸あり。寺あり東西を見晴らす。六盤山古塞、東□亭30里。平凉120里。固原120里。	
			西□徳20里。神林舗65里。静寧州110里。南泰□□。360里。絡盤道。□□□楊家店。	
			堡廿戸る茶屋あり。犬居る。11時半着隆徳県泊。東門を入る。裏町を回る寂たり。300戸。通り筋	
			100戸斗りなり。甚ださみしく(県正堂に居らず、衛門もなし。只小官居るのみ)	
		15	城小人家少。茶牧地多し寂漠如寒村、この地山間巾5丁。寂漠如寒村、この地山間巾5丁。砂糖舗。	
			30戸。朝飯。開市、雑踊。8時半9時発、阿片。神林舗。50戸。茶屋宿多。河巾廣く泥路近道を行く。	
			道良くて行く事は□□。羊牛牧人多し。阿片。峡間。1時50分着、静寧州泊。市大、賑やか、	
			人家2,000。曲屈して通す。野菜、其他皆生す。地よし。	
		16	4時半、苦水河。負われて渡る。ワラジを履き替ゆ。方向西に向く。昨夜来降雨。暫く見合、路悪	
			行転ぶこと3回泥に染む。山頂1,000尺。高家堡。50戸。店多し。界名舗。50戸。店多し。	
			小峡あり。2、3戸。穴居。3時半着、青家駅泊。1,000尺。	
		17	4時発、(清凉駅)清家駅。土屋100戸。車店泊。分水嶺。渭水と黄河の水分かれ。5、6戸。閉店□	
			牧畜。太平店。30戸。朝飯。この両平日は草の薪に木一本も無し。1,000尺。この辺柳柏少し。毛毯	
			出産。翟家所。城ありる100戸。天水井数個。麺食す。山間泥流。牧山。本日里数叉大45里は	
			63里に当たるとか。計110里なりと。牧山群羊。村落塞あり。廟あり。10戸。張成か。	
			大快走、土の凹所平政橋を架す。数10ケ所阿片に沿うて下る。泥水、河を渡る。2回。背に負われて	
			渡る。大明朝の碑多く存す。3時半着、会寧県泊。南門入泊。城外城二重になる。1,000戸。水苦	
			くしてニガリの如く呑むべからず。	
		18	4時半発、朝50度冷得很。橋なし、流れに沿って上る。河を渡る。3回。北流す。牛羊糞薪、牧人多し。	
			7時、雞児嘴。30戸。低地。朝飯。屋根瓦なく炭がまの如し。山間10町中馬車上坡難。本日里程53里	
			なれども大里。にして小里にして70里なりという焼酒にて脚をもむ。茶屋低地河辺にあり水苦くして	
			呑むべからず。10余戸。11時着、西鞏駅泊。快走。茶屋2戸。	
		19	朝50度冷□很。牧山、奥雲嶺2,000尺。青凉山。茶屋5戸。水なくして茶貴なり。茶屋2、3戸。	
			皆畠山を遠望。(木家湾)30戸。宿あり。泊すべし。吃麺とき休。2時間落せり。本日里程大路にて	
			80里なれという。この3日左足をくじかん。痛み歩み難し。東20里舗、2、3戸。東10里舗、2、3戸。	
			この所小路を下る。5、6里。見晴よし。2時過着、安定県泊。	
		20	4時発、安定県。水北に流れる。橋あり。東門入り泊す。平地にして裏塘の看あり。白葡萄甘し。	
			1,500戸。新旧城二□□。安定河に沿うて下る。6時、頭痛困難。18里舗20戸。	
			馬車往来繁　巾20丁。地平寛。穀耕適。土城あれども入らず。北30里舗2、3戸。10時、晩関口。	
			土城あり。人家300戸。安定河と称す釣河と合し北流す。称釣河に沿うて上る。本日天甚熱難行。	

年	月	日	事　　項	参　　考
			12時半着、秤釣駅泊。	
33	7	21	2時50分発、称釣駅。土城あり。城に入らず泊す。100戸。苦水甚し。天水苦し。朝道を錯へ2里余。	
			朝道を錯へる2里余。牧牛。茶屋7、8戸。休み、吃茶。西方高山あり。甲斐口色。茶屋。この山上	
			非常に曲がり行く、車道嶺。4、5戸。9時半着、甘草舗店泊。300余戸。閉地にあり地豊なり。水高	
			価、苦水多。流れに沿うて下る。	
		22	夜来雨降みちに出ては曇り微雨。巾10町。この辺地味最好。清水鎮。200戸。白内大なれども城を	
			なさず。朝飯吃麺。西門外人家多し。この時6時半発、この辺山の頭を離れば周囲非常に寛大。4、	
			50清里。この所小路を通り直行。2、3里近し。9時半、休み半時間。塔新営。30戸斗り。吃茶不休。	
			今日里程70里。水至る所に引き阿片は田地の5分の4。外麦、米、瓜、梅大口多し。下関営。土城	
			あり。叉口官営に作る。西門外人家多く150戸。吃茶少しコーコイを食す。水田叉有。この所河巾廣	
			くして東南岸小路を行く。両山18丁巾。河清水流れ、分路。麺店に半時間余休む。遇店子。	
			土城外を過す。2、30戸。1時半着、金家崖泊。00戸。2、3ケ所に街をなす。	
		23	3時10分発、金家崖。200余戸。街上閙熱店子ふさがり困る。阿片、麦、水田未だ苗を植えず。	蘭州
			百子堡か。50戸。茶店あり。この所地図皆錯誤せり。黄河を始めて見る。山間急流。6時朝飯。	
			小水子。東河鎮、(白水舗か)等と書せり。百子堡。茶屋あり。阿片、麦。休1時間野に伏す。	
			甘草舗河黄河に合する所なり。地図は誤れり。桑園(子)茶屋あり。2ケ所なり。一口流黄河に入る。	
			黄河三流水車あり。阿片。(根口根)口山麓30戸。それより数里(口だてて数10戸)土城中を通る。	
			車道にあらず。休半時間。菓物。石橋あり。　万里長城か山を高くけつずりおれせり。城外数10戸。	
			外城3、400戸。白内未見。1時漸く着泊。蘭州省。南門入外城宿。人口15万。東西10里。南北八里。	
			黄河の峡にあり。	
		24	蘭州。	
		25	蘭州。	
		26	蘭州。	
		27	蘭州。	
		28	蘭州。＊第20回本山へ上申書を出す。	④253p
		29	蘭州。第19回「本山上申書」を出す・	
		30	5時半発、城内西門。西北行(北京へ565日本里)鎮橋。金山寺。黄河に口み山上に高楼台閣多く	蘭州出発
			風景最好。「至北京3,935里」360歩。この辺茄子、棗白大菜等果林小菜の畑多し。	
			8時、朝飯、この所10里と雖実は18里程なりという。実口り。今日大快走電柱のみあり電線なし。	
			10里店。僕口よし。この所土城あり入らず。茶店15戸。黄河に沿うて上る。この所より山間低地を行	
			やや西、寧路車道不好走の故大路をとる。今日40里。実は66里。長城。四方卓(ユーファンチョー、	
			山形)12時半着。この日従者李荷重難関。朱家井泊。叉40里舗という。50戸。山間の平地寛。	
			産西瓜、水口材高価。黄河の水卅里。	
		31	5時発、この夜降雨急なり。楡中、蘭州の西より口山に属す。村落あり。畠口米とて餅粟を作る多し。	
			秦始皇。この辺砂地なり。山叉草なく赤土なり。8時、8時半発、朝飯。山頂、西側急坂を下る。崖梁。	
			兪家湾。50戸。蘭州よりの1清里地。風景大に異り蒙古の風あり。茶屋店子。20戸斗りあり。樹崖塘。	
			大原野耕作せず少々の畠。陳家灘。11時10分、12時10分発、苦水。50戸。店子あり。麺食。休1時間。	
			溝中塩田を見る。原野耕作せず少々畠、野ねずみ多し。七家舗。7戸。溝水紅、土白粉をつくねる如し。	
			自兪家湾至鹹水河40里。理大実有60里。本日計90里。3時着、鹹水河泊。	
33	8	1	4時半発、鹹水河。水溝あり。水あれども鹹味甚しく呑むべからず。50戸。喇麻の旗を見る。	
			旧7月7日、大村落。河娘巴叉はタラセ辺西蔵の風あり。番地まで阿片、茄子の畠と化しにけり。	
			大村落。家屋土にして高楼あり。この辺水あり田畠好収穫。徐家磨。50戸。茶店、朝飯。平番河辺	
			に出る。河寛大流水灌漑好。8時途上休まず尚3時間半、この辺地廣巾20清里ある。古城。300戸。	
			土城あり。街閙。紅城堡。100余戸。麦、阿片、豆腐、麻、菜種等四川と同様大ある。休み1時間。	
			この対岸の山や水なく草木なく一種の風あり。水なく草木なく一種の風あり。今日程50里。実60里余。	
			麦漸く刈、菜種花咲、阿片尚存一口花。午後1時着、青寺堡泊。城内100戸。北門外30戸。	
		2	4時40分発、この辺路傍樹木大。毎日馬車に逢う。100余台騎馬2、300人往来しげし。	
			昨夜来寒45度。洋麦、にんじん等。樹木叉多し。南大通。城内100余戸。北門外朝飯。7時休1時間。	
			水灌漑よし。昨夜叉々風邪熱出て難行。菜種、阿片の花盛。路側に休1時間余　溝辺草の上に疲れ	
			て寝る。荘浪。人家なし。石がき、村落か。番子所住練瓦口口口口。路里50里なれども60余里。	
			蛮城。大城あれども入らず。城外南北100余戸。12時半着、平番県。城外泊。内外千戸。	
			蛮子、番子雑居。風邪脈98。当地1日滞在療病。	
		3	滞留、平番県。	
		4	4時20分発、大河口。小流背に負われて渡る。7、8回。小流4、5。過河40分。山頂。水冷足凍せ	
			りという。遥かに蛮州を見る。　(夢至拉薩有日本大商館姓中野に餞別数10両)8時半30里余あり	
			90里に1本の木も見えぬ里。楊家溝灘。蛮家10余店子4、5戸。砂溝。20余戸。店子あり。	
			石炭を積む馬車西より来る。20戸。麺もなし。吃茶。20戸。麺もなし。吃茶。塘坊馹。4、5戸。	
			冬には凉州より駱駝洋貨を拕して来るという。本日一本の樹木なし。3時着、里毎1時間。蘭州省	
			南門入外城塘坊馹泊。人口15万。東西10里。南北8里。黄河の峡にあり。	
		5	4時半発、店子7、8戸斗りあり。砂地にして道は溝なれば溝巾2、30間。この辺州路南行若し南行	
			若し南行せば4、5里五渠土司地にして大通、田園、河辺にあり繁り。一見して美地なり。	

年	月	日	事　　項	参　　考
33	8	5	この辺暖気にして烟草、菜種等、殆ど甘省と同様に出産あり大通河の船渡水深流急幅叉寛。麻縄	
			に曳きて渡る巾一丁。4、5戸村。同じく地口作物好。1戸。この所にて西南に向かい山間平坡。	
			熱茶一時間休む。(赤石溝)この辺にて路傍に火を焼き茶を熬る。水少し苦水にして口なり。	
			30里間1戸の店子なく番外。山溝、路なし。この辺馬車難行、路悪。2時着、氷溝泊。15、6戸。	
			山間の寒地。家屋皆土屋回々多。	
		6	四時半朝発、氷溝山。山頂畠あり。下坡大快下走。廟一ケ所あり。　今朝だけは朝飯前に40余里	
			(苦水溝)8時10分～9時発、以上40里は45里余。老鴉堡。50戸。回々多。朝飯。西寧辺に至る。	
			地味善き馬蓮に尚勝る。廣さ20丁河巾10町。20戸。白崖子。10戸。水巾30間。水磨塘20戸。	
			新冨豆煎あり好。長田20戸。11時30分～12時、烟草。高廟局。200戸。小流あり。小河あり。	
			阿片・7、8戸。洋芋あり。好道快走。　数戸。しばしばラマを見る。但し、回々多し。水膝に至るを渡。	
			流石急水。午后4時着、碾伯県泊。古楽都群7、8戸。	
		7	4時半発、西寧河を渡り、蛮堡数所を経て、南門外平戒馹泊。内外城1,000戸。番店。南瓜あり。	
			城堅固。外域市繁。船渡し15文。西寧河。堡あり。堡内30戸。店2、3戸。柿、ぶどう。口口崖あり。	
			7時半～8時40分、煮南瓜。(20里舗)4、5戸。店子。朝飯、南瓜好。水流急。数戸。阿片、麦、梨、	
			リンゴ、梅等好。阿片最多。洋芋。道平坦。荒野。10余里。峡あり。数里。対岸通あり。寧に至るを得。	
			休20分。蛮堡あるも破壊。人家僅かに数戸。一休。好田。阿片、麦。　70里に当たる。	
			本日60里。70里に当たる。12里、83里。荒野10余里。　午后1時半平戎着泊　綿、白菜。	
		8	3時45分発、綿。平戎駅。この地小水流あり。これを挟み西街、長1清里。100戸堡あり大。夜回々	西寧
			5人同宿。やかましく困る。対岸崖あり。崖あり。この間35里あり。支流渡背。7時半～8時半、飯を	
			口き食う。茶屋1戸。公官り。青海大臣至るとか。この辺巾20丁背にて渡る。支流(普遍、菜種、	
			麦、蛮胡麻等毎々同様)東川碇。巾二丁、東川口。大河架橋世間。峡口にあり。武定関。茶店2戸。	
			本日60里程。2ケ所に3戸の茶店あるのみ。この辺巾20丁。この辺山辺荒野。(60里程済以上70里)	
			この間、35里あり。本日計50里実は83里自蘭州至西寧府八口(10日間)600里。城3丁。西寧府。	
			東門外城。300余戸。内城2千。内城東門を入り過、衛門前。午后1時西寧府西門内城泊。	
			8月9日は旧7月15日宇蘭盆なり。	
		9	西寧。滞在。青海進蔵の準備をなす。	
		10	滞在。	
		11	滞在。	
		12	滞在。	
		13	滞在。	
		14	8時半、西寧発。長橋この所50戸。三大流合す。路店1戸。牛乳壱碗。10時半　休10分、陵墳の如き	西寧出発
			山3、4丘あり。里路大巾田地1里半耕好。山上耕。対岸村落。口店1戸。外に2、3戸。赤土潰へあり。	
			口店1戸。外に2、3戸。赤土潰へあり12時半。1時半、陰山塘。10戸。茶店数戸。牛乳、茶、麦、洋麦、	
			豌豆、菜種、蕎麦、冨豆、麺、卵、馬鈴薯、阿片、叉樹木あり。5時半、青海堡着泊。	
		15	閻門塘、喇課栄、响河爾塘を経て、丹喝尓着。	タンガル
		16	丹喝尓。	
		17	丹喝尓。	
		18	丹喝尓。タンガルから騎馬にて青海内を探検する。4日間。	
		19	丹喝尓。	
		20	青海。	青海
		21	青海。	
		22	青海。盗難に遭遇し、ラマ服、青海横断の為購入した物品を売却して僅かの旅費を得て帰途を決断。	盗難に遭遇
		23	タンガルを発し帰途に着く。青海堡泊、40里。	青海出発
		24	西寧府に帰る。回々村を経由することを決す。50里。	西寧
		25	西寧府に滞在。	
		26	西寧府に滞在。	
		27	西寧府出発。東川口泊、30里。	西寧出発
		28	回々城を経て新川の回々村に泊50里。	
		29	乢思観堡、大マキ真を越え、扎爾巴の回々村に宿す。40里。	
		30	店子、上哇灘荘など、回々地区を経て巴燕戎格の回城に泊。60里。	
		31	巴燕戒格滞在。	
33	9	1	巴燕戒格を出発。拉咱山を越え、山根に泊。この地方回々、蕃子相半ば。45里。	
		2	黄河を再び渡り、循化に泊。この地方の回々巣窟。この地にて始めて北京の変を聞く。循化着。45里。	循化
		3	循化出発。水済橋を渡り、火隆堡泊。皇帝、西安に遁ると聞く。70里。	
		4	一大牧山を越え、韓家鎮泊。70里。	
		5	雙城を経て、河州泊。この地区回々の巣履にして回々寺多し。雨の為め止る。50里。	河州
		6	雨。滞在。	
		7	雨。滞在。	
		8	20里、30里、40里の諸舗を経て、一山越え、買家巷泊。80里。	
		9	太子寺、20里舗を経て、狭道州泊。この地団兵を募集し、城内各戸に充つ。100里。	
		10	狭道州に滞在。	狭道

年	月	日	事　　項	参　　考
33	9	11	狭道州、チューツー寺の下に泊す。道甚だ悪し。70里。	
		12	狭道州出発。硤城街を経て、クマヲー泊。80里。	
		13	坡上口、嘛呢吽等蕃子部落を経て、ニユイン泊。50里。	
		14	一大山を越え、チョンサ゜イチーを経て、ミーチョアン営泊。65里。	
		15	茶埠峪を経て、泯州泊。35里。	泯州
		16	スアル溝、一山を越え、アソ河を経て、哈達舗泊。60里。	
		17	脚力舗、達子舗、宕昌泊。60里。	泯州出発
		18	新城、臨江舗、干江頭、鄧々橋を経て、接官亭泊。70里。	
		19	泰家峪、大峪里、石関子、両河口、清水子泊。50里。	
		20	後石門、殺賊等を経て、石門泊。70里。	
		21	両水等を経て、楷州泊。50里。	
		22	楷州滞在。60里。	楷州
		23	干間、佛堂を経て、大岸廟泊。60里。	
		24	楷州出発。外納、滔奇子等を経て、王家埧泊。60里。	楷州出発
		25	臨江郷、蒿子店、ヴーエン巴泊。60里。	
		26	中家巴、雞子巴、高頭巴を経て、苗家巴泊。55里。	
		27	玉塁郷を経て、高家巴泊。65里。	
		28	譲水橋を渡り、碧峪鎮着。川舟を待つ。碧口宿。30里。	碧口
		29	碧口滞在。	
		30	碧口滞在。	
33	10	1	碧口滞在。	
		2	碧口滞在。	
		3	碧口滞在。	
		4	碧口滞在。	
		5	碧口滞在。	
		6	碧口滞在。	
		7	碧口滞在。	
		8	碧口滞在。	
		9	碧口より川舟に乗り下る。姚家渡泊。	碧口出発
		10	滞在。	
		11	白水街の下流泊。75里。	
		12	水磨溝、炭場を経て、紹化県泊。135里。	
		13	紹化滞在。	紹化
		14	紹化滞在。	
		15	紹化出発。張王廟泊。70里。	紹化出発
		16	姚上泊。70里。	
		17	左岸頭泊。90里。	
		18	蒼溪県を過ぎ、保寧府泊。70里。	保寧
		19	右岸泊。5里。	
		20	雙龍場泊。25里。	
		21	南部県を経て、爐溪埧泊。60里。	
		22	新鎮埧を経て、左岸泊。50里。	
		23	王家場、金溪鎮を経て、右岸泊。70里。	
		24	周子鎮、蓬州を経て、左岸泊。40里。	蓬州
		25	龍門場泊。100里。	
		26	順慶府泊。40里。	
		27	80里を下り、左岸泊。	
		28	李渡場を経て、左岸泊。80里。	
		29	両面溪を下り、石盤渡泊。110里。	
		30	沿口鎮を経て、右岸泊。40里。	
		31	定遠県を経て左岸泊。60里。	定遠県
33	11	1	清水河等を経て、雲門鎮泊。70里。	
		2	合州を経て、左岸泊。60里。	
		3	北杜場杜渡を経て、左岸泊。天長節。110里。	
		4	午前10時、四川省重慶府千厠門帰着。小梁子と楊先生宅を経て井戸川大尉宅に至る。40里。	重慶着
			タンガルより合計3,340清里。甘省の地里長大なれば4,000里夾に当れり。	
			以上総計8.530清さと、この外青海内地、西安にて南五台等に至るを合計せば8,180清里となる。	
			若し、甘粛の里程をも川陝同様の距離に計算せば、10,010清里となり。半年間の歩行を要する。	
		5	新聞読む。	
		6	新聞読む。	
		7	出街。状袋、状紙を求める。	

年	月	日	事　　項	参　　考
33	11	8	陝甘旅記を認む。＊水野へ書簡を出す。巴塘にて、西洋人と誤解された旨。井戸川氏へ支那カバン、	⑨175-178p
			竹行李、麻布包を托したことを伝える。	
		9	＊第21回「本山上申書（重慶）」を出す。	④253p
		11	朝、天門の対岸、燐寸製造主鄧宅の宴に招かる。	
		12	南條、国元、杭州へ書面出す。＊第22回本山上申書(重慶)を出す。	④253p
		14	出慶に決す。降雨のため中止。郭氏来る。	
		15	井戸川氏の勧に由り炉行を変更する。	
		17	江北を散歩す。原田氏同行。	
		18	打箭炉へ打電、荷物を取り寄す。炉城。	
		19	打箭炉へ書面出す。石川参務へ書面出す。	
		22	旧10月朔にて下元会、通遠門外非常雑踏見物。難路。	
		23	通遠門外山上に遊ぶ。	
		24	南内外に散歩。	
		25	嘉陵江辺洋館辺より下流へ散歩。	
		26	神仙洞行。	
		27	雨。	
		28	雨。	
		29	観音巌行。	
33	12	2	江北、朝、天門を散歩する。	
		3	降雨。寺本、水野、上海へ書面出す。	
		4	降雨。	
		5	降雨。荷出。	
		6	降雨。	
		7	降雨。	
		8	古本屋へ行き2冊買求める。晴天。	
		9	曇天。	
		10	後蔵喇嘛2人来る。国元へ書面出す。讀賣新聞、日本新聞着く。「外交時報」35号読む。	
		11	讀賣、朝日新聞を読む。	
		12	『支那彊域沿革略説』を求める。	
		15	「蜀放」八冊、「蜀水攷」2冊求める。	
		16	門外散歩。	
		17	「入蜀記」、「呉船録」、「天下里程」を求める。	
		18	新聞着読。日本及び朝日。来年の今日はいづれにありや32年12月18日、記す。今日朝炉。	
			伊犂辺の談話を聞く。	
		19	晴、出街。「製旅行図」。「徑国美談前編」読了。	
		20	「タンガル図」を製す。	タンガル図
		21	蒙古新疆調べ写す。「思想の変遷」を記す。	思想の変遷
			「思想の変遷」 1. 学問は、何の為に学ぶべきものや。2. 普通学の必要。 3. 欧米布教策。 4. 英文	④229p
			研究時代。 5. 翻訳には、梵学の必要を感じたこと。 6. 梵文経典の不足を感ぜし時代。 7. 自動的	
			当洋楽研究の必要。 8. 西蔵行の感念。 9. 西蔵学の必要。	
		22	雲南路対照写し。夜、井戸川氏宴会に行く。天大人等。冬至前夜知事街を巡視する。	
		23	『学問思想の変遷』を書く。荷物届く。書面10本。	
		24	朝より語学始める。張氏へ日本語を教える。十奇撰。阿多へ名刺を送る。	
		25	朝、語学。日本より新聞着く。『夜雨物語一号』を書き始める。苦笑子・独楽子合著	雨夜物語
		26	打箭炉朱氏へ書面出す。元史調べる。『夜雨物語二号』を書く。	
		27	堺、成田、岩村、中村、浜田、「本山上申書」へ4通の書面を認める。蘭州図を書く。	蘭州図
			『夜雨物語』を書く。	
		28	語学。兵操を見る。長安兵を百棒す。昨日、ドイツ船沈没の報り。『夜雨物語』を書く。	
		29	語学。書面をしたたむ。	
		30	両路口を散歩する。書面を認める。語学す。	
		31	重慶で明治33年を送る。32年12月6日の記を見て感慨交々起こる。新年状を本日投函す。7本。	
34	1	1	＊第23回本山上申書を発送。寺本、南條文雄、＊井上円了、国許、堺、中村、成田宛て書簡発送。	④253p ⑨346p
		11	『夜雨物語』を書く。	
		12	温塘行。哥老会。	
		13	漁洞を経て帰る。	
		15	松林、山崎、父（静）、登より書面来る。	
		17	麻書土司。＊第24回本山上申書発送。南條（登）、松林へ書面出す。	④253p
		19	我建入蔵願　必至布達拉　斯願不成功　誓不帰本土	
		20	我於長旅行　不為大智徳　普済腐敗世　誓不帰本土	
		21	我至興新宗　名声超萬邦　若有不信帰　誓不帰本土	
			国許、水野へ書面出す。	

年	月	日	事　　項	参　　考
34	1	24	平戎駅。	
		25	回々、拉咱山。「東邦近世史」を読む。	
		27	夜、「猿と駱駝の話」を記述する。	
		28	如佛元礙智　如釈尊満徳　　願戎亦如此　等聖天人師	
		29	温泉行	
		30	界石行	
		31	温泉の八景を選定　1.大温泉　2.小温塘　3.大石橋　4.古井山廟　5.太鼓坪　6.石磐瀧　7.白鶴林	
			8.仙女洞	
			温泉近方10ケ所　1.老廠　2.六角廠　3.界石舗　4.魚洞鎮　5.土蟜子　6.李家陀　7.大渡口　8.渓口	
			9.回口　10.苦竹舗	
34	2	1	世尊我果遂　如斯願満足　　大千界應動　華雨當降下	
		2	時風吹雪下　天楽奏空中　　天番普熏言　汝必成覚士	
		4	本山、水野宛て2通書面出す。	
		9	上海電に接す。	
		10	在清渝城。郷里の友人小林久太郎・酒井十平へ書簡と別紙「波佐八首」、「四風四景」を出す。	
		11	紀元節。	
		20	南條師あて書信発送。明日、当地出発、中甸、阿敦子、江卡を経て進蔵の予定と記載。	
		21	重慶を出発	
34	3	9	「黙南識略」6冊を北貴陽府で購入する。	
		11	貴州省城を出発する。58里。清鎮県(チンチェンシェン)泊。	貴州出発
		12	58里。安平県(アンピンシェン)泊。	
		13	83里。安順府(アンシュンフ)泊。	
		14	63里。鎮冉州(チェンジャンチョー)泊。	
		15	62里。坡貢(ホコン)泊。	
		16	63里。朗岱庁(ライタンテン)泊。	
		17	45里。毛口（マカオ）泊。	
		18	45里。花貢（ホウコン）泊。	
		19	50里。口子窟(クワンツーヤヲ)泊。	
		20	45里。楊松泊。	
		21	55里。両頭河泊。	
		22	50里。赤資孔泊。	
		23	雲貴省の境を経て、50里、平口県(ピンイシエン)泊。	
		24	60里、白水泊。	
		25	45里、霑益州(テンイチヨー)泊。	
		26	73里、馬龍州(マルンチヨー)泊。	
		27	87里、易降(インヤン)泊。	
		28	70里、楊林(ヤンリン)泊。	
		29	60里、板橋(バンチャヲ)泊。	
		30	40里、雲南省城（昆明）に到着（重慶から1,162里）	
		31	清鎮県に泊まる	
34	4	1	滞在。	
		2	滞在。	
		3	滞在。重慶以来連れ来る雇人を当地より重慶へ返す。	
		4	雲南を出発。雲南省経滇池30里、碧鶏関40里。	
		5	安寧州25里。茶舗5里。椽口街15里。	
		6	老鴉関35里。腰站（会煉象）35里。	
		7	緑豊県45里。响水関45里。	
		8	捨資60里。	
		9	広通県45里。腰站35里。	
		10	楚雄府30里。大石舗30里。	
		11	呂合30里。鎮南州35里。	
		12	沙橋50里。英武関45里。	
		13	普湖45里。沐滂舗20里。	
		14	雪南駅古匡州30里。經青龍海葉舗45里。	
		15	紅厓15里。定西嶺45里。	
		16	趙州30里。下関30里。溯海、大理府南門、午後1時到着。城内泊。重慶、大理間3,032清里。	
		17	本山寺務所谷了然あて書簡発送。	
			今や極めて僅少なる金力にて内地に入り込まんこと歩一歩困難を加へ、前途気遣はしき事に候へ	
			ども、千難萬障は勿論無二の生命をも佛陀に托し、雲南を西北に去る覚悟に御座候。	
		18	南條博士宛て書面発送。	
		21	雲南省鄧川から静子宛て書面発送。	

能海　寛関連記事

明治			事　　項	参　　考
36	9	16	哲学館より「講師の称号」が留守家族の元に贈られる。	
37	9	29	南條博士から能海謙信宛て「河口慧海師へ能海寛の探索を依頼した旨の書簡」	⑮498p
38	7	7	同郷の岡田利喜太が従軍先から情報として軍事郵便で「能海寛の横死」を小林久太郎へ伝える。	
		9	浄蓮寺で、書簡の写しを添えて東京の南條博士へ伝えた。	
			南條博士は早速、関係者やマスコミへ情報を公開した。	
		12	上京中の能海静子から水野斉入宛て書簡。	⑮504p
		25	東京朝日新聞など諸新聞は競って故人の伝記を掲載した。	
		26	浅草本願寺にて「故能海寛追弔法会」が南條博士が導師を勤めた。静子氏も参列。遺品展も開催。	
			井上円了の弔辞。	⑮490p
		29	南條文雄から水野斉入宛て書簡。	⑮516p
			南條文雄から能海静子に「紙函中物品目録」で能海寛の遺品が渡される。	⑮522p
38	8	4	井戸川辰三から岡田利喜太宛て横死否定の書簡。	⑮542p
		10	井戸川辰三から松島宗衛宛て横死否定の書簡。	⑮534p
			反省会主幹の桜井義肇は、友人の松島宗衛へ横死情報の真相を照会する。	
		12	松島宗衛から桜井義肇宛て回答の書簡。	⑮528p
		24	南條文雄から水野斉入宛て書簡。	⑮526p
大正			事　　項	参　　考
6	2	10	能海法恵から水野斉入宛て書簡。	⑮546p
		16	南條文雄「能海寛君略伝」原稿。	⑮570p
6	3	16	西川静から能海師の写真は南條博士に探索依頼のために手渡した旨を妙蓮寺宛てに書簡。	⑮552p
6	4	30	「能海寛遺稿」が刊行される。	能海寛追憶会
6	5	1	能海寛17回忌法要が浄蓮寺で勤行される。寺本婉雅師も出席して記念講演を行う。	
		20	真宗大谷大学で「故人追憶会記念法会併記念講演会」が講師に河口慧海師を迎えて開催された。	
昭和			事　　項	参　　考
17	8	20	サンデー毎日の記事「雲南国境の人柱　能海寛」で特集される。	
17	11	4	真宗大谷派管長から「大僧都」の証が能海寛40回忌法要時に伝達される。	
17	12	5	40回忌法要が浄蓮寺において勤行される。	
			真宗大谷派京都教務所長武田雷雄「追悼の辞」	⑮494p
25	9	29	藤岡了淳から能海譲宛て書簡。※南條氏の「能海寛君略伝原稿」が同封送付される。	⑮564p
44	10	22	能海寛の生誕から100年経過後の昭和44年10月20日付、「年月日時分不詳死亡」として戸籍抹消。	
51	11	28	郷土の傑人顕彰板(能海寛・島村抱月)が建立される。	波佐文化協会
53	11	3	金城歴史民俗資料館で能海寛資料が公開展示される。	
55	9	24	NHK松江放送局制作「島根人物伝・能海寛」(15分)が放映される。	
56	11	3	「ラマの都チベット写真展」、「世界の屋ねラマの都を訪ねて」の講演会を開催。	波佐文化協会
57	6	6	能海寛師顕彰碑が建立される。	能海寛顕彰会
62	8	22	波佐寺小屋セミナーで、「能海寛と東洋哲学」講師:山口瑞鳳氏の講演会を開催。	波佐文化協会
58	2	23	NHK松江放送局制作「知られざる先駆者・探検家能海寛」(30分)が中国地方で放映される。	
62	3	27	能海寛の足跡を訪ねるドキュメンタリー番組「中国大秘境」フジテレビ系で全国放映される。	
63	5	1	「能海寛生誕120年特別展」が金城歴史民俗資料館で開催される。	
平成			事　　項	参　　考
1	12	15	「チベット探検家『求道の師　能海寛』」が刊行される。	波佐文化協会
7	1	22	能海寛研究会が設立される。	能海寛研究会
10	3	7	能海寛チベット壮途100年記念「地平線発」－21世紀の旅人たち－写真展開催。	波佐文化協会
			スライド＆トーク「日本人の旅と冒険―21世紀に向けて―」講師:江本嘉伸氏を開催。	波佐文化協会
11	5	18	能海寛全身像(彫塑)が完成する。	能海寛研究会
12	8	19	中国・寧夏自治区銀川市で、「能海寛研究会日中合同世界会議」を開催。	能海寛研究会
14	8	1	まんが「西蔵探検家　能海寛」を出版する。	波佐文化協会
16	10	23	第1回能海寛ふるさと100kトレイル遠足(とおあし)全国大会開催。	
17	4	18	能海寛歌碑10基建立。	波佐文化協会
17	10	22	第2回能海寛ふるさと100kトレイル遠足(とおあし)全国大会開催。	
18	5	5	能海寛歌碑めぐりウォーク大会が始まる。	波佐文化協会
20	7	23	能海寛関係資料が「浜田市指定文化財(歴史資料)357点」となる。	
21	3	31	「能海寛著作集」全15巻17冊、別巻1冊が刊行される。	能海寛研究会
21	6	30	改訂版「チベット巡礼探検家『求道の師　能海寛』」が刊行される。	USS出版
30	5	1	「能海寛生誕150年特別展」が金城歴史民俗資料館で開催される。	
30	5	18	「新仏教徒運動の提唱者　『求道の師　能海寛』」が刊行される。	波佐文化協会
30	7	8	能海寛生誕150年「記念式典＆記念シンポジウム」がときわ会館で開催される。	能海寛研究会
30	10	20	能海の母校・東洋大学で、「能海寛生誕150年記念シンポジウム」が開催される。	東洋大学
			併せて、井上円了記念館で、企画展「新仏教徒　能海寛」が開催される。	